

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第 三 冊

矢ノ塚遺跡

1987.10

香川県教育委員会
日本道路公団



(1) X-8(S)・X-9区全景(北から)



(2) 竪穴住居周辺(西から)



(345非) 集 (1) 弥生土器 (中期) X (1)



(一の谷遺跡出土)

(2) 朝鮮系無文土器 (?)



(1) 祭祀遺物



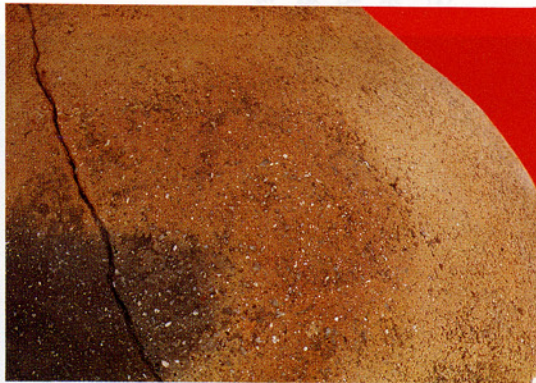
(2) 分銅形土製品



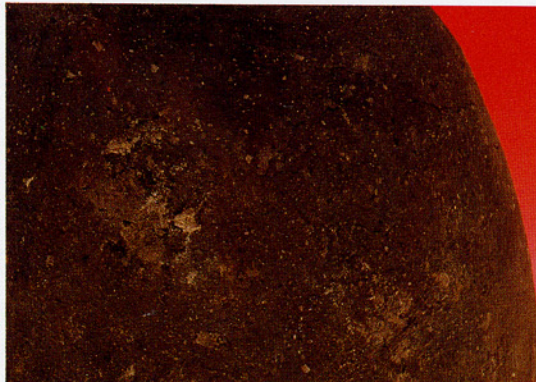
胎土 I



胎土 II



胎土 III



胎土 IV (朝鮮系無文土器?)

例 言

1. 本書は四国横断自動車道建設に伴う、埋蔵文化財発掘調査報告書第三冊である。
2. 本書に収録したのは、1984年から1985年にかけて調査を実施した、香川県善通寺市吉原町・碑殿町に所在する矢ノ塚遺跡である。
3. 調査は、日本道路公団高松建設局の委託を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課調査三係（善通寺連絡事務所）が実施した。
4. 発掘調査は昭和59年度を藤好史郎、昭和60年度を薦田耕作、今井和彦が担当した。
5. 調査に要する経費は、日本道路公団が負担した。
6. 調査にあたっては、下記の機関の指導や援助を得た。記して謝意を表したい。
日本道路公団高松建設局 同・善通寺工事事務所 香川県土木部横断道対策室 善通寺市横断道対策室 共同企業体 地元自治会 地元対策協議会
7. 出土品の整理は、善通寺連絡事務所職員が担当した。
8. 本書の作成に当っては、文化行政課職員をはじめ、調査に参加した調査員の助言を受けながら、以下のように分担執筆した。また編集・校正作業は真鍋昌宏・横田周子が担当した。
I - 1, IV - 1 - (2)……………渡部明夫（調査三係文化財専門員）
その他……………薦田耕作（前調査三係主任技師・現豊中中学校教諭）
9. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 挿図の縮尺は、掲載の図内にスケールで示した。
 - (2) 方位は、国土座標第IV座標系の北を表わす。
 - (3) 水平基準線の数値は、海拔高を示している。
10. 本書に用いている遺構記号は次の通りである。

昭和62年度

總括 課 長 廣瀬和孝
課長補佐 片山 堯 (～5.31)
高木 尚 (6.1～)
副主幹 小原克己 (6.1～)
庶務 係 長 宮谷昌之
主任主事 前田和也 (～5.31)
主 事 松下由美子 (～5.31)
三宅浩司 (6.1～)
水本久美子 (6.1～)

整理 善通寺連絡事務所
文化財専門員 渡部明夫
主任技師 真鍋昌宏

目 次

I	はじめに	1
1.	調査の経緯	1
2.	調査の経過	7
II	立地と環境	15
1.	地理的環境	15
2.	歴史的環境	15
III	土層序と遺構	20
1.	土層序について	20
2.	遺構について	29
(1)	弥生時代の遺構	29
(2)	奈良・平安時代の遺構	47
(3)	中世の遺構	60
IV	遺物について	93
1.	弥生時代の遺物	93
(1)	弥生土器	93
(2)	石器	241
2.	奈良時代以降の遺物	410
(1)	土師器	410
(2)	須恵器	438
(3)	黒色土器	446
(4)	瓦器	446
(5)	瓦質土器	446
(6)	緑釉陶器	447
(7)	陶磁器	447
(8)	木製品	453
(9)	鉄・銅製品	457
(10)	銅銭	457

(11) 石帯	457
(12) 獣骨	459
V まとめ	462
1. 弥生時代中期土器の編年	462
(1) 弥生土器の統計	462
(2) 矢ノ塚遺跡の土器様式と年代	463
2. 各時代の課題	469
3. 遺跡の範囲	472

挿 図 目 次

第 1 図 整理作業風景…………… 3	第 31 図 D-4 北壁土層図…………… 44
第 2 図 四国横断自動車道埋蔵文化財 包蔵地(善通寺～豊浜間)…………… 6	第 32 図 D-4 東壁土層図…………… 44
第 3 図 予備調査トレンチ配置模式図… 8	第 33 図 SK85104 平・断面図…………… 45
第 4 図 矢ノ塚遺跡グリッド設定図… 9	第 34 図 SK85002 平・断面図…………… 45
第 5 図 周辺地域の遺跡…………… 16	第 35 図 SX85005 平・断面図…………… 46
第 6 図 土層実測図…………… 21	第 36 図 SB85102 平・断面図…………… 51
第 7 図 等高線と遺構配置図 (U～E列) …………… 25	第 37 図 SB85105 平・断面図…………… 52
第 8 図 弥生時代の遺構配置図 (U～E列) …………… 25	第 38 図 SB85106 平・断面図…………… 52
第 9 図 奈良・平安時代の遺構配置図 (U～E列) …………… 27	第 39 図 SB85107 平・断面図…………… 53
第 10 図 中世の遺構配置図 (U～E列) …………… 27	第 40 図 SB85108 平・断面図…………… 53
第 11 図 SB85000 平・断面図…………… 30	第 41 図 SB85109 平・断面図…………… 54
第 12 図 SB85101 平・断面図…………… 33	第 42 図 SB85110 平・断面図…………… 54
第 13 図 SB85103 平・断面図…………… 33	第 43 図 SB85111 平・断面図…………… 55
第 14 図 X-8 (N) 東壁土層図…………… 34	第 44 図 SB85112 平・断面図…………… 56
第 15 図 SB85104 平・断面図…………… 34	第 45 図 SB85008 平・断面図…………… 56
第 16 図 SB85001 平・断面図…………… 35	第 46 図 SB85009 平・断面図…………… 57
第 17 図 SB85002 平・断面図…………… 35	第 47 図 SB85010 平・断面図…………… 57
第 18 図 SB85003 平・断面図…………… 36	第 48 図 SB85011 平・断面図…………… 58
第 19 図 SB85004 平・断面図…………… 36	第 49 図 SB85013 平・断面図…………… 58
第 20 図 SB85005 平・断面図…………… 37	第 50 図 SB85014 平・断面図…………… 59
第 21 図 SB85006 平・断面図…………… 37	第 51 図 Y-8 東壁土層図…………… 59
第 22 図 SB85007 平・断面図…………… 38	第 52 図 Z-8 西壁土層図…………… 59
第 23 図 SB85015 平・断面図…………… 39	第 53 図 Z-6 北壁土層図…………… 60
第 24 図 X-8 (S) 北壁土層図…………… 39	第 54 図 SB85113 平・断面図…………… 66
第 25 図 SD85101 土器出土状態…………… 39	第 55 図 SB85114 平・断面図…………… 66
第 26 図 X-8 (S) 南壁土層図…………… 40	第 56 図 SB85115 平・断面図…………… 67
第 27 図 SD85120 周辺 平・断面図… 40	第 57 図 SB85116 平・断面図…………… 67
第 28 図 SD85123 周辺 平・断面図… 41	第 58 図 SB85117 平・断面図…………… 68
第 29 図 Y・Z-6・7区 平面図…………… 42	第 59 図 SB85118 平・断面図…………… 68
第 30 図 A・B-4・5・6区平面図… 43	第 60 図 SB85016 平・断面図…………… 69
	第 61 図 SB85017 平・断面図…………… 69
	第 62 図 SB85018 平・断面図…………… 70
	第 63 図 SB85019 平・断面図…………… 70
	第 64 図 SB85020 平・断面図…………… 71
	第 65 図 SB85023 平・断面図…………… 71

第66図	S B85024	平・断面図	72	第102図	弥生土器	壺A ₃ -(3)実測図	110
第67図	S B85024	出土焼土実測図	72	第103図	弥生土器	壺A ₃ -(3)・B ₁ ・ B ₃ -(1)実測図	111
第68図	S B85025	平・断面図	73	第104図	弥生土器	壺B ₃ -(1)・B ₃ -(2)実測図	112
第69図	S B85026	平・断面図	73	第105図	弥生土器	壺B ₃ -(2)・B ₃ -(3)・C ₁ 実測図	113
第70図	S B85027	平・断面図	74	第106図	弥生土器	壺C ₁ ・C ₂ 実測図	114
第71図	S B85028	平・断面図	74	第107図	弥生土器	壺C ₃ -(1)・C ₃ -(2)実測図	115
第72図	S B85029	平・断面図	75	第108図	弥生土器	壺C ₃ -(2)実測図	116
第73図	S B001	平・断面図	75	第109図	弥生土器	壺C ₃ -(2)・C ₃ -(3)実測図	117
第74図	S B002	平・断面図	76	第110図	弥生土器	壺C ₃ -(3)・D ₁ ・ D ₂ 実測図	118
第75図	S B003	平・断面図	76	第111図	弥生土器	壺D ₃ -(1)・D ₃ -(2)実測図	119
第76図	S B004	平・断面図	77	第112図	弥生土器	壺D ₃ -(2)・D ₃ -(3)実測図	120
第77図	S B005	平・断面図	77	第113図	弥生土器	壺D ₃ -(3)・E 実測図	121
第78図	S B006	平・断面図	78	第114図	弥生土器	壺E ₁ ・E ₂ ・E ₃ 実測図	122
第79図	S B007	平・断面図	78	第115図	弥生土器	壺E ₄ ・F ₁ ・F ₃ - (3)・F ₄ 実測図	123
第80図	S B008	平・断面図	79	第116図	弥生土器	壺G ₄ ・H ₁ ・H ₃ ・ H ₄ 実測図	124
第81図	S B009	平・断面図	79	第117図	弥生土器	壺H ₄ 実測図	125
第82図	S B010	平・断面図	80	第118図	弥生土器	壺(後期) 実測図	127
第83図	S B85021	平・断面図	80	第119図	弥生土器	壺(後期) 実測図	128
第84図	S B85022	平・断面図	81	第120図	弥生土器	甕 ₁ -(a)・ ₁ -(b) 実測図	152
第85図	X-8(N)南壁土層図		81	第121図	弥生土器	甕 ₁ -(b)実測図	153
第86図	Y-8東壁土層図		82	第122図	弥生土器	甕 ₁ -(b)実測図	154
第87図	Z-6北壁土層図		82	第123図	弥生土器	甕 ₁ -(c)実測図	155
第88図	S D85004	土層図	83				
第89図	Z-8西壁土層図		83				
第90図	G-5区南半遺構配置図		85				
第91図	S K85101・85102	平・断面 図	86				
第92図	S K85003	平・断面図	87				
第93図	S K001	平・断面図	87				
第94図	S E001	平・断面図	88				
第95図	S E002	平・断面図	88				
第96図	S X85006	平・断面図	89				
第97図	建物遺構の主軸方位		91				
第98図	弥生土器	壺A ₁ ・A ₂ 実測図	106				
第99図	弥生土器	壺A ₂ ・A ₃ -(1) 実測図	107				
第100図	弥生土器	壺A ₃ -(2)実測図	108				
第101図	弥生土器	壺A ₃ -(2)実測図	109				

第124図	弥生土器	甕 ₁ -(c)実測図……………	156	第152図	弥生土器	高杯脚台(後期). 実測図……………	218
第125図	弥生土器	甕 ₁ -(c), ₃ -(1) 実測図……………	157	第153図	弥生土器	蓋形土器実測図……………	225
第126図	弥生土器	甕 ₃ -(2)実測図……………	158	第154図	弥生土器	体部実測図……………	226
第127図	弥生土器	甕 ₃ -(2)実測図……………	159	第155図	弥生土器	体部実測図……………	227
第128図	弥生土器	甕 ₃ -(2)実測図……………	160	第156図	弥生土器	底部実測図……………	229
第129図	弥生土器	甕 ₃ -(2)実測図……………	161	第157図	弥生土器	脚・台・支脚実測 図……………	232
第130図	弥生土器	甕 ₃ -(2)実測図……………	162	第158図	弥生土器	祭祀遺物実測図……………	233
第131図	弥生土器	甕 ₃ -(2)・(3)実測図……………	163	第159図	弥生土器	その他実測図……………	234
第132図	弥生土器	甕 ₃ -(3)実測図……………	164	第160図	弥生土器	その他実測図……………	235
第133図	弥生土器	甕 ₃ -(3)実測図……………	165	第161図	石器実測図(1)	……………	248
第134図	弥生土器	甕(後期)実測図……………	167	第162図	石器実測図(2)	……………	249
第135図	弥生土器	甕(後期)実測図……………	168	第163図	石器実測図(3)	……………	250
第136図	弥生土器	甕(後期)実測図……………	169	第164図	石器実測図(4)	……………	251
第137図	弥生土器	鉢 ₁ 実測図……………	190	第165図	石器実測図(5)	……………	252
第138図	弥生土器	鉢 ₂ ・ ₃ 実測図……………	191	第166図	石器実測図(6)	……………	253
第139図	弥生土器	鉢 ₄ -(1)実測図……………	192	第167図	石器実測図(7)	……………	254
第140図	弥生土器	鉢 ₄ -(2)実測図……………	193	第168図	石器実測図(8)	……………	255
第141図	弥生土器	鉢 ₄ -(2)実測図……………	194	第169図	石器実測図(9)	……………	256
第142図	弥生土器	鉢(後期) 実測図……………	196	第170図	石器実測図(10)	……………	257
第143図	弥生土器	高杯A ₁ ・A ₂ ・A ₄ -(1) ・A ₄ -(2)実測図……………	204	第171図	石器実測図(11)	……………	258
第144図	弥生土器	高杯A ₄ -(2)実測図……………	205	第172図	石器実測図(12)	……………	259
第145図	弥生土器	高杯A ₄ -(2)・B ₁ 実測図……………	206	第173図	石器実測図(13)	……………	260
第146図	弥生土器	高杯B ₁ ・B ₄ ・C ₁ ・ C ₄ 実測図……………	207	第174図	石器実測図(14)	……………	261
第147図	弥生土器	高杯D ₂ ・D ₃ -(1)・ D ₃ -(3)実測図……………	208	第175図	石器実測図(15)	……………	262
第148図	弥生土器	高杯(後期) 実測図……………	208	第176図	石器実測図(16)	……………	263
第149図	弥生土器	高杯脚台 ₁ ・ ₃ -(3) 実測図……………	215	第177図	石器実測図(17)	……………	264
第150図	弥生土器	高杯脚台 ₃ -(2)・ ₃ -(3)実測図……………	216	第178図	石器実測図(18)	……………	265
第151図	弥生土器	高杯脚台 ₃ -(3) 実測図……………	217	第179図	石器実測図(19)	……………	266
				第180図	石器実測図(20)	……………	267
				第181図	石器実測図(21)	……………	268
				第182図	石器実測図(22)	……………	269
				第183図	石器実測図(23)	……………	270
				第184図	石器実測図(24)	……………	271
				第185図	石器実測図(25)	……………	272
				第186図	石器実測図(26)	……………	273
				第187図	石器実測図(27)	……………	274

第188图	石器实测图(28)	275	第226图	石器实测图(66)	313
第189图	石器实测图(29)	276	第227图	石器实测图(67)	314
第190图	石器实测图(30)	277	第228图	石器实测图(68)	315
第191图	石器实测图(31)	278	第229图	石器实测图(69)	316
第192图	石器实测图(32)	279	第230图	石器实测图(70)	317
第193图	石器实测图(33)	280	第231图	石器实测图(71)	318
第194图	石器实测图(34)	281	第232图	石器实测图(72)	319
第195图	石器实测图(35)	282	第233图	石器实测图(73)	320
第196图	石器实测图(36)	283	第234图	石器实测图(74)	321
第197图	石器实测图(37)	284	第235图	石器实测图(75)	322
第198图	石器实测图(38)	285	第236图	石器实测图(76)	323
第199图	石器实测图(39)	286	第237图	石器实测图(77)	324
第200图	石器实测图(40)	287	第238图	石器实测图(78)	325
第201图	石器实测图(41)	288	第239图	石器实测图(79)	326
第202图	石器实测图(42)	289	第240图	石器实测图(80)	327
第203图	石器实测图(43)	290	第241图	石器实测图(81)	328
第204图	石器实测图(44)	291	第242图	石器实测图(82)	329
第205图	石器实测图(45)	292	第243图	石器实测图(83)	330
第206图	石器实测图(46)	293	第244图	石器实测图(84)	331
第207图	石器实测图(47)	294	第245图	石器实测图(85)	332
第208图	石器实测图(48)	295	第246图	石器实测图(86)	333
第209图	石器实测图(49)	296	第247图	石器实测图(87)	334
第210图	石器实测图(50)	297	第248图	石器实测图(88)	335
第211图	石器实测图(51)	298	第249图	石器实测图(89)	336
第212图	石器实测图(52)	299	第250图	石器实测图(90)	337
第213图	石器实测图(53)	300	第251图	石器实测图(91)	338
第214图	石器实测图(54)	301	第252图	石器实测图(92)	339
第215图	石器实测图(55)	302	第253图	石器实测图(93)	340
第216图	石器实测图(56)	303	第254图	石器实测图(94)	341
第217图	石器实测图(57)	304	第255图	石器实测图(95)	342
第218图	石器实测图(58)	305	第256图	石器实测图(96)	343
第219图	石器实测图(59)	306	第257图	石器实测图(97)	344
第220图	石器实测图(60)	307	第258图	石器实测图(98)	345
第221图	石器实测图(61)	308	第259图	石器实测图(99)	346
第222图	石器实测图(62)	309	第260图	石器实测图(100)	347
第223图	石器实测图(63)	310	第261图	石器实测图(101)	348
第224图	石器实测图(64)	311	第262图	石器实测图(102)	349
第225图	石器实测图(65)	312	第263图	石器实测图(103)	350

第264図	石器実測図(104)	……………	351	第298図	善通寺市調査区の遺構 配置図……………	470
第265図	石器実測図(105)	……………	352	第299図	矢ノ塚遺跡の範囲想定図……………	475
第266図	石器実測図(106)	……………	353			
第267図	石器実測図(107)	……………	354			
第268図	石器実測図(108)	……………	355			
第269図	石器実測図(109)	……………	356			
第270図	石器実測図(110)	……………	357			
第271図	石器実測図(111)	……………	358			
第272図	土師器 椀・杯実測図	……………	414			
第273図	土師器 杯実測図	……………	415			
第274図	土師器 杯・皿実測図	……………	416			
第275図	土師器 小皿・甕実測図	………	417			
第276図	土師器 甕実測図	……………	418			
第277図	土師器 土釜・脚実測図	………	419			
第278図	土師器 土釜・脚実測図	………	420			
第279図	土師器 土釜・脚実測図	………	421			
第280図	土師器 土釜・脚実測図	………	422			
第281図	土師器 土釜・土鍋実測図	…	423			
第282図	土師器 土鍋・鉢実測図	………	424			
第283図	土師器 鉢・甕・その他 実測図	……………	425			
第284図	土師器 土錘・その他実測図	…	426			
第285図	須恵器 杯・皿・杯蓋実測図	…	440			
第286図	須恵器 鉢・その他実測図	…	441			
第287図	須恵器 甕・鉢・その他 実測図	……………	442			
第288図	黒色土器・瓦器・瓦質土器 実測図	……………	448			
第289図	瓦質土器・緑釉陶器実測図	…	449			
第290図	陶磁器実測図	……………	450			
第291図	木製椀・柱根実測図	……………	454			
第292図	柱根実測図	……………	455			
第293図	鉄製品・銅製品実測図	……………	456			
第294図	石帯実測図	……………	457			
第295図	銅銭拓影	……………	458			
第296図	獣骨	……………	460			
第297図	土器構成の割合	……………	465			

表 目 次

第 1 - 1 表 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査事業(発掘調査のみ)…………… 1	第 34 表 土器観察表(22)…………… 170
第 1 - 2 表 四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要…………… 4	第 35 表 土器観察表(23)…………… 171
第 2 表 時代別遺構一覧表…………… 24	第 36 表 土器観察表(24)…………… 172
第 3 表 建物遺構一覧表(1)…………… 31	第 37 表 土器観察表(25)…………… 173
第 4 表 建物遺構一覧表(2)…………… 32	第 38 表 土器観察表(26)…………… 174
第 5 表 建物遺構一覧表(3)…………… 48	第 39 表 土器観察表(27)…………… 175
第 6 表 建物遺構一覧表(4)…………… 49	第 40 表 土器観察表(28)…………… 176
第 7 表 建物遺構一覧表(5)…………… 50	第 41 表 土器観察表(29)…………… 177
第 8 表 建物遺構一覧表(6)…………… 61	第 42 表 土器観察表(30)…………… 178
第 9 表 建物遺構一覧表(7)…………… 62	第 43 表 土器観察表(31)…………… 179
第 10 表 建物遺構一覧表(8)…………… 63	第 44 表 土器観察表(32)…………… 180
第 11 表 建物遺構一覧表(9)…………… 64	第 45 表 土器観察表(33)…………… 181
第 12 表 建物遺構一覧表(10)…………… 65	第 46 表 土器観察表(34)…………… 182
第 13 表 土器観察表(1)…………… 129	第 47 表 土器観察表(35)…………… 183
第 14 表 土器観察表(2)…………… 130	第 48 表 土器観察表(36)…………… 184
第 15 表 土器観察表(3)…………… 131	第 49 表 土器観察表(37)…………… 185
第 16 表 土器観察表(4)…………… 132	第 50 表 土器観察表(38)…………… 186
第 17 表 土器観察表(5)…………… 133	第 51 表 土器観察表(39)…………… 187
第 18 表 土器観察表(6)…………… 134	第 52 表 土器観察表(40)…………… 197
第 19 表 土器観察表(7)…………… 135	第 53 表 土器観察表(41)…………… 198
第 20 表 土器観察表(8)…………… 136	第 54 表 土器観察表(42)…………… 199
第 21 表 土器観察表(9)…………… 137	第 55 表 土器観察表(43)…………… 200
第 22 表 土器観察表(10)…………… 138	第 56 表 土器観察表(44)…………… 209
第 23 表 土器観察表(11)…………… 139	第 57 表 土器観察表(45)…………… 210
第 24 表 土器観察表(12)…………… 140	第 58 表 土器観察表(46)…………… 211
第 25 表 土器観察表(13)…………… 141	第 59 表 土器観察表(47)…………… 212
第 26 表 土器観察表(14)…………… 142	第 60 表 土器観察表(48)…………… 213
第 27 表 土器観察表(15)…………… 143	第 61 表 土器観察表(49)…………… 219
第 28 表 土器観察表(16)…………… 144	第 62 表 土器観察表(50)…………… 220
第 29 表 土器観察表(17)…………… 145	第 63 表 土器観察表(51)…………… 221
第 30 表 土器観察表(18)…………… 146	第 64 表 土器観察表(52)…………… 222
第 31 表 土器観察表(19)…………… 147	第 65 表 土器観察表(53)…………… 223
第 32 表 土器観察表(20)…………… 148	第 66 表 土器観察表(54)…………… 228
第 33 表 土器観察表(21)…………… 149	第 67 表 土器観察表(55)…………… 236
	第 68 表 土器観察表(56)…………… 237
	第 69 表 土器観察表(57)…………… 238

第70表	土器觀察表(58)	239	第108表	石器觀察表(36)	394
第71表	土器觀察表(59)	240	第109表	石器觀察表(37)	395
第72表	土器觀察表(60)	241	第110表	石器觀察表(38)	396
第73表	石器觀察表(1)	359	第111表	石器觀察表(39)	397
第74表	石器觀察表(2)	360	第112表	石器觀察表(40)	398
第75表	石器觀察表(3)	361	第113表	石器觀察表(41)	399
第76表	石器觀察表(4)	362	第114表	石器觀察表(42)	400
第77表	石器觀察表(5)	363	第115表	石器觀察表(43)	401
第78表	石器觀察表(6)	364	第116表	石器觀察表(44)	402
第79表	石器觀察表(7)	365	第117表	石器觀察表(45)	403
第80表	石器觀察表(8)	366	第118表	石器觀察表(46)	404
第81表	石器觀察表(9)	367	第119表	石器觀察表(47)	405
第82表	石器觀察表(10)	368	第120表	石器觀察表(48)	406
第83表	石器觀察表(11)	369	第121表	石器觀察表(49)	407
第84表	石器觀察表(12)	370	第122表	石器觀察表(50)	408
第85表	石器觀察表(13)	371	第123表	石器觀察表(51)	409
第86表	石器觀察表(14)	372	第124表	土器觀察表(61)	427
第87表	石器觀察表(15)	373	第125表	土器觀察表(62)	428
第88表	石器觀察表(16)	374	第126表	土器觀察表(63)	429
第89表	石器觀察表(17)	375	第127表	土器觀察表(64)	430
第90表	石器觀察表(18)	376	第128表	土器觀察表(65)	431
第91表	石器觀察表(19)	377	第129表	土器觀察表(66)	432
第92表	石器觀察表(20)	378	第130表	土器觀察表(67)	433
第93表	石器觀察表(21)	379	第131表	土器觀察表(68)	434
第94表	石器觀察表(22)	380	第132表	土器觀察表(69)	435
第95表	石器觀察表(23)	381	第133表	土器觀察表(70)	436
第96表	石器觀察表(24)	382	第134表	土器觀察表(71)	437
第97表	石器觀察表(25)	383	第135表	土器觀察表(72)	438
第98表	石器觀察表(26)	384	第136表	土器觀察表(73)	443
第99表	石器觀察表(27)	385	第137表	土器觀察表(74)	444
第100表	石器觀察表(28)	386	第138表	土器觀察表(75)	445
第101表	石器觀察表(29)	387	第139表	土器觀察表(76)	446
第102表	石器觀察表(30)	388	第140表	土器觀察表(77)	451
第103表	石器觀察表(31)	389	第141表	土器觀察表(78)	452
第104表	石器觀察表(32)	390	第142表	土器觀察表(79)	453
第105表	石器觀察表(33)	391	第143表	銅錢一覽表	457
第106表	石器觀察表(34)	392	第144表	矢ノ塚遺跡の土器様式の構成 と年代	467
第107表	石器觀察表(35)	393			

付 図

付図 1 矢ノ塚遺跡遺構配置図(1)

付図 2 矢ノ塚遺跡遺構配置図(2)

付図 3 矢ノ塚遺跡遺構配置図(3)

付図 4 編年試案(1)

付図 5 編年試案(2)

図 版 目 次

- 巻頭図版 1 (1)X-8 (S)・X-9区全景
(北から)
(2)竪穴住居周辺(西から)
- 巻頭図版 2 (1)弥生土器(中期)
(2)朝鮮系無文土器(?)
- 巻頭図版 3 (1)祭祀遺物
(2)分銅形土製品
- 巻頭図版 4 弥生土器の胎土
- 図版 1 (1)調査開始時の調査区
(2)調査区より南の風景
- 図版 2 (1)発掘作業風景
(2)発掘作業風景
- 図版 3 (1)U列全景(東より)
(2)U列土層(南壁)
- 図版 4 (1)V列全景(南より)
(2)V列全景(東より)
- 図版 5 (1)S B85109・110・118(V列)
(2)S B85104・111・112(V-9区)
- 図版 6 (1)S D85123土器出土状態(V-9区)
(2)W列全景(西より)
- 図版 7 (1)W列掘立柱建物群
(2)S B85116・117(W-9区)
- 図版 8 (1)S D85120周辺(W-9区)
(2)土器出土状態(W-8区)
- 図版 9 (1)X-8(N)区上層遺構
(2)X・W-8(N)区下層遺構
- 図版 10 (1)S B85103(X・W-8(N)区)
(2)S K85104(W-8(N)区)
- 図版 11 (1)土器出土状態(W-8(N)区)
(2)X-8(S)・9区全景(北より)
- 図版 12 (1)X-8(S)・9区全景(西より)
(2)S B85101(X-8(S)区)
- 図版 13 (1)S B85102・105・106(X-8(S)区)
(2)S D85101土層(X-8(S)区北壁)
- 図版 14 (1)S D85101土器出土状態(Y-9区)
(2)Y・Z-6・7区全景(東より)
- 図版 15 (1)Y・Z-6・7区全景(西より)
(2)S B85017(Y・Z-7区)
- 図版 16 (1)S B85009・010(Y・Z-6区)
(2)S B85001(Y・Z-7区)
- 図版 17 (1)S B85009柱穴
(2)Z-8区全景(北より)
- 図版 18 (1)S D85004・008完掘状態(Z-8区)
(2)S D85004土層(Z-8区)
- 図版 19 (1)Z-7区全景(南より)
(2)A・B列全景(南より)
- 図版 20 (1)S B85002・021(B-6区)
(2)S B85002柱穴(B-6区)
- 図版 21 (1)C・D列全景(西より)
(2)S D85031土器出土状態(C-5区)
- 図版 22 (1)C・D・E列全景(東より)
(2)D列全景(北より)
- 図版 23 (1)S D85036土器出土状態(D-4区)
(2)S D85036土層(D-4区北壁)
- 図版 24 (1)E列全景(西より)
(2)S D85037(E-4区)
- 図版 25 (1)S X85005(E-4区)
(2)S X85005完掘状態(E-4区)
- 図版 26 (1)S X85005(E-4区)
(2)F・G列全景(南より)

- 図版 27 (1)G-2区全景(南より)
(2)F-5・6区全景(東より)
- 図版 28 (1)SE85001(F-5区)
(2)G-5区全景(東より)
- 図版 29 (1)G-4・5区全景(南より)
(1)SE85002完掘状態(G-5区)
- 図版 30 (1)SE85001木製椀出土状態(G-5区)
(2)H-4・5区全景(東より)
- 図版 31 (1)柱根検出状態(G-5区)
(2)H列全景(東より)
- 図版 32 弥生土器 壺A₁・A₂
- 図版 33 弥生土器 壺A₂・A₃-(1)
- 図版 34 弥生土器 壺A₃-(1)・A₃-(2)・A₃-(3)
- 図版 35 弥生土器 壺A₃-(2)・A₃-(3)
- 図版 36 弥生土器 壺A₄・B₁・B₃-(1)・B₃-(2)
- 図版 37 弥生土器 壺B₃-(2)・B₃-(3)・C₁・C₂
- 図版 38 弥生土器 壺C₃-(2)・D₁・D₃-(3)・E₁
- 図版 39 弥生土器 壺E₁・E₂
- 図版 40 弥生土器 壺E₄・F₁・F₄
- 図版 41 弥生土器 壺F₄・G₄・H₄
- 図版 42 弥生土器 壺(後期)
- 図版 43 弥生土器 壺(後期)・甕₁-(a)・₁-(b)
- 図版 44 弥生土器 甕₁-(b)・₁-(c)・₃-(2)
- 図版 45 弥生土器 甕₁-(c)・₃-(2)
- 図版 46 弥生土器 甕₃-(3)・(後期)
- 図版 47 弥生土器 甕(後期)・鉢₁
- 図版 48 弥生土器 鉢₄-(1)・₄-(2)・(後期)
- 図版 49 弥生土器 鉢(後期)・高杯A₁・A₄-(1)・A₄-(2)・B₁
- 図版 50 弥生土器 高杯C₁・D₂・D₃-(1)・D₃-(3)・(後期)
- 図版 51 弥生土器 高杯脚台₁・₃-(2)
- 図版 52 弥生土器 高杯脚台₃-(2)・₃-(3)
- 図版 53 弥生土器 高杯脚台₃-(3)・(後期)
- 図版 54 弥生土器 蓋形土器・体部
- 図版 55 弥生土器 体部
- 図版 56 弥生土器 体部
- 図版 57 弥生土器 底部・脚・台
- 図版 58 弥生土器 脚・台・支脚・その他
- 図版 59 弥生土器 脚・台・支脚・その他
- 図版 60 弥生土器 脚・台・支脚・その他
- 図版 61 弥生土器 祭祀遺物
- 図版 62 弥生土器 祭祀遺物
- 図版 63 弥生土器 祭祀遺物・その他
- 図版 64 弥生土器 その他
- 図版 65 (1)旧石器(ナイフ形石器・翼状剥片・横長剥片)
(2)同上裏面
- 図版 66 (1)縄文時代石器(有舌尖頭器・石匙)
(2)同上(石匙)
- 図版 67 (1)打製石斧
(2)SD85018出土蛤刃石斧・石庖丁
- 図版 68 (1)SD85019出土石鏃・石錐(?)・楔状石器・石庖丁・蛤刃石斧
(2)SD85019出土凹み石・石皿
- 図版 69 (1)SD85027出土スクレイパー・磨製石器等
(2)SD85036出土石庖丁
- 図版 70 (1)SD85036出土磨製石庖丁・蛤刃石斧・石錘
(2)SD85036出土磨石・石皿
- 図版 71 (1)SD85037出土石鏃・スクレイパー等
(2)SD85037出土太型蛤刃石斧・石皿
- 図版 72 (1)SD85101出土石鏃
(2)SD85101出土石鏃・石錘・SD85106出土石鏃
- 図版 73 (1)SD85101出土楔状石器等
(2)SD85101出土石庖丁

- 図版 74 (1)S D85101出土石庖丁・スクレイパー
(2)S D85101出土スクレイパー
- 図版 75 (1)S D85101出土有孔石製品・叩き石
(2)S D85101出土砥石又は石皿
- 図版 76 (1)S D85102出土石鏃
(2)S D85102出土石鏃・スクレイパー
- 図版 77 (1)S D85102出土楔状石器等
(2)S D85102出土石庖丁
- 図版 78 (1)S D85102出土磨製石製品・太型蛤刃石斧・磨石
(2)S D85102出土磨石
- 図版 79 (1)S D85103出土石鏃
(2)S D85103出土磨石
- 図版 80 (1)S D85103出土砥石又は石皿
(2)S D85103・S D85105出土石錘
- 図版 81 (1)S D85123出土石鏃・石庖丁等・S D85128出土石鏃
(2)S D85124出土石鏃・石庖丁等
- 図版 82 (1)S B85009・S B85101・S B85104出土スクレイパー等
(2)S D85104出土石皿
- 図版 83 (1)ピット出土石鏃・石錘・楔状石器
(2)ピット出土石庖丁
- 図版 84 (1)ピット出土磨製石斧
(2)S X85006出土砥石・S X85001出土叩き石
- 図版 85 (1)遺構面直上出土石鏃
(2)遺構面直上出土楔状石器及び素材等
- 図版 86 (1)遺構面直上出土石庖丁
(2)同上
- 図版 87 (1)遺構面直上出土スクレイパー
(2)遺構面直上出土彫器?
- 図版 88 (2)遺構面直上出土柱状片刃石斧・有孔石製品・板状磨製石製品
- (2)遺構面直上出土叩き石・磨製石斧
- 図版 89 (1)遺構面直上出土石錘・磨石・石皿・砥石等
(2)遺構面直上出土凹み石
- 図版 90 (1)谷筋・暗灰褐色出土土石鏃
(2)谷筋・S B85103出土石槍
- 図版 91 (1)谷筋出土石庖丁
(2)同上・黒色土出土石庖丁
- 図版 92 (1)谷筋出土太型蛤刃石斧・石錘・磨石
(2)谷筋出土石皿又は砥石
- 図版 93 (1)暗灰褐色出土土石鏃・石錘・楔状石器
(2)暗灰褐色土出土石皿又は砥石
- 図版 94 (1)黒色土出土石鏃
(2)同上
- 図版 95 (1)黒色土出土石鏃等
(2)黒色土出土スクレイパー
- 図版 96 (1)黒色土出土柱状片刃石斧・扁平片刃石斧
(2)黒色土出土石錘
- 図版 97 (1)その他包含層出土石鏃
(2)その他包含層・表採石鏃
- 図版 98 (1)その他包含層出土石錘・石槍・扁平片刃石斧
(2)その他包含層出土石庖丁
- 図版 99 (1)その他包含層・表採スクレイパー
(2)その他包含層出土石錘・磨積
- 図版 100 (1)その他包含層出土磨石・叩き石等
(2)表採太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧
- 図版 101 土師器 椀・杯
- 図版 102 土師器 杯・皿
- 図版 103 土師器 小皿
- 図版 104 土師器 小皿
- 図版 105 土師器 小皿・甕
- 図版 106 土師器 甕・土釜
- 図版 107 土師器 土釜
- 図版 108 土師器 脚・土鍋・土錘

- 図版 109 須恵器 杯・皿・鉢・その他
- 図版 110 須恵器 その他
黒色土器・瓦器・瓦質土器
- 図版 111 瓦質土器・緑釉陶器
- 図版 112 陶磁器
- 図版 113 (1)鉄製品
(2)鉄製品
- 図版 114 (1)銅銭
(2)銅銭
- 図版 115 (1)銅製品
(2)石帯
(1)獣骨

I はじめに

1. 調査の経緯

四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査事業は昭和57年度に始まり、今年度で6年目を迎えた。今年度（62年度）は、用地未買収のため残されていた観音寺市柞田八丁遺跡の480㎡も6月に発掘調査を終了し、これで24遺跡・211,500㎡の発掘をすべて終了した。これに伴い、今年度は報告書作成のための整理作業が主体となり、7遺跡・2冊の報告書を刊行した昨年度に続き、9遺跡・4冊の刊行を予定しているほか、次年度にまたがる整理作業も実施している。報告書作成のための整理作業は今年度がピークで、順調に進めば、来年度以降には5遺跡の報告と総括編を残すのみとなる。また、各遺跡の報告書とは別に、一般啓蒙用として、昭和60・61年度に『語りかける埋蔵文化財 いにしへの讃岐 I・II』を刊行しており、今年度も3冊目を刊行する予定である。

今年度で終了した発掘調査は、昭和58年2月から3月にかけて、多度郡条里の検出を目的として善通寺インター予定地付近で開始された。発掘調査実施前には、調査予定遺跡は、17遺跡・60,900㎡とみられていたが、57年度の発掘で善通寺市金蔵寺下所遺跡が新たに発見され、かなりの増加が予想された。翌58年度には調査の基地として善通寺市原田町に「香川県埋蔵文化財発掘調査善通寺連絡事務所」を設置し、金蔵寺下所遺跡以下の発掘調査を本格的に実施するとともに、横断道予定路線内の事前調査を実施した。その結果、新たな遺跡の発見が相次ぎ、最終的には24遺跡・211,500㎡の発掘調査を実施するに至った。各年度ごとの発掘調査にかかわる遺跡数・面積・人員・経費は第1-1表のとおりである。

第1-1表 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査事業（発掘調査のみ）

内容 年度	遺跡数	面積 (㎡)	人 員		発掘調査費 (千円)	備 考
			職 員	嘱 託		
57	1	1,300	2	1	8,600	
58	7	19,200	8 (うち、係長1,庶務1)	4 (うち、所長1)	141,000	
59	16	57,900	(同上)	(同上)	245,644	
60	14	78,500	(同上)	(同上)	312,500	
61	6	54,120	(同上)	(同上)	262,027	人員の内、職員2は報告書作成。報告書作成の経費は含まず。
62	1	480	7	0	1,920	報告書作成の経費は含まず。人員は報告書作成の人数。
合計	24	211,500			971,691	

6年に及ぶ発掘調査によって、第1-2表に示すように縄文時代から江戸時代に至る遺跡が発掘された。

縄文時代の遺跡をみると、善通寺市永井遺跡では縄文時代後期の河川跡から、ドングリ・トチなどの堅果類の保存・加工処理場が発見されたほか、縄文晩期の打製石斧を大量に出土した別の河川跡では、川底に14本の杭が打ち込まれていた。

観音寺市一の谷遺跡群では県下で初めて弥生時代前期の堅穴住居跡が2棟検出され、善通寺市矢ノ塚遺跡・西碑殿遺跡で弥生時代中期の集落跡を、善通寺市稲木遺跡C地区・観音寺市一の谷遺跡群で弥生時代終末頃の集落跡を検出した。このうち、矢ノ塚遺跡と西碑殿遺跡の掘立柱建物跡が方形の柱穴掘り方を持ち、一の谷遺跡群で舶載と思われる鏡片や平形銅剣片が出土したことなどは注目される。

古墳時代では、高瀬町大門遺跡・観音寺市柞田八丁遺跡で6世紀末頃のカマド付堅穴住居跡を特色とする集落跡が検出され、瀬戸大橋架橋に伴って発掘調査された坂出市下川津遺跡の例と共に、県内ではこれまで不明であった古墳時代後期の集落跡として重要である。

古代になると、善通寺市金蔵寺下所遺跡で奈良時代と考えられる30棟以上の掘立柱建物跡や条里の推定方位と一致する溝が検出されると共に、自然河川から斎串・人形・馬形・舟形などの木製祭器・わらじなどが出土した。また、善通寺市稲木遺跡B地区では、飛鳥・白鳳時代の掘立柱建物跡32棟、平安時代前期と考えられる掘立柱建物跡4棟が検出され、丸亀平野の条里や、古代集落、あるいは官衙の解明に貴重な資料を提供することとなった。また、善通寺市稲木遺跡C地区から5枚の「承和昌宝」を納めた土師質甕が出土し、胞衣壺と考えられていることや、善通寺市中村遺跡の平安時代中期頃の溝から、「貞」字をもつ銅印が出土したことも特筆される成果であった。

古代末から中世では、多くの遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、畿内の和泉産と考えられる瓦器や東播系須恵質土器・輸入磁器・中世陶器などが出土した。また、善通寺市上一坊遺跡や観音寺市一の谷遺跡群で近世の遺跡に本格的な発掘調査のメスが入られたことも注目される。

四国横断自動車道建設に伴う発掘調査で注目されるのは、初めて沖積平野の本格的な発掘がなされた点である。発掘調査前には60,900㎡と予想されていた遺跡面積が、最終的には211,500㎡となった事実が示すように、これまでほとんど不明であった平野部の遺跡、特に集落跡が大規模に発掘調査された。これによって、平野部に多くの遺跡が存在する事実が確認されると共に、採集土器と墳墓などの少ない資料から想定されていた香川の先人達の暮らしが、豊かでより具体的なイメージを持ち始めてきた。

今回報告する善通寺市矢ノ塚遺跡は四国横断自動車道建設に伴う発掘調査によって新たに発見されたものである。技師薦田耕作を中心とし、主任技師藤好史郎、嘱託今井和彦らによって、昭和59年10月8日から昭和60年8月30日まで、延べ4,800余人の発掘作業員を動員して11,800㎡を

発掘し、弥生時代から中世に及ぶ遺構を検出した。主体は弥生時代中期の集落跡である。

整理作業は主任技師薦田耕作を中心に、整理作業員11名で61年度に開始し、年度末までにほぼ終了したが、石器の原稿が今年度に残ったため、文化財専門員渡部明夫がこれを担当し、主任技師真鍋昌宏の編集によって、刊行の運びとなった。

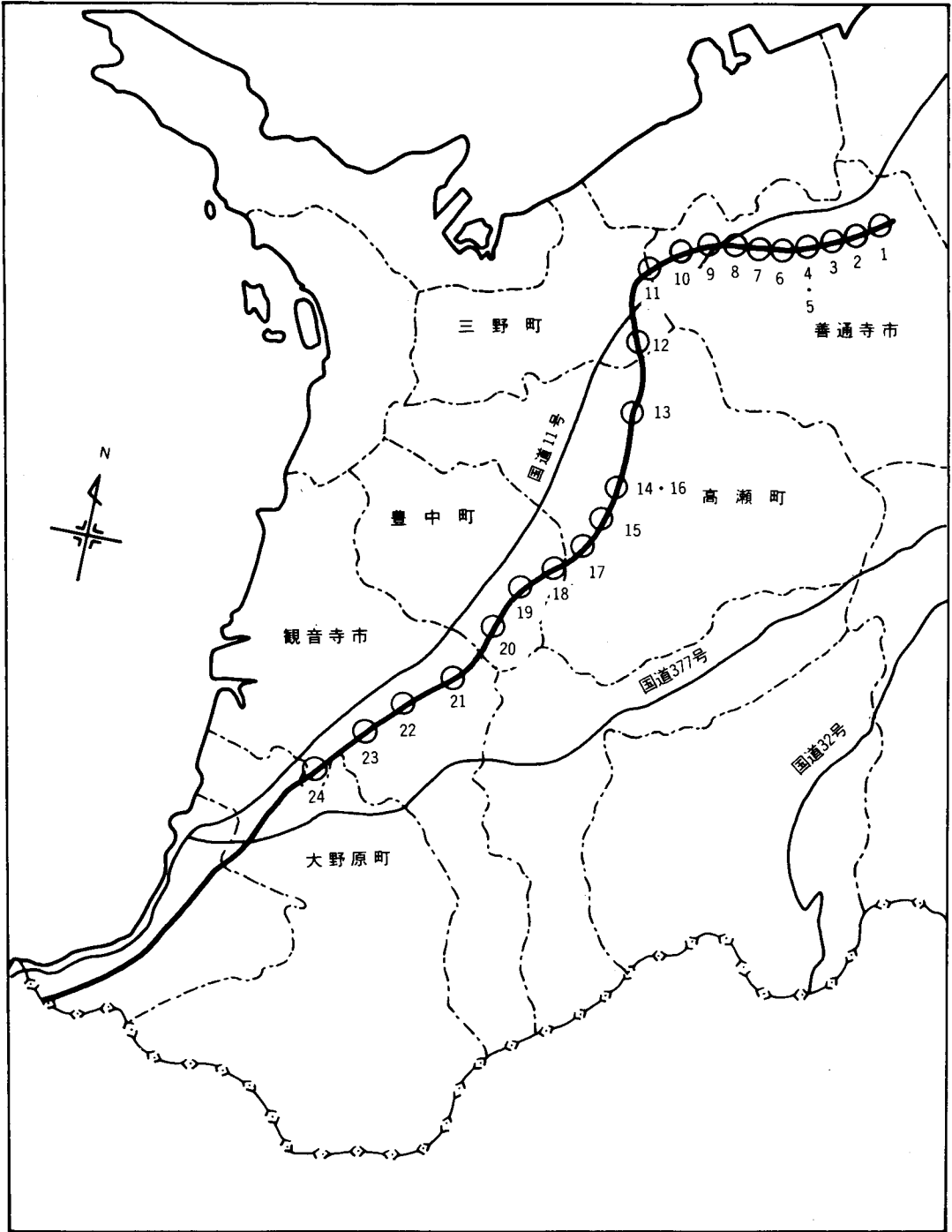


第1図 整理作業風景

第1-2表 四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の概要

No.	遺跡名 (旧遺跡名)	所在地	面積(m ²)	調査期間	時代	遺溝	主な出土品	備考
1	金蔵寺下所遺跡	善通寺市金蔵寺町下所	17,000	58.4.1~60.2.28	弥生時代 奈良・平安時代 中世	包含層、自然河川溝、掘立柱建物跡30以上、掘立柱建物跡5以上	須恵器、土師器、瓦器、木製品(斎串、人形、馬形、刀形、船形、曲物など。以上奈良時代)。わらじ(奈良時代)。	
2	稲木遺跡C地区	善通寺市稲木町	4,000	59.4.1~60.3.30	弥生時代 古墳時代 平安時代	竪穴住居跡5、集石墓(?)8、土壇墓3、壺棺墓9、掘立柱建物跡4、掘立柱建物跡1、埋甕	弥生土器、土師器、須恵器、鏡片2、承和昌宝5	
3	稲木遺跡B地区	善通寺市稲木町	17,100	59.9.17~60.2.28	弥生時代 飛鳥・白鳳時代 平安時代	土壇4、掘立柱建物跡32(内倉庫6)溝、掘立柱建物跡4	土師器、須恵器、鉄製鋤先	
4	稲木遺跡A地区	善通寺市稲木町	300	58.6.29~59.2.14	弥生時代 中世	溝	縄文晩期土器、弥生土器、磨製石庖丁	
5	永井遺跡	善通寺市中村町島田・榎田、下吉田町下所西	33,300	60.5.7~61.12.24	縄文時代 弥生時代 中・近世	自然河川、土壇溝、土壇、掘立柱建物跡3、掘立柱建物跡12、溝、土壇	縄文土器(彦崎KI、KII式、黒土BI式)土偶1、耳飾2、打製石斧多数、杭14、椀1、鳥形木製品1、堅果類多数(以上縄文時代)	
6	中村遺跡	善通寺市中村町筆岡	9,000	59.7.3~59.9.17	縄文・弥生時代 平安時代 中世 近世	自然河川溝2、掘立柱建物跡15、溝、土壇溝、土壇	銅印「貞」	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊(以下、横断道報告Iと略称)62.3.31刊行
7	乾遺跡(吉原B2)	善通寺市中村町乾	2,100	60.9.2~60.11.20	弥生時代 近世	湧水池状遺構、自然河川土壇、自然河川	弥生前期土器	横断道報告I
8	上一坊遺跡(吉原B1)	善通寺市吉原町上一坊	2,800	60.11.13~61.1.24	中世 近世	掘立柱建物24棟、井戸1、土壇、溝、井戸2、土壇、溝	近世陶磁器	横断道報告I
9	矢ノ塚遺跡	善通寺市吉原町碑殿町矢ノ塚	11,800	59.10.8~60.8.30	弥生時代 奈良時代 中世	竪穴住居跡1、掘立柱建物12、土壇、溝、掘立柱建物17、溝、掘立柱建物30以上、井戸2、土壇、溝	弥生土器、須恵器、剣形土製品1、鳥形土製品1、分銅形土製品4、石帯	横断道報告III
10	西碑殿遺跡	善通寺市碑殿町	5,200	60.2.4~60.4.30 61.7.28~61.8.11	弥生時代 奈良時代 中世 近世	掘立柱建物数棟、掘立柱建物数棟、掘立柱建物数棟、一字一石経塚	弥生土器、須恵器、一字一石経、京焼風陶器椀1(以上、経塚)	
11	深尾石棺群	三豊郡三野町大見深尾	500	59.9.11~59.10.23				路線内には存在せず
12	道免窯跡	三豊郡三野町大見道免丸尾	100	59.9.11~59.10.23	飛鳥・白鳳時代	(灰原)	須恵器坏・高坏・壺・甕	横断道報告II
13	北条遺跡	三豊郡高瀬町上高瀬北条	100	60.5.9				路線内には存在せず

No	遺跡名 (旧遺跡名)	所在地	面積(m ²)	調査期間	時代	遺 溝	主な出土品	備 考
14	利生寺遺跡 (利生寺遺跡Ⅰ・Ⅱ区)	三豊郡高瀬町上勝 間字砂古	3,200	60. 5.22~60. 7.18	弥生時代 中世 近世	土壇5 竪穴住居跡1, ピット 掘立柱建物跡1, 井戸1, 土壇4	弥生後期土器, 中・近世土器	横断道報告Ⅱ
15	大門遺跡 (利生寺遺跡Ⅲ区)	三豊郡高瀬町上勝 間字砂古	5,500	60. 7.22~61. 1.28	古墳時代 中世 近世	竪穴住居跡23, 掘立柱建物跡1, 土壇6, 溝23 礎石建物跡1, 掘立柱建物跡13 土壇6, 石組井戸1, 溝9 溝1	須恵器, 土師器, 中世土器, 鞆の羽口, 鉄滓	横断道報告Ⅱ
16	利生寺古墳	三豊郡高瀬町上勝 間字砂古	700	60.12. 2~61. 3.17	古墳時代	横穴式石室1	須恵器, 耳環	横断道報告Ⅱ
17	矢ノ岡遺跡 (土佐神社跡)	三豊郡高瀬町上勝 間字矢ノ岡	2,600	61. 1.28~61. 2.27	古墳時代 中世	竪穴住居跡1 掘立柱建物跡6, 溝6	八稜鏡1	横断道報告Ⅱ
18	四ツ塚古墳	三豊郡豊中町笠田 笠岡	1,000	59. 4.16~59. 5.14	古墳時代	横穴式石室1	須恵器, 耳環	横断道報告Ⅳ(予定)
19	財田古墳	三豊郡豊中町 上高野	1,000	58. 9.26~58.11.30	古墳時代	横穴式石室1	須恵器, 耳環, 鉄斧, 鉄釘	横断道報告Ⅳ(予定)
20	延命遺跡	三豊郡豊中町上高 野大地・八反地	18,000	58.11.28~60. 5.15 61. 9. 1~61. 9.30	弥生時代 中世	溝 掘立柱建物, 土壇, 土壇墓, 塚, 井戸3, 柵	土師器, 須恵器, 瓦器, 青磁	
21	一の谷遺跡 群(刈田郡 条里)	観音寺市古川町, 中田井町, 本大町	36,100	60. 5.15~61.12.25	弥生時代 古墳時代~近世	竪穴住居跡34, 土壇, 溝 掘立柱建物32, 土壇, 土壇墓, 溝	弥生土器(前期, 後期), 平形銅剣片, 銅鏡片, 中・近世土器	
22	石田遺跡	観音寺市池ノ尻町 石田	17,200	60. 5. 1~61. 1.11	弥生時代 古墳時代 中世	土壇 掘立柱建物跡3 掘立柱建物跡17, 土壇, 溝	土師器, 須恵器, 瓦器, 緑釉土器, 黒色土器	
23	長砂古遺跡	観音寺市池ノ尻町 大長	8,900	61. 1.13~61. 8.12	弥生時代 古墳時代 中世	竪穴住居跡1 横穴式石室1 溝, 掘立柱建物跡5	弥生土器, 須恵器, 玉類, 馬具, 武器, 瓦器	
24	柞田八丁遺跡 (中姫遺跡)	観音寺市柞田町 土井之内	14,000	61. 4. 3~62. 1.27 62. 6. 5~62. 6.17	古墳時代 中世	竪穴住居跡7, 掘立柱建物跡1, 横穴式石室1, 溝, 土壇墓2 掘立柱建物跡47	須恵器, 土師器, 耳環 越州窯青磁	
	合計		211,500	58. 2. 8~62. 1.27 62. 6. 5~62. 6.17 (調査期間は57年度 の多度郡条里の発掘 を含む。)				24遺跡



第2図 四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地（普通寺～豊浜間）

2. 調査の経過

矢ノ塚遺跡は普通寺市吉原町矢ノ塚・碑殿町矢ノ塚に所在し天霧山の南東裾野に営まれている。標高は19～28mを計り、西から東に向けて下る傾斜地形を呈している。

市道十五丁・三井之江線をはさんで西へ約100m、東へ約200m、南北約60mの範囲に調査区は収まる。市道をはさんで西側の地区は、南北の丘陵がせまった非常に限定された地形であり、東側の地区は天霧山からの谷筋と南の二反地川との狭い台地上に立地する。

調査対象面積は11,800m²であるが、三度にわたる予備調査により面積が確定された。横断道の予備調査は、ほぼ全線にわたり路線にそって、その両側に幅約2mのトレンチを設定し、重機により掘り下げるということを原則として実施した。

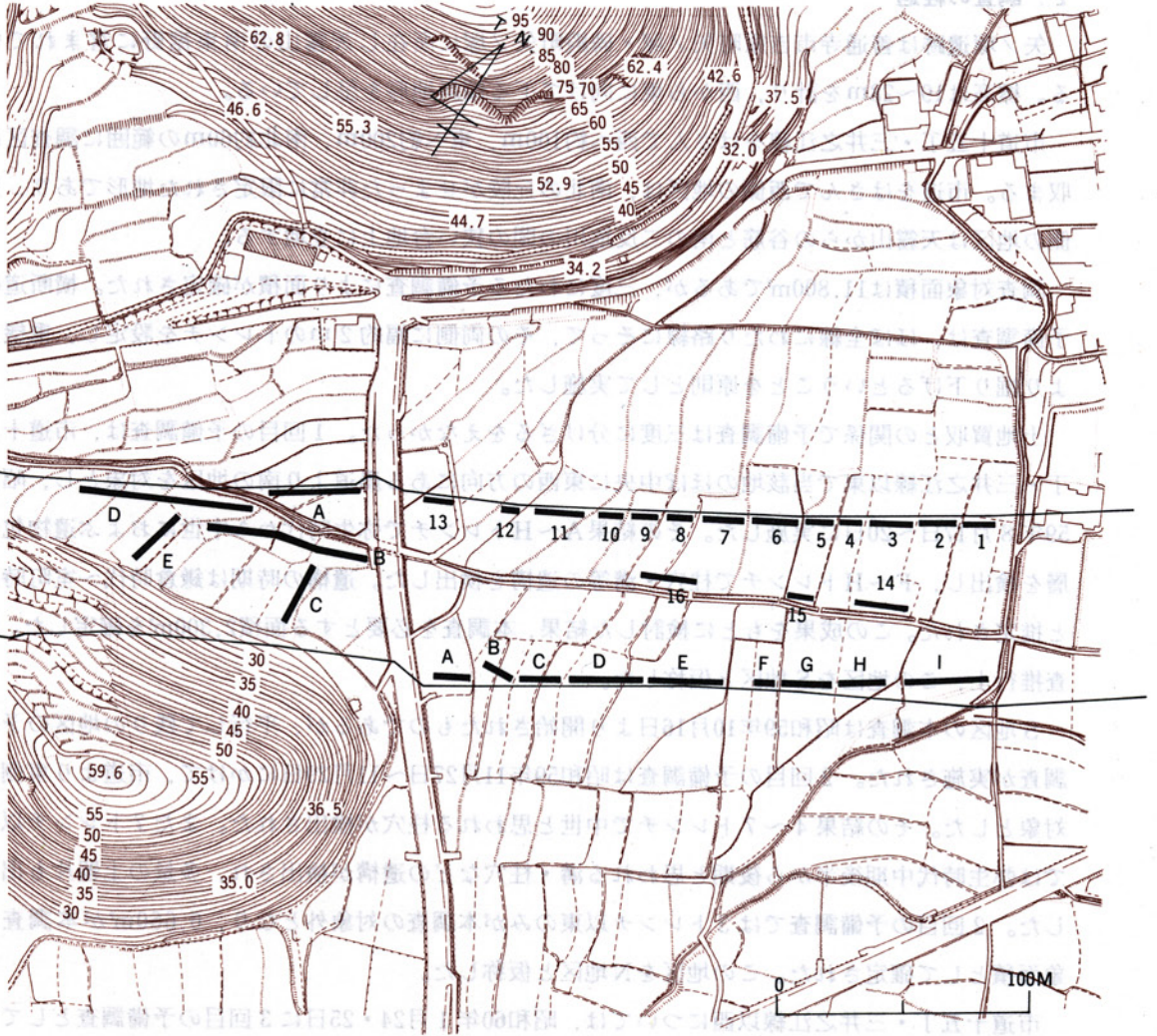
土地買収との関係で予備調査は三度に分けざるをえなかった。1回目の予備調査は、市道十五丁・三井之江線以東で当該地のほぼ中央に東西の方向にある農道より南の地区を対象とし、昭和59年8月17日～20日に実施した。その結果A～Hトレンチで弥生時代から中世におよぶ遺物包含層を検出し、F～Hトレンチで柱穴・溝等の遺構を検出した。遺構の時期は鎌倉時代～室町時代と推定された。この成果をもとに検討した結果、本調査を必要とする面積2,300m²を確定した。調査推行上、この地区をS地区と仮称した。

S地区の本調査は昭和59年10月16日より開始されたものであるが、平行して残りの地区の予備調査が実施された。2回目の予備調査は昭和59年11月27日～11月29日にかけて、市道より東側を対象とした。その結果4～7トレンチで中世と思われる柱穴が検出された。また7トレンチ以西では弥生時代中期後半から後期と思われる溝・柱穴などの遺構が検出され、多量の土器片も出土した。2回目の予備調査では3トレンチ以東のみが本調査の対象外となり、6,660m²が本調査対象面積として確定された。この地区をN地区と仮称した。

市道十五丁・三井之江線以西については、昭和60年1月24・25日に3回目の予備調査として実施した。A～Eトレンチを設定し、その結果各トレンチからは弥生時代中期後半頃の多量の土器が出土した。またA・Bトレンチでは柱穴・溝・住居址の可能性が高い遺構などを検出した。Dトレンチ西方、Eトレンチ、Cトレンチ南方では旧谷筋と考えられる流路が確認された。以上の成果を検討し、本調査対象面積2,840m²を確定した。この地区をW地区と仮称した。

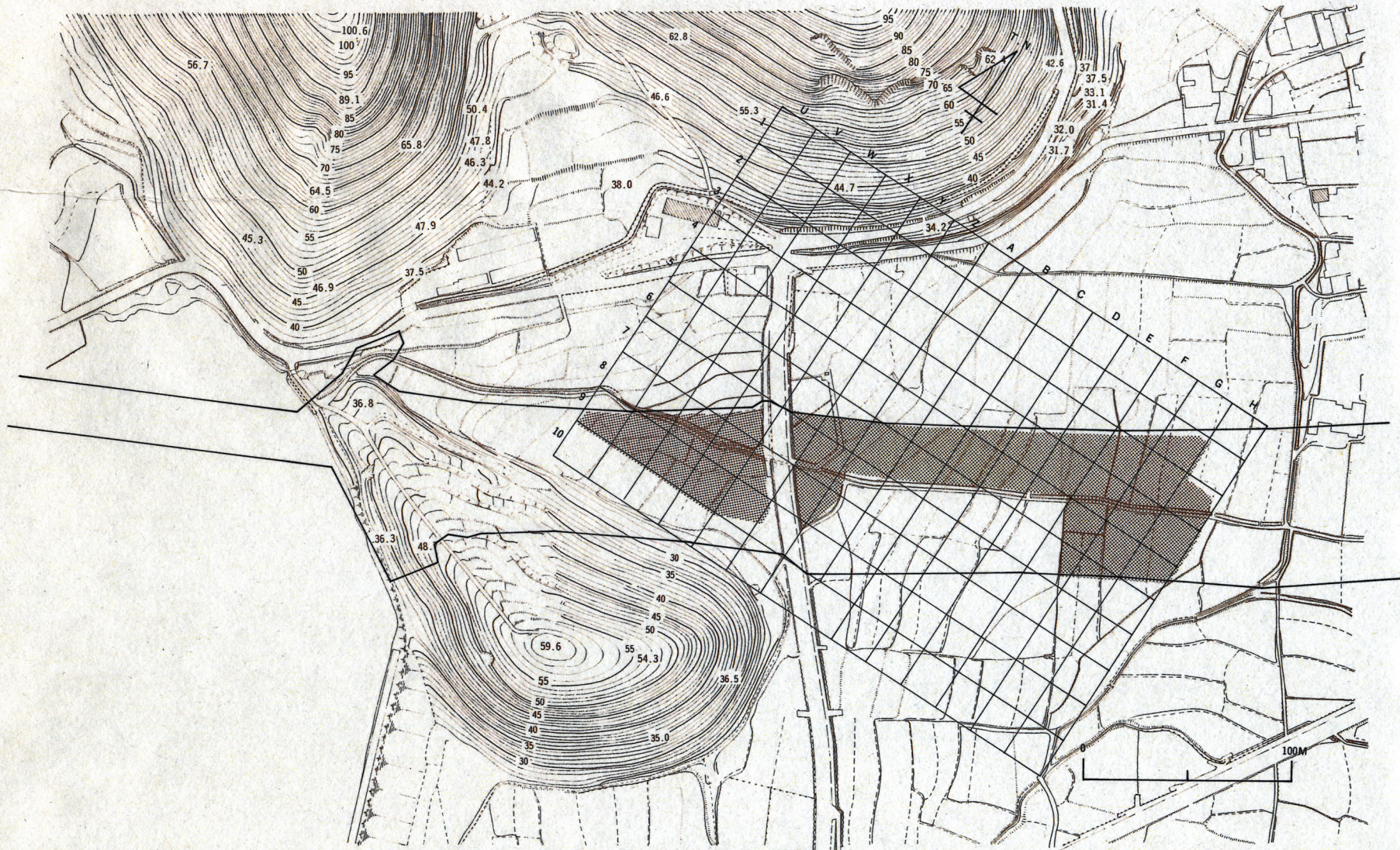
S地区の本調査は、約20名の作業員により実施された。予備調査で遺跡の範囲が広がっていくことが確認されたのでW地区の調査を開始するにあたっては、調査員1名、作業員約30名を増員した。S地区の調査終了後、作業員を2班に分けそれぞれW地区・W地区の調査を行なった。

グリッド設定にあたっては、20×20mを一調査区とし東西にアルファベットを南北にアラビア数字をつけて調査区の記号とした。調査グリッドの呼称は北西隅の記号A-1、C-3のようになる。1グリッドが用水路・農道などで分断された場合には、その位置関係でW-8(N)、W-8(S)あるいはF-3(E)、F-3(W)のように呼称した。また予備調査の順序との関係で



第3図 予備調査トレンチ配置模式図

8 (2) あるいはF-3 (E)、F-3 (W) のように呼称した。また予備調査の関係で
 数字をつけて調査区の記号とした。調査エリアの呼称は北西隅の記号A-I、C-3の1号に
 マット設定にあたっては、20×20mを一調査区とし東側にマーマットを南北にマーマ
 した。2地区の調査終了後、作業員を2班に分けてそれぞれW地区・W地区の調査を行な
 ことが確保されたのでW地区の調査を開始するにあたっては、調査員1名、作業員約30名を増員
 る地区の本調査は、約20名の作業員により実施された。予備調査で遺物の範囲が広がって
 効果を検討し、本調査対象面積は2,840m²を確保した。この地区をW地区と区別した。



第4図 矢ノ塚遺跡グリッド設定図

A列を調査区のほぼ中央に置いた。従ってA列より西はZからアルファベットを逆戻りしてグリッドの記号とした。なおグリッドの主軸は、国土地理院の第四座標系により真北から振り出している。

検出した遺構の番号については、S地区はSD001、SE002のように呼称した。N地区はSB85001、SD85006としW地区はSD85101、SB85104のように呼称した。

以下、日誌によって調査の動きを略述したい。

(10月) 昭和59年度

- 16日 S地区の杭打ちをし調査グリッドを設定する。
- 18日 本日より作業院の就労開始。調査区内の草刈りをする。
- 22日 重機により表土除去作業。
- 24日 H-4区より掘り下げを開始。円形のピットがみられる。
- 25日 H-4区、遺構面の精査。地山層が礫混りの部分が多く遺構検出にとまどる。

(11月)

- 2日 H-4・5区、遺構の発掘。H-5区のピットより「皇栄通宝」「祥符通宝」の北宋銭2枚と石錘1点が出土。
- 6日 H-4・5区、遺構の発掘。H-4区のピットより銅製のヤスリ状の遺物を検出。
- 8日 H-4・5区の全景写真撮影(東北・西より)
- 12日 I-3・4区、遺構面の精査。重機によりG列の表土除去作業。
- 28日 G-5区、遺構の発掘。井戸状の遺構を検出。(SE001とする)
- 30日 G-5区、SE001より土師質の小皿(ヘラ切り)と杯(静止糸切り)が出土。

(12月)

- 3日 G-5区、SE001より赤漆の木製椀が出土。
- 12日 F-4・5・6区、G-6区遺構面の精査開始。
- 19日 F-5・6区、遺構の発掘。2基めの井戸SE002も掘り下げを開始する。
- 26日 F列・G列の全景写真撮影。
- 27日 G-5・6、I-3・4区、H-3区、白線を入れたのち全景写真撮影。N地区の草刈り。本日で昭和59年の作業終了。

明日より年末・年始の休業。

(1月)

- 7日 本日より昭和60年の現場作業開始。S地区のセクションベルトの壁けずり。N地区に杭打ちをし、調査グリッドを設定する。
- 10月 重機によりN地区の西辺から表土除去作業を開始する。
- 11月 S地区、土層実測、写真撮影。N地区、Y・Z-6・7区の表土除去作業。2×2間で円形の柱穴を持つものと、規模は不明であるが方形の柱穴を持つものがある。
- 17日 G-5区、SE001の掘り下げ。F-5区、SE002完掘り写真撮影の後、実測開始。S地区の平面実測開始。
- 18日 YZ-6・7区、遺構面の精査開始。黒色の包含層からは弥生土器だけではなく、奈良時代の須恵器も出土している。
- 31日 S地区平面実測終了。レベル測量開始。

(2月)

- 5日 W地区に杭打ちをし、調査グリッドを設定。
- 7日 W地区、X・Y-9区より重機により表土除去作業を開始する。
- 13日 Z・A-6・7区、遺構面の精査。X-9区より遺構面の精査開始。中世包含層より石帯1点出土。下層の黒褐色土層からは多量の弥生土器と少量の須恵器が出土する。
- 18日 Z・A-8区精査開始。現場事務所で公団・企業体との打ち合わせ。①W地区は基より15mの範囲(X・Y-9区南辺)で部分的に引き渡しをする。②N地区、市道より東へ30mの範囲を四月上旬に終

える。③S地区の引き渡しを20日にする。などを確認。

22日 Y-9区で南北に流れを持つ溝をSD85101と呼称する。弥生時代中期中葉を中心とした土器が多量に出土している。

25日 X・Y-9区南辺部の全景写真撮影をする。

26日 Z・A-8区、遺構の発掘を開始する。
(3月)

4日 X・Y-9区南辺部、引き渡しに備えて再精査、土層図版の確認などを行なう。

5日 X・Y-9区南辺部、埋め戻しの後、調査区との間に土止めの柵をつくる。Y-9区、SD85101よりほぼ完形の高杯形土器、甕形土器が出土する。時期は弥生時代中期中葉頃。

13日 A-7(E)区、土坑・溝を完掘し、全景写真撮影。W-8(N)、X-8(N)区、重機で表土除去作業。

16日 Y・Z-6・7区、遺構の発掘開始。X・Y-9区の全景写真撮影。X-9区のピットより瓦質土器椀、判読不明の銅銭が出土。

25日 X・Y-9区平面実測終了。Y-8区全景写真撮影。X-8(N)区全景写真撮影。X-8(N)区は下層にも遺構面がある。

(4月) 昭和60年度

5日 X-8(S)区、遺構面の精査。黒色の溝をはさんで1×3間の規模の方形のプランを持つピットの並びがある。Y・Z-7区、遺構の発掘。

8日 Y・Z-7区で検出された1×4間の規模の建物遺構は(SB85001)は、弥生時代中期後半の包含層に切られているために、現時点で弥生時代中期後半、あるいはそれ以前の時期が考えられる。

10日 Y・Z-6・7区、全景写真撮影。

18日 X-8(S)・X-9区、整備後、全景写真撮影。

22日 Z・A-6区、遺構の発掘を開始。X-8(S)区、平面実測。W-9区、遺構面の精査を開始する。

24日 X-8(S)区、SD85101よりミニチュ

ア土器2点、鳥形土製品1点がまとまって出土する。

25日 Z・A-6区、SD85019の下層より須恵器片が出土する。従ってSD85019は弥生土器を多量に出土するが、歴史時代の溝である。

30日 X-8(N)区、下層遺構の発掘。1×2間の規模で土坑をとまなう建物(SB85103)を検出。弥生時代中期の遺構であると思われる。

(5月)

8日 W-9区、遺構の発掘。谷筋部分で地山が半円形を呈しながら落ちこむ周辺には、落ちと同心円状にまわる溝SD85120、一直線上に並ぶ円形のピット列などがある。

13日 A・B-5・6区、全景写真撮影。

16日 W-9区、整備後、全景写真撮影。

23日 C-5・6区、遺構面の精査。細い溝状遺構、ピットが多い。出土遺物はほとんどが弥生時代中期の土器である。V-9区、遺構の発掘。

27日 C-5・6区、遺構面の精査。V-9区、遺構面の精査。南辺で円形にめぐる溝状遺構(SD855123)がある。

30日 C-5区、堅穴住居(SB85000)を検出。床面まで削平をうけている。4×4mの隅丸形状をなす周溝、5つの柱穴、土坑により構成されている。

(6月)

7日 B-5・6区、全景写真撮影。V-9区、遺構の発掘。W-9区、平面実測。

10日 C-5・6区、全景写真撮影。V-9区、全景写真撮影。W-9区レベル測量。

11日 D-4・5区、遺構面の精査開始。南北方向で、上層が黒色土、下層が暗灰褐色土の埋土の溝(SD85036)が認められる。おおむね、この溝が境界となりこれより東側は中世の遺構だけが検出される。U-9区、遺構面の精査開始。

20日 D-5区、遺構の発掘。1×2間の規模の建物(SB85007)は柱穴の深さが1mを越えるものもあり深い。

W地区はU-9区の実測を残すだけで作

業員による発掘作業はほぼ終了。

26日 E-4区の精査を開始する。

(7月)

2日 V-9区南壁から南に向けて5×15mの広さで調査区を拡張する。SD85123、SD85124は谷筋に合流する。

9日 D-4・5区、全景写真撮影。B・C-5区北辺(作業用道路部分)の遺構論の精査を開始する。

10日 C-5区、SB85000、の周辺を取り囲む溝は、つながって直径約12mのほぼ正円形の溝(SD85031)になることが確認された。それより北側で方形のプランを持つピットが多数検出されている。

11日 C-5区、方形のプランを持つ柱穴(1×2間の規模、SB85004)はSD85031によって切られている。SD85031に弥生時代中期後半の遺物が出土しているため、SB85004はそれ以前の掘立柱建物であると言える。

12日 E-4区、巨礫を多数ともなう遺構(SX85005)を検出。SD85036から東へ向かって流れを持つ溝(SD85037)は、D・E列の境界付近で円形にふくらむ。そこには、流れに直交する方向で人頭大の河原石が置かれている。

18日 8-5区～E-4区、整備後全景写真撮影。

25日 E-4区、SD85037より2個の円孔をもつ、土製の模造品が出土。

26日 E-3・4区、全景写真撮影。F-4区遺構面の精査開始。

31日 F-3・4(W)区、全景写真撮影。

(8月)

14日 F-3・4(E)、G-3・4区、整備後全景写真撮影。

20日 E-3・4区、SD85037から以前に出土した土製の模造品の先端が出土。接合すると、銅剣に類似した土製品となる。

23日 G-2、H-3区、整備後全景写真撮影。

27日 G-2・3区平面・土層実測。ベルコン、発電機などを整える。本日で作業員による発掘作業を終える。

(9月)

2日 公団、企業体の立ち会いで、矢ノ塚遺跡の引き渡しをする。

—発掘調査に従事した人々—

田村久雄	横田重子	村井フミエ	近藤弥生
正嘉代子	貝出トシ子	多田久子	大谷枝里
徳永多佳子	香川桂子	竹内ミツエ	小田玲子
関宏	西田井栄	佐藤フジエ	大林信治
宮崎久一	森江清美	福崎チヨミ	石井数広
竹内文男	真鍋ナツ	山下君子	長谷典昭
森江昇	福崎ヨシノ	多田サカエ	松下純子
森岡光明	香川キヨコ	尾崎芙美子	国島範子
山本正男	古川芳	長谷川秀子	宮田玄子
石村守	溝口絹子	松岡鈴	
庄野義昭	山口ハルミ	神原吉重	
小田典生	林信子	亀田ウメノ	
神原正則	藤井マサコ	小野俊子	
中村貞臣	林和子	小野芳美	
河野史郎	我部山美江子	杉峰ヨシ子	
西岡秀樹	北堀郁子	大嶋政則	
我部山幸夫	上原昭子	大川仁史	
神原利幸	金森キヨ子	鎌野弘幹	

—整理作業に従事した人々—

細川倫子	葛西薫	真井典子	小林和恵
川田裕加子	武内ゆかり	藤田由紀子	鎌谷周子
池田由美	石川ゆかり	猪木原美恵子	

II 立地と環境

1 地理的環境

香川県のほぼ中央部に位置する丸亀平野は土器川・金倉川・弘田川がつくりだした沖積平野であり、香川県最大の耕地面積をもっている。地味は肥沃であり、昔から米どころとして知られた地域である。

善通寺市は丸亀平野の西部に位置する。南に大麻山、西に五岳山と天霧山を控え、東と北に平野が開けている。大麻山は標高616.3mを計り、近傍では第一の高山である。南北に長く嶺を引き、北部から東北部にかけて広くなだらかな裾野を引いている。この裾野は、古来から人が住むのに適し、早くから集落が開けていた。また天霧山は、室町時代から戦国時代にかけて「天霧城」のあったことで知られている。標高360.4mを計り東から西にかけて突出して横たわっている。この南東裾野に矢ノ塚遺跡（7）、西碑殿遺跡（8）が営まれている。大麻山と天霧山の間にはさまれて東から香色山（154m）、筆ノ山（296m）、我拝師山（481m）、中山（439m）、火上山（409m）の五つの円錐状の山々が並んでいる。これを五岳といい、あたかも五枚の屏風をたてかけたようにそびえている。

これらの山岳地帯を除く平野部は、いずれも河成沖積層の土壌で、下層土が灰褐色のマンガン結核をもち、表層70～80cmは強粘土質砂礫層で形成されている。最近の永井遺跡（1）などの発掘調査では、これらの土層より縄文時代の後晩期の土器が多く検出されている。このことより、現在の善通寺平野は縄文時代の後晩期に形成された可能性が強いと言える。

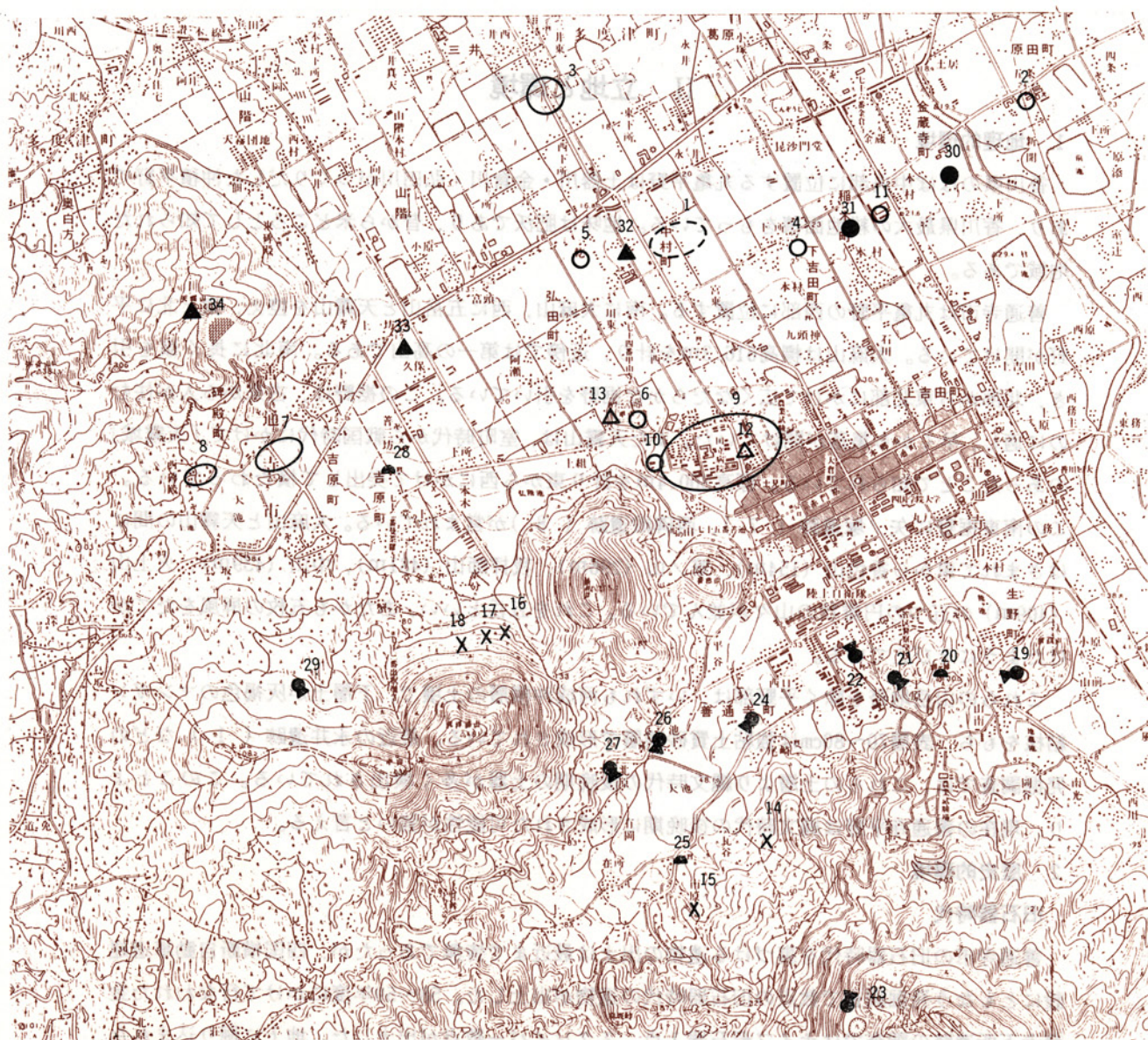
2 歴史的環境

旧石器時代

善通寺市の旧石器時代を裏づける遺物の出土は最近まで皆無であったが、四国横断自動車道建設にともなう発掘調査で数点の旧石器時代の遺物が出土した。58～59年度にかけて行なわれた金蔵寺下所遺跡の調査ではナイフ形石器1点、スクレイパー数点が出土した。地上に掘り込まれた平面プランが不整形の縄文時代晩期の土坑状の遺構より検出されたものである。また59～60年度にかけて調査が行なわれた矢ノ塚遺跡ではナイフ形石器1点、縦長剝片1点が弥生時代中期の溝より出土した。いずれも流れ込みによる遺物の出土で、調査区内で遺構の検出にはいたらなかったが、周辺地域に旧石器時代の遺構が存在する可能性を示した。

縄文時代

旧石器時代同様、善通寺市の縄文時代については最近まで不明な部分が多かった。四国横断自動車道関連調査で縄文時代の後期から晩期にかけての土器がかなり出土している。五条遺跡（2）では縄文時代後期の土器片が数点出土した。金蔵寺下所遺跡では地山直上の包含層、平面ブ



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|---------|-----|------|-------|-------|--------|-------|---------|------|--------|------|-------|---------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|------|------|--------|------|---------|---------|------|-------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 |
| 永井遺跡 | 五条遺跡 | 三井遺跡 | 稲木遺跡A地区 | 乾遺跡 | 甲山遺跡 | 矢ノ塚遺跡 | 西碑殿遺跡 | 旧練兵場遺跡 | 彼ノ宗遺跡 | 稲木遺跡C地区 | 仙遊遺跡 | 甲山シスト群 | 瓦谷遺跡 | 山の谷遺跡 | 我拝師山A遺跡 | 我拝師山C遺跡 | 我拝師山B遺跡 | 遠藤塚古墳 | 鶴ヶ峰1号墳 | 鶴ヶ峰4号墳 | 北向八幡古墳 | 野田院古墳 | 王墓山古墳 | 宮ヶ尾古墳 | 菊塚古墳 | 北原古墳 | 鷺井神社古墳 | 大窪古墳 | 金蔵寺下所遺跡 | 稲木遺跡B地区 | 中村遺跡 | 上一坊遺跡 | 天霧山城跡 |

第5図 周辺地域の遺跡 (1:50000)

ランが不整形な土坑より縄文時代晩期の土器片が数点出土している。また稲木遺跡（４）では溝状遺構の最下層より縄文時代晩期の土器が数点出土している。

また60～61年度にかけて調査が実施された永井遺跡では、縄文時代の自然河川を数本検出している。そのうちの1本からは、川底に打ち込まれた杭列が確認されている。縄文時代の後期から晩期にかけての土器が大量に出土したほか、木の実などの植物遺体、籠状の編み物、土偶、石皿などの遺物が検出された。

永井遺跡の西側で隣接する中村遺跡（32）からは石棒が1点、乾遺跡（5）からは包含層より縄文時代晩期の土器が数点、それぞれ出土している。

弥生時代

弥生時代になると、遺物・遺構の報告例は多くなる。多度津町の三井遺跡（3）、善通寺市五条遺跡、甲山遺跡（6）で弥生時代前期の土器が出土している。また丸亀市の中の池遺跡では集落を画すると思われる環濠より、稲木遺跡では溝状遺構より弥生時代前期の土器が多数、検出された。乾遺跡においては弥生時代前期の湧水池状遺構より完形の壺形土器、木製鋏の未製品4点が出土し、遺跡近辺での人間活動が想像される。

弥生時代中期の遺跡としては、旧練兵場遺跡（9）、彼ノ宗遺跡（旧練兵場遺跡彼ノ宗地区・10）がある。彼ノ宗遺跡は旧練兵場遺跡の西端にあたる場所で、壺棺墓、弥生時代中期から終末期にかけての竪穴住居、土坑などを多数検出している。遺物を豊富で、各種土器、石器類、祭祀遺物などが出土している。弥生時代中期以降の主要集落の発生・発達を知る上で貴重な資料と言える。

彼ノ宗遺跡が平野部に営まれた遺跡であるのに対して、矢ノ塚遺跡、西碑殿遺跡は天霧山の裾野の傾斜地上に営まれた遺跡である。現地形で両遺跡は大池により分断されているが、検出された遺構・遺物の類似性により、同一の集落を形成していたと考えられる。矢ノ塚遺跡で検出された遺構は竪穴住居1棟、掘立柱建物12棟、溝状遺構、土坑などである。掘立柱建物の柱穴の掘り方が方形を呈するということが注目される。同様の掘立柱建物が西碑殿遺跡においても検出されている。矢ノ塚遺跡で検出された土器は、弥生時代中期後半を中心にして、中期前半から後期前半頃までの様相を持つ。その他、分銅形土製品、ミニチュア土器、鳥形土製品、銅剣形土製品などの祭祀遺物および石庖丁、石鋏などの石器類が多く出土した。

彼ノ宗遺跡が弥生時代中期から古墳時代後期まで連綿と集落が営まれた場所であるのに対して、矢ノ塚遺跡・西碑殿遺跡では、弥生時代中期後半に主要集落が出現した後、奈良時代まで、集落が営まれていない。この違いは両者の立地条件の違いによるものなのか、両者の間に有機的な相互作用があったのか、想像の域を出るものではない。いずれにせよ弥生時代中期のほぼ同時期に出現した二つの集落の資料、およびその後の帰趨の違いは善通寺市の弥生時代を解明していく上で興味深い資料になろう。

弥生時代後期で注目されるのは、稲木遺跡C地区（11）と仙遊遺跡（旧練兵場遺跡仙遊地区・12）である。稲木遺跡C地区では竪穴住居、土墳墓、壺棺墓の他に河原石を用いた集石墓と思われる遺構7基を検出している。仙遊遺跡は旧練兵場遺跡の中に含まれ、彼ノ宗遺跡の東約300mに位置する。人面の線刻が施された組合石棺が検出されている。

いずれも社会の集団化を予感させる遺跡で、弥生時代後期にはいと善通寺市周辺の弥生文化が大きな広がりを見せたことがうかがえる。

善通寺市周辺の弥生時代を特色づけるものとして、青銅器の出土がある。陣山遺跡では平形銅剣三口、瓦谷遺跡（14）では平形銅剣二口、中細形銅剣五口、中細形銅鉾一口、我拝師山遺跡（16～18）では平形銅剣五口、銅鉾一口などである。この銅鉾は大阪府茨木市の東奈良遺跡出土の鋳型で作られたことが判明している。大阪で作られた銅鉾が香川にわたってきている事実、あるいは、平形銅剣と銅鉾のほぼ限られた地域からの出土は青銅器研究の上で極めて注目すべきことである。また我拝師山遺跡の銅剣・銅鉾出土地点は矢ノ塚遺跡から南東約1kmに位置する。

古墳時代

善通寺市内には、およそ400基以上の古墳を数えることができる。その中で特徴的なことは大麻山の北東部山麓にある椀貸塚古墳から火上山山麓の大窪古墳まで積石塚（経塚古墳、丸山1・2号古墳、野田院古墳（23））が多く存在することであろう。中でも大麻山中腹、標高400mの高所には前方後円墳としては四国でも最高所に位置する野田院古墳があり、ここからは善通寺市内をはるかに見下ろすことができる。

市内の前方後円墳で注目されるのは、磨臼山から北原に至る約2.5kmの間に6基もの前方後円墳が集中し、しかもほぼ東西一直線上に並ぶということである。東から遠藤塚（19）、鶴ヶ峰（20・21）、北向八幡（22）、王墓山（24）、菊塚（26）、北原（27）の前方後円墳がそれぞれである。同一系譜上の首長墓群とも考えられている。その他、古墳時代後期には宮が尾古墳に代表されるような線刻画で装飾された古墳が計八基確認されているなどの様々な点で興味はつきない。

このうち野田院古墳、遠藤塚古墳（磨臼山古墳）、丸山古墳、鶴ヶ峰4号古墳、王墓山古墳、宮が尾古墳は昭和59年11月29日に有岡古墳群として国史跡に指定された。

歴史時代

律令時代の行政区分では、善通寺市は東の「那珂郡」と西の「多度郡」に分かれていたと考えられ、郡境は金倉川と推定されている。金蔵寺下所遺跡は、この郡境付近に位置する。現在の周辺の地名から推定すると、「那珂郡」の喜徳郷、金倉郷、「多度郡」の良田郷のいずれかにあったものと考えられる。検出された遺構は柱穴の掘り方が方形を呈する掘立柱建物20数棟と溝状遺構などで、奈良時代を中心とした時期が与えられている。この建物群の存在する南側で自然河川が検出され、斎串、木製模造品・赤色顔料を塗布した土器などが出土した。これらの遺物は建物群

の性格を考えるうえで興味深い。

金蔵寺下所遺跡で検出された建物群とほぼ同時期とされる建物群が稲木遺跡B地区（31）、矢ノ塚遺跡、西碑殿遺跡でも確認されている。当時の文化、政治、交通に重要な役割を果たした南海道があったとされる近辺での遺跡であるため、古代の善通寺市を知る上での手がかりとなろう。

現在、善通寺市を含めて丸亀平野にはN30°Wの軸方位をもつ方面地割が残っており、この地割が奈良時代施行の条里制の痕跡であると考えられてきた。横断道の各遺跡では奈良時代、平安時代、中世、近世の建物遺構・溝状遺構が多数検出されている。平安時代以後のそれらの軸方位はほとんどがN30°Wとなる。奈良時代にはじまった条里制は平安時代以降には善通寺市で徐々に広まっていったことを裏づけるものである。

〔参考文献〕

- | | | |
|----------------------------|-----------|--------------|
| 「善通寺市史第一巻」 | 善通寺市 | 1977年7月 |
| 「新編 香川叢書 考古編」 | 香川県教育委員会 | 1983年3月 |
| 「中の池遺跡発掘調査概要」 | 丸亀市教育委員会 | 1982年3月 |
| 「彼ノ宗遺跡発掘調査報告書」 | 善通寺市教育委員会 | 1985年3月 |
| 「四国横断自動車道建設にともなう埋蔵文化財実績報告」 | 香川県教育委員会 | 1984～1986年3月 |

III 土層序と遺構

1. 土層序について

矢ノ塚遺跡における基本土層は上層より I 層耕作土，II 層床土，III 層中世後半の遺物包含層，IV 層鎌倉・平安・奈良時代遺物包含層，V 層奈良時代・弥生時代中・後期遺物包含層，VI 層弥生時代中期遺物包含層，VII 層無遺物層（地山）となる。

基本土層の全てが確認できる場所は，W 地区の Y 列から U 列にかけての谷筋部分である。おそらくこの基本土層は矢ノ塚遺跡のほぼ全域を覆っていたものであるが，後世の地下げ・整地などの人為的活動にともない度重なる削平を受けたものと考えられる。A・B-5 E 北辺では，床土直下が地山となるが，検出されるピット・溝などの遺構の埋土には V・VI 層の土が確認されることなどが，そのことを裏づける。

また E 列を境界として，それより東では弥生時代の遺構・遺物は全く確認されない。したがって E 列より東の基本土層と西の基本土層は異なる。E 列より東の基本土層は I → II → III → IV → V → VII 層となる。その全てが確認できる場所は G，H 列の谷筋部分である。

以下，各層の広がり，出土遺物，遺構との関係などについて略述したい。

I 層 耕作土

当該地は周辺地域も含めて水田地帯である。したがって調査区の全域にわたり確認される。耕作土上面での標高は西辺で 27.5m，東辺で 18.8m を計る。

II 層 床土

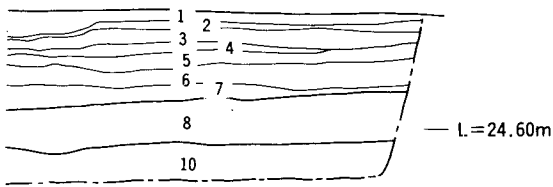
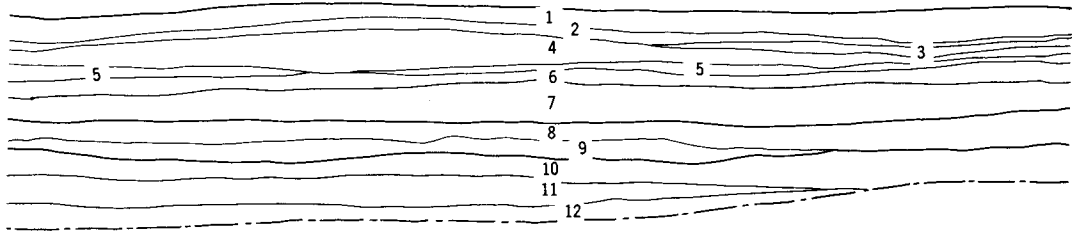
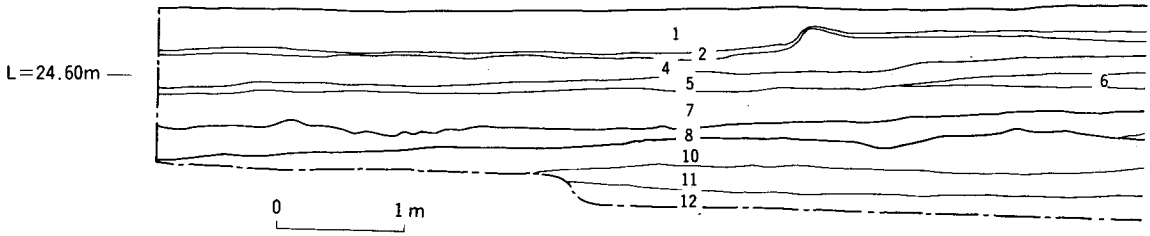
水田化にともない耕作土同様，調査区全域で確認される。場所によっては 2～3 層に分層される所もあるが，おおむね赤灰色土層の単一層である。

III 層 中世遺物包含層

灰色系の土層である。W-9 区南壁では 4 層に，G-2 区北壁では 8 層に分層される。おそらく中世～近世にかけての水田面であった可能性が強い。層厚・層数は一定ではないが，調査区全域で確認される。土釜，土釜の脚・土鍋・土師器の皿・小皿などが出土する。出土する遺物の時期は中世後半に集中する。

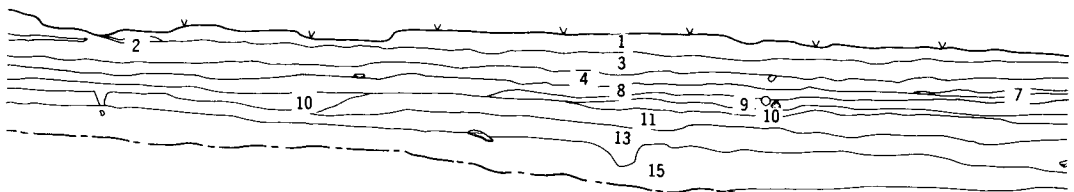
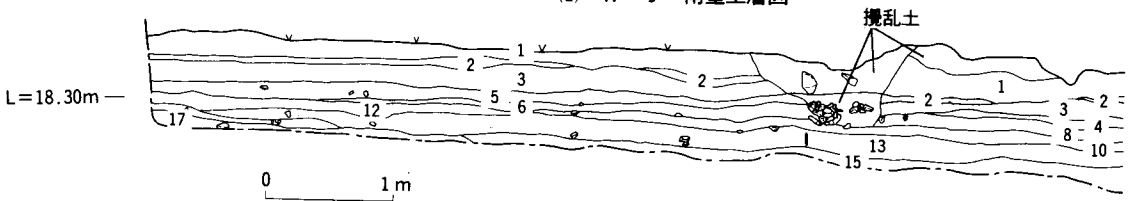
IV 層 奈良・平安・鎌倉時代遺物包含層

黒褐色系の粘性の強い土層である。U 列から A 列にかけては黒褐色土層の単一層であり，層厚は 10～40cm になる。B 列より東でこの層が確認される場所は，D・E 列の境界付近と G・H 列の谷筋部分である。また S 地区の G 列を中心とした場所にも堆積している。須恵器，土師器の椀・杯・皿・黒色土器・瓦質土器・瓦器などが出土する。また X-9 区においては，この層より石帯

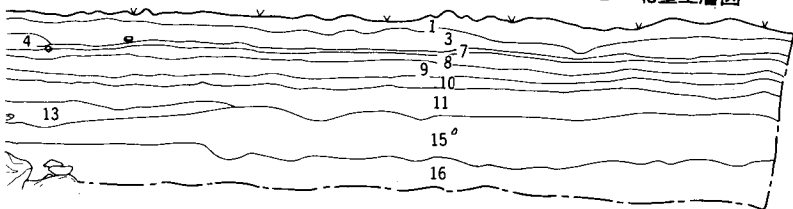


- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 耕作土…………… I | 7. 黑褐色土層…………… IV |
| 2. 赤灰色土層(床土)… II | 8. 黑色粘質土層…………… V |
| 3. 淡灰茶色砂質土層 | 9. 黑灰褐色粘質土層 |
| 4. 淡灰褐色砂質土層 | 10. 暗灰褐色粘質土層 |
| 5. 灰褐色砂質土層 | 11. 乳暗灰褐色粘質土層 |
| 6. 黑灰色粘質土層 | 12. 乳暗灰褐色土層 |

(1) W-9 南壁土層圖



(2) G-2 北壁土層圖



- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 耕作土…………… I | 10. 灰茶褐色土層 |
| 2. 赤灰色土層(床土)… II | 11. 暗灰茶褐色土層 |
| 3. 灰褐色粘質土層 | 12. 暗灰褐色砂質土層 |
| 4. 淡灰褐色砂質土層 | 13. 黑灰茶褐色土層 |
| 5. 淡灰茶色砂質土層 | 14. 黑褐色粘質土層 |
| 6. 淡灰茶褐色砂質土層 | 15. 暗黑褐色粘質土層 |
| 7. 灰赤褐色土層 | 16. 黑色粘質土層…………… V |
| 8. 淡灰茶褐色砂質土層 | 17. 黃茶褐色土層…………… VII |
| 9. 淡灰茶黃色砂質土層 | (地山) |

第 6 圖 土層實測圖

が1点出土している。

G・H列の谷筋では5層に分層される。この部分では、須恵器片がわずかに出土するだけで、遺物はほとんど含まない。S地区のG列付近でも遺物は含まない。

この上面が中世の遺構面となる。溝・掘立柱建物・土坑などが掘りこまれている。これらの遺構には灰色系の埋土のものと黒褐色系の埋土を持つものがある。黒褐色系の埋土は遺構面の土層の色調と著しく類似するためS地区G列付近では、遺構の検出は困難を極めた。

V層 奈良時代・弥生時代中・後期遺物包含層

有機質を多量に含んだ黒色粘質土層の単一層である。層厚は20～60cmの間に収まる。確認される範囲は、IV層とほぼ同じであるが、S地区では認められず、A・B列の境付近の狭い範囲で認められる。

出土する遺物は奈良時代を中心とした須恵器が少量と弥生時代中期後半から後期中葉頃の土器が多く出土する。出土遺物の時期よりV層が堆積していた期間は長いと言える。検出される遺構には、同じ黒色粘質土の埋土の溝であるが遺物の出土状況より弥生時代に比定したものと奈良時代に比定したものがある。

すなわち、V層が堆積する途中で弥生時代の遺構が掘削され、堆積の終わり近くか、堆積後に奈良時代の遺構が掘りこまれたと解釈できる。いずれにせよV層は奈良時代・弥生時代の遺構面となっている。掘削された遺構は、奈良時代の掘立柱建物・溝、弥生時代の溝である。

G・H列の谷筋にも、黒色粘質土層の厚い堆積が確認されるが、調査区内の調査では遺物は一点も検出されなかった。

VI層 弥生時代中期遺物包含層

暗灰褐色粘質土層がベースとなり、色調では濃淡がついたり、土質では砂がかったり、小礫を含むなどで何層かに分層される。W-9区南壁では4層となる。E列以東で、VI層は堆積していない。それより西側では、層厚の違いがあるが、ほぼ全域に堆積している。C・D-5・6区、X-8(S)区などのように土層にはVI層が認められないが、遺構の埋土中に確認される場所もある。これは堆積していたが、後に削平をうけたことをものがたるものである。

全く削平を受けずに堆積の状態がそのまま確認されるところがX～U列にかけての谷筋部分である。最大層厚が1mをこえる所もある。VI層全体からは、弥生時代中期中葉の土器を中心として弥生時代中期前半から後半にかけての遺物が多く出土した。W-9区の谷筋部分で上・中・下層の3層に分けてとり上げた遺物を検討したが、その上下で明確な時期差は認められなかった。

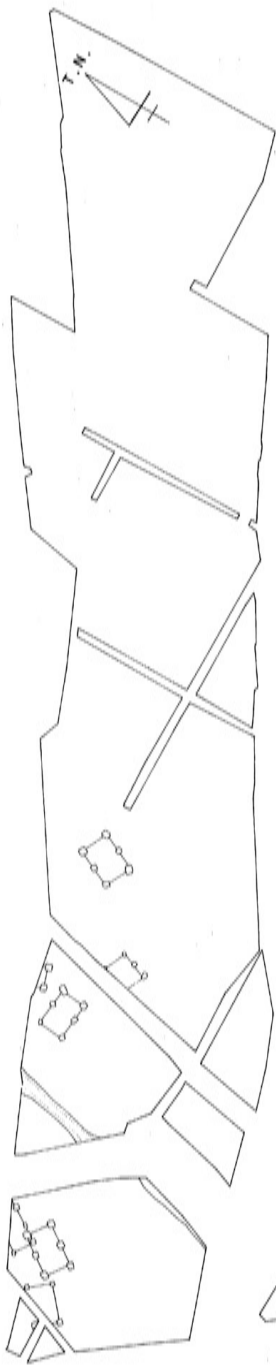
VI層を埋土にもつ遺構は、掘立柱建物、竪穴住居、溝状遺構、土坑などがある。いずれも弥生時代中期後半を中心とした遺構である。W-8(N)区東壁の土層には、この時期の掘立柱建物の柱穴が認められたが、柱穴の埋土と遺構面のベースになっているVI層が、似かよっているため

に、土層でも明確な線引きができなかった。

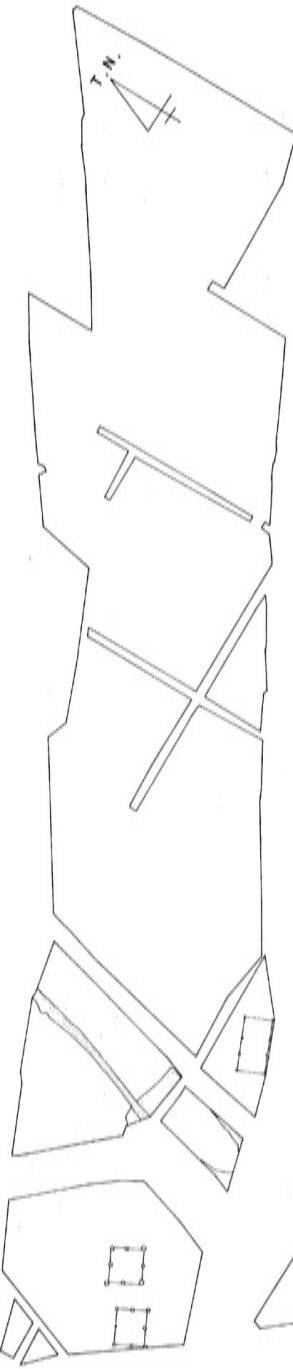
したがってVI層は、弥生時代中期の遺構面ということはあるが、分層されるどの面が遺構面になるかは断言できない。

VII層 無遺物層（地山）

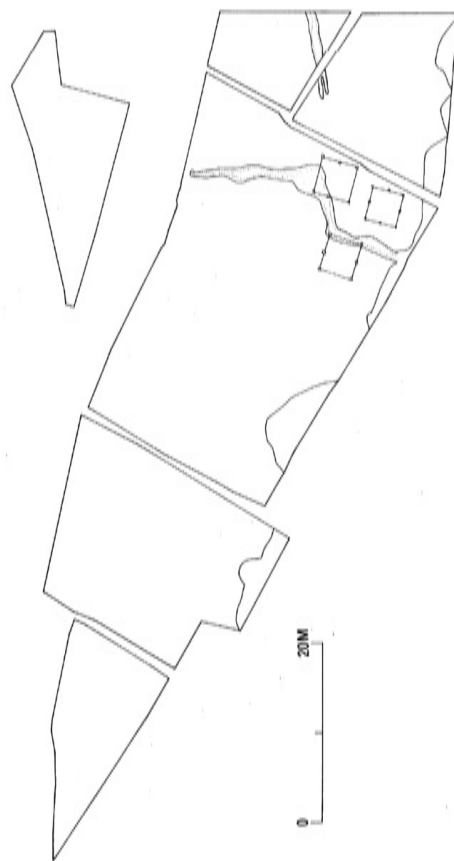
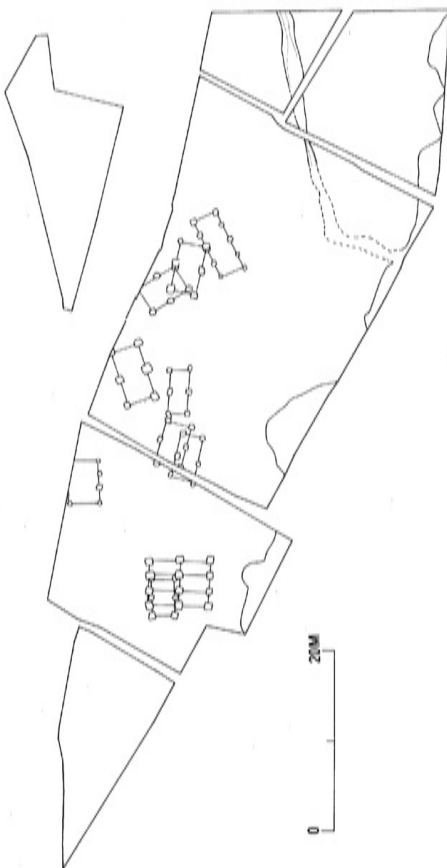
地山層は場所によって異なる。W地区では黄緑色粘質（硬）土層，Z～E列の西辺までは黄緑色粘質土層が地山層となる。E列より西側では地山層に礫が多く含まれる。淡黄茶褐色礫混土層，黄茶褐色土層が地山層となる。



第9図 奈良・平安時代の通構配置図 (U~E列)



第10図 中世の通構配置図 (U~E列)



2 遺構について

矢ノ塚遺跡で検出した遺構は、竪穴住居、掘立柱建物、溝状遺構、土坑、井戸などである。これらは地表下約30～80cmで確認できる。各遺構の時期は大別して弥生時代、奈良・平安時代、中世の3時期となる。

各時期で遺構の掘削面は異なる。従って遺構面は最低3枚あるということが言える。土層序の稿で記述したように、各時期において遺構面のベースとなる土層と遺構の埋土は極めて似かよっている。従って遺構面毎にその時期の遺構を検出することは困難であった。また、後世の地下げなどにより遺構面が削平されている場所が多かった。これらの理由により、遺構の検出は地山面で行なった。

以下、各時代ごとに検出された遺構について略述したい。

(1) 弥生時代の遺構

①竪穴住居

S B 85000

C-5区北西隅で検出した。後世の地下げにより掘り方と床面の一部が削平された状態で検出した。5つの柱穴と焼土をもつ土坑、周溝からなる。これらの埋土はほぼ単一で暗灰褐色粘質土である。規模は、東西約4m、南北約4mで周溝は隅丸形状をなしている。削平をうけたため、周溝の幅は10cm、深さは5cm程度しか残されていなかった。柱穴の大きさは30～50cm程度でサイコロの五つの目状に位置する。東の2つの柱穴の間に60×80cmの土坑があり、埋土の最上層の約3cm幅に限り焼土が確認できた。

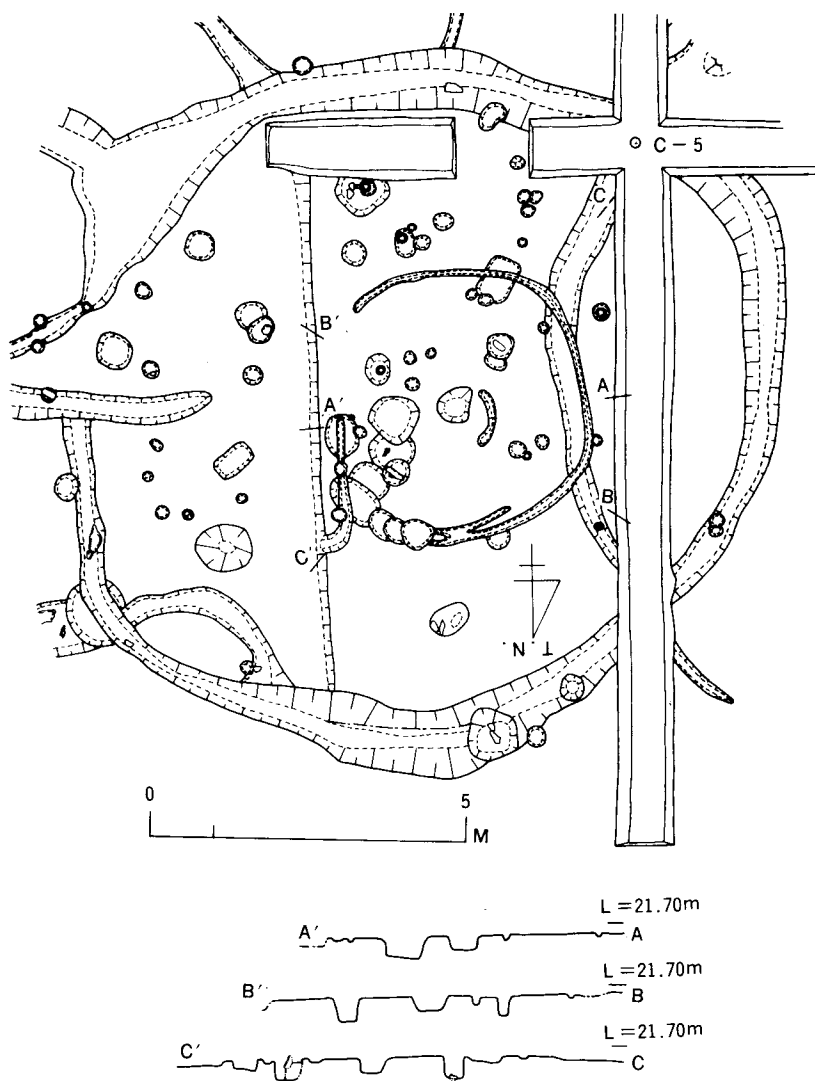
さらに周溝とほぼ同心円状に直径約12mの比較的大きな規模の溝(S D 85031)がまわる。S D 85031も削平をうけていると思われるが、検出面での最大幅は約1m、深さは約40cmを計る。柱穴からは良好な残りの遺物は出土しなかったが、S D 85031からは弥生時代中期後半の土器が出土している。したがってS B 85000は弥生時代中期後半の時期が与えられる。

調査区内で検出した竪穴住居はS B 85000 1棟だけであった。しかし、S B 85000以外の場所でS D 85031と同規模、あるいはそれよりも小規模の細溝が明らかに人為的に円形、もしくは円形になると思われる所が数ヶ所あった。その内側で柱穴、周溝などは確認できなかったが、竪穴住居が削平された場所と思われる。

②掘立柱建物遺構

検出した掘立柱建物遺構は11棟である。調査区外に柱穴をもつために全容は不明であるが、掘立柱建物になる可能性が強いものを含めると12棟になる。

これらの建物遺構の共通した特色として、柱穴の掘り方が方形もしくは方形に近い形状をなすということがあげられる。また柱穴の埋土は、暗灰褐色粘質土をベースとしており、黒色粘土は全く混らない。その他、柱間の長さ、柱穴の規模、主軸方位などに関しては、明確な共通性は見



第11図 SB85000 平・断面図

られない。柱痕はほとんどの建物遺構で検出されなかった。発掘の途中で柱痕として検出したものも後に断面土層で確認すると、そうでないものが多かった。

各建物遺構について記述する前に、一覧表の見方について説明する。掘立柱建物遺構については、全ての時期を通じて北西隅にあたる柱穴を㊶とした。それを基準として時計廻りの方向で順次㊷, ㊸, ㊹…と記号をつけた。柱穴の規模は方形のものは縦×横を、円形のもの直径を計り、マイナス値は、検出面からの深さである。㊶と㊷の柱間長を①, ㊷と㊸の柱間長を②とし、順次時計廻りの方向で番号をふった。主軸方位は真北を規準として、真北から長軸が何度振っているかを表した。N76.0° Eは長軸が真北より76.0° 東に振っていることを表現している。建物の規模・柱間長・柱穴規模の数字は全てcmである。

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SB85101	1 × 3 間 280 × 580	①204 ④280 ⑦184	②172 ⑤212 ⑧280	③204 ⑥176	①68 (-71.5) ②92 (-50.2) ③72 × 80 (-87.5)	④84 (-81.5) ⑤64 × 92 (-65.1) ⑥68 × 88 (-58.1)	⑦76 × (80) (-76.5) ⑧76 × 92 (-68.2)	N76.0°E
SB85103	1 × 2 間 234 × 470	①248 ④232	②222 ⑤238	③234 ⑥234	①72 (-34.8) ②88 × 92 (-70.5)	③52 (-64.0) ④52 × 56 (-87.1)	⑤42 × 44 (-50.7) ⑥58 × 58 (-67.9)	N66.5°E
SB85104	1 × 2 間 322 × 580	①276 ④310	②304 ⑤272	③322 ⑥324	①96 × 102 (-75.2) ②76 × 106 (-55.6)	③106 × 120 (-63.5) ④80 × 86 (-42.7)	⑤80 × 90 (-80.3) ⑥100 × 106 (-53.1)	N62.5°E
SB85001	1 × 4 間 334 × 668	①156 ④188 ⑦166 ⑩334	②160 ⑤334 ⑧162	③164 ⑥198 ⑨144	①74 (-40) ②62 (-22) ③46 (-22)	④64 × 96 (-30) ⑤50 (-62) ⑥44 × 46 (-37)	⑦72 (-50) ⑧56 × 58 (-28) ⑨46 × 48 (-27)	N42.5°E
SB85002	1 × 4 間 280 × 836	①212 ④228 ⑦216 ⑩(280)	②186 ⑤280 ⑧180	③206 ⑥228 ⑨(208)	①72 × 80 (-13.3) ②80 × 92 (-72.8) ③76 × 88 (-35.3) ④72 × 112 (-59.3)	⑤60 × 68 (-53.1) ⑥84 (-25) ⑦72 × 88 (-33.1)	⑧60 × 80 (-54.3) ⑨108 (-36.1) ⑩84 × 84 (-24.3)	N42.0°E

第 3 表 建物遺構一覽表(1)

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SB85003	1 × 2 間	①220	②220	③282	㊶74×80 (-88.8)	㊷76×84 (-88.6)	㊸86×86 (-70.4)	N63.0°E
	282×440	④220	⑤220	⑥282	㊹88×116 (-8.0)	㊺76×108 (-92)	㊻80×82 (-69.7)	
SB85004	1 × 2 間	①280	②284	③280	㊼76×84 (-86.4)	㊽80×88 (-65.5)	㊾100×100 (-62.9)	N65.0°E
	280×560	④276	⑤284	⑥280	㊿88×96 (-65.3)	㊽88×116 (-75.7)	㊾80 (-80.9)	
SB85005	1 × 2 間	①168	②192	③284	㊿60×64 (-17)	㊽56×56 (-28.5)	㊾56×72 (-19.7)	N25.0°E
	284×360	④188	⑤172	⑥284	㊿64×64 (-60)	㊽56×56 (-30.6)	㊾68 (-65.5)	
SB85006	1 × 2 間	①288	②332	③340	㊿80 (-37.4)	㊽80 (-41.7)	㊾84 (-35.7)	N35.0°E
	340×620	④328	⑤296	⑥340	㊿68×84 (-25.5)	㊽60×72 (-43.1)	㊾92 (-39.4)	
SB85007	1 × 2 間	①308	②294	③370	㊿88×112 (-118)	㊽110 (-46.5)	㊾74×102 (-107)	N40.0°E
	370×602	④292	⑤310	⑥372	㊿90×92 (-89.7)	㊽112 (-90.4)	㊾80×106 (-26.9)	
SB85015	1 × 1 間	①270	②248	③270	㊿78 (-73.1)	㊽52×84 (-75.3)	㊾44×56 (-45.3)	N41.5°W
	248×270	④250			㊿38×42 (-31.1)			

第 4 表 建物遺構一覽表(2)

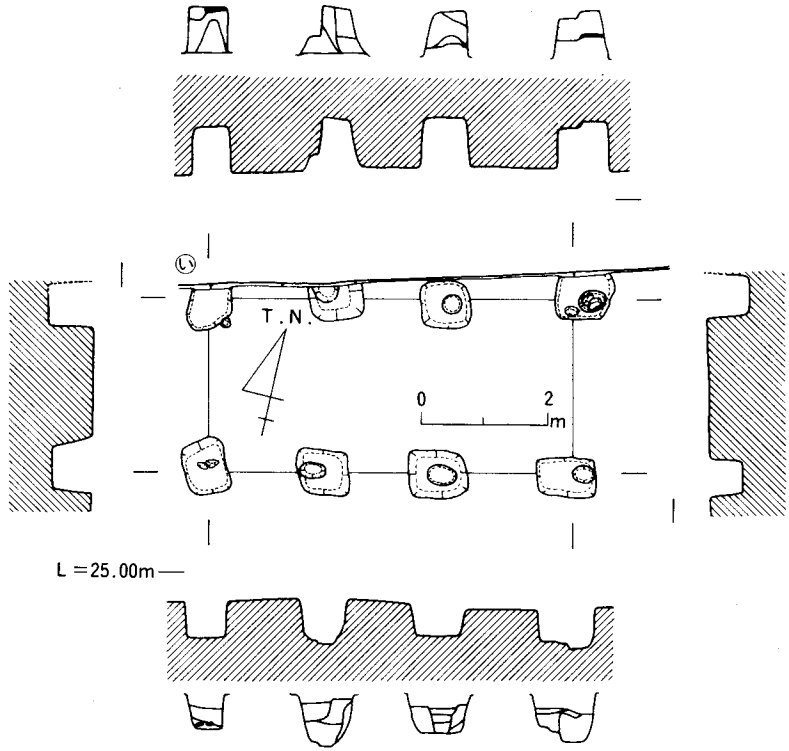
S B 85101

X-8 (S) 区
 で検出した。各柱
 穴の掘り方の形状
 は、ほぼ隅丸方形
 形状をなしている。
 楕円形状の柱痕が
 ㊸～㊼の平面で確
 認されたが、断面
 土層で見ると、
 掘り方の底近くま
 で柱痕と思われる
 土層が続くのは、
 ㊸だけであった。
 ㊸, ㊹, ㊺, ㊻は
 二段掘りの様相を
 呈している。柱穴

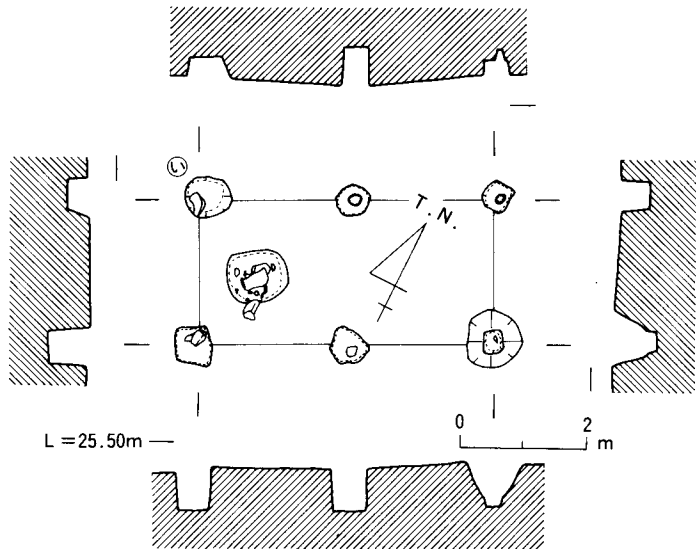
からは、ほとんど遺物は出
 土しておらず、弥生土器の
 破片が数点出土したのにと
 どまる。

S B 85103

X-8 (N) 区で検出
 した。柱穴の掘り方の形状
 は、方形のもの、円形
 のもの、不整形なもの
 と統一性がない。㊸, ㊹
 が二段掘りの様相を呈
 しているが、掘り下げ
 の途中で柱痕は確認
 できなかった。㊺の
 柱穴がW-8 (N) 区
 の東壁土層で確認され
 たが、掘り方の上方は
 明確な線引き

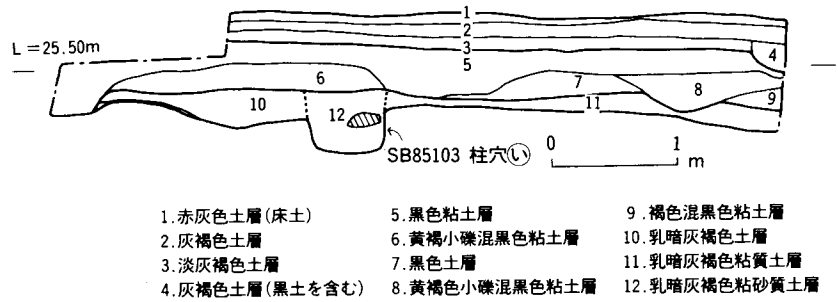


第12図 S B 85101 平・断面図



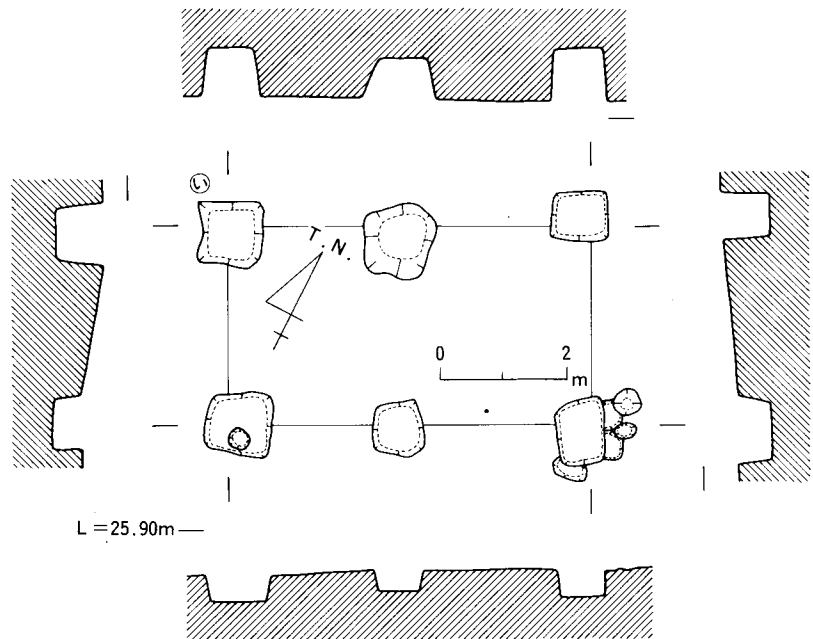
第13図 S B 85103 平・断面図

はできなかった。
 土層図の10, 11層は土層序のVI層にあたるが、VI層の上面まで掘り方の線がのびるのか途中で切れるのかの判断はつかない。



第14図 X-8 (N) 東壁土層図

また、建物遺構内の西側にかたよって、80×95cmの大きさの土坑(S K85104)が検出された。位置関係より建物にとりもなう遺構の可能性が強い。土坑からは安山岩質の大石数個にともない高杯の脚を中心として壺・甕の破片が出土した。また、柱穴㊸, ㊹から壺・甕・高杯の1/8程度の破片が



第15図 S B85104 平・断面図

出土している。これらの土器は弥生時代中期中葉の様相を呈している。

S B85104

V-9区で検出した。S B85103と同様、1×2間の規模を持つが梁間322cm、桁行580cmと大きい。柱穴の掘り方は、方形状をなし、1辺が1mをこえるもの(㊸, ㊹, ㊺, ㊻)が多い。柱穴㊸からは、コンテナ約1杯分の土器片が出土した。他の柱穴からも各器種の土器が多く出土している。壺・甕ともに口縁端部に凹線文を持つもので、弥生時代中期後半頃の土器である。

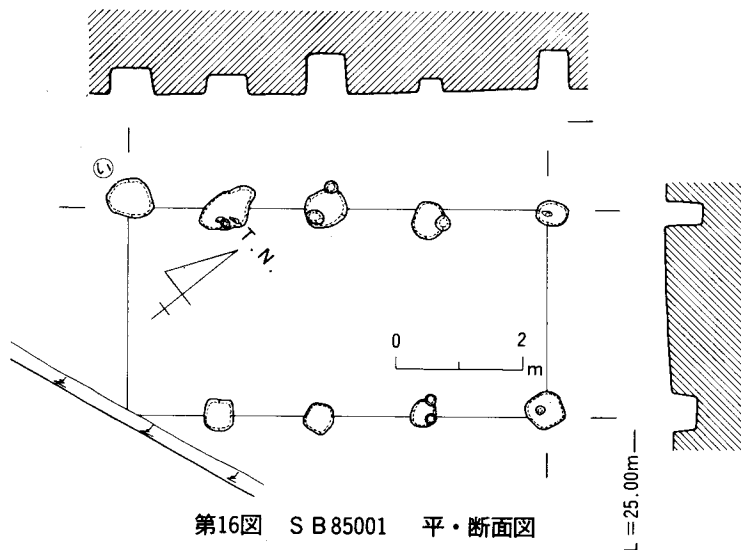
S B85001

Z-7区で検出した。1×4間の規模を持つ。梁間の長さはS B85104よりさらに長く334cmを

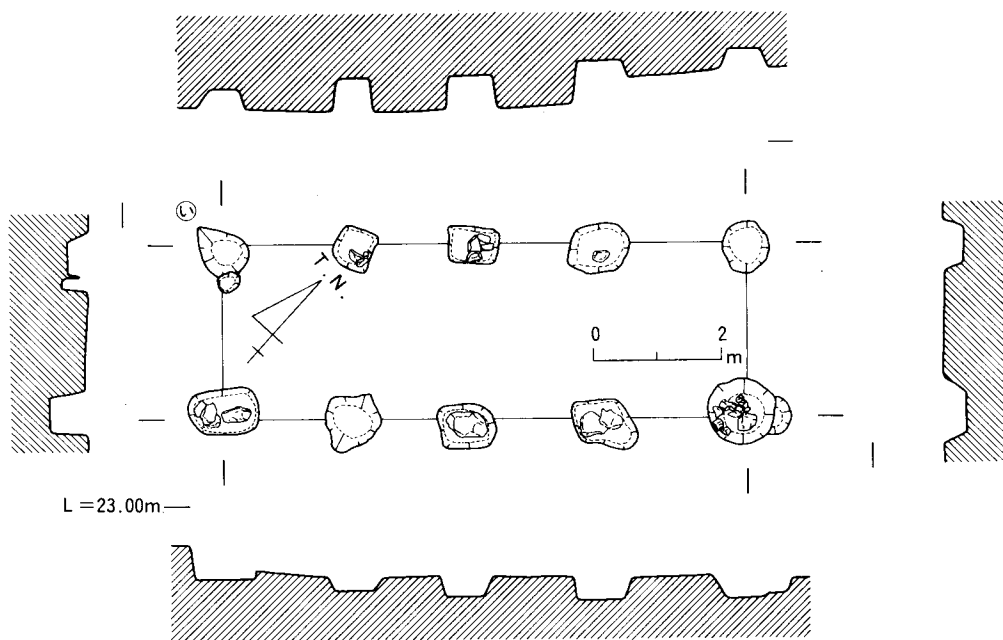
計る。柱穴の掘り方の形状は、円形とも方形とも言えないものが多く不ぞろいである。柱穴㊸が、土層で確認されたが、黒色粘土層（V層）より下の面から掘削されている。遺物は、弥生土器の破片が数点出土しただけである。

S B 85002

B-6区で検出した。



桁行が836cmを計り、横に長い建物である。建物遺構のほぼ中央を横切って、現地形で40cm程の段差がある。そのために、柱穴㊸～㊺は削平を受け、検出面からの深さは極端に浅い。柱穴の掘り



方の形状は、方形のもの、円形のもの、不整形のものがあり、統一性がない。㊸, ㊹, ㊺, ㊻, ㊼, ㊽からは安山岩質系の石が検出された。特に㊼, ㊽の石は大きいもので、底面に密着して置かれていたために、柱を支える目的で置かれた可能性もある。また㊸からは数多くの石が検

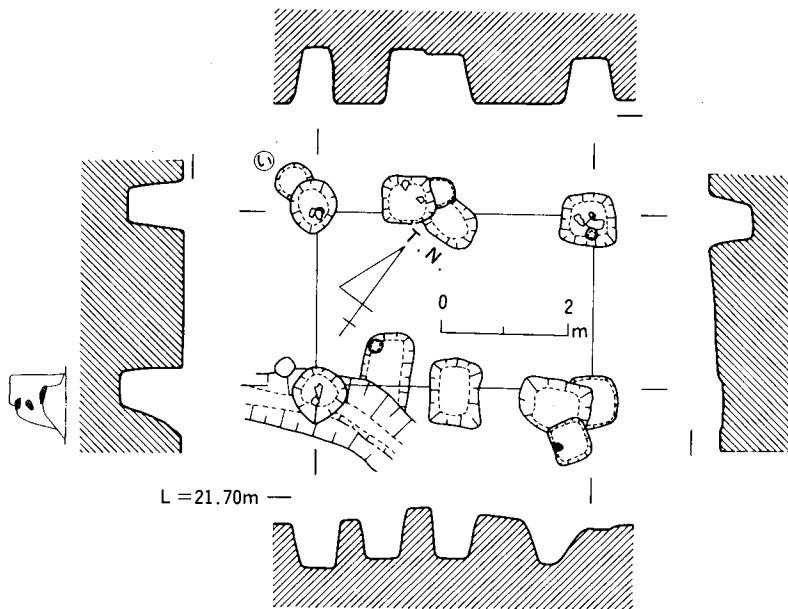
出された。これは柱を支えるよりも、無作為に放り込んだ様相を呈していた。

S B 85003

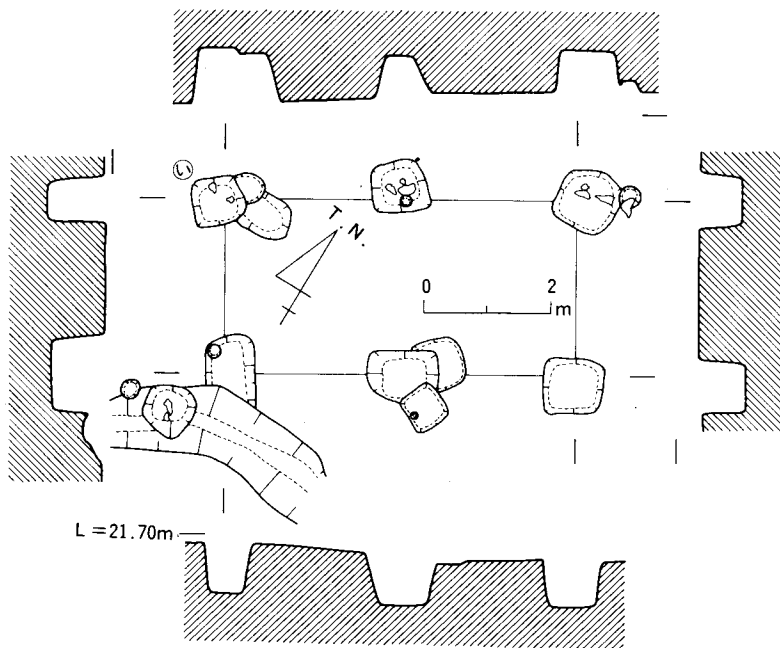
C-5区で検出された。柱穴の掘り方の形状は、ほぼ方形である。柱穴㊸がS D85031と切り合って検出された。土層図に見られるとおりのS D85031が㊸を切っている。このことによりS B 85003は竪穴住居S B 85000より先行する建物と言える。また柱穴㊸では近接して検出されたS B 85004、S B 85005の2棟の建物の柱穴との切り合い関係が解る。S B 85003が最も古く、S B 85005が新しい。また柱穴㊸がS B 85004の柱穴にもなっている。桁行の柱間の長さは220cmで一定である。遺物の出土は少なく、弥生土器の破片が数点出土したのにとどまる。

S B 85004

S B 85003と接して検出された。柱穴㊸が、S D85031に切られている。平面での埋土の違いは、



第18図 S B 85003 平・断面図



第19図 S B 85004 平・断面図

いずれも暗灰褐色土をベースとしているが、S D85031がやや黒みがかっており、柱穴⑧はそれよりも黒みが少ないことで見分けられる。柱穴⑨でS B85003・S B85005との切り合いが解る。したがって竪穴住居と近辺の掘立柱建物との前後関係は、古い順にS B85003→S B85004→S B85000・S B85005となる。また柱穴⑩がS B85003の柱穴⑧と共有するのでS B85004はS B85003を建て替えたものと考えられる。梁間の長さは280cmでS B85003とほぼ同じである

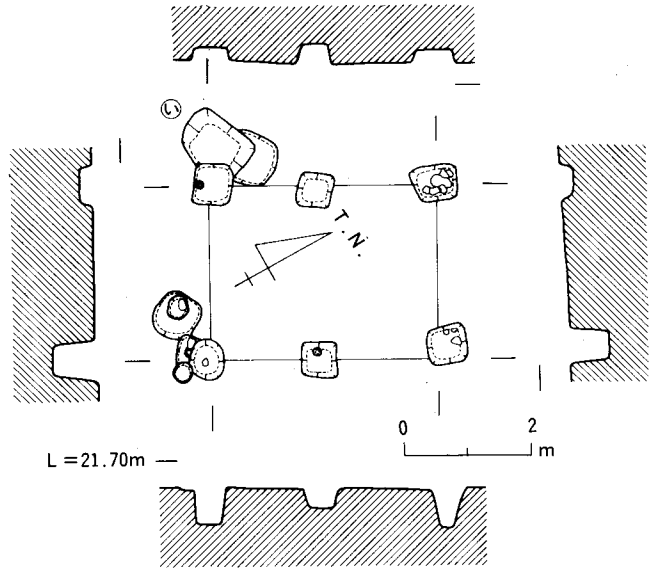
が、桁行の柱間長がいずれも約280cmとなり、S B85003より約60cm長い。柱穴からは、少量の弥生土器片が出土しただけである。

S B 85005

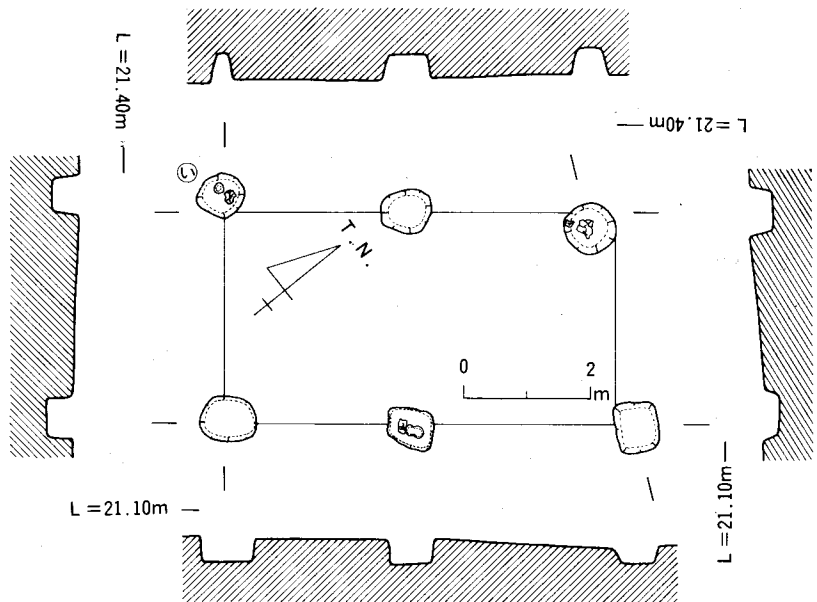
近接して検出した。S B85003・S B85004と比較すると柱穴の規模が60cm前後とやや小型化する。柱穴の埋土の色も、他の2棟が暗灰褐色を呈し、ほぼ同色に見えるのに対し、やや黒味がかっており、明確に区別できる。S D85031と切り合いはないが、埋土の色が似かよっているところからS B85000と同時期に機能した建物である可能性も残る。少量の弥生土器片が出土しただけである。

S B 85006

D-4区で検出

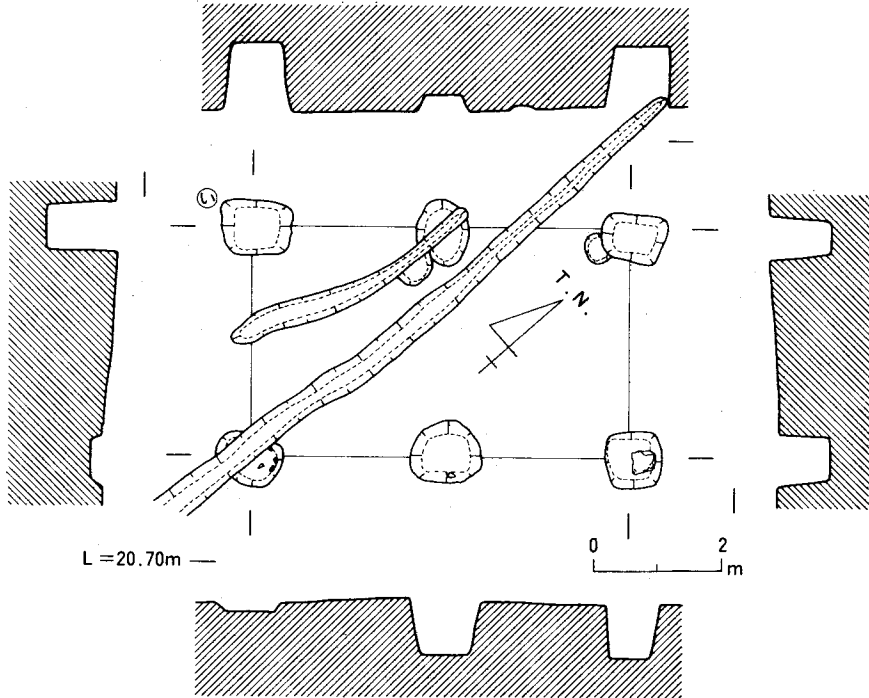


第20図 S B 85005 平・断面図



第21図 S B 85006 平・断面図

した。
柱穴の掘り方の形状は、方形のもの、方形状のもの、円形状のものと統一性がない。柱穴②の位置が、北東方



第22図 S B 85007 平・断面図

向に60cm程度ずれているために、桁行と梁間がその位置で直角に交わらない。遺物はほとんど出土していない。

S B 85007

D-5区で検出した。S B 85007以外の掘立柱建物は全て、S D 85036より西で検出されたものであったが、S B 85007だけがそれより東で検出された。柱穴②、③が中世の細溝によって切られているが、他の柱穴と比較して浅い。他の4つの柱穴は、①が検出面から118cmを計るなど極めて深いものになっている。遺物は少量の弥生土器片が出土しただけである。

S B 85015

B-5区で検出した。削平などを受けた可能性が高く、柱穴の掘り方の形状、大きさ、深さなどにほとんど統一性がない。1×1間の規模であることが他の建物遺構と異なる。弥生土器の破片が数点出土しただけである。

以上、記述した11棟の掘立柱建物以外に、遺構配置図に見られるように、S B 85006の北側に、3つの方形状のピットが並ぶ。いずれも掘り方は方形を呈しており、規模、埋土等より掘立柱建物遺構になる可能性の高いピットの並びである。調査区外に柱穴を持つために遺構の全容は明らかでないが、おそらく1×2間の規模になると思われる。

③溝状遺構

検出した溝状遺構は多い。これらは、その形状、立地などにより、2つに分けることができる。

①, S D 85101, S D 85102, S D 85124などのように等高線に直交する方向で高所から低地に向けて蛇行しながら主流をもつもの。

②, S D 85123, S D 85031, S D 85036などのように等高線に平行するか、全く無関係の位置で主流をもつもの、の2つである。①

は、ほぼ自然の流れと考えてよいが、土器などの出土状態より、人間活動と不可分の関係にあったと思われるので溝状遺構として扱った。②は、建物遺構、集落の立地などに合わせて人工的に掘削された溝状遺構である。

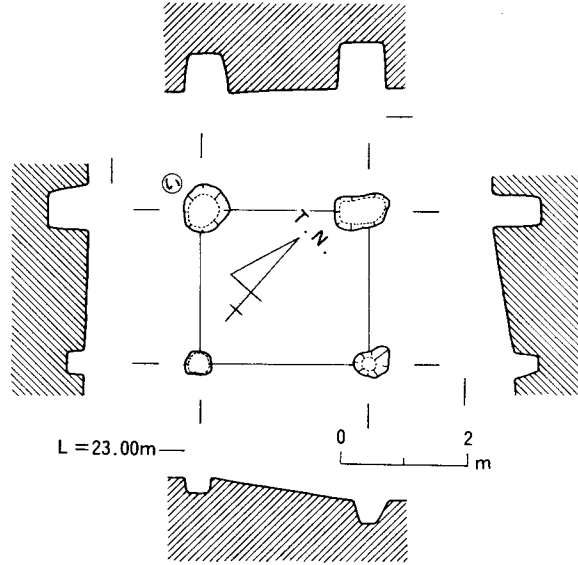
S D 85101

W-8 (N), X-8 (S), Y-

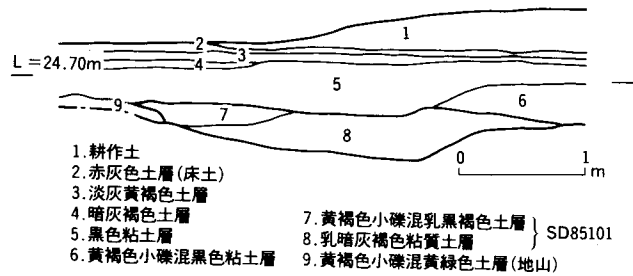
8・9区にかけて検出した。総延長は約50mにわたる。

W-8 (N) 区から北西方向に向かって流れを持ち、X-8 (S), Y-8区で大きく蛇行し、南北方向の流れとなる。Y-9区南辺で谷筋に合流する。S D 85101の断面の形状は場所により変化する。土層図に見られるように、X-8 (S) 区北壁では、幅約3m、深さ約30cmの幅の広い浅い流れである。Y-9区中央付近では、幅約1.5m、深さ約40cmとなり、ゆるやかなU字形状を呈する。

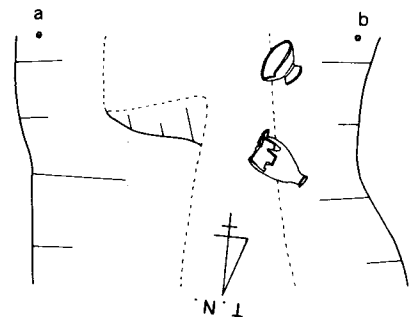
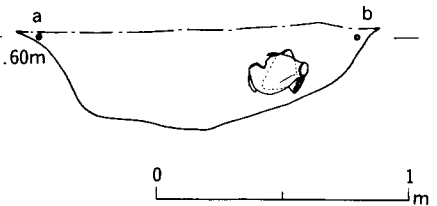
埋土は、暗灰褐色粘質土がベースとなり、それに小礫が混ったり、砂がかったり、濃淡がついて何層かに分層される。X-8 (S) 区北壁においては、上層が黄褐色小礫混暗灰褐色土層、下層が乳暗灰褐色土層の



第23図 S B 85015 平・断面図



第24図 X-8 (S) 北壁土層図



第25図 S D 85101 土器出土状態

2層となる。X-8 (S) 区東壁では4層に分層される。

出土した土器は多い。弥生時代中期の前半から後半にかけての各種土器が出土している。なかでも中期中葉以前のものが多。その他、X-8 (S) 区の比較的限定された範囲で、ミニチュア土器2点、分銅形土製品2点、鳥形土製品1点などが出土している。また図に見られるような状態で完形に近い土器も出土している。

S D85102

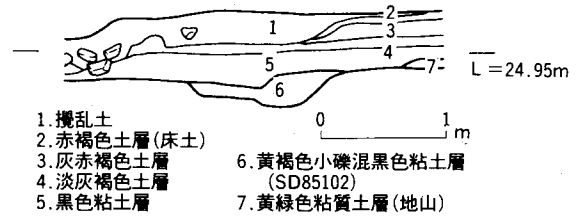
X-8・9区にかけて総延長約35mにわたって検出した。X-8 (S) 区の北辺では削平を受けたと考えられ、一部検出できなかった。同区でS D85101を切っている。X-8 (N) 区から蛇行しながらX-9区に至るがX-9区中央付近で中世の溝状遺構(S D85103)によって切られている。それより南は、ほぼまっすぐな流れとなり谷筋に合流したことが予測できる。

断面形は土層図に見られるように、X-8 (S) 区南壁付近では浅くゆるやかな形状を呈している。X-9区中央付近では幅約1m、深さが約70cmのV字形を呈する。

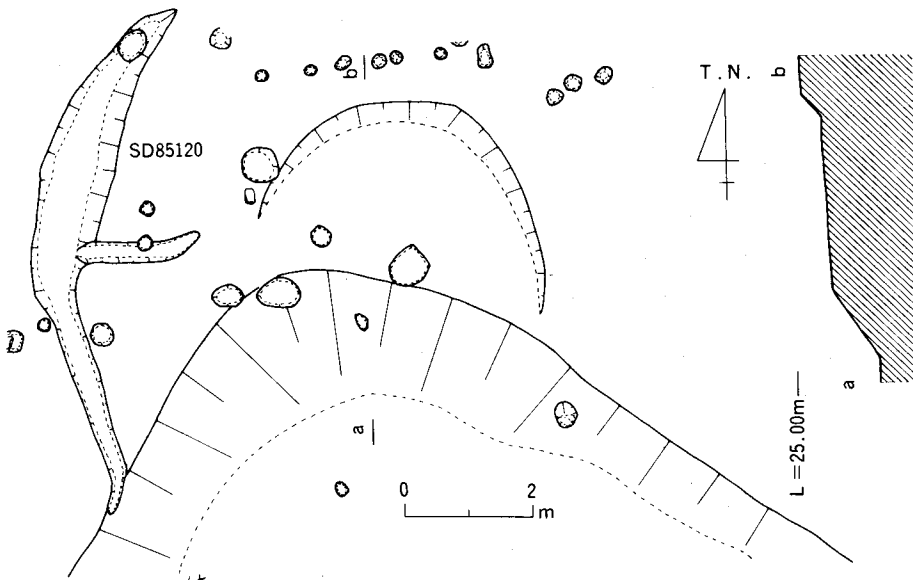
埋土は黒色粘土層のほぼ単一土層であるがS D85101と同様に小礫が混じるなどで分層される場所もある。弥生時代中期後半から後期前半の土器が多く出土した。

S D85120 (その周辺)

W-9区で検出した。幅約50cm、深さ約20cmで断面形はゆるやかなU字形を呈する。埋土は暗灰褐色粘質土の単一層である。弥生時代中期後半の様相を呈する土器が出土した。S D85120は、



第26図 X-8 (S) 南壁土層図



第27図 S D85120 周辺 平・断面図

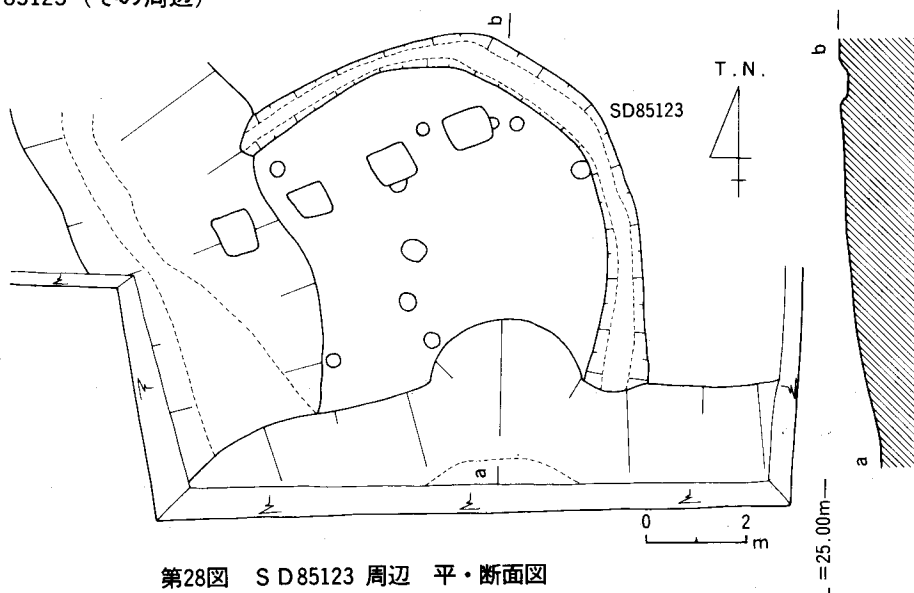
わずかに9mにわたって検出しただけであるが、直径約13mの規模の正円形の一部の様相を呈し、明らかに人為的に掘削されたものと思われる。その内側にS D85120と同心円状に直径約4mの円形状の地山の落ちこみが検出された。地山は北から南に向かって下がっていくために、円形状の落ちは北側で約30cmの掘り方を持ち、そこから平坦面が約3m続くが、南側は徐々に浅くなり掘り方は消滅する。この落ちの埋土はS D85120とほぼ同一である。

発掘の途中では、暗灰褐色粘質土の上面で精査をくり返したが、この落ちの南半の掘り方は検出できなかった。谷筋に向けて土層観察用のベルトを残し掘り下げを進めたが、断面土層でも、落ちの南側の掘り方は確認できなかった。落ちの内側では数個のピットが検出された。これらは、いずれも暗灰褐色粘土の上面から検出されたものであり、平坦面まで掘り下げて、その面で検出されたものではない。またこの落ちのすぐ北側では一直線上に並ぶ7個の円形ピットが検出された。ピットから遺物は検出されなかったが、埋土はS D85120などとほぼ同一である。またS D85120、円形の落ちと同様に谷筋部分の地山も円形状にえぐれている。谷筋部分は、どの場所も弥生時代中期の土器が多く出土したが、特にこの部分に土器が集中して出土した。

落ちとS D85120の位置関係がS D85000とS D85031の位置関係に酷似している。落ちが明らかに正円形を呈している。などから竪穴住居の可能性も考えられる。しかし、平坦面で柱穴、ピットが検出されなかった。すぐ北側で柵列状遺構と思われるピットの並びがある。谷筋との位置関係が悪い。谷筋部分の地山も円形状にえぐれている。などの竪穴住居を否定する根拠も上げられる。

S D85120とその周辺の遺構については、明らかに人為的なものであるという以外は、その性格について現段階では不明とせざるをえない。

S D85123 (その周辺)



第28図 S D85123 周辺 平・断面図

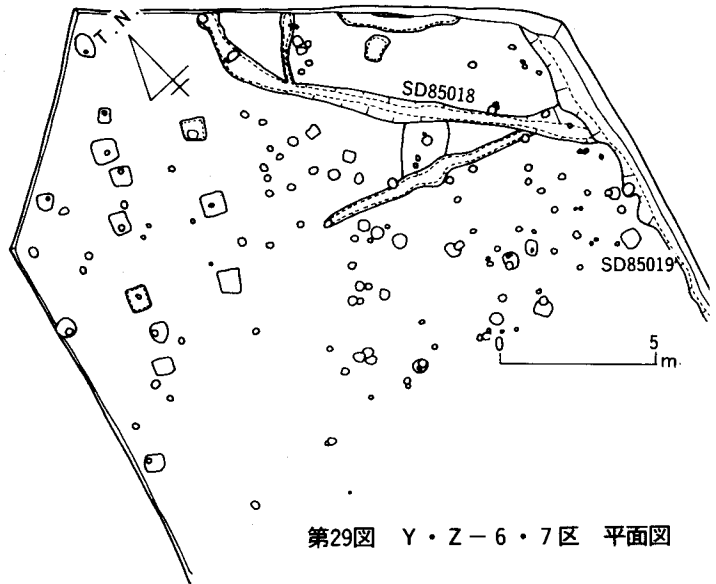
V-9区で、総延長約12mにわたって検出した。幅約80cm、深さ約30cmで断面形はU字形を呈する。暗灰褐色粘質土の単一層で、弥生時代中期後半の土器が出土した。そのうち復原してほぼ完形となる甕が2点出土している。S D85120と同様に、谷筋近くで直径約9mで正円形状に掘削された溝である。西端は自然河川S D85124に合流し、南端は谷筋に合流する。V-10区の南壁土層に溝状の掘り方が確認されないことより、S D85123は谷筋部分で消滅する溝状遺構である。

溝の内側には、S D85120周辺の落ちなどの遺構は検出されず、地山がゆるやかな傾斜で谷筋に向かって落ちていく。不規則に位置する円形状のピットが10個検出されただけである。

ここでもS D85123の内側で、谷筋部分の地山が円形状にえぐりこんでいる。S D85120周辺と同様の性格をもつ遺構であると言えるが、やはり現段階では、その性格は不明とせざるをえない。

S D85018

Z-6・7区で検出した。幅約70cm、深さ約30cm、断面形はU字形を呈する細溝である。総延長約13mにわたって検出した。埋土は黒色粘土層の単一層である。弥生時代後期前半の様相を呈する土器片が多く出土している。そのうち復原して完形となる壺も1点出土している。歴史時代の溝(S D85019)によって切られているために全容は明らかでなく、その性格も不明とせざるをえない。



第29図 Y・Z-6・7区 平面図

歴史時代の溝(S D85019)によって切られているために全容は明らかでなく、その性格も不明とせざるをえない。

S D85010～S D85016, S D85020, S D85023

A・B列の境界付近で、9条を越える溝状遺構を検出した。おおむね西から東に向けて流れを持つ溝状遺構である。西側は強く削平を受けたために、徐々に浅く細くなり遺構は消滅している。東側も地山の約40cmの段差があり、その部分で遺構は消滅している。したがって最も長い溝状遺構(S D85013)でも総延長は、15m程度しか検出できなかった。

幅は30～120cm、深さは15～30cmの間に収まる。断面形は、ゆるやかなV字形を呈するものが多い。埋土は暗灰褐色粘質土の単一層で弥生時代中期後半の土器が多く出土した。特に土器の出土が多かったのはS D85010とS D85013である。

これらの溝状遺構は検出した範囲で、等高線に直交するもの(S D85010～016, 023)と等高線に平行するもの(S D85020, 023)に分けられる。削平を受け全容が明らかでないために、自然か人工かについてはこれだけでは断定できない。

しかし、掘り方の断面形が一定している。これより西側で同規模の掘削された細溝が検出されていることなどから、何らかの目的で掘削された溝状遺構である可能性が強いと言える。

人工の溝であるとしたら、溝が彎曲している部分は注目される。S D 85012とS D 85013の西側の消滅している部分を結び、直径約10mのほぼ円形となる。S D 85031とS B 85000の関係からすれば、この場所にも竪穴住居があった可能性も考えられる。またS D 85020, 023の彎曲部分もその可能性が考えられる。

S D 85024, S D 85025

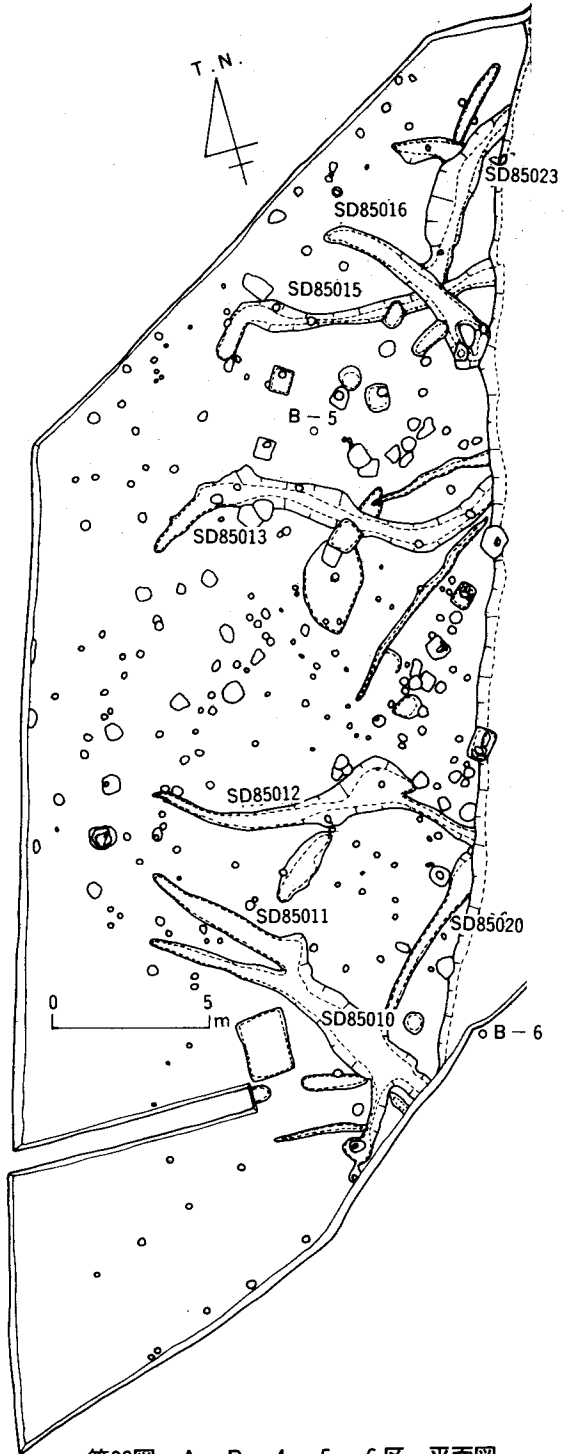
S D 85030～S D 85033

S D 85035, S D 85038

B・C・D-5・6区にかけて検出した比較的規模の小さい細溝である。幅は20～120cm、深さは15～70cmの間に収まる。

埋土は暗灰褐色粘質土の単一層で、各溝状遺構の切り合いは認められない。弥生時代中期後半の土器が出土した。A・B列境界付近の溝状遺構も含めてA～D列にかけては、弥生時代中期後半の時期には、多数の溝状遺構が縦横に走っていたこと

がうかがえる。多くの溝状遺構は、削平をうけ全容が明確でないためにその目的・機能などについて断言できない。



第30図 A・B-4・5・6区 平面図

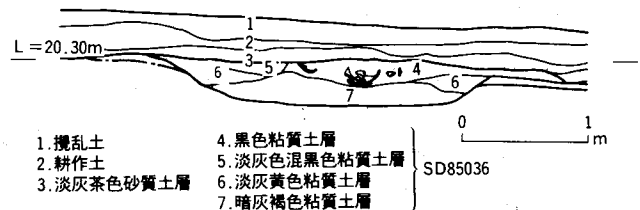
S D85031を中心として、それより西側で検出された溝状遺構に関しては、他の遺構との関係で、その機能について1つの仮説がたてられる。竪穴住居(S B85000)を中心として、竪穴住居を囲む溝(S D85031)→竪穴住居からの排水溝(S D85030)→つなぎの排水溝(S D85032, S D85035)→環濠(S D85036)→環濠からの排水溝(S D85037)となる。

S D85036が他の溝状遺構と比較して大きな規模を持つ。S D85037を最後としてS D85036より東で弥生時代の遺構は全く検出されない。などが根拠となる。

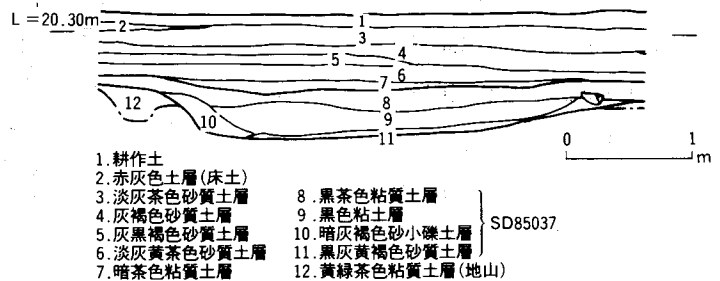
仮説通りであるとするれば、A列からO列にかけて検出された溝状遺構は、いずれも竪穴住居と深いかわりを持ち掘削されたものと言える。C列とD列の境界付近でS D85035が直径約9mの規模で円形状に検出された。検出面での最大幅は80cm、深さは約30cmを計る。断面形はU字形を呈する。その内側からは、ピットが数個確認されたが、竪穴住居と断定できなかつた。しかし、S D85035周辺は竪穴住居が削平された可能性が強い場所と思われる。

S D85036

D-4・5区で総延長約35mにわたって検出した。等高線にほぼ平行に、南北方向で主流を持つ。幅約3.8m、深さは削平をうけた可能性が高いが、最深部で50cmになる。A列からD列にかけて検出した他の溝と比べて規模が大きい。また他の溝が暗灰褐色粘質土の単一層であるのに対してS D85



第31図 D-4北壁土層図



第32図 D-4東壁土層図

036は上層の黒色粘質土と下層の暗灰褐色粘質土に分けることができる。上層からは弥生時代中期後半から後期前半の土器が多量に出土した。下層からの土器の出土は少なく、弥生時代中期後半の土器が出土した。

おおむねS D85036を境界としてそれより東で弥生時代の遺構・遺物が検出されない。S D85036は溝の規模などを考え合わせて弥生時代の集落を画する環濠であった可能性が高い。

S D85037

D-4区北辺でS D85036から分流し、E-4区で主流をもつ。総延長約20mにわたって検出した。E-4区北側で直径約5mの円形状のふくらみを持つ。さらに東へ流れをもちE-4区中央付近で消滅する。溝の幅・深さは場所により一定でないが、断面形はゆるやかなV字形を呈する所が多い。

埋土は土層図に見られるように、上層の黒色粘質土（8，9）と下層の暗灰褐色砂小礫土層に分かれる。暗灰褐色砂小礫土層は、上層の黒色粘質土の流れによって切られたために、E-4区においては、ほとんど検出されなかった。

S D85037が円形にふくらむ場所には、人頭大の数個の河原石が流れに直交する方向で一列に並んで検出された。そのすぐ西側で銅剣形土製品1点，ミニチュア土器2点，分銅形土製品1点が検出された。それら以外に弥生時代中期後半の土器が多く出土している。環濠から集落の外へ向けて、排水溝的な機能をもった遺構であると考えられる。

④土坑

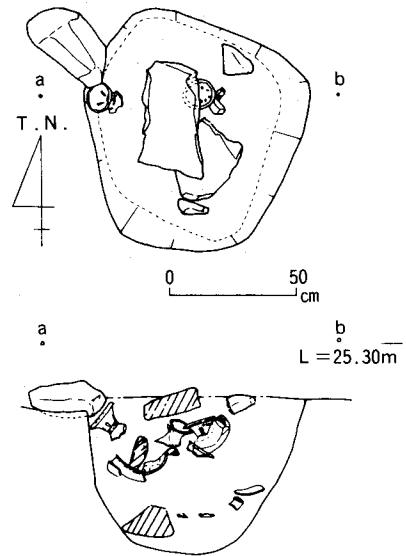
S K 85104

X-8（S）区の掘立柱建物（S B85103）の内側で検出した。84×98cmのやや不整形な方形形状を呈している。深さは63cmを計り掘り方は播鉢状をなす。埋土は暗灰褐色粘質土の単一層である。

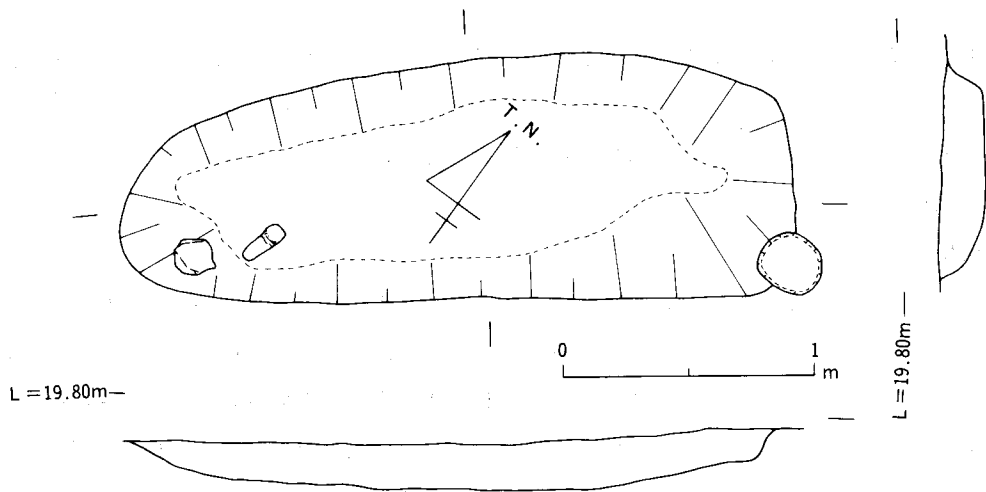
高杯の脚部の他、弥生時代中期中葉の土器が出土した。それ以外に砂岩、安山岩の大きい礫も合わせて検出された。S B85103の柱穴との位置関係より、それにもなう土坑であると考えられる。

S K 85002

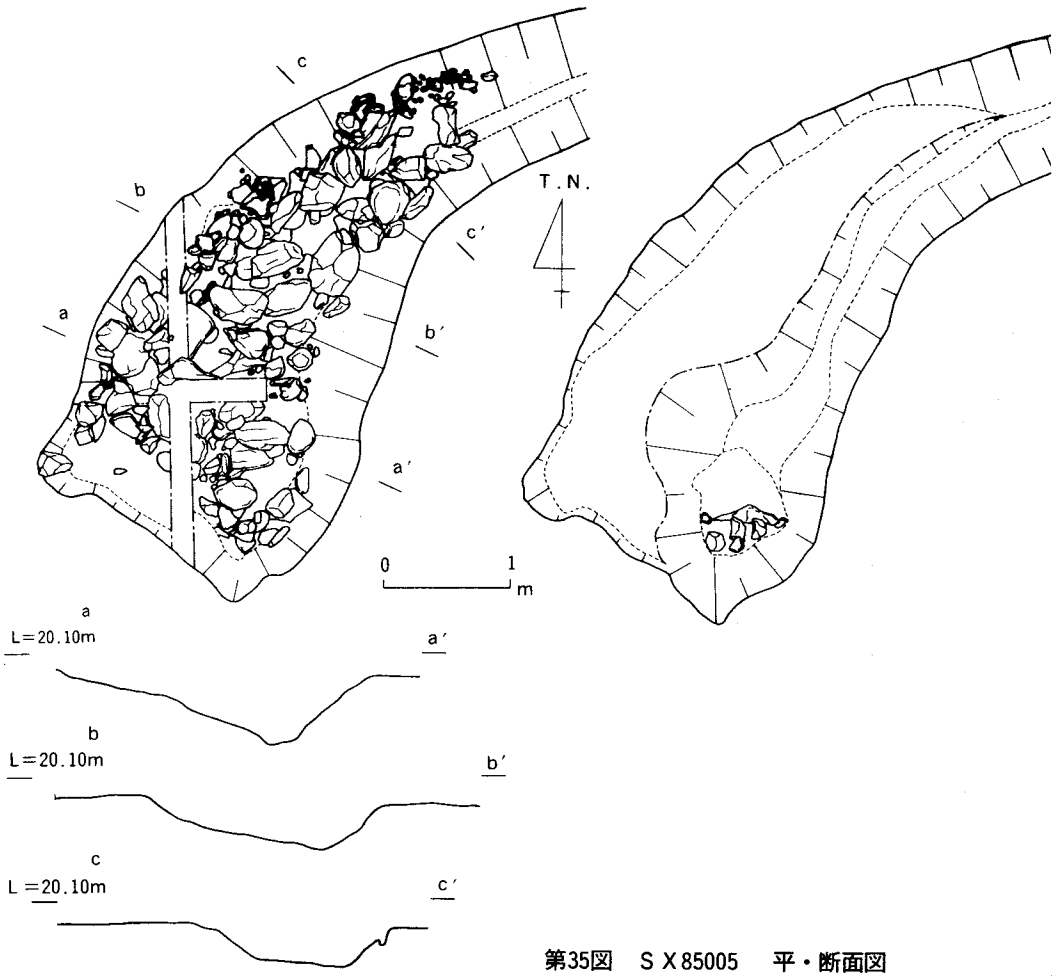
E-4区で検出した。265×95cmの楕円形状を呈する



第33図 S K 85104 平・断面図



第34図 S K 85002 平・断面図



第35図 S X 85005 平・断面図

土坑である。上面が削平されている可能性が強く、検出面からの深さは18cm程度である。埋土は暗灰褐色粘質土の単一層である。土坑の東隅で人頭大の大きさの砂岩が2個、地山に密着した状態で検出された。遺物はそれ以上に土器片が数点出土しただけである。

⑤その他の遺構

S X 85005

E-4区で検出した。安山岩質系の巨礫が多く検出された土坑状の遺構である。遺構の南端の掘り方から約4mにわたって巨礫が確認される。それより東側は、幅約1m、深さ約40cmで断面形がゆるやかなV字形を呈する溝状の遺構となる。E-4区中央付近でS D85037に合流する。

検出面の上面では礫が数個確認されていただけであるが、埋土の黒色粘質土を掘り下げていくと、礫の広がりが増していった。幅約2m、長さ4mの範囲で礫は確認されたが、置いた様相を呈していた。

礫をはずすと掘り方は二段掘りとなり、その西側は、狭いテラス状の平坦面が認められる。東

側は溝状の遺構の様相を呈し、礫が上面から認められなかった部分の溝状の遺構へと連続している。掘り方の南東隅では、60×70cmの大きさの方形状の凹みが認められた。凹みは溝状の部分の底から、さらに約40cmの深さを持ち、垂直あるいは、内側にえぐりこむように掘削されていた。その底からは数個の礫が地山に密着した状態で検出された。

他に類例を見ないために、遺構の性格については言及できない。しかし、掘り方の状況から明らかに人為的に掘削された遺構であるということは言える。

出土した遺物は多く、弥生時代中期後半の壺・甕・鉢・高杯などが礫と掘り方の間に集中して検出された。礫の間からはほとんど土器は出土しなかった。また遺構を性格づける遺物も出土しなかった。

(2)奈良・平安時代の遺構

①掘立柱建物遺構

この時期の掘立柱建物遺構は15棟検出した。調査区外に柱穴をもち全容は明らかでないが、掘立柱建物遺構になる可能性を持つものを含めると16棟となる。

これらの掘立柱建物遺構の柱穴の掘り方は隅丸方形あるいは、隅丸方形に近い形状を呈している。弥生時代中期後半の掘立柱建物と比較すると、柱穴の形状、規模には、ほとんど違いは認められない。また、柱穴から出土する遺物も弥生時代中期後半の土器だけに限定され、共通している。

2時期を区分する根拠は、埋土の違いである。弥生時代中期後半のものは、暗灰褐色粘質土から掘削されているために、埋土中に黒色粘質土を含まない。奈良・平安時代のものは、黒色粘質土から掘削されているために埋土中に黒色粘質土を含む。

15棟の掘立柱建物遺構の明確な時期については言及できない。柱穴からは時期決定ができるような良好な残りの遺物は出土せず、検出される遺物が弥生土器片だけに限られるからである。掘り込み面となる黒色粘質土層には古墳時代の須恵器が含まれる。従ってこれらの掘立柱建物遺構の時期は古墳時代以降と言える。通常、律令制時代の掘立柱建物遺構については、柱穴が方形の掘り方を持つものを官衙的な機能をもつ建物として理解してきた。W地区で、掘立柱建物が検出された近辺の包含層より緑釉陶器1点、石帯1点が検出されている。これらの遺物は、平安時代前半頃の時期が与えられている。以上より、15棟の掘立柱建物遺構については、おおまかな時期区分ではあるが奈良時代から平安時代前半頃の時期が与えられる。

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SB85102	1 × 4 間 262 × 700	①176	②188	③180	㊶54 × 56 (-52.9)	㊷50 × 52 (-33.4)	㊸76 × 86 (-59)	N35.5°E
		④154	⑤262	⑥164	㊹58 × 62 (-67.2)	㊺68 (-39.6)	㊻68 (-63)	
		⑦178	⑧192	⑨164	㊼50 × 54 (-45.1)	㊽66 (-60.9)	㊾62 × 65 (-65)	
		⑩264			㊿62 (-47.1)			
SB85105	1 × 2 間	①308	②296	③282	㊿84 × 104 (-78.5)	㊿72 × 82 (-67.2)	㊿62 (-49.9)	N65.0°E
	282 × 604	④284	⑤320	⑥282	㊿80 × 80 (-6.8)	㊿72 × 86 (-22.5)	㊿94 × 100 (-59)	
SB85106	1 × 2 間	①(222)	②220	③302	㊿66 × 72 (-36.7)	㊿60 (-30)	㊿56 × 88 (-61.9)	N59.0°W
	302 × 444	④222	⑤220	⑥(302)	㊿66 × 78 (-44.9)	㊿56 × 58 (-30.3)		
SB85107	1 × 2 間	①232	②256	③214	㊿54 × 80 (-49.6)	㊿60 × 70 (-40.1)	㊿56 × 96 (-51.6)	N65.0°E
	214 × 488	④244	⑤244	⑥214	㊿58 × 60 (-50.1)	㊿56 × 76 (-60.8)	㊿64 × 72 (-42.5)	
SB85108	1 × 2 間	①292	②320	③324	㊿70 × 72 (-39.2)	㊿78 × 88 (-49.2)	㊿88 (-9.2)	N46.0°E
	324 × 612	④288	⑤326	⑥324	㊿88 × 90 (-30.2)	㊿100 × 106 (-34)	㊿82 × 98 (-28.2)	
SB85109	1 × 2 間	①210	②264	③236	㊿64 (-45)	㊿60 × 96 (-53)	㊿56 × 64 (-61.3)	N80.0°E
	236 × 474	④248	⑤226	⑥236	㊿60 × 64 (-36.2)	㊿56 × 58 (-44.1)	㊿70 (-48.9)	

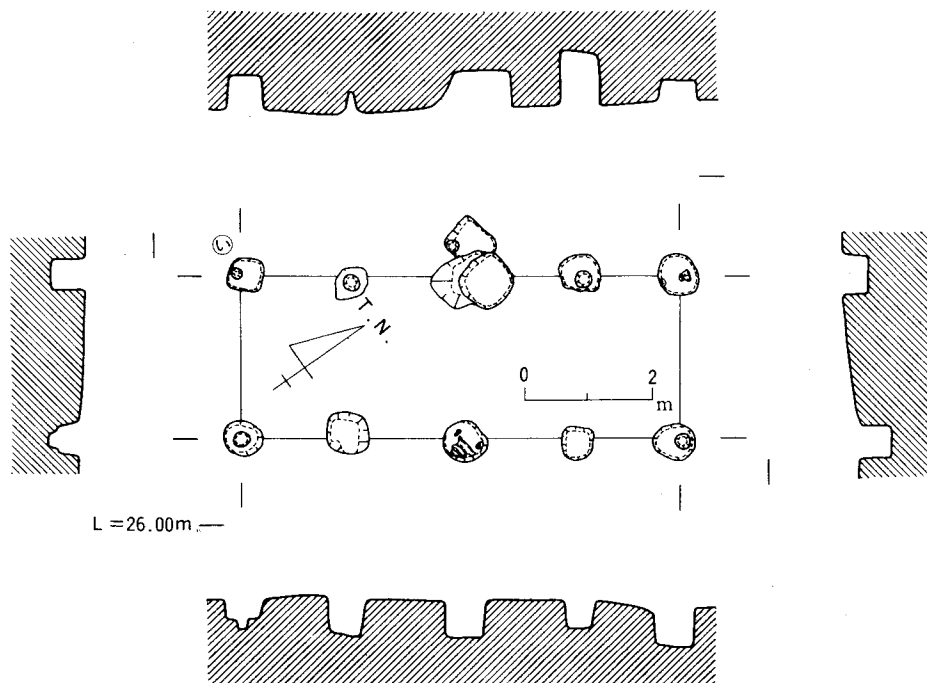
第 5 表 建物遺構一覧表(3)

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SB85110	1 × 2 間	①250	②222	③306	①80 (-59.6)	②62 × 72 (-51.2)	③70 (-47.2)	N75.0°E
	306 × 472	④234	⑤236	⑥308	④56 × 70 (-41.4)	⑤62 × 74 (-39.1)	⑥72 × 82 (-10.4)	
SB85111	3 × 2 間 504 × 676	①164	②176	③164	①84 × 92 (-11)	②84 × 88 (-27.8)	③72 × 80 (-28.5)	N28.0°W
		④348	⑤352	⑥164	④84 × 84 (-47.3)	⑤84 × 100 (-75.2)	⑥84 × 88 (-48.5)	
		⑦176	⑧164	⑨352	⑦84 × 88 (-43)	⑧72 × 72 (-45.1)	⑨80 × 88 (-39.9)	
		⑩348	⑪164	⑫176	⑩88 × 92 (-56)	⑪72 × 76 (-55.1)	⑫88 × 88 (-69.2)	
		⑬164	⑭348	⑮348				
		⑯352	⑰352					
SB85112	1 × 2 間	①200	②200	③252	①64 × 80 (-69.5)	②60 × 68 (-62.9)	③60 × 72 (-54.6)	N62.0°E
	252 × 430	④196	⑤204	⑥252	④56 × 64 (-37.2)	⑤60 × 60 (-29.2)	⑥76 × 80 (-37.9)	
SB85008	梁間	①276	②412	③256	①64 (-12)	②68 (-21)	③56 × 64 (-18)	N41.0°W
	1 間 412 桁行 不明				④56 × 64 (-41)			

第 6 表 建物遺構一覽表(4)

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SB85009	1 × 2 間	①228	②248	③300	㊦68 × 72 (-35)	㊧56 × 68 (-39)	㊨76 × 84 (-44)	N37.0°E
	300 × 476	④248	⑤228	⑥300	㊩72 × 76 (-29)	㊪72 × 72 (-41)	㊫72 × 76 (-34)	
SB85010	1 × 2 間	④208	⑤194	⑥250	㊬56 × 56 (-25)	㊭84 (-19)	㊮36 × 48 (-25)	N30.0°E
	250 × (402)				㊯60 × 64 (-22)			
SB85011	1 × 2 間	①280	②224	③180	㊰56 × 60 (-45.6)	㊱(60) × (76) (-58.5)	㊲72 × 92 (-20)	N85.0°W
	280 × 408	④280	⑤180	⑥228	㊳76 × 92 (-46.9)	㊴68 × (72) (-46.9)	㊵56 × 60 (-28)	
SB85013	1 × 3 間	①(260)	②180	③172	㊶(60) (-13.7)	㊷56 (-21)	㊸64 (-28.3)	N20.0°E
	(260) × 522	④168			㊹84 (-33.3)	㊺44 (-25.9)		
SB85014	1 × 2 間	①250	②230	③338	㊻64 × 80 (-45.5)	㊼56 × 66 (-45.7)	㊽68 × 82 (-46.6)	N28.0°E
	338 × 480	④230	⑤250	⑥338	㊾74 × 88 (-58.9)	㊿60 × 60 (-10.7)	㊀82 × 96 (-48.3)	

第7表 建物遺構一覧表(5)



第36図 S B 85102 平・断面図

S B 85102

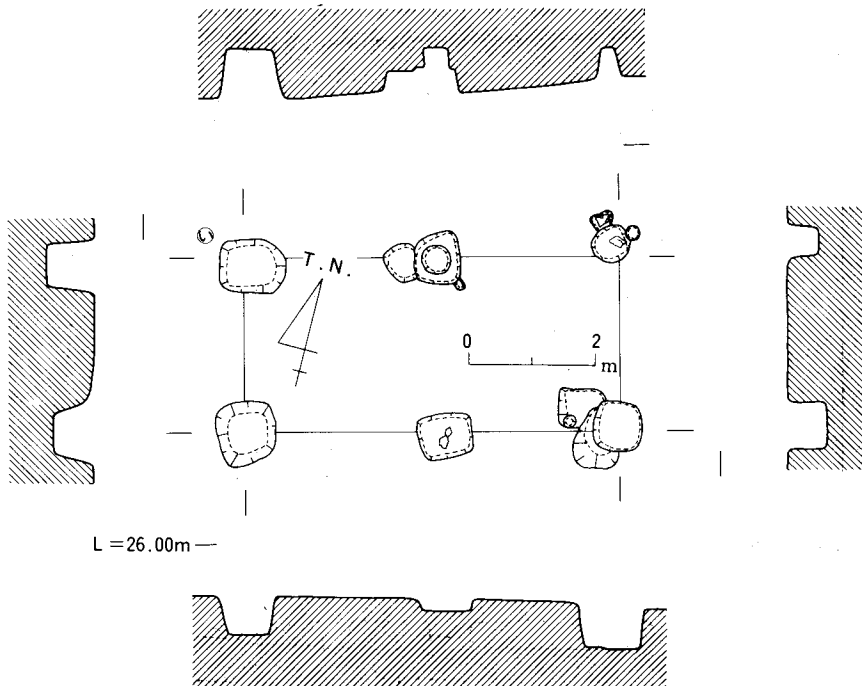
X-8 (S)・9区で検出した。柱穴の掘り方の形状は、方形のもの、方形状のもの、円形状のものがある。この時期の建物遺構は1×2間のものが多いが、S B 85102は桁行が4間の規模(700 cm)をもち、大きい建物遺構である。柱穴㉑が、S B 85105の柱穴㉒によって切られている。埋土は黒灰色土でその中に同色系でやや黒みが強い柱痕があるために柱痕の検出は困難で、全ての柱穴で柱痕は確認できなかった。これは他の建物遺構でも同様である。検出された柱痕はいずれも円形で大きさは16~26cmを計る。埋土から礫が検出されたのは㉒、㉓、㉔である。㉓、㉔の礫は床面に密着していた。

S B 85105

X・W-8 (S)区で検出した。柱穴は、隅丸方形状をなす。㉕、㉖は規模が大きく、長辺は104・100cmを計る。㉗は二段掘りになっており下段の掘り方は直径約46cmの円形を呈している。また㉗はS B 85106の柱穴㉘を切っている。柱痕は㉗以外は平面で確認できず、㉕、㉖の断面土層で確認された。いずれも直径約20cmの円形状を呈するものと考えられる。

S B 85106

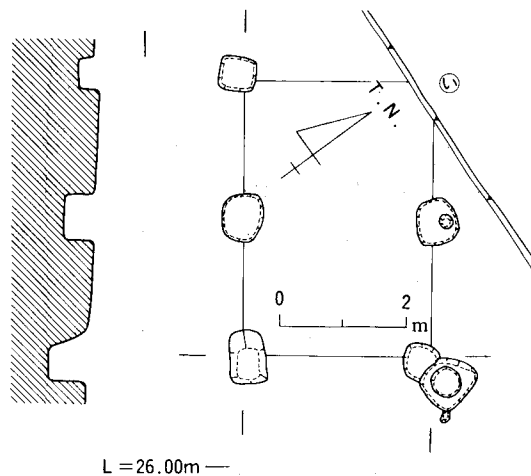
W-9 (S)区で検出した。柱穴㉙が調査区外に位置するため、調査できなかった。調査区内の柱穴の位置で建物の規模は1×2間になると言える。柱穴はいずれも隅丸方形状を呈する。柱穴㉚だけで柱痕が確認された。



第37図 S B 85105 平・断面図

S B 85107

W-9区で検出した。他の建物遺構と比較して梁間の長さが214cmと短いために、建物遺構全体は細長い形状となる。柱穴の掘り方は隅丸方形を呈している。柱穴⑬は掘り方の形状より2つの柱穴を合わせて掘ったものである。埋土は黒灰色粘質土で平面で切り合いは認められなかった。⑭、⑮は一直線上に並ばないが、他の柱穴より1×2間の規模の建物遺構である可能性が強い。

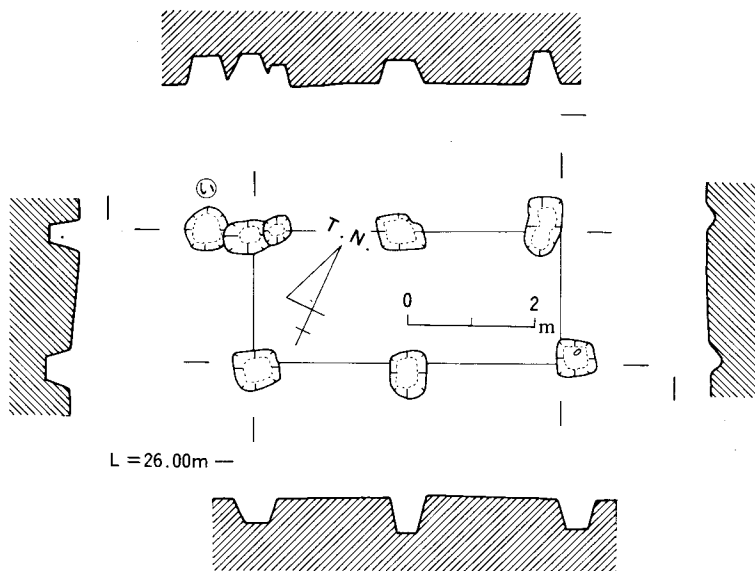


L = 26.00m

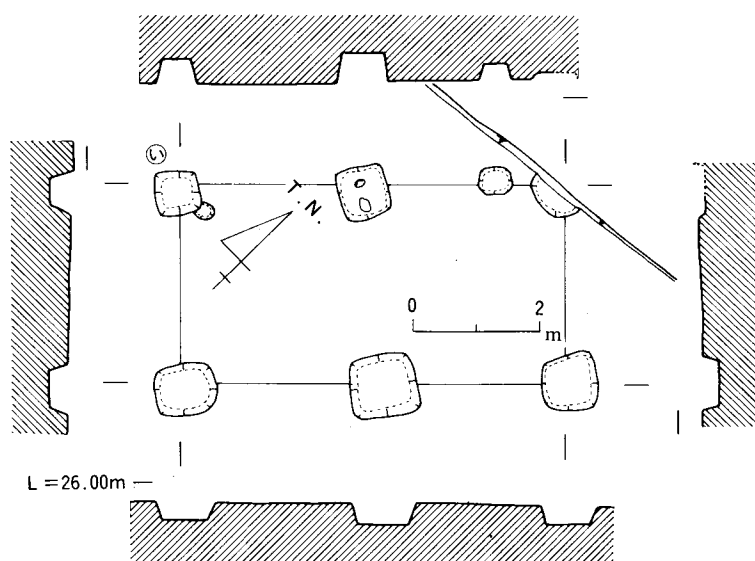
S B 85108

W-8 (S) 区のS B 85107のすぐ北側で検出した。柱穴⑯はその半分が調査区外となるために全部は検出できなかった。柱穴の掘り方はいずれも隅丸方形をなす。他の建物遺構と比較して、検出面からの深さが浅くなっていることより、柱穴の上面部分は、かなり削平されたものと推察される。柱痕は⑰、⑱、㉑において確認された。いずれも円形を呈するもので、大きさはそれぞれ直径、16cm、42cm、24cmを計る。

第38図 S B 85106 平・断面図



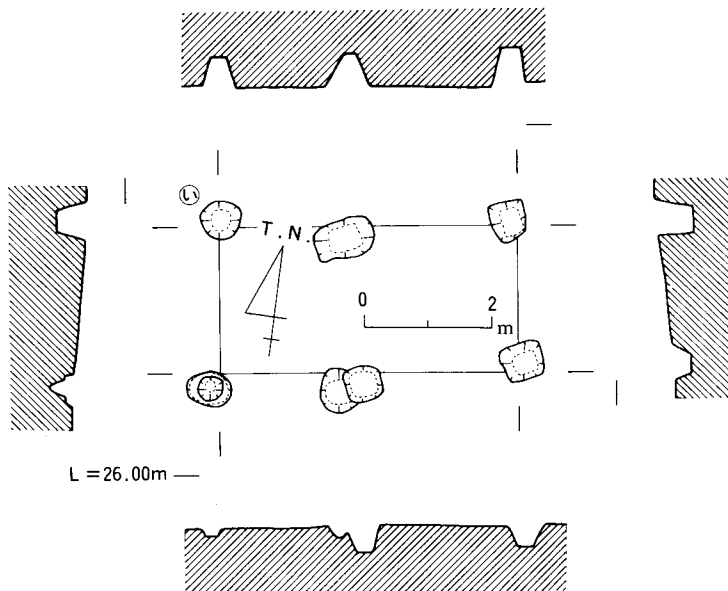
第39図 S B 85107 平・断面図



第40図 S B 85108 平・断面図

S B 85109

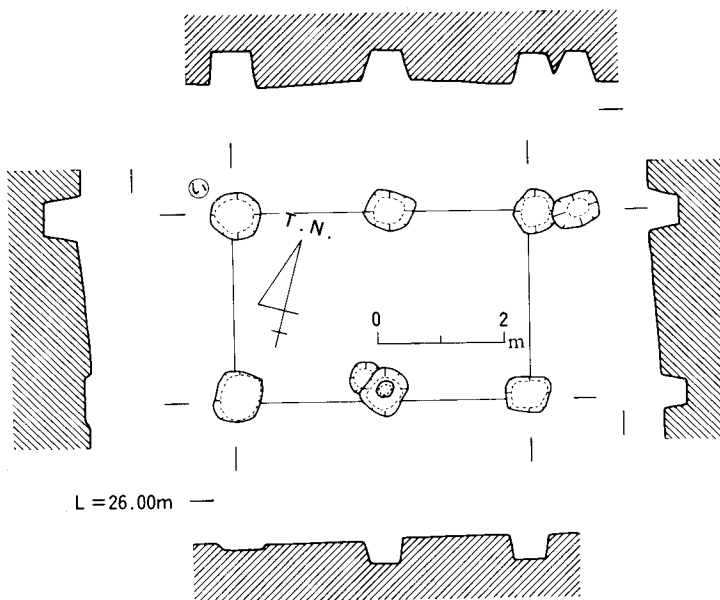
W・V-9区で検出した。柱穴の形状は、隅丸形状のもの、円形状のものなどがあり一定でない。柱穴は柱痕を結ぶと梁間、桁行ともに一直線上に並ばない、しかし、㊸、㊹、㊺、㊻で柱痕が確認されていることより建物遺構の可能性は強いと言える。柱痕の規模は直径で、いずれも約20cmを計る。



第41図 SB85109 平・断面図

SB85110

SB85109のすぐ北側で検出された。南側の約 $\frac{1}{3}$ がSB85109と重なり合う。柱穴の掘り方は隅丸形状をなしている。柱穴は等間隔で一直線上に位置する。柱穴㊸以外からは、柱痕は確認できなかった。

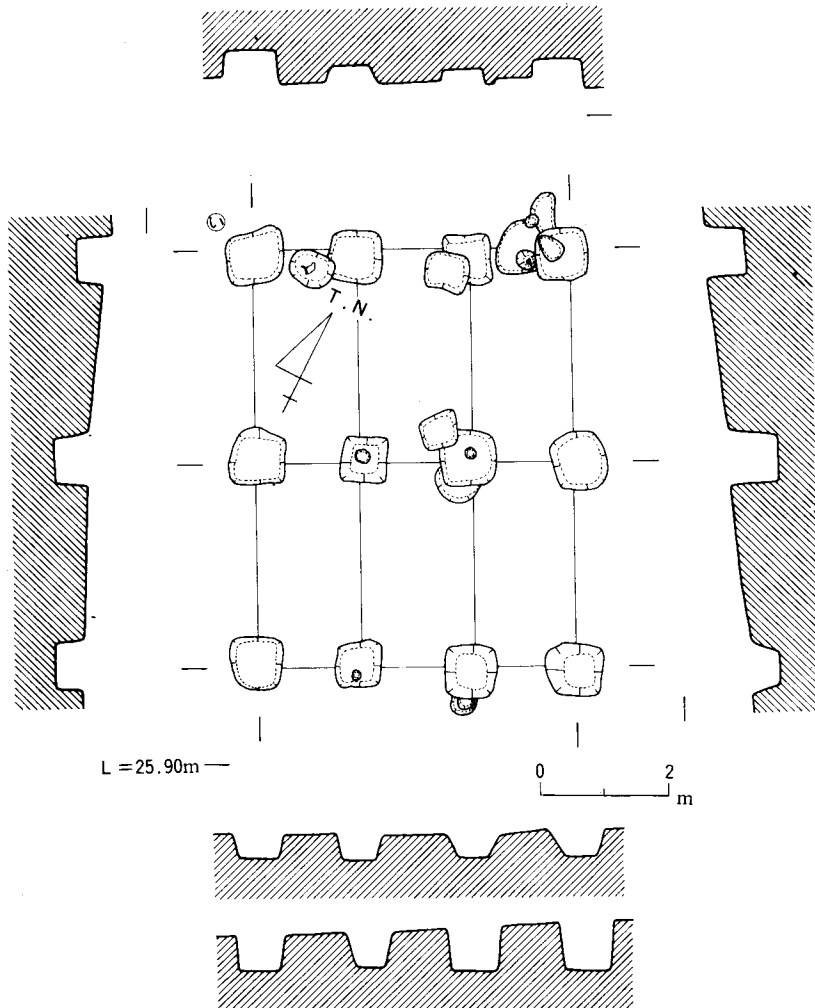


第42図 SB85110 平・断面図

SB85111

V-9区南半で検出した。3×2間(504cm×676cm)の規模を持つ総柱状の建物である。調査区内で検出した15棟の掘立柱建物で総柱状をなすものは、SB85111、1棟だけである。柱穴の掘り方は、いずれも隅丸方形を呈している。梁間(3間)の1間幅は164, 176cmと比較的短い。桁行(2間)の1間幅は、348, 352cmで長い。

柱穴㊸, ㊹, ㊺でSB85112の柱穴に切られている。柱痕は㊻, ㊼, ㊽, ㊾だけで確認された。



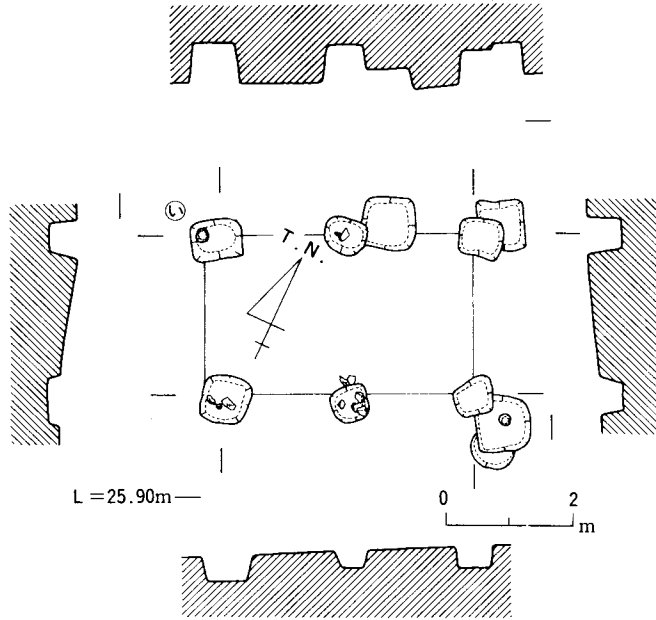
第43図 S B 85111 平・断面図

㉑, ㉒, ㉓のものは円形で直径20~28cmを計る。㉔の柱痕は、長円形状を呈し長径は約50cmを計る。

S B 85111の一覧表の記号は、やはり北西隅の柱穴㉑を基準とする。時計廻りに順次記号をつけ、㉒からは東へ向かって順番に㉓, ㉔となる。柱間長も同様に⑩まで記号がつく。㉒-㉓を⑪とし東へ⑫, ⑬となる。㉓-㉔を⑭とし時計廻りに⑮~⑰までとなる。

S B 85112

V-9区で検出した。柱穴の掘り方は、いずれも隅丸形状をなす。建物の大半がS B 85111と重なり合う位置にあり、柱穴㉒~㉔でS B 85111を切っている。柱痕が確認されたのは柱穴㉑だけである。直径約20cmで円形を呈している。柱穴㉒, ㉓, ㉔で礫が検出された。㉒, ㉔では掘り方の底に密着する位置で検出された。

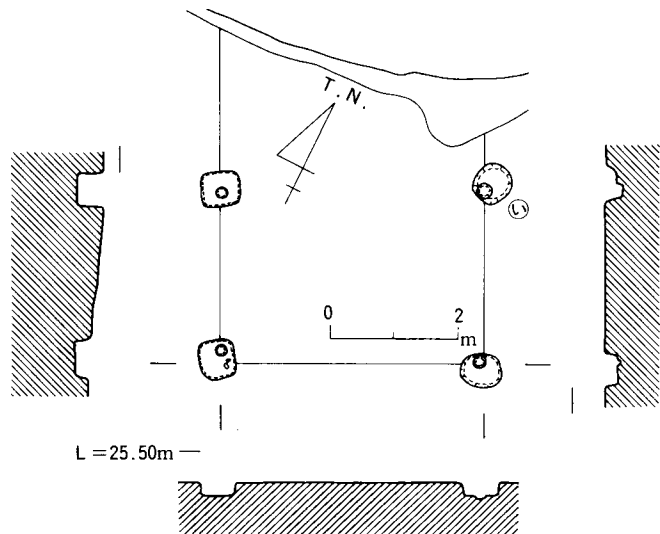


第44図 SB85112 平・断面図

S B 85008

Y-6区で検出した。調査区外にも柱穴を持つために建物遺構の全容は明らかではない。柱穴の掘り方は隅丸方形を呈している。Y・Z-6区では3棟の掘立柱建物遺構を検出したが、検出面からの深さは他の遺構と比較して極端に浅い。したがってこの場所はかなり削平されていると言える。

検出した全ての柱穴では柱痕が確認される。いずれも円形で直径約20cmである。東側の柱痕を結ぶ長さは約280cm、西側は252cmとなり、柱間長は一定でない。埋土は黒灰色系の土に黄色系の土が混じる。柱痕は黒灰色土である。柱穴①、③、④では柱痕があった位置で地山の円形の凹みが認められる。



第45図 SB85008 平・断面図

S B 85009

Y・Z-6区で検出した。

柱穴の掘り方の形状は隅丸方形を呈する。㊶, ㊷, ㊸, ㊹で柱痕が確認された。直径はそれぞれ12, 20, 15, 18cmを計る。また㊸では掘り方の底に密着して礫が検出された。柱間長は㊶228cm㊷248cmとなり一定していない。柱穴の埋土についてはS B 85008と同様である。

S B 85010

Y・Z-6区で検出された。調査区外に柱穴をもつために建物遺構の全容は明らかでない。柱穴の掘り方は隅丸方形を呈するものと楕円形状のものがある。検出された全ての柱穴で柱痕は確認されている。柱間長は㊺208cm, ㊻194cm, ㊼250cmとなり一定していない。柱穴の埋土はS B 85008と同様である。

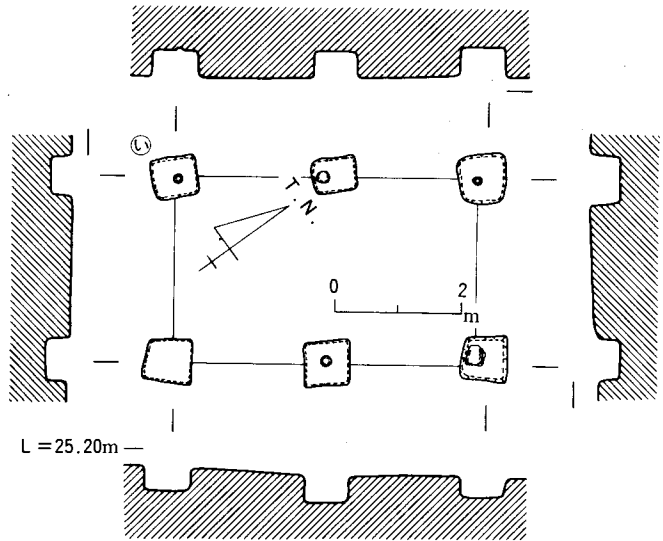
W地区で検出した掘立柱建物遺構は、柱痕が確認できたものが少なかったが、S B 85008～010については、ほとんどの柱穴

で柱痕が確認された。埋土、柱穴の掘り方には、ほぼ統一性がみられるが、柱間長（心々間距離）についてはほとんど一定でなく建物間の統一性はみられない。同じ建物についても1間の幅が一定していない。

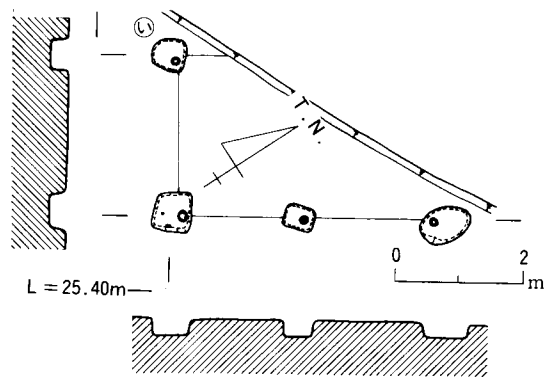
S B 85011

Z・A-6区で検出した。柱穴の掘り方は隅丸形状を呈する。柱穴㊽, ㊾が中世の溝（S D 85001）によって、㊾が中世の細溝によって切られている。柱穴㊿では掘り方の底に密着した礫を検出した。その下側では地山の浅い凹みが確認された。柱穴の埋土は黒灰色に白黄色が混じる土である。

S B 85111の北側に隣接して、方形の掘り方を持つピットが2個検出されている。掘り方の底



第46図 S B 85009 平・断面図

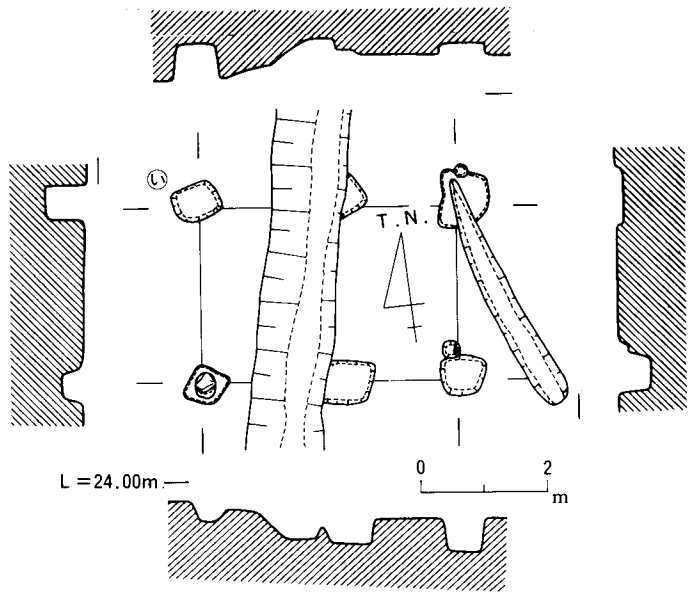


第47図 S B 85010 平・断面図

に密着していずれからも礫が確認された。どちらも柱穴であったと思われる。調査区外の北側に向かって遺構がのびているために断定できないが掘立柱建物遺構であった可能性は高い。

S B 85013

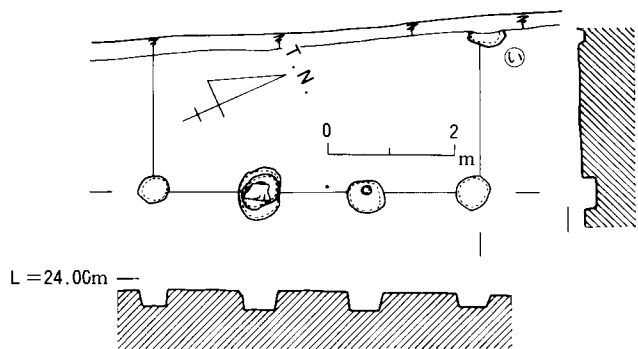
A - 6 区で検出した。調査区直近の西側で現在の用水路があるために、東側半分の調査しかなかった。建物遺構の全容は明らかではないが、1 × 3 間の規模をもつと思われる。柱穴の掘り方の形状は円形状をなしている。柱穴③は直径約16cmの柱痕が確認された。柱穴④は掘り方が二段掘りを呈し、礫が検出された。



第48図 S B 85011 平・断面図

S B 85014

A・B - 5・6 区で検出した。柱穴の掘り方は隅丸方形を呈する。柱穴③、④で直径約22cmの柱痕を確認した。また③からは礫が検出された。⑤は検出面から



第49図 S B 85013 平・断面図

の深さが10.7cmを計り、他の柱穴と比べると極端に浅い。柱穴の埋土は黒灰色に白黄色が混じる土である。

②溝状遺構

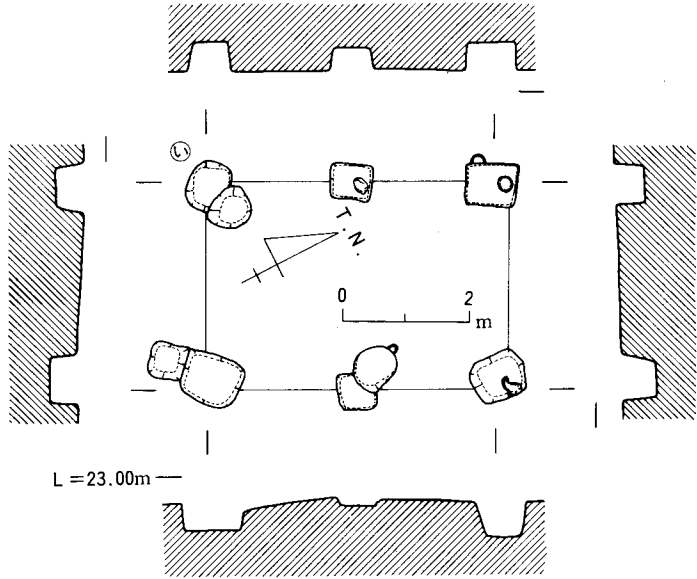
S D 85105

X - 9, Y - 8・9 区で検出した。ほぼ東西方向で主流をもち X - 9 区東辺で中世の溝 (S D 85103) によって切られている。総延長約20mにわたって検出した。幅100~160cm, 検出面からの深さは20~35cmを計る。断面形は、ゆるやかなV字形を呈している。

埋土は3層に分かれ、上層より暗灰色粘質土層, 黒褐色土層, 黒褐色砂質土層 (下層部は小礫を多く含む) となる。土器の出土は少ない。奈良時代から平安時代前半にかけての土師器の椀・

杯・須恵器の杯の底部の破片が出土している。

S D85105はすぐ東側を市道が通っているためにY-8区の東壁で調査は終わっている。市道(幅約15m)をはさんで東側(Z・A-8区)でも溝状遺構(S D85008)が検出されている。埋土, 出土土器, 溝の方向性などから, S D85008はS D85105の延長となる溝状遺構の可能性が強い。



第50図 S B 85014 平・断面図

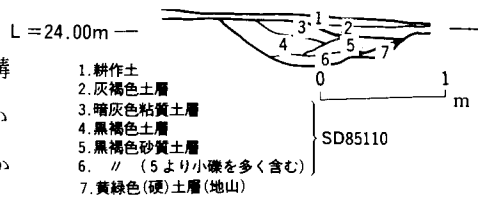
S D85008

Z・A-8区で検出した。東西方向で主流を持つ溝であるが, 中世の溝(S D85004)によって切られているために全容は明らかでない。総延長も10m程度しか検出できなかった。

土層図から判断して推定幅160cm, 深さは約65cmを計る。断面形はV字形を呈する。埋土は, ほぼ水平に堆積し3層に分層される。上層より黒灰褐色砂質土層, 黒褐色粒混黒褐色砂質土層, 黒褐色砂質土層となる。

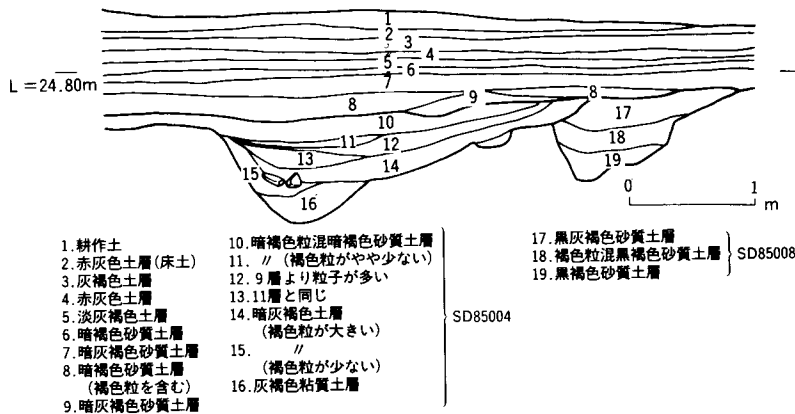
出土した土器は, 土師器の甕・椀・杯, 須

恵器の杯の底部・鉢, 黒色土器椀の口縁部などで量も多かった。これらの遺物は, おおむね平安時代前半の時期が与えられる。



- 1. 耕作土
- 2. 灰褐色土層
- 3. 暗灰色粘質土層
- 4. 黒褐色土層
- 5. 黒褐色砂質土層
- 6. // (5より小礫を多く含む)
- 7. 黄緑色(硬)土層(地山)

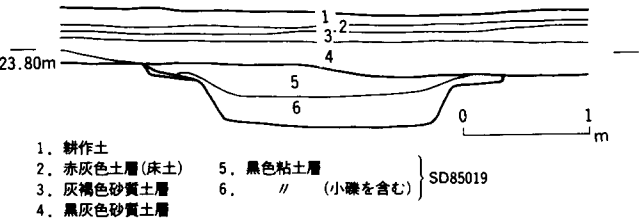
第51図 Y-8 東壁土層図



- 1. 耕作土
- 2. 赤灰色土層(床土)
- 3. 灰褐色土層
- 4. 赤灰色土層
- 5. 淡灰褐色土層
- 6. 暗褐色砂質土層
- 7. 暗灰褐色砂質土層
- 8. 暗褐色砂質土層(褐色粒を含む)
- 9. 暗灰褐色砂質土層
- 10. 暗褐色粒混暗褐色砂質土層
- 11. // (褐色粒がやや少ない)
- 12. 9層より粒子が多い
- 13. 11層と同じ
- 14. 暗灰褐色土層(褐色粒が大きい)
- 15. // (褐色粒が少ない)
- 16. 灰褐色粘質土層
- 17. 黒灰褐色砂質土層
- 18. 褐色粒混黒褐色砂質土層
- 19. 黒褐色砂質土層

第52図 Z-8 西壁土層図

S D85008はZ・Aの中央付近で
S D85004によって完全に切られて
いるために、それより東側での溝の
規模、流れる方向などは不明とせざる
をえないが、ある程度の推察はつ
く。S D85004と同一方向で主流を



第53図 Z-6北壁土層図

持ち、西側では市道をはさんでS D85105につながっていく可能性が強いといえる。

S D85019

Z-6・7区で総延長約20mにわたって検出した。幅約2m、検出面からの深さは約50cmを計る。南北方向で主流をもち断面形はU字形を呈する。北側は調査区外となり南側は現在の農道があるために調査できなかつた。埋土は黒色粘質土層の単一層といえるが、下層部分に小礫が多く含まれることにより、2層に分層される。検出される遺物は、圧倒的に弥生時代中期後半の土器片が多かつた。それ以外に古墳時代後期から奈良時代の須恵器が出土している。溝の時期については奈良時代の須恵器の時期をとるのが妥当であろう。

B-5・6区では南北方向で等高線に平行して地山の約40cmの段差がある。これは現在の水田に認められる段差と一致する。水田の整地の際に削平された場所である。この段差の上方に黒色粘質土の堆積が認められた。この延長上のすぐ北側で水田の地下げにともなう調査が実施された。それによるとこの段差の延長上は溝状遺構となる。溝の規模・埋土・出土遺物は、ほとんどS D85019に類似する。この段差より東側では奈良・平安時代の遺構は全く検出されなかつた。したがってS D85019と同規模の溝状遺構が掘削されていて、それを境界にして西側では奈良・平安時代の遺構が広がっていたと言える。

(3)中世の遺構

中世の遺構として検出したものには、掘立柱建物遺構・溝状遺構・土坑・井戸などがある。これらの遺構については中世というおおまかな時期区分を与えたが、遺物の出土状況、遺構の検出状況より中世前半と中世後半に2分される。依然としておおまかな時期決定ではあるが、中世前半の遺構については、黒色土器・瓦器・瓦質土器が検出されるか、それらが検出される遺構と同質の埋土をもつものである。中世後半の遺構はそれらがほとんど検出されず他の中世遺物が検出されるものである。

①掘立柱建物遺構

矢ノ塚遺跡で検出した中世の掘立柱建物遺構は27棟を数える。W地区、N地区においては、発掘中に全ての建物遺構を確認できた。しかし、S地区においては、検出されたピットが多く、発掘中に全ての建物遺構を検出するのは困難であった。S地区で検出した建物遺構は、後に図面上で柱穴の並びを考えたものである。したがってS B001～S B010については、建物遺構の可能性

遺構番号	建物規模	柱 間 長	柱 穴 規 模	主軸方位
SB85113	2(北) 1(東)×2間 390×402	①216 ②174 ③204 ④198 ⑤392 ⑥196 ⑦204	㊶26 (-31.4) ㊷24 (-26) ㊸20×36 (-32.6) ㊹36 (-22.9) ㊺28 (-31) ㊻30 (-29.8) ㊼32 (-31.4)	N75.0°E
SB85114	2×2間 354×366	①192 ②174 ③180 ④174 ⑤172 ⑥172 ⑦178 ⑧176	㊾28 (-49.1) ㊿28 (-15.9) ㊽26 (-15.3) ㊾26 (-9.2) ㊿26 (-8.5) ㊽28 (-7.4) ㊾28 (-14.8) ㊿22 (-15.3)	N74.0°E
SB85115	2×2(西) 1(東)間 414×418	①198 ②216 ③418 ④214 ⑤200 ⑥216 ⑦202	㊾36 (-40.8) ㊿42 (-29.9) ㊽32 (-29.3) ㊾28×36 (-21.2) ㊿36 (-35) ㊽34 (-27.9) ㊼34 (-31.3)	N77.0°E
SB85116	1×2間 280×460	①208 ②248 ③280 ④228 ⑤228 ⑥280	㊾32 (-9.9) ㊿44×52 (-51.8) ㊽52×56 (-40) ㊾48 (-23.3) ㊿44 (-22.9) ㊽44 (-32)	N25.0°E
SB85117	1×3間 284×540	①160 ②188 ③192 ④284 ⑤192 ⑥176 ⑦170 ⑧284	㊾44×56 (-40) ㊿50×52 (-36.9) ㊽36×40 (-26.2) ㊾36 (-14) ㊿44 (-17.8) ㊽38×44 (-11.7) ㊾40×58 (-24.8) ㊿52 (-24.8)	N69.0°E
SB85118	1×3間 (322)×(458)	①148 ②144 ③152 ④162 ⑤322	㊾76 (-19) ㊿48 (-20.4) ㊽52 (-20.2) ㊾52×60 (-25.2) ㊿64 (-19.3)	N60.0°E

第 8 表 建物遺構一覽表(6)

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SB85016	2 × 2 間 344 × 410	①206 ④174 ⑦184	②204 ⑤204 ⑧160	③168 ⑥206	㊶38 × 42 (-19) ㊷36 (-18) ㊸40 (-20)	㊹28 (-20) ㊺50 (-25) ㊻38 (-16)	㊼24 (-9) ㊽44 (-11)	N64.5°E
SB85017	2 × 2 間 364 × 372	①180 ④184 ⑦192	②192 ⑤180 ⑧172	③180 ⑥196	㊶34 (-23) ㊷44 × 44 (-22) ㊸48 × 52 (-26)	㊹42 (-11) ㊺52 × 52 (-37) ㊻44 × 52 (-38)	㊼48 (-33) ㊽44 (-17)	N25.0°W
SB85018	2(西) × 2間 3(東) × 2間 366 × (488)	①(260) ④98 ⑦262	②228 ⑤92 ⑧176	③176 ⑥228 ⑨(190)	㊶36 (-33.5) ㊷20 (-8.6) ㊸34 (-41.8)	㊹32 (-35.2) ㊺40 (-41) ㊻28 (-8.9)	㊼20 (-32.1) ㊽48 (-50.4)	N64.5°E
SB85019	2 × 2 間 304 × 456	①240 ④240 ⑦212	②152 ⑤152 ⑧244	③224 ⑥156	㊶24 (-18.3) ㊷28 (-32.5) ㊸48 (-24)	㊹68 (-16) ㊺44 (-38) ㊻20 (-13.5)	㊼20 × 24 (-11.8) ㊽36 (-26.4)	N25.0°W
SB85020	1 × 3 間 308 × 588	①182 ④308 ⑦230	②188 ⑤216 ⑧310	③218 ⑥164	㊶18 (-28) ㊷22 (-33) ㊸22 (-23)	㊹26 (-25.6) ㊺24 (-21.8) ㊻20 (-31.8)	㊼20 (-24.5) ㊽26 (-20.6)	N69.0°E
SB85023	1 × 2 間 186 × 272	①126 ④160	②146 ⑤230	③186	㊶24 × 24 (-21.6) ㊷38 × 38 (-22.5)	㊹20 × 20 (-25.4) ㊺16 × 16 (-16.6)	㊼28 × 30 (-30.9) ㊽18 × 18 (-21.8)	N63.0°E

第 9 表 建物遺構一覽表(7)

遺構番号	建物規模	柱 間 長	柱 穴 規 模	主軸方位
SB85024	2×2間 378×584	①266 ②318 ③190 ④188 ⑤318 ⑥266 ⑦186 ⑧190 ⑨266 ⑩318 ⑪190 ⑫188	㉑34 (-51.7) ㉒30 (-60.5) ㉓32×36 (-40.2) ㉔22×22 (-15.9) ㉕52×62 (-55.5) ㉖42 (-37.0) ㉗28 (-6.7) ㉘32 (-38.2) ㉙28 (-28.5)	N69.0°E
SB85025	1(西)×2(東)間 384×560	①254 ②306 ③184 ④200 ⑤300 ⑥260 ⑦384	㉑34 (-30.9) ㉒28 (-15.1) ㉓38 (-42.2) ㉔24 (-12.4) ㉕26 (-19.8) ㉖36×42 (-9.8) ㉗24×24 (-23.2)	N64.0°E
SB85026	1×3(西)×2(東)間 392×476	①390 ②236 ③240 ④392 ⑤234 ⑥132 ⑦108	㉑28×38 (-34.6) ㉒40 (-32) ㉓34 (-31.7) ㉔36×36 (-21.7) ㉕38×48 (-29.9) ㉖40×48 (-31.6) ㉗38 (-22.2)	N21.5°W
SB85027	2×2間 342×460	①132 ②210 ③234 ④226 ⑤166 ⑥176 ⑦222 ⑧238	㉑28 (-32) ㉒26 (-9.1) ㉓32 (-35.7) ㉔32 (-30.1) ㉕38 (-34.1) ㉖26×30 (-16.2) ㉗32×32 (-37.9) ㉘28×28 (-50.5)	N25.0°W
SB85028	3(北)×4(南)間 378×632	①74 ②178 ③126 ④286 ⑤130 ⑥134 ⑦82 ⑧234 ⑨144 ⑩162 ⑪254 ⑫78 ⑬138	㉑24 (-27.9) ㉒48 (-47.5) ㉓28 (-23.7) ㉔20 (-22.9) ㉕26 (-26.7) ㉖24 (-31.8) ㉗18 (-43.6) ㉘20 (-42.9) ㉙24 (-50.1) ㉚32 (-34.7) ㉛48 (-30) ㉜32 (-34.7) ㉝24 (-43.7)	N24.0°W
SB85029	2×1(北)×2(南)間 286×392	①224 ②168 ③154 ④132 ⑤216 ⑥156 ⑦120 ⑧164 ⑨160 ⑩212 ⑪124	㉑34 (-19.9) ㉒26×28 (-12.2) ㉓24×26 (-11.8) ㉔28×30 (-8.9) ㉕30 (-11.8) ㉖38 (-19.9) ㉗24 (-4.3) ㉘32 (-10.3)	N70.0°E

第10表 建物遺構一覧表(8)

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SB001	3(西) 2(東)×4間 426×510	①144 ④130 ⑦114 ⑩164 ⑬160	②100 ⑤234 ⑧112 ⑪178	③132 ⑥192 ⑨120 ⑫68	①36×42 (-13) ④20 (-16) ⑦26×30 (-32) ⑩22×24 (-28) ⑬20 (-6)	②32×38 (-16) ⑤14×18 (-18) ⑧22 (-21) ⑪32 (-21)	③26×34 (-27) ⑥16×26 (-13) ⑨22×22 (-33) ⑫16×20 (-8)	N70.0°E
SB002	1×3間 502×534	①156 ④502 ⑦232	②216 ⑤138 ⑧502	③162 ⑥164	①40×42 (-19) ④30×34 (-34) ⑦36 (-43)	②30×30 (-18) ⑤28×38 (-11) ⑧24×32 (-35)	③24×28 (-34) ⑥18×28 (-19)	N71.0°E
SB003	1×3間 280×424	①262 ④280 ⑦198	②166 ⑤196 ⑧280	③196 ⑥230	①32×36 (-11) ④32×34 (-22) ⑦24 (-27)	②24×28 (-37) ⑤28×44 (-15) ⑧24×32 (-35)	③22×22 (-34) ⑥24×28 (-24)	N60.0°E
SB004	1×2間 320×370	①148 ④216	②222 ⑤154	③320 ⑥320	①14 (-15) ④20×18 (-5)	②18 (-13) ⑤22×26 (-13)	③24×26 (-20) ⑥22×22 (-16)	N69.5°E
SB005	2×3間 414×458	①186 ④208 ⑦176 ⑩200	②198 ⑤206 ⑧196	③174 ⑥186 ⑨214	①28×52 (-35) ④60×68 (-52) ⑦32×34 (-56) ⑩24×24 (-48)	②28×38 (-33) ⑤30×32 (-35) ⑧40×46 (-61)	③32×30 (-58) ⑥30×44 (-36) ⑨24×26 (-24)	N66.5°E
SB006	2×1間 422×400	①400 ④400	②216 ⑤128	③206 ⑥296	①24×26 (-60) ④38 (-43)	②26×28 (-52) ⑤22×26 (-41)	③36×36 (-51) ⑥36×40 (-35)	N22.0°W

第11表 建物遺構一覽表(9)

遺構番号	建物規模	柱 間 長			柱 穴 規 模			主軸方位
SE007	2(西) 3(東)×3間 428×628	①212 ④166 ⑦168 ⑩206	②220 ⑤138 ⑧220 ⑪222	③196 ⑥124 ⑨240	①28 (-28) ⑤28×32 (-39) ③38. (-48) ②32×40 (-28)	②24×28 (-62) ③38×44 (-55) ⑤24×26 (-24) ③28×30 (-34)	③30 (-27) ④24×28 (-37) ⑦32×38 (-43)	N66.5°E
SB008	2×1(北) 2(南)間 340×416	①416 ④148 ⑦198	②212 ⑤268	③128 ⑥142	①28 (-31) ④26×36 (-33) ②20 (-53)	②42×44 (-48) ③30×42 (-40)	③18×28 (-9) ④22×36 (-35)	N65.5°E
SB009	2(西) 3(東)×3間 500×508	①140 ④248 ⑦108 ⑩228	②286 ⑤98 ⑧200 ⑪272	③82 ⑥154 ⑨200	①24×26 (-62) ④20×20 (-26) ②28×30 (-9) ②20×24 (-17)	②22×24 (-33) ③22×24 (-28) ⑤16×20 (-12) ③32×36 (-42)	③22×26 (-30) ④24×36 (-48) ⑦28×36 (-31)	N63.0°E
SB010	2(西)×2(北) 1(東)×3(南) 間 330×536	①264 ④182 ⑦140	②272 ⑤190 ⑧190	③330 ⑥164	①20×26 (-10) ⑤16×20 (-18) ②18×22 (-15)	②22 (-22) ③22 (-10) ⑤14×16 (-8)	③26 (-39) ④18×20 (-8)	N59.0°E
SB85021	1×2間 222×376	①180 ④200	②196 ⑤178	③222 ⑥220	①44×54 (-30.4) ⑤74 (-38.2)	②56 (-16.0) ③62×64 (-25.0)	③64×70 (-28.0) ④58×64 (-4.3)	N57.0°E
SB85022	1×2間 268×512	①260 ④244	②252 ⑤264	③268 ⑥268	①56 (-27.7) ④48×52 (-10.3)	②56 (-20.8) ③64 (-24)	③48×52 (-20.9) ④40×52 (-39)	N77.0°E

第12表 建物遺構一覧表(10)

が強いというもので確実に建物があつたというものではない。

S B 85113

X-9区で検出した。2×2間の規模の建物遺構である。南側の中央に位置する柱穴は検出されなかった。対応する位置の柱間長はほぼ一定である。柱穴㊸からは弥生土器の破片と思われるものが多く出土した。それに混じって須恵器の小片が2点出土した。また柱穴㊹からは須恵器の破片が1点だけ出土している。建物遺構の明確な時期については不明とせざるをえない。

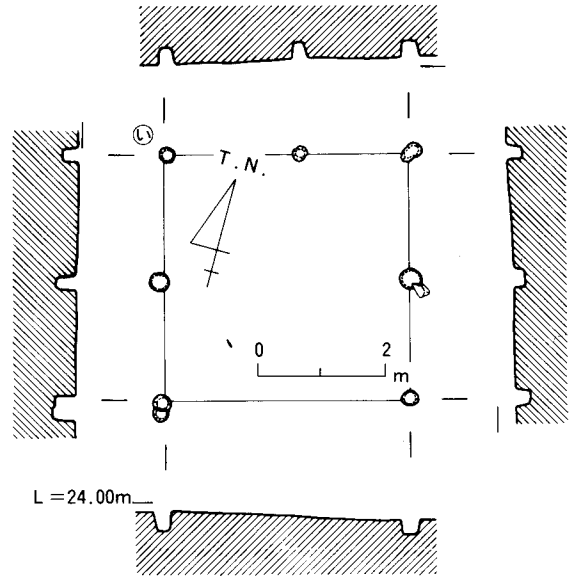
S B 85114

S B 85113のすぐ南側で検出した2×2間の規模の建物遺構である。柱穴の直径は22～28cmの間に収まりほぼ一定である。また対応する位置の柱間長もほぼ一定である。柱穴㊸, ㊹, ㊺には柱根が遺存していた。遺存状況が悪かったために取り上げることはできなかった。出土土器は極めて少なく㊸から土師器の破片が1点と㊹から弥生土器の破片が1点出土しただけである。

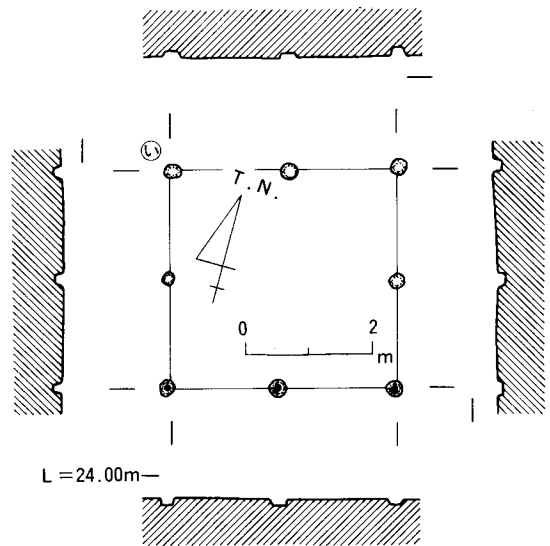
S B 85115

X-9区で検出した。2×2間の規模の建物遺構である。対応する位置の柱間長はほぼ一定である。東側の中央にあたる柱穴は検出できなかった。柱穴㊸は弥生時代の溝(S D 85102)の埋土中に掘りこまれたものである。㊹はS D 85103と切り合い関係にあるが、埋土が似ているために前後は不明である。S D 85103の掘り方の底で検出した。㊸から回転ヘラ切りの土師器の小皿片1点が検出されている。それ以外に㊸からは弥生土器の破片1点、㊹からは弥生土器片に混じって須恵器の小片が1点出土している。

S B 85113～S B 85115の主軸方位は、それぞれN15° W, N16° W, N13° Wとなる。おそらく同時期にあつた建物であろう。遺物の出土が少量であるために建物遺構の明確な時期について



第54図 S B 85113 平・断面図

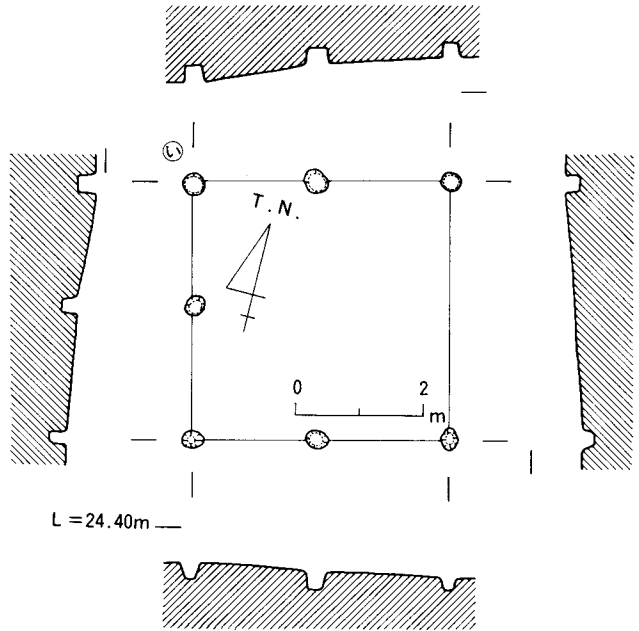


第55図 S B 85114 平・断面図

は言及できないが、周辺の包含層より黒色土器、瓦質土器が出土することより中世前半の可能性が強い。

S B 85116

W-9区東辺で検出した。1×2間の規模の建物である。対応する位置の柱間長は、ほぼ一定である。柱穴の埋土から、中世の建物遺構としたが、主軸方位、柱穴の掘り方の形状などは他の建物遺構と異なる。特に主軸方位については、他の建物遺構がN15°~30°Wの間に集中するのに対してS B 85116だけはN65°Wとなる。柱穴から遺物が1点も出土しなかったために、明確な時期は不明とせざるをえない。



第56図 S B 85115 平・断面図

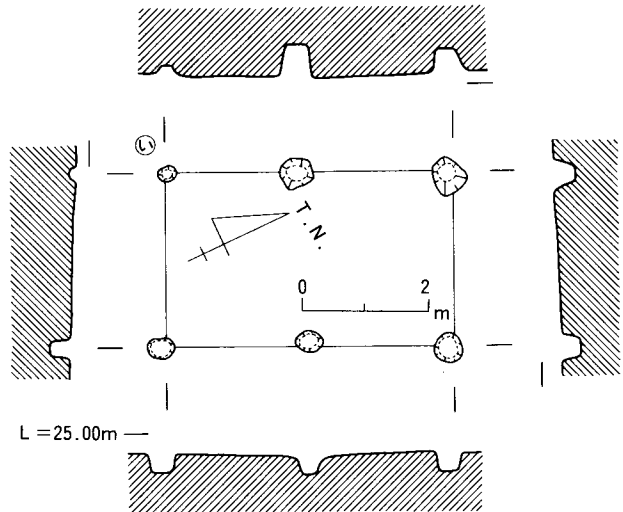
S B 85117

S B 85116のすぐ西側で確認された。1×3間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は一定であるが、柱穴の形状は一定でない。他の建物遺構の柱穴と比較して大きい。柱穴③の掘り方は二段掘りとなっている。③から弥生土器の小片が2点出土しただけである。明確な時期は不明とせざるをえない。

S B 85118

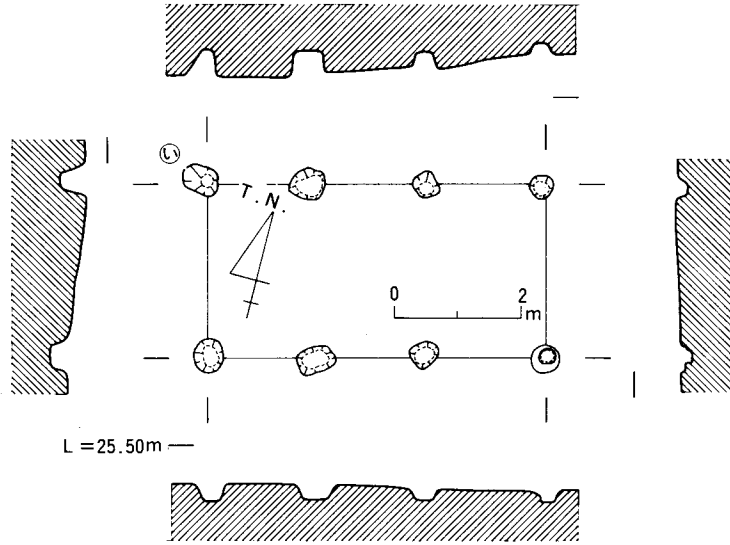
Y-8区北辺で検出した。調査区直近の北側に農道があるため、建物遺構の全容は明らかにできなかった。埋土より中世の建物遺構としたが、柱穴の規模、形状などは他の建物遺構と著しく異なる。

柱穴③の掘り方は二段掘りとなっている。柱穴から遺物が1点も出土しなかったために、明確な時期は不明とせざるをえない。



第57図 S B 85116 平・断面図

S B 85016

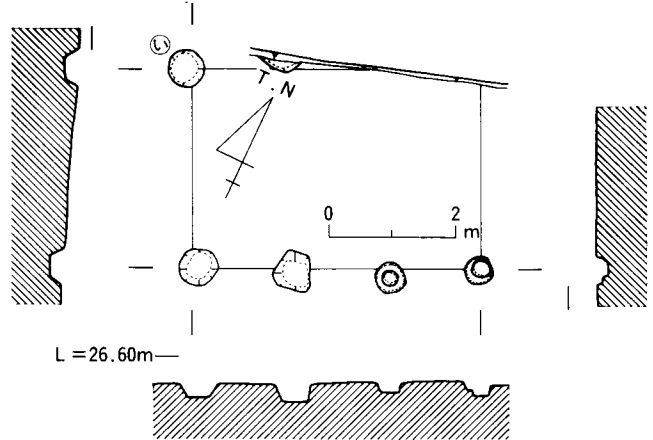


第58図 S B 85117 平・断面図

Y-7区で検出した。2×2間の規模を持つ。対応する位置の柱間長はほぼ一定である。柱穴㊸の掘り方が隅丸方形状を呈する。㊸, ㊹, ㊺, ㊻, ㊼で礫が検出された。遺物は1点も出土していない。

S B 85017

Y・Z-7区で検出した。2×2間の規模をもち対応する位置の柱間長は一定である。柱穴の掘り方は、円形のものと同隅丸方形状のものがある



第59図 S B 85118 平・断面図

り大きい。柱穴㊽・㊾で直径約25cmの柱根が確認された。㊽からは礫が検出された。遺物は㊿から弥生土器片が1点出土しただけで、それ以外からは出土しなかった。

S B 85018

Z・A-8区で検出した。2×2間の規模を持ち、対応する位置の柱間長はほぼ一定である。柱穴㊿が検出されなかった。㊿, ㊾間には二つの柱穴が確認されているが、㊿だけになる可能性もある。出土遺物は少量であるが、柱穴㊿からは、土師器の杯と思われる破片が1点、㊿からは、復原してほぼ完形となるヘラ切りの小皿1点、弥生土器片1点、土師器の杯の底部片1点、土師

器片1点が検出されている。

柱穴㊸, ㊹の間で細い溝状遺構 (S D85006) が検出されている。西から東へ向かい㊸の北側で直角に曲がり南へ向かってS B85018より約10mの位置で消滅する。S D85006の主軸方位がS B85018と同一であるため、S B85018にともなう溝状遺構であると考えられる。

S B 85019

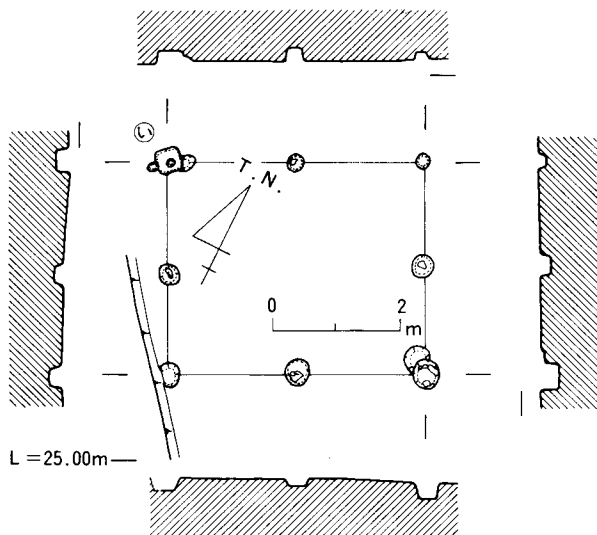
S B85018の東側で近接して検出した。2×2間の規模を持つ。対応する位置の柱間長はほぼ一定である。柱穴㊺, ㊻, ㊼の掘り方は楕円形状を呈している。S B85019の西側の柱穴の並びと重なり、ほぼ同一方位で細い溝状遺構 (S D85007) がある。S B85019にともなう溝状遺構であろう。柱穴からは1点も遺物は出土しなかった。

S B85016～S B85019の主軸方位は、それぞれ、N25.5° W, N25° W, N25.5° W, N25° Wとなる。比較的近い範囲で検出され、しかもほぼ同一方位を持つことから、これらの建物遺構は同時期にあった可能性が強い。S B85016, 017, 019は、

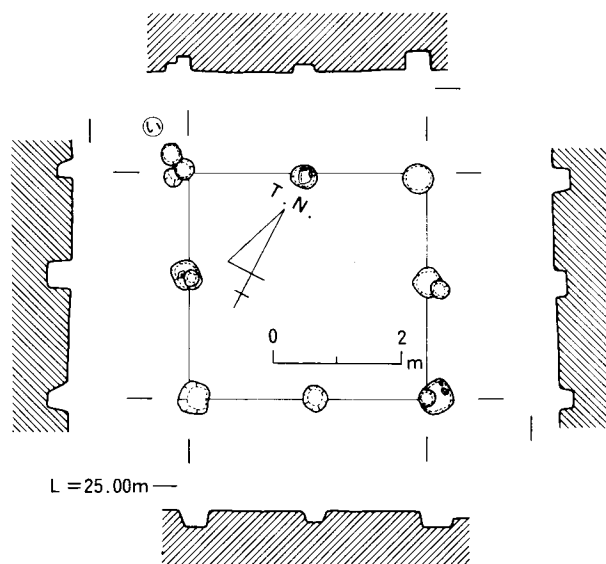
遺物が出土しなかったり、出土した遺物からは時期は不明であった。S B85018の㊽, ㊾の土器は小片であるために断定はできないが、中世前半の時期が考えられる。したがってS B85016～S B85019は中世前半の時期が比定される。

S B 85020

A-7区で検出した。1×3間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は、ほぼ一定である。柱穴の形状は正円形状で直径18～26cmとほぼ一定している。柱穴㊿からは、定形のヘラ切りの小皿



第60図 S B 85016 平・断面図



第61図 S B 85017 平・断面図

が1点出土している。主軸方位はN21°Wを示し、SB85016～SB85019とはやや異なるが、出土遺物より中世前半の時期が与えられる。

SB85023

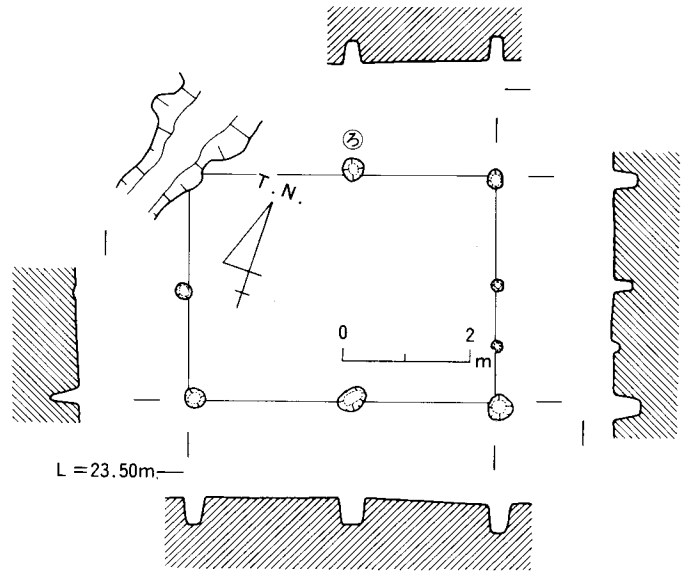
F-4(W)区で検出した。1×2間の規模の小さい建物遺構である。柱穴㊸の位置がかなり北側へずれているが、対応する位置の柱間長はほぼ一定である。柱穴から土器は1点も出土しなかった。遺構の明確な時期は不明とせざるをえない。

SB85024

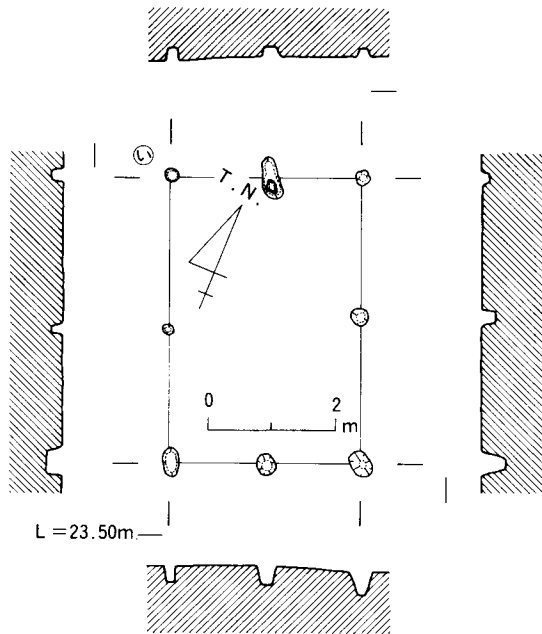
F-3(E)区で検出した。2×2間の規模をもち、中央にも柱穴があるために総柱状をなしている。対応する位置の柱間長はほぼ一定である。遺物は柱穴㊸から焼土が少量と土師器の小片2点が出土している。㊸からは土師器の小皿の底部片1点などの土師器片数点にまじって、ほとんど炭化している木片が数点出土している。㊸からは、瓦質土器椀の底部片1点、土師器皿の底部片1点のほか

に多くの焼土が出土した。㊸からは鉢状の瓦質土器片1点が出土した。㊸からは多くの焼土が検出された。

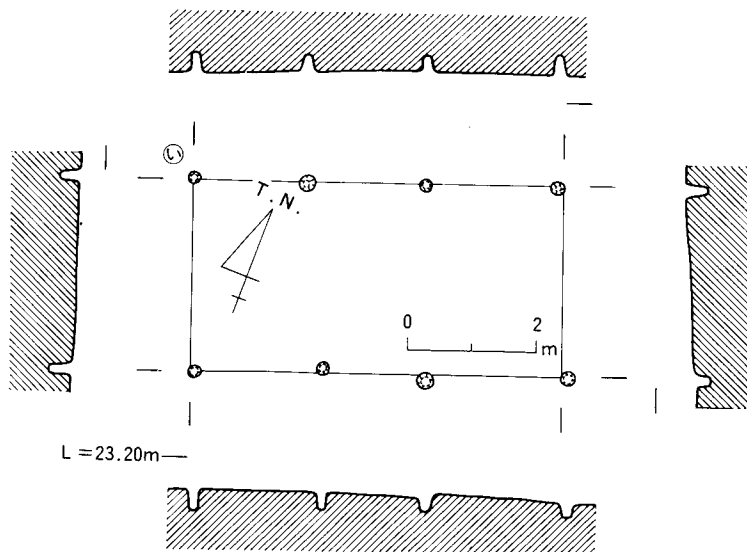
SB85024のすぐ南側でSB85024と同じ主軸方位を持つ溝状遺構SD85052がある。SB85024と同時に存在したと考えられる溝状遺構である。SD85052の埋土中からも多くの焼土が出土した。焼土以外に炭化した木片なども検出されている。柱穴㊸、㊹、SD85052から出土した焼土はほとんどが淡い橙色を呈する。幅2.5～3.5cm程度で一方の面が平坦なものが多い。平坦な面以外



第62図 SB85018 平・断面図



第63図 SB85019 平・断面図



第64図 S B 85020 平・断面図

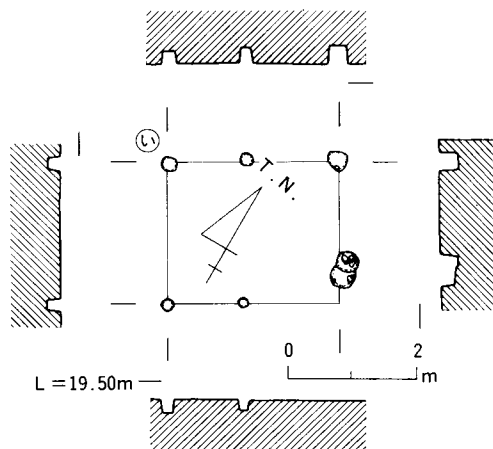
の面には、角材に押しつけた痕と思われる直角になっている面や丸い竹状のものに押しつけた痕と思われる彎曲した面などが遺存している。これらの焼土は、建物の壁土の可能性が考えられる。

また、S B 85024から東の方向に向かって約50cmずれた位置でほぼ同じ主軸方位をもつ S B 85025が確認されている。建物の規模は、ほとんどS B 85024と同じである。S B 85025の柱穴からは、焼土は全く確認されなかった。

以下は推測となるが、S B 85024およびその周囲の遺構からの遺物の出土状況より S B 85024は焼失した建物の可能性が強い。その廃材をS D 85052などに棄て、新たにS B 85025を構築したのではないかと考えられる。

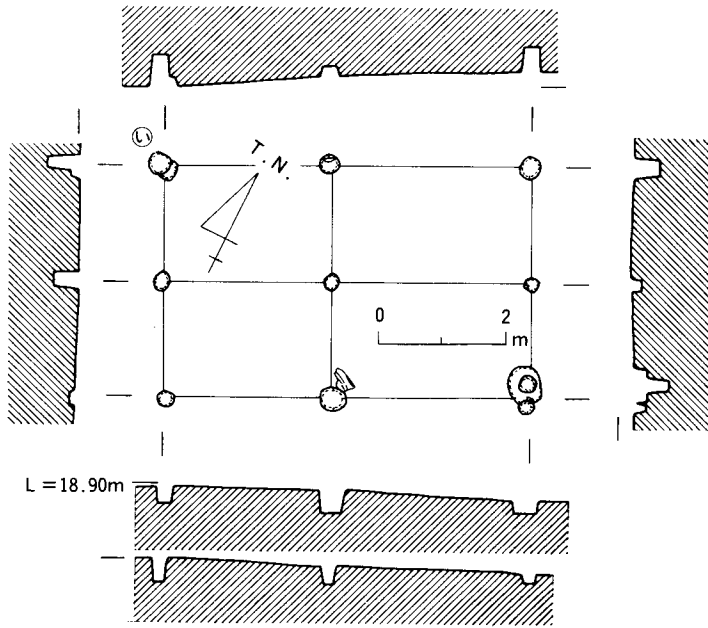
S B 85025

S B 85024が立て替えられた建物遺構であると思われる。2×2間の規模をもち、ほぼS B 85024と同じ大きさとなる。柱穴①、②の中央に位置する柱穴は検出されなかった。対応する位置の柱間長は、ほぼ一定である。柱間長の①、②をS B 85024と比較すると、S B 85024は266、318cmでS B 85025は254、306cmとなる。②の方が①よりも長く、ほぼ同じ長さをもつという建物の構造からもS B 85025はS B 85024を建て替えた可能性が考えられる。

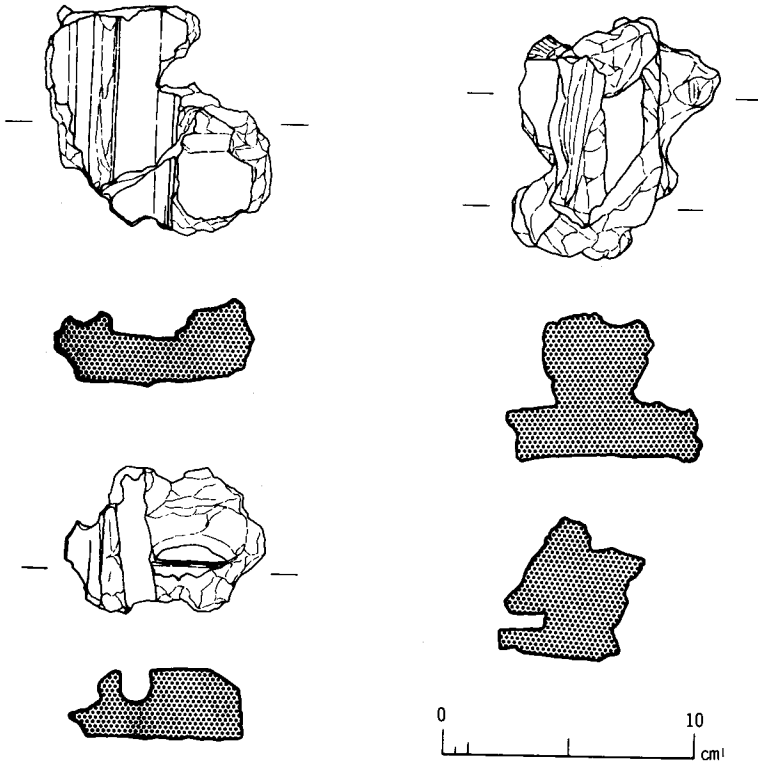


第65図 S B 85025 平・断面図

遺物は柱穴③から土師器の小皿片2点、瓦質土



第66图 S B 85024 平·断面图



第67图 S B 85024 出土烧土实测图

器片1点、白磁片1点が出土している。S B 85024, 025の時期については、その周辺のピット・包含層より黒色土器片も検出されることから、中世前半と思われる。

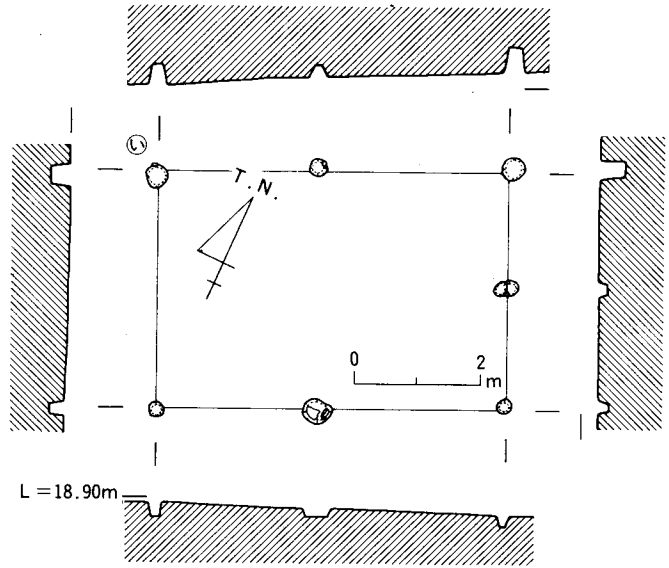
S B 85026

F-3 (E) 区北辺で検出した。1×2間の規模をもち、対応する位置の柱間長はほぼ一定である。柱穴㊶, ㊷間に円形のピットを検出しているが、S B 85026にともなわない可能性もある。柱穴からは、遺物は1点も検出されなかった。明確な時期は不明といわざるをえない。

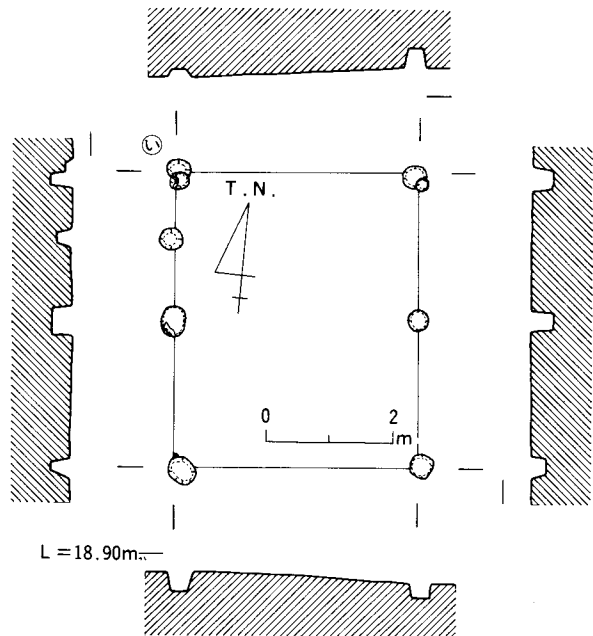
S B 85027

F・G-3区で検出した。2×2間の規模を持つが、柱穴㊸, ㊹から東に向かって約120cmの位置に、直径15cm程度の小さな柱穴が検出されている。この部分は軒状に張り出していたと考えられる。対応する位置の柱間長はほぼ一定である。柱穴㊸から土師器と思われる土器片が1点、㊹から糸切りの土師器小皿の底部片1点を含む土師器片数点が出土している。

S B 85028



第68図 S B 85025 平・断面図



第69図 S B 85026 平・断面図

建物の西側直近に細い溝状遺構 (S D 85053) がある。S B 85027とほぼ同一の主軸方位をもつことよりS B 85027にともなう細溝と考えられる。S D 85053は前述のS D 85052をF列とG列の境界付近で切っている。

G-3区で検出した。建物の規模は、梁間の北側が3間、南側が2間、桁行4間となる。対応する位置の柱間長は一定でない。また柱穴の大きさも最小径のもの18cm、最大径のもの48cmと差が大きい。すぐ西側に並走するSD85054とほぼ同一の方位でピットが一直線上に並び、直交する方向にも一直線上にピットの並びが認められるために建物遺構とした。

遺物は、柱穴㊸より焼土と土師器の小片2点、㊹より瓦質土器碗の破片数点と土師器の小片数点が出土している。西側の柱穴の並びはSD85054と重なり並走するため、SD85054はSB85028にともなうものと考えられる。

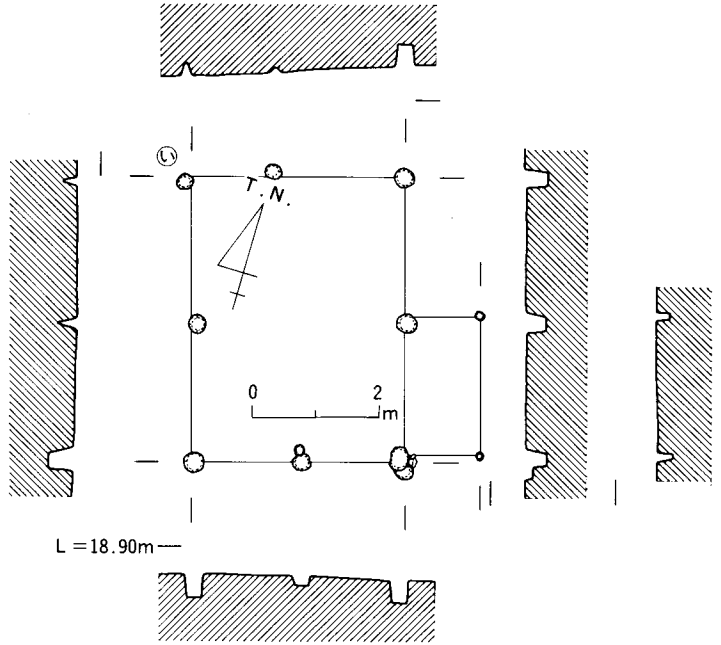
建物の明確な時期については断定できないが、中世前半を考える。

S B 85029

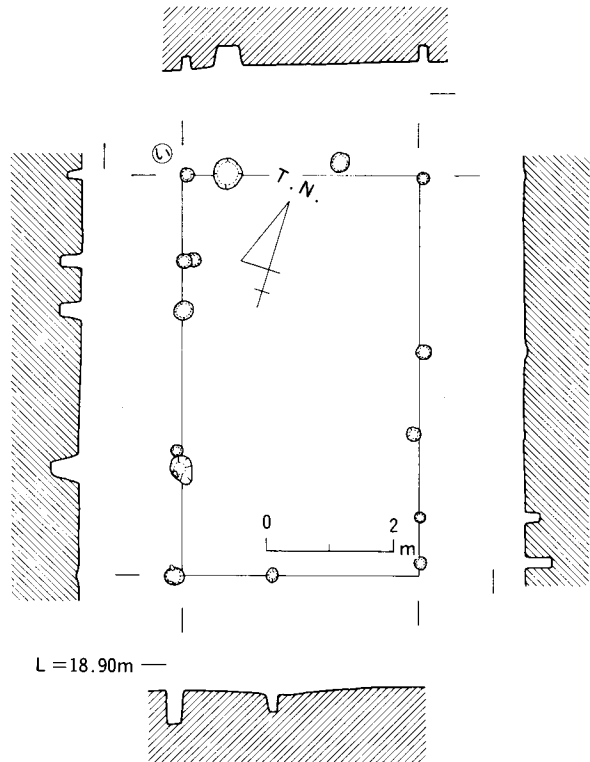
G-3区南東隅で検出した。2×2間の規模で建物の中にも柱穴をもつために総柱状を呈している。対応する位置の柱間長はほぼ一定である。㊸、㊹の間に位置する柱穴は検出できなかった。

柱穴㊸から瓦質土器片1点、㊹からは土師器の小片1点が検出されている。建物の明確な時期については不明とせざるをえない。

F・G列の比較的近い範囲で7棟の掘立柱建物遺構を検出した。各遺



第70図 S B 85027 平・断面図



第71図 S B 85028 平・断面図

構の主軸方位について注目すると、 $N20^{\circ}W$ に近いもの(SB85024, 026, 029), $N25^{\circ}W$ に近いもの(SB85023, 025, 027, 028)に分けられる。これらの前後関係は溝状遺構の切り合い、SB85024と025の関係などから、 $N20^{\circ}W$ のもの→ $N25^{\circ}W$ のものとなる。出土遺物から判断してこれらの前後関係は、比較的短い期間のものであると考えられる。

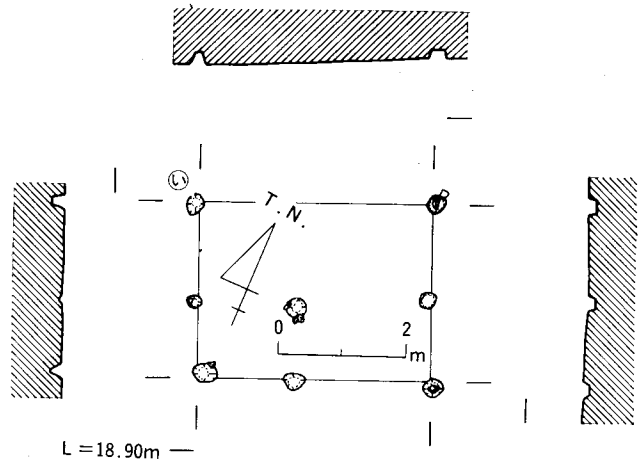
SB001

F-5区北東隅で検出した。梁間の東が2間、西が3間、桁行4間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は一定でない。柱穴の掘り方も円形状のもの、方形状のものがあり一定でない。柱穴①からは土師器の小皿片が3点出土しておりヘラ切りのもとの糸切りものが共伴している。③からは糸切りの土師器の小皿片2点と土釜の脚片1点が出土している。④からは、土師器の小片が数点出土している。

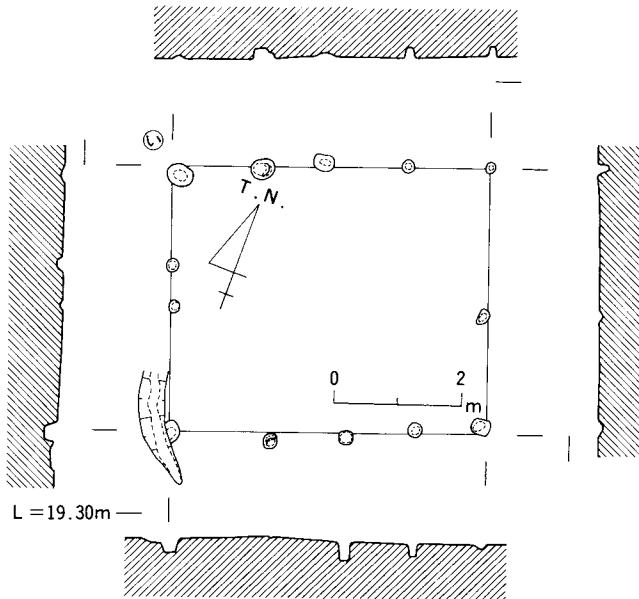
建物の南北の主軸方位に平行して2本の細溝(SD022, 023)があり、SB001にともなう溝状遺構と考えられる。建物の時期については、出土遺物のやや後出性より中世後半の時期が比定される。

SB002

SB001のすぐ北側で検出された。1×3間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は一定でない。梁間の長さは502cmを計り間に柱穴がないために極めて長いといえる。柱穴③から土師器の



第72図 SB85029 平・断面図



第73図 SB001 平・断面図

小片1点，土釜の脚片2点が出土している。㊦からは土師器片数点が出土している。

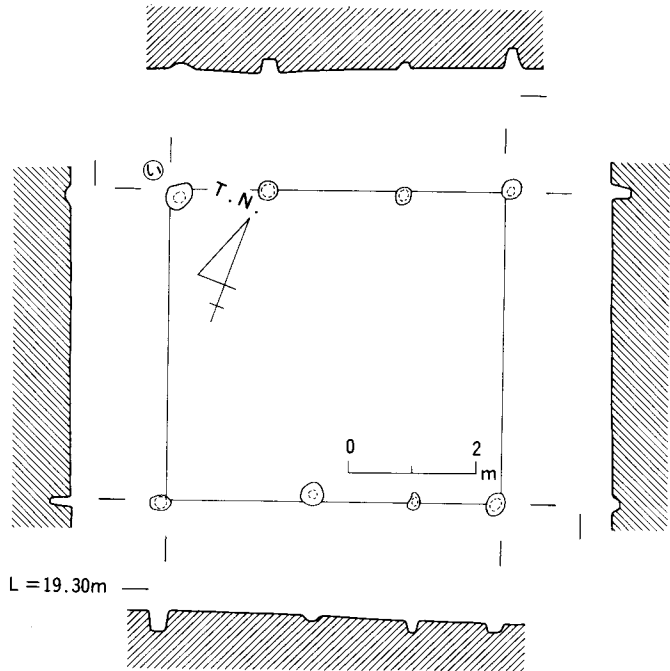
柱穴㊦がS B 003の柱穴㊦と同一になっている。またS B 001とS B 002の主軸方位が同一であるためS B 003はS B 002を建て替えた可能性もある。柱穴からの出土遺物よりS B 002は中世後半の時期が比定される。

S B 003

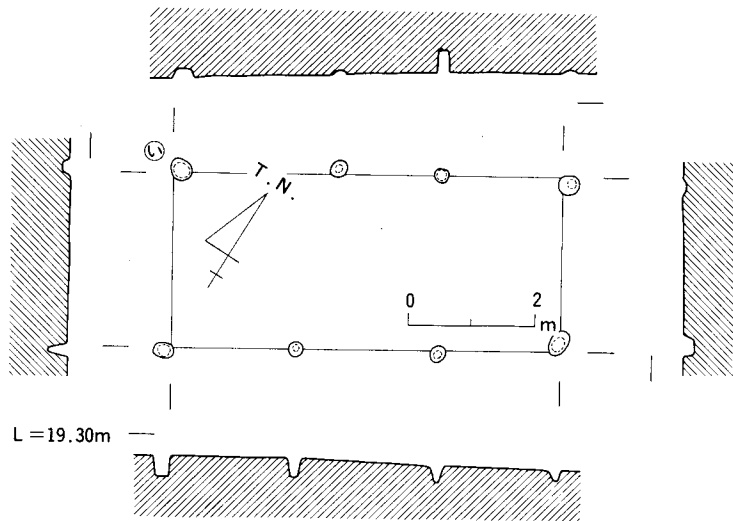
建物遺構のほぼ全体がS B 002と重なる位置で検出された。1×3間の規模をもち、対応する位置の柱間長はほぼ一定である。西軸方位がN30° Wを示し、S B 002より9° 西へ振っている。柱穴㊦がS B 002と共有するため、S B 002を建て替えた可能性もある。遺物の出土は少なく柱穴㊦から土師器の小片1点，㊦から土師器と思われる小片1点が出土しただけである。出土遺物から建物の時期は断定できないが、S B 002との関係より中世後半の時期が比定される。

S B 004

G-5区北西隅で検出された。1×2間の規模をもち、対応する位置の柱間長はほぼ一定であ



第74図 S B 002 平・断面図



第75図 S B 003 平・断面図

る。柱穴からは、遺物が全く検出されな
 かったために、建物の明確な時期につい
 ては、不明とせざるをえない。主軸方位は
 N 20.5° Wとなり S B 001, 002とほぼ同一
 となる。

S B 005

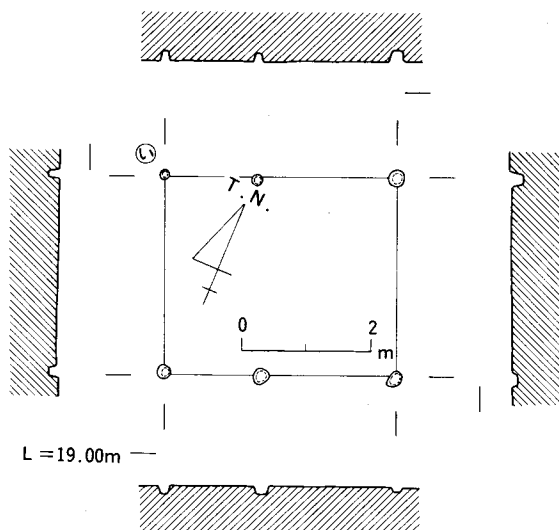
G-5区北辺で検出した。2×3間の規
 模をもち、対応する位置の柱間長は、ほ
 ぼ一定である。柱穴㊸の掘り方は二段掘り
 を呈し、柱根が遺存していた。柱穴の掘り
 方の形状が円形で検出されないもの(㊸、
 ㊹、㊺、㊻)が多かった。柱穴㊸-㊹、㊸-
 ㊻の並びは幅約30cm、深さ3～5cmの細
 溝と重なる。これらの細溝は S B
 005にともなうものと思われる。

柱穴㊸からは、S B 85024で検
 出されたものと同様の焼土が出土
 している。それに混じって須恵器
 の小片1点、土師器の小片2点も
 出土している。㊸からは用途不明
 の鉄製品が、㊹からは、糸切りの
 土師器の小皿片1点が出土してい
 る。検出された遺物より、建物の
 明確な時期は不明とせざるをえな
 い。

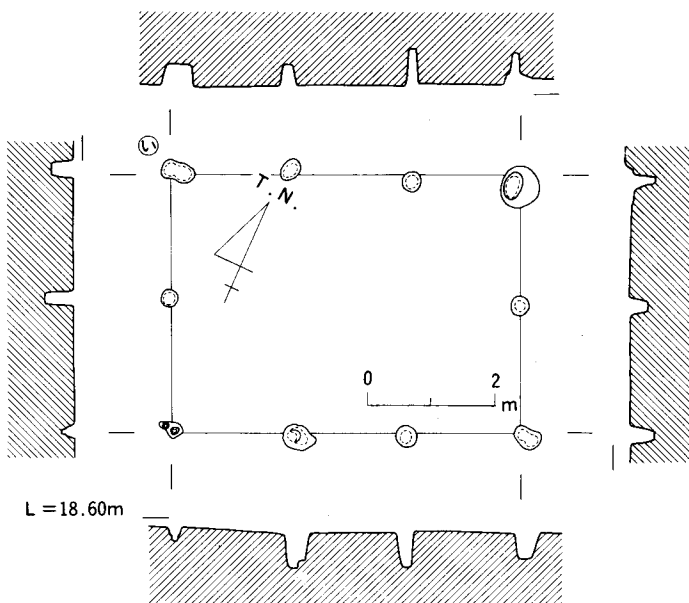
S B 006

G-5区で S B 005のすぐ南側
 で検出した。1×2間の規模をも

ち、対応する位置の柱間長は一定ではない。建物の南半分の位置で東西方向に建物とほぼ同一の主軸方位をもつ溝状遺構を2本(S D 015, 017)検出している。S D 015は掘り方の底に密着して大きな礫の並びが認められる。それは特に S B 006の㊸-㊹の間に集中している。S B 006にともなうものと考えられる。柱穴から遺物は全く出土しなかったために S B 005の時期は不明とせざるをえない。



第76図 S B 004 平・断面図



第77図 S B 005 平・断面図

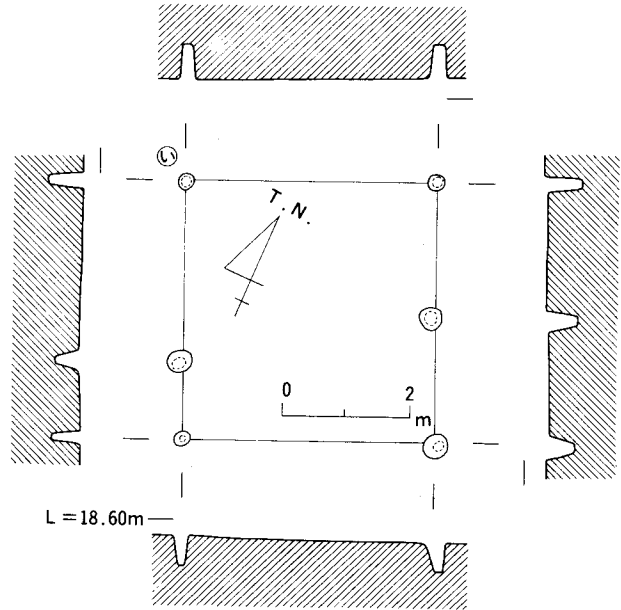
S B 007

G-5区北東隅で、S B 005と重なる位置で検出した。梁間の西側が2間、東側が3間、桁行3間の規模をもつ。桁行の対応する位置の柱間長は一定であるが、梁間の柱間長は一定ではない。柱穴㉓がS B 009の柱穴㉑と同一となる。近接する位置で検出されたS B 005・006とS B 007は、ほぼ同一の主軸方位であるがS B 007はそれよりさらに約4°西側へ振っている。そのことよりS B 009はS B 007を建て替えたものである可能性が強い。

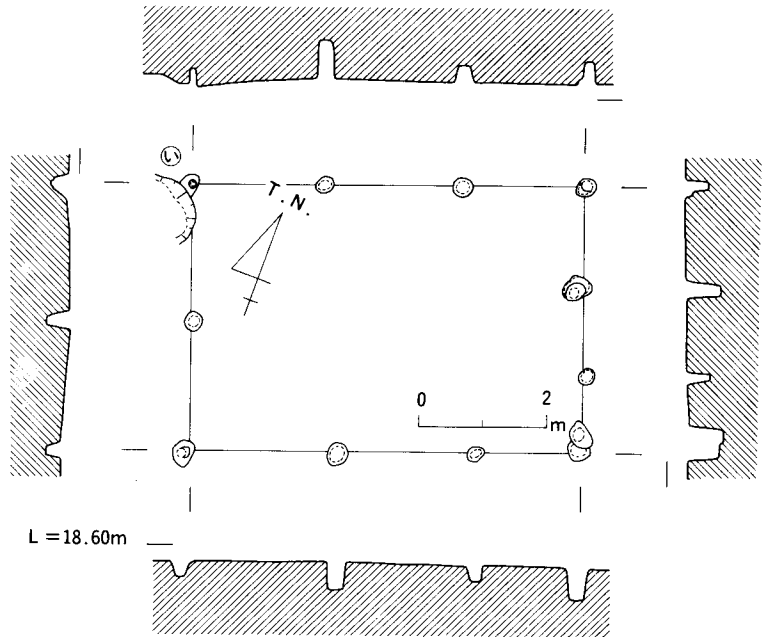
柱穴㉓からは焼土と土師器の小皿の小片1点が、㉒からは土師器の小片数点が出土している。出土遺物より建物の時期は中世後半が比定される。

S B 008

G-4区南東隅で検出した。2×2間の規模を持つ。対応する位置の柱間長はほぼ一定であるといえるが、柱穴㉑、㉓間の方に位置する柱穴は検出できなかった。柱穴㉓、㉔の掘り方が二段掘りになっている。㉑、㉒、㉔、㉕の掘り方の形状は楕円形を呈している。柱穴から遺物は1点も出土しなかったため、建物の時期は不明とせざるをえない。



第78図 S B 006 平・断面図



第79図 S B 007 平・断面図

S B 009

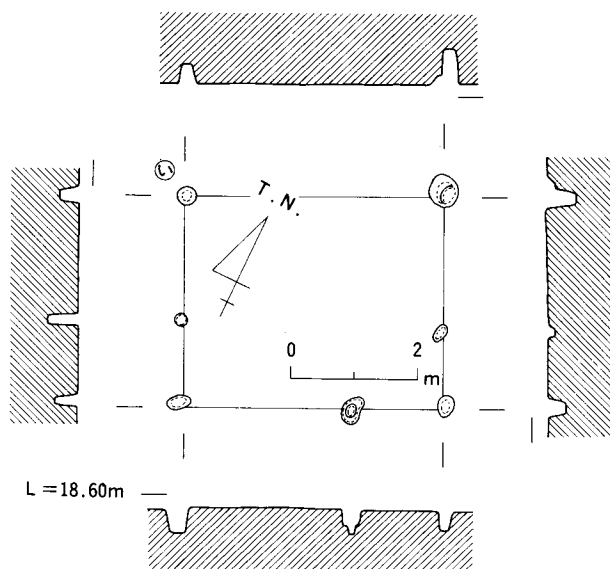
G・H-5区で検出した。梁間の西側が2間、東側が3間、桁行3間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は一定ではない。柱穴④が、S B 007の柱穴と同一となる。周辺の建物遺構との関係よりS B 007を建て替えた可能性が強い。④の掘り方は二段掘りを呈している。S B 009の東側の柱穴の並びに平行して細い溝状遺構S D 004が検出されている。建物にともなう溝状遺構であると思われる。③から須恵器の小片が1点出土しただけで、他の柱穴から遺物は出土しなかった。建物の明確な時期については、不明とせざるをえない。

S B 010

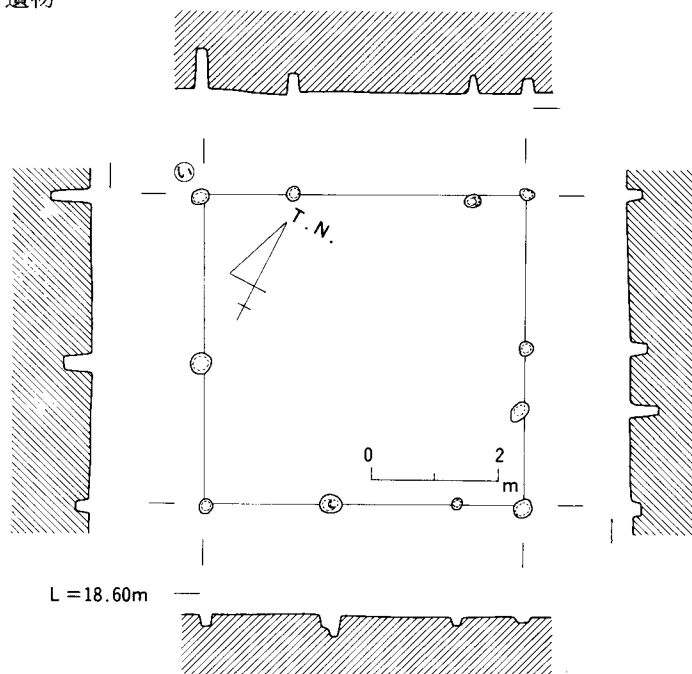
H・I-4区で検出した。梁間の西側が2間、東側が1間、桁行の北側が2間、南側が3間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は一定ではない。建物の西側の柱穴の並びに平行して溝状遺構(S D 008)が検出されている。S B 010にともなう溝状遺構の可能性が高い。柱穴④から土師器の小片2点が検出されているだけで、他の柱穴からは遺物は出土していない。したがって建物遺構の

明確な時期は不明とせざるをえない。

S地区においては、10棟の掘立柱建物遺構を検出した。これらの主軸方位に注目するとN20°W(S B 001, 002, 004), N24°W(S B 005, 006, 007, 008) N29°W(S B 003, 009, 010)



第80図 S B 008 平・断面図



第81図 S B 009 平・断面図

の3つに分けることができる。F・G-4区での主軸方位をもとにした前後関係、各建物間の建て替えの関係などから推察すると、N20°W→N24°W→N29°Wの順となる。

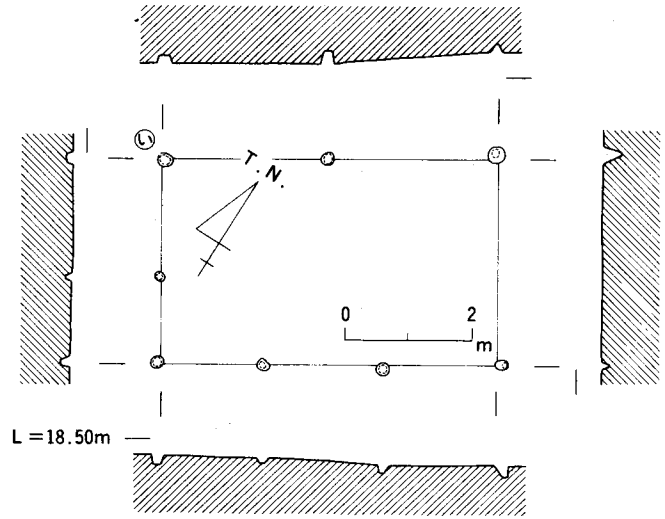
調査区内で検出した掘立柱建物遺構で、全く時期が不明なものが2棟ある。柱穴の形状、規模などから中世以前の可能性が強いといえるが、ここで記述しておきたい。

S B 85021

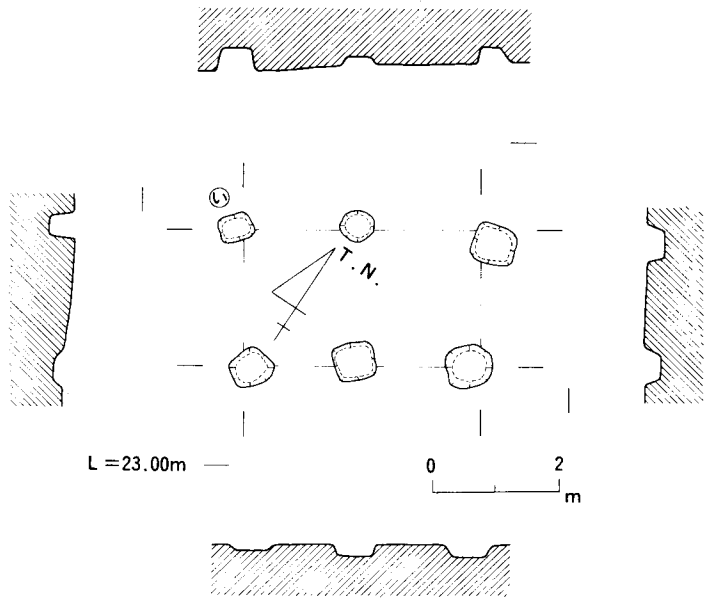
B-6区で検出した。1×2間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は、ほぼ一定である。柱穴の掘り方は円形状のものと隅丸形状のものがある。柱穴の埋土は、奈良時代のもの弥生時代のものとは異なり、茶灰色土であった。柱穴からは遺物は1点も出土していない。

S B 85022

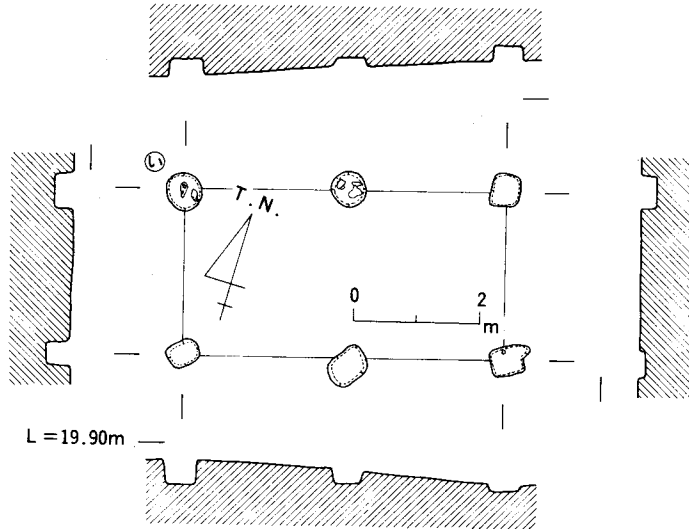
E-4区南辺で検出した。1×2間の規模をもつ。対応する位置の柱間長は、ほぼ一定である。柱穴の掘り方は円形を呈するものと隅丸形状を呈するものがある。柱穴③は、抜き取り跡と思われるものが残る。埋土は黒灰色系の粘質土であり、奈良時代・弥生時代の建物遺構の埋土と異なる。遺物は1点も出土しなかった。



第82図 S B 010 平・断面図



第83図 S B 85021 平・断面図



第84図 S B 85022 平・断面図

②溝状遺構

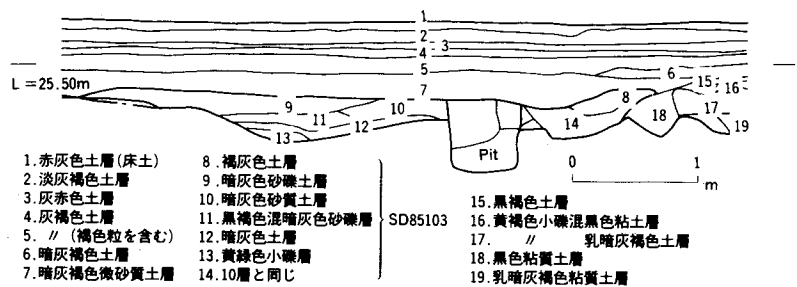
S D 85103

X-8・9区にわたって検出した。等高線に直交する方向で南北に主流を持ち、X-9区北東隅でほぼ直角に屈曲し西に向かう。屈曲部より約10m西で再度直角に屈曲し、南北方向で主流をもちX-9区南辺で谷筋に合流する。X-8(S)区北辺で削平のため消滅している。図示できなかったが埋土よりX-8(N)区から続いていたものであることは明らかであり、この部分を含めて、総延長約50mにわたって検出した。

断面形の形状、幅、深さなどは一定でなく場所によって異なる。土層図の位置(X-8(N)区南壁)では幅約4.4m、深さが最深部で約35cmを計る。断面形は、ゆるやかなV字形を呈している。谷筋近くでは幅約2m、検出面からの深さが約20cm断面形はU字形に近い形状となる。

S D 85103はX-9区でほぼ直角に2度の屈曲を示す。また主軸方位が建物遺構の主軸方位と

同一となる場合もある。しかし、部分的に蛇行している。極めて浅い部分がある。埋土が北側と南側で著しく異なる、などの遺構の検出状況より自然の流れと考えるのが妥当であ



第85図 X-8(N)南壁土層図

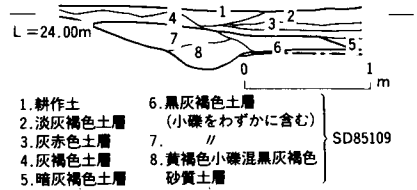
る。

埋土の違いについてであるが、X-8(N)区では暗灰色系の砂礫土層が多く堆積しているが、X-9区の谷筋に近い部分では黒褐色系の粘質土層となる。

遺物は、弥生土器から中世遺物まで広範囲の時期の遺物が出土した。完形に近いヘラ切りの土師器の皿が2点出土していることより中世前半の時期が比定される。

S D85109

Y-8・9区で検出した。Y-8区東壁の位置で幅約2m、深さ約30cmを計る。断面形はゆるやかなV字形を呈する。東西方向で主流をもち西側はY-9区北辺で消滅する。総延長約15mにわたって検出した。埋土は黒灰褐色土層をベースにして上層は小礫を含み、下層は砂質となり小礫を含む。

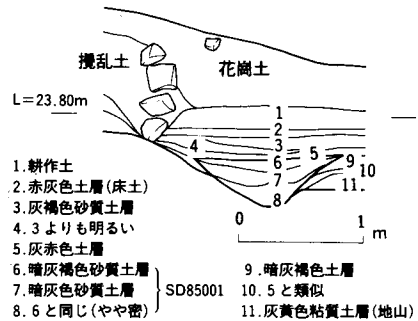


第86図 Y-8東壁土層図

遺物は、土師器の小片などが数点出土しただけである。S D85109の東側直近は市道が通っているために、調査はY-8区の東壁の部分までしかできなかった。幅約15mの市道をはさんで東側(Z・A-8区)でも溝状遺構(S D85004)が検出されている。方向がほぼ一致し、埋土も似ているためにS D85109はS D85004と同一の溝であった可能性もある。S D85004からは瓦器、瓦質土器などが出土しているためにS D85004は中世前半の時期が比定される。S D85109はS D85004と同一の溝であるとする中世前半の時期と言える。

S D85001

Z・A-6・7・8区で総延長約40mにわたって検出した。等高線にほぼ平行して、南北方向で主軸をもつ。Z・A-6区北壁の部分では、幅約1.2m、深さ約40cmを計る。断面形は、ゆるやかなV字形を呈する。埋土は灰褐色砂質土層で上層より下層の方がやや暗い色となる。中世遺物包含層が掘りこみ面となる。出土遺物は、土釜の脚、土師器の杯などである。掘削面、出土遺物より中世後半の時期が比定される。



第87図 Z-6北壁土層図

S D85004

Z・A-8区で東西方向に主流をもつ溝状遺構である。総延長約13mにわたって検出した。その中央部での規模は、幅約4m、深さ約1.2mを計る。断面形は西端がV字形を呈するが、東へいくに従って底が広く平坦になる。埋土は黒灰褐色の粘質土層をベースにして、黒色粒が混じったり、砂がかかったりして分層される。ややレンズ状となる層もあるが、ほぼ平行に堆積している。遺物は瓦器、瓦質土器の椀、土師器の杯、外面に蓮弁文を有する青磁椀などが出土している。中

世前半の時期が比定される。

前述したS D85109とのつながりについては、方向性、埋土からその可能性は強いといえる。しかし、市道をはさんで溝の規模に大きな差が認められる。そのことと合わせて、S D85004のような比較的大きな規模の溝が掘削された目的については、検出した範囲が限られたために不明とせざるをえない。

S D85006

Z・A-8区で総延長約10mにわたって検出した。幅約60cm、深さ約10cmを計る小規模な溝である。埋土は茶褐色土層の単一層で、土師器の杯・椀などが出土した。S B85018の中央部でほぼ直角に近い角度で屈曲し、S B85018から南に向かって流れをもつ。位置関係よりS B85018にともなう溝状遺構と考えられる。

S D85007

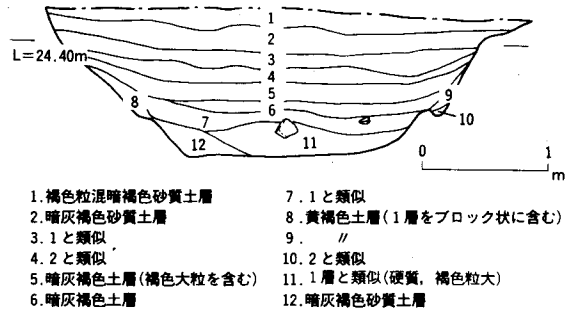
Z・A-8区で総延長約10mにわたって検出した。幅約30cm、深さ約10cm、断面形がU字形を呈する。埋土は茶褐色土層の単一層で土師器の土鍋片などが少量出土している。S B85019の西側の柱穴の並びと重なって、それとほぼ同一の主軸方位をもつ。S B85019との位置関係より、それにとともなう溝状遺構と考えられる。

S D85051

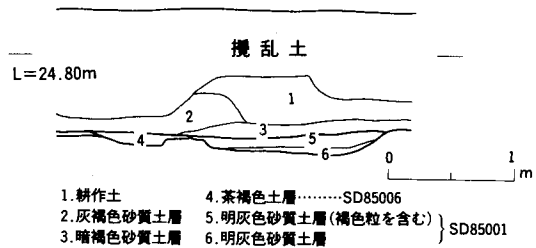
F-4(W)区で検出した。幅約30cm、深さ約15cm、断面形はゆるやかなU字形を呈する規模の小さい溝状遺構である。F-4(W)区の南壁から、南北方向で主軸を持ち、F-4(W)区北辺で消滅する。総延長約9mにわたって検出した。S B85023の主軸方位に平行してその東側直近に位置する。位置関係よりS B85023にとともなう溝状遺構であると考えられる。

S D85052

F-3(E)区で総延長約10mにわたって検出した。東西方向で主軸をもち、G-3区西辺で消滅する。幅約30cm、深さ約30cmの規模をもち、断面形はU字形を呈する。埋土は黒灰褐色土の単一層であるが、部分的に、炭化物を多く含み、黒紫色粘質土が広がっている場所もある。遺物は、土師器の杯などの土師器片、瓦質土器片が多く出土した。それ以外に壁土の焼けたものと思われる焼土も多く出土した。焼土の様相は、S B85024の柱穴から出土した焼土と同様に一面に平坦な面があり、もう一面に竹や角材に押しつけたと思われる痕が遺存するものが数点あった。



第88図 S D85004 土層図



第89図 Z-8 西壁土層図

S B 85024の壁が焼けおちて、S D 85052に廃棄したものと思われる。

S D 85052は、S B 85024の主軸方位に平行して南側直近に位置する。位置関係、出土遺物よりS B 85024にともなう溝状遺構の可能性が強い。

S D 85053・85054

F-3 (E) 区からG-3・4区にかけて検出した。幅は15~30cm、深さは15~5 cmの間におさまる。F・G列の境界付近でS D 85052に切られているために、S D 85053とS D 85054のつながりは明確ではないが、埋土、溝の規模、方向性より一本の溝状遺構と判断できる。南北に主流を持ち約30mにわたって検出した。G列4・5区の境界付近で、ほぼ90度に2度屈曲し南に向かう。G-4区の検出面では溝の深さは極めて浅くなり、南壁にむかってほぼ消滅しているといつてよい。

出土遺物は、須恵器・瓦質土器、土師器の小片などが多く出土している。その他焼土も少し検出されている。出土遺物より中世前半の時期が比定される。

また、S D 85053、85054はS B 85027、85028の西側直近で、それらとほぼ同じ主軸方位で並走していることより、建物遺構にともなう溝状遺構であると考えられる。

S D 001~S D 012

H・I-4・5区を中心として12本の溝状遺構を検出した。これらの溝状遺構の深さは5~10 cmの間に収まる。幅は20~30cm程度のものが最も多い。埋土は、灰褐色砂質土のほぼ単一層で、部分的に小礫を含んだり黒みが増したりする場所もある。

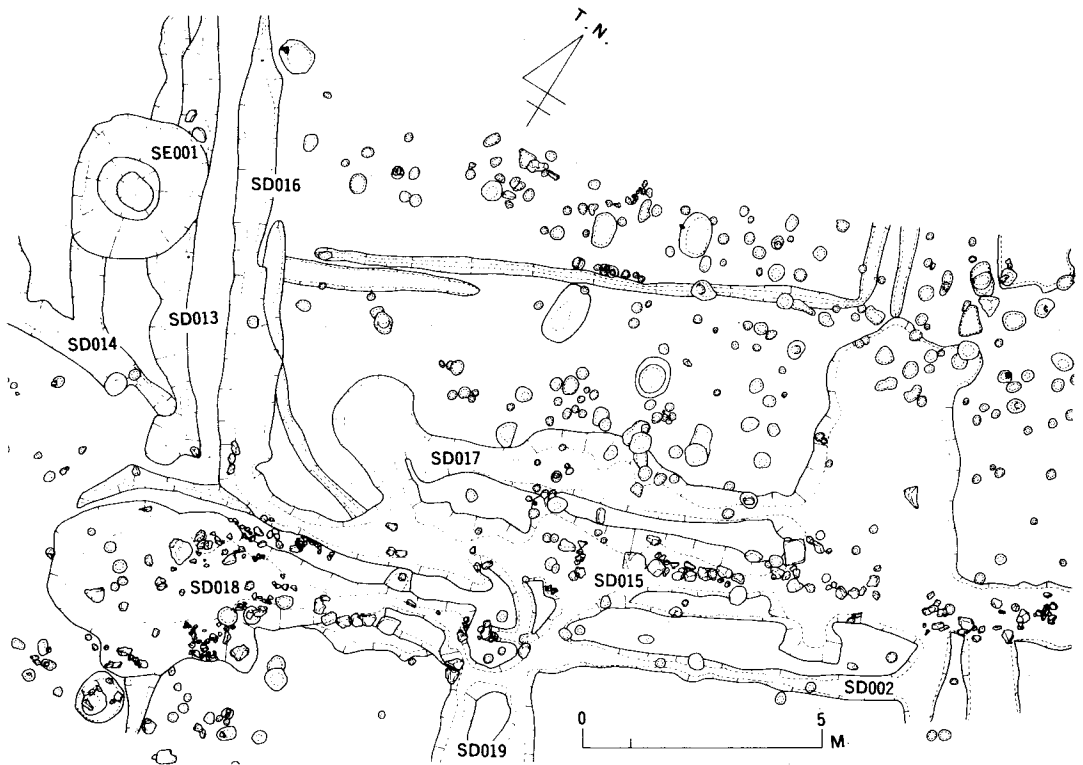
これらの中で比較的大きな規模をもつものが、S D 001~003である。いずれも、幅約1 m、深さは約10cmを計る。H列とG列の境界付近でこれらの溝は合流する。合流地点より西側にむかって比較的大きな礫が、掘り方の底面に密着して並んでいる。S D 001はG-5区でS D 015と合流するが、この礫の並びはS D 015では、いっそう顕著となる。

出土遺物は、土師器の土釜、土釜の脚、土鍋、すり鉢などの破片が多い。それ以外に土師器の小皿片、須恵器の小片なども出土している。出土遺物より、これらの溝状遺構の時期は中世後半が比定される。

これらの溝状遺構の主軸方位はN20°~27° W、あるいはそれに直交する方位をもつ。これは近辺で検出されている建物遺構の主軸方位とほぼ同一である。削平されている部分が多いため、溝状遺構のつながりなどの全容は不明とせざるをえないが、建物遺構と深いつながりを持つ溝状遺構であると考えられる。遺物遺構の直近で検出されたものは、S D 004、S D 008である。

S D 013~S D 019

G-4・5区では7本の溝状遺構を検出した。G-4・5区は、遺構が最も密集した場所であり、溝状遺構以外に掘立柱建物遺構6棟、井戸1基、土坑、多数のピットなどが検出されている。これらの遺構は互いに深いつながりがあるものと考えられる。とくに建物遺構と溝状遺構のつな



第90図 G-5区南半遺構配置図

がりは深く、検出した建物遺構のほとんどは、その主軸方位にそって、溝状遺構をともなっている。

S D 013～S D 019も S D 001～S D 012と同様に掘り方は浅く、検出面からの深さは5～20cmの間に収まるものが多い。主軸方位はN22°～25°W、それに直交する方向に集中する。埋土も S D 001～S D 012と同様に灰褐色砂質土をベースにしている。出土遺物は、土師器の土釜、土鍋が多い。それ以外に土師器の小皿、杯片、須恵器の小片が少量出土している。出土遺物より中世後半の時期が比定される。

G-5区西辺で井戸（SE001）を検出している。SE001を中心に黒灰褐色砂質土の幅約3mの帯状の堆積が南北方向を主軸にして認められた。掘り下げていくと二本の溝状遺構（SD013、SD016）となった。黒灰褐色砂質土の帯状の堆積はSE001より約5m南で、ほぼ直角に屈曲し東へ向かう。この部分での黒灰褐色土の上面での広がり、約5mにもおよぶ。掘り下げていくと三本の溝状遺構（SD015、SD017、SD018）となった。

このうちのSD015、SD018は掘り方の底面に密着して、比較的大きい礫の並びが認められた。SD015は東側でSD001につながっていく。礫の並びに関しては、SD015の礫が集中する場所で、SB006の南側の柱穴の並びと重なりをもつために、建物遺構と密接な関係がある並びとも考えられる。しかしSD001、SD018の礫が集中する部分で建物遺構が検出されていないために断定はできない。

G-5区を中心とした、遺構の密集地の検出状況は集落（SB004～SB009）をとり囲む西、

南に溝状遺構が存在し、それらは井戸（S E 001）と密接な関係にある、といえる。

S D 020～S D 028

F-5区を中心に検出した。溝状遺構の検出状況、規模、埋土、出土遺構については、S D 001～S D 019とほぼ同様といえる。

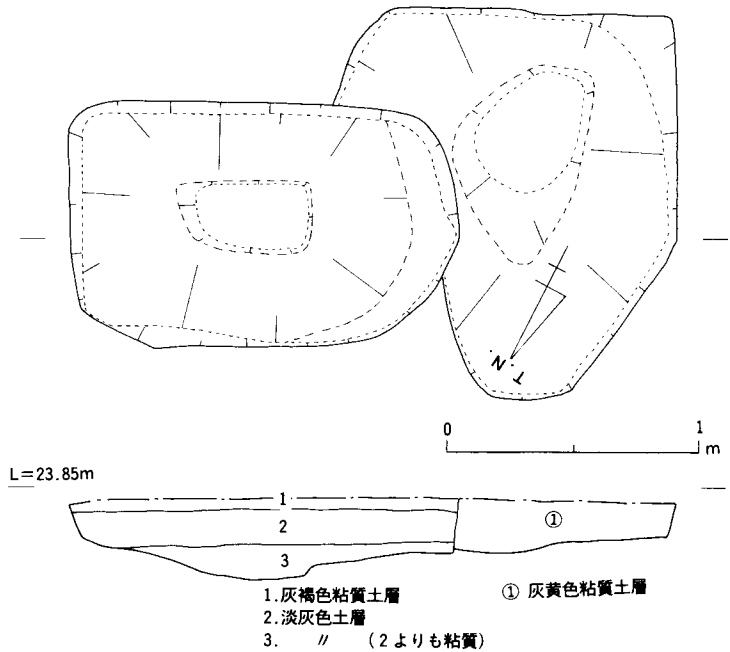
F-5区でも3棟の掘立柱建物遺構を検出しているが、9本の溝状遺構は、やはり建物と密接なつながりがあると考えられる。建物遺構との位置関係より、個別の建物遺構にともなう溝（S D 022, 023, 025）と建物遺構全体（集落）をとり囲む溝（S D 020, 029）にその機能を分けることができる。

また、F-5区西辺で井戸（S E 002）を検出している。S D 029は、集落の北側を囲み、F-5区北西隅で約90°南に向かって屈曲し、S E 002に合流している。したがってG-5区でも同様だが、集落を囲む溝状遺構は、井戸とも密接な関係にあったといえる。

③土坑

S K 85101, S K 85102

Y-9区北西隅で検出した。S K 85101がS K 85102を切っている。両方とも出土した遺物が、小片であるために、中世の土坑という以外は、明確な時期については不明とせざるをえない。S K 85101は楕円形状を呈し長軸154cm、短軸は98cm、検出面からの深さは32cmを計る。掘り方の底の部分に54×30cm大の方形の浅い凹みが認められた。埋土は



第91図 S K 85101・85102 平・断面図

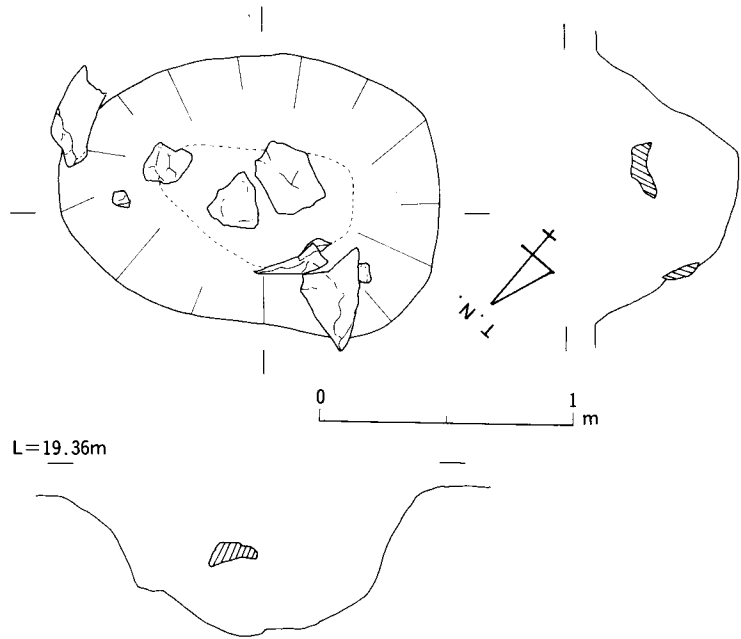
3層に分層され平行に堆積している。土器の小片以外に遺物が出土しなかったために、土坑の性格については不明とせざるをえない。

S K 85102は不整形な五角形状を呈する。S K 85101に一部を切られているために、全体の形状は不明である。S K 85101と同様に掘り方の底で浅い凹みが確認される。埋土は灰黄色粘質土の単一層である。土器の小片以外に遺物を検出しなかったために、土坑の性格は不明とせざるをえない。

S K 85003

F-4（E）区で検出した。掘り方の形状は楕円形を呈する。長軸150cm、短軸108cm、深さ約6

0cmを計る。淡灰褐色砂質土の単一層で、埋土中から数個の人頭大の安山岩が検出された。礫以外の遺物は、中世土器と思われる小片が数点出土したのにとどまる。中世の遺構という以外には、明確な時期については不明である。また、土坑の性格も不明とせざるをえない。



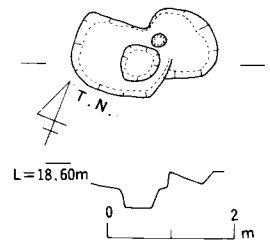
第92図 SK85003 平・断面図

SK001

G-5区で検出した。

二つの楕円形状を呈する土坑が切り合っている。

SK001は一方の土坑を切っている。埋土がほぼ同一であるために、上面で切り合い関係をつかむのは困難であった。長軸約160cm、短軸約120cmを計る。約20cm下がった位置で、約60×60cm大の隅丸形状を呈する掘りこみが確認され、掘り方は二段掘りとなっている。二段目の掘り込み面から底までは約32cmを計る。掘り方の底は平坦となっている。埋土は灰褐色砂質土の単一層で土師器の土釜片、土鍋片が出土している。



第93図 SK001 平・断面図

SK001はSB005の内側の中央やや北側の位置で検出された。SB005との位置関係より、SB005にともなう土坑である可能性が強い。

④井戸

SE001

G-5区西辺で検出された。断面形がV字形を呈する素掘りの井戸である。掘り方の上面での形状は隅丸形状を呈し、縦、横ともに約280cmを計り、ほぼ正方形となっている。深さは検出面から160cmを計る。

埋土はレンズ状に堆積し、4層に分層される。上層より灰褐色（茶褐色混）砂質土→灰褐色砂質土→暗褐色粘質土→黒灰色粘土となる。上層の3層からは、土師器の土釜・土鍋・小皿片が出土し、須恵器片も少量出土した。第4層の黒灰色粘土層の上面で土師器の完形の杯・小皿が1点

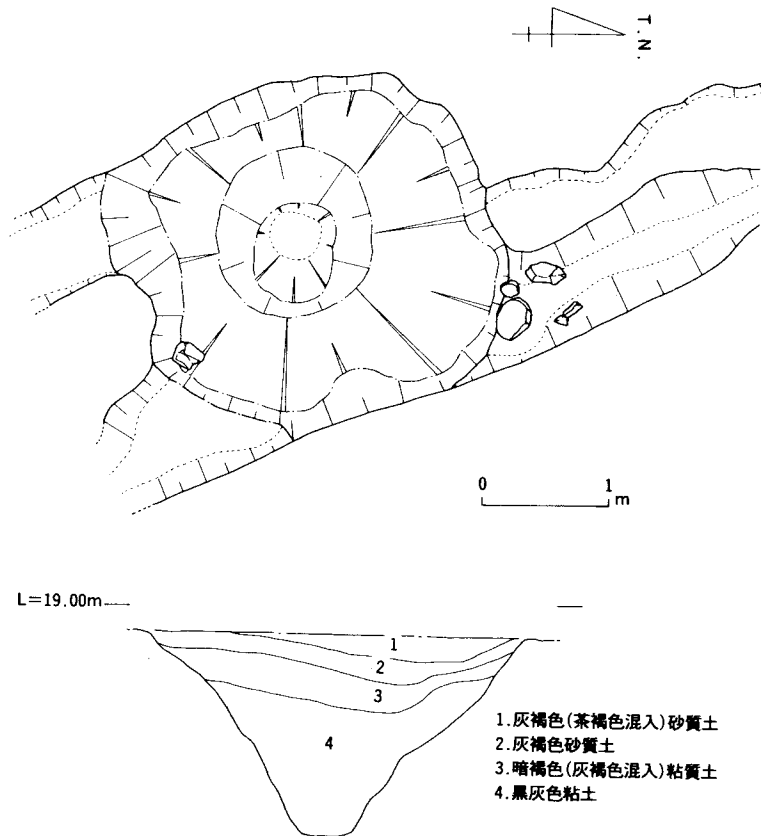
が、この面で検出されている。さらに黒灰色粘土のほぼ中間の位置で赤漆が施された木製の椀が1点出土している。出土遺物よりS E 001は中世後半の時期が比定される。

S E 002

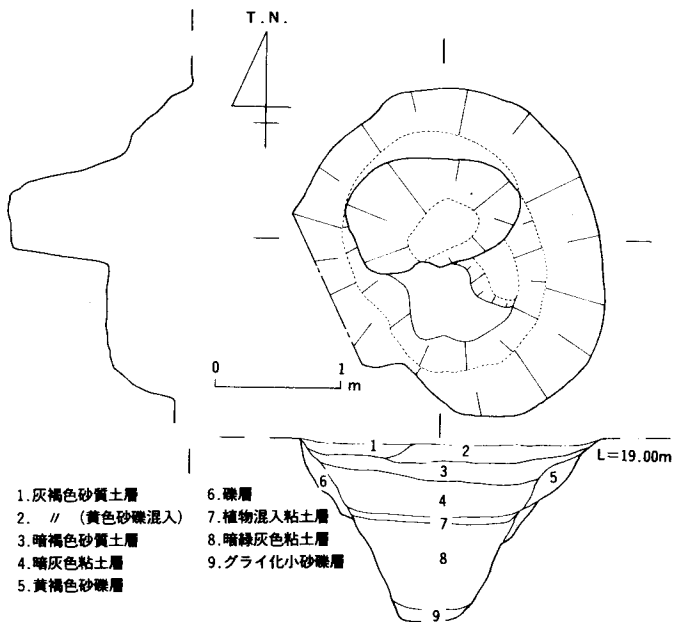
F-5区西辺で検出した。掘り方の上面は楕円形状を呈する。長軸約270cm、短軸約220cmを計る。長軸の主軸方位はN28°Wとなり、近辺で検出されている建物遺構の主軸方位とほぼ同じである。

南地の断面形は二段掘りの様相を呈している。検出面から約50cm下がった位置で平坦面があり、北側に片寄って長軸約130cm、短軸約85cmの楕円形状の二段目の落ちが確認された。二段目の掘り方の上面から底までは約80cmを計る。底面の形状も楕円形を呈し平坦となっている。東西の断面形は、S E 001と同様にV字形を呈している。

埋土はほぼ平行に堆積し、9層に分層される。第



第94図 S E 001 平・断面図



第95図 S E 002 平・断面図

3層までの堆積状況はS E 001の堆積とほぼ同一であるが、4層からの状況がやや異なる。掘り方の上方部分に砂礫層の堆積が確認される。また、暗灰色系の粘土層の間に木の枝などの植物を多く含む薄い粘土層が確認された。最下層はグライ化した小砂礫層となる。遺物はほとんど検出されず、4層から土師器の小皿の小片が1点出土しただけである。

S E 001とS E 002の検出された位置であるが、ほぼ共通性が認められる。いずれも掘立柱建物遺構が集中して検出された西側に位置する。また建物群をとり囲むように存在する溝状遺構が井戸に合流する、という点である。

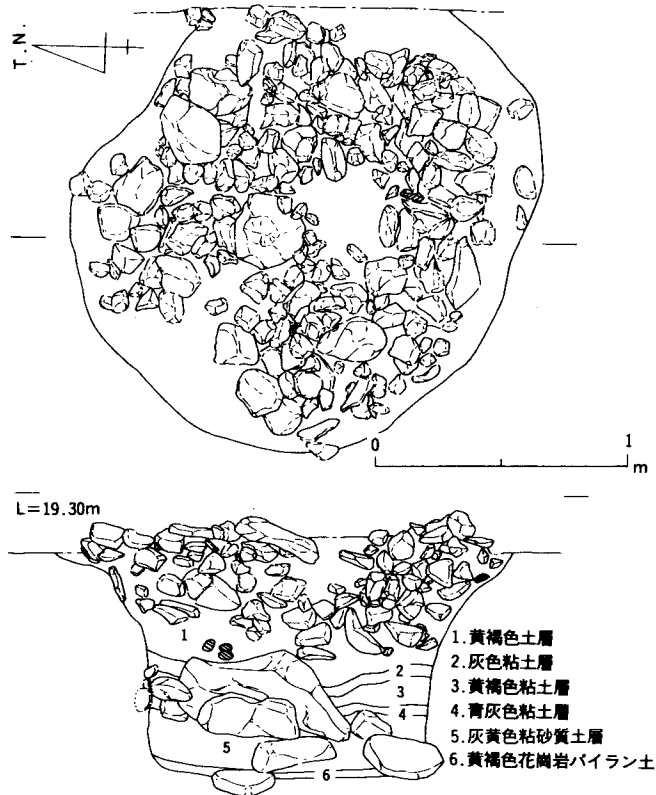
⑤その他の遺構

S X 85006

E-4区南東隅で検出した。掘り方の上面の形状は楕円形を呈する。長軸約190cm、短軸約160cmを計る。掘り方は上方が横方向に開くが、U字形を呈している。検出面からの深さは、約100cmを計る。検出面での上面の状況は河原石、安山岩質系の礫が無作為に放りこまれたような状況であった。上層より礫を除去していくと、ほぼ中間の位置で杭状を呈した木片が3点検出された。木片が検出された位置が境界となり、それより下層ではさらに大きな礫が検出された。

埋土は、ほぼ平行に堆積し、5層に分層される。上層より、黄褐色土→灰色粘質土→黄褐色粘質土→青灰色粘質土→黄色混灰色粘砂質土層となる。遺物は木片の他に1層の礫の間から土師器の碗の破片、土師器の小片、須恵器片が数点出土している。3～5層からは須恵器の杯の底部片、土師器の碗の底部片、土師器片などが出土している。出土遺物より中世前半の時期が与えられる。

遺構の性格については、掘り方の形状より井戸であった可能性も考えられる。上面から底面にわたって連続して検出された礫は、井戸を廃棄する際に放りこんで埋めたものとも考えられる。井戸であるとする、建物遺構が検出された西側に位置するという点ではS E 001、002と共通す



第96図 S X 85006 平・断面図

る。しかし、建物遺構が集中して検出された位置からかなり離れている。井戸に連続する溝状遺構が検出されていない。などの点でS E 001, 002の状況と異なる。したがってS X 85006の性格については、やはり不明とせざるをえない。

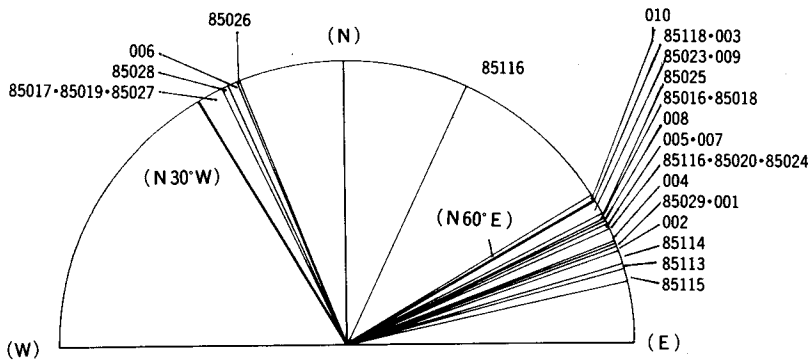
⑥まとめ

以上、中世の遺構について記述してきた。各遺構の時期については、中世前半と中世後半の2時期に区分した。この時期区分の根拠は必ずしも明確なものではない。前述したように黒色土器・瓦器・瓦質土器が検出されるか、それらが検出される遺構と同質の埋土をもつ遺構を中世前半とした。それらが、ほとんど検出されず、他の中世遺物が検出されるものを中世後半とした。調査区全域で土師器の小皿が出土した場所は多い。その出土状況を見る限りヘラ切り→糸切りの順は、時期決定をする根拠とはならない。ピット、土坑、井戸などから両者が共伴している例が多くみられるからである。

調査区内で検出された中世の遺構の広がり場所は場的に2箇所に分けられる。調査区中央のB・C・D列（東西幅60m）では全く中世の遺構は検出されなかった。この部分をはさんで、東側と西側で中世の遺構が検出されている。西側は特にX・Y・Z列に集中し、東側はF・G列に集中する。

X・Y・Z列とF・G列の遺構・包含層の出土遺物には違いが認められる。土師器の小皿・椀・杯などの出土状況は、ほぼ同じであるが、X・Y・Z列では黒色土器、瓦器、瓦質土器の含まれる割合が高い。F・G列では黒色土器・瓦器は1点も含まれず、瓦質土器がわずかに含まれるだけである。瓦質土器が含まれる状況はX-9区などではピットよりほぼ完形の瓦質土器椀が検出される例もある。それに対してF・G列では他の中世遺物に混じって、瓦質土器の破片がわずかに含まれる程度である。また、F・G列の中でも北側にあたるF・G-4区では柱穴、溝などから比較的多くの瓦質土器が検出されるが、南側のF・G-5区では、柱穴、溝からは、ほとんど検出されていない。また、2箇所の出土遺物の違いで、F・G-5区では圧倒的に土釜・土鍋が多く検出されている。柱穴からの出土遺物の大半が土釜・土鍋である。これに対してX・Y・Z列では土釜・土鍋も検出されるが、中世遺物に占める割合はF・G-5区に比較してはるかに少ないといえる。また、F・G-4区はF・G-5区と比較した時、土釜・土鍋の占める割合が少ない。

以上の遺物の検出状況よりX・Y・Z列を中心とした範囲は中世前半、F・G-5区を中心とした範囲は中世後半の時期が比定される。F・G-4区を中心とした範囲の遺構についてであるが、F・G-5区との間には前述したように遺物の出土状況の差が認められる。この差は瓦質土器の含まれる割合が多いか少ないかの違いである。中世前半と後半を区切る基準に従って、F・G-4区で検出された遺構については、中世前半とした。しかし、検出された遺構の位置を考慮した時、F・G列で検出された遺構は一つの遺構群と考えられる。この遺構群は一つの集落でそ



第97図 建物遺構の主軸方位

の集落の成立、機能した時期は14世紀前半～15世紀代と幅があると考える。

以上の時期を基準として、次に中世の遺構の主軸方位と時期について若干の考察をのべる。掘立柱建物遺構についてのみ主軸方位を検討した。溝状遺構については、F・G-4区に集中し、削平を多く受けているために、主軸方位の検討からはずした。

建物遺構の主軸方位は長軸の方向で出したために、N30° W、N60° Eという2種類の表記となっている。この2つの表記はN30° Wとそれに直交する方位ということで同一のものである。まとめるにあたっては、全て北から何度西にふっているかという表記にした。

建物遺構の主軸方位は、4つのグループに分けることができる。±2°を誤差として、N15° Wのもの3棟 (S B85113, 85114, 85115)、N20° Wのもの9棟 (S B85116, 85020, 85024, 85026, 85029, 001, 002, 004, 006)、N25° Wのもの12棟 (S B85016, 85017, 85018, 85019, 85023, 85025, 85027, 85028, 005, 007, 008, 009)、N30° Wのもの3棟 (S B85118, 003, 010)、N65° Wのもの1棟となる。N65° Wのものを除いて4つのグループについて考えたい。

これらの建物遺構の主軸方位の違いは、時期差を反映しているのかどうかを見るためにX・Y・Z列とF・G列に分けて主軸方位をみたい。X・Y・Z列ではN15° Wのもの3棟、N20° Wのもの2棟、N25° Wのもの4棟、N30° Wのもの1棟となる。F・G列ではN15° Wのもの0、N20° Wのもの7棟、N25° Wのもの8棟、N30° Wのもの2棟となる。X・Y・Z列の中世前半の時期とF・G列の中世前半の時期の主軸方位の違いは数字を見る限りないといえる。わずかに両者の違いはX・Y・Z列にN15° Wの主軸方位をもつものがあることである。したがって主軸方位の違いは時期差を反映しているものとはいえない。

しかし、一つの集落の中では、古いもの程北から西に振る角度は少ないということがいえる。F・G-4区では、溝状遺構との関係、建て替えなどを考慮した時N20° W→N25° Wとなる。またF・G-5区ではN20° W→N24° W→N30° Wとなる。これを基準にした時X・Y・Z列の遺構もN15° W→N20° W→N25° W→N30° Wの順番が考えられる。

建物遺構の主軸方位が、新しいものから古いものへと変化することが、何を意味するかについては断定はできない。しかし建物遺構の主軸方位は、周辺の地形（道・溝・畦畔）によってある程度限定されると考えられる。そうすると中世の時期にN15° W～N30° Wの主軸をもつ地形が周辺にあったものと考えられる。丸亀・善通寺平野には古代の条里制の痕が遺存し、その主軸方位はN30° Wと言われてきた。おそらく平野の西辺部にあるこの地域にも、中世にはいる頃には、条里制も普及していたと考えられる。N30° Wを絶対的なものだとすると、最大で15° の差がある建物遺構の存在をどう解釈するかについては、今後の課題となろう。

IV 遺物について

矢ノ塚遺跡から出土した遺物は、コンテナ（28ℓ入）数で400箱をこえる。出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、瓦器、瓦質土器、磁器、陶器、染付などの土器類と土器類以外に、石器、鉄製品、銅製品、銅銭、柱痕、獣骨、石帯などである。なかでも弥生土器が大半を占める。

弥生土器の種類は、壺・甕・鉢・高杯に分けられる。それ以外にミニチュア土器・分銅形土製品・銅剣形土製品・鳥形土製品などが出土している。これらの土器は弥生時代中期前半～後期中葉の時期のものである。なかでも中期後半の時期のものが最も多い。

土師器は椀・杯・皿・甕・小皿・土釜・土鍋・播鉢・鉢などが出土している。時期的には平安時代前半のものから中世後半までの広い時期に及ぶ。

須恵器は椀・杯・皿・杯蓋などで古墳時代後期から平安時代前半のものが出土している。

黒色土器、緑釉陶器、瓦器、瓦質土器は、ほとんどが椀である。平安時代前半から中世前半の時期に及ぶ。

磁器は青磁・白磁が数点、陶器、染付も数点が出土しただけである。

石器は、石鏃・石斧・石庖丁・スクレイパーなどが、弥生時代の遺構・包含層より多数出土している。

以下弥生時代の遺物から順次、記述していきたい。

1. 弥生時代の遺物

(1) 弥生土器

弥生土器は中期前半から後期中葉頃までの土器が出土している。後期の土器は量的には少ない。中期の土器については、各器種ごとに形態、凹線文の有無などでタイプ分けした。

形態の違いは壺、高杯に顕著に認められる。壺はA～Hの8種類に、高杯はA～Dの4種類に細別した。細別した各器種を凹線文の有無などに基づいて1～4に区別した。

1は、凹線文が全く認められないもの。

2は、凹線文が認められずに、口縁端部に凹線文以外の文様が施されているもの。

3は、口縁端部だけに凹線文が施されているもの。

4は、頸部に凹線文が施されているもの。以上の4つが基準となる。

さらに、3については(1)凹線文と他の文様が組み合わされているもの。(2)凹線文が明瞭なもの。(3)凹線文が不明瞭なもの。に細分化した。したがって、壺A₃-(2)とは、壺Aという形態で、口縁端部に明瞭な凹線文が施されているものをさしている。

甕₁は、凹線文が全く認められない甕ということであるが、口縁端部の形態の違いで、さらに3

つに細分化した。a. 口縁部が短く頸部との屈曲部から口縁端部に向かって細くなるもの。b. 頸部との屈曲部から口縁端部にかけては、ほぼ一定の厚さのもの。口縁端部をわずかに上方に拡張しているものもあるが、口縁端部を丸くおさめているもの。c. 口縁端部を上方に拡張しているもの。下方に拡張しているもの。口縁端部に平坦面を造り、強いヨコナデを施しているために浅い凹みが認められるもの。となる。

これらの弥生土器の胎土・色調については4つに区分した。I. 乳灰色を呈し砂粒を含む度合いが少なく細かい。II. 茶褐色、赤褐色、黄褐色を呈し砂粒を含む度合いが少なく細かい。III. 淡黄茶色、赤黄茶色を呈し1mm以上の砂粒を多く含み粗い。IV. I～III以外の胎土・色調のもの・朱色、灰色、黒色を呈するものがある。これらの区分は観察表の胎土の欄に記した。

また観察表の残存度については、口縁部の位置でのものである。口径・器高の数字に()がついているものは、残りが少ないために正確ではないということを示している。

①壺(弥生時代中期)

壺A

長い頸部から口縁部が、水平または水平より下方に開くもの。大きさ、施文には、かなりの幅がある。

壺A₁(1～7)、口縁部付近に凹線文が全くみられず、口縁端部に凹線文以外の文様も施されていないものである。小さいものが多く、最大口径をもつもの(6)でも16.1cmである。口縁端部は上下にやや拡張しており端面は平坦になっているものが多い。調整についてであるが、ヨコナデという用語をここでは、回転運動を利用してつけたナデと定義した。そうすると壺A₁にはヨコナデは全く認められない。口縁部内外面から頸部内外面の上半部の位置にはヨコナデとは違う、回転運動を利用せずにつけた横方向のナデが認められる。頸部上半部にハケ目が認められるもの(1・3・7)もあるがナデ消されているためにハケ目の全容はよみとりにくい。

体部から底部にかけての器形は土器全体が残るものがなかったために不明とせざるをえないが、おそらく球形に近い器形になると思われる。

口縁部内面には文様が施されていないものもあるが、手のこんだ文様を施しているもの(5・6・7)もある。文様の種類は斜線文、斜格子文、櫛描直線文である。櫛描直線文は、壺A₂になると同じ位置に列点文が見られるものが多い。

この櫛描直線文の施文の仕方を、最も残りのよい6でみると、口縁部内面に円形状に施されている。施文全体を器面におしつけて一度も離さずに連続して描きあげたものと考えられるが、各所で線が曲がっているために、回転運動を利用して描いたものではないことが解る。残りは少ないが5・7についても同様のことがいえる。

口縁部内面の文様以外に頸部には、刻目文(4)、断面三角形の突帯(2)がみられる。また4は、確認できる範囲で口縁部に2つの穿孔をもつ。

壺A₂（8～25）、口縁部付近に凹線文がみられずに、口縁端部に凹線文以外の文様が施されている。大きさは最小口径のもの（18）が13.0cm、最大口径のもの（8・9）は25.8cmを計りやや差がある。口縁端部は、壺A₁と比較すると下方に拡張されているものが多い。また壺A₁ではみられなかったヨコナデが認められるもの（10・15・16・18・21・22・24・25）も多い。これは壺A₂の重要な特色となる。

口縁端部に施された文様の種類は斜格子文、刻目文、刻目突帯文、斜線文、棒状浮文である。斜格子文、斜線文は口縁部内面の斜格子文から連続して施されているものが多い。幅の広い二重線で描かれているものが多いが、細い一本線で描かれているもの（12）もある。刻目文は右上がり、左下がりで施されているものが多いが左上がり、右下がりのもの（20）もある。また比較的大きい土器の中で口縁端面が広いものは刻目文を二段施しているもの（9・10）もある。その場合、上段は右上がり左下がりで、下段は左上がり右下がりとなっている。17は、他の土器と異なり口縁端部を丸くおさめている。その部分に、3本1組の棒状浮文を、一定間隔に施していると思われる。口縁部内面も3個1組の円形浮文と4個1組の小円孔文だけで飾られている点で他の土器とは異なる。21は比較的狭い口縁端面であるにもかかわらず1条の刻目突帯文を施している。口縁部内面から口縁端部上方にかけて合計4条の刻目突帯文を施し突帯と突帯の間に波状文を、突帯の最下方には列点文を施すという手のこんだ施文がなされている。17と同様に施文の方法で21は他に例が見られないものである。

口縁部内面の文様には、斜格子文、列点文、刻目突帯文、波状文、円形浮文、小円孔文がある。列点文には篋によるものが多く、それ以外に貝殻によるもの（16）もある。刻目突帯文には、断面三角形の小さなもの（21）と、幅の広い大きなもの（22）がある。いずれも波状文とともに用いられているという点で共通している。しかし、口縁部内面に突帯をもつものは稀で、多くは、斜格子文と列点文の組み合わせの文様が施されている。

頸部に施されたものとしては、断面三角形の突帯、指頭圧痕突帯文、刻目文、押圧文がある。これらの文様は突帯が1～3条のもの、刻目文が2段のものがあるが、共通することは、最も下方に位置するものが、頸部と体部の境界にあるということである。押圧文が施されている位置もこれと同じである。

調整については、頸部外面上半部はハケ目が施されているものがほとんどである。頸部内面上半部は、ヘラミガキが認められるもの（12）、ハケ目が認められるもの（8）があるが、ほとんどは、指ナデ、ナデで仕上げられている。体部から底部にかけて遺存するものがなかったために、全体の器形・調整については不明とせざるをえない。

壺A₃-(1)（26～34）、口縁端部に凹線文と凹線文以外の文様が合わせて施されているものである。口縁端部に凹線文が認められる以外は、口縁部付近に施される文様は、26・32を例外としてほとんど壺A₂と変化がない。口縁端部に施される文様は、刻目文、棒状浮文、円形浮文である。

そのうち刻目文と凹線文の組み合わせが最も多い。

口縁部内面の文様は、壺A₂と同じく斜格子文と列点文の組み合わせのもの（28・29・30・31・33）がよくみられる。30の列点文は、押圧文とする方が適当かもしれない。列点文以外には、34にみられるような斜格子文と簾状文の組み合わせのものもある。頸部には、断面三角形の突帯、刻目文が認められる。これらが施される位置は壺A₂と同じで、頸部と体部の境界である。

壺A₃-(1)の調整は、口縁端部より内外面ともに約3cm以内でヨコナデがほとんどの土器に施されているという特色がある。これは、口縁端部が凹線文により飾られることと密接な関係にあると考えられる。

また頸部外面には、縦方向の、頸部内面には横方向のヘラミガキが認められるもの（28・29・34）がある。壺A₂にも頸部内面にヘラミガキが施されている例があったがその外面はハケ目が施されていた。頸部の内外面ともにヘラミガキが施されているという点で壺A₂とは異なる。

壺A₃-(2)（35～78） 口縁端部に凹線文だけが施され、しかもそれが明瞭なものである。壺A₃-(2)とA₃-(3)の区別は必ずしも明確ではない。出土した土器の中には、磨滅が著しいために凹線文が不明瞭なものがある。これらの土器は、本来はA₃-(2)であるにもかかわらず、A₃-(3)に分類したものがあ

る。大きさは、口径が10cm前後のもの、15cm前後のもの、20cmをこえるものに分けることができる。10cm前後のもの口縁部の内面は、ほとんど文様は認められない。15cm前後のものは、円形浮文、竹管文、波状文、列点文、斜線文、斜格子文、簾状文などが施されている。特に口縁部内面に円形浮文が施されている土器がふえるのは壺A₃-(2)の特徴である。20cmをこえるものには、斜格子文、斜線文、列点文、櫛描直線文、簾状文、波状文、半円形連弧文などがある。これらは、壺A₁～A₃-(1)の口縁部内面の文様とほとんど変わらない。半円形連弧文（71・73）だけが壺A₃-(2)ではじめてみられる文様である。しかし、それが施されている71・73の施文には他の土器の文様と比較して稚拙さが認められる。それ以外に62・78の施文にも稚拙さが認められる。

頸部の文様は、断面三角形の突帯、刻目突帯文、押圧文などがある。刻目突帯文をもつもの（66）は、凹線文で壺A₃-(2)に分類したが、器形より判断して、後期初頭の壺であろう。頸部に文様が施される例は壺A₃-(2)では少なくなる。口縁部内面の文様も含めて、壺A₃-(2)では、10～15cm前後の比較的小さい口径をもつもので、全く加飾が認められないものが多くなる。

調整については、口縁部付近のヨコナデの範囲が広がっている。口縁端部から3cmをこえる範囲でヨコナデが施されているものがほとんどで、5cmをこえるもの（55・56）もある。ほとんどの土器の頸部外面には縦方向のハケ目が施され、その上からさらにナデを施している。頸部内面は、指ナデで仕上げている場合が多い。

それより下半部が遺存するものは、54・55だけである。54の最大腹径は体部中央部で、体部は、そろばんの玉状を呈している。55は、最大腹径が体部上半部で肩の張った球形状を呈している。

口縁端部が垂直のもの（54）と内反するもの（55）の別があるが、他の例からして時期の前後を決める根拠とはならない。体部から頸部、頸部から口縁部の境となる屈曲部が明瞭であるという点で55の方に後出性が認められる。頸部以下の調整については、両者にほとんど差が認められない。体部外面上半はハケ目が施され、最大腹径以下はヘラミガキが施されている。体部内面はハケ目と指ナデの痕が遺存する。体部外面の最大腹径の位置に施されたヘラミガキが54は横方向、55は縦方向に施されているという点だけが異なる。

壺A₃-(3) (79~116) 口縁端部に凹線文、あるいは、凹線文に近いヨコナデが施されているが、凹線文の起伏が不明瞭なものである。先に述べたように、壺A₃-(3)には、凹線文があったが磨滅のため遺存状況が悪いものも含まれている。

大きさは、口径が10~12cm前後に集中する。口径が15cmを越えるもの（107・109・110・111）20cmを越えるもの（112）は極端に少なくなる。それにとまって、今まで口縁部の内面に認められた文様のほとんどがみられなくなる。篋・櫛・半截竹管などで描かれた直線、曲線状の文様が変わって、円形浮文、棒状浮文、U字状浮文などの浮文が施されている例が多くなる。それ以外に壺A₃-(2)でみられた半円形連弧文（110）や列点文（109）などもある。円形浮文についてであるが竹管文と併用されて施されているもの（89・104・108）がある。その場合、口縁部に向かって竹管文が外側で円形浮文が内側となる。これは壺A₃-(2)（51）でも同じである。交互に大きさの違うものを配する例（107）、数個を1組に配する例（89）などがある。U字状浮文、棒状浮文は、ほとんど単独で施される場合が多い。

頸部外面に施された文様には、刻目文、押圧文、貝殻文、断面三角形の突帯などがある。これらが施される位置は、頸部と体部の境界である。

調整については、口縁部付近のヨコナデの範囲が壺A₃-(2)と同様に広く、頸部内外面上半部にまでおよんでいるものも多い。頸部外面は、ハケ目が、内面は指ナデが施されているものが多い。体部から底部にかけての器形が解るものが3点（114・115・116）ある。体部中央部で最大腹径をもち、ほぼ球形状となる。体部外面上半部には、ハケ目が施され、下半部には縦方向のヘラミガキが施されている。体部内面はハケ目の上からナデが施されている。おそらく口径10~12cm前後に集中するものは、同様の器形・調整であると思われる。

壺A₄（117） 頸部に凹線文が施されているものである。117の1点だけである。長い頸部に4条の凹線文が施されている。一本の凹線の幅が明確でないために、強いヨコナデを施したために生じた起伏とも考えられる。同様のものが口縁端部にも認められる。強いヨコナデを施したために、2条めの凹線文のようにもみえる。頸部上半部に円孔をもつ。口縁部内面はヨコナデ、頸部内面は指ナデが施されている。

壺B

長い頸部から口縁部が斜め上方向に開くもの。大きさは、口径20cmをこえる大きいものが多

い。口縁端部を上下両方に拡張させ平坦面を造り出し、そこに数多い（4～5条）凹線文を施している。

壺B₁ (118) 118の1点だけである。頸部から口縁部先端にかけて先細りになっている。口縁端部は、ほぼ平坦面となっている。口縁端部付近には、横方向のナデの痕が、一部認められるが、磨滅が著しいために、ヨコナデかどうかの判断はつかない。頸部と体部の境に背の高い断面が三角形の刻目突帯をもつ。体部上半部には、6条の櫛描直線文が施されている。1例だけなので壺B₁の一般的な特徴は不明である。胎土は4～7mmの砂粒を多く含み粗く、色調は橙色を呈している。これは矢ノ塚遺跡においては、後期の土器に多く見られるものである。突帯の背の高さなどと合わせて、後期の壺の可能性が高い。

壺B₃-(1) (119～132) 口径で20cmを越える大きいものが多い。そのうち30cmを越えるものも多い。120・121はそれぞれ、口径13.0, 10.0cmを計り比較的小型のものである。頸部の長さから壺Bよりも壺Cである可能性が高い。

口縁部内面には、全く文様は施されていない。口縁端部の文様は、凹線文以外に、刻目文、円形浮文、棒状浮文、U字状浮文がある。頸部には、刻目文、断面三角形の突帯が施されている。

口縁端部を、上下両方に強く拡張し、凹線文を施している。ヨコナデの範囲も広く、口縁部内外面から頸部内外面にまでおよんでいるものも多い。頸部外面にはハケ目が施されている例が一般的である。頸部内面はハケ目 (119)、ヘラミガキ (123)、指ナデなどにより調整が施されている。ほとんどがハケ目の上からナデ調整を施したものと思われる。ヘラミガキが施されている123は器形も他の土器と異なる。口縁端部の上方への拡張はなく、口縁部を「く」字状に下方へ折り曲げて端面を造り出している。口縁端部の収め方については126も特異である。下方への拡張はほとんどなく上方へだけ強く拡張する。上方へ拡張させた部分の上方でさらに平坦面を造り出し、その部分にヨコナデを施している。頸部以下に関しては遺存するものがなかったために、器形・調整については不明とせざるをえない。

壺B₃-(2) (133～152) 壺B₃-(1)と同様に比較的大型のものが多いが、口径30cmを越えるものはない。したがってB₃-(1)よりやや小型化するといえる。137・138は壺Cに139・140は壺Dになる可能性が高い。頸部外面には、刻目文、ハケ原体の押圧文がみられる。それらは頸部と体部の境に施されている。口縁部内面には文様は全く施されていない。

調整は、磨滅のため不明のものもあるが、ほとんどの土器の頸部外面にはハケ目が施されていると思われる。150は、ハケ目、ヘラミガキの両方が遺存している。145は、縦方向のヘラミガキが施されている。頸部外面にヘラミガキが認められる両者は、口縁部および頸部上半の内面には強いヨコナデが施され、凹線状の起伏が遺存しているという共通点をもつ。

口縁部内外面あるいは頸部上半内外面までヨコナデが施されているものもある。頸部内面は、ハケ目とナデにより調整されている。ハケ目が遺存するものは、136・144・152である。いずれも

横方向のハケ目であるが、特に136は、ハケ目が平行になるように、丁寧に施されている。頸部以下は壺B₃-(1)と同様に不明とせざるをえない。

壺B₃-(3) (153~157) 口縁端部は、上下に拡張されているが、B₃-(1)・(2)のように顕著でない。端面が狭くなることにともない、凹線も3条までとなる。磨滅が著しいために、調整不明のものが多いが、基本的な調整は壺B₃-(1)・(2)と同様だと思われる。156の頸部には、刻目文が施されている。

153・154は、口径7.8cm、9.4cmを計り小さい。154は口縁部内面に円形浮文が施されることより壺Aとなる可能性もある。しかし、壺A・Bの凹線文が不明瞭となる時期の両者の違いは、器形に関しては、ほとんどないといえる。壺A・Bの区別はなくなり、口縁端部に凹線文がほとんどみられなく口径が10cm前後の小型のもの(153・154)か、口縁端部に浅い凹線文が残る口径が20cm前後のものかに大別される。口径20cm前後のものは「ハ」字状に口縁部が開くが、口縁部内面には全く文様は施されない。(155・157)

壺C

短い頸部から口縁部が斜め上方向に「ハ」字状に開くもの。口縁部が開く角度は、45°方向のものが多いが、45°から直立の間で、やや立ちかげんに開くものもある。大きさは、口径10cm前後のものから30cmを越えるものもあり、差は大きい。

壺C₁ (158~166) 口径で最小のもの11.2cm (164)、最大のもの20.2cm (166)と比較的大小の差が少ない。口縁端部の取め方は、丸くおさめているもの(158・159)と平坦面を造り出しているものにわかれる。平坦面を造り出しているもののなかには、口縁端部を拡張させているもの(161・162・163・166)が多いが、拡張の度合いは少ない。口縁部付近の調整は166がヨコナデが施されている以外は、全てナデにより仕上げられている。166のヨコナデの範囲も口縁部内外面とも2cm程度で比較的狭い。

体部外面上半から頸部にかけては、縦方向のハケ目が認められるもの(158・165・166)もあるが、多くは磨滅が著しいために不明である。166は、頸部内面にも横方向のハケ目が遺存する。

文様に関しては、頸部に指頭圧痕突帯文、断面が三角形の突帯が貼り付けられている程度で手のこんだ施文は行なわれていない。159は、体部の上半から頸部にかけて、櫛描直線文が施されている。頸部上半の直線文は屈曲が激しく平行には施されていない。口縁端部の取め方や、体部上半部の立ち上がり外彎気味であるということと合わせて、159は特異な例といえる。

体部中央以外に関しては、遺存するものがないために、調整、全体の器形については不明とせざるをえない。

壺C₂ (167~182) 口径が20cmを越える大型のものが多い。それにともない器壁も厚く作られている。比較的薄いものは、172・173・175・176であるが、175・176は口径が他のものよりも小さい。172・173は頸部が他よりも短くやや器形で差が認められる。後述する壺Dに近い器形であ

るが、頸部の屈曲が壺Dと異なるために、壺Cとした。

口縁端部は上下両方に拡張され、広い平坦な端面が造り出されている。そこに施された文様は、斜格子文、斜線文、押圧文、刻目文などがある。177・178は口縁端部の拡張が比較的少ないもので、ともに斜線文が施されている。線が細く密に施されており、先端の鋭利な細い工具が用いられたことが解る。173は細いハケの原体を押しつけて施されたものと思われる。頸部に施された文様のほとんどは指頭圧痕突帯文である。それ以外に刻目文が施されているもの(175)がある。175の刻目文は爪により施されている。壺C₂の頸部まで遺存するもので、頸部に文様が施されていないものは177だけである。177は口縁端部の拡張、口縁部の立ち上がりが壺C₂では特異な例といえる。

口縁部の調整には、ヨコナデのものとなデのものがある。一つの土器でも口縁部外面がヨコナデ、内面がナデというもの(170・174・181)もある。体部外面上半から頸部外面には縦方向のハケ目が施されているものが多い。その内面には横方向のハケ目が遺存するもの(177・178・182)と縦方向のハケ目が遺存するもの(168・173)とがある。ほとんどは、ナデにより消されていると思われる。頸部内面にヘラミガキが認められるものは171・181とともに横方向に施されている。

体部が遺存するものは、173だけである。前述したように173は壺C₂の一般的な形態を持つ土器でないために、壺C₂の体部以下の器形については、不明とせざるをえない。

173は、体部中央で最大腹径をもつと思われる。そうすると、体部から底部にかけての器形は横に長い楕円形状を呈する。体部最大腹径の位置に刺突による列点文がある。それより上半部はハケ目、下半部はヘラミガキを施している。内面は全体に縦方向のハケ目を施した上から、横方向のヘラミガキを間隔をあけて施している。

壺C₃-(1)(183~188) 口径が20cmをこえる比較的大型のもので器壁が厚いものが多い。口縁端部を上下方に拡張させ、そこに凹線文を施している。口縁端部の取め方で、184は上方を垂直方向に拡張し直立する端面を造り出しているという点で他と異なる。凹線文以外の文様は刻目文と棒状浮文である。184だけに棒状浮文が施されている。頸部には、ほとんどが指頭圧痕突帯文が施されている。

調整は、口縁端部内外面には全てヨコナデが施されている。磨滅のため調整不明のものが多いが、183の頸部内面にわずかに横方向のハケ目が認められることより、壺C₂と同様の調整が施されていると思われる。188は口頸部内面に横方向のヘラミガキが認められる。

壺C₃-(2)(189~233) 壺C₂・C₃-(1)と比較して、小型化したものが多くなる。口径14~18cmに集中し、20cmを越える大型で器壁が厚いものは極端に少なくなる。

頸部には指頭圧痕突帯文、刻目突帯文、刻目文、押圧文などが施されている。しかし、突帯は薄く幅の狭いものとなり明瞭でなくなる傾向をもつ。壺C₃-(2)全体で、頸部に文様をもつ例の方が少なく、全く加飾されていないものが多くなる。

口縁端部の拡張は、器壁が薄くなるということと関連して上下両方への拡張はいつそう顕著となる、頸部に文様がないものの方が文様があるものと比べて口縁端部の拡張がより強いといえる。

口頸部は内外面ともにヨコナデにより調整されている。ハケ目は口頸部には認められず、頸部と体部の境界より下半で施されている。体部から底部にかけての器形の全てが遺存するものはないが、比較的残りのよい218より体部以下の調整・器形はある程度、想像できる。器形については、壺C₃-(3)の段階では、234よりその全容が解る。それから類推すると、最大腹径は、体部中央よりやや上に位置するものと思われる。それより底部にかけての器形は、234程には細長くはならず、やや球形状におさまると想像できる。

218の調整は、体部の最大腹径の位置に刻目文が施されている。体部外面の上半にはハケ目が遺存する。ハケ目の上から縦方向のヘラミガキが施されているが、これは底部まで続くものと思われる。体部内面は、上半部にハケ目が施され、中央部には縦方向のヘラミガキが認められる。中央部より下半部にかけてはヘラ削りの痕が遺存する。この218にみられる器形・調整が、壺C₃-(2)に一般的だと思われる。

231は、他の土器と比較した時、口径21.2cmを計り大きい。口縁部も長く、口縁端部を上方に拡張し、直立した端面をもつということで特異な例といえる。

壺C₃-(3) (234~248) 口径で20cmを越えるものは全くみられなくなり、最大のもの(234)で17.3cmを計る。頸部の文様は、刻目文、指頭圧痕突帯文があるが、加飾のないものが多い。

口頸部は内外面ともにヨコナデが施され、基本的な調整は壺C₃-(2)と同様と思われる。体部から底部にかけての器形は、234にみられるように、体部中央より上半で最大腹径をもち、やや肩の張った、上下に長い楕円形状を呈する。体部外面下半には縦方向のヘラミガキ、内面下半にはヘラ削りが認められ、先の218と同様の調整になっていると思われる。

口縁端部は、全体としては上下両方向に拡張されている。しかし247にみられるように頸部に全く加飾がないもので、口縁端部の拡張がさほど顕著でない例もある。235も同様に口縁端部の拡張があまり顕著ではないが、体部と頸部の屈曲部、口縁部の立ち上がりが内彎気味という点で特異な例である。

壺D

体部から口頸部が鋭角的に屈曲し「く」字形に開くもの。口径で大きいものと小さいものの差が大きい。

壺D₁ (249~252) 口径30cmを越える大型のものが多い。口縁端部は上下両方にやや拡張している。平坦な面を造り出し、そこにヨコナデを施している。口縁部内外面もヨコナデにより調整されている。体部外面上半には縦方向の、内面上半には横方向のハケ目が認められる例(251・252)がある。

頸部と体部のくびれ部分には、いずれも指頭圧痕突帯文が施されている。252は体部上半に刻目文が認められる。体部下半から底部にかけては遺存するものがなかったために不明であるが、体部中央部で最大腹径をもち、横に長い楕円形状を呈する器形になるものと思われる。

壺D₂ (253~258) 口縁端部の拡張は、壺D₁と同程度である。口縁部内外面は、ヨコナデが施され、体部外面上半部には縦方向のハケ目が認められるという一般的な調整手法である。口縁端部の文様は刻目文に限られる。頸部の突帯は、指頭圧痕突帯文と刻目突帯文がある。体部以下については不明であるが、壺D₁と同様だと思われる。

壺D₃-(1) (259~264) 口縁端部が上下に拡張される。比較的数少ない凹線と刻目文がそこに施されている。頸部のくびれ部分には指頭圧痕突帯文、刻目突帯文が施されているが、突帯が認められないものもある。

口縁部内外面にはヨコナデが施されているが、それが体部の上半にまでおよんでいるものも多い。体部上半はハケ目が認められるもの(259)がある。体部内面は、横方向のヘラミガキ(259)、縦方向のヘラミガキ(260)が認められるものがあるが、一般的な調整手法とはやや異なる。体部以下については遺存するものがないために不明とせざるをえない。

壺D₃-(2) (265~279) 口縁端部の拡張が著しく、口径30cm前後の大型のものが多い。口縁端部に施される凹線文の数も3~5条となり壺D₃-(1)よりも増える。口縁部のヨコナデは、ほとんどが体部の上半にまでおよんでいる。頸部には指頭圧痕突帯文、刻目突帯文が施されているが、それが少ないものが多い。

体部外面上半には縦方向のハケ目が認められるもの(268・272)があり、内面には横方向のヘラミガキが認められるものがある。体部以下については不明とせざるをえないが、壺D₁などと同様に体部中央で最大腹径をもち横に長い楕円形を呈する器形になるものと思われる。

壺D₃-(3) (280~292) 口径が15cm以下の小型のものがみられるようになる。286・287は口頸部の屈曲より壺Cである可能性が高い。全体の器形・調整については、小型であるが288~290より推察できる。

器形については、体部中央で最大腹径をもち、横に長い楕円形の体部をもつが、全体は上下に圧縮された六角形状を呈する。口径と最大腹径の差が小さいもの(288・289)と大きいもの(290)に分けられる。体部上半から口縁部しか遺存しないものでも、頸部のくびれ部分からの体部の開き方で、どちらの器形になるかの予想は容易である。

288~290の調整は、体部外面にはヘラミガキ、体部内面はハケ目の上からナデ調整を施している。磨減が著しいために細かい調整については不明である。290の体部外面上半のヘラミガキは、おそらく特異な例で一般的には、縦方向のハケ目が施されている場合が多いと思われる。

口縁部内外面にはヨコナデが施され、壺D₃-(2)と同様に内面では、体部上半にまでヨコナデがおよんでいる。頸部に突帯が施される例もあるが、数は少ない。

壺E

頸部から口縁部が内彎気味に立ち上がるものである。なかには、最初は外彎するが途中で屈曲し、屈曲部より外彎気味に立ち上がるものもある。口径は10~13cm程度のものが多く、大型のものは極めて

少ない。

壺E₁ (293~325) 全体の器形は293・310で解る。体部中央で最大腹形をもち、293は縦に細長い楕円形状を呈する。310はそれよりも丸味を帯びる。293の底部は、体部と比べると厚くなっている。310の底部は欠損しているため不明であるが、293より薄いものであると思われる。口縁部の調整は、293はナデ、310はヨコナデが施されていることより、293の器形が前出するものであろう。この器形は、壺E₁だけに限らず、壺E全体の一般的な器形であると思われる。

口縁部の調整についてはナデのものとヨコナデのものがあるが、ヨコナデが施されているものがほとんどである。ナデが施されているものは、293・296・300・323である。口縁部が屈曲しているもの、口縁部外面に突帯があるものはこの中にはない。口縁端部に刻目文が施されている(300・323)だけである。したがって口縁部に全く加飾がないものはナデが施されている場合が多いといえる。ヨコナデが施されているものの中でも、突帯が1条のものと2条以上施されているものでヨコナデの範囲が違ふ。突帯1条のものは口縁部上半の内外面約2cm以内に限られるが、2条以上のものは、口縁部の下半にまでヨコナデがおよんでいる場合が多い。

口縁部の貼り付け突帯は、断面が三角形を呈し、その上から刻目文が施されているものと施されていないものがある。2条以上施されている場合は、全て刻目文が施されている。それ以外の文様としては、口縁部外面に棒状浮文をもつもの(297)、頸部に指頭圧痕突帯文をもつもの(323)があるが、これらは特異な例である。また317は刻目突帯文の下方より、櫛描直線文、波状文が施されているが一般的な施文ではない。

ヨコナデ以外の調整については、体部外面上半から口縁部にかけては縦方向のハケ目が施されている。体部最大腹径の位置には293・310ともにハケ原体の押圧文が2段に施されている。それ以下はヘラミガキにより仕上げられている。体部内面には縦方向のハケ目が全面に施されているが、口縁部内面には横方向のハケ目が認められるもの(293・314)もある。293の体部上半にはタタキ目と思われる圧痕が遺存する点で他のものと異なる。

口縁端部は内反する傾きをもつものと、水平なものとの別はあるが、やや拡張させ平坦面を造り出しているという点で共通している。

壺E₂ (326~328) 壺E₁と比較して口縁端部はやや拡張され、口径は比較的大きいものが多い。端面には斜格子文、円形浮文が施されている。326~328の口縁部外面には4条の貼り付け突帯が施されている。おそらく数条の突帯が施されるものと思われる。

口縁部外面のヨコナデの範囲は広く、口縁部全面に施されている。328は口縁部外面下半にハケ目が内面にはヘラミガキが認められる。327は口縁部が外彎するという点で一般的な壺Eとは違った器形である。

壺E₃ (329~336) 口縁端部が上下に拡張され、1~2条の凹線文が施されているものである。凹線文と併用して口縁端部の下端には、刻目文をもつもの(329~331)がある。

形態上の特徴は、口縁部外面に1条の断面三角形の突帯（刻目文があるものとなないものがある）をもつか、口縁部が外彎し途中で屈曲して内彎しながら立ち上がるものかのどちらかに限られるということである。口縁部の内外面はヨコナデによって仕上げられている。

壺E₄（337～341） 内彎する口縁部外面に数少ない凹線文が施されているものである。凹線文は浅い不明瞭なものが多くヨコナデによる起伏と思えるようなもの（339・341）もある。口縁部内外面はヨコナデにより仕上げられている。頸部外面にはハケ目が遺存するもの（341）がある。337は頸部外面に指頭圧痕突帯文が認められるが壺E₄では特異な例といえる。

壺F

体部と頸部のくびれ部分から長い口縁部が直立あるいは、直立からやや外彎する方向で立ち上がるもの。体部以下が遺存する例はないが、そろばんの玉状を呈するものよりやや丸味を帯びる器形となると思われる。口径は10cm以下のものも多く、10cm前後に集中し、大小の差はないといえる。

壺F₁（342～350） 口縁端部はわずかに上下両方に拡張し、端面を平坦に造っている。そこにヨコナデが施されているが、ヨコナデは口縁部上方の内外面におよんでいる。磨滅が著しく調整が不明なものが多いが、頸部外面にハケ目が残るもの（345・350）がある。348の口頸部外面には、縦方向のヘラミガキが認められるが、口縁端部の収め方が他と異なり先細りとなっている。おそらく後期の土器になる可能性が高いと思われる。

体部と頸部の境に列点文、ハケ原体による押圧文、断面三角形の突帯などが施されている。347の口縁部上方には刻目文の施されたU字状浮文が認められるが他に例はない。

壺F₃-(3)（351～354） 口縁端部に凹線文が施されているものである。口縁端部がほとんど拡張されていないために、施される凹線文は1条だけである。口縁端部の凹線文と合わせて口縁部外面最上方にも1条の凹線文が施されている。

351・354はハケ原体の押圧文が頸部に施されている。351・353・354の口頸部外面にはハケ目が認められる。

壺F₄（355～366） 口頸部の外面に幅の広い凹線文が数条施されているものである。360の例を除くと凹線文の条数は4条～12条の間におさまる。360は口縁部の上半に2条の凹線文しか施されていない。凹線文は太く明瞭なもの（364～366）とヨコナデによる起伏と思われるような不明瞭なもの（359・361・363）とがある。口縁端部を拡張させてそこにも凹線文を施しているもの（357・361～363・365）もある。口縁端部を拡張させ、円形浮文を施す例（358）もある。366はやや横方向に開く口縁部内面に円形浮文を施しているものである。口頸部の内外面は、おおむねヨコナデにより調整されている。体部以下については、不明とせざるをえない。

壺G

外彎する頸部から屈曲し、口縁部が垂直に立ち上がるもの。第1～3の手法にあるものではなく、全て第4手法の壺である。

壺G₄ (367~372) 口径で最小のもの(367) 8.2cm, 最大のもの(368) 18.2cmで差が認められる。口縁部外面に2~7条の凹線文が施されているが、太く明瞭なもの(368~371)と浅く不明瞭なもの(367・372)とがある。口縁端部の取め方も丸く収めているもの(367・371), 平坦面を造り出しているもの(369・372), 拡張しているもの(368・370)に分けられる。口縁端部を拡張しているものは、そこにも凹線文が施されている。また口縁端部を丸く収めているものは、口縁部外面の凹線文も不明瞭である。口縁部内面にはヨコナデが施されている。

体部以下の器形は367にみられるように、球形状になるものが一般的だと思われる。体部外面上半部は縦方向のハケ目が施され、中央部以下はヘラミガキによって仕上げられるという壺にみられる一般的な調整手法が施されている。体部内面には指ナデの痕しか遺存しないが、おそらくハケ目の上から指ナデを施したためにハケ目が認められないものであろう。

壺H

いわゆる無頸壺である。体部から連続して口縁部が内反するものと、体部から屈曲し口縁部が内反しながら立ち上がるものの二つの器形がある。口縁部に円孔をもつ例が多い。体部以下は、壺Dとほぼ同様の器形になるとと思われる。

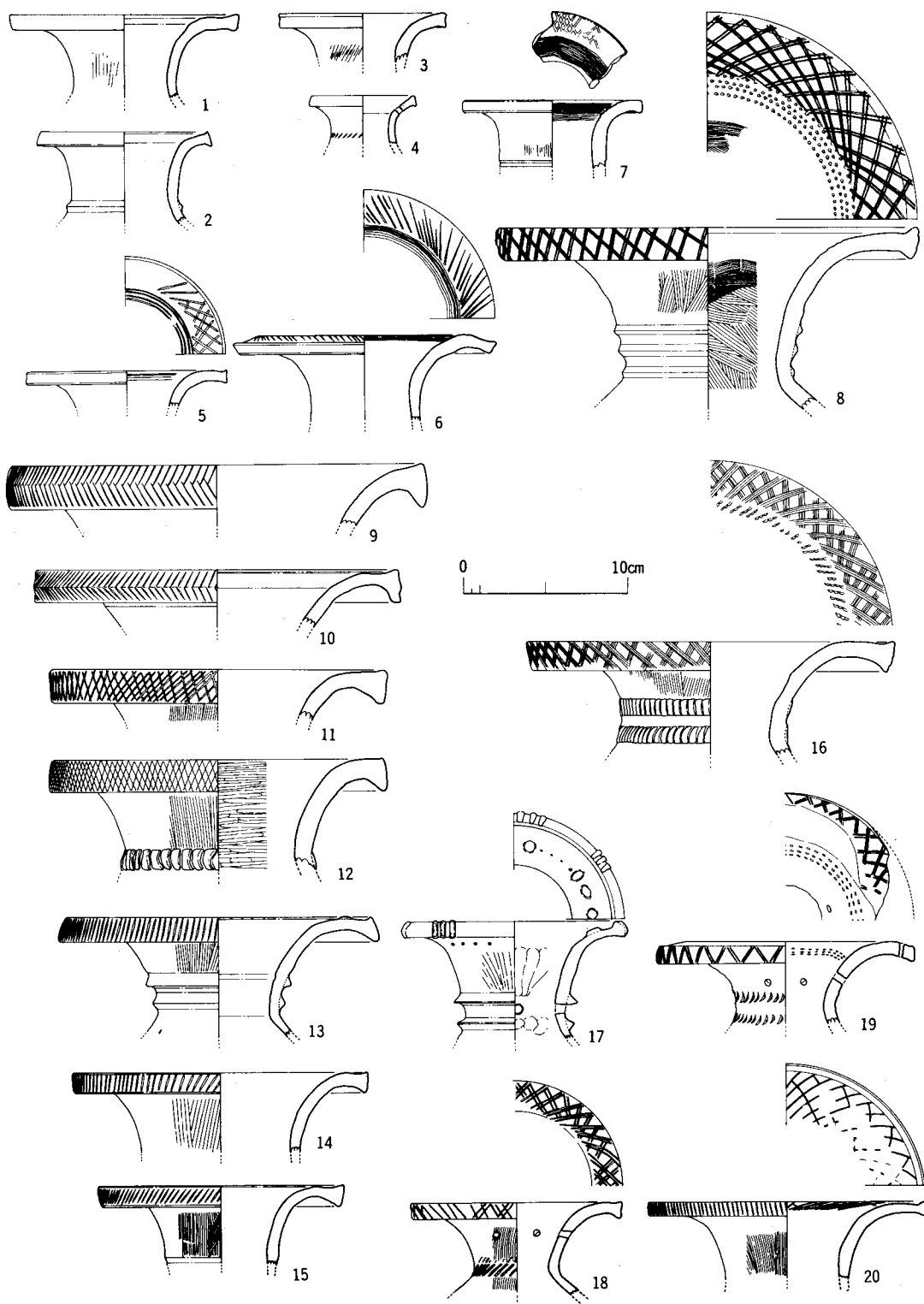
壺H₁ (373~377) 口縁部外面に刻目突帯文、断面三角形の突帯が施されているものが多い。口縁端部をわずかに拡張させて、ヨコナデを施しているが、口縁部にヨコナデが及ぶ範囲は狭い。体部内面の調整はヘラ削りが認められるもの(374), ハケ目が認められるもの(377)がある。375の体部外面にはハケ原体による押圧文、ハケ目が認められる。

壺H₃-(3) (378・379) 口縁端部に凹線文が施されているが、凹線文は2条で不明瞭である。いずれも口縁部外面に断面三角形の突帯が1条施されている。磨滅のため調整は不明な部分が多いが、ヨコナデの範囲は壺H₁より広がるものと思われる。379の内面には横方向のヘラミガキが認められる。

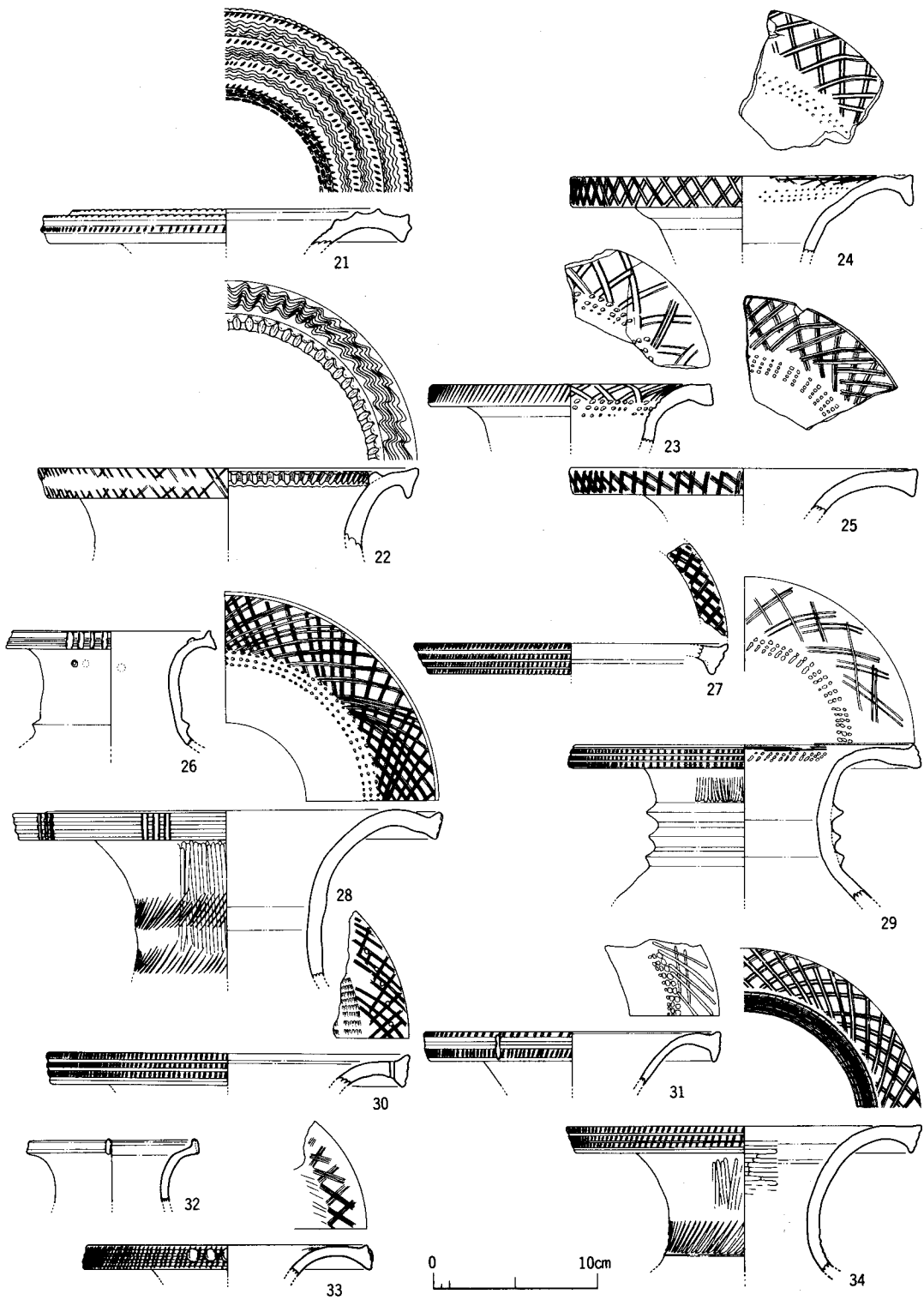
壺H₄ (380~390) 口縁部外面に凹線文が施されたものである。凹線文の数が少ないもの(2~3条)は不明瞭な凹線文が、数の多いもの(4条以上)は明瞭な凹線文が施されている。口縁端部は拡張され、そこに凹線文が施されている例もある。ヨコナデは口縁部内外面にとどまらず、体部外面上半までおよんでいるものもある。

口縁部外面の凹線文以外に多くの文様が施されている。口縁端部には波状文、刻目文、鋸歯文が認められる。口縁部外面には鋸歯文が、体部上半には波状文、刻目文、押圧文、櫛描直線文、鋸歯文、菱形文などが施されている。特に鋸歯文(387・390)については他の壺には認められなかった文様で壺H特有の文様ということがいえる。

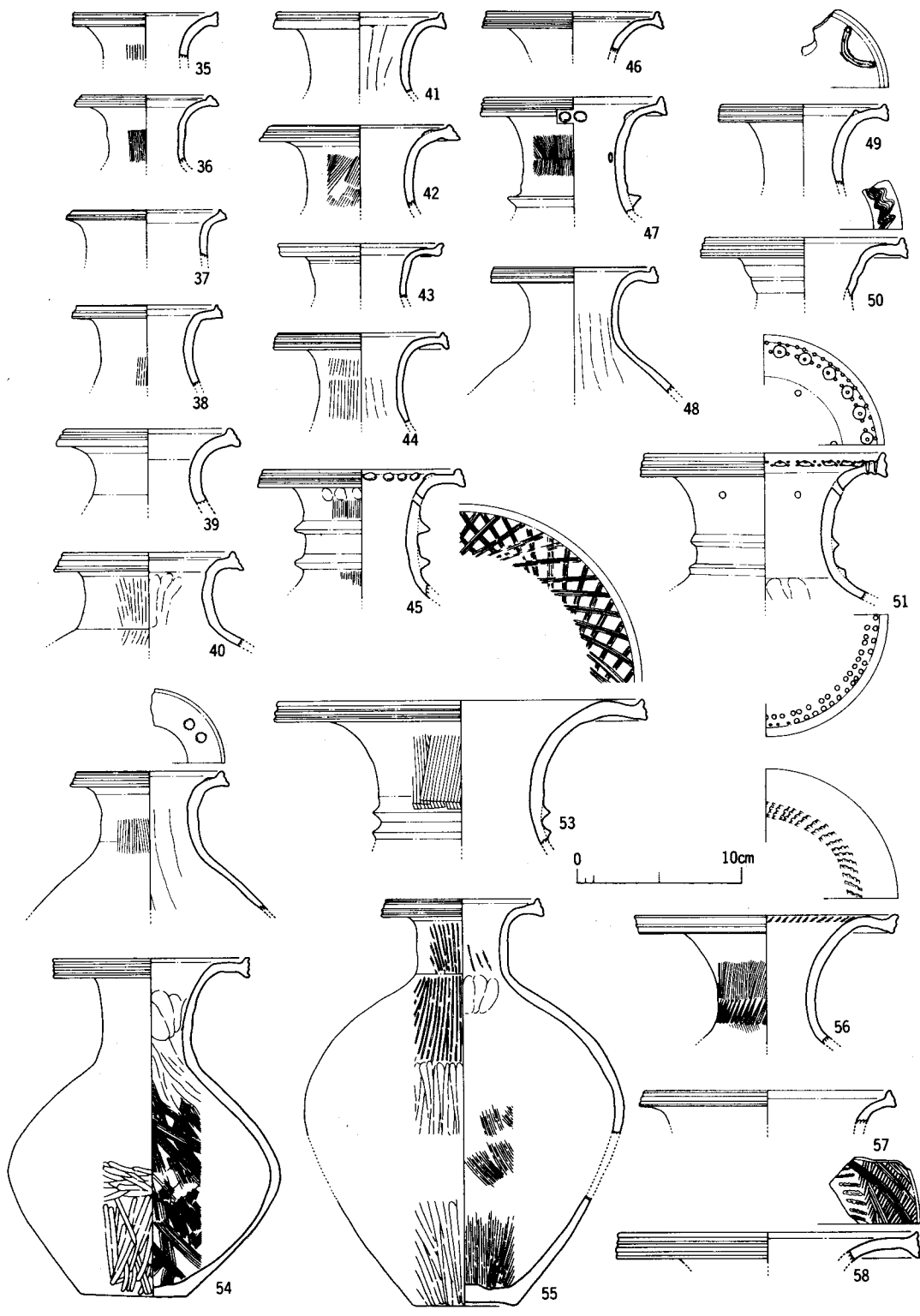
体部以下の調整は380にみられるように、体部外面上半に縦方向のハケ目、下半にはヘラミガキ、体部内面には横方向のハケ目が施されており、一般的な調整手法である。



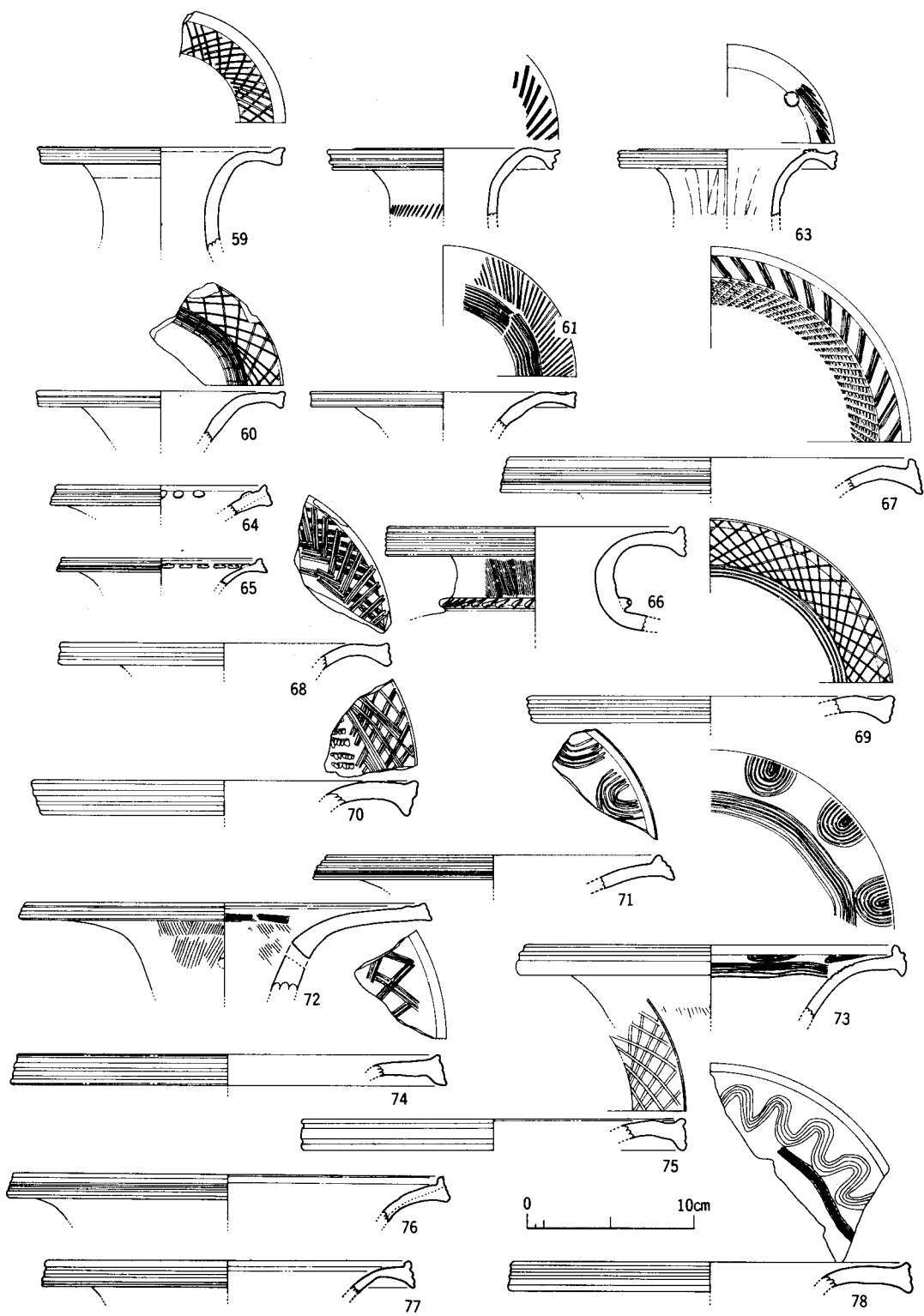
第98图 弥生土器 壺A₁・A₂实测图



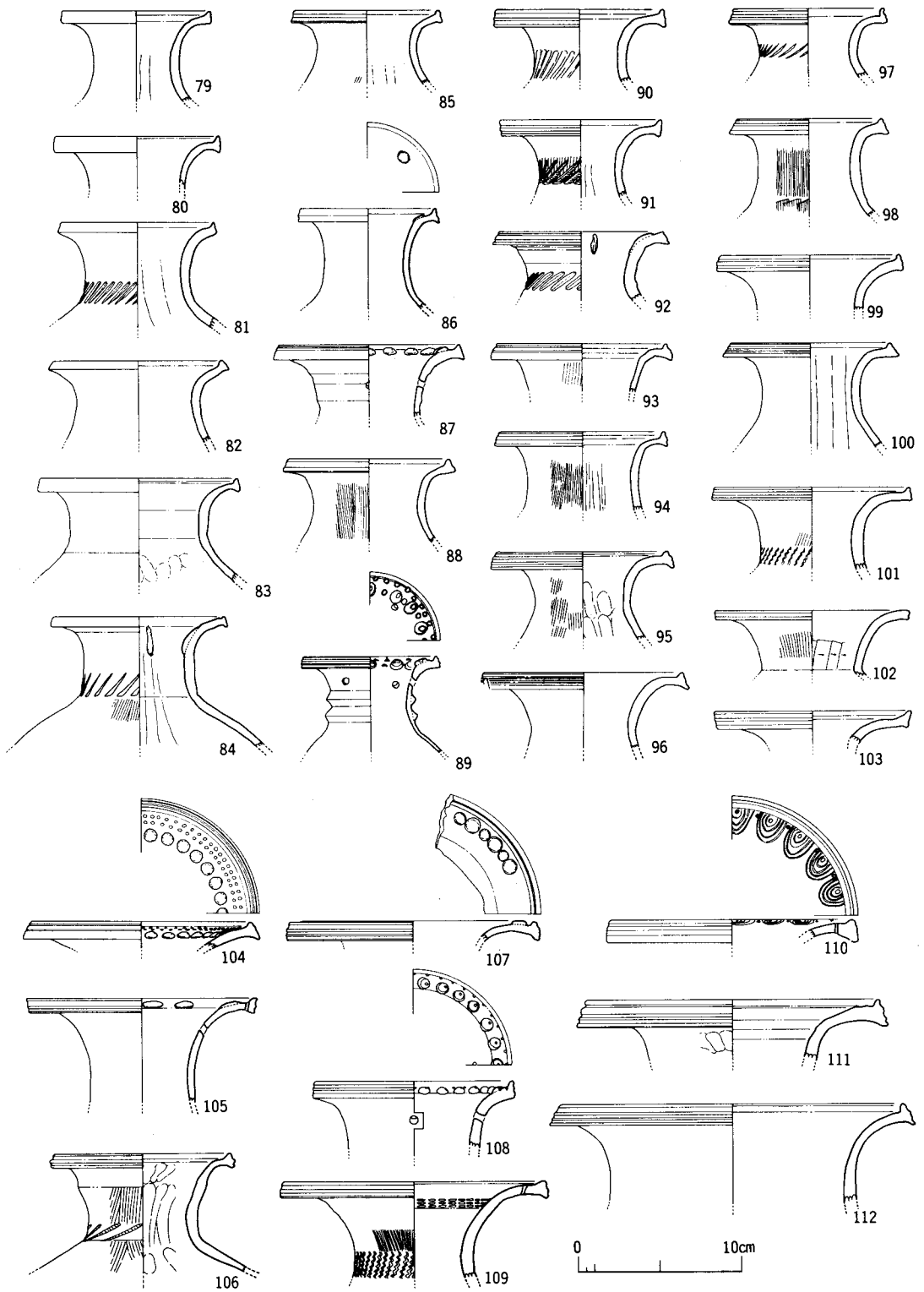
第99图 弥生土器 壺A₂・A₃-(1)実測図



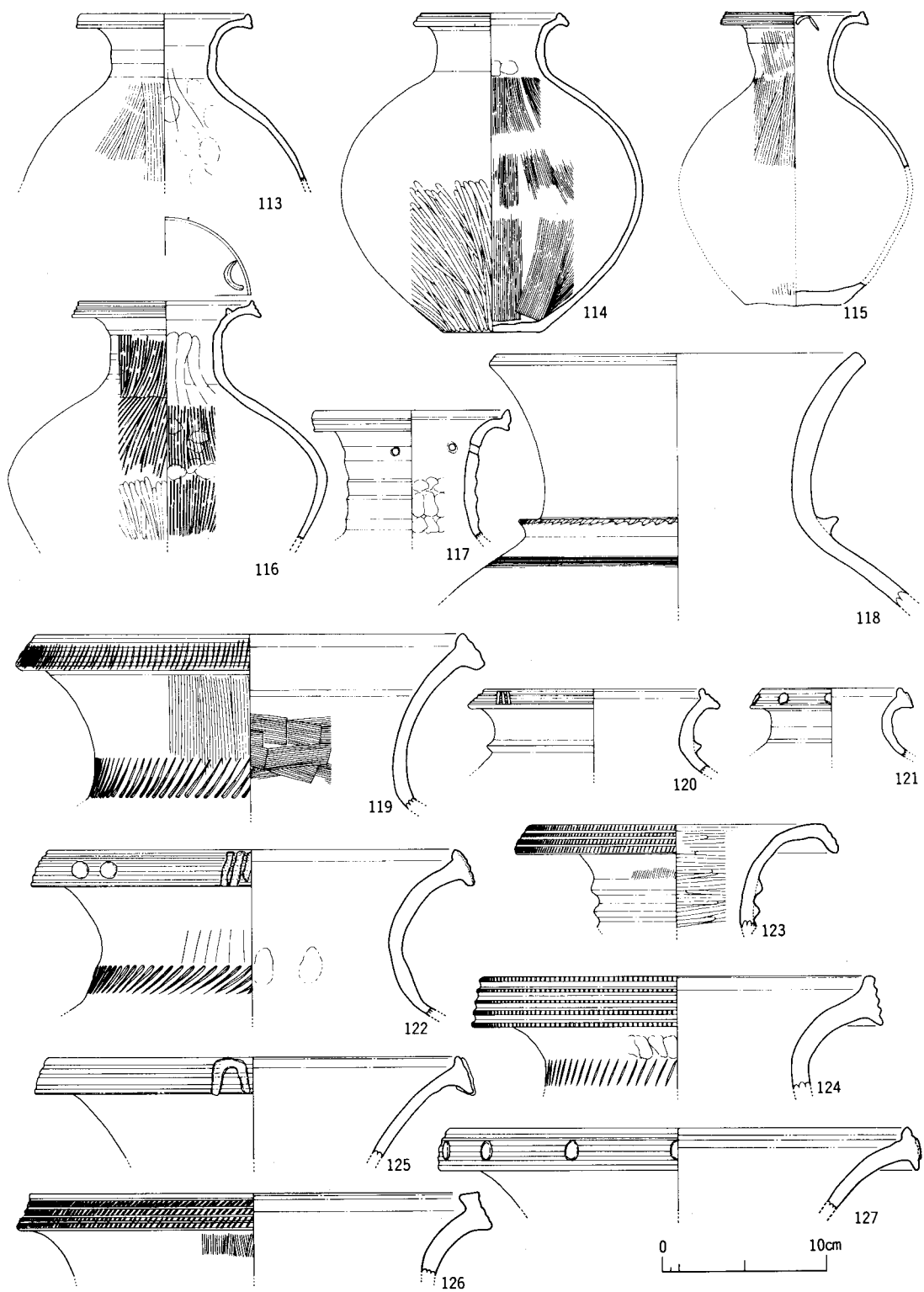
第100图 弥生土器 壺A₃-(2)实测图



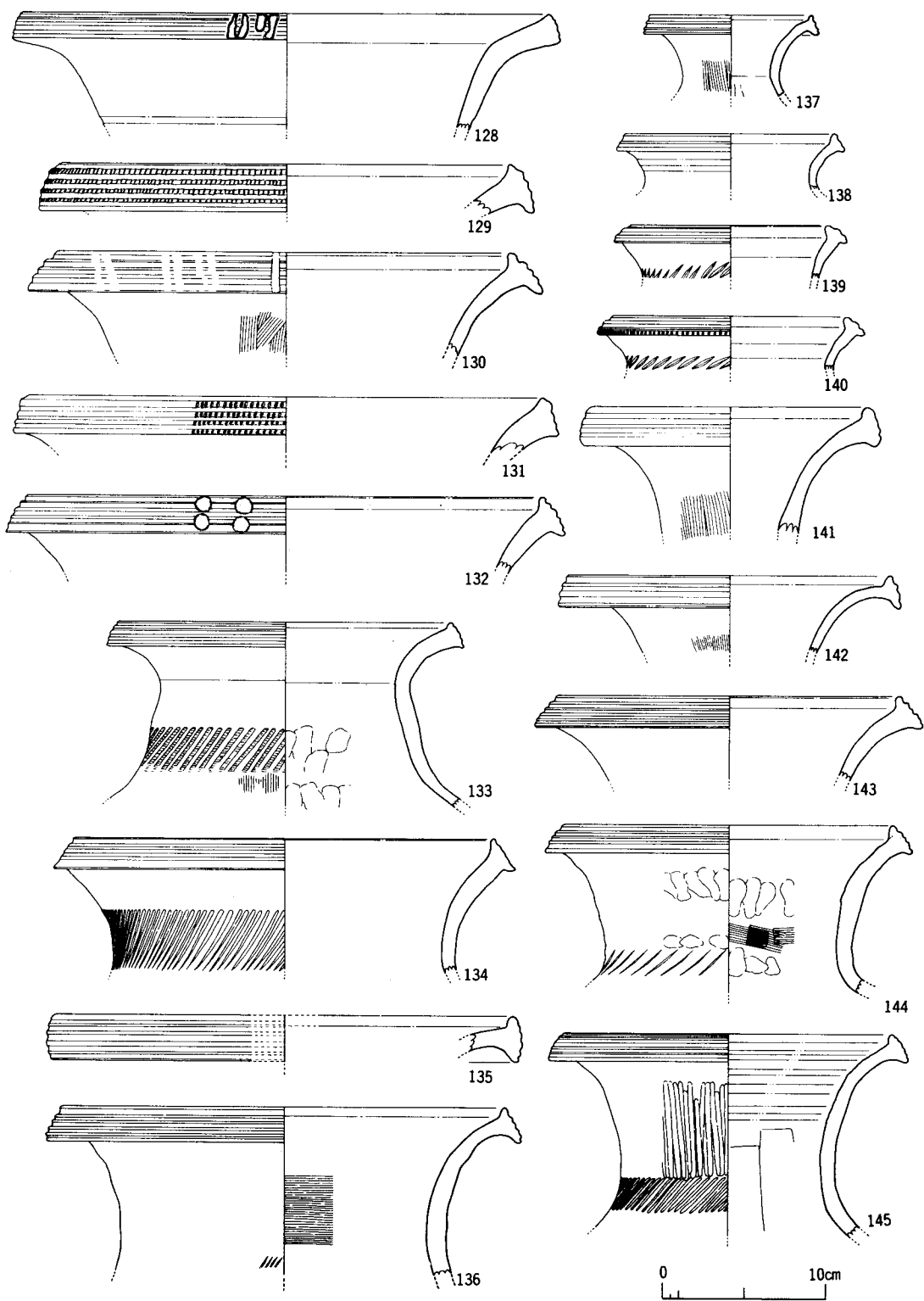
第101图 弥生土器 壺A₃-(2)实测图



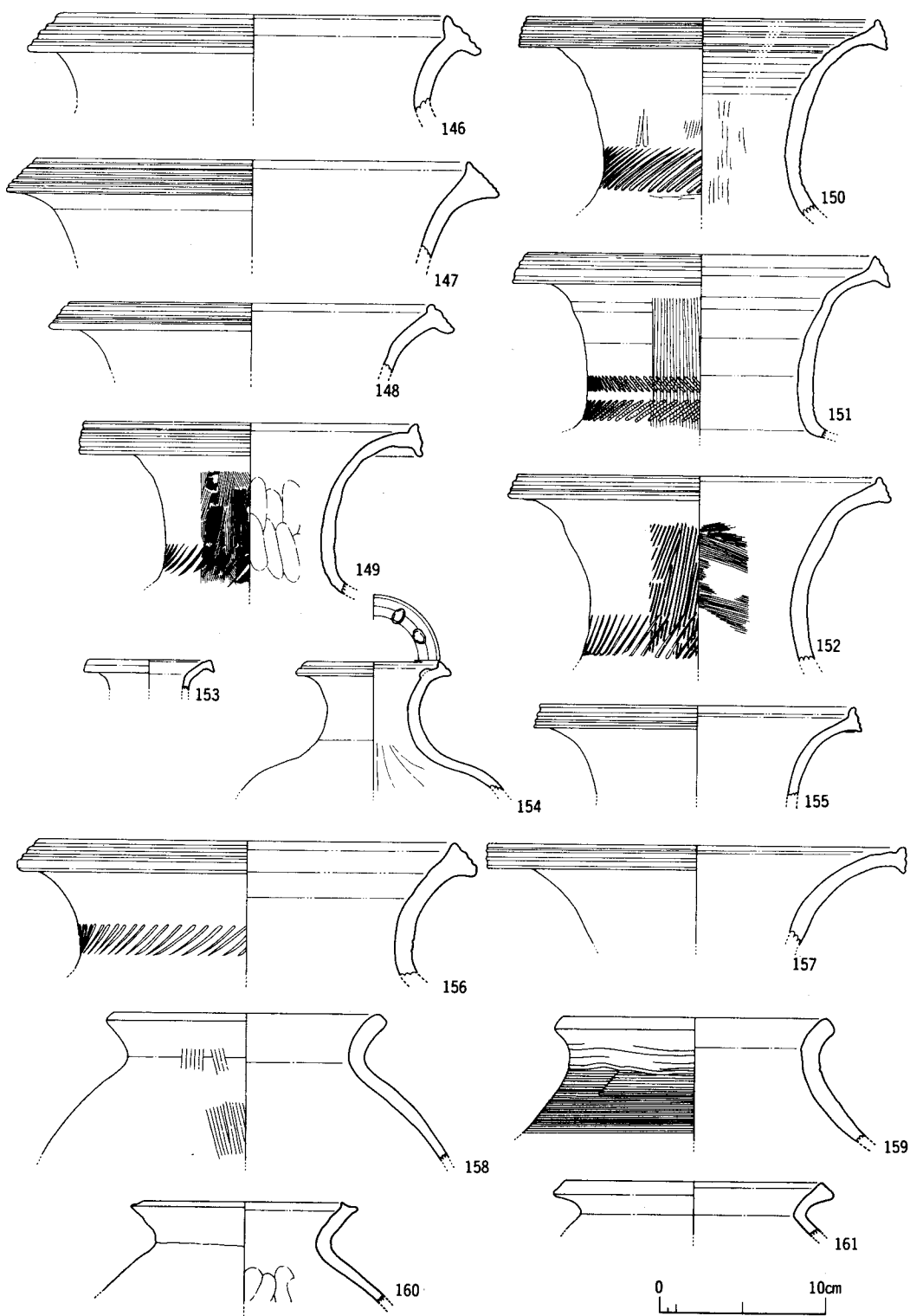
第102图 弥生土器 壺A₃-(3)実測图



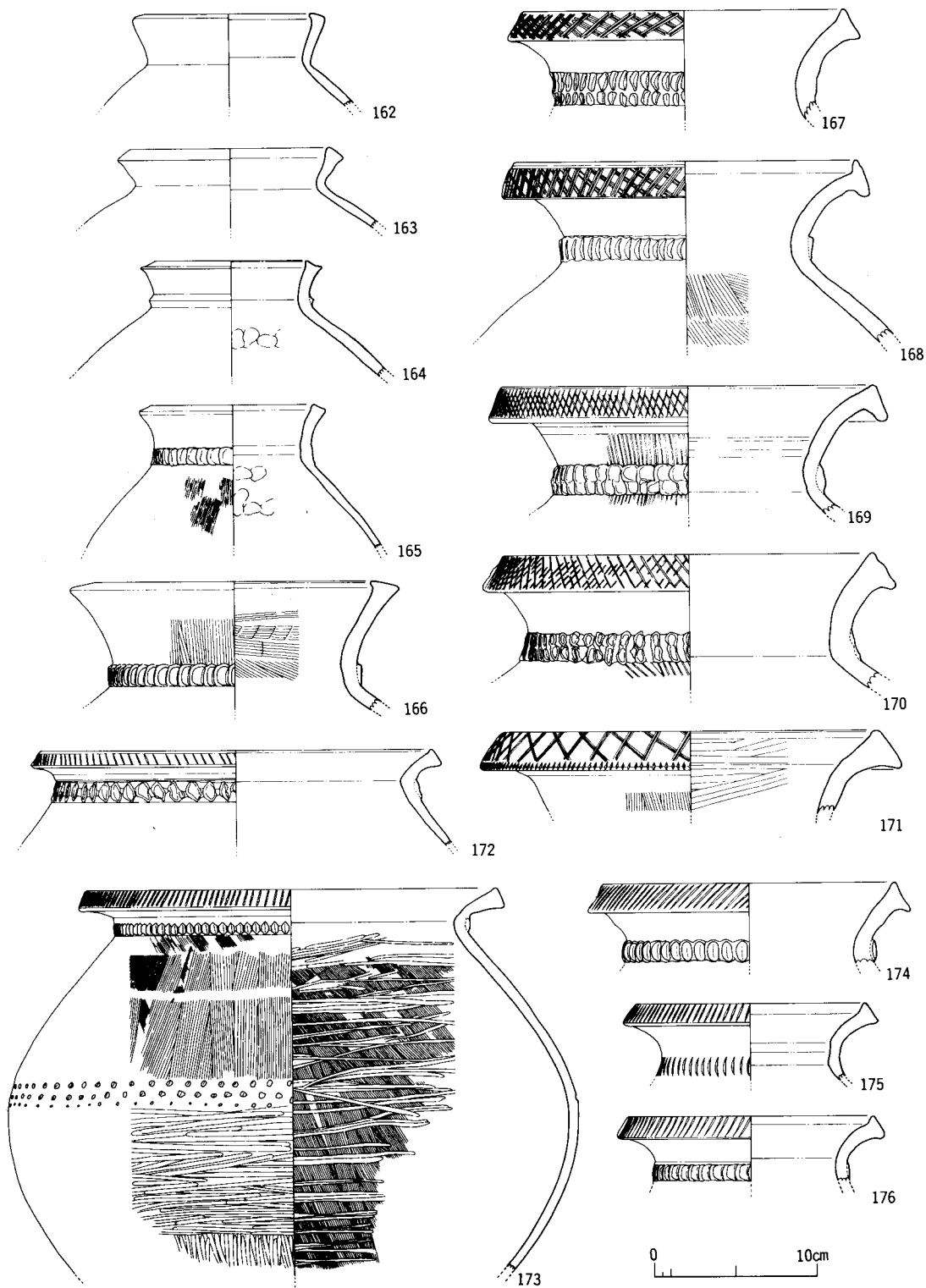
第103图 弥生土器 壺A₃-(3)・B₁・B₃-(1)実測図



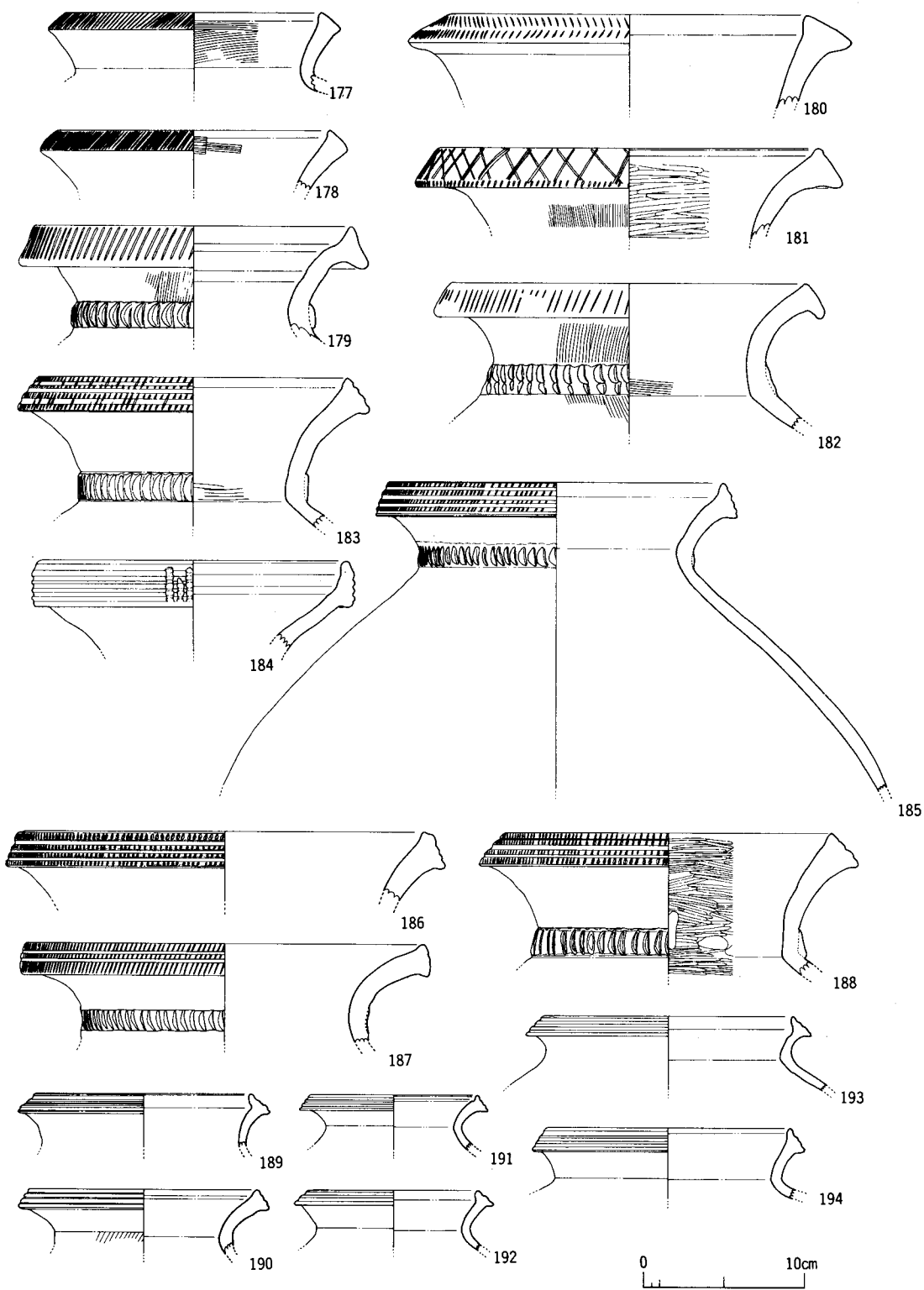
第104图 弥生土器 壺B₃-(1)・B₃-(2)実測図



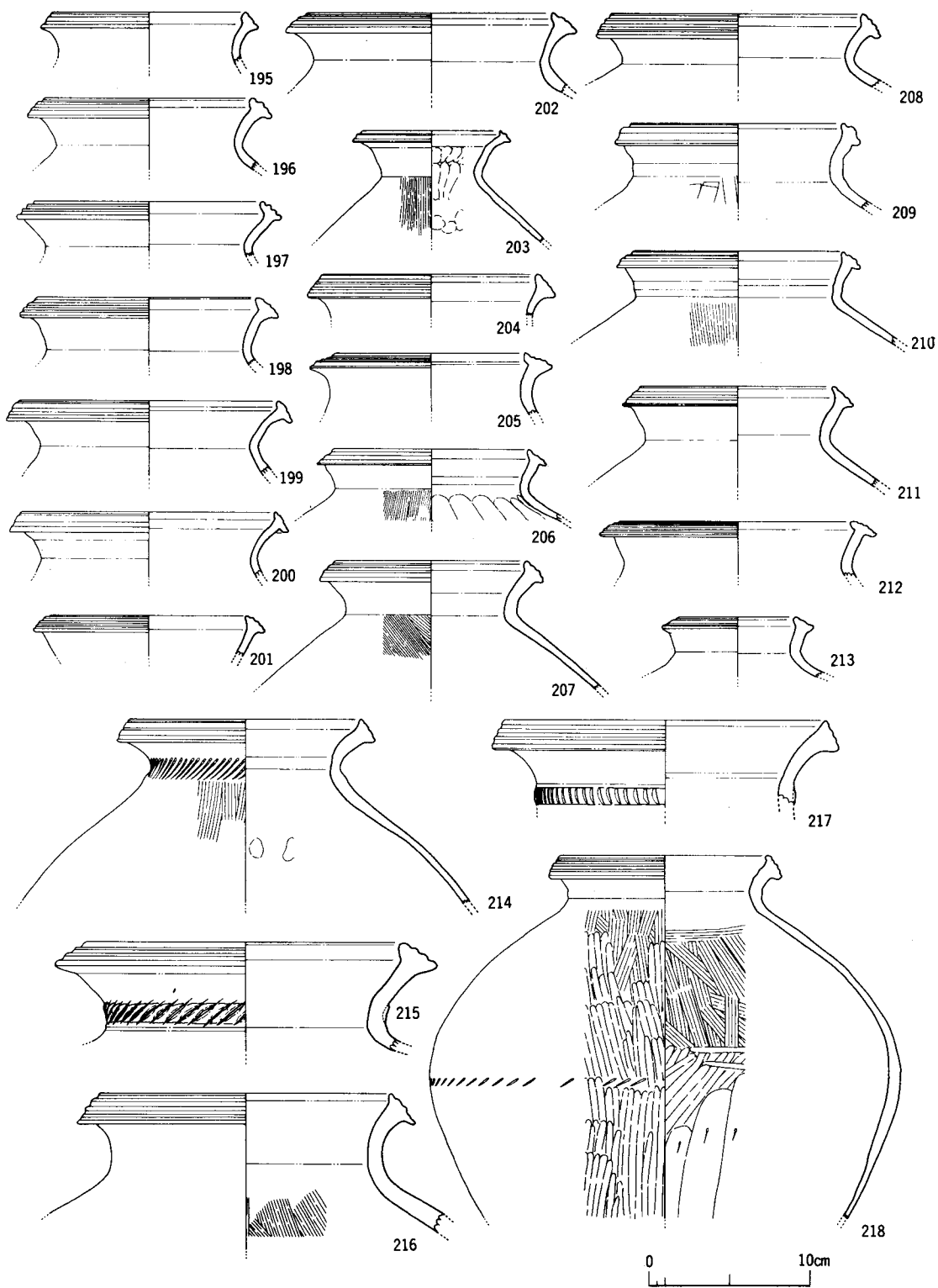
第105图 弥生土器 壺B₃-(2)·B₃-(3)·C₁ 实测图



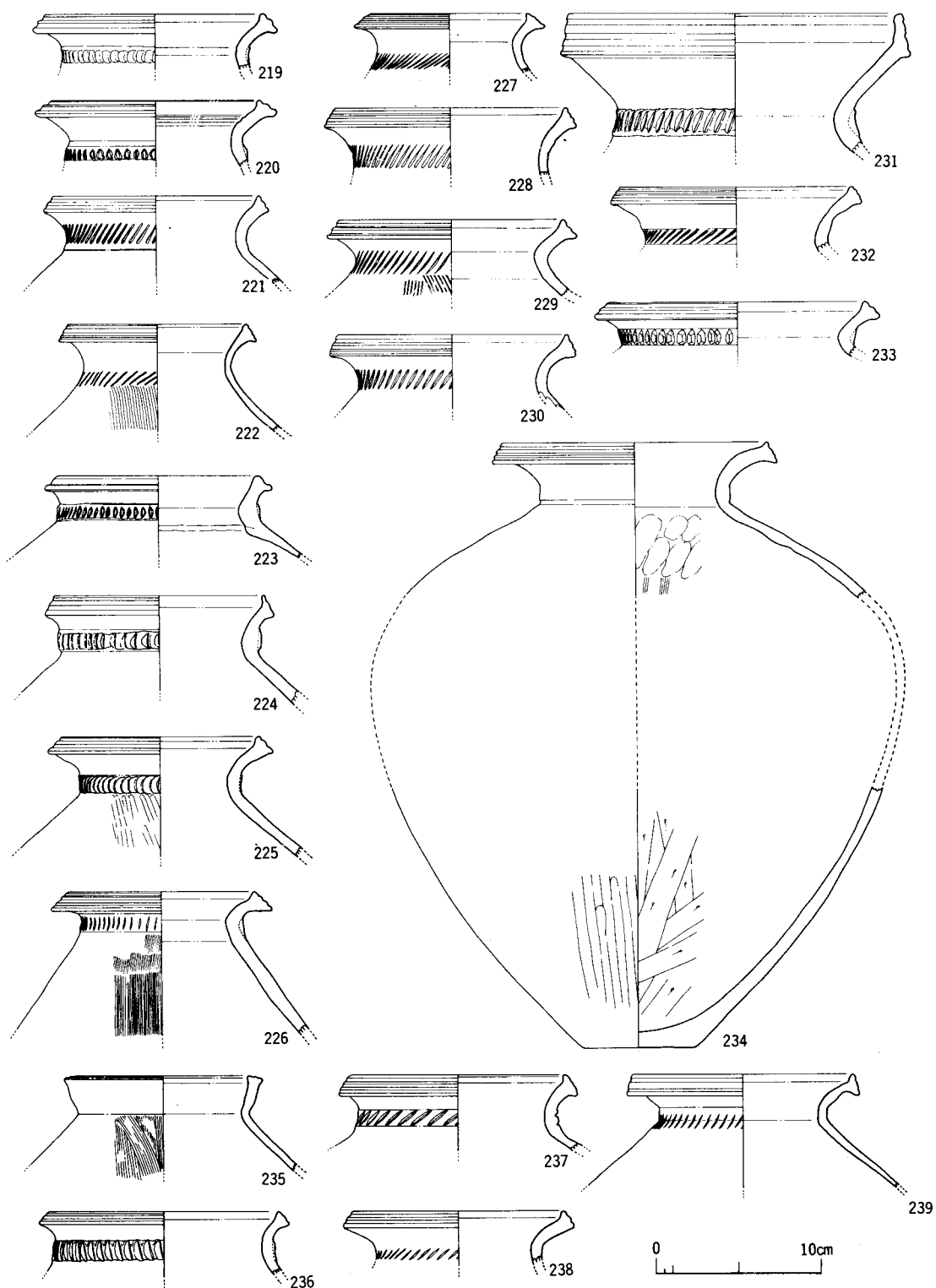
第106图 弥生土器 壺C₁·C₂ 实测图



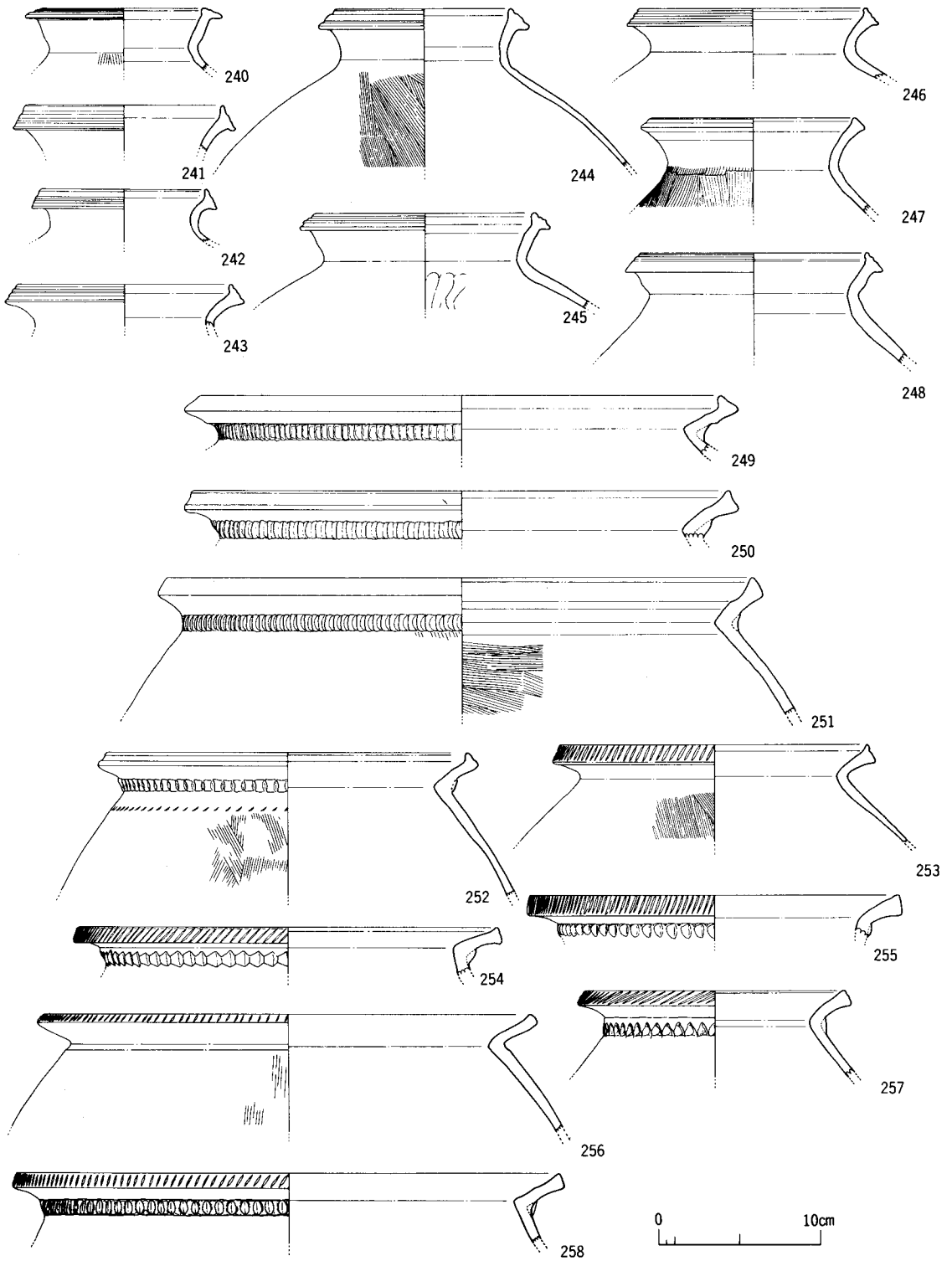
第107图 弥生土器 壺C₃-(1)・C₃-(2)实测图



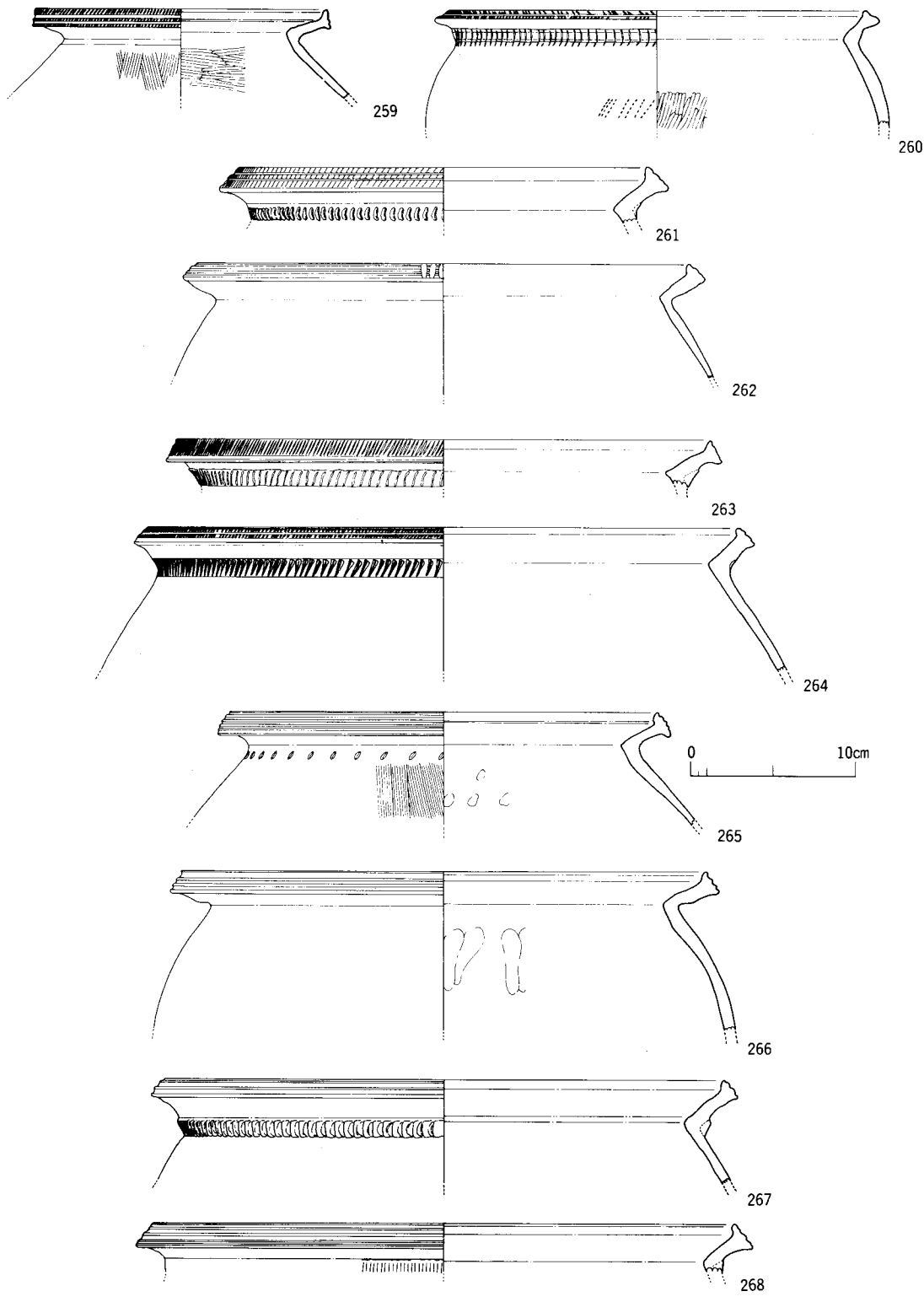
第108图 弥生土器 壺C。(2)実測図



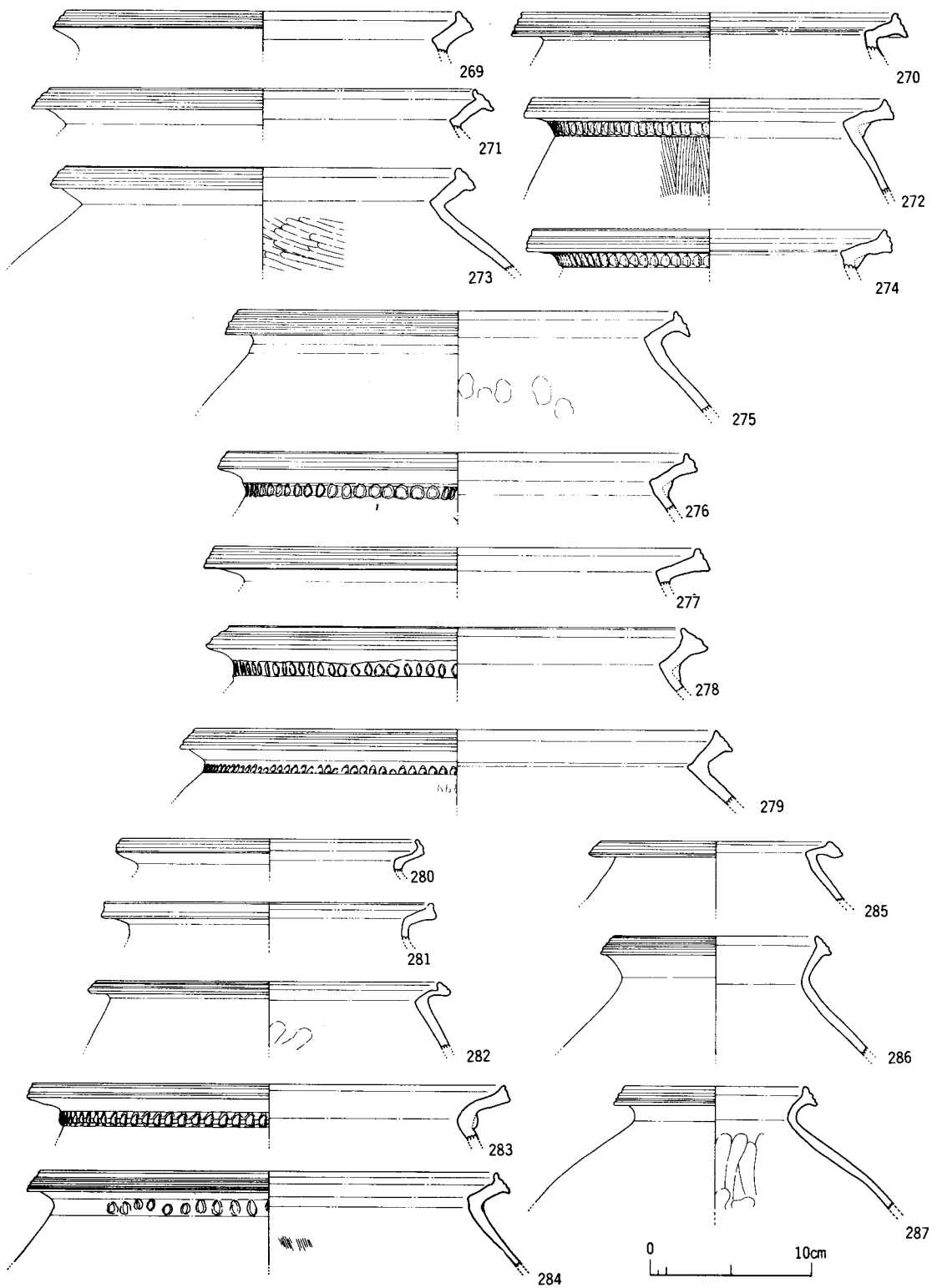
第109图 弥生土器 壺C₃-(2)·C₃-(3)实测图



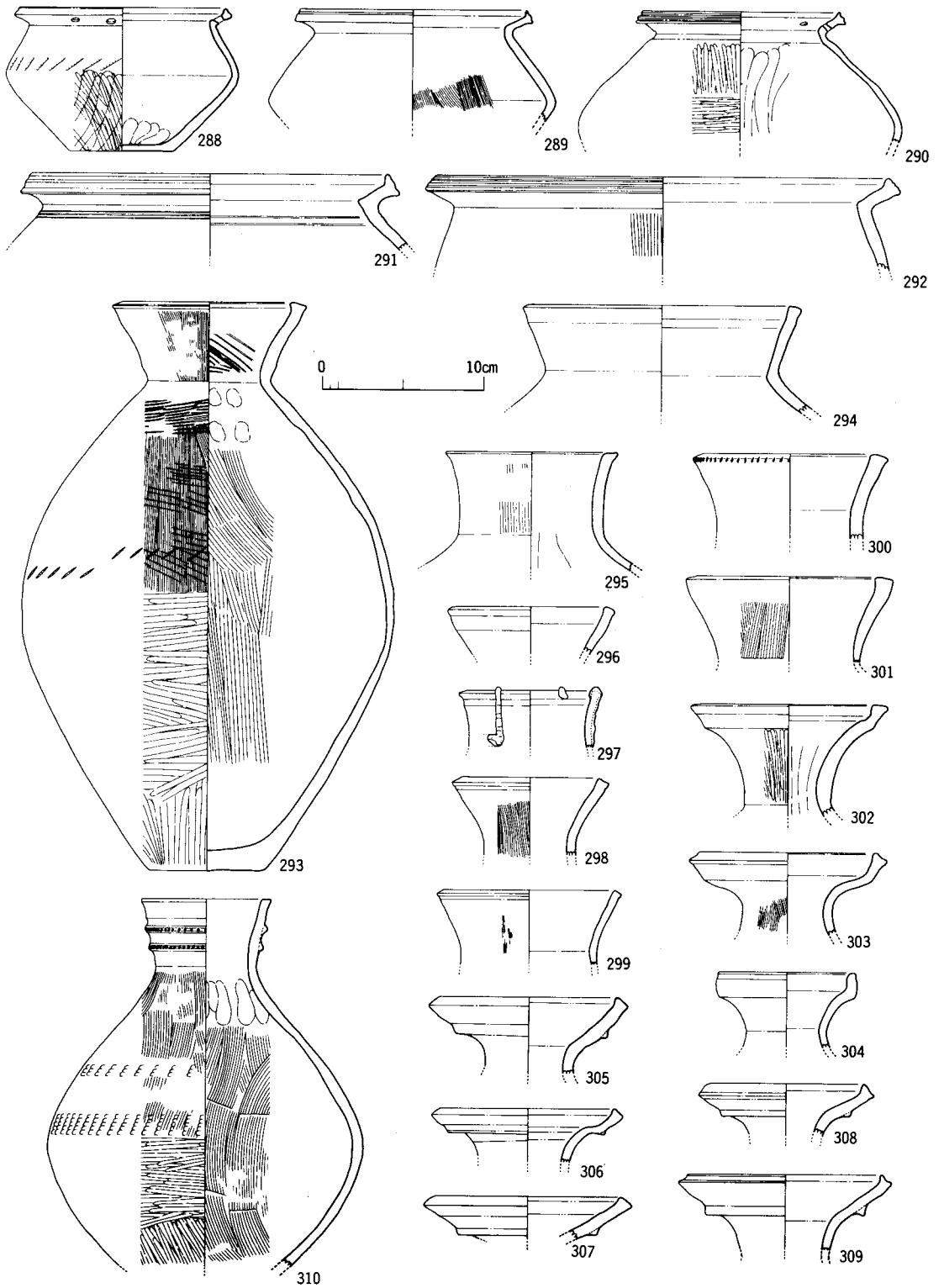
第110图 弥生土器 壺C₃-(3)・D₁・D₂実測図



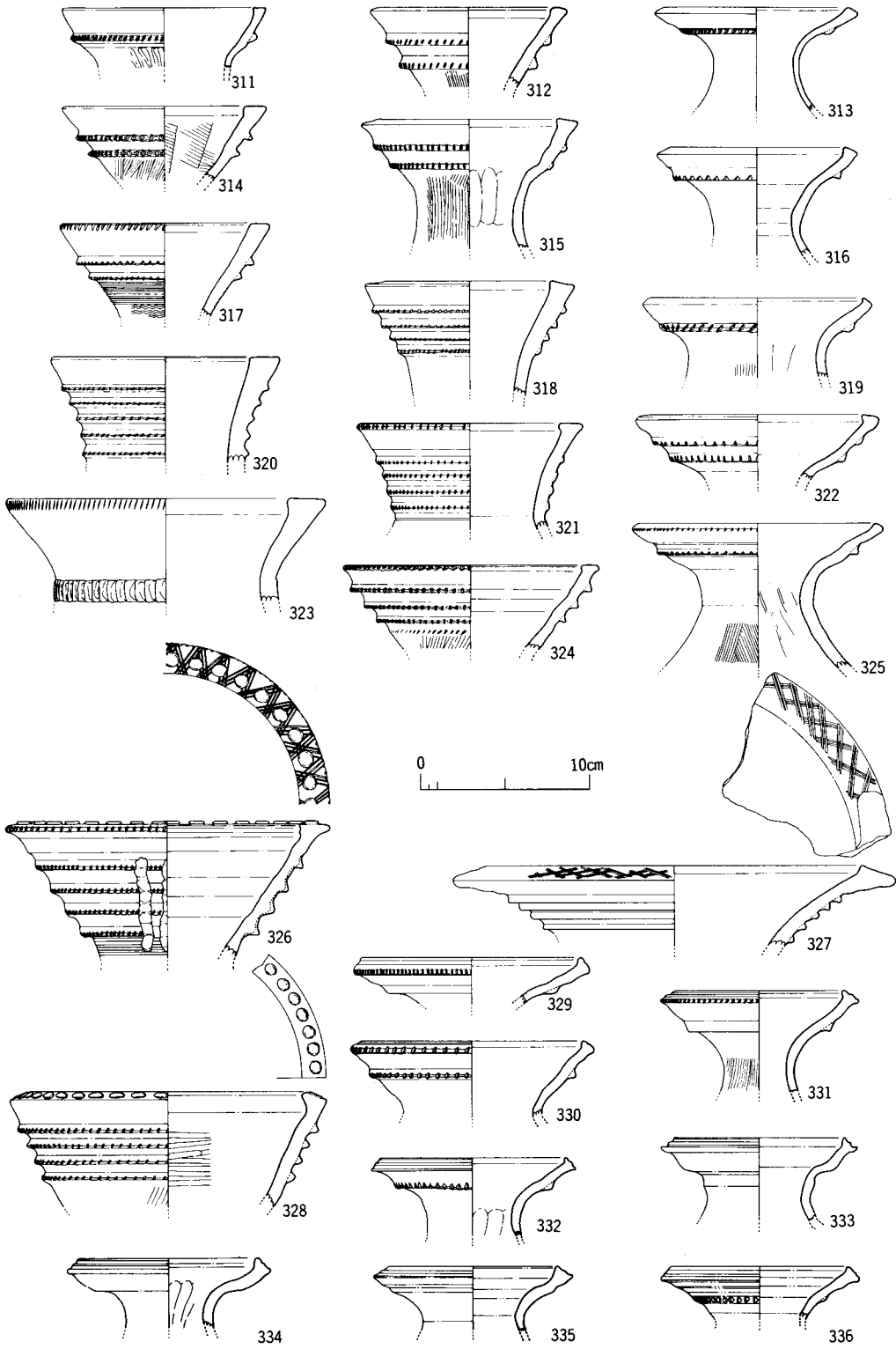
第111图 弥生土器 壺D₃-(1)・D₃-(2)実測図



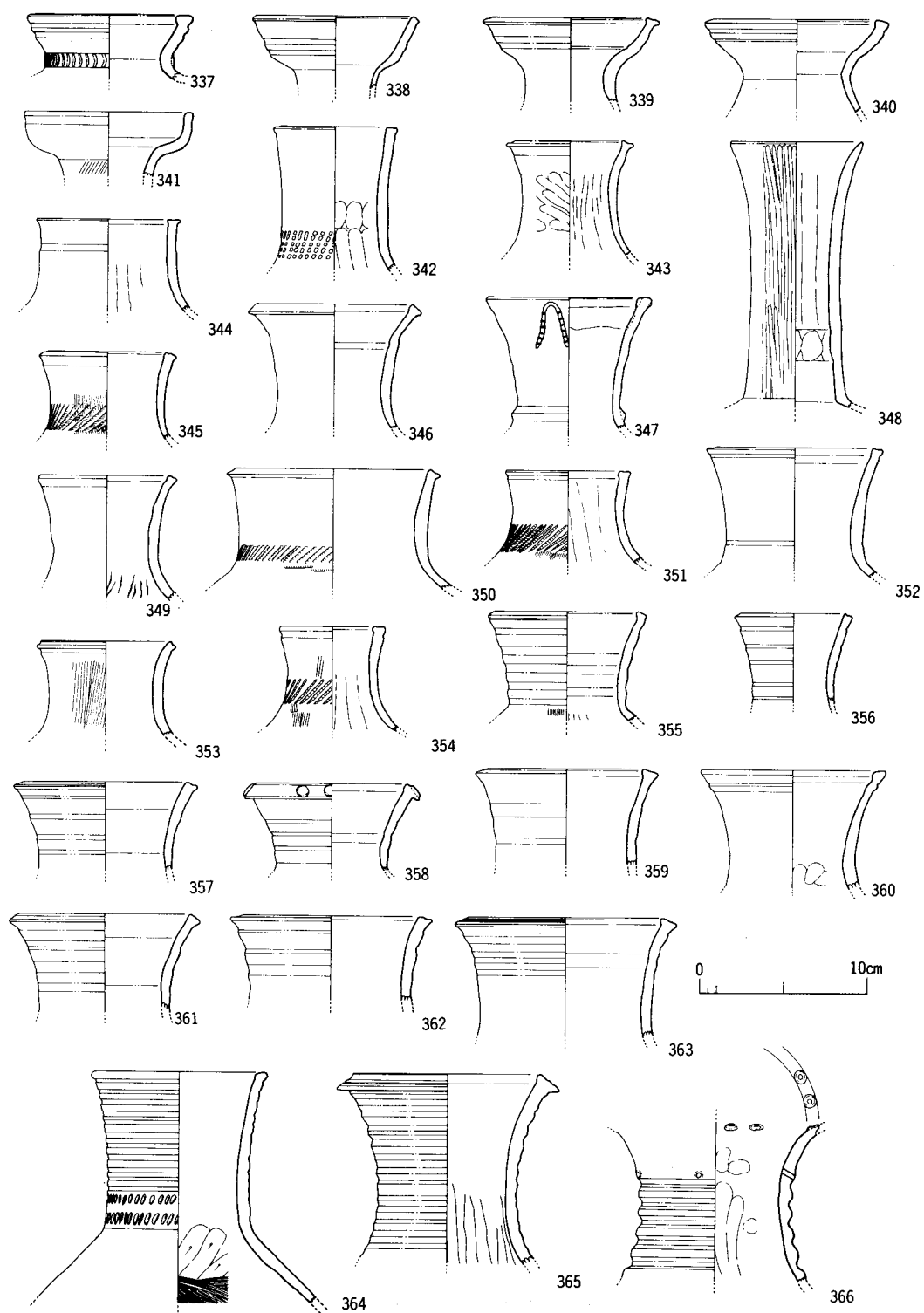
第112图 弥生土器 壺D₃-(2)・D₃-(3)実測図



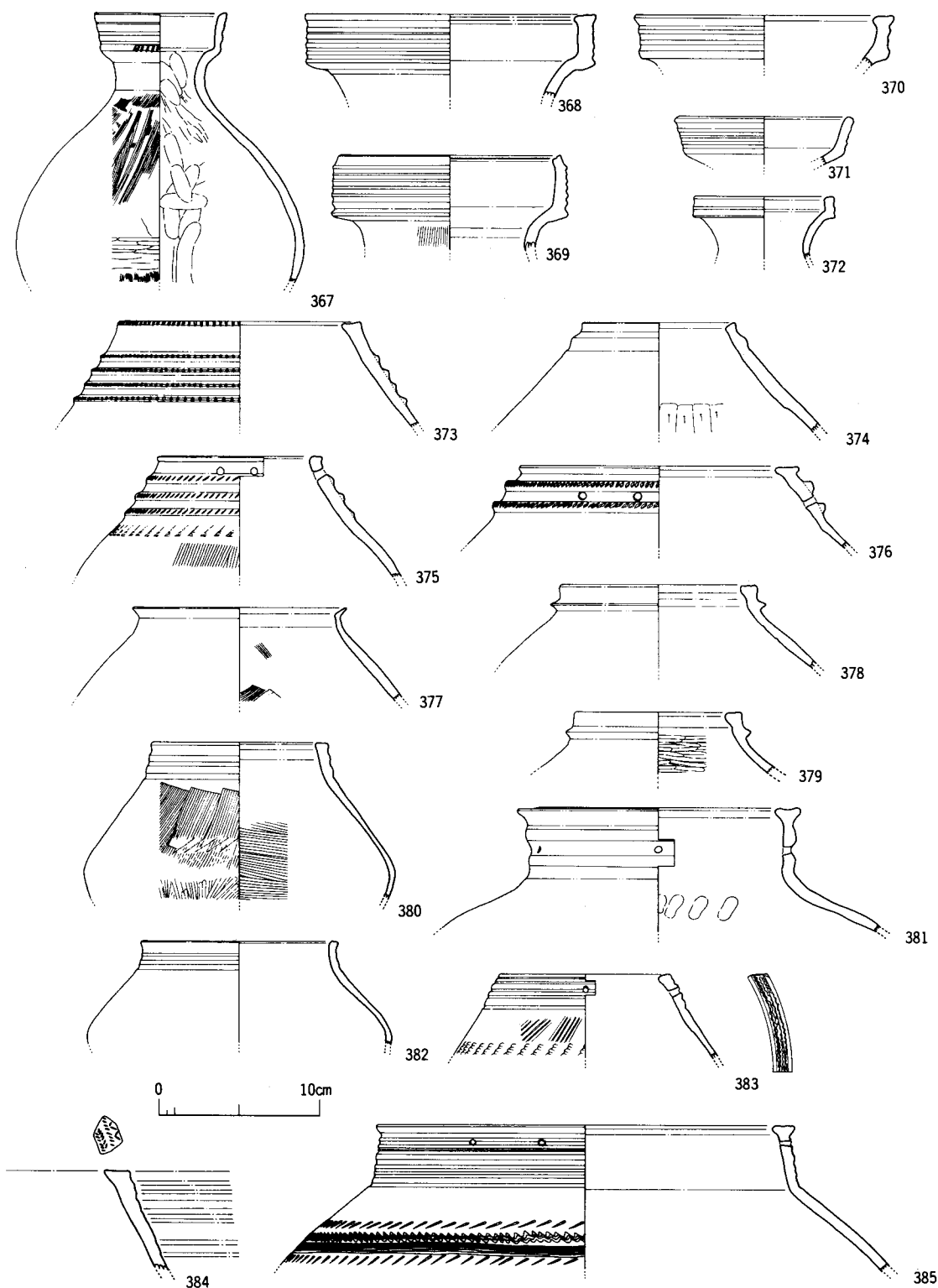
第113图 弥生土器 壺D₃-(3)・E実測図



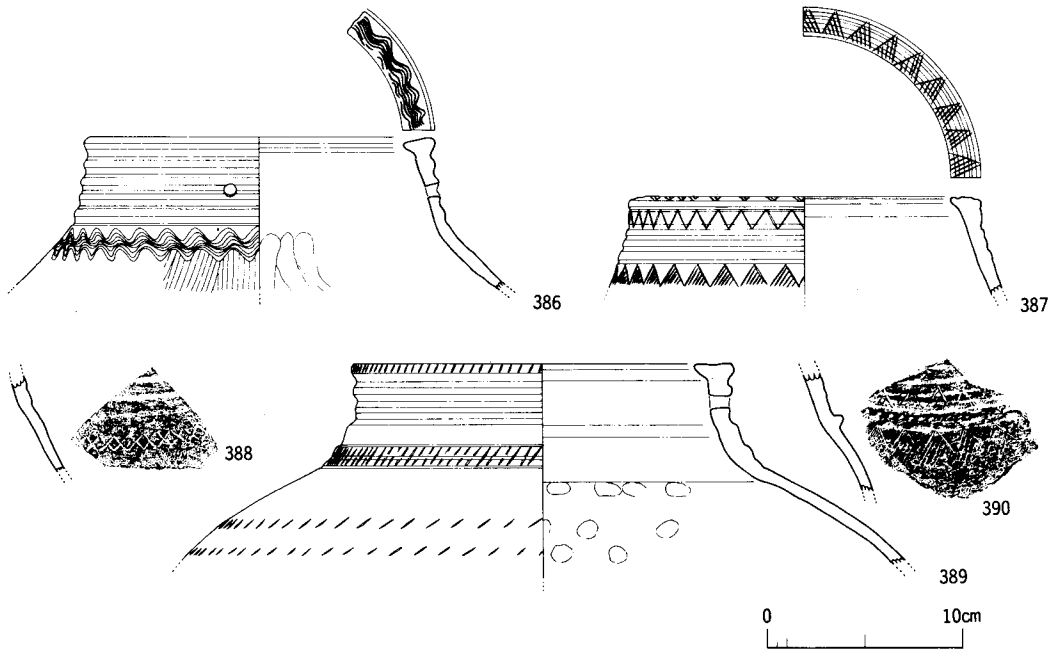
第114图 弥生土器 壺 E₁ · E₂ · E₃ 実測图



第115图 弥生土器 壺E₄・F₁・F₃—(3)・F₄実測図



第116图 弥生土器 壺G₄・H₁・H₃・H₄実測図



第117図 弥生土器 壺H, 実測図

②壺（弥生時代後期）

弥生時代中期の壺と比較した時、矢ノ塚遺跡の弥生時代後期の壺の特色で最も顕著なものは胎土である。胎土の多くはIIIとなる。すなわち色調は淡黄茶色・赤黄茶色を呈し胎土には1mm程度の砂粒を多く含む。胎土だけから判断しても弥生時代中期と後期の壺を選別することはある程度可能である。

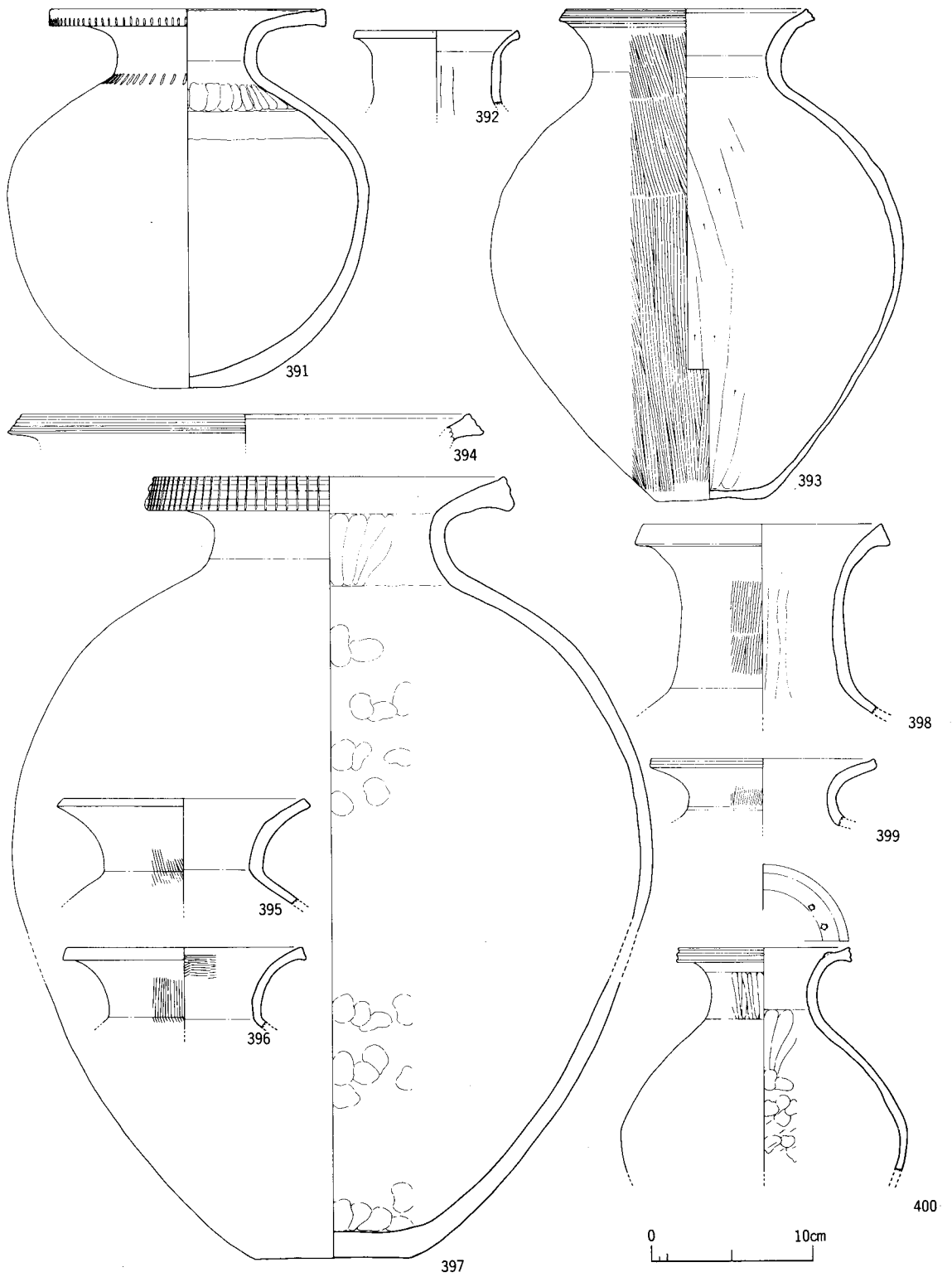
また弥生時代後期の壺は体部から頸部、頸部から口縁部の屈曲部が比較的明瞭であるために体部、頸部、口縁部の区別が明快である。弥生時代中期の壺A～Hのように、形態による分類の必要はない。体部との屈曲部から頸部が直立あるいは直立よりやや内傾する方向で立ち上がる。頸部との屈曲部から口縁部は水平に近い方向で開く。頸部が長いものと短いもの・口縁部が長いものと短いものの区別はあるが、同一の形態をもつものと考えてよい。この形態は弥生時代中期の壺との関係でいえば壺A・B・Cの流れを受け継いだものといえる。400・403などの例は壺A₃-（3）の分類の中に入れてもよい要素を持っている。ここで弥生時代中期の壺D～Hは後期の壺にどう受け継がれ、反映していくかということが問題点となろう。検討課題として上げておきたい。

体部以下の器形については、391・393・397・400・401・402などによりその全容が解る。それぞれによると、最大腹径が体部中央よりやや上半に位置し肩の張った上下に長い楕円形状を呈するもの（393・397・401・402）、体部中央で最大口径をもち丸味を帯びた器形のもの（400）、体部

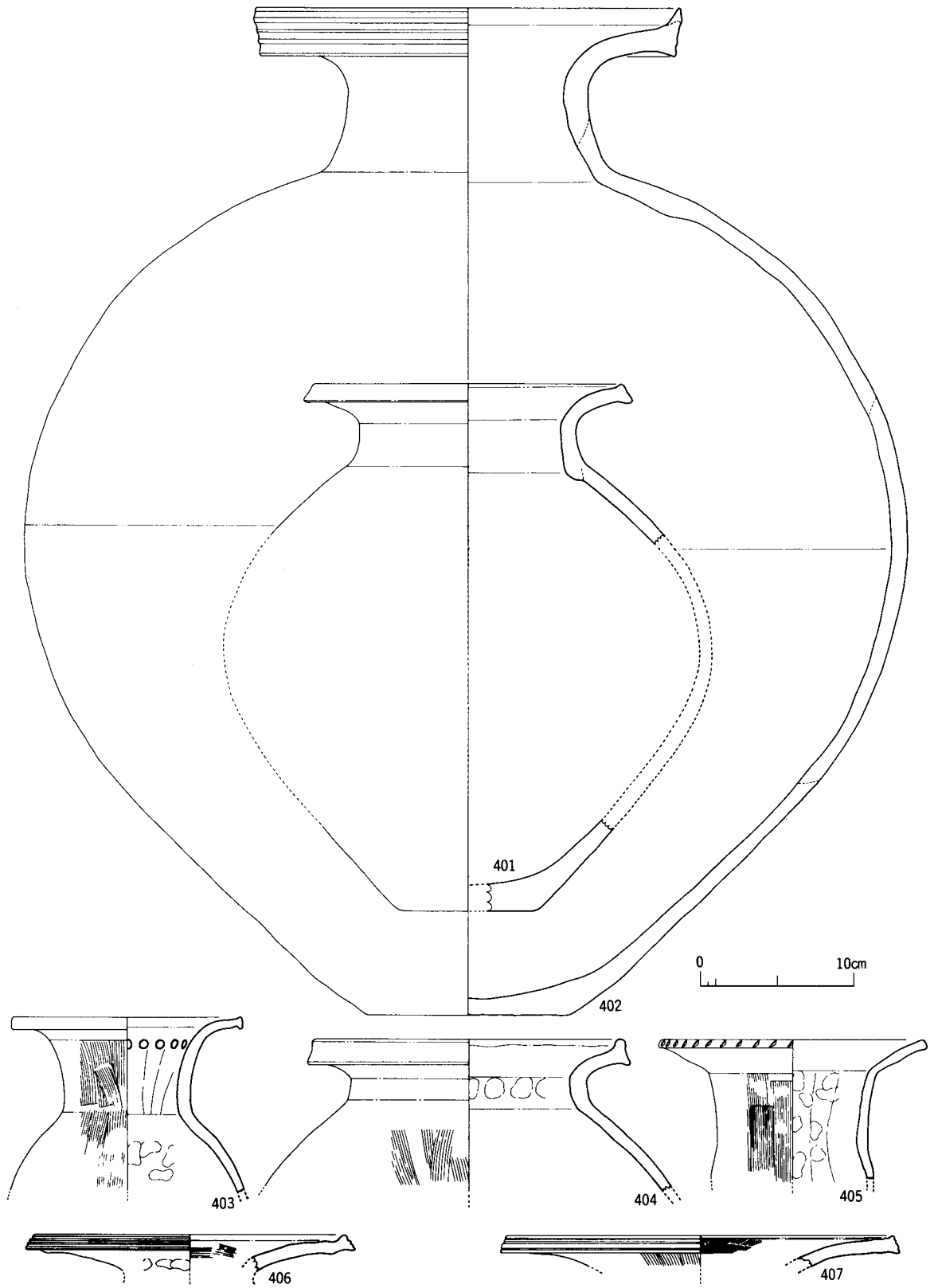
が球形状を呈し底部がせまくほとんど丸底に近い器形を呈するもの(391)に分けられる。これらは、口縁端部の拡張、凹線文の有無などより球形状を呈するものが後出するものと思われる。

弥生時代中期の壺と同様に口縁端部に凹線文が施されているものがあるが、凹線文は不明瞭なものが多い。その中には、口縁端部をほとんど拡張せずに凹線文を施しているもの(393・400・406・407)などがある。また口縁端部を拡張するが凹線文は施していないもの(398・401・404)もある。口縁部内外面にはヨコナデが施されているが、その範囲はせまい。また頸部から体部上半外面にはハケ目が施されているものが多い。393は、ハケ目が体部外面下半にまでいっぱい施されている。また体部内面は全面に縦方向のヘラ削りの痕が認められる。他の土器が磨滅しているものが多く、393の例が後期の壺に一般化できるものかどうかは断定できない。

弥生時代中期の壺に多く見られた文様は弥生時代後期になるとほとんどなくなると言ってもよい。口縁端部に刻目文があるもの(393・397・405)、口縁部内面に円形浮文、竹管文があるもの(400・403)頸部に刻目文があるもの(391)、以上の例だけである。403の口縁部内面に施された竹管文は、先の割れた竹を使用したものである。また口縁端部の刻目文も太く、雑に施されている。弥生時代中期にみられた土器を飾りたてると意識はしだいになくなっていったと思われる。



第118図 弥生土器 壺 (後期) 実測図



第119図 弥生土器 壺 (後期) 実測図

(壺 A₁, A₂)

実測 図号 番	遺構 番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
1	包 含 層	V-9	IV	1/4	14.0	-	外面 ハケ目
2	S D85037	E-4	II	1/4	10.7	-	内外面 ナデ 外面頸部 まがり部分に貼り付け凸帯
3	S D85101	Y-9	I	1/4	10.2	-	頸部外面 ハケ目
4	S D85036	D-5	IV	1/4	3.25	-	頸部外面 刻目文
5	S D85127	V-9	I	1/8	12.4	-	口縁部 斜格子文・櫛描直線文4条 口縁部外面 ナデ
6	包 含 層	W-8	IV	1/4	16.1	-	口縁部 櫛描直線文4条と斜線文
7	S D85101	Y-9	I	1/8	11.0	-	口縁部内面 斜格子文・櫛描直線文8条 頸部外面 ハケ目
8	S D85101	W-8(N)	I	1/4	25.8	-	口縁端部 斜格子文, 口縁部内面 斜格子文・列点文 頸部 凸帯3条, 内外面 ハケ目
9	S D85101	X-8(S)	I	1/8	25.8	-	口縁部内外面 ナデ 口縁端部 刻目文
10	S D85101	W-8	I	1/8	22.5	-	口縁端部より外面2cmヨコナデ, 内面磨滅のため不明 口縁端部 刻目文
11	S D85101	X-8(S)	II	1/4	20.8	-	口縁端部 斜格子文, 口縁部内外面 ナデ 頸部外面 ハケ目
12	包 含 層	V-9	II	1/4	20.8	-	口縁端部 斜格子文, 頸部外面 6条/cmのハケ目 頸部 指頭圧痕凸帯文, 口縁部内外面 ナデ 頸部内面 ヘラミガキ
13	包 含 層	X-8	II	1/8	19.6	-	口縁端部 刻目文, 頸部外面 7条/cmのハケ目 口縁部内外面 ナデ, 頸部 貼り付け凸帯2条 口縁部内面 円形浮文 3個
14	S D85101	X-8	I	1/8	18.2	-	口縁部内外面 ナデ, 内面 磨滅のため不明 口縁端部 刻目文, 頸部
15	包 含 層	W-8	II	1/4	15.0	-	口縁端部 口縁端部より外面2cmヨコナデ 内面 磨滅のため不明 口縁端部 刻目文, 頸部外面 9条/cmのハケ目
16	包 含 層	W-9	I	8/8	22.6	-	口縁端部 斜格子文, 頸部 6条/cmのハケ目 貼り付け凸帯の上に刻目文, 内面 ヨコナデ
17	包 含 層	V-9	I	1/4	13.8	-	口縁端部, 棒状浮文3本/1組 口縁部内面 円形浮文3個/1組, 円孔4個/1組(貫通) 頸部 凸帯2条, 円孔(貫通), 頸部外面 ハケ目
18	包 含 層	V-9	IV	3/4	13.0	-	口縁端部 斜格子文, 口縁端部 口縁端部より外面2.5cm ヨコナデ, 内面磨滅のため不明, 頸部外面 8条/cmのハ ケ目・押圧文, 頸部 円孔(貫通)4個
19	S D85101	Y-9	I	1/2	15.8	-	口縁端部 斜線文, 口縁部 円孔(貫通)4個/1組 口縁部内面 列点文, 頸部 円孔(貫通), 口縁部外面 ナ デ, 内面磨滅のため不明, 頸部 刻目文
20	包 含 層	Y-9	I	1/8	17.0	-	口縁端部 刻目文 口縁部外面 ハケ目11条/cm ナデ, 内面磨滅のため調整 不明・斜格子文

第13表 土器観察表(1)

(壺 A₃-(1)・(2))

実測 番 号	遺構番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
21	包 含 層	W-9	I	1/8	22.6	-	口縁端部 刻目凸帯文1条・ヨコナデ 口縁部内面 波状文・列点文・刻目凸帯文4条
22	包 含 層	W-9	II	1/8	23.3	-	口縁端部 斜格子文・口縁端部より内外面1cmヨコナデ 口縁部内面 波状文・刻目凸帯文1条
23	S D85101	X-8(S)	I	1/8	17.4	-	口縁部外面 ナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 刻目文, 口縁部内面 斜格子文・列点文
24	S D85101	X-8(S)	II	1/8	20.8	-	口縁端部 口縁端部より外面2cmヨコナデ, 斜格子文 口縁部内面 斜格子文・列点文
25	S D85101	W-8	I	1/8	21.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 斜格子文, 口縁部内面 斜格子文・列点文
26	S D85036	D-5	II	8/8	12.8	-	口縁端部 凹線3条・棒状浮文4本/1組 口縁部内面 円形浮文3個/1組 頸部上半部 円孔2個/1組
27	S D85106	X-9	IV	1/8	19.0	-	口縁端部 凹線3条・刻目文 口縁部内面 斜格子文, 口縁部外面 長方形の刻目文
28	S D85101	W-8(N)	I	1/2	26.4	-	口縁部内外面 口縁部より外面4.7cm, 内面5.2cmヨコナ デ, 内面に斜格子文・列点文 口縁端部 凹線3条・棒状浮文3本・頸部 外面にヘラ ミガキ・刻目文
29	S D85101	X-8(S)	I	1/4	21.6	-	口縁端部 口縁端部より外面2.5cmヨコナデ, 内面 磨滅 のため調整不明, 凹線3条・刻目文 口縁部内面 斜格子文・列点文, 頸部 内外面ヘラミガ キ・凸帯3条
30	S D85010	A-6	I	1/8	22.0	-	口縁端部 凹線3条・刻目文 口縁部 口縁部より外面2.5cmヨコナデ, 内面 斜格子 文・小円孔・簾状文
31	S D85010	A-6	II	1/2	17.0	(30.9)	口縁端部より外面2cmヨコナデ, 内面 磨滅のため調整 不明, 口縁端部 凹線3条・刻目文 口縁部内面 斜格子文・列点文
32	S D85102	X-9	I	1/4	10.6	-	口縁端部 凹線1条・棒状浮文
33	包 含 層	W-8	I	1/8	17.8	-	口縁端部 凹線3条・刻目文・円形浮文 口縁部内面 斜格子文・列点文
34	包 含 層	W-9	I	1/2	21.6	-	口縁端部より内外面3cmヨコナデ, 凹線3条・刻目文 頸部 外面縦・内面横のヘラミガキ・刻目文 口縁部内面 斜格子文・簾状文
35	S D85121	W-9	IV	1/8	9.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁端部 凹線2条
36	S P-36	V-9	II	1/8	9.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 外面 ハケ目11条/cm 口縁端部 凹線2条
37	S B85014	A・B-5・6	II	1/8	(19.9)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
38	S B85104 ㊦	V-9	II	1/8	13.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 外面ハケ目4条/0.5cmタテ方向, 凹線2条
39	S D85036	D-4	II	1/8	11.2	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条
40	包 含 層	U-9	II	1/4	11.6	-	口縁部より外面1.8cm, 内面2.2cmにヨコナデ 頸部外面 ハケ目, 口縁端部 凹線3条

第14表 土器観察表(2)

(壺 A₃-(2))

実測 図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
41	包含層	W-9	IV	1/2	10.6	-	口縁部より内面2.9cmにヨコナデ, 外面 磨滅のため不明 口縁端部 凹線3条
42	S D85101	W-8	II	1/8	12.2	-	口縁部より外面2.6cmにヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁端部 凹線2条, 口縁部内面 円形浮文
43	包含層	W-8	II	1/4	10.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線1条
44	包含層	X-8	II	1/8	10.8	-	口縁端部内外面 3cmにヨコナデ, 口縁部外面 6条/cm のハケ目 口縁端部 凹線3条
45	S D85037	E-4	II	1/8	12.7	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 9~10条/cmのハケ 目, 口縁端部 凹線3条, 頸部外面 貼り付け凸帯2条, 口縁部内面 円形浮文, 円孔
46	S D85032	C-5	II	1/8	11.1	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
47	S D85035	C・D-5	II	1/4	11.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 11条/cmのハケ目, 貼り付け凸帯1条 口縁端部 凹線3条, 口縁部内面 円形浮文2個
48	S D85032	C-5	II	1/8	8.6	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
49	S X85005	E-4	II	1/8	10.4	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 弓形の浮文
50	S X85005	E-4	II	1/8	12.6	-	口頸部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 波状文
51	S D85121	W-9	I	3/4	15.1	-	口頸部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条, 頸部内 面 円孔4個, 口縁部内面 円形浮文・竹管文, 頸部外 面 貼り付け凸帯2条
52	S X85005	E-4	IV	1/4	9.7	-	磨滅のためナデ調整不明, 頸部外面 ハケ目 口縁端部 凹線2条, 口縁部内面 円形浮文
53	包含層	W-9	I	3/4	22.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部 5条/cmのハケ目, 口縁 端部 凹線2条 頸部外面 貼り付け凸帯2条, 口縁部内面 斜格子文
54	包含層	16トレンチ	II	ほぼ 完形	12.0	20.9	口頸部内外面 ヨコナデ, 体部内面 ハケ目 体部外面 中央から下半 ヘラミガキ, 口縁端部 凹線 3条
55	包含層	X-8	II	1/4	10.0	(25.0)	口縁部より外面2cm, 内面5.2cmにヨコナデ, 体部上半か ら頸部外面 ハケ目, 体部内面 ハケ目, 体部中央から 下半 ヘラミガキ, 口縁端部 凹線3条
56	包含層	-	I	1/4	16.0	-	口縁端部より外面5.1cm, 内面3.5cmにヨコナデ, 頸部外 面 ハケ目, 口縁端部 凹線2条, 口縁部内面 列点文, 頸部外面 刻目文
57	S X85002	A-6	I	1/8	16.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
58	S B85015	B-5	IV	1/8	18.6	-	口縁部外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 斜格子文, 列点文
59	包含層	-	I	1/8	15.0	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線2条 口縁部内面 斜格子文
60	S D85036	D-5	I	1/8	15.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 口縁部内面 斜格子文, 簾状文

第15表 土器観察表(3)

(壺A₃-(2)・(3))

実測 図 番 号	遺構 番 号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
61	包 含 層	W-9	IV	1/2	14.0	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線2条 頸部外面 刻目文, 口縁部内面 斜線文
62	包 含 層	W-8	I	1/8	16.0	-	口縁端部より外面3cmにヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 口縁部内面 櫛描直線文, 斜線文
63	S D85036	D-4	II	1/4	11.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 ヘラミガキ 口縁端部 凹線2条, 口縁部内面 円形浮文
64	S D85121	W-9	IV	1/4	13.4	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条, 口縁部内面 円形浮文
65	S D85037	E-4	II	1/8	12.8	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 円形浮文
66	S D85036	D-4	III	3/4	18.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部内面 ナデ, 頸部 10条/ cmのハケ目 口縁端部 凹線4条, 頸部外面 刻目凸帯文1条
67	S D85016	B-5	II	1/8	25.3	-	口縁端部 凹線5条 口縁部内面 斜線文, ハケ原体による押圧文
68	包 含 層	U-9	II	1/8	20.2	-	口縁部外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 口縁部内面 斜格子文, 斜線文
69	S D85036	D-5	I	1/8	22.0	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 斜格子文, 櫛描直線文
70	S D85101	X-8(S)	I	1/8	(23.4)	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 斜格子文, 列点文
71	S D85036	D-4	II	1/8	17.7	-	口縁部内外面 ナデ, 口縁部 凹線5条 口縁部内面 半円連弧文
72	包 含 層	-	II	1/4	25.0	-	口縁端部より2cm以内ヨコナデ, 内外面 ハケ目 口縁端部 凹線3条, 頸部 円孔
73	包 含 層	W-9	II	1/8	23.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁端部 凹線2条, 口縁部内面 半円連弧文・櫛描直 線文
74	S D85032	C-5	II	1/8	26.4	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 斜格子文
75	S B85104	V-9	I	1/8	23.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 口縁部内面 斜格子文
76	S D85125	V-9	II	1/8	(26.8)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条(強いヨコナデか)
77	S D85101	Y-9	I	1/8	(22.6)	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
78	S D85101	W-8(N)	II	1/8	24.4	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 波状文・簾状文
79	包 含 層	W-8	II	1/8	8.2	-	磨滅のため凹線の数, 調整不明
80	S X85005	E-4	IV	1/8	10.2	-	磨滅のため凹線の数, 調整不明

第16表 土器観察表(4)

(表 A₃-3)

実測 図号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
81	S X85005	E-4	I	1/8	9.6	-	口縁端部 凹線, 磨滅のため凹線の数, 調整不明 頸部外面 刻目文
82	S B85014	A・B-5・6	IV	1/4	11.0	-	口縁端部 凹線, 磨滅のため凹線の数, 調整不明
83	S X85005	E-5	II	1/8	12.3	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線
84	S X85005	E-5	III	1/8	10.8	-	口縁部より外面4cm, 内面3.5cmにヨコナデ 体部外面 ハケ目, 頸部外面 刻目文, 口縁部内面 棒 状浮文
85	S D85037	E-4	II	1/4	9.3	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条
86	S D85032	C-5	IV	1/2	8.7	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線2条 口縁部内面 円形浮文
87	S X85005	E-4	IV	1/4	11.6	-	口頸部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線, 口縁部内面 円形浮文, 頸部 円孔
88	S D85127	V-9	IV	1/4	10.6	-	口縁端部から外面1cmにヨコナデ, 頸部外面 8条/cmの ハケ目 内面 磨滅のため調整不明
89	S D85120	W-9	IV	3/4	8.6	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線3条 口縁部内面 円形浮文・竹管文, 頸部 円孔4個, 外面 貼り付け凸帯2条
90	包含層	U-9	II	1/4	10.5	-	口縁部より外面2.9cm, 内面1.9cmにヨコナデ 口縁端部 凹線2条, 頸部外面 刻目文
91	S X85005	E-4	II	1/4	9.9	-	口縁部より外面3.4cm, 内面1.7cmにヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁端部 凹線, 頸部外面 ハケ原体による押圧文
92	包含層	E-4	IV	1/4	10.8	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため不明, 口縁端 部 凹線2条 口縁部内面 棒状浮文, 頸部外面 刻目文
93	S X85005	E-4	II	1/8	11.1	-	口縁部より外面2.2cm, 内面2cmにヨコナデ 頸部外面 ハケ目, 口縁端部 凹線2条
94	S D85037	E-4	II	3/4	10.4	-	口頸部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 8条/cmのタテ方向 のハケ目 口縁端部 凹線2条
95	S D85120	W-9	II	1/8	11.2	-	頸部外面 ハケ目, 口縁部内外面 ハケ目 口縁端部 凹線3条
96	S D85036	X-8	IV	1/8	8.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部に凹線
97	S D85123	V-9	II	1/8	9.8	-	口縁端部より外面2.5cm, 内面2.9cmにヨコナデ 口縁端部 凹線2条, 頸部外面 刻目文
98	S D85037	E-4	IV	1/8	9.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 外面 8条/cmのタテ方向のハ ケ目 口縁端部 凹線2条
99	S D85120	W-9	II	1/8	11.6	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条
100	包含層	V-9	II	1/2	10.9	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条

第17表 土器観察表(5)

(壺 A₃-(3), B₁, B₃-(1))

実測 図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
101	S D85101	X-8	II	1/8	12.4	-	口縁部より外面2.8cmにヨコナデ、頸部外面 ハケ目 内面 磨滅のため不明、口縁端部 凹線2条 頸部外面 列点文
102	S D85125	V-9	I	1/8	12.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁内面 板ナデ 口縁外面 6条/cmのハケ目の上をヨコ方向のナデ
103	S B85014	A・B-5・6	II	1/8	12.2	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条
104	S X85005	E-4	II	1/8	14.4	-	磨滅のため調整不明、口縁端部 凹線2条 口縁部内面 円形浮文・竹管文
105	包含層	-	III	1/4	14.0	-	磨滅のため調整不明、口縁端部 凹線2条 頸部 円孔、口縁部内面 円形浮文・竹管文
106	S D85036	D-4	II	1/4	11.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ、頸部と体部上半部 6条/cmの ハケ目 頸部のくびれ部分 刻目文、口縁端部 凹線2条
107	S D85010	A-6	II	1/8	15.5	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線3条 口縁部内面 円形浮文
108	S D85121	W-9	IV	1/4	12.4	-	口縁端部 凹線2条、頸部円孔 口縁部内面 円形浮文・竹管文
109	包含層	W-8	I	1/8	16.4	-	口縁部内外面・頸部外面 ヨコナデ、頸部外面 10条/cm のハケ目、貝殻痕、口縁端部 凹線2条、口縁部内面 列 点文・円孔 個数不明
110	包含層	U-9	II	1/8	15.4	-	口縁端部 凹線3条、口縁部内面 半円形状連弧文 円孔
111	S D85101	X-8	II	1/4	19.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
112	S D85031	B・C-5・6	IV	1/8	(22.4)	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
113	S X85005	E-4	II	1/4	10.8	-	口縁部より外面4.4cm、内面4.2cmにヨコナデ 体部外面 ハケ目、口縁端部 凹線
114	包含層	X-8	II	1/2	9.6	20.0	口頸部内外面 ヨコナデ、体部内面 11条/cmのハケ目 体部下半部 斜め方向のヘラミガキ 口縁端部 凹線2条
115	包含層	-	II	1/2	9.0	(18.5)	頸部・体部外面 ハケ目、口縁端部 凹線3条 口縁部内面 U字状浮文、円形浮文
116	S D85036	D-4	II	3/4	11.7	-	口縁部内外面 ヨコナデ、頸部 指ナデ、体部内面 6 条/cmのハケ目、頸部外面から体部上半 6条/cmのハケ 目、体部下半 タテ方向のヘラミガキ、口縁端部 凹線 3条、口縁部内面 U字状浮文1個
117	S P-65	C-5	II	1/8	12.2	-	口縁部内面から頸部外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線2 条(強いヨコナデか) 頸部外面 凹線4条・円孔
118	S D85010	A-6	III	1/4	23.0	-	磨滅のため調整不明、体部上半 櫛描直線文 頸部外面 刻目凸帯文
119	包含層	-	II	1/4	28.8	-	口縁部より外面2.6cm、内面1.8cmにヨコナデ 頸部内外面 ハケ目、頸部外面 刻目文 口縁端部 凹線3条・刻目文
120	包含層	V-9	II	1/4	13.0	-	口頸部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条、棒状浮文 3本/1組 頸部外面 凸帯1条

第18表 土器観察表(6)

(壺 B₃-(1)・(2))

実測図番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
121	包含層	E-4	II	1/2	10.0	-	口縁端部より内面1.3cm, 外面頸部までヨコナデ 口縁端部 凹線3条, 円形浮文
122	S D85019	Z-6・7	II	1/8	27.2	-	口縁部より外面5.9cm, 内面7.3cmにヨコナデ 口縁端部 凹線5条・円形浮文・棒状浮文 頸部外面 刻目文
123	S D85101	X-8	I	1/8	19.8	-	口頸部外面 ヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口頸部内面 ヘラミガキ 口縁端部 凹線3条・刻目文, 頸部外面 凸帯2条
124	S D85101	X-8	I	1/4	25.2	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線4条・刻目文 頸部外面 刻目文
125	S P-68	C-5	I	1/8	27.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条・U字状浮文
126	S D85104	X-9	II	1/8	29.2	-	口縁端部 外面2.6cm, 内面 頸部までヨコナデ 頸部外面 ハケ目, 口縁端部 凹線4条・刻目文
127	S D85036	D-4	II	1/8	29.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条, 円形浮文
128	包含層	X-9	II	1/8	33.4	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線4条, U字状浮文2本/1組
129	S D85102	X-9	III	1/8	30.0	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線5条・刻目文
130	包含層	V-10	I	1/8	31.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 7条/cmのハケ目 口縁端部 凹線4条, 棒状浮文
131	S D85036	D-5	I	1/8	33.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条, 刻目文
132	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	(33.8)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線5条・円形浮文4個/1組
133	S D85102	X-9	II	1/8	21.6	-	口縁端部から頸部 ヨコナデ, 頸部外面 6条/cmのハケ目, 頸部内面 指頭圧痕, 口縁端部 凹線4条, 頸部外面 押圧文
134	S D85121	W-9	I	1/8	28.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条, 頸部外面 刻目文
135	S B85104	V-9	IV	1/8	(29.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線5条
136	S D85036	D-4	II	1/8	28.8	-	口縁端部より外面9.2cm, 内面6cmにヨコナデ 頸部内面 ハケ目, 頸部外面 刻目文
137	包含層	V-9	II	1/4	10.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 6~7条のハケ目 口縁端部 凹線3条
138	S D85025	C-6	I	1/8	(14.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
139	S D85010	A-6	II	1/8	14.4	-	口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目文
140	S D85011	A-6	II	1/8	16.4	-	口縁端部 凹線3条, 口縁端部下端 刻目文 頸部外面 刻目文

第19表 土器観察表(7)

(壺 B₃-(2)・(3), C₁)

実測 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
141	S D85037	E-4	IV	1/8	18.6	-	磨滅のため調整不明, 頸部外面 ハケ目 5条/cmタテ方向 口縁端部 凹線 3条
142	S D85010	A-6	II	1/4	21.0	-	口縁部より外面5.4cm, 内面にヨコナデ 頸部外面 ハケ目, 口縁端部 凹線 3条
143	S D85102	X-9	I	1/8	23.8	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線 5条
144	包含層	W-8	II	1/4	22.5	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 4条 頸部内面 7条/cmのハケ目・指頭瓦痕, 外面 刺突文
145	S D85121	W-9	II	1/4	22.0	-	口縁部より外面3.5cm, 内面6.7cmにヨコナデ 頸部外面 ヘラミガキ・刻目文, 口縁端部 凹線 5条
146	S D85036	D-5	II	1/8	27.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線 4条
147	S D85036	D-4	III	1/8	29.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線 6条
148	S D85036	D-5	III	1/8	24.4	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線 4条
149	S D85101	A-7	II	1/4	20.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線 3条, 頸部外面 刻目文11条
150	S D85013	A・B-6	II	1/4	22.0	-	口縁部より外面6.2cm, 内面6.7cmにヨコナデ 頸部外面 ハケ目・ヘラミガキ・刻目文 口縁端部 凹線 5条
151	包含層	-	II	1/2	22.8	-	口縁部内面・口頸部外面 ヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁端部 凹線 4条, 頸部 ハケ原体による押圧文
152	包含層	W-8(N)	II	1/4	22.8	-	口縁部より外面3.9cm, 内面にヨコナデ 頸部外面 刻目文, 内外面ともにハケ目, 口縁端部に凹 線 3条
153	S D85102	X-9	IV	1/4	7.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ
154	包含層	E-4	II	3/4	9.4	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線 1条 口縁部内面 円形浮文 2個
155	包含層	X-8	III	1/2	19.6	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線 3条
156	包含層	C-5	III	1/8	27.6	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線 3条, 頸部外面 刻目文
157	包含層	E-4	IV	1/8	25.0	-	磨滅のため調整不明 口縁端部に凹線 3条
158	包含層	W-9	IV	3/4	16.8	-	頸部から体部上半部にかけて 5条/cmのハケ目, 口縁部内 外面 ナデ, 体部上半 ハケ目の上をナデ, 内面 指ナ デの上を横斜方向のナデ
159	包含層	V-10	II	1/4	16.8	-	磨滅のため調整不明 外面 櫛描文12本単位?
160	S D85101	Y-9	I	8/8	13.8	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 ナデ

第20表 土器観察表(8)

(壺 C₁, C₂)

実測図番 号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
161	包含層	W-8	I	1/8	16.8	-	磨滅のため調整不明
162	SK85104	X-8(N)	I	1/8	11.8	-	磨滅のため調整不明
163	SD85102	X-9	I	1/4	14.0	-	磨滅のため調整不明
164	包含層	W-8	IV	1/8	11.2	-	磨滅のため調整不明 頸部に貼り付け凸帯
165	包含層	-	II	8/8	11.5	-	頸部外面 ハケ目, 指頭圧痕凸帯文 口縁部内外面 ナデ
166	SD85101	Y-9	IV	1/4	20.2	-	口縁部内外面 ハケ目, 口縁部より外面2.1cm, 内面2.2cmにヨコナデ 頸部 指頭圧痕凸帯文
167	SD85101	X-8(S)	IV	1/4	21.8	-	口縁端部 斜格子文 頸部 指頭圧痕凸帯文
168	SD85101	W-8(N)	I	1/8	22.8	-	体部内面 ハケ目, 口縁部内外面 ナデ 口縁端部 斜格子文, 頸部 指頭圧痕凸帯文
169	SB85111	V-9	II	1/4	24.6	-	口縁部より外面2.8cmにヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁端部 斜格子文, 頸部 指頭圧痕凸帯文
170	包含層	W-9	I	1/2	25.4	-	体部外面 ハケ目3条/cm, 口縁部外面 ヨコナデ, 内面 ナデ 口縁端部 斜格子文, 頸部 指頭圧痕凸帯文
171	SD85101	Y-9	IV	1/4	26.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 ヘラミガキ 頸部外面 ハケ目, 口縁端部 斜格子文・刻目文
172	SK85104	X-8(N)	I	1/8	(25.4)	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 刻目文 頸部 指頭圧痕凸帯文
173	包含層	W-9	I	1/8	26.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半部 7条/cmと14条/cmのハケ目, 体部中央部 列点文, 体部下半部 横方向のミガキと縦方向のミガキ, 内面 10条/cmのハケ目の上に横方向のヘラミガキ, 口縁端部 ハケの原体による押圧文, 頸部 指頭圧痕凸帯文
174	包含層	V-9	II	1/8	20.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 ナデ 口縁端部 刻目文, 頸部 指頭圧痕凸帯文
175	包含層	W-8	I	1/4	15.8	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 刻目文, 頸部 爪圧文
176	SD85036	D-5	I	1/8	16.4	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 刻目文, 頸部 指頭圧痕凸帯文
177	包含層	V-9	IV	1/8	18.2	-	口縁部外面 ナデ, 内面 横方向の4条/cmのハケ目 口縁端部 斜格子文
178	SD85124	V-9	I	1/8	(19.0)	-	口縁部内外面 ナデ, 内面 端部から1cmの範囲ハケ目 9条/cm, 口縁端部 斜線文
179	包含層	W-9	II	1/2	21.7	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 刻目文 頸部外面 6条/cmのハケ目, 指頭圧痕凸帯文
180	SD85124	V-9	II	1/8	27.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 刻目文

第21表 土器観察表(9)

(壺 C₂, C₃-(1)・(2))

実測 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
181	包含層	W-9	II	1/8	26.5	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 ナデ 頸部外面 7条/cmのハケ目 口縁部内面 ヘラミガキ, 口縁端部 斜格子文と刻目文
182	包含層	-	II	1/8	24.3	-	口縁部より外面2.9cm, 内面4.7cmにヨコナデ 頸部内外面 ハケ目, 口縁端部 刻目文 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
183	S K85104	X-8 (N)	I	1/4	21.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条・刻目文 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
184	S B85015	B-5	II	1/8	20.1	-	口頸部内外面 ヨコナデ 口縁端部 棒状浮文3本/1組・凹線3条
185	S X85004	B-6	I	1/4	22.6	-	磨滅のため調整不明, 頸部外面 指頭圧痕凸帯文 口縁端部 凹線4条・刻目文
186	S D85036	D-5	I	1/8	27.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条・刻目文
187	包含層	Y-9	I	3/4	(25.6)	-	磨滅のため調整不明, 頸部外面 指頭圧痕凸帯文 口縁端部 凹線2条・刻目文
188	S D85101	W-8 (N)	I	1/8	23.6	-	口縁部・頸部内面 ヘラミガキ 口縁端部 凹線3条・刻目文 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
189	S X85001	A-6	IV	1/4	15.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条
190	S D85101	Y-9	II	1/4	15.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条, 頸部 刻目文
191	S D85101	X-8	I	1/4	11.8	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
192	S D85120	W-9	II	1/8	12.4	-	口縁部より外面2.4cm, 内面2.7cmにヨコナデ 口縁端部 凹線2条
193	包含層	-	II	1/4	17.7	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
194	S D85037	E-4	I	1/4	17.0	-	口頸部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
195	S D85013	A・B-6	I	1/8	13.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
196	S D85010	A-6	II	1/8	15.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
197	S X85005	E-4	II	1/8	16.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
198	包含層	V-9	IV	1/2	15.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
199	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	17.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
200	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	17.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2~3条

第22表 土器観察表(10)

(壺 C₃-(2))

実測 番号	図 号	遺構番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
201		S D85032	C-5	II	1/8	14.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条
202		S D85036	D-5	II	1/8	18.0	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
203		包 含 層	V-9	I	3/4	9.8	-	口縁部より外面3.1cmにヨコナデ,内面 磨滅のため調整不明 体部外面 ハケ目,口縁端部 凹線2条
204		S D85102	X-9	I	1/8	15.4	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
205		S D85102	X-9	II	1/8	15.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条
206		S D85032	C-5	II	1/2	14.2	-	口縁部外面 ヨコナデ,内面 磨滅のため調整不明 頸部外面から体部 8条/cmのタテ方向のハケ目 口縁端部 凹線3条
207		S D85019	Z-6・7	II	1/4	13.8	-	口縁部外面 ヨコナデ,内面 磨滅のため調整不明 体部外面 ハケ目,口縁端部 凹線3条
208		S D85036	D-4	I	1/2	17.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条
209		S P-12	V-9	II	1/2	15.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ,体部外面 板ナデか 口縁端部 凹線2条
210		S P-23	X-9	II	1/8	15.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ,体部外面 ハケ目5条/cm 口縁端部 凹線3条
211		S D85013	A・B-6	II	1/8	14.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
212		S D85121	W-9	II	1/4	17.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条
213		S D85120	W-9	IV	1/8	9.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
214		包 含 層	U-9	I	3/4	16.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ,体部上半 6条/cmのハケ目 口縁端部 凹線3条,頸部 押圧文
215		S D85019	Z-6・7	II	1/8	23.8	-	磨滅のため調整不明,頸部外面 刻目凸帯文 口縁端部 凹線3条
216		包 含 層	V-9	III	1/2	21.0	-	口縁部外面 ヨコナデ,内面磨滅のため調整不明 体部内面上半 ハケ目,口縁端部 凹線4条
217		S D85036	D-5	I	1/8	21.5	-	口縁部内外面 ヨコナデ,頸部外面 指頭圧痕凸帯文 口縁端部 凹線3条
218		S D85037	E-4	IV	3/4	14.6	-	口頸部内外面 ヨコナデ,頸部内面上半 5条/0.8cmのハケ目,体部内面 5条/0.8cmのハケ目,体部外面 ヘラミガキ,中央部 ヘラミガキ,ヘラミガキの下 ヘラ削り,体部中央 刻目文,口縁端部 凹線3条
219		S D85018	Z-6・7	II	1/8	15.0	-	磨滅のため調整不明,口縁端部 凹線2条 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
220		包 含 層	W-8	I	1/8	14.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ,頸部外面 刻目凸帯文 口縁端部 凹線2条

第23表 土器観察表(11)

(壺 C₃-(2)・(3))

実測 番号	遺構 番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
221	包 含 層	-	I	1/4	13.8	-	口縁部より外面3.4cm, 内面3.9cmにヨコナデ 口縁端部 凹線2条, 頸部 刻目文
222	S D85101	W-8 (N)	II	1/4	12.2	-	口縁部より外面3.1cmにヨコナデ, 体部外面 ハケ目 頸部 ハケ原体の押圧文, 口縁端部 凹線3条
223	包 含 層	W-8	I	1/8	14.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線1条, 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
224	S D85102	X-9	IV	1/4	14.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
225	包 含 層	W-8	I	1/4	13.8	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面上半 ヘラミガキ, 口縁端部 凹線2条, 頸部 外面 指頭圧痕凸帯文
226	S D85101	Y-9	II	1/8	13.6	-	口縁部より外面1.5cm, 内面3.4cmにヨコナデ 体部外面 ハケ目, 口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目凸帯文
227	S D85031	B・C-5・6	I	1/8	(12.6)	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目文
228	S X85004	B-6	IV	1/4	17.4	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目文
229	S D85036	D-5	I	1/8	15.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 6条/cmのハケ目 口縁端部 凹線2条, 頸部外面 刻目凸帯文
230	S D85025	C-6	I	1/4	15.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 頸部は削りだしによる凸帯か, 刻目文
231	S D85016	B-5	II	1/8	21.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
232	包 含 層	-	IV	1/4	15.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目文
233	S D85124	V-9	I	1/8	17.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
234	S D85036	D-5	IV	8/8	17.3	-	頸部内面 5条/cmのハケ目, 体部外面下半 ヘラミガキ 体部内面下半 ヘラ削り, 口縁端部 凹線3条
235	包 含 層	Y-9	I	3/4	12.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 8条/cmのハケ目 口縁端部 凹線2条 (強いヨコナデか)
236	S D85124	V-9	III	1/8	15.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
237	S D85125	V-9	II	1/4	14.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目凸帯文
238	S D85012	A-6	I	1/8	14.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条, 頸部外面 刻目文
239	S X85002	A-6	IV	1/4	14.2	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線2条 頸部外面 刻目文
240	S D85124	V-9	IV	1/8	12.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半 5条/cmのハケ目 口縁端部 凹線2条 (強いヨコナデか)

第24表 土器観察表(12)

(壺 C₃-(3), D₁, D₂, D₃-(2))

実測図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
241	SD85124	V-9	II	1/8	13.6	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
242	SD85102	X-9	II	1/8	11.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
243	SB85104 ㊸	V-9	III	1/8	14.6	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
244	SP-B	U-9	II	1/8	13.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7条/cmと9条/cmのハケ目 口縁端部 凹線2条
245	包含層	U-9	II	1/8	15.4	-	口縁部より外面3.1cm, 内面3.3cmにヨコナデ 口縁端部 凹線3条
246	SD85102	X-9	IV	1/4	15.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
247	SD85101	X-8	I	1/4	13.8	-	口縁部より外面3.1cm, 内面4.3cmにヨコナデ 頸部・体部外面 ハケ目, 口縁端部 凹線3条
248	SD85102	X-9	IV	1/8	16.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条 (うち1条は磨滅のため不明瞭)
249	SB85011	A-6	I	1/8	34.0	-	磨滅のため調整不明 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
250	SD85032	C-5	I	1/8	34.1	-	磨滅のため調整不明 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
251	包含層	W-8	I	1/4	37.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部内面 7条/1.5cmのハケ目 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
252	包含層	W-9	I	1/4	23.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面上半 6条/cmのハケ目, 体部内面上半 ヘラミガキ, 体部外面上半 刻目文, 頸部外面 刻目凸帯文
253	包含層	V-9	IV	1/8	20.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 8条/cmのハケ目 口縁端部 刻目文
254	SD85101	W-8	I	1/8	(26.3)	-	口縁部内外面 ナデ, 頸部外面 刻目凸帯文 口縁端部 刻目文
255	SD85122	W-9	I	1/8	23.0	-	磨滅のため調整不明, 頸部外面 刻目凸帯文 口縁端部 刻目文
256	包含層	W-9	IV	1/8	30.6	-	磨滅のため調整不明, 体部上半 6条/cmのハケ目 口縁端部 刻目文
257	SB85103 ㊹	X-8(N)	II	1/8	17.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 指頭圧痕凸帯文 口縁端部 刻目文
258	包含層	V-10	I	1/8	33.8	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 頸部外面 指頭圧痕凸帯文, 口縁端部 刻目文
259	包含層	V-9	IV	1/2	18.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 6条/1.1cmのハケ目 体部内面 ヘラミガキ, 口縁端部 凹線2条, 刻目文
260	SD85101	X-8(S)	I	1/8	27.0	-	体部内面 ヘラミガキ, 体部上半 列点文 頸部外面 刻目凸帯文, 口縁端部 凹線1条, 刻目文

第25表 土器観察表(13)

(壺 D₃-(1)・(2)・(3))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
261	包含層	A-6	I	1/8	27.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ、磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条、頸部外面 指頭圧痕凸帯文
262	SD85037	E-4	I	1/8	31.9	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条、棒状浮文
263	SD85010	A-6	I	1/8	34.0	-	口縁頸部 凹線2条、刻目文 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
264	包含層	W-8	I	1/4	38.0	-	口縁端部 凹線2条、刻目文 頸部外面 刻目凸帯文
265	包含層	A-7	II	1/8	27.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ、体部外面 6条/cmのハケ目 口縁端部 凹線4~5条、頸部外面 刻目文
266	包含層	X-9	I	1/8	(33.6)	-	口縁部内外面 ヨコナデ、体部外面上半 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
267	包含層	W-8	I	1/8	35.9	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線3条 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
268	SD85102	X-8(S)	IV	1/8	(17.8)	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線4条 頸部外面 貼り付け凸帯、刻目文(?)
269	SD85102	X-8(S)	IV	1/8	25.8	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
270	SB85107	W-9	IV	1/8	24.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線4条
271	SB85104	V-9	IV	1/8	28.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条
272	SX85004	B-6	IV	1/8	23.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ、体部外面 ハケ目 口縁端部 凹線2条、頸部外面 指頭圧痕凸帯文
273	SD85037	E-4	II	1/4	27.1	-	口縁部内外面 ヨコナデ、体部内面 ヘラミガキ 口縁端部 凹線3条
274	SD85010	A-6	I	1/8	22.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目凸帯文
275	SP-1	E-5	II	1/8	28.7	-	口縁部より外面2.8cm、内面2.6cmにヨコナデ 口縁端部 凹線5条
276	SD85011	A-6	II	1/8	29.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線2条 頸部外面 刻目凸帯文
277	SD85016	B-5	II	1/8	31.2	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条
278	包含層	A-6	II	1/8	33.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線3条 頸部外面 刻目凸帯文
279	SD85101	X-8(S)	I	1/8	34.0	-	口縁部外面 ヨコナデ、内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条、頸部外面 刻目凸帯文
280	SP-2	B-5	II	1/8	(19.0)	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条

第26表 土器観察表(14)

(壺 D₃-(3), E₁)

実測図号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
281	S B85014	A・B-5・6	IV	1/8	(20.6)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線1条(強いヨコナデ)
282	S D85037	E-4	II	1/8	22.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
283	S D85101	X-8(S)	I	1/8	29.8	-	口縁部より外面2.5cmにヨコナデ 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条, 頸部外面 刻目凸帯文
284	包含層	X-9	IV	1/4	29.7	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線4条, 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
285	S D85018	Z-6・7	IV	1/8	15.8	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条
286	S D85124	V-9	II	1/8	(14.4)	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線4条
287	S D85036	D-4	II	1/4	12.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線3条(不明瞭)
288	S D85032	C-5	III	1/2	13.5	9.0	口縁端部 ヨコナデ, 体部下半 ヘラミガキ 全体的に磨滅のため調整不明瞭, 体部中央 押圧文, 口縁部 2孔
289	S D85036	D-4	IV	1/8	14.0	-	体部内面8~7条/cmのハケ目, 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条
290	S D85036	D-4	IV	1/4	13.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部内面 指ナデ 体部外面 ヘラミガキ 口縁端部 凹線2条, 口縁部 円孔
291	S D85102	X-9	IV	1/8	13.4	-	磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条(強いヨコナデか) 頸部外面 指頭圧痕凸帯文, 体部上半 直線文3条
292	S D85037	E-4	I	1/8	29.5	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 口縁端部 凹線3条(不明瞭)
293	包含層	W-9	I	8/8	10.0	-	口縁部外面 10条/cmのハケ目の上をナデ, 体部上半 9~10条/cmのハケ目, タタキ, 頸部内面 3~6条/cmのハケ目, 体部内面 5~11条/cmのハケ目, 体部下半 ヘラミガキ, 体部中央 押圧文
294	S P-21	X-9	IV	1/8	(17.2)	-	磨滅のため調整不明
295	包含層	V-9	II	1/4	10.8	-	磨滅のため調整不明 頸部外面 6条/cmのハケ目
296	S B85013	A・B-6	IV	1/8	10.3	-	口縁部内外面 ナデ
297	S D85121	W-9	IV	1/4	9.0	-	磨滅のため調整不明 口縁部 棒状浮文
298	S D85037	E-4	I	1/8	9.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 外面 11条/cmのタテ方向のハケ目
299	S D85037	E-4	I	1/4	9.5	-	磨滅のため調整不明 頸部外面 ハケ目
300	S D85010	A-6	I	1/4	12.0	-	口縁部内外面 ナデ 口縁端部 刻目文

第27表 土器観察表(15)

(臺 E₁)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
301	包含層	W-9	I	1/4	12.9	-	口縁部内外面 ヨコナデ 頸部外面 ハケ目10条/1.45cm
302	S D85101	X-8	II	1/4	12.4	-	口縁部より外面1.6cm, 内面3.6cmにヨコナデ 頸部外面 ヘラミガキ
303	S D85013	A・B-6	II	1/8	12.3	-	口縁部より外面3.3cm, 内面1.6cmにヨコナデ 頸部 ハケ目
304	S D85013	A・B-6	II	1/8	8.4	-	口縁内外面 ヨコナデ
305	包含層	W-8	I	8/8	12.3	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 断面三角形の凸帯
306	包含層	-	I	1/2	11.9	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 断面三角形の凸帯
307	S B85103 ⑬	X-8 (N)	I	1/8	13.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 断面三角形の凸帯
308	S D85127	V-9	I	1/8	(11.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 断面三角形の凸帯
309	包含層	V-9	IV	1/8	13.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 断面三角形の凸帯
310	包含層	V-10	I	1/2	8.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半 10条/cmのハケ目 体部内面 10条/1.7cmのハケ目, 体部下半 ヘラミガキ, 体部中央 押圧文, 口縁部外面 刻目凸帯文2条
311	S D85036	D-5	I	1/8	12.0	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 刻目凸帯文
312	包含層	W-8	I	1/8	11.7	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁部外面 刻目凸帯文2条
313	S P-21	X-9	I	1/4	12.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 口縁部外面 刻目凸帯文
314	包含層	W-9	I	1/2	12.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁部外面 4条/0.5cmのハケ目, 内面 6条/cmの斜め方向のハケ目 口縁部外面 刻目凸帯文2条
315	包含層	X-8	II	1/2	12.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁部外面 刻目凸帯文2条
316	S P-23	V-9	I	8/8	11.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 刻目凸帯文
317	S D85102	X-9	I	1/4	12.4	-	口縁端部 刻目文, 口縁部外面 刻目凸帯文2条 頸部 櫛描直線文, 波状文
318	S D85102	Y-9	II	1/2	12.4	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 刻目凸帯文4条
319	S D85127	V-9	I	1/8	13.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 6条/cmのハケ目 口縁部外面 刻目凸帯文
320	S D85101	Y-9	IV	1/4	13.6	-	磨滅のため調整不明 頸部外面 刻目凸帯文5条, 色調朱色

第28表 土器観察表(16)

(壺 E₁, E₂, E₃, E₄)

実測 番 号	遺構番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
321	S D85101	W-8 (N)	I	1/4	13.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 刻目文, 頸部外面 刻目凸帯文4条
322	S D85101	X-8	I	1/4	14.4	-	口縁部より外面1.3cm, 内面1.5cmにヨコナデ 口縁部外面 刻目凸帯文2条
323	包 含 層	-	II	1/4	19.0	-	口縁部内外面 ナデ, 口縁端部 刻目文 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
324	S D85102	X-8	II	1/8	15.2	-	口縁部から凸帯まで ヨコナデ 頸部外面 6条/cmのハケ目 口縁端部 刻目文, 口縁部外面 刻目凸帯文3条
325	S D85101	Y-9	I	1/8	14.8	-	体部外面 ハケ目 口縁部 刻目凸帯文, 口縁端部 刻目文
326	包 含 層	W-9	I	1/8	19.4	-	口縁部内外面 ヨコ方向のナデ 口縁端部 斜格子文と円形浮文 外面 刻目凸帯文4条, 棒状浮文, 櫛描直線文
327	S D85101	X-8 (S)	II	1/4	26.2	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口頸部外面 ヨコナデ 口縁端部 斜格子文, 口縁部外面 断面三角形の凸帯6条
328	S D85101	X-8	I	1/8	18.8	-	口縁部より外面1.5cm, 内面2.3cmにヨコナデ, 頸部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ, 口縁端部 円形浮文, 口縁 部外面 刻目凸帯文4条
329	S D85024	C-6	I	1/8	(14.0)	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線1条(強いヨコナ デか), 刻目文 口縁部外面 断面三角形の凸帯
330	S D85016	B-5	I	1/8	14.4	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線1条, 刻目文, 口縁部外面 刻目凸帯文
331	包 含 層	X-8	I	1/4	11.8	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 頸部外面 6条/cmのハケ目, 口縁端部 凹線2条, 刻目 文, 口縁部外面 断面三角形の凸帯
332	S D85101	X-8 (S)	I	3/4	12.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条, 口縁部外面 刻目凸帯文
333	包 含 層	V-9	II	1/4	11.6	-	口頸部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
334	包 含 層	U-9	IV	1/8	12.0	-	口縁部より外面3.8cm, 内面2.1cmにヨコナデ 口縁端部 凹線2条
335	包 含 層	U-9	I	1/4	11.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条
336	S D85101	W-8	I	1/4	11.8	-	口縁部より外面3.9cm, 内面4.1cmにヨコナデ 口縁端部 凹線2条, 口縁部外面 刻目凸帯文
337	包 含 層	X-8	I	1/8	10.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 凹線2条, 頸部外面 指頭圧痕凸帯文
338	包 含 層	U-9	I	1/2	10.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 凹線2条
339	包 含 層	W-8	II	1/8	10.6	-	磨滅のため調整不明, 口縁部 凹線2条 口縁部外面 凹線2条
340	包 含 層	V-9	II	1/4	11.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 凹線2条

第29表 土器観察表(17)

(壺 E₁, F₁, F₃-(3), F₄)

実測 図号 番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
341	包含層	X-9	II	1/4	10.1	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 5~6条/cmのハケ目 口縁部外面 凹線2条
342	包含層	V-9	III	8/8	7.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ
343	S D85036	D-4	II	1/2	9.6	-	口縁部 強いヨコナデ 頸部 斜め方向の指ナデの上をヨコナデ
344	S D85032	C-5	II	1/8	8.6	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 凹線1条
345	S X85005	E-4	II	1/4	8.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 頸部外面 ハケ目, ハケ原体による押圧文
346	包含層	V-9	IV	1/4	10.4	-	磨滅のため調整不明
347	S D85102	X-9(S)	IV	1/4	9.8	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 U字浮文の上に刻目文 頸部外面 断面三角形の凸帯
348	S D85036	D-5	I	3/4	7.8	-	外面 ヘラミガキ, 内面 ヘラ削り 磨滅のため調整不明瞭
349	包含層	-	II	3/4	8.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ
350	包含層	V-10	II	1/4	12.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部 13条/1.6cmのハケ目 頸部 ハケ原体による押圧文
351	S X85005	E-4	II	1/4	7.4	-	頸部 ハケ目, ハケ原体による押圧文 口縁端部 凹線1条, 口縁部外面 凹線1条
352	S D85102	X-9	II	1/4	10.6	-	口縁端部から頸部外面にかけて約6.5cmのヨコナデ 内面磨滅のため調整不明
353	S D85036	D-4	II	1/8	8.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁部外面 8条/cmのハケ目 口縁端部 凹線1条, 口縁部外面 凹線1条
354	S D85037	E-4	II	1/8	6.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁部外面 ハケ目 口縁端部 凹線1条, 頸部屈曲部 ハケ原体による押圧文, 口縁部外面 凹線1条
355	S D85036	D-4	II	1/2	9.4	-	口縁部内面 ヨコナデ, 頸部 ハケ目 口縁部外面 凹線6条
356	S D85028	C-6	IV	1/4	7.0	-	内面 磨滅のため調整不明 口縁部外面 凹線5条 (沈線状の細い線が明瞭に残る)
357	S B85104	V-9	IV	1/4	11.0	-	磨滅のため調整不明, 口縁部外面 凹線5条 口縁端部 凹線1条
358	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	10.6	-	内面 ヨコナデ, 外面 凹線4条 口縁端部 円形浮文2個
359	S B85104	V-9	II	1/8	11.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁部外面 凹線4条 (ヨコナデによる起伏か)
360	S D85031	B・C-5・6	IV	1/4	11.0	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 凹線2条

第30表 土器観察表(18)

(壺 F₄, G₄, H₁, H₃-(3), H₄)

実測 図号 番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
361	S B85104 ㊦	V-9	IV	1/8	11.4	-	外面 磨滅のため調整不明 口縁部外面 凹線4条 (ヨコナデによる起伏か)
362	S B85104	V-9	IV	1/4	12.0	-	口縁部内面 磨滅のため調整不明 口縁部 凹線1条, 口縁部外面 凹線3条
363	S X85005	E-4	II	1/8	13.2	-	内面 ヨコナデ 口縁部 凹線3条 (ヨコナデによる起伏か) 口縁部外面 凹線4条
364	S D85036	D-4	I	1/4	20.5	-	口縁部内面 ヨコナデ, 体部内面 ハケ目 口縁部外面 凹線10条, 頸部 刺突文
365	S D85037	E-4	II	1/8	13.3	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口縁部 凹線3条 口縁部外面 凹線12条
366	包含層	W-9	II	-	-	-	頸部内面 指頭痕, 磨滅のため調整不明 口縁部内面 円形浮文2個, 頸部 円孔2個 頸部外面 凹線5条
367	包含層	-	II	3/4	8.2	-	口縁部内面 ヨコナデ 体部外面上半 ハケ目, 中央 ヘラミガキ 口縁部外面 凹線3条
368	S P-D	D-4	I	1/8	(18.2)	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁部 凹線2条 口縁部外面 凹線5条
369	包含層	-	I	1/4	13.8	-	口縁部内面 ヨコナデ, 頸部外面 ハケ目 口縁部外面 凹線7条
370	包含層	-	II	1/8	16.0	-	口縁部から口縁部内面 ヨコナデ 口縁部 凹線3条
371	S D85124	V-9	IV	1/8	11.2	-	口縁部内面 ヨコナデ 口縁部外面 凹線4条
372	S B85107	W-9	II	1/4	8.9	-	口縁部内面 ヨコナデ 口縁部外面 凹線2条
373	S D85127	V-9	III	1/8	15.0	-	磨滅のため調整不明, 口縁部 刻目文 口縁部外面 刻目凸帯文4条, 櫛描直線文
374	包含層	W-8	I	1/8	9.6	-	磨滅のため調整不明, 口縁部内面ヘラ削り 口縁部外面 貼り付け凸帯
375	S D85102	X-9	IV	1/8	10.2	-	口縁部内外面 ナデ, 体部上半 6条/cmのハケ目, 口縁部 円孔2個, 口縁部外面 刻目凸帯文3条, 凸帯の下部 (体部上半) ハケ原体による押圧文
376	S D85012	A-6	II	1/8	17.4	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面 刻目凸帯文2条, 円孔
377	S D85123	V-9	II	1/8	13.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ハケ目
378	包含層	-	IV	1/8	12.0	-	磨滅のため調整不明, 口縁部 凹線2条 口縁部外面 貼り付け凸帯1条
379	S D85036	D-4	IV	1/8	10.2	-	体部内面 横方向のヘラミガキ, 磨滅のため調整不明 口縁部 凹線2条, 口縁部外面 貼り付け凸帯
380	S X85005	E-4	II	1/4	11.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, ハケ目, 体部外面上半 ハケ目, 下半 ヘラミガキ, 口縁部外面 凹線3条, 体部中央 ハケ原体による押圧文

第31表 土器観察表(19)

(壺 H., 壺 (後期))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
381	包含層	W-9	I	3/4	17.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁部外面 凹線3条 口縁部に円孔
382	S D85106	X-9	IV	1/8	12.2	-	磨滅のため調整不明 口縁部外面に凹線3条 (ヨコナデによる起伏か)
383	S D85101	W-8	I	1/4	10.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁部外面 凹線5条 体部外面 ハケ原体による押圧文, ハケ目
384	包含層	-	II	1/8	-	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 刻目文, 鋸歯文 口縁部外面 凹線7条
385	包含層	-	II	1/8	26.0	-	口頸部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条, 波状文, 口縁部 円孔, 口縁部外面 凹線7条, 体部外面上半 ハ ケ原体による押圧文, 波状文, 櫛描直線文
386	S B85104	V-9	IV	1/4	18.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面上半 5条/cmのハケ 目, 口縁端部 波状文, 口縁部外面 凹線5条 体部外面上半 波状文
387	包含層	E-4	II	1/8	(18.0)	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 凹線3条, 鋸歯文 口縁部外面 凹線4条, 鋸歯文
388	包含層	-	II	-	-	-	磨滅のため調整不明, 外面に菱形文
389	包含層	-	II	1/4	19.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁部外面に凹線6条, 円孔 口縁端部, 頸部, 体部上半 刻目文
390	包含層	-	II	-	-	-	外面に凹線, 貼り付け凸帯, 鋸歯文
391	S D85018	Z-6・7	III	1/4	17.4	-	磨滅のため調整不明, 口縁端部 頸部外面に刻目文 丸底に近い
392	包含層	-	IV	1/4	10.0	-	磨滅のため調整不明, 色調は朱色
393	包含層	-	III	8/8	16.0	31.4	ほぼ完形, 口縁端部凹線2条 頸部から体部外面 5条/cmのハケ目, 体部内面ヘラ削り
394	S D85102	X-9	II	1/8	29.8	-	口縁端部 凹線3条, 口縁部内外面 ヨコナデ
395	S D85036	D-4	III	2/4	15.8	-	頸部外面 ハケ目, 磨滅のため調整不明瞭
396	S D85036	D-4	II	1/8	15.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 頸部外面 7条/cmの縦方向のハケ目 頸部内面 7条/cmの横方向のハケ目
397	S D85036	D-5	III	8/8	23.2	49.8	ほぼ完形, 口縁端部 凹線2条, 刻目文 磨滅のため調整不明
398	S D85036	D-4	IV	3/4	16.0	-	磨滅のため調整不明, 頸部外面 ハケ目
399	S D85036	D-4	IV	1/2	14.1	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 頸部外面 ハケ目
400	S D85036	D-4	III	3/4	10.8	-	口縁端部に凹線2条, 磨滅のため調整不明 頸部外面 縦方向のヘラミガキか 口縁部内面 円形浮文

第32表 土器観察表 (20)

(壺 (後期))

実測図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
401	包含層	D-5	III	1/8	(21.2)	(35.0)	口縁部外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
402	S D85036	D-5	III	ほぼ 完形	28.0	66.8	口縁端部に凹線 3 条 磨滅のため調整不明
403	S D85036	D-4	III	1/4	14.9	—	頸部外面から体部外面上半 ハケ目 口縁部 磨滅のため調整不明
404	S D85036	D-4	III	8/8	20.8	—	磨滅のため調整不明 体部外面上半 ハケ目
405	S D85036	D-5	III	2/4	17.5	—	口縁部 磨滅のため調整不明 頸部外面 9 条/cm のハケ目
406	S D85036	D-5	II	1/8	21.2	—	口縁端部 凹線 3 条, 口縁部内面 ハケ目 磨滅のため調整不明瞭
407	S D85036	D-5	II	1/8	25.9	—	口縁端部 凹線 3 条 口縁部内面 9 条/cm, 外面 7 条/cm のハケ目

第33表 土器観察表(2)

③甕 (弥生時代中期)

甕については甕₁と甕₃だけである。すなわち口縁端部に凹線文がないものと凹線文があるものである。甕₁は口縁端部の収め方で(a), (b), (c)に分類した。甕₃は凹線文が施されるものの手法で(1)~(3)に分類した。

甕₁-(a) (408~422) 口縁端部に凹線文がないもので、口縁部が短く頸部との屈曲部から口縁端部に向かって細くなる器形のもの。口縁端部は丸く収めている。

口縁部内外面の調整は、ヨコナデが施されているものとナデが施されているもの(408・409・412・413・416・417・420)とがある。ヨコナデが施されている場合でも、口縁端部から内外面 1 cm程度でその範囲は狭い。体部以下の器形は体部が頸部の屈曲部に向けてほとんど直立方向で立ち上がる。体部上半でわずかに内彎する程度のものである。すなわち、甕₁-(b), (c), 甕₃などにみられる、いわゆる「いちじく型」をした器形のものより体部上半の肩の張りが少ないものである。この器形になると思われるものは408・412・415・416・420である。それ以外のものは、頸部の屈曲部から体部が「ハ」字状に開くいわゆる「いちじく型」になるものと思われる。

体部内面上半には横方向のヘラミガキが施されている。416は、ヘラミガキが口縁部の内面にまで及んでいる点で特異といえる。また体部外面上半には縦方向のハケ目が施される例が多い。420の体部外面上半には斜め方向のヘラミガキが認められるが、特異な例といえる。体部下半に

ついでには遺存するものがなかったために不明とせざるをえないが、調整については甕₁-(b)・(c)と同様になると思われる。文様については、体部外面に刺突文が施されているもの(412・416)がある。

甕₁-(b) (423～471) 口縁端部には凹線文がなく頸部との屈曲部から口縁端部にかけて一定の厚さのもの。口縁端部をわずかに上方に拡張しているものもあるが、平坦面は造られずに端部を丸く収めているものである。

口縁部内外面の調整は、全てヨコナデが施されている。ヨコナデは口縁部内外面の全面にわたって施されており、しばしば体部上半内外面にまでおよんでいるものもある。

ほぼ完形に近いもの(468・469)が2点出土している。いずれも、同様の器形・調整である。頸部との屈曲部から体部上半は、わずかに「ハ」字状に開くが極端でないために肩の張りはほとんどない。体部中央よりやや上半で最大腹径をもち、底部にかけて徐々に細くなっていく。いわゆる「いちじく型」の器形であるが細身のものである。

体部中央外面で468はハケ原体の押圧文、469は列点文が2列、それぞれ施されている。それより上半は、縦方向のハケ目が、下半は縦方向のヘラミガキが底部にまでいっばいに施されている。体部内面はいずれも横方向のヘラミガキが施されている。底部下半部まではおよんでなく下半部はナデにより仕上げられている。これは甕₁に見られる一般的な調整であると思われる。

甕₁-(c) (472～523) 口縁端部を上方に拡張しているもの、下方に拡張しているもの、上下両方に拡張しているものなどがある。口縁端部に平坦面を造り出しヨコナデを施している。ヨコナデが強い場合には、浅い凹みが認められるものもある。

口縁部内外面には全てヨコナデが施されている。ヨコナデが、体部内外面の上半にまでおよんでいるものが多い。

口縁部から底部までが全て残るもの(515)が1点ある。口縁端部に浅い凹みが認められるが、口縁端部の拡張は著しくない。甕₁-(b)と比較した時、頸部の屈曲部から「ハ」字状に開く度合いが強い。そのために、肩部がややふくらみをもった「いちじく型」の器形となっている。体部外面中央よりやや上方で最大腹径をもち、その位置に貝殻による押圧文が施されている。それより下半には縦方向のヘラミガキが底部にまでいっばいに施されている。体部内面の下半にも縦方向のヘラミガキが認められる。内面のヘラミガキが底部にまでいっばいに施されているという点で甕₁-(b)の例と異なる。体部上半の内外面は磨滅のため調整不明であるが、他の例からすると甕₁-(b)にみられた調整と同様である。

甕₃-(1) (524・525) 口縁端部を上下両方に拡張させ、凹線文と刻目文をそこに施しているもの。口縁端部の拡張は甕₃-(2)・(3)と比べて少ない。例が少ないために一般化はできないが口縁端部に施される凹線文は数が少ない。524は2条、525は1条である。

口縁部内外面にはヨコナデが施されている。いずれもヨコナデは、体部外面上半にまでおよん

でいる。525の体部内面にはヘラミガキが認められる。

甕₃-(2) (526~627) 口縁端部を上下両方に拡張させ広い端面を造り出し、そこに2~4条の凹線文を施している。甕₃-(1)と同様に口縁部内外面は、ヨコナデにより調整され、ヨコナデの範囲は体部内外面上半にまでおよんでいる。

口縁部から底部にかけて遺存する例(622・623)がある。甕₁-(c)よりもさらに肩の張った「いちじく型」を呈する器形で、622の底部は上げ底になっている。出土した甕の底部は上げ底となっているものがかなり多かったために、これは甕₃-(2)の特徴といえる。

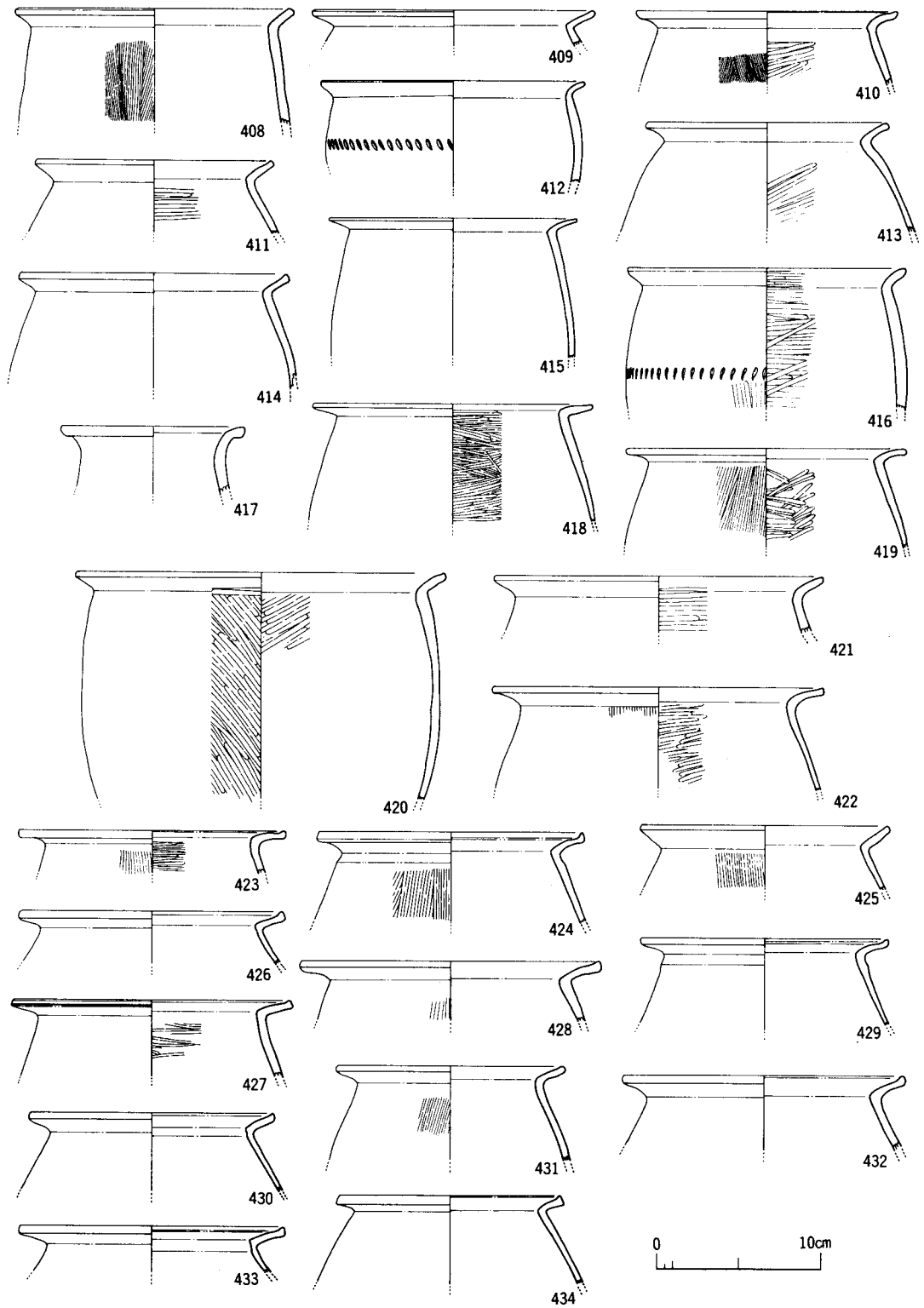
調整については、体部外面上半には縦方向のハケ目、中央から下半にかけては縦方向のヘラミガキが遺存する例が多い。これは甕₁-(b)・(c)にみられた調整手法と同様である。しかし体部内面上半には、ハケ目、ナデが認められる場合が多く、横方向のヘラミガキが施される例が多かった甕₁-(b)・(c)とは異なる。おそらくハケ目を施したのちにナデにより仕上げたものと思われるが、この部分に指頭圧痕が残る例が多い。器壁を押さえしめた様子がうかがえる。また体部内面の中央から下半にかけては縦方向のヘラ削りが認められる。甕₁-(b)・(c)には全くみられなかった調整上の特徴である。甕₃-(2)の器壁は甕₁-(b)・(c)と比較した時、かなり薄い。体部内面上半の押さえしめや、下半のヘラ削りは器壁を薄くして煮沸効果を高めるという目的で施されたものと思われる。

体部外面、最大腹径の位置には、ハケ原体や貝殻による押圧文が施されている。563の頸部には刻目突帯文が、613の頸部には刻目文が施されているが、2点に限られるので甕₃-(2)では特異な例といえる。

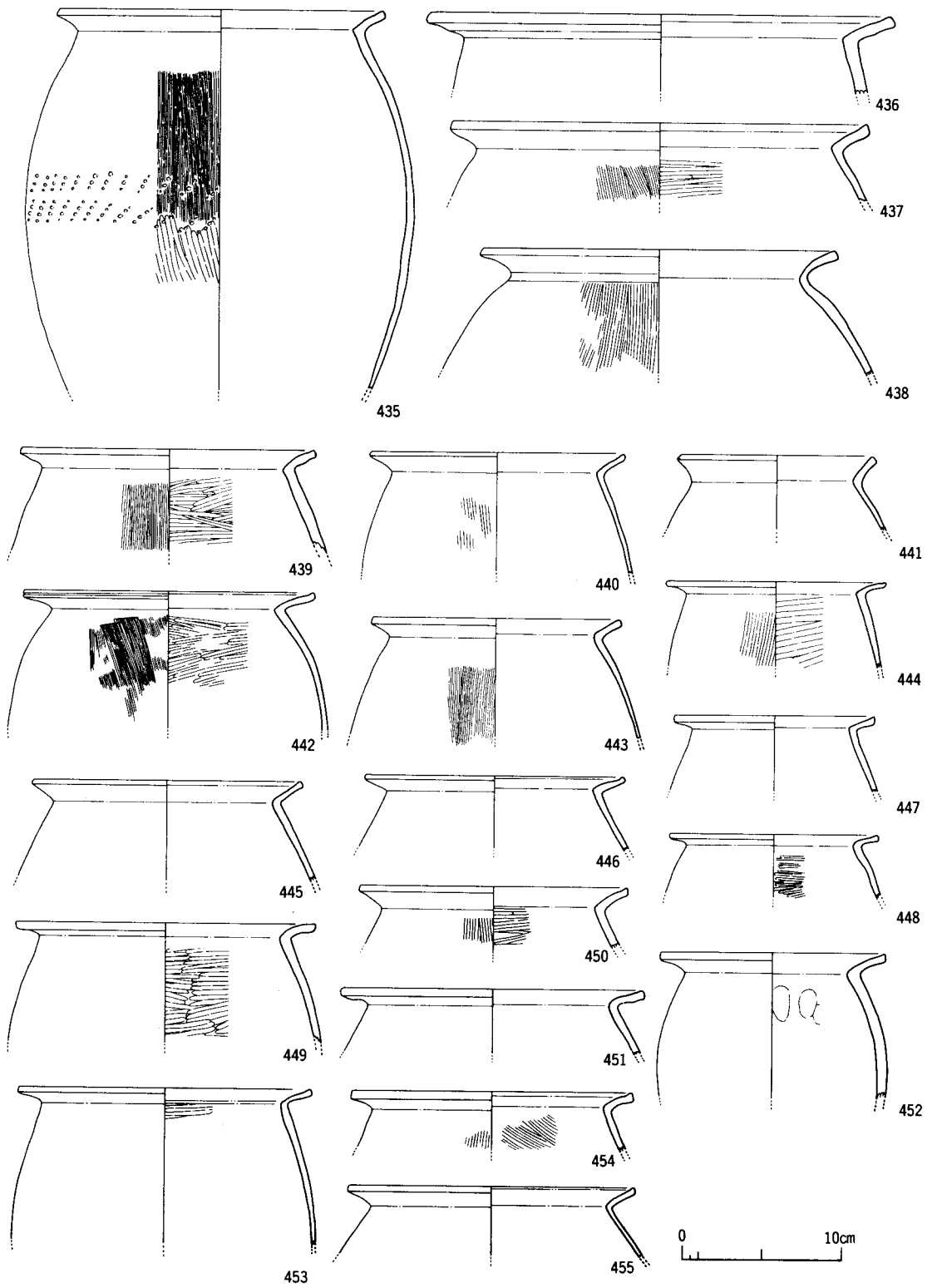
甕₃-(3) (635~687) 口縁端部を上下両方に拡張させ2~3条の凹線文を施したものである。しかし甕₃-(2)と比較すると、口縁端部の拡張は顕著ではなく、凹線文は不明瞭になっている。甕₃-(3)に分類したものには磨滅が著しいものが多かったために、本来は甕₃-(2)に分類されるものも含まれていると思われる。

不明瞭な凹線文は、(1)幅は広いが極めて浅いもの、(2)沈線状の細い線だけが認められるもの、(3)ヨコナデによる起伏で凹線とは認められないもの、(4)明瞭な凹線文が磨滅により不明瞭となったもの、に分けられる。口縁端部を全く拡張せずに凹線文が施されるものやそれとは逆に、口縁端部を拡張してもいわゆる凹線文を施さないものがある。これは、甕₃-(3)では、口縁端部を凹線文により加飾するという意識が薄れていったことを示している。

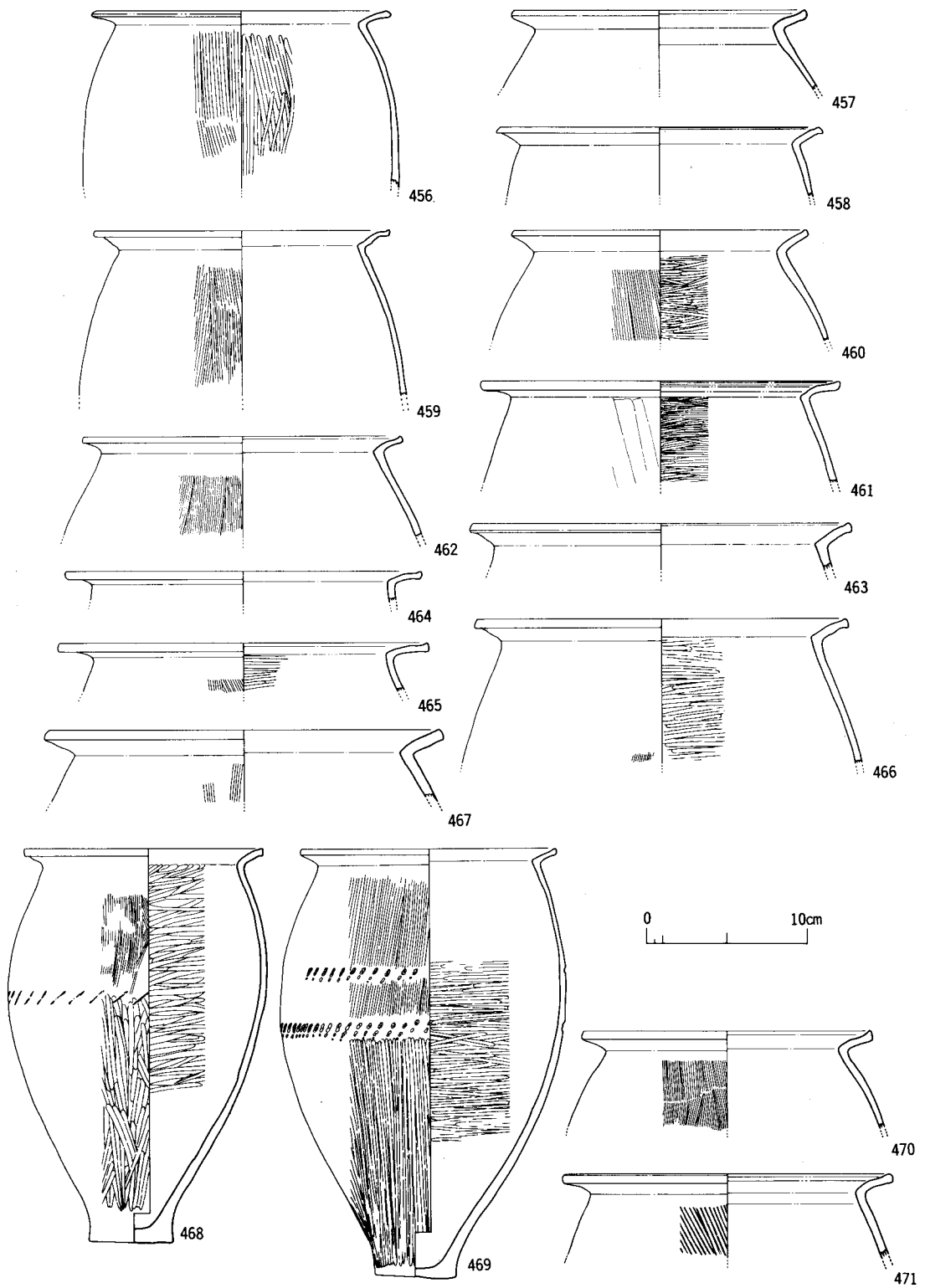
口縁部内外面はヨコナデにより調整されている。ヨコナデの範囲は、頸部の屈曲部から体部にかけて約2cmの範囲にまでおよんでいるものも多い。体部外面上半には、縦方向のハケ目、体部内面上半にはハケ目かナデが施されているという点で甕₃-(2)と同様の調整である。体部中央以下が遺存する例がないために断定はできないが、それ以下についても甕₃-(2)と同様の器形・調整をもつものと思われる。



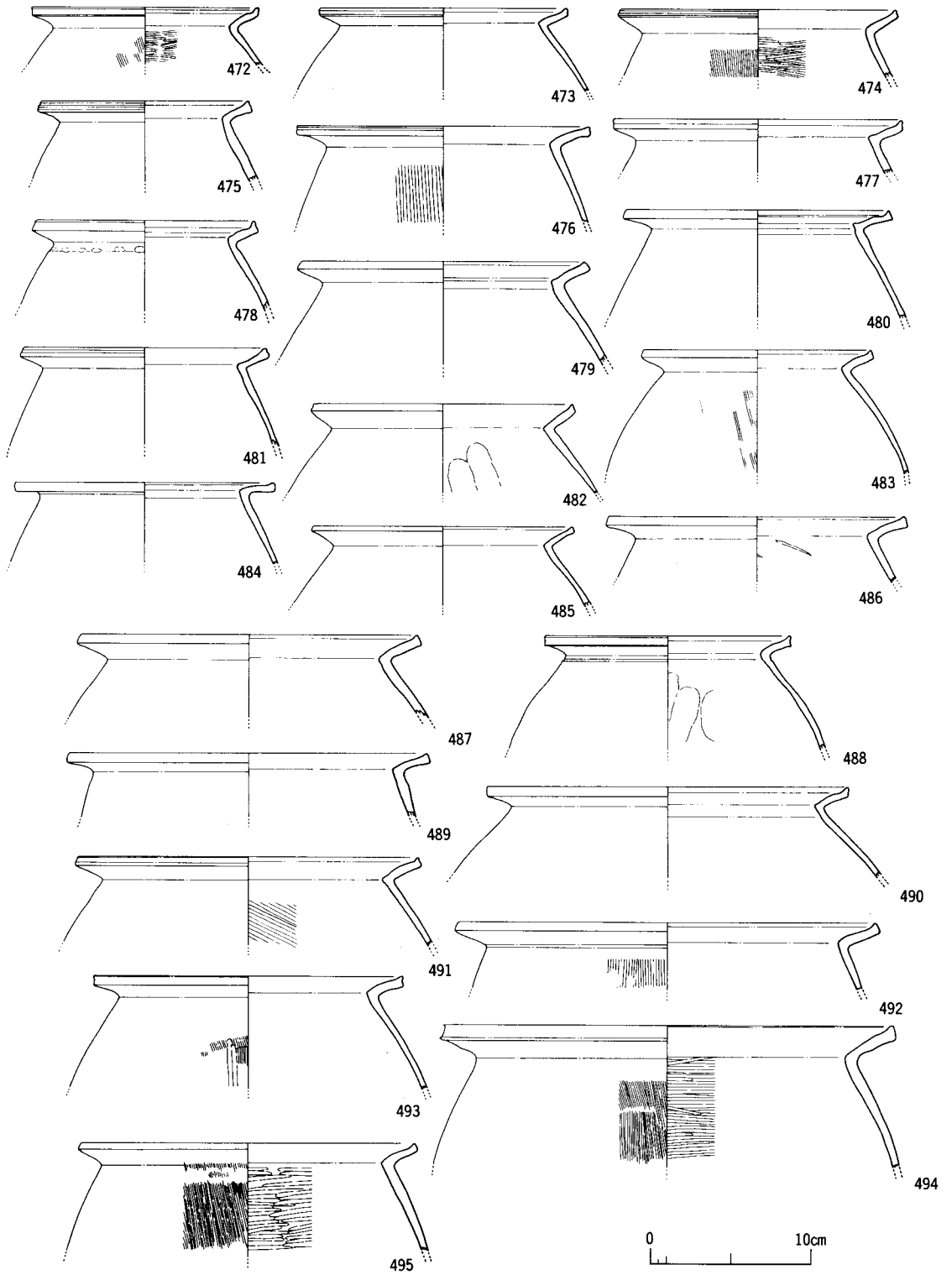
第120图 弥生土器 甕₁-(a)・₁-(b)実測图



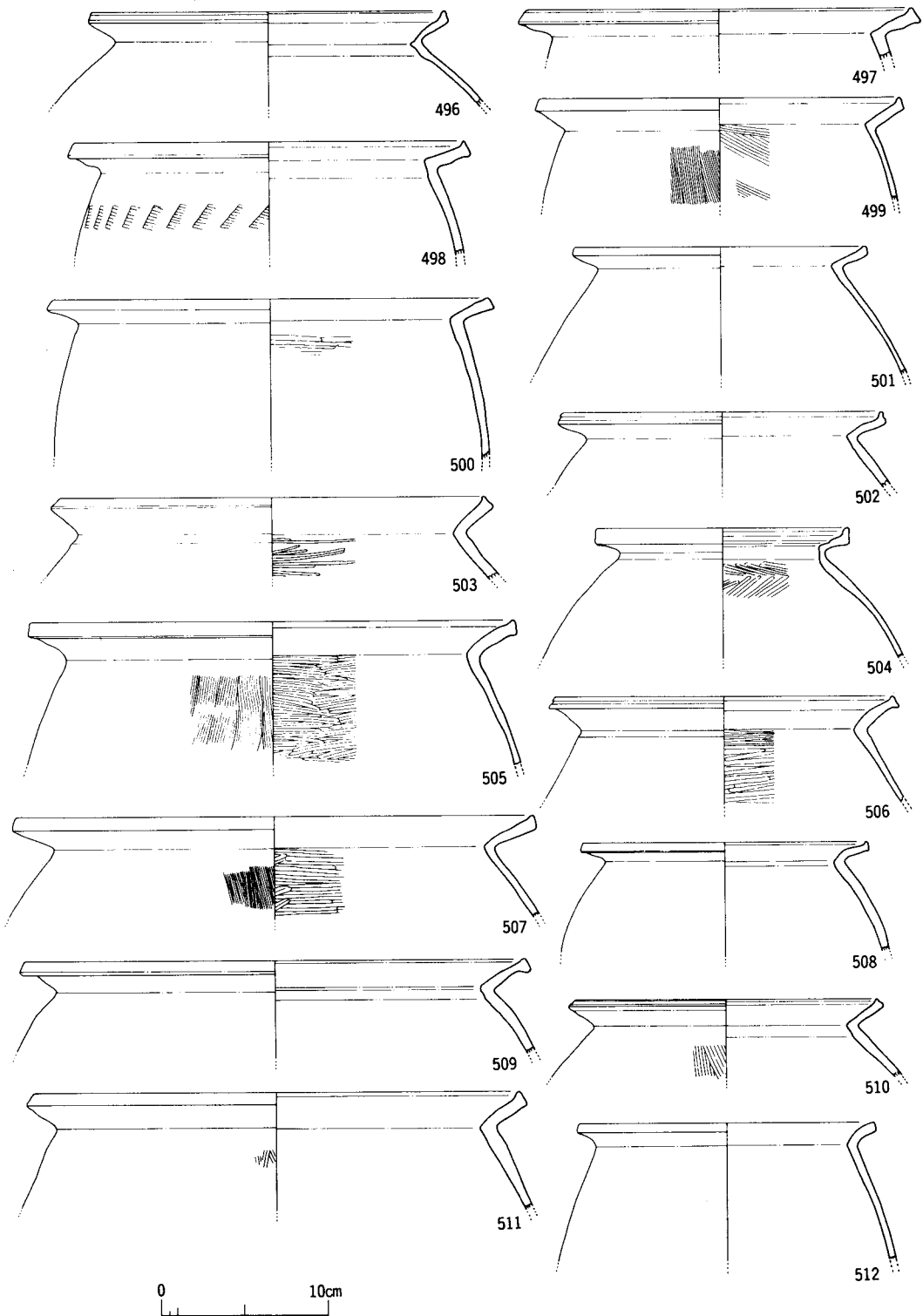
第121图 弥生土器 甕, -(b)实测图



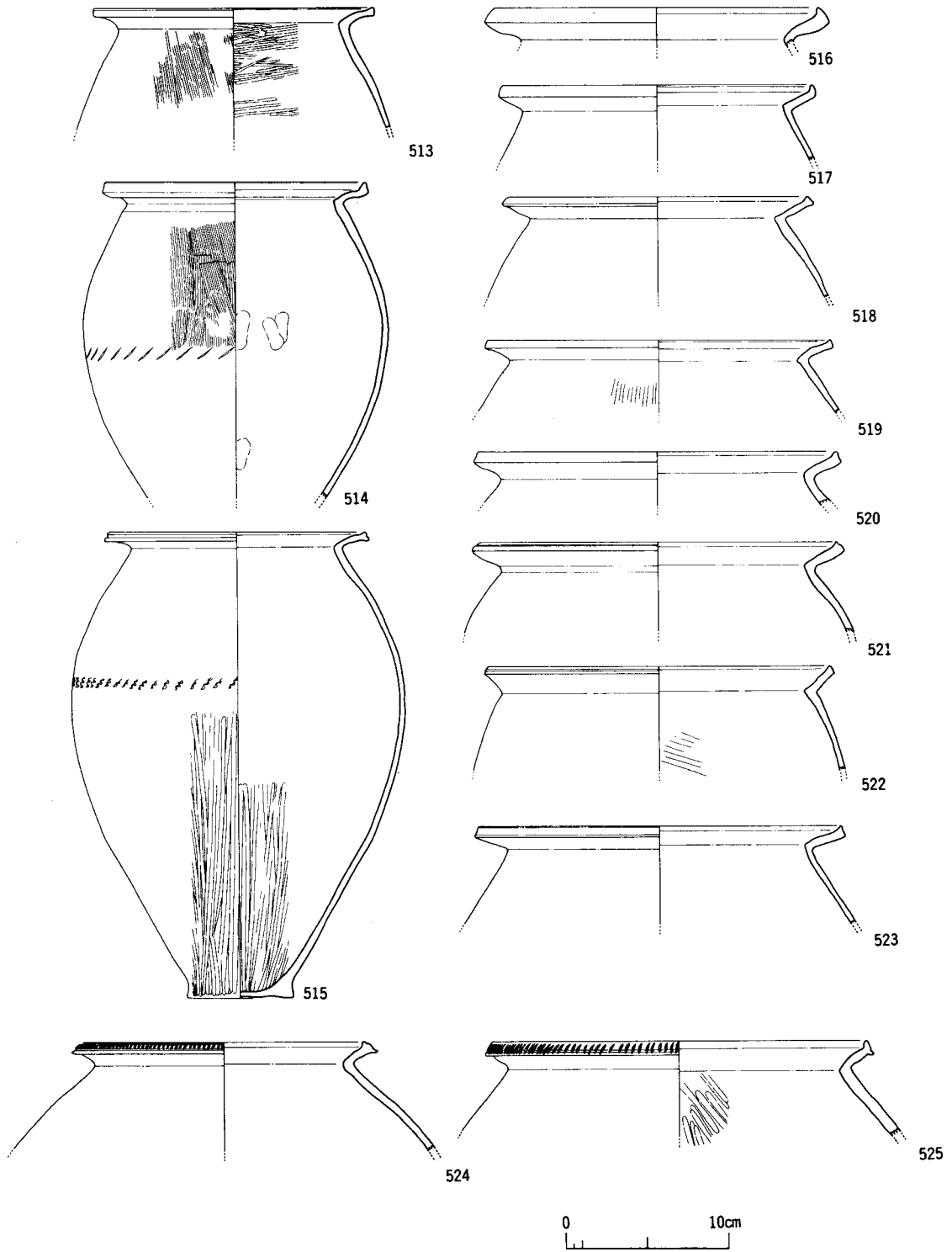
第122图 弥生土器 甕, -(b)实测图



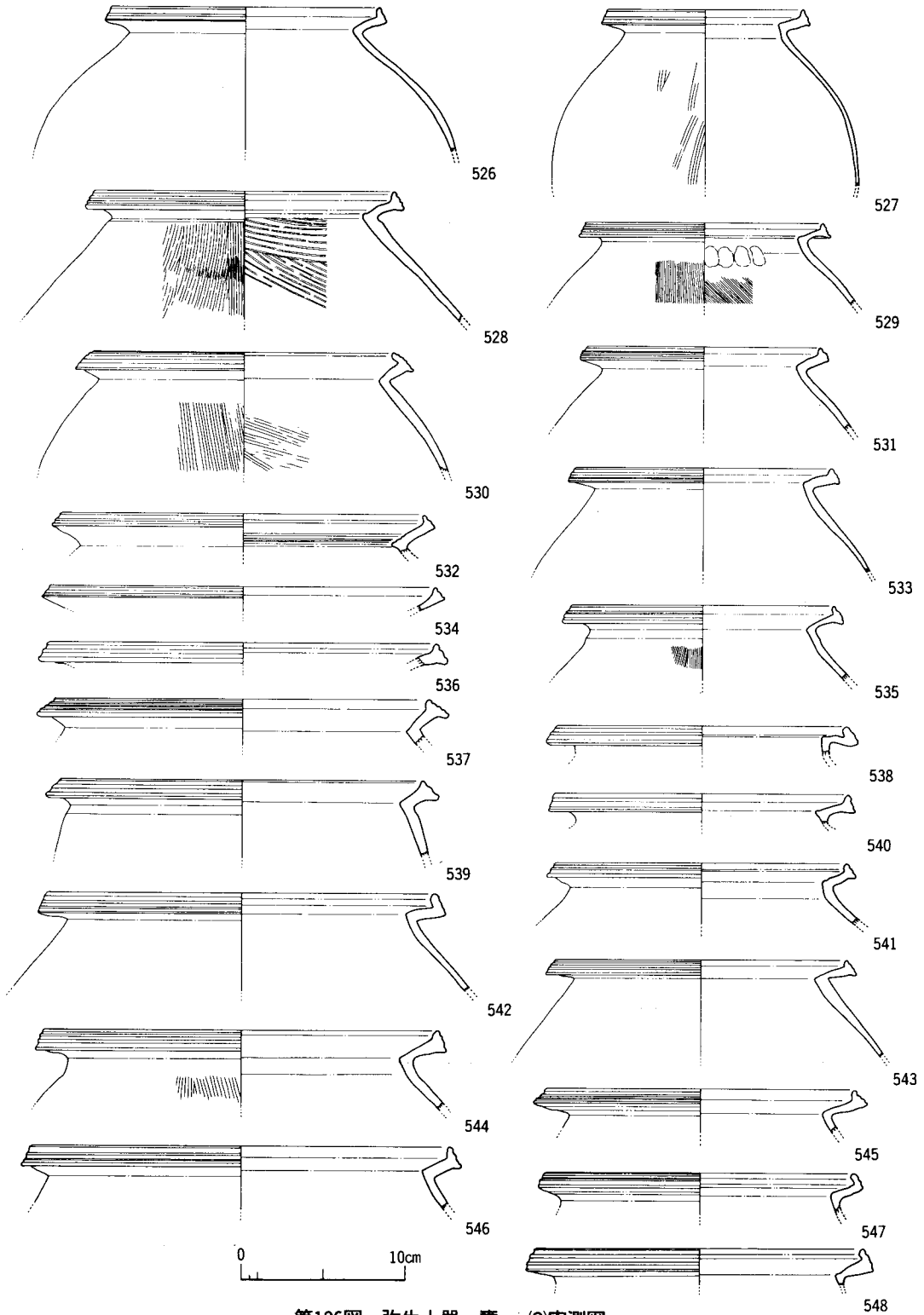
第123图 弥生土器 甕₁-(c)实测图



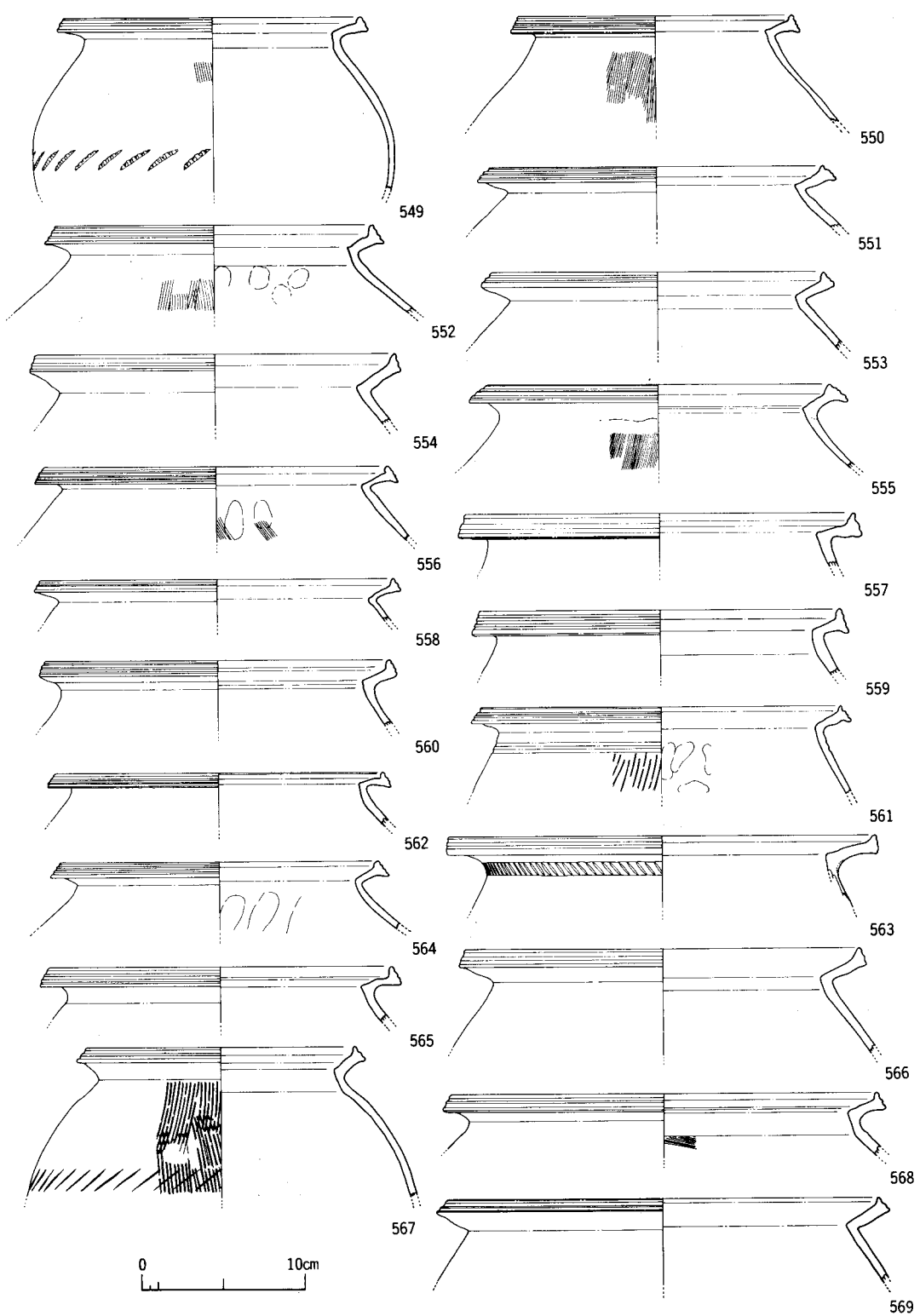
第124图 弥生土器 甕₁-(c)实测图



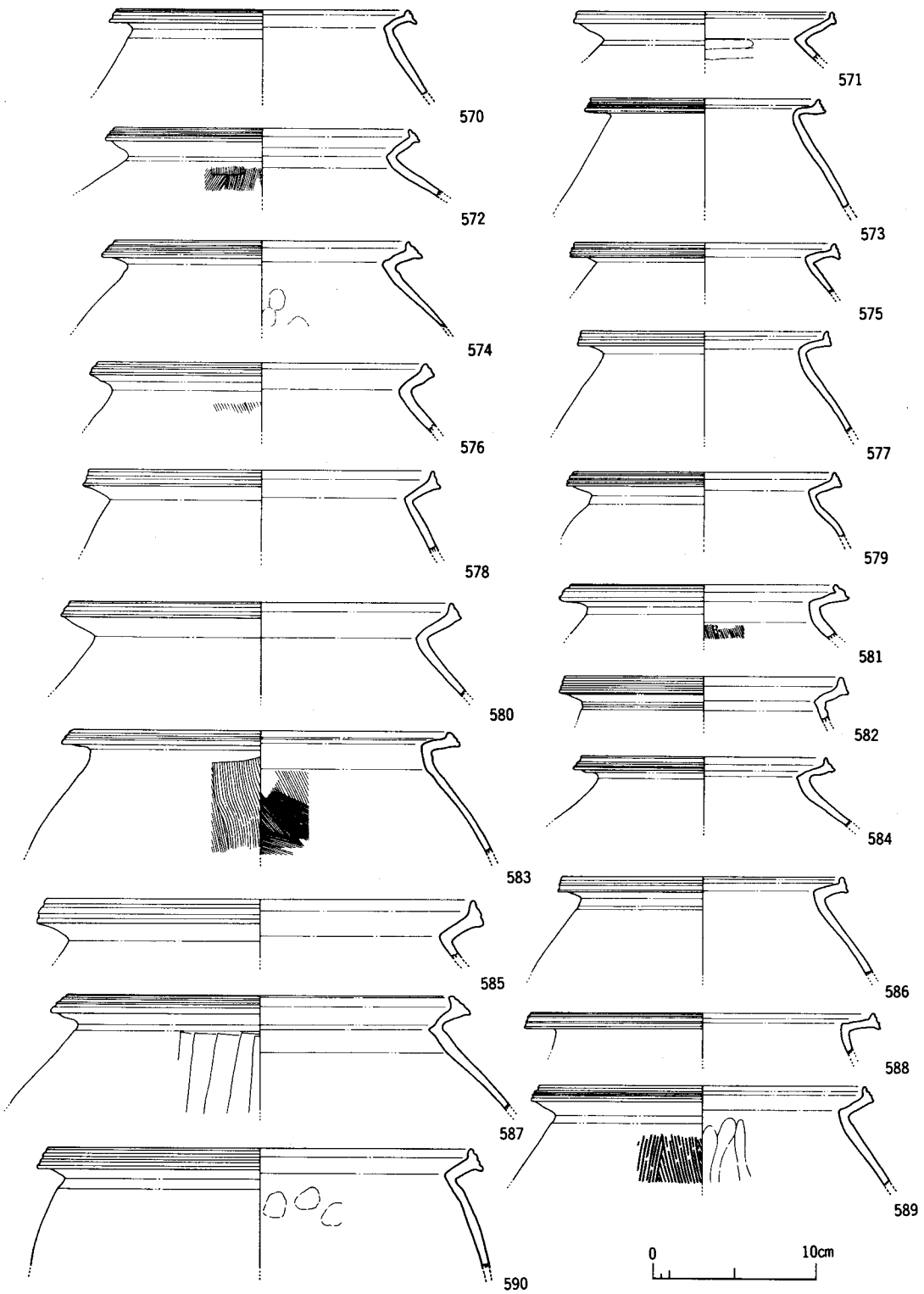
第125图 弥生土器 甕₁-(c), s-(1)实测图



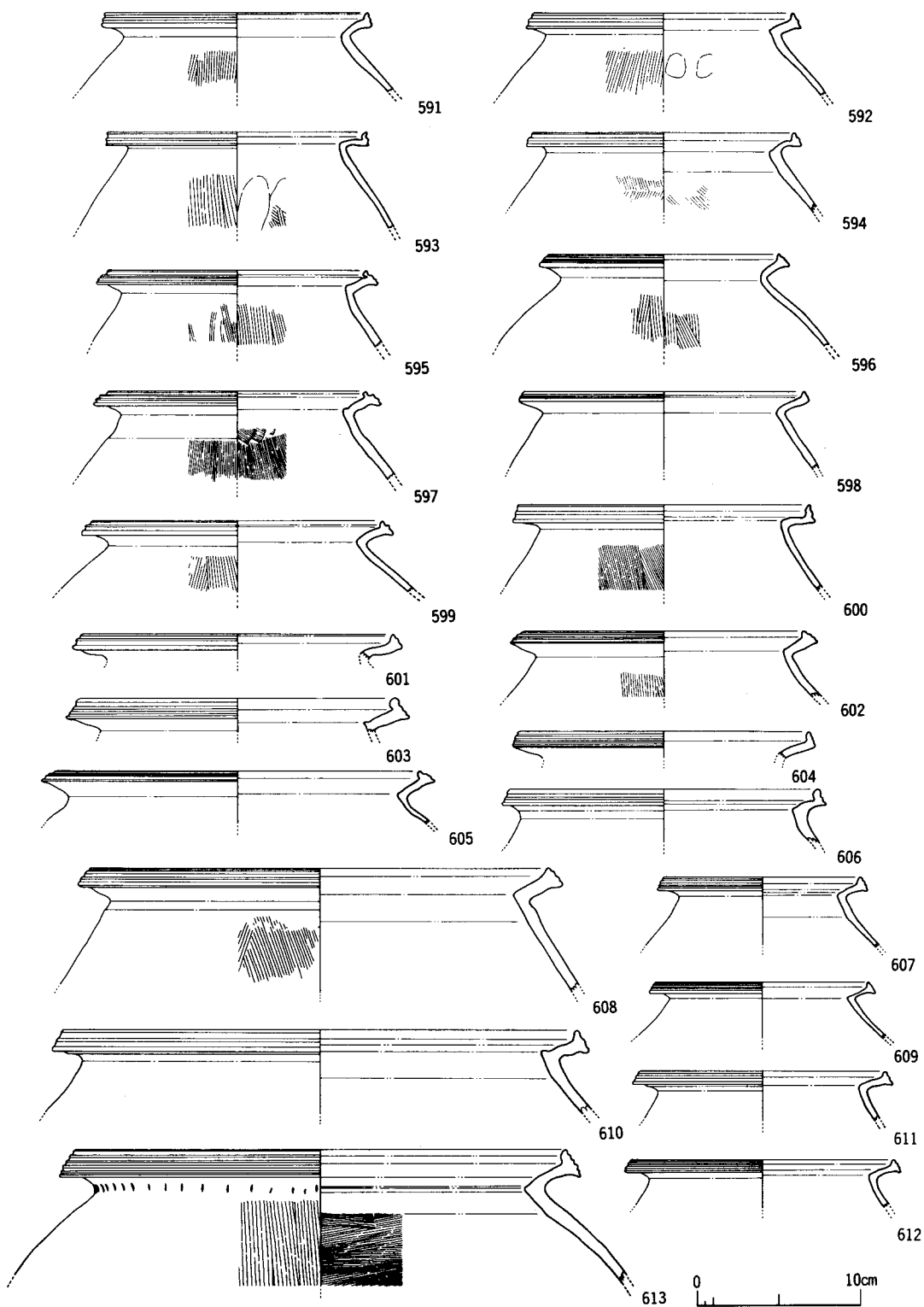
第126图 弥生土器 甕₃-(2)实测图



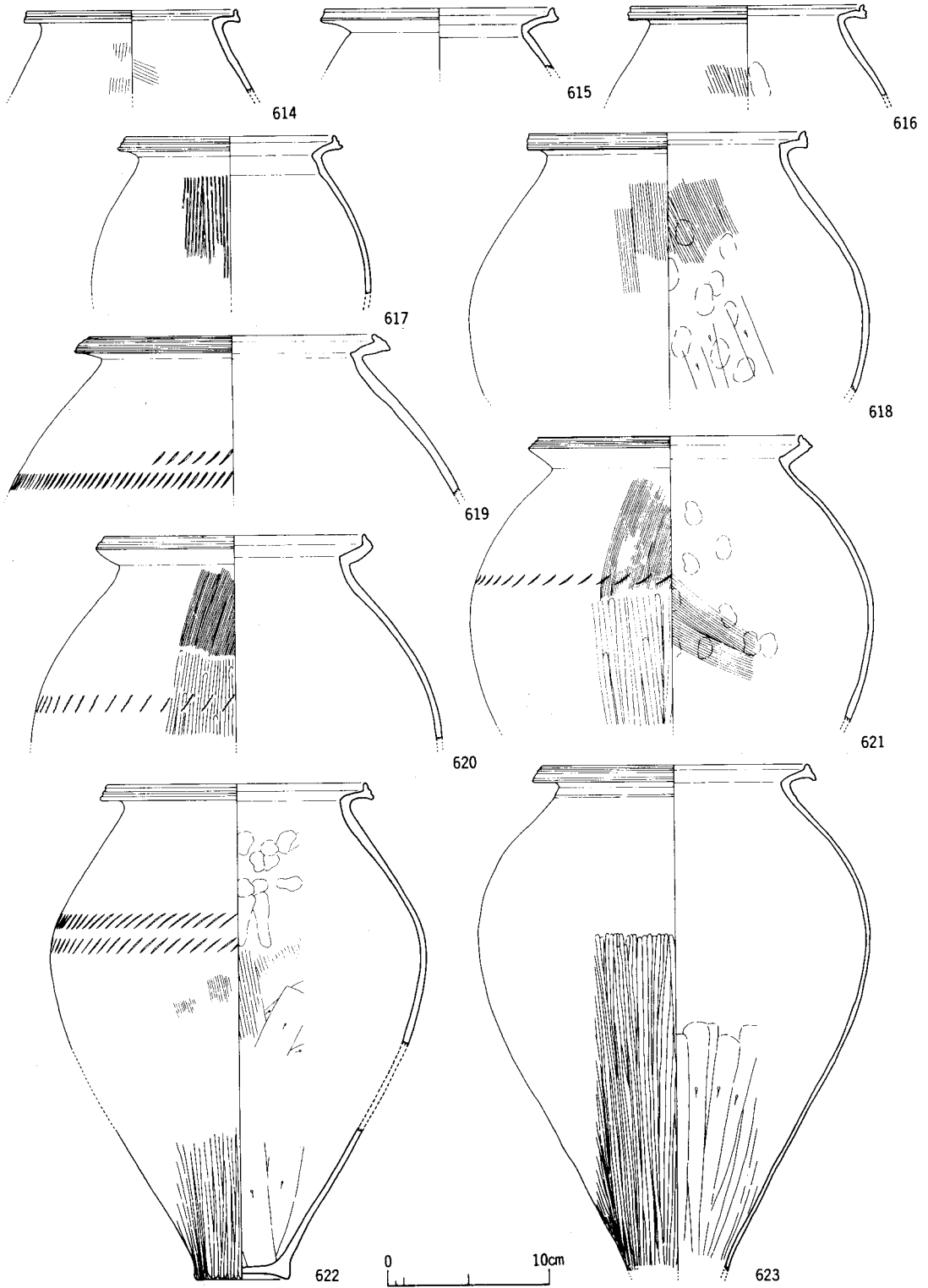
第127図 弥生土器 甕s-(2)実測図



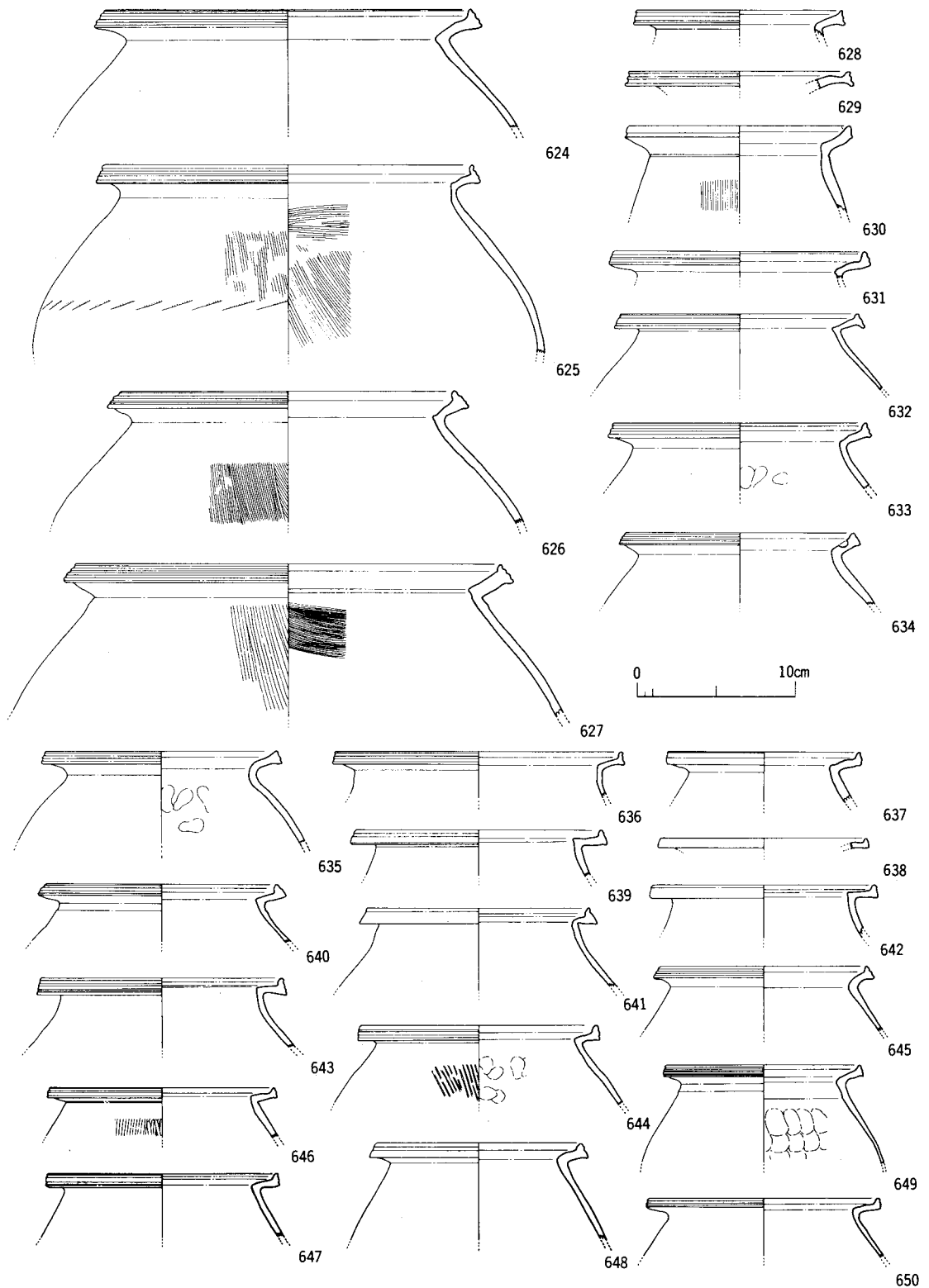
第128图 弥生土器 甕。(2)实测图



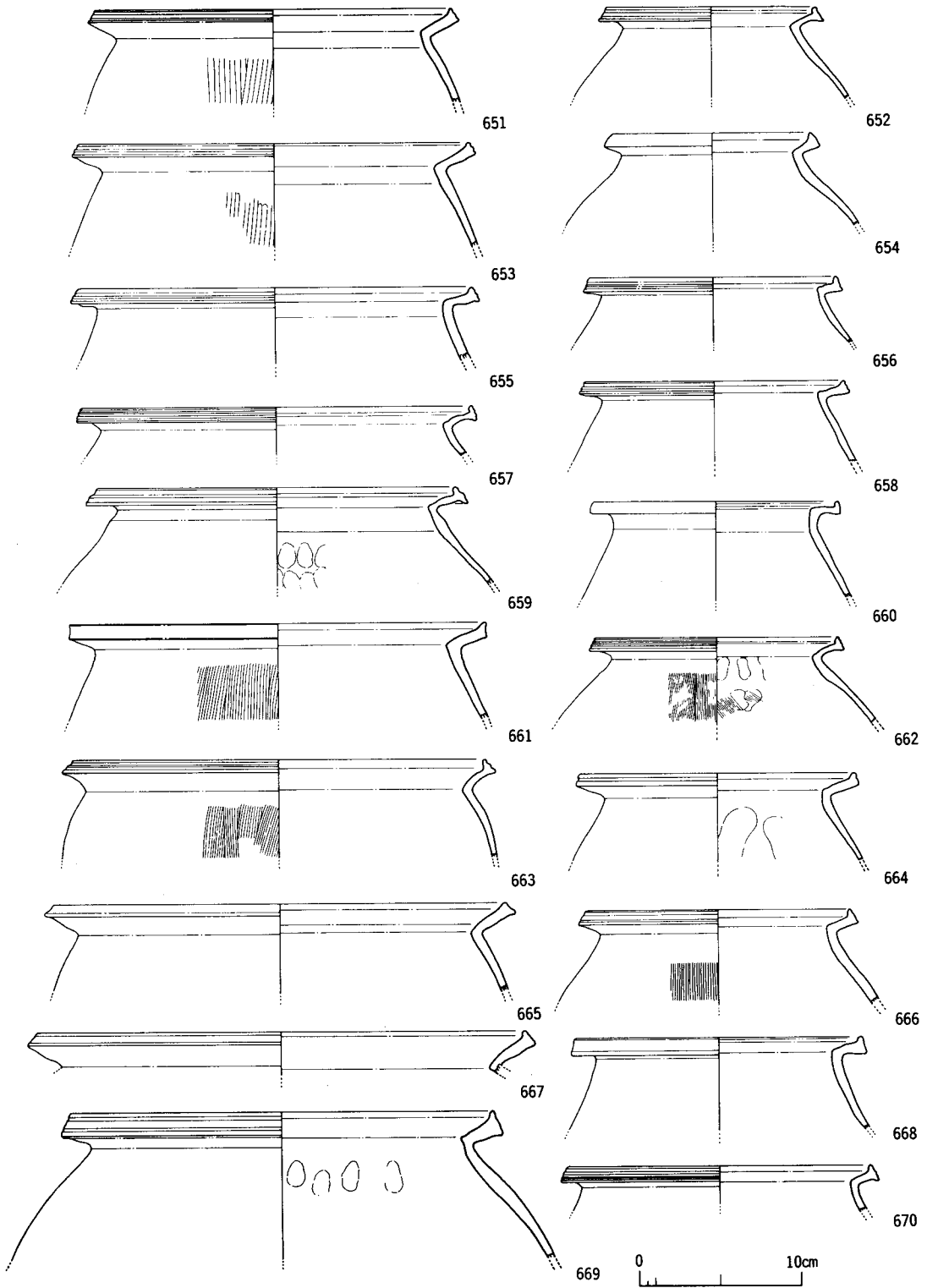
第129图 弥生土器 甕。(2)实测图



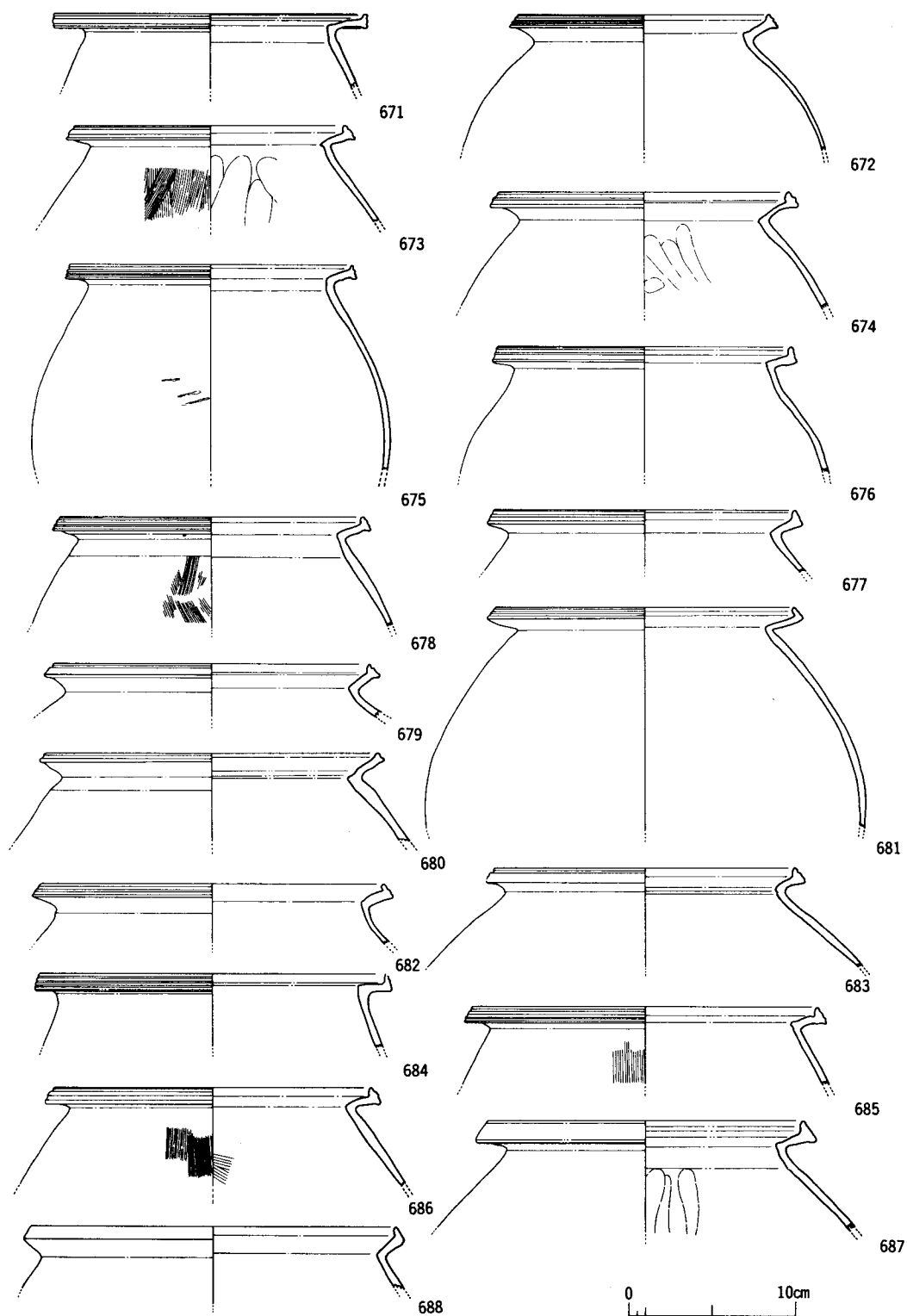
第130图 弥生土器 甕。(2)実測図



第131图 弥生土器 甕。(2)・(3)实测图



第132図 弥生土器 甕₃-(3)実測図



第133图 弥生土器 甕。(3)实测图

④甕（弥生時代後期）

弥生時代後期の甕の胎土は前述したように胎土Ⅲのものが多い。Ⅲと同じくらいの比率で胎土Ⅱのものもみられる。後期の甕にみられる胎土Ⅱは、色調が赤褐色、茶褐色を呈する点では中期の土器と同じであるが土質で違いが認められる。胎土中に黒雲母が多く含まれ、全体的には精緻となる。Ⅲとあわせて後期の土器に特徴的な胎土であるため、Ⅱとは区別して別に胎土Ⅴとする方が妥当であろう。

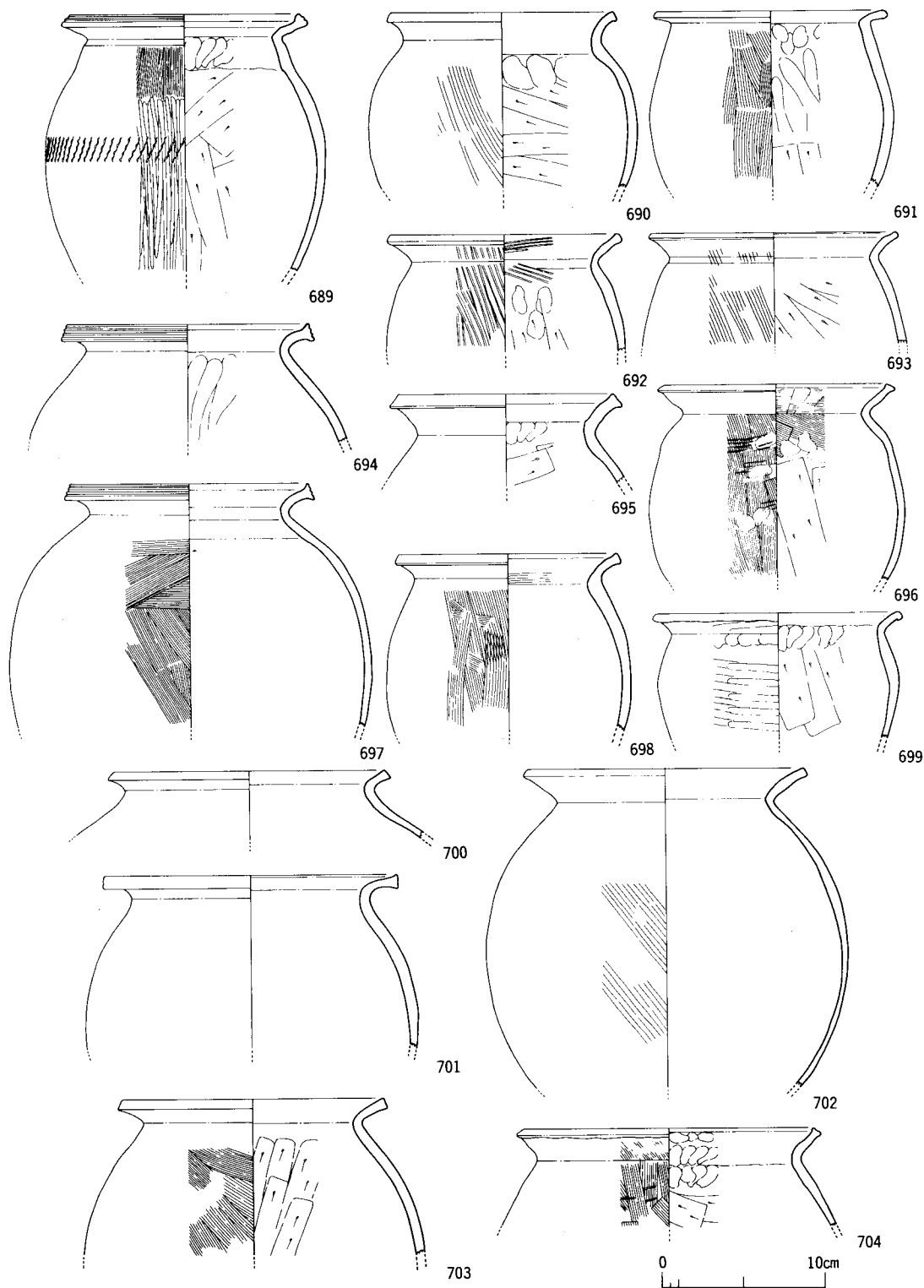
口縁端部の形態については、(1)上下に拡張させ平坦面を造り出しているもの、(2)拡張せずに平坦面を造り出しているもの、(3)丸く収めているもの、に分類できる。(1)については凹線文が施されているものと、ヨコナデは施されているが凹線文は認められないものがある。凹線文が認められる場合でも甕₃-(3)と同様に不明瞭なものである。

口縁部は体部から屈曲し斜め上方向に外反する。弥生時代中期の甕にもみられた一般的な器形であるが、頸部の屈曲部分が中期の甕のように鋭角的でないものが多いという点で異なっている。すなわち頸部が彎曲しながら屈曲するものが多いということである。

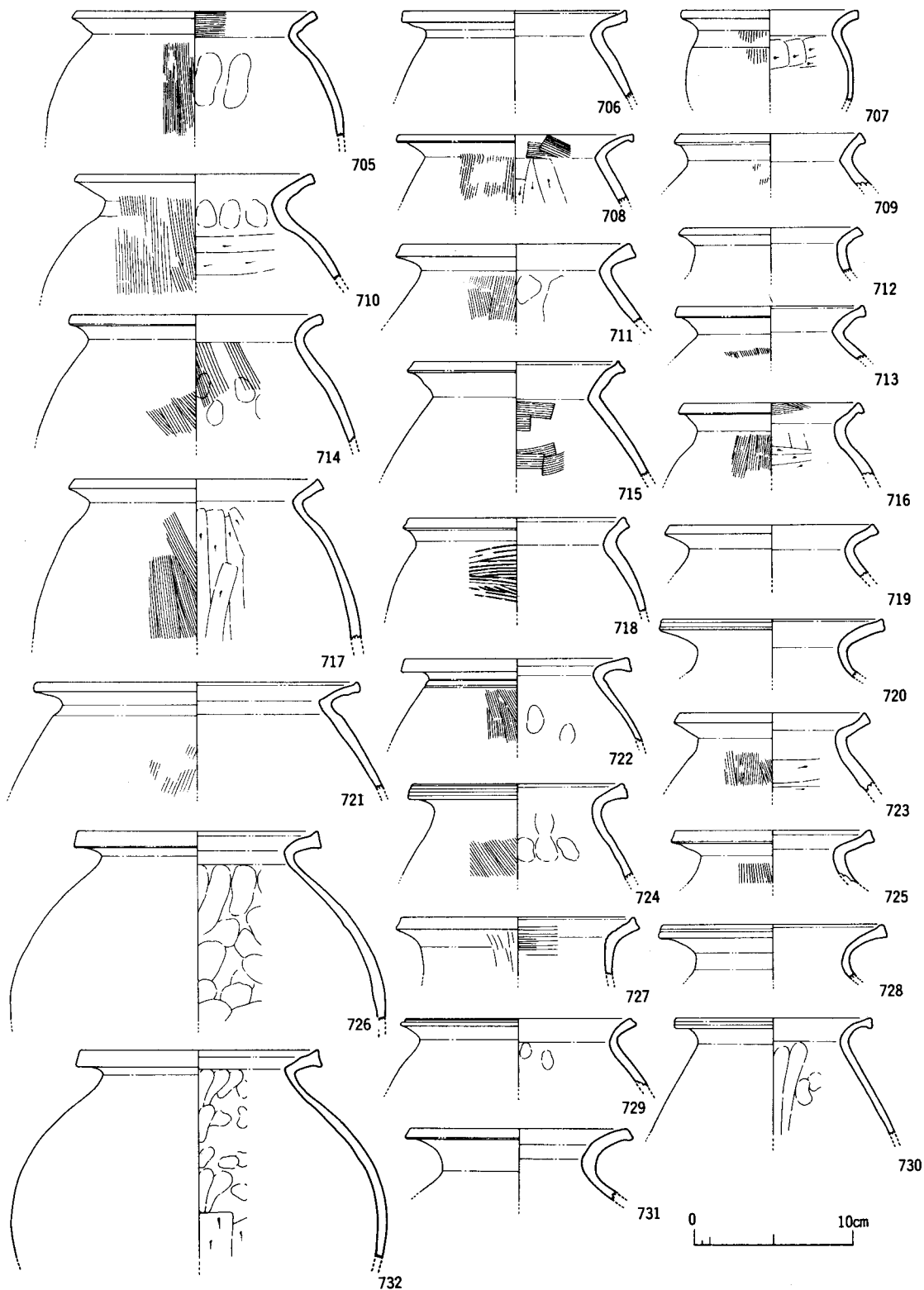
体部以下の器形については(a)744に見られるように「いちじく型」の原形をとどめているもの。(b)体部下半が細くならず上下に長い楕円形状を呈するもの(748)。(c)土師器の丸底壺のように小型のもの(696・699)に分けられる。口縁端部の形態との関係で言えば、(1)と(a)、(2)と(b)、(3)と(c)という組み合わせになる。この組み合わせは絶対的なものでなく例外を含むが、おおむねそういう組み合わせが成立するということはいえる。

調整について特徴的なものは、体部内面にみられるヘラ削りである。甕₃-(2)では体部内面下半にのみ限られたヘラ削りは後期の甕では体部内面の全面に認められるものが多い。726・732などにみられるように口縁端部が拡張され「いちじく型」の器形を呈すると思われる甕には、体部内面上半部に指頭圧痕文が広く遺存する。これは甕₃-(2)にみられた例と全く同じである。指頭圧痕の範囲が体部内面上半の一部に限られるのにもなってヘラ削りの範囲が広がっている。中期の甕と比較した時体部の器壁は厚いが、器壁を薄くするという目的で施されたものと思われる。

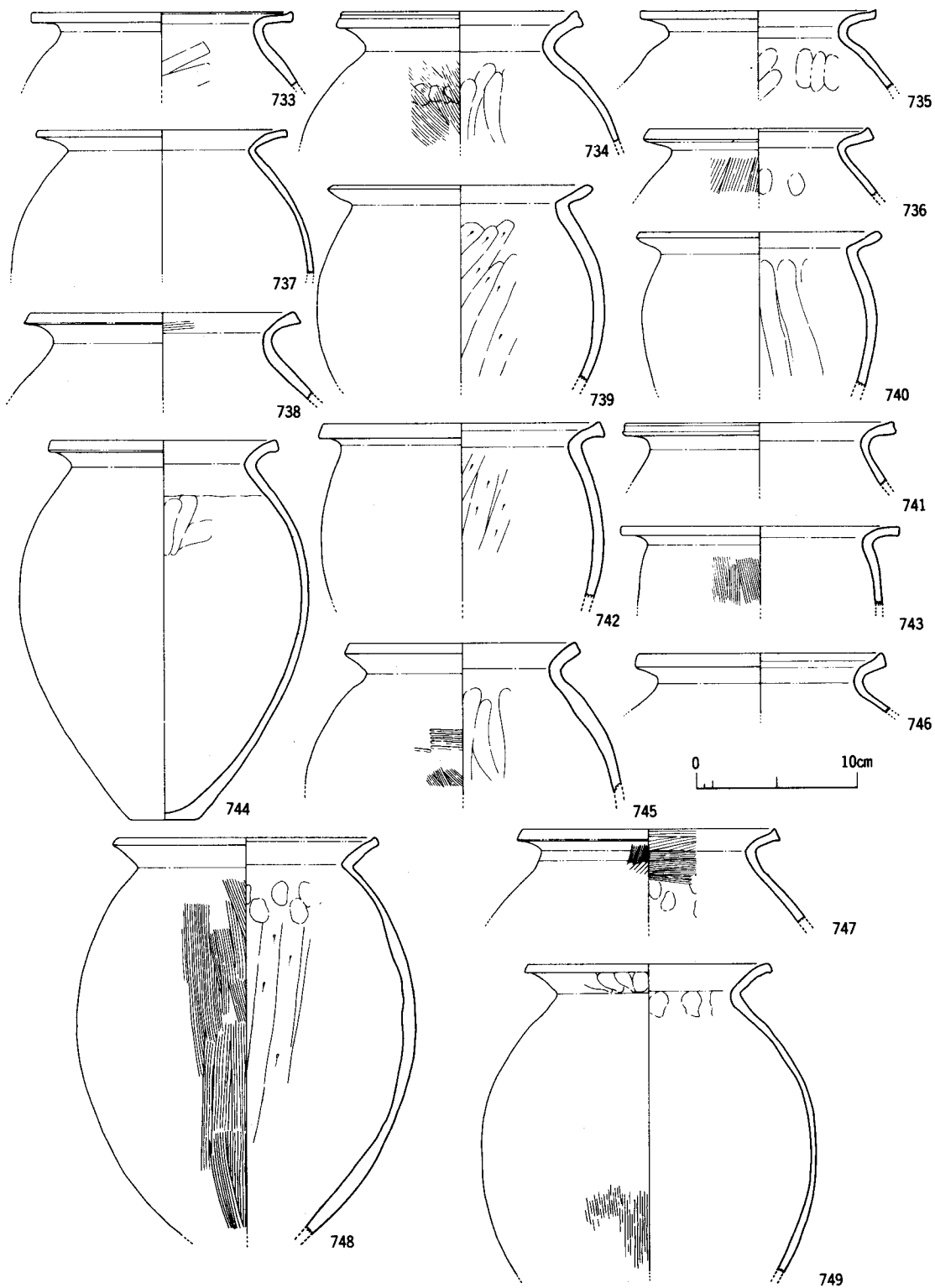
口縁部内外面はヨコナデが施されているものとナデが施されているものがある。口縁部内面にもハケ目が施されているものも、しばしば認められる。体部内面上半にはハケ目が施されている。下半部にはヘラミガキが施されているもの(689)とハケ目が施されているもの(748)とがある。689は器形より、やや前出性が認められる。体部外面は全面にわたりハケ目が施されているものが一般的だと思われる。また699・745の体部外面にはタタキ目が遺存する。後期の甕の中でも特異な例ではあるが、やや後出性を感じさせる。



第134图 弥生土器 甕（後期）実測図



第135图 弥生土器 甕 (後期) 実測図



第136图 弥生土器 甕 (後期) 実測図

(表1-(a)・(b))

実測 図番 号	遺構 番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
408	S D85101	X-8	I	1/8	16.8	-	口縁部外面 ナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面 ハケ目
409	S K85104	X-8 (N)	II	1/8	17.2	-	口縁部内外面 ナデ
410	S D85101	Y-9	I	1/8	(16.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 体部内面 ヘラミガキ
411	S D85124	V-9	IV	1/8	14.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
412	包含層	W-9	II	1/2	16.0	-	口縁部内外面 ナデ, 磨滅のため調整不明瞭 体部外面上半 刺突文
413	S D85101	X-8	I	1/8	(14.9)	-	口縁部内外面 ナデ 体部内面 ヘラミガキ
414	包含層	V-9	I	1/8	16.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明
415	S D85124	V-9	I	1/8	15.0	-	磨滅のため調整不明
416	S D85101	X-8	I	1/8	17.0	-	口縁部外面 ナデ, 口縁部から体部内面 ヘラミガキ 体部外面 刺突文
417	S D85124	V-9	IV	1/8	11.0	-	口縁部内外面 ナデ, 体部外面 ハケ目
418	包含層	V-10	I	1/4	17.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ
419	S D85101	X-8 (S)	I	1/8	17.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ
420	S D85124	V-9	II	1/4	22.4	-	口縁部内外面 ナデ 体部内外面 ヘラミガキ
421	S P-10	X-8 (N)	I	1/8	20.0	-	体部内面 ヘラミガキ, 磨滅のため調整不明
422	S D85124	V-9	I	1/8	(20.0)	-	体部内面 ヘラミガキ, 磨滅のため調整不明
423	S P-49	V-9	IV	1/8	(16.2)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ
424	包含層	X-8	IV	1/4	16.2	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面 ハケ目
425	S P-28	X-9	IV	1/8	(15.2)	-	磨滅のため調整不明 体部外面 6条/cmのハケ目
426	S D85101	X-8	I	1/4	16.0	-	磨滅のため調整不明
427	S D85101	Y-9	1	1/4	17.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明 体部内面 ヘラミガキ

第34表 土器観察表(2)

(壺, - (b))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
428	S D85101	W-8	I	1/8	(18.2)	-	磨滅のため調整不明, 体部外面 ハケ目
429	S D85102	X-8 (S)	IV	1/8	15.0	-	磨滅のため調整不明
430	S D85101	X-8	IV	1/4	14.8	-	磨滅のため調整不明
431	S D85101	Y-9	I	1/8	14.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目
432	S X85004	B-6	I	1/8	17.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明
433	S X85004	B-6	IV	1/8	16.0	-	磨滅のため調整不明
434	包含層	-	IV	1/8	13.8	-	磨滅のため調整不明
435	包含層	W-9	I	1/8	20.6	-	口縁部内外面 磨滅のため調整不明 体部外面上半 ハケ目, 中央 列点文 下半 ヘラミガキ
436	S D85124	V-9	I	1/8	(29.4)	-	口縁部内外面 ヨコナデ
437	包含層	V-9	I	1/8	26.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
438	包含層	W-8	I	1/8	22.4	-	体部外面 ハケ目, 磨滅のため調整不明
439	包含層	V-9	I	1/8	18.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 9条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
440	包含層	V-9	I	1/2	16.0	-	体部外面 4条/cmのハケ目 磨滅のため調整不明
441	S D85012	A-6	II	1/8	12.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ
442	包含層	W-9	I	1/4	18.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 13条/1.5cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
443	包含層	V-9	II	1/8	15.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 10条/cmのハケ目
444	S D85101	X-8	I	1/8	(13.8)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ
445	S D85101	W-8	I	1/8	(17.0)	-	口縁部外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明瞭
446	S D85102	X-8 (S)	IV	1/8	16.4	-	磨滅のため調整不明
447	S D85124	V-9	I	1/8	(12.6)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明

第35表 土器観察表(23)

(覽₁-(b))

実測 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
448	S D85102	X-9	I	1/8	13.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
449	包含層	W-9	II	1/4	18.8	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 ナデ, 内面 ヘラミガキ
450	S D85124	V-9	IV	1/8	(16.8)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 6条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
451	S D85101	X-8(S)	II	1/8	19.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
452	S D85101	X-8	I	1/8	(14.2)	-	磨滅のため調整不明
453	包含層	W-9	I	1/2	18.5	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ハケ目
454	S D85101	W-8	I	1/8	(17.8)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
455	包含層	Y-9	I	1/8	(18.0)	-	磨滅のため調整不明
456	包含層	W-9	IV	1/4	18.7	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 5条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
457	包含層	W-8	IV	1/8	18.4	-	口縁部外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
458	包含層	W-8	IV	1/8	20.4	-	磨滅のため調整不明
459	包含層	W-9	I	1/2	18.4	-	口縁部 磨滅のため調整不明 体部外面 8条/cmのハケ目
460	S D85124	V-9	IV	1/8	18.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 12条/1.5cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
461	包含層	X-8	I	1/8	22.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
462	包含層	V-9	IV	1/8	(20.0)	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面 8条/cmのハケ目
463	S B85112	V-9	IV	1/8	23.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ
464	S D85124	V-9	IV	1/8	(22.2)	-	口縁部内外面 ヨコナデ
465	S K85104	X-8(N)	IV	1/8	(23.2)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7~8条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
466	S D85124	V-9	I	1/4	23.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
467	包含層	W-8	I	1/8	24.9	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 5条/0.6cmのハケ目

第36表 土器観察表(24)

(観1-(b)・(c))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
468	S D85101	Y-9	I	ほぼ 完形	14.9	24.9	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面上半 ハケ目, 中央刻目文, 体部下半 ヘラミガキ, 体部内面上半~中央 ヘラミガキ, 下半 ナデ
469	包含層	W-9	I	ほぼ 完形	16.0	27.2	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面上半 7条/cmのハケ目, 体部中央 列点文, 下半 ヘラミガキ 体部内面 ヘラミガキ, 下半 ナデ
470	S D85101	Y-9	I	1/8	18.2	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面 ハケ目
471	S D85101	Y-9	I	1/8	(20.7)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ナデ
472	S B85113	X-9	I	1/4	14.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ
473	S K85104	X-8 (N)	I	1/8	(15.4)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明
474	包含層	-	II	1/4	17.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ
475	S D85101	X-8 (S)	II	1/4	13.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明
476	包含層	V-9	I	1/8	18.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 5条/cmのハケ目, 内面 ナデ
477	S D85124	V-9	IV	1/8	(18.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ
478	S D85010	A-6	II	1/4	14.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ
479	S D85014	A-6	III	1/8	18.0	-	磨滅のため調整不明
480	S X85004	B-6	I	1/4	16.8	-	磨滅のため調整不明
481	S B85112	V-9	IV	1/8	15.5	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明
482	包含層	V-9	IV	1/8	16.4	-	磨滅のため調整不明
483	S D85101	X-8	I	1/8	14.5	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面 ハケ目
484	S D85037	E-4	I	1/8	16.2	-	磨滅のため調整不明
485	S P-60	V-9	IV	1/8	16.4	-	磨滅のため調整不明
486	S D85037	E-4	I	1/8	18.8	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明
487	S D85101	X-8	I	1/8	21.4	-	口縁部外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明

第37表 土器観察表(25)

(覽, -c)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
488	S P - 22	V - 9	IV	1/8	15.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ナデ
489	S X85004	B - 6	IV	1/8	22.6	-	磨滅のため調整不明
490	S D85101	Y - 9	IV	1/8	22.6	-	磨滅のため調整不明
491	S K85104	X - 8 (N)	I	1/4	21.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 5条/cmのハケ目
492	包含層	X - 8	I	1/8	26.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 12条/1.7cmのハケ目
493	S D85037	E - 4	I	1/4	19.3	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 9条/cmのハケ目, ヘラミガキ
494	包含層	V - 9	IV	1/4	28.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 9条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
495	包含層	W - 9	I	1/4	21.1	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 10条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
496	S D85025	C - 6	IV	1/8	(21.6)	-	磨滅のため調整不明
497	S X85004	B - 6	IV	1/8	24.1	-	口縁部内外面 ヨコナデ
498	S D85101	X - 8	I	1/8	24.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 体部外面上半 ハケ原体の押圧文
499	S D85101	X - 8	I	1/8	22.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ハケ目
500	包含層	W - 8	I	1/8	26.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
501	包含層	-	I	1/4	17.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明
502	SP - 不明	W - 9	I	1/8	19.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明
503	S D85130	C - 5	I	1/8	26.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
504	S D85121	W - 9	II	1/4	15.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ヘラミガキ
505	包含層	V - 9	II	1/8	29.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 10条/1.5cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
506	包含層	Y・Z - 7	I	1/8	(11.0)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明 体部内面 ヘラミガキ
507	S D85124	V - 9	I	1/8	31.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ

第38表 土器観察表(26)

(表1-(c), 表3-(1)・(2))

実測図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
508	S D85102	X-8	IV	1/8	(17.2)	-	口縁部外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
509	S D85102	X-8	IV	1/8	30.6	-	口縁部外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
510	S D85101	X-8(S)	I	1/4	18.8	-	磨滅のため調整不明, 体部外面にハケ目
511	S K85104	X-8(N)	I	1/8	30.0	-	磨滅のため調整不明
512	包含層	W-9	IV	1/8	17.8	-	磨滅のため調整不明
513	包含層	W-9	IV	1/2	17.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7条/cmのハケ目, 内面 ヘラミガキ
514	S D85101	X-8	I	1/8	16.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面上半 ハケ目, 中央に刻目文
515	包含層	W-9	I	1/4	16.4	29.2	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半内外面 磨滅のため 調整不明, 体部外面中央 貝殻による押圧文, 下半 ヘ ラミガキ, 体部内面下半 ヘラミガキ
516	S B85014	A・B-5・6	IV	1/8	(21.2)	-	磨滅のため調整不明
517	S P-18	A-6	I	1/8	19.4	-	磨滅のため調整不明
518	包含層	W-9	IV	1/2	19.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明
519	S D85037	E-4	I	1/8	21.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 3条/cmのハケ目
520	S D85102	X-8(S)	IV	1/8	(22.6)	-	口縁部内面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
521	S D85101	X-8	I	1/4	23.0	-	磨滅のため調整不明
522	S D85037	E-4	I	1/8	21.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 4条/cmのハケ目
523	包含層	X-9	I	1/8	22.8	-	口縁部外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
524	S D85101	Y-9	I	1/8	19.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条, 刻目文
525	S D85101	X-8(S)	I	1/8	24.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部内面 ヘラミガキ 口縁端部 凹線1条, 刻目文
526	包含層	C-5	II	1/4	17.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線2条
527	S D85013	A・B-6	II	1/4	12.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 口縁端部 凹線2条

第39表 土器観察表(27)

(現, - (2))

実測 図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
528	包含層	W-8	I	1/4	19.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 3 条 体部外面 7 条/cm, 内面 4 条/cmのハケ目
529	S D85028	C-6	II	1/8	15.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 3 条 体部外面 9 条/cm, 内面 9 条/cmのハケ目
530	S D85121	W-9	IV	1/8	20.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 4 条 体部内外面 ハケ目
531	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	(15.2)	-	口縁端部 凹線 3 条 磨滅のため調整不明
532	S B85104 ㊦	V-9	II	1/8	23.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 2 条
533	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	16.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 3 条
534	S D85122	W-9	I	1/8	24.6	-	口縁端部 凹線 2 条 磨滅のため調整不明
535	S D85031	B・C-5・6	IV	1/8	17.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 9 条/cmのハケ目 口縁端部 凹線 3 条
536	S B85104 ㊧	V-9	II	1/8	25.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 2 条
537	S D85125	V-9	I	1/8	(25.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 4 条
538	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	19.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 2 条
539	S D85102	X-8 (S)	IV	1/8	24.0	-	口縁端部 凹線 2 条 磨滅のため調整不明
540	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	18.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 2 条
541	S D85031	B・C-5・6	IV	1/8	(18.8)	-	口縁端部 凹線 2 条 磨滅のため調整不明
542	包含層	-	II	1/8	24.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 2 条 体部 磨滅のため調整不明
543	包含層	-	II	1/8	19.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 3 条 体部 磨滅のため調整不明
544	S D85124	V-9	IV	1/8	(25.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 4 条/cmのハケ目 口縁端部 凹線 3 条
545	S D85011	A-6	II	1/8	(20.4)	-	口縁端部 凹線 3 条 磨滅のため調整不明
546	包含層	U-9	II	1/8	27.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 3 条
547	S B85104 ㊨	V-9	II	1/8	19.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 2 条

第40表 土器観察表(28)

(號₃-2)

実測図 番 号	遺構番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
548	S D85037	E-4	I	1/8	21.3	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
549	S D85010	A-6	II	1/8	19.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 □縁端部 凹線2条, 体部外面 ハケ原体による押圧文
550	S D85036	D-5	II	1/4	17.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 9条/cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線3条
551	S D85036	D-4	II	1/4	21.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ, □縁端部 凹線3条
552	S D85013	A・B-6	II	1/8	20.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線3条
553	S D85010	A-6	II	1/8	21.6	-	□縁部内面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 □縁端部 凹線2条
554	S X85004	B-6	III	1/8	22.8	-	□縁端部 凹線2条 磨滅のため調整不明
555	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	23.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 9条/cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線3条
556	S D85037	E-4	II	1/8	22.3	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内面 10条/cmのハケ目 □縁端部 凹線4条
557	S X85001	A-6	II	1/4	24.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線2条
558	S D85011	A-6	II	1/8	(22.4)	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線2条
559	S D85102	X-8	III	1/8	23.0	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
560	S D85102	X-9	I	1/8	21.8	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
561	S D85036	D-4	IV	1/8	23.2	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内面 3条/cmのハケ目 □縁端部 凹線3条
562	S D85035	C・D-5	II	1/8	21.0	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
563	S D85101	W-8	I	1/8	26.4	-	□縁端部 凹線3条, 頸部 刻目凸帯文 磨滅のため調整不明
564	S D85036	D-4	II	1/8	20.7	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
565	S D85010	A-6	II	1/8	22.2	-	□縁部内外面 ヨコナデ, □縁端部 凹線3条
566	S D85037	E-4	I	1/8	24.9	-	□縁部内外面 ヨコナデ, □縁端部 凹線2条
567	包含層	-	II	1/4	17.7	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 体部外面 刻目文

第41表 土器観察表(29)

(壺₃-2)

実測 図号 番	遺構 番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
568	S D85037	E-4	IV	1/8	27.1	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内面 7条/cmのハケ目 □縁端部 凹線2条
569	S X85004	B-6	IV	1/8	27.7	-	□縁端部 凹線2条 磨滅のため調整不明
570	包 含 層	C-5	II	1/8	18.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ、磨滅のため調整不明 □縁端部 凹線2条
571	S D85023	B-5	II	1/8	(16.2)	-	□縁部内外面 ヨコナデ、□縁端部 凹線1条
572	S D85025	C-6	II	1/8	(19.2)	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 11条/cmのハケ目、内面 ナデ □縁端部 凹線3条
573	S D85036	D-4	II	1/4	21.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目、内面 ナデ □縁端部 凹線3条
574	S D85010	A-6	II	1/4	19.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ、□縁端部 凹線3条
575	S D85010	A-6	II	1/8	16.6	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
576	S D85101	Y-9	I	1/8	21.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内面 ハケ目 □縁端部 凹線2条
577	包 含 層	-	II	1/8	15.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内外面 ナデ □縁端部 凹線2条
578	S D85025	C-6	IV	1/8	(21.8)	-	□縁端部 凹線2条 磨滅のため調整不明
579	S D85036	D-4	II	1/4	16.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内外面 ナデ □縁端部 凹線3条
580	S D85037	E-4	I	1/8	24.5	-	□縁端部 凹線2条 磨滅のため調整不明
581	S D85124	V-9	II	1/8	(17.8)	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内面 10条/cmのハケ目 □縁端部 凹線2条
582	S D85033	C-5	IV	1/4	17.7	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線3条
583	S D85025	C-6	II	1/8	(24.4)	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 7条/cmのハケ目 □縁端部 凹線2条
584	S D85102	X-8	II	1/8	(16.0)	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内外面 ナデ □縁端部 凹線2条
585	S P-2	B-5	II	1/2	27.2	-	□縁部外面 ヨコナデ、内面 磨滅のため調整不明 □縁端部 凹線2条
586	包 含 層	-	II	1/8	17.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内外面 ナデ □縁端部 凹線2条
587	S D85037	E-4	I	1/4	25.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ、体部内外面 ナデ □縁端部 凹線3条

第42表 土器観察表(30)

(表₃-2)

実測 番号	遺構 番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
588	S D85120	W-9	II	1/8	21.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線3条
589	包含層	X-8	II	1/8	(21.0)	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 6条/cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線3条
590	S D85010	A-6	II	1/8	27.2	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
591	S D85036	D-5	II	1/4	16.4	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 5~6条/cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線2条
592	S D85036	D-4	II	1/4	16.7	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7条/cmのハケ目 □縁端部 凹線2条
593	S D85036	D-4	II	1/8	16.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 5条/cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線2条
594	S D85101	Y-9	I	1/8	16.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ハケ目 □縁端部 凹線2条
595	S D85036	D-5	II	1/8	17.2	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 9条/cmのハケ目, 内面 7条/cmのハケ目 □縁端部 凹線3条
596	S D85036	D-5	II	1/8	15.3	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 7条/cmのハケ目 □縁端部 凹線3条
597	S D85036	D-5	II	1/4	17.5	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 11条/cmのハケ目 □縁端部 凹線3条
598	S D85101	X-8(S)	I	1/8	17.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線2条
599	S D85036	D-5	II	1/8	17.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 6条/cmのハケ目 □縁端部 凹線2条
600	S B85107	W-9	IV	1/8	18.4	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線2条
601	S B85104	V-9	II	1/8	20.1	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線2条
602	S P-38	V-9	IV	1/8	(18.8)	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7条/cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線3条
603	S B85104 ㊦	V-9	IV	1/8	21.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線3条
604	S D85120	W-9	II	1/8	18.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線3条
605	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	30.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線3条
606	S B85104 ㊧	V-9	IV	1/8	19.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線2条
607	S D85037	E-4	II	1/8	12.9	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明

第43表 土器観察表(31)

(表₃-2)

実測 番号	遺構 番号	グリッド	胎土	残存度	口 径	器 高	備 考
608	包含層	-	II	1/8	29.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 □縁端部 凹線3条
609	S D85035	C・D-5	II	1/8	13.8	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
610	S D85010	A-6	II	1/8	33.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内外面 ナデ □縁端部 凹線2条
611	S D85037	E-4	II	1/8	16.9	-	□縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
612	S D85015	B-5	IV	1/8	16.0	-	□縁端部 凹線2条 磨滅のため調整不明
613	S D85010	A-6	II	1/2	32.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内外面 ハケ目 頸部外面 刺突文, □縁端部 凹線5条
614	S D85010	A-6	IV	1/8	13.4	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内外面 ハケ目 □縁端部 凹線2条
615	S D85102	X-9	I	1/8	14.8	-	□縁端部 凹線1条 磨滅のため調整不明
616	S D85036	D-4	II	1/4	14.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 5条/cmのハケ目 □縁端部 凹線2条
617	S D85036	D-5	I	3/4	13.9	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 5条/cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線2条
618	S D85123	V-9	II	8/8	17.4	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半内外面 ハケ目 体部内面下半 ヘラ削り, □縁端部 凹線3条
619	包含層	-	II	1/2	19.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 □縁端部 凹線4条, 体部外面 刻目文
620	S D85121	W-9	II	1/8	17.2	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内外面上半 ハケ目 体部外面下半 ヘラミガキ, 体部外面 貝殻の押圧文, □縁端部 凹線2条
621	S D85032	C-5	II	3/4	17.5	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半内外面 ハケ目 体部外面中央 刻目文, 下半 ヘラミガキ □縁端部 凹線3条
622	S D85010	A-6	II	1/2	17.0	(30.9)	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部中央内外面 ハケ目, 体 部外面下半 ヘラミガキ, 体部内面下半 ヘラ削り □縁端部 凹線2条
623	S D85123	V-9	II	8/8	17.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半内外面 ナデ, □縁 端部 凹線3条, 体部外面中央から下半部 ヘラミガキ, 内面 ヘラ削り
624	包含層	V-9	IV	1/4	24.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ, □縁端部 凹線3条 体部 磨滅のため調整不明
625	S D85123	V-9	II	1/8	24.4	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部上半内外面 ハケ目 □縁端部 凹線3条, 体部外面 ハケ原体の押圧文
626	S P-70	C-5	II	1/4	22.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 26条/2.8cmのハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線3条
627	S D85010	A-6	II	1/4	28.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内外面 ハケ目 □縁端部 凹線3条

第44表 土器観察表(32)

(圖₃-2)・(3)

実測 番号	遺構 番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
628	S D85030	-	II	1/8	(13.4)	-	口縁端部 凹線 2条 磨滅のため調整不明
629	S B85014	A・B-5・6	IV	1/8	14.5	-	口縁端部 凹線 2条 磨滅のため調整不明
630	S B85111	V-9	IV	1/8	14.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ナデ 口縁端部 凹線 2条
631	S B85104 ⑤	V-9	I	1/8	16.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線 2条
632	S D85121	W-9	IV	1/4	15.8	-	口縁端部 凹線 2条 磨滅のため調整不明
633	S D85036	D-5	II	1/8	16.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 口縁端部 凹線 2条
634	包含層	-	IV	1/8	15.3	-	口縁部外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 口縁部内面 竹管文
635	S D85036	D-4	II	1/4	15.2	-	口縁端部 凹線 2条 磨滅のため調整不明
636	S D85013	A・B-6	IV	1/8	18.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線 2条
637	S D85010	A-6	II	1/8	12.4	-	口縁端部 凹線 1条 磨滅のため調整不明
638	S D85121	W-9	IV	1/8	13.4	-	口縁端部 凹線 1条 磨滅のため調整不明
639	S D85120	W-9	IV	1/4	16.2	-	口縁端部 凹線 1条 磨滅のため調整不明
640	S D85102	X-9	I	1/4	15.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線 (不明瞭)
641	S D85102	X-9	III	1/4	15.0	-	口縁端部 凹線 1条 磨滅のため調整不明
642	S D85121	W-9	IV	1/8	14.6	-	口縁部内面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線 (不明瞭)
643	S D85102	X-9	II	1/4	15.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線 3条 (不明瞭)
644	包含層	X-8	II	1/8	15.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 口縁端部 凹線 2条 (不明瞭)
645	S D85031	B・C-5・6	II	1/2	14.0	-	口縁端部 凹線 2条 磨滅のため調整不明
646	包含層	X-8	II	1/4	14.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7条/cmのハケ目・ヘラミガキ, 内面 ナデ 口縁端部 凹線 2条
647	S D85101	W-8	II	1/8	14.8	-	口縁端部 凹線 2条 (不明瞭) 口縁部内外面 ヨコナデ

第45表 土器観察表(33)

(表-3)

実測 図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
648	S D85031	B・C-5・6	IV	1/8	13.8	-	□縁端部 凹線1条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
649	包含層	W-9	IV	1/8	12.7	-	□縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 □縁端部 凹線(不明瞭)
650	S D85102	X-9	II	1/8	14.8	-	□縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
651	包含層	X-8	I	1/8	23.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 3~4条/cmのハケ目 □縁端部 凹線2条
652	包含層	X-8	II	1/4	14.0	-	□縁端部 凹線3条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
653	S P-3	X-8(N)	I	1/4	24.8	-	□縁部外面 ヨコナデ, 体部外面 ヘラミガキ □縁端部 凹線2条(不明瞭)
654	S D85106	X-9	II	1/8	13.4	-	□縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
655	S D85010	A-6	II	1/8	(25.3)	-	□縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
656	包含層	W-8	III	1/4	16.0	-	□縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
657	包含層	-	II	1/8	24.8	-	□縁端部 凹線3条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
658	S D85036	D-5	I	1/8	10.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ, □縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
659	S D85010	A-6	II	1/4	23.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ, □縁端部 凹線2条
660	S D85102	X-9	II	1/8	15.4	-	□縁端部 凹線(不明瞭) 磨滅のため調整不明
661	S D85101	W-8	I	1/8	25.8	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目
662	S D85036	D-5	IV	1/4	15.6	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 11条/cm, 内面 11条/cmのハケ目 □縁端部 凹線3条(不明瞭)
663	S P-7	B-5	I	1/8	(26.8)	-	□縁部外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 □縁端部 凹線2条(不明瞭)
664	S D85036	D-5	IV	1/8	17.4	-	□縁部内面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 □縁端部 凹線1条(不明瞭)
665	包含層	-	II	1/8	29.0	-	□縁部内外面 ヨコナデ, 体部内外面 ナデ
666	包含層	X-8	II	1/8	17.3	-	□縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ナデ □縁端部 凹線3条
667	S X85004	B-6	IV	1/8	31.4	-	□縁部内外面 ヨコナデ □縁端部 凹線状のヨコナデ

第46表 土器観察表(34)

(表3-3)

実測 図番 号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
668	包含層	E-4	II	1/8	18.2	-	磨滅のため凹線の数、調整不明
669	包含層	W-8	II	1/4	27.4	-	口縁端部 凹線2条 磨滅のため調整不明
670	S D85102	X-8(S)	IV	1/8	19.6	-	口縁端部 凹線3条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
671	S B85103 ③	X-8(N)	II	1/8	19.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 口縁端部 凹線2条(不明瞭)
672	S B85104	V-9	IV	1/4	16.1	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
673	S D85036	D-4	II	1/8	17.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 9条/cmのハケ目、内面 ナデ 口縁端部 凹線2条
674	S D85010	A-6	II	1/8	18.5	-	口縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
675	S D85036	D-4	II	1/4	17.5	-	口縁端部 凹線3条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
676	S X85005	E-4	III	1/4	18.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
677	S D85102	X-8(S)	IV	1/8	18.8	-	口縁部外面 ヨコナデ、内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線3条(不明瞭)
678	S D85037	E-4	IV	1/8	19.2	-	口縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
679	S B85014	A・B-5・6	II	1/8	(20.3)	-	口縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
680	包含層	X-9	I	1/8	20.8	-	口縁部外面 ヨコナデ、内面 磨滅のため調整不明 口縁端部 凹線1条
681	包含層	X-8	II	1/8	19.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線2条(不明瞭) 体部 磨滅のため調整不明
682	S D85120	W-9	II	1/8	21.8	-	口縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
683	S D85101	Y-9	I	1/8	(19.2)	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線2条(不明瞭) 体部 磨滅のため調整不明
684	S D85101	X-8(S)	I	1/8	(21.6)	-	口縁端部 凹線3条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
685	S X85005	E-4	II	1/8	21.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目、内面 ナデ 口縁端部 凹線3条(不明瞭)
686	S D85036	D-5	IV	1/8	20.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 10条/cm、内面 7条/cmのハケ目 口縁端部 凹線状のヨコナデ
687	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	20.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ、口縁端部 凹線状のヨコナデ 体部 磨滅のため調整不明

第47表 土器観察表(35)

(表₃-3, 壺 (後期))

実測 番号	遺構 番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
688	S D85102	X-8(S)	IV	1/8	(23.0)	-	磨滅のため凹線の数, 調整不明
689	S D85036	D-5	II	1/4	15.2	-	口縁部内外面ナデ, 体部外面上半 9条/cmのハケ目, 中央から下半 ヘラミガキ, 体部内面 ヘラ削り, 口縁端部 凹線2条(不明瞭), 体部外面中央 貝殻押圧文
690	S D85036	D-4	III	8/8	14.2	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 5条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
691	S D85036	D-4	III	1/2	14.4	-	口縁部内外面 磨滅のため調整不明 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラ削り
692	S D85036	D-4	II	1/4	14.6	-	口縁部から体部外面 3条/cmのハケ目 口縁部から体部内面上半 4条/cmのハケ目 体部内面 ヘラ削り
693	S D85102	X-9	II	1/8	15.4	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 4条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
694	S D85036	D-4	III	1/4	15.6	-	口縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
695	S D85036	D-5	III	1/4	14.2	-	体部内面 ヘラ削り 磨滅のため調整不明
696	S D85036	D-4	II	1/4	14.6	-	口縁部内外面 ナデ, 体部内外面 ハケ目 体部内面 ヘラ削り
697	S D85036	D-4	III	1/4	15.3	-	口縁端部 凹線3条(不明瞭) 体部外面 ハケ目, 磨滅のため調整不明
698	S D85036	D-4	II	3/4	14.0	-	口縁部内外面 ナデ, 体部外面 5~6条/cmのハケ目 頸部内面 6条/cmのハケ目
699	S D85036	D-4	II	1/4	15.4	-	器壁外面 タタキ目の上からナデ 体部内面 ヘラ削り
700	包含層	D-4	III	1/8	17.4	-	磨滅のため調整不明
701	S D85036	D-4	III	1/8	18.1	-	磨滅のため調整不明
702	S D85018	Z-6・7	II	1/8	17.4	-	体部外面 ハケ目 磨滅のため調整不明
703	S D85036	D-5	III	1/4	16.6	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面 7~10条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
704	S D85036	D-4	II	1/8	18.6	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 8条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
705	S D85036	D-4	III	1/2	15.4	-	口縁部外面 ナデ, 内面 8条/cmのハケ目 体部外面 9条/cmのハケ目
706	S D85035	C・D-5	II	1/4	14.2	-	磨滅のため調整不明
707	S D85018	Z-6・7	III	1/4	11.0	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラ削り

第48表 土器観察表(36)

(裏 (後期))

実測図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
708	S D85018	Z-6・7	II	1/8	(15.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 内面 ハケ目 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラ削り
709	S D85037	E-4	II	1/8	12.0	-	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 6条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
710	S D85036	D-4	III	1/2	15.0	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 6条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
711	S D85036	D-4	II	1/8	15.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 磨滅のため調整不明 体部外面 10条/cmのハケ目
712	S D85035	C・D-5	III	1/8	11.6	-	磨滅のため調整不明
713	S D85037	E-4	II	1/2	12.0	-	体部外面 7条/cmのハケ目 磨滅のため調整不明
714	S D85036	D-4	II	1/8	15.8	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 7条/cm, 内面 5~6条/cmのハケ目
715	S D85036	D-5	III	1/2	13.6	-	体部内面 7条/cmのハケ目 磨滅のため調整不明
716	S D85036	D-5	II	1/8	11.6	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 ナデ, 10条/cmのハケ目 体部外面 9条/cmのハケ目
717	S D85036	D-4	III	1/2	16.0	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 7条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
718	S D85036	D-4	IV	1/2	14.2	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 5~6条/cmのハケ目
719	S D85036	D-5	III	1/4	13.4	-	磨滅のため調整不明
720	S X85005	E-4	II	1/4	14.2	-	口縁部外面 ヨコナデ, 内面 ナデ
721	S D85101	Y-9	II	1/8	20.4	-	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ハケ目
722	S D85036	D-4	II	1/4	14.4	-	体部外面 9条/cmのハケ目 磨滅のため調整不明
723	S D85036	D-5	II	1/4	12.3	-	口縁部内外面 ナデ 体部外面 8条/cmのハケ目, 内面 ヘラ削り
724	S D85037	E-4	IV	1/8	13.8	-	口縁部内外面 ナデ, 口縁端部 凹線2条 (不明瞭) 体部外面 6条/cmのハケ目, 内面 ナデ
725	包含層	C-6	II	1/4	12.8	-	口縁部外面 ヨコナデ, 磨滅のため調整不明 体部外面 3条/cmのハケ目
726	S D85036	D-4	III	1/4	15.4	-	磨滅のため調整不明
727	包含層	Y・Z-7	IV	1/8	15.2	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 磨滅のため調整不明 口縁部から体部内面 ハケ目

第49表 土器観察表(37)

(甕 (後期))

実測 図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
728	S X 85005	E-4	II	1/4	14.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線1条(不明瞭)
729	S D 85036	D-5	II	1/8	14.8	-	磨滅のため調整不明
730	S D 85036	D-4	II	1/4	12.4	-	磨滅のため調整不明
731	S D 85036	D-5	I	3/4	14.2	-	磨滅のため調整不明
732	S D 85036	D-5	III	1/4	15.4	-	体部内面中央 ヘラ削り 磨滅のため調整不明
733	S D 85036	D-4	III	1/4	16.3	-	体部内面 ナデ 磨滅のため調整不明
734	S D 85036	D-4	II	1/2	15.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線1条 体部外面 7条/cmのハケ目, 内面 ナデ
735	包含層	-	III	1/4	14.7	-	磨滅のため調整不明
736	S D 85036	D-5	II	1/2	14.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 5~6条/cmのハケ目
737	包含層	-	III	1/4	15.6	-	磨滅のため調整不明
738	S D 85036	D-4	III	1/4	17.2	-	磨滅のため調整不明
739	S D 85036	D-4	III	1/8	16.4	-	体部内面 ヘラ削り 磨滅のため調整不明
740	S D 85036	D-4	III	3/4	15.4	-	磨滅のため調整不明
741	S D 85036	D-5	I	1/8	17.0	-	口縁端部 凹線1条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
742	S D 85036	D-5	III	1/4	17.8	-	体部内面 ヘラ削り 磨滅のため調整不明
743	S D 85018	Z-6-7	II	1/8	(17.0)	-	体部外面 ハケ目 磨滅のため調整不明
744	S D 85036	D-4	III	1/4	14.4	24.0	磨滅のため調整不明
745	S D 85036	D-4	III	1/4	14.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 体部外面 タタキ目・ハケ目 器壁内面 磨滅のため調整不明
746	包含層	-	IV	1/2	15.6	-	磨滅のため調整不明
747	S D 85036	D-4	III	1/2	16.3	-	体部外面 5~10条/cmのハケ目, 口縁部内面 4~9条/cm のハケ目 磨滅のため調整不明

第50表 土器観察表(38)

(甕 (後期))

実測図番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
748	S D85036	D-4	IV	1/2	16.6	(26.0)	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 7~8条/cmのハケ目、内面 ヘラ削り
749	包含層	V-9	III	1/4	15.4	-	体部外面下半 6~7条/cmのハケ目 器壁内外面上半 磨滅のため調整不明

第51表 土器観察表(39)

⑤鉢 (弥生時代中期)

鉢として分類したものの中には、口縁部だけで断定できず、後述する高杯Aが含まれている可能性もある。

鉢₁ (750~766) 口縁端部に凹線文がないものである。器形・大きさなどは一定でない。口縁端部の形態は、(1)丸く収めているもの、(2)拡張せずに平坦面を造り出しているもの、(3)左右両方に強く拡張し、平坦面を造り出しているもの、に分けられる。

(1)の口縁部内外面はナデにより調整されている。体部の器形は750にみられるように、わずかに内彎しながら立ち上がり、体部上半で屈曲し内反する。(2)・(3)の口縁部内外面はヨコナデが施されている。しかしヨコナデの範囲はせまく、口縁端部より内外面ともに2cm以内におさまる。(2)の体部以下の器形については、体部が外反しながら立ち上がるもの(758)と内彎しながら立ち上がるもの(759~762)とがある。(3)については口径で比較的大きいものが多い。端面は、いずれもほぼ水平に造り出されている。拡張した口縁端部の外端すぐ下に1条の凹線が認められるが凹線文で加飾するという意味合いのものではなく、ここでは強いヨコナデと考えたい。体部の器形については、遺存する例がないが、口縁部がやや内反することより、750にみられるような器形を呈すると思われる。

調整については、体部外面はハケ目の上から縦方向のヘラミガキが施されるのが一般的だと思われる。体部内面は横方向のハケ目が施された上から横方向のヘラミガキが施されているもの(754・765)、ハケ目だけが認められるもの(753・756・758・766)、ヘラミガキだけが認められるもの(760)などがある。

766は、内彎する体部が上半部で屈曲し、そこより口縁部が外反する器形を呈している。体部外面にも横方向のハケ目が認められるなど鉢₁では特異な例といえる。

鉢₂ (767~772) 口縁端部に凹線文以外の文様が施されているものであるが、口縁端部外端に刻目文が施されているものがほとんどである。それ以外の文様は772に斜格子文が施されているだけである。

体部から口縁部の器形はいずれも、ゆるやかに内彎しながら立ち上がる。口縁端部は拡張され

ほぼ水平の端面が造り出されている。ヨコナデの範囲は鉢₁と同様にせまい。調整についても鉢₁と同様であると思われる。

772は、口径46.6cmと大きく、口縁端部の内端がさらに斜め上方向に拡張され、口縁端部には斜格子文が施されているなどの点で、鉢₂の中では特異な例であるといえる。

鉢₃ (773～779) 口縁端部に凹線文が施されているものであるが、凹線文はいずれも浅く不明瞭なものが多い。774の凹線文はヨコナデによる起伏ともみられ、774は鉢₁となる可能性が強い。また779は口縁端部に片口が造り出され、ほとんど拡張されていない口縁端部に細い凹線文が3条施されている。体部から口縁部の器形も含めて鉢₃では特異な例である。

それ以外のものは、外反もしくはゆるやかに内彎する体部が上半部で彎曲し口縁部が内彎あるいは直立方向に立ち上がる器形となる。口縁端部は内外両方に拡張されているものであるが、やや内側が低くなる側面を造り出している。口縁部外面に2条の凹線文をもつものもあり、それにともないヨコナデの範囲も鉢₁・鉢₂と比較すると広がっている。

調整については、773・776の体部外面に縦方向のヘラミガキ、773には縦方向のハケ目と横方向のヘラミガキが認められることより、鉢₁・鉢₂と同様になるものと思われる。774の体部内面には縦方向のヘラ削りが認められる。

鉢₄-(1) (780～787) 口縁部外面に2～6条の比較的数多い凹線文が施され、口縁端部か口縁部外面にあわせて他の文様も施されているものである。口径が30cmを越える大型のものが多い。784の器形が体部から口縁部にかけてゆるやかに内彎しながら立ち上がるのを除くと、鉢₃に一般的にみられた器形と同様になる。口縁端部は内外両方に拡張されており、端面は水平のものと同様にやや下がるものとがみられる。

口縁端部には斜格子文(785)波状文(787)が施されている例がある。口縁部外面の凹線文の位置には、刻目文が認められる。

口縁部外面に凹線文が数多く施されていることにともない、口縁部内面のヨコナデの範囲も鉢₃よりもさらに広がっており、通常、体部と口縁部の屈曲部あたりまでおよんでいる。それ以外の調整については鉢₁～鉢₃にみられる一般的な調整が施されていると思われる。

鉢₄-(2) (788～814) 口縁部外面に2～5条の凹線文だけが他の文様と併用されずに施されているものである。

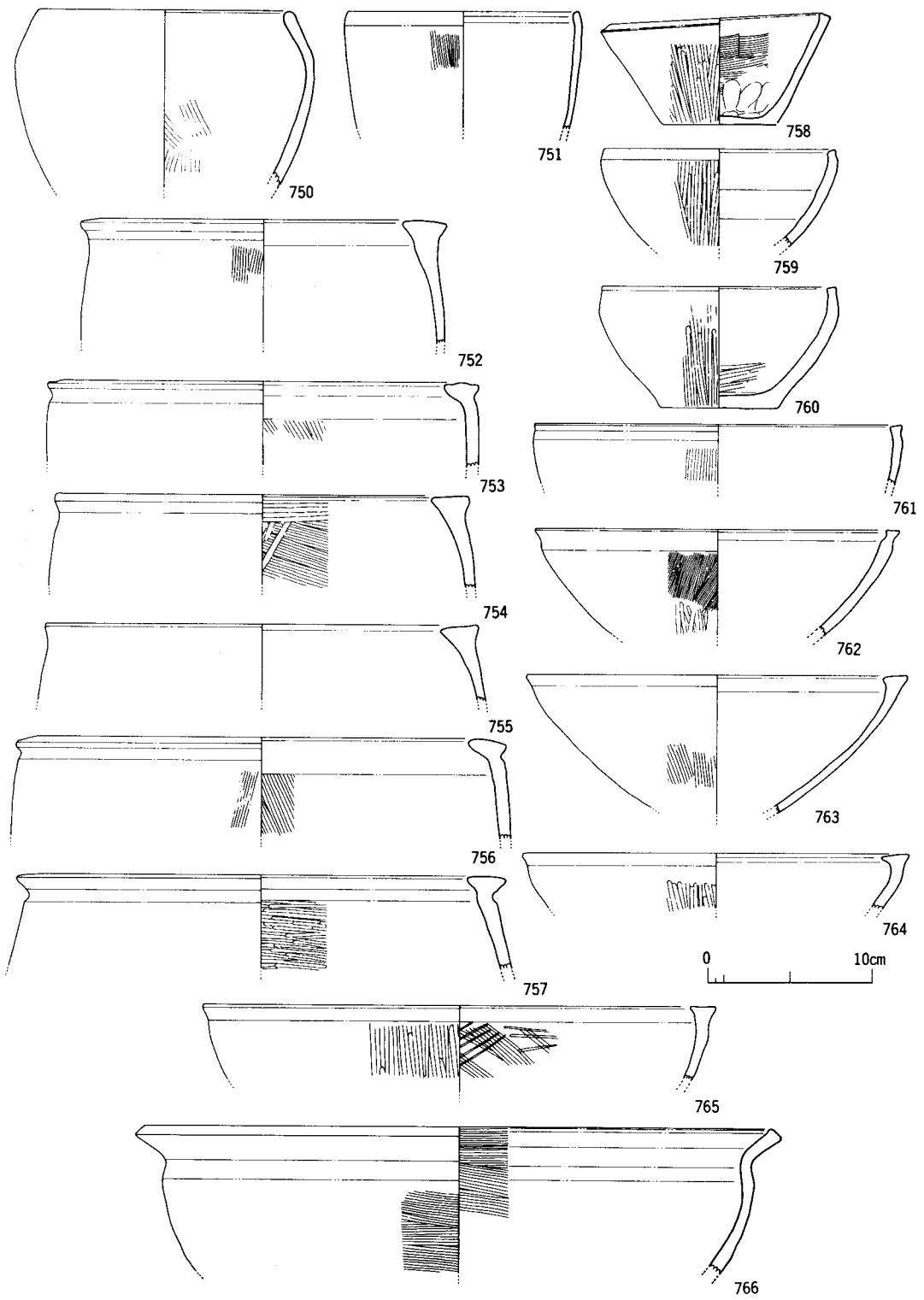
凹線文は、口縁部に施されるものと比較すると、いずれも幅の広いものであるが、(1)深く明瞭なもの(2)浅く不明瞭なものに分けられる。口縁端部の形態は、(a)内外両方に広い平坦面を造り出しているもの、(b)拡張せずに平坦面を造り出しているもの、(c)丸く収めているものに分けられる。

凹線文と口縁端部の形態の関係は、おおむね、(1)と(a)、(2)と(b)、(c)という組み合わせとなる。全体的には(1)と(a)が鉢₄-(2)では多い。(2)と(b)、(c)のものについては、後期の鉢との関係でいえば(1)

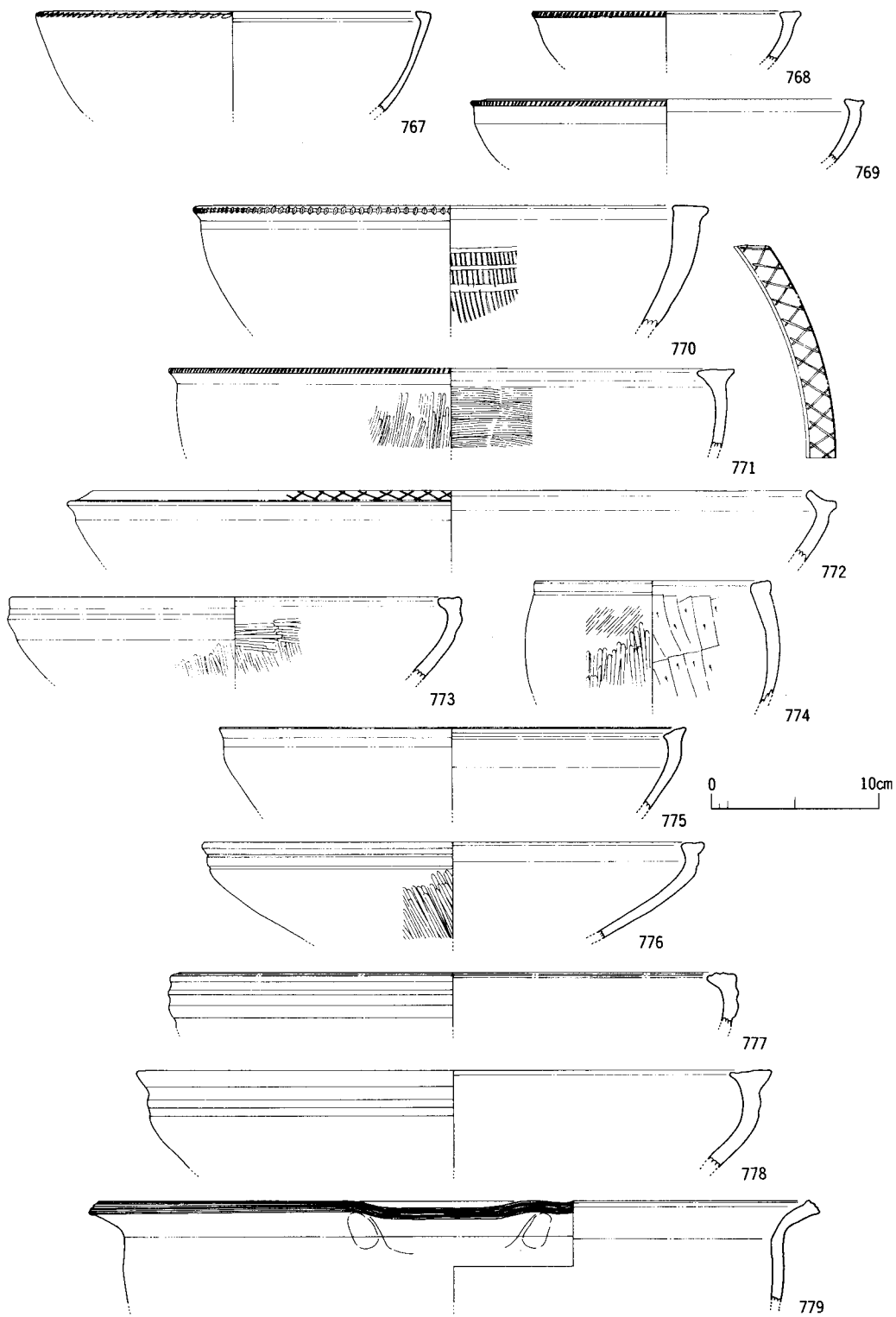
と(a)のものより後出するものと思われる。

器形については、体部はやや内彎しながら立ち上がり上半部で彎曲し、口縁部が内彎する。口縁端部は内側が下がっているという器形のものが多い。それ以外のものとしては鉢₁で751、鉢₄-1で784にみられるような、ゆるやかに内彎しながら立ち上がるもの(788・790・798・814)がある。

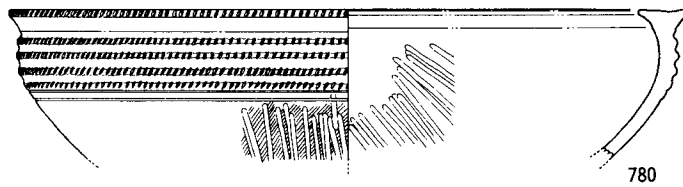
調整については、前述した鉢にみられる一般的な調整が施されているものが多いと思われる。793・802の例では体部内面下半にヘラ削りが認められる。他の土器でも磨滅のため断定はできないが、同じ位置にヘラ削りが施されていると思われるものが数点あった。また805・806には体部内面に縦方向のヘラミガキが認められる。この2点については、体部の傾きより大型の高杯Aである可能性が高いと思われる。



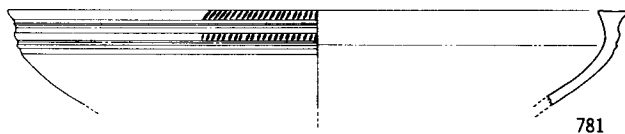
第137图 弥生土器 鉢, 実測図



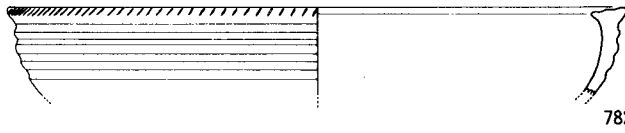
第138図 弥生土器 鉢₂・₃実測図



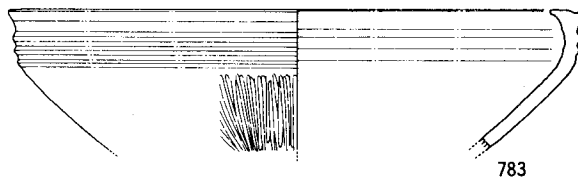
780



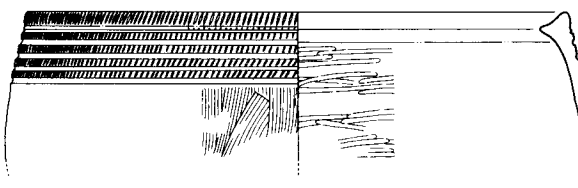
781



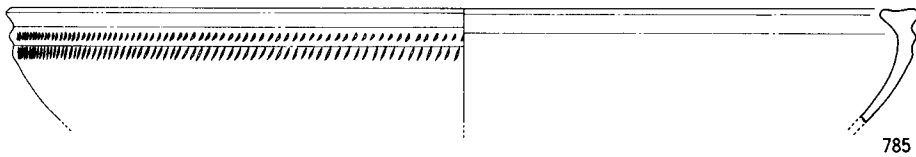
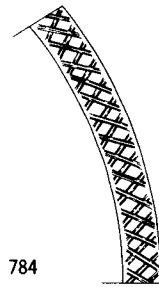
782



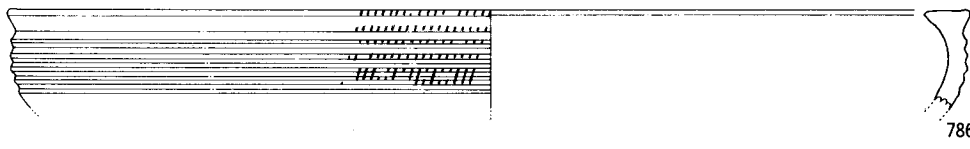
783



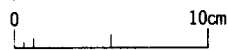
784



785

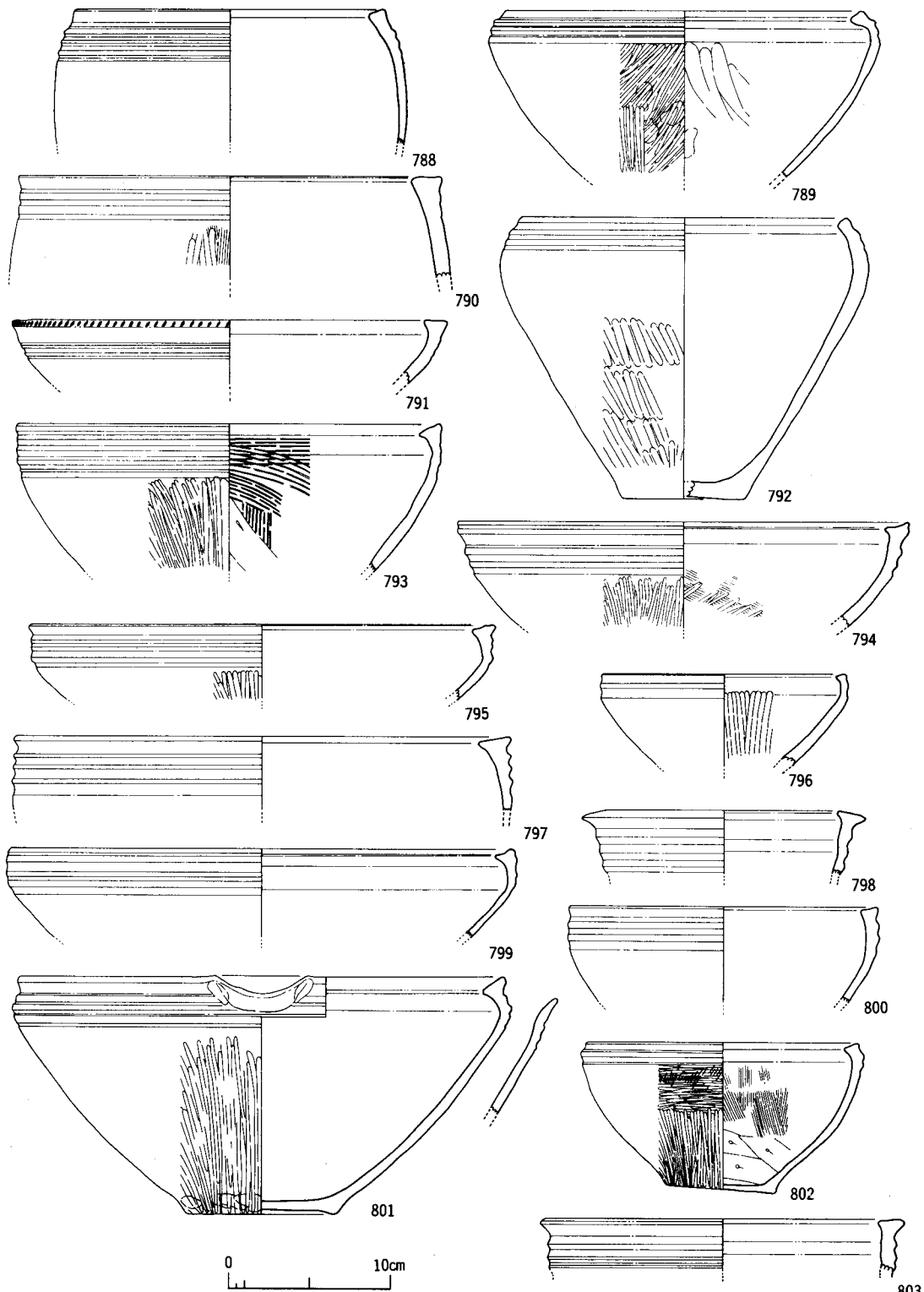


786

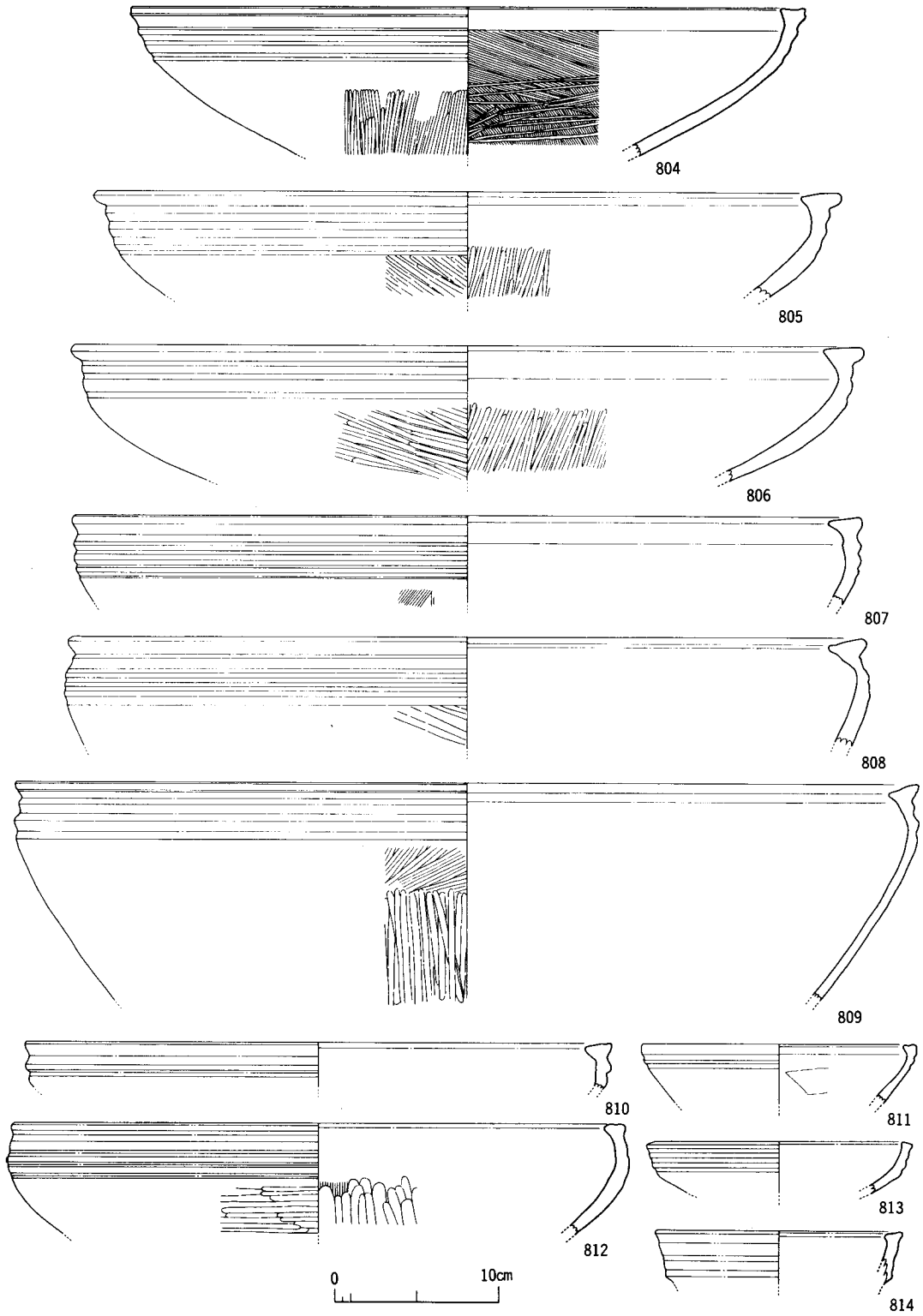


787

第139図 弥生土器 鉢。(1)実測図



第140图 弥生土器 鉢。(2)実測図



第141図 弥生土器 鉢₄-(2)実測図

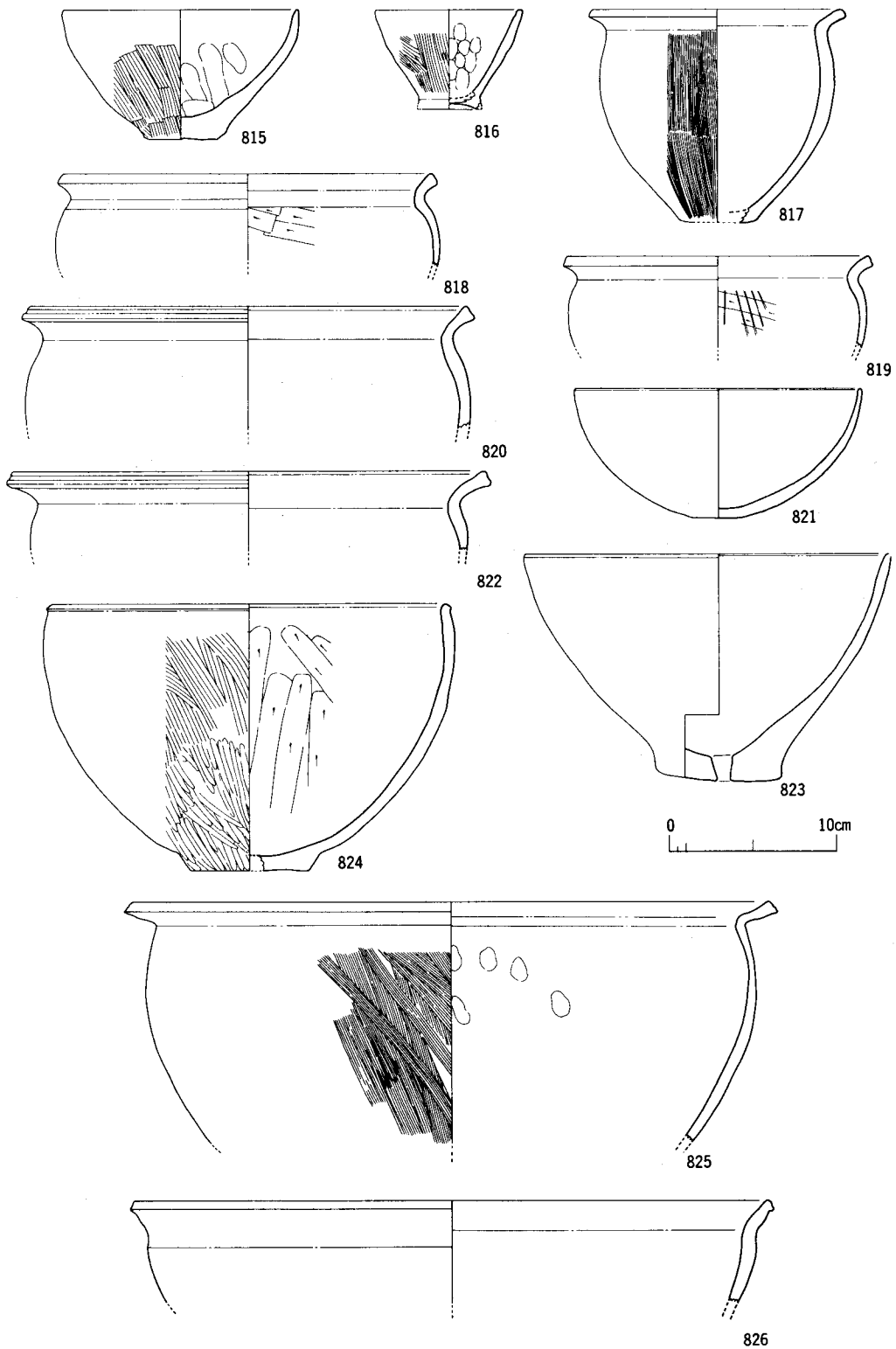
⑥鉢（弥生時代後期）

鉢の胎土で最も多いものは、弥生時代後期の甕で記述した胎土IIのものである。壺では多くみられた胎土IIIのものは比較的少ない。

器形については、体部が内彎しながら立ち上がるものと内彎しながら立ち上がり上半部で屈曲し、屈曲部より口縁部が外反するものの2つに分けられる。口縁端部は、ほとんど拡張せずに平坦面を造り出しているものと丸くおさめているものがある。底部については815・816・823・824にみられるように、底部外面にナデを施すことによって、高台状に底部を造り出しているものがある。また、821にみられるように丸底に近い底部のものもある。

調整については弥生時代中期の鉢と比較するとやや異なる。体部外面上半部はハケ目、下半部は縦方向のヘラミガキが施されているもの（824）については、中期の鉢と同様の調整である。体部外面全体あるいは下半にハケ目が認められるもの（815～817・825）が多い。それ以上に弥生時代後期の鉢の特徴として体部内面にヘラ削りが認められるもの（818・819・824）が多いということがあげられる。これは鉢₄-(2)でも、少数で認められた特徴であるが、後期では一般的な調整上の特徴といえる。

823の底部には円形の穿孔が認められ、これ以外には鉢の中では他に例をみない。



第142図 弥生土器 鉢（後期）実測図

(鉢₁, 鉢₂)

実測 番 号	遺構番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
750	S D85101	Y-9	IV	1/4	15.4	-	体部内面上半ナデ, 下半 ハケ目 体部外面 磨滅のため調整不明
751	包 含 層	W-8	I	1/8	14.0	-	体部外面上半 7条/cmのハケ目 磨滅のため調整不明
752	S D85037	E-4	I	1/8	(22.1)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 6条/cmのハケ目, 内面 ナデ
753	包 含 層	-	II	1/8	26.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ハケ目
754	包 含 層	-	I	1/8	25.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ハケ目, ヘラミガキ
755	包 含 層	-	IV	1/8	26.0	-	口縁部外面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
756	包 含 層	-	IV	1/8	29.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ハケ目
757	S X85004	B-6	I	1/8	29.6	-	口縁部内面 ヨコナデ, ヘラミガキ
758	包 含 層	U-9	I	1/2	13.4	7.0	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ヘラミガキ, 内面 8条/1.4cmのハケ目
759	S X85004	B-6	IV	1/4	7.0	-	体部外面 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
760	包 含 層	-	I	1/8	14.0	7.5	体部外面 ヘラミガキ, 内面下半 ヘラミガキ
761	S X85004	B-6	I	1/8	22.3	-	体部外面 ハケ目 磨滅のため調整不明
762	包 含 層	W-9	I	1/4	22.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面上半 11~12条/cmのハケ目, 下半 ヘラミガキ
763	S D85037	E-4	II	1/4	23.2	-	口縁部外面 ヨコナデ, 体部外面下半 ハケ目 内面 磨滅のため調整不明
764	S D85124	V-9	I	1/8	(23.4)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ヘラミガキ
765	包 含 層	-	IV	1/8	31.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部内外面 ヘラミガキ
766	S D85101	Y-9	IV	1/8	39.0	-	口縁部外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目 口縁部から体部内面 ハケ目
767	S K85104	X-8 (N)	I	1/8	(23.8)	-	口縁部外端 刻目文 磨滅のため調整不明
768	S B85104 ㊦	V-9	I	1/8	16.2	-	口縁部外端 刻目文 口縁部内外面 ナデ
769	S X85004	B-6	I	1/8	23.6	-	口縁部外端 刻目文 磨滅のため調整不明

第52表 土器観察表(40)

(鉢₂, 鉢₃, 鉢₄-(1)・(2))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
770	S D85101	X-8 (S)	IV	1/8	31.0	-	口縁端部外端 刻目文, 口縁部内外面 ヨコナデ 体部内面 ハケ目, ヘラミガキ
771	S B85104 ①	V-9	I	1/8	34.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 体部外面 ヘラミガキ, 内面 6条/cmのハケ目
772	S D85010	A-6	I	1/8	46.6	-	口縁端部 斜格子文 磨滅のため調整不明
773	S P-37	V-9	I	1/8	27.4	-	口縁端部 凹線2条, 口縁部外面 凹線2条 体部内外面 ヘラミガキ
774	包含層	U-9	I	1/8	14.2	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条 (ヨコナ デによる起伏か) 体部外面 ハケ目・ヘラミガキ, 内面 ヘラ削り
775	S D85013	A・B-6	II	1/8	28.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条(不明瞭)
776	S X85002	A-6	II	1/8	30.0	-	口縁端部 凹線1条, 口縁部外面 凹線2条 体部外面 ハケ目, 内面 磨滅のため調整不明
777	S D85031	B・C-5・6	III	1/8	(34.0)	-	口縁端部 凹線3条, 口縁部外面 凹線2条 磨滅のため調整不明
778	包含層	X-8	IV	1/4	38.2	-	口縁端部 凹線4条, 口縁部外面 凹線2条 磨滅のため調整不明
779	S D85037	E-4	IV	1/8	44.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条 磨滅のため調整不明
780	S B85013	A・B-6	I	1/8	35.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線6条, 刻目文 体部内外面 ハケ目, ヘラミガキ
781	S D85036	D-5	I	1/8	32.1	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条, 刻目文 体部 磨滅のため調整不明
782	S D85101	W-8	I	1/8	32.0	-	口縁端部外端 刻目文 口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線4条
783	S D85101	X-8	I	1/4	30.0	-	口縁部外面 凹線3条 体部外面 ヘラミガキ, 内面 磨滅のため調整不明
784	包含層	W-9	II	1/8	28.3	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線5条, 刻目文 体部外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ
785	S D85036	D-4	I	1/8	49.2	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条, 刻目文 口縁端部 斜格子文
786	S D85102	X-8	III	1/8	(50.0)	-	口縁部外面 凹線5条, 刻目文 磨滅のため調整不明
787	包含層	U-9	IV	1/8	(56.6)	-	口縁部外面 凹線(条数不明) 口縁端部 波状文
788	包含層	W-8	I	1/8	19.2	-	口縁部外面 凹線4条
789	S D85036	D-4	II	3/4	22.0	-	口縁部外面 凹線3条, 内面 ヨコナデ 体部外面 ヘラミガキ, 内面 ナデ

第53表 土器観察表(41)

(鉢、-(2))

実測図号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
790	S D85036	D-5	I	1/8	26.1	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 体部外面 ハケ目, ヘラミガキ
791	S D85036	D-4	I	1/8	26.8	-	口縁部外面 凹線4条(不明瞭) 口縁端部外端 刻目文, 磨滅のため調整不明
792	包含層	-	I	1/4	20.0	-	口縁部外面 凹線3条 体部外面 ヘラミガキ, 内面 磨滅のため調整不明
793	包含層	-	II	1/8	26.0	-	口縁部外面 凹線5条(不明瞭) 体部外面 ヘラミガキ, 内面 ハケ目, ヘラ削り
794	包含層	X-8	IV	1/8	(28.0)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 体部外面 ヘラミガキ, 内面 ハケ目, ヘラミガキ
795	S D85123	V-9	II	1/8	29.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 体部外面 ヘラミガキ
796	包含層	W-8	II	1/4	15.4	-	口縁部 凹線2条, 口縁部外面 凹線2条 体部内面 ヘラミガキ
797	S D85036	D-5	I	1/8	(30.7)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 体部外面 凹線4条
798	S X85001	A-6	II	1/8	17.6	-	口縁部外面 凹線(条数不明) 磨滅のため調整不明
799	S D85121	W-9	IV	1/8	31.0	-	口縁部外面 凹線4条 磨滅のため調整不明
800	S D85101	X-8	I	1/8	19.0	-	口縁部外面 凹線3条 磨滅のため調整不明
801	S D85036	D-4	II	1/2	30.0	14.9	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線4条 体部外面 ヘラミガキ, 内面 磨滅のため調整不明, 口 縁部に片口
802	S X85005	E-4	II	3/4	16.8	9.2	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条 体部外面 ヘラミガキ 内面上半 ハケ目, 下半ヘラ削り
803	S B85104 ①	V-9	I	1/8	22.6	-	口縁部外面 凹線(条数不明) 磨滅のため調整不明
804	S D85101	X-8	IV	1/8	41.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 体部外面 ヘラミガキ, 内面 ハケ目, ヘラミガキ
805	S D85037	E-4	IV	1/8	(45.7)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線4条 体部内外面 ヘラミガキ
806	S X85005	E-4	II	1/8	48.4	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 体部内外面 ヘラミガキ
807	S D85101	X-8	I	1/8	48.0	-	口縁部外面 凹線4条 体部外面 ハケ目, 内面 磨滅のため調整不明
808	S D85037	E-4	IV	1/8	48.8	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線5条 体部外面 ヘラミガキ
809	S D85121	W-9	II	1/8	55.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 体部外面 ハケ目, ヘラミガキ

第54表 土器観察表(42)

(鉢, - (2), 鉢 (後期))

実測図 番 号	遺構番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
810	S D85120	W-9	I	1/8	35.8	-	口縁部外面 凹線 (条数不明) 磨滅のため調整不明
811	S B85015	B-5	II	1/8	16.8	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線 2条 磨滅のため調整不明
812	S D85101	W-8	I	1/8	(37.4)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線 4条 体部外面 ヘラミガキ, 内面 ハケ目, ヘラミガキ
813	S B85014	A・B-5・6	IV	1/8	(16.2)	-	口縁部外面 凹線 4条 磨滅のため調整不明
814	S B85104 ㊸	V-9	III	1/8	15.1	-	口縁部外面 凹線 (条数不明) 磨滅のため調整不明
815	S D85036	D-4	II	3/4 (ほぼ完成)	14.0	7.9	口縁部内外面 ナデ 体部外面下半 6条/cmのハケ目, 内面 ナデ
816	S D85036	D-4	II	8/8 (ほぼ完成)	8.8	6.0	口縁部内外面 ナデ 体部外面 7条/cmのハケ目, 内面 ナデ
817	S D85036	D-4	III	1/2	15.4	13.0	体部外面 7~11条/cmのハケ目 磨滅のため調整不明
818	S D85036	D-4	II	1/8	22.6	-	体部内面 ヘラ削り 磨滅のため調整不明
819	S D85036	D-4	IV	1/8	18.4	-	体部内面 ヘラ削り 磨滅のため調整不明
820	S D85036	D-5	II	1/8	27.0	-	口縁端部 凹線 1条 (不明瞭) 磨滅のため調整不明
821	S D85018	Z-6・7	II	1/2	17.0	-	磨滅のため調整不明
822	S D85036	D-5	II	1/8	28.9	-	口縁端部 凹線 1条 (不明瞭) 磨滅のため調整不明
823	S D85035	C・D-5	II	1/8	20.3	13.75	底部外面 ナデ 磨滅のため調整不明, 底部に円孔
824	S D85036	D-4	II	1/2	24.2	16.0	口縁部内外面 ナデ 体部外面 ヘラミガキ, 内面 ヘラ削り
825	S D85036	D-4	II	1/8	(39.0)	-	体部外面 ハケ目 磨滅のため調整不明
826	S D85036	D-4	III	1/8	28.6	-	磨滅のため調整不明

第55表 土器観察表(43)

⑦高杯（弥生時代中期）

高杯A

杯部の器形は鉢とほぼ同様の器形となる。杯部は内彎しながら立ち上がり上半部でさらに彎曲するものと、そのまま立ち上がるものがある。口縁端部は内外両側に拡張し平坦面を造り出しているものが多い。

高杯A₁（827～831） 口縁端部に凹線文が認められないもの。口縁部内外面の調整はナデのもの（827）とヨコナデのものがある。827の器壁外面は板ナデ、杯部内面はハケ目が施されている。脚部内面はナデにより調整されている。829器壁外面は縦方向のヘラミガキ、杯部内面もヘラミガキ、脚部内面はナデが施されている。高杯A₂、A₄などでは杯部内外面の調整が829と同様のものが多いために、829の調整は高杯A₁の一般的な調整といえる。827は口縁端部の拡張も顕著でなく口縁部にナデが施されていることより高杯A₁の中でも古い様相のものであろう。口縁部端面は水平のもの、内側が下がるもの、外側が下がるものがある。内側が下がるものは、口縁端部、口縁部外面に凹線状の起伏がみられるために高杯A₁以外に分類される可能性もある。

高杯A₂（832～835） 口縁端部外端に刻目文が施されたものである。口縁部内外面にはヨコナデが施されているが、範囲はせまい。口縁端部は内外両側に強く拡張され端面は外下がりものが多い。833は口縁部に円孔をもつ。

高杯A₄-(1)（836～838） 口縁部外面に凹線文を持ち、口縁端部、凹線文の突起部分に刻目文が合わせて施されているものである。836～838の3例しかないが、いずれも口径30cmを越える大型のものである。凹線文の数は2～3条と比較的少ない。

口縁部内外面にはヨコナデが施されている。内面のヨコナデは、杯部内面から口縁部にかけてヘラミガキが施されているために本来の範囲は不明であるが、口縁部が彎曲する位置までおよんでいたものと思われる。杯部外面下半にはヘラミガキが認められるもの（838）がある。

高杯A₄-(2)（839～865） 口縁部外面に2～4条の凹線文が施されているものである。凹線文は(1)広く、深く明瞭なもの、(2)広いが浅く不明瞭なもの、に分けられる。口縁端部は内外両方に拡張され、拡張が顕著なもの、あまり拡張されていないものがある。凹線文と口縁端部の拡張には規則性は認められず、口縁端部の拡張が顕著なものでも(1)、(2)両方の場合がある。口縁端部には浅く不明瞭な凹線が施されているものが多い。口縁部端面は内側が下がるものが多く、水平のもの、外側が下がるものは少ない。

調整については口縁部内面は、ヨコナデが施されている。ヨコナデがおよぶ範囲は、おおむね体部と口縁部の彎曲部までである。杯部外面には縦方向のヘラミガキ、内面にも縦方向のヘラミガキが認められる例が多い。脚部については遺存するものはないが、847にみられるように、脚部内面はヘラ削りが施されている。これは後述する高杯脚台₃-(2)の内面はほとんどヘラ削りが施されていることより高杯A₄-(2)の一般的な調整といえる。

高杯B

内彎する杯部から口縁部を強く内側に屈曲させている。屈曲の形状は「C」字状のものと「く」字状のものがある。口縁端部は「C」字状のものは丸く「く」字状のものは平坦に造っているが内外への拡張はない。

高杯B₁ (866~887) 口縁端部、口縁部外面に凹線文が施されていないものである。口縁部内外面はヨコナデにより調整されているが、杯部内外面のヘラミガキが口縁部にまでおよぶもの(872・873・883・887)があり本来のヨコナデの範囲は不明である。

調整は高杯A₄とほぼ同様であるが、杯部外面に横方向のヘラミガキが施されている点がやや異なる。

高杯B₄ (888~895) 口縁部外面に2~3条の凹線文が施されている。凹線文は不明瞭なものが多い。口縁部の屈曲は「く」字状を呈するものがほとんどである。894は「C」字状を呈する口縁部外面に1条だけ凹線文が施されているが、高杯B₄では特異な例といえる。調整については高杯B₁と同様である。

高杯C

しもぶくれした椀状の杯部をもつ。口縁部は先細りで丸く収めているものが多い。

高杯C₁ (896~899) 杯部から脚部の全容が解るもの(896)がある。口縁部先端がわずかに欠損しているが推定の器高は約17cmを計る。比較的細身の脚をもち、脚端部は上方に拡張され、そこに2条の凹線文が施されている。脚部外面は縦方向のヘラミガキ、内面はヘラ削りが施されている。杯部は外面下半が縦方向の、上半が横方向のヘラミガキが施されている。杯部内面には横方向のハケ目が遺存する。口縁部内外面はナデが施されている可能性が強い。他も896とほぼ同様になると思われる。

高杯C₄ (900) 900の1点だけである。口縁部外面に4条の凹線が施されている。口縁端部が拡張している点で高杯C₁と異なっている。

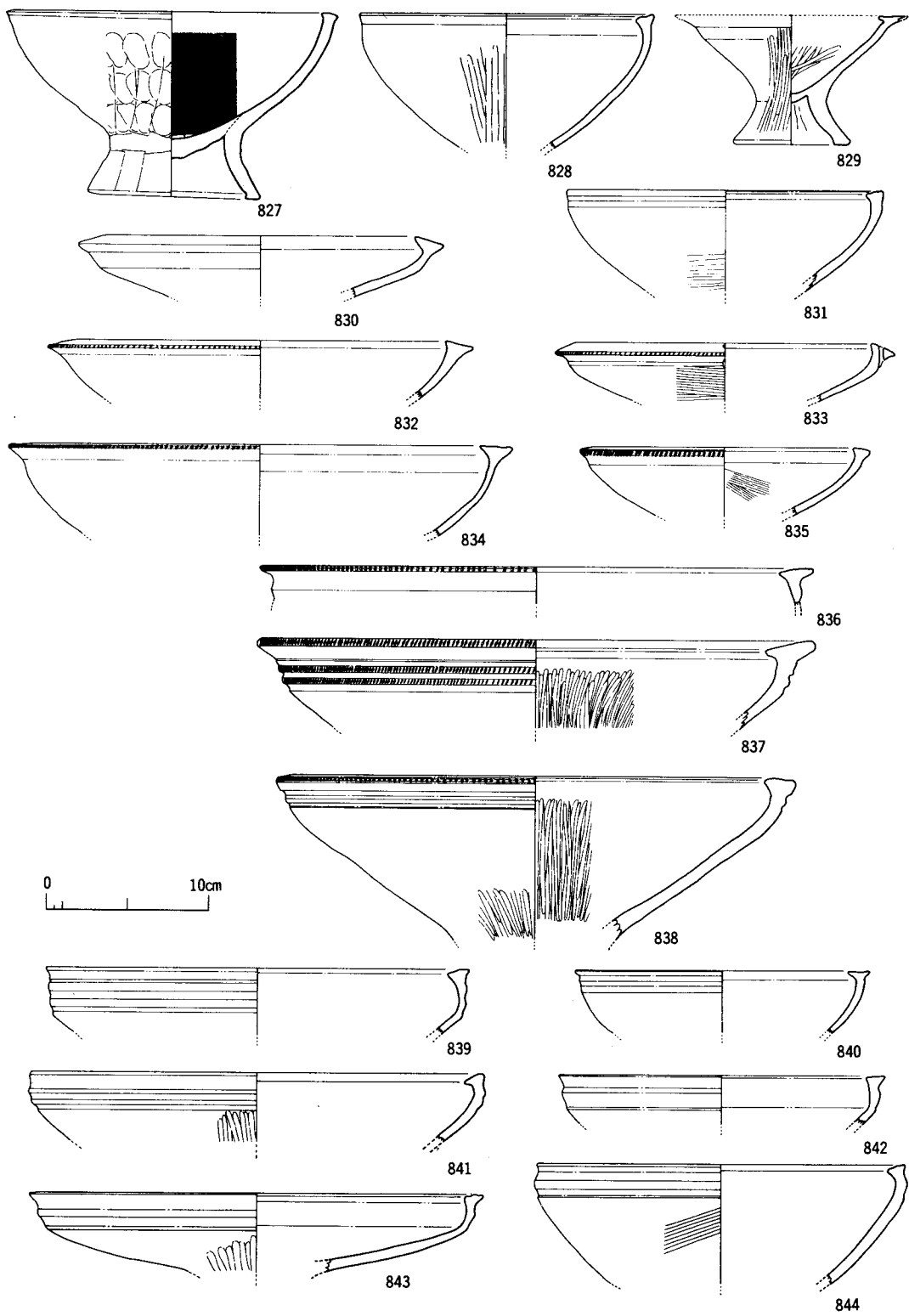
高杯D

内彎する杯部上半から屈曲し口縁部が水平にのびるもの。屈曲する位置には内傾する隆起帯をもつものもある。

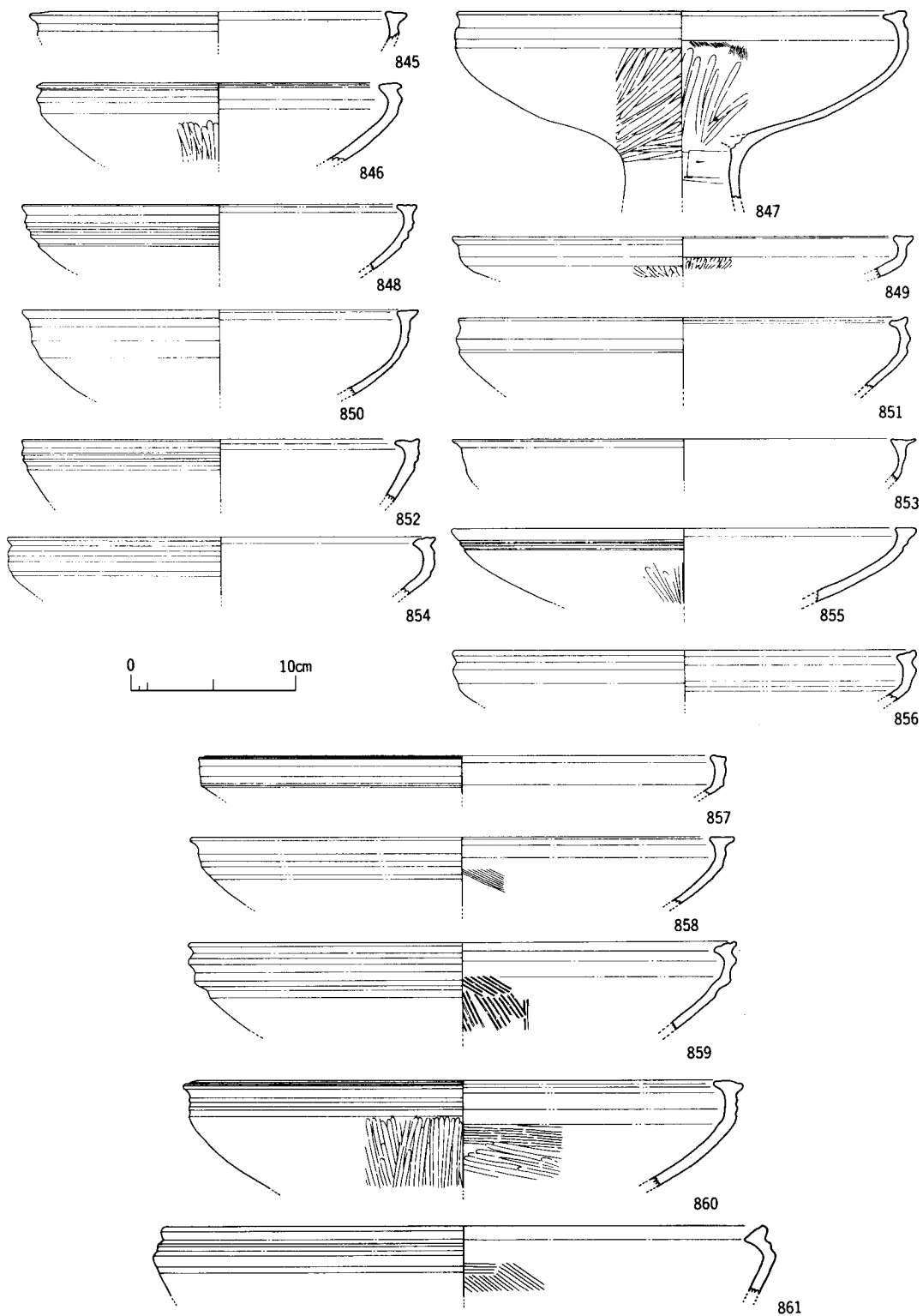
高杯D₂ (901・902) 口縁端部に刻目文が施されている。端部の拡張はほとんどみられない。口縁部内外面には、901は磨滅で明確ではないがヨコナデが施されていると思われる。902はナデ調整が施されている。901の屈曲部には内傾する背の低い隆起帯が認められる。902の杯部外面はハケ目の上から横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキが施されている。

高杯D₃-(1) (903) 903の1点だけである。口縁端部を上下にやや拡張させ凹線文2条と刻目文が施されている。口縁部内外面はナデにより調整されていると思われる。杯部の調整は高杯D₂と同様である。口縁部の屈曲部に内傾する小さい隆起帯をもつ。

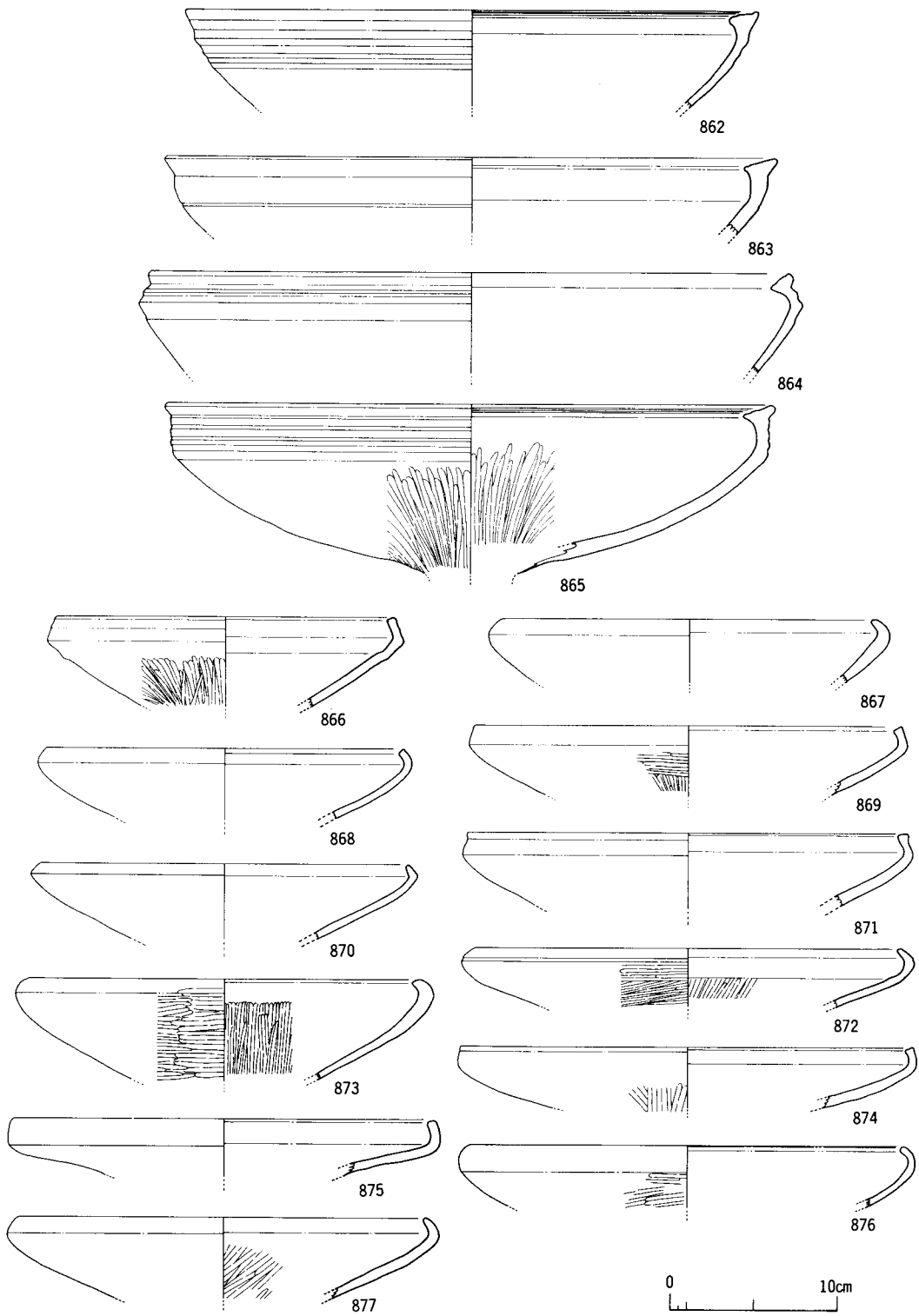
高杯D₃-(3) (904~906) 水平に開く口縁部が短いもの(904・905)と長いもの(906)がある。口縁端部をやや拡張させ不明瞭な凹線文が施されている。904・905は磨滅のため調整不明であるが、905は口縁部に円孔をもつ。ともに屈曲部に内傾する隆起帯が認められる。906の口縁部は屈曲部でやや上がり先端が上がっている。杯部外面には縦方向のハケ目が施されている。内面上半には横方向のハケ目、下半はへら削りがそれぞれ施されている。杯部内面下半のへら削りについては、鉢₄-(2)にも認められたものである。



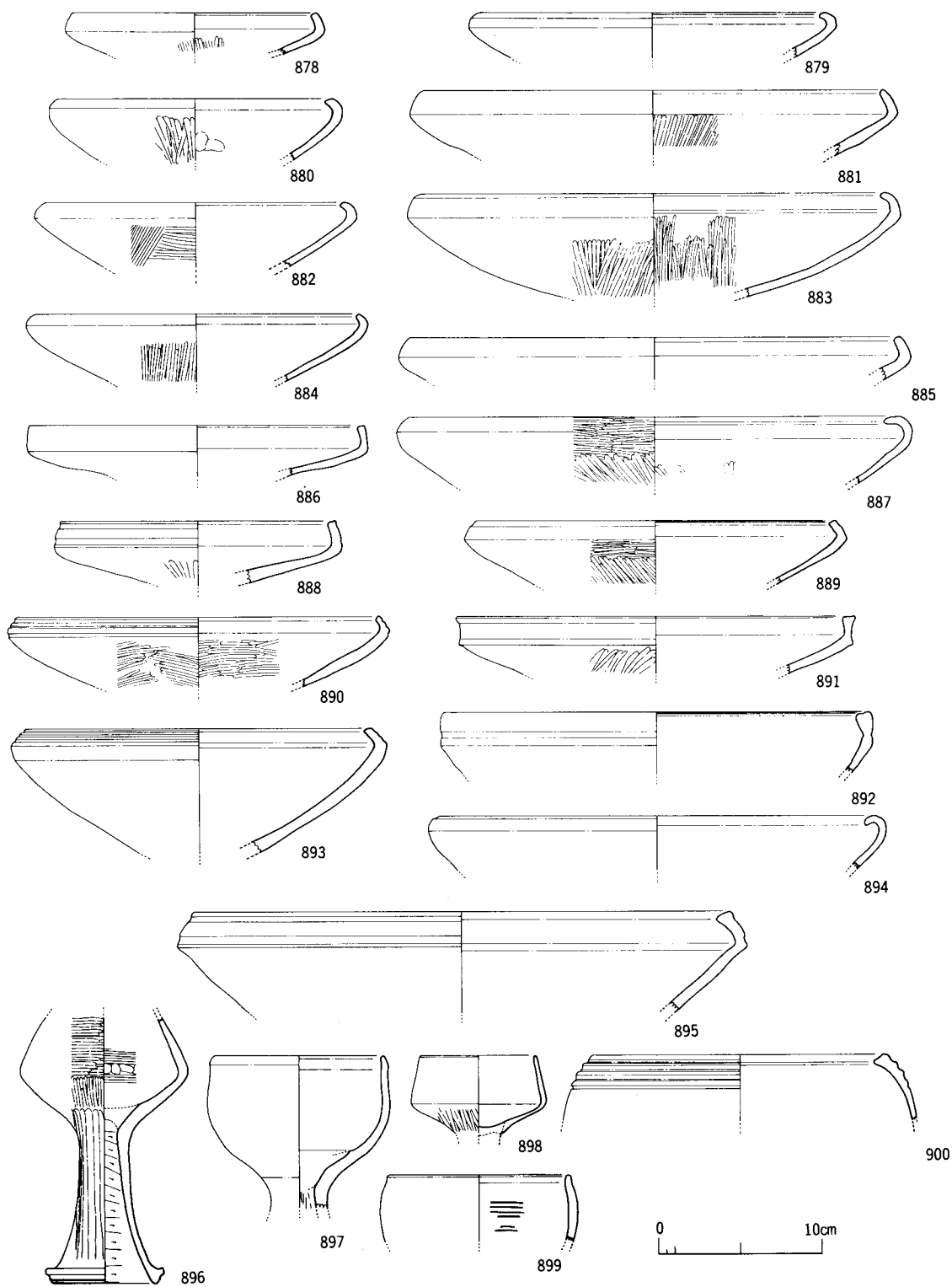
第143图 弥生土器 高杯A₁·A₂·A₄-(1)·A₄-(2)实测图



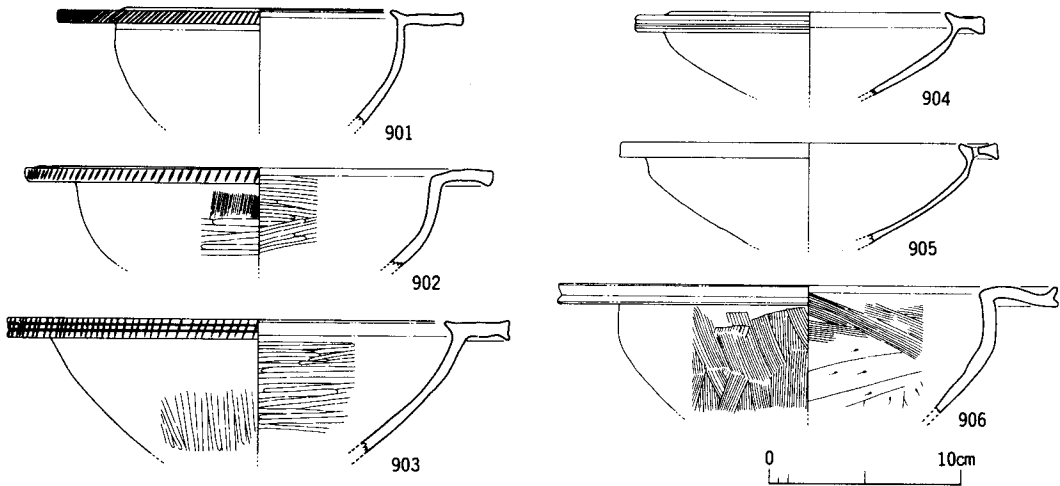
第144图 弥生土器 高杯A₄-(2)实测图



第145图 弥生土器 高杯A₄-(2)·B, 实测图



第146图 弥生土器 高杯B₁·B₄·C₁·C₄实测图

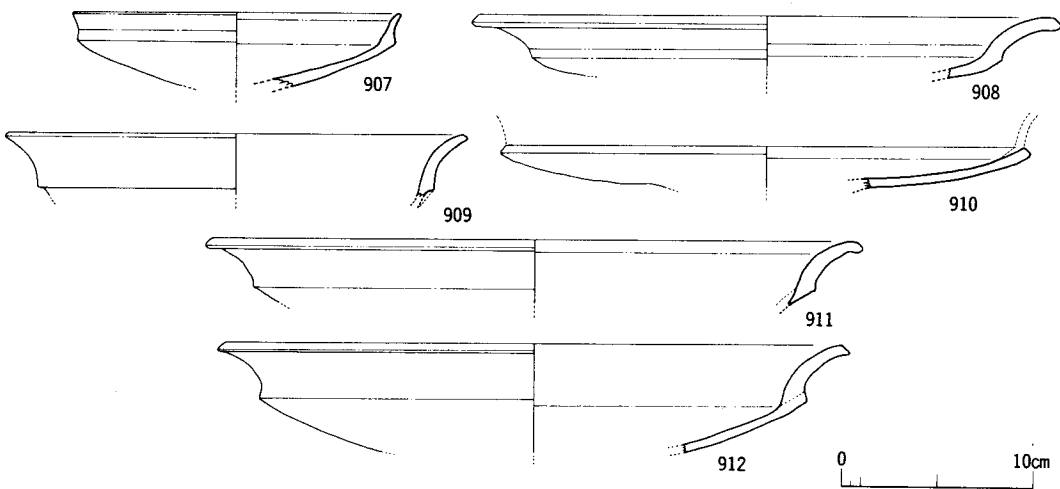


第147図 弥生土器 高杯D₂・D₃-(1)・D₃-(3)実測図

⑧高杯（弥生時代後期）

弥生時代中期の高杯と比較して形態上で明確な差が認められる。内彎する杯部が屈曲し、口縁部はその位置から外彎しながら立ち上がる。屈曲部を境にして上下別々に作ったものを貼り合わせたものである。その様子が910の例より知ることができる。口縁端部は丸く収めているもの、先細りのもの、平坦面を造り出しているものに分かれるが拡張しているものはみられない。

調整については、いずれも磨滅が著しいために不明とせざるをえない。しかし、鉢₄-(2)の新しい様相を呈すると思われる調整が後期の鉢にも受け継がれていることより、これらの高杯も、弥生時代中期の新しい様相をもつ高杯の調整を受け継いでいるものと思われる。



第148図 弥生土器 高杯（後期）実測図

(高杯 A_{1,2}, A₄-(1)・(2))

実測 番 号	遺構 番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
827	S D85101	Y-9	I	完形	20.4	11.5	口縁部内外面 ナデ, 杯部外面 ナデ, 内面 17条/cmのハケ目 脚部外面 板ナデ, 内面 ナデ
828	包 含 層	V-9	IV	1/4	18.0	-	杯部外面 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
829	包 含 層	U-9	IV	1/8	14.4	8.0	口縁部 磨滅のため調整不明 器壁外面 ヘラミガキ
830	S D85123	V-9	I	1/8	22.6	-	磨滅のため調整不明
831	S D85101	X-8	I	1/4	19.4	-	口縁端部 ヨコナデ 杯部外面下半 ヘラミガキ
832	S D85101	X-8	IV	1/8	26.2	-	口縁端部外端 刻目文 磨滅のため調整不明
833	S X85004	B-6	I	1/8	20.8	-	口縁端部外端 刻目文, 口縁部内外面 ヨコナデ 杯部外面下半 ヘラミガキ, 口縁部に円孔
834	S X85004	B-6	I	1/8	31.0	-	口縁端部外端 刻目文 磨滅のため調整不明
835	S X85004	B-6	III	1/8	18.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部外端 刻目文 杯部内面 ハケ目
836	S D85010	A-6	II	1/8	34.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線4条(不明瞭), 外端 刻目文, 口縁部外面 凹線(条数不明)
837	S D85025	C-6	I	1/8	(34.4)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口縁端部外端 刻目文 口縁部外面 凹線2条, 刻目文, 杯部内面 ヘラミガキ
838	S D85101	X-8	I	1/4	32.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口縁端部外端 刻目文 口縁部外面 凹線2条, 杯部外面下半・内面 ヘラミガキ
839	包 含 層	V-9	II	1/4	26.0	-	口縁部外面 凹線3条 磨滅のため調整不明
840	S D85121	W-9	IV	1/8	18.0	-	口縁部外面 凹線2条 磨滅のため調整不明
841	S D85036	D-4	II	1/8	27.0	-	口縁部外面 凹線3条 杯部外面 ヘラミガキ
842	S P-25	V-9	I	1/8	(10.0)	-	口縁端部 凹線2条, 口縁部外面 凹線2条 磨滅のため調整不明
843	S D85036	D-4	IV	1/4	28.0	-	口縁部外面 凹線2条, 杯部外面下半 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
844	包 含 層	V-9	II	1/8	(22.8)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口縁部外面 凹線2条 杯部外面 4条/0.9cmのハケ目
845	S B85104 ㊦	V-9	II	1/8	23.0	-	口縁端部 凹線1条, 口縁部外面 凹線(条数不明) 口縁部内面 ヨコナデ
846	包 含 層	U-9	II	1/8	22.2	-	口縁部外面 凹線2条 杯部外面下半 ヘラミガキ

第56表 土器観察表(4)

(高杯 A₁-(2), 高杯 B₁)

実測 図号 番	遺構 番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
847	S D85036	D-5	II	1/2	27.2	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条 杯部外面 ヘラミガキ, 内面 9条/cmのハケ目, ヘラミ ガキ, 脚部内面 ヘラ削り
848	S D85036	D-5	II	1/8	23.9	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線4条
849	S D85102	X-8	II	1/8	(28.0)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線1条
850	S X85005	E-4	IV	1/4	24.0	-	口縁部外面 凹線3条 磨滅のため調整不明
851	S D85036	D-5	II	1/8	27.5	-	口縁部外面 凹線2条 磨滅のため調整不明
852	S P-2	B-5	I	1/8	(24.2)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線1条(不明瞭) 口縁部外面 凹線3条
853	S P-7	B-5	IV	1/8	(28.0)	-	口縁部外面 凹線(条数不明), 口縁端部 凹線2条(不 明瞭) 磨滅のため調整不明
854	S D85024	C-6	II	1/8	(26.0)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線3条(不明瞭) 口縁部外面 凹線3条
855	S D85036	D-4	I	1/8	28.1	-	口縁部外面 凹線2条, 杯部外面 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
856	S D85025	C-6	II	1/8	(28.0)	-	口縁部外面 凹線2条 磨滅のため調整不明
857	S B85104 ㊦	V-9	IV	1/8	32.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条(不明瞭) 口縁端部 凹線2条(不明瞭)
858	S B85104 ㊧	V-9	II	1/8	33.0	-	口縁部内面・杯部内面 9条/0.9cmのハケ目 口縁部外面 凹線3条(不明瞭)
859	S D85036	D-4	II	1/8	33.1	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 口縁端部 凹線3条(不明瞭), 杯部内面 5条/cmのハ ケ目
860	S D85025	C-6	II	1/4	34.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 杯部外面 ヘラミガキ, 内面上半 7条/1.2cmのハケ目, 下半 ヘラミガキ
861	包含層	U-9	IV	1/8	36.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条 杯部内面 ハケ目
862	S D85101	X-8(S)	I	1/8	34.2	-	口縁部外面 凹線4条(不明瞭), 口縁端部 凹線3条(不 明瞭) 磨滅のため調整不明
863	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	27.4	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条(不明瞭)
864	包含層	U-9	II	1/8	38.0	-	口縁部外面 凹線3条 磨滅のため調整不明
865	S D85010	A-6	II	1/4	36.4	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線4条 杯部内外面 ヘラミガキ
866	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	20.0	-	口縁部 磨滅のため調整不明 杯部外面 ヘラミガキ

第57表 土器観察表(45)

(高杯 B₁)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
867	S D85102	X-8	II	1/8	(22.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ
868	S D85036	D-5	II	1/8	22.1	-	磨滅のため調整不明
869	S D85120	W-9	II	1/8	25.6	-	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部外面 ヘラミガキ
870	S D85036	D-4	IV	1/4	22.8	-	磨滅のため調整不明
871	S D85036	D-5	II	1/8	26.8	-	磨滅のため調整不明
872	S D85031	B・C-5・6	II	1/8	(25.0)	-	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ヘラミガキ
873	包含層	W-9	I	1/8	23.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ヘラミガキ
874	包含層	W-9	II	1/8	27.4	-	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部外面 ヘラミガキ
875	S D85013	A・B-6	IV	1/8	25.0	-	磨滅のため調整不明
876	S D85028	C-6	II	1/8	(25.4)	-	口縁部内面 ヨコナデ 杯部外面 ヘラミガキ
877	包含層	W-9	II	1/4	25.6	-	口縁部内面 ヨコナデ 杯部内面 ヘラミガキ
878	S B85103 ⊙	X-8 (N)	II	1/8	16.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ 杯部内外面 ヘラミガキ
879	S D85102	X-8	IV	1/8	(20.4)	-	口縁部内面 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
880	包含層	U-9	IV	1/8	16.8	-	杯部外面 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
881	S D85031	B・C-5・6	IV	1/8	(28.0)	-	口縁部内面 ヨコナデ 杯部内面 ヘラミガキ
882	S D85036	D-5	II	1/8	19.8	-	口縁部内面 ヨコナデ 杯部外面 8条/cmのハケ目
883	S D85031	B・C-5・6	II	1/2	28.2	-	口縁部内面 ヨコナデ 杯部内外面 ヘラミガキ
884	包含層	W-8	IV	1/8	21.0	-	杯部外面 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
885	S D85102	X-9	IV	1/8	(30.0)	-	磨滅のため調整不明
886	S D85017	B-5	II	1/8	20.6	-	磨滅のため調整不明

第58表 土器観察表(46)

(高杯 B_{1,4}, C_{1,4}, D_{2,3}-(1)・(3))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
887	包含層	W-9	II	1/4	31.6	-	口縁部内面 ヨコナデ 器壁外面 ヘラミガキ, 杯部内面 ヘラミガキ
888	包含層	U-9	II	1/8	17.8	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条(不明瞭) 杯部外面 ヘラミガキ
889	SX85005	E-4	II	1/8	20.0	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条(不明瞭) 杯部外面 ヘラミガキ
890	包含層	V-9	I	1/4	23.5	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条(不明瞭) 杯部内外面 ヘラミガキ
891	包含層	-	IV	1/8	24.4	-	杯部外面 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
892	SD85030	C-5	IV	1/8	(26.0)	-	口縁部外面 凹線1条, 口縁端部 凹線1条 磨滅のため調整不明
893	包含層	C-5	II	1/8	20.4	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線3条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
894	SD85028	C-6	II	1/8	(25.4)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線1条(不明瞭)
895	SD85031	B・C-5・6	IV	1/8	(33.0)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条(不明瞭)
896	包含層	W-8	II	3/4	7.5	-	器壁内面 ヘラミガキ, 杯部内面 ハケ目, 脚端部 凹 線2条 脚内面 ヘラ削り
897	SD85102	X-9	I	1/8	10.4	-	磨滅のため調整不明
898	包含層	V-9	II	1/4	7.0	-	口縁部内面 ナデ, 杯部外面下半 ヘラミガキ
899	SD85102	X-8(S)	I	1/4	11.4	-	杯部内面 ハケ目 磨滅のため調整不明
900	包含層	E-3	I	1/8	17.6	-	口縁部外面 凹線4条 磨滅のため調整不明
901	SD85101	X-8(S)	IV	1/4	21.0	-	口縁部内面 ヨコナデか, 口縁端部 刻目文 杯部 磨滅のため調整不明
902	包含層	W-9	I	1/4	24.3	-	口縁部内外面 ナデ 杯部外面 ハケ目, ヘラミガキ, 内面 ヘラミガキ
903	包含層	V-10	I	1/8	26.1	-	口縁部内外面 ナデか 口縁端部 凹線2条, 刻目文
904	包含層	W-8	I	1/8	18.2	-	口縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明
905	SD85101	W-8(N)	IV	1/8	19.8	-	口縁端部 凹線2条(不明瞭) 磨滅のため調整不明, 口縁部に円孔
906	包含層	B-5	II	1/4	26.0	-	口縁部内外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線1条 杯部外面 8条/cmのハケ目, 内面上半 7~8条/cmのハ ケ目, 下半 ヘラ削り

第59表 土器観察表(47)

(高杯 (後期))

実測 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
907	S D85036	D-5	II	1/4	17.0	-	磨滅のため調整不明
908	包含層	D-5	II	1/8	(30.6)	-	磨滅のため調整不明
909	S D85018	Z-6・7	III	1/8	24.0	-	磨滅のため調整不明
910	S D85018	Z-6・7	II	1/8	-	-	磨滅のため調整不明
911	S D85018	Z-6・7	II	1/8	34.2	-	磨滅のため調整不明
912	包含層	-	II	1/8	33.0	-	磨滅のため調整不明

第60表 土器観察表(48)

⑨高杯脚台 (弥生時代中期)

高杯脚台、(913~922) 脚端部に凹線文が施されていないものである。脚端部の形態は、全く拡張していないもの、内側を拡張しているもの、内外両方を拡張しているものがあるが拡張の度合いは少ない。脚端面は水平のものと外側が上がっているものがある。

脚部内外面下半にはヨコナデが施されているものとナデが施されているものがあるが、脚端部や脚端面との相関関係はない。脚部内面上半はナデにより仕上げられている。脚部外面に文様をもたないものは、杯部外面から続いて縦方向のヘラミガキが施されている。914は脚部外面と内面下半にハケ目が施されている点で特異である。

脚部外面に施される文様は、櫛描直線文、三角形状と長方形状の透孔がある。高杯脚台₃-(2)・(3)と比較すると加飾は少ないといえる。

高杯脚台₃-(2) (923~960) 脚端部の拡張が著しく端面に2条あるいは3条の凹線文を施しているもの。脚端部の外側を上方に強く拡張しているものがほとんどである。脚端面は全て外上がりになっており、45°よりも直立に近い角度で立っているものが多い。

脚部外面下方はヨコナデが施されている。それとともに高杯脚台₃-(2)に特徴的な調整は脚部内面に認められるヘラ削りである。通常横方向でヘラ削りは施されている。ヘラ削りにともない脚部の器壁は下方部が厚く上方にいくに従って薄く造り出されている。脚部内面にヘラ削りが施されないものの器壁はほぼ一定の厚さとなっている。それらは脚端部の拡張が顕著でないものか端面が45°程度の傾きのものに限られる。脚部外面の調整はヘラミガキ、ハケ目、ナデなどが認められるがナデのものが最も多い。

脚部外面に施される文様には、櫛描直線文、螺旋状直線文、刺突文(三角形状、紡錘形状)、紡

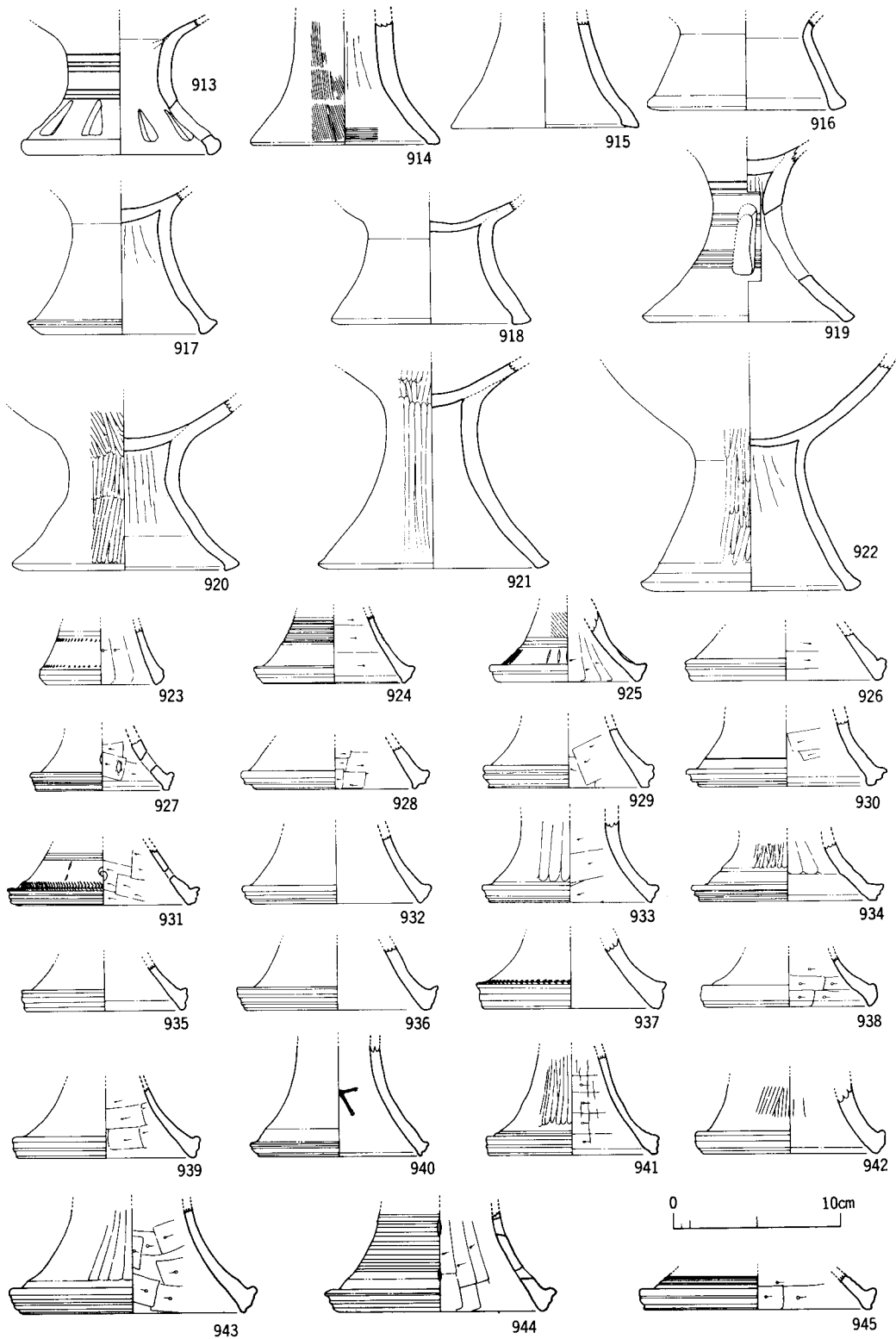
錘形状の透孔などがみられる。櫛描直線文は数が少ない平行の直線文で、施された線は比較的太い。螺旋状直線文は、一見数多い平行の直線のようにみえるが、一本の直線である。これは、細く鋭い線のものが多い。透孔は高杯脚台₃-(3)によくみられる三角形の透孔は全くみられず、紡錘形の小さい透孔が施されているだけである。

高杯脚台₃-(3) (961~994) 拡張された脚端部に1条の凹線、もしくは凹線に近いヨコナデが施されているものである。高杯脚台₃-(3)には(a)古い様相を呈するものと(b)新しい様相を呈するものが合わせて分類されている。これは凹線文の初期段階のものと退化期段階のものである。脚端部の形態・凹線文が類似しているために合わせて分類せざるをえなかった。

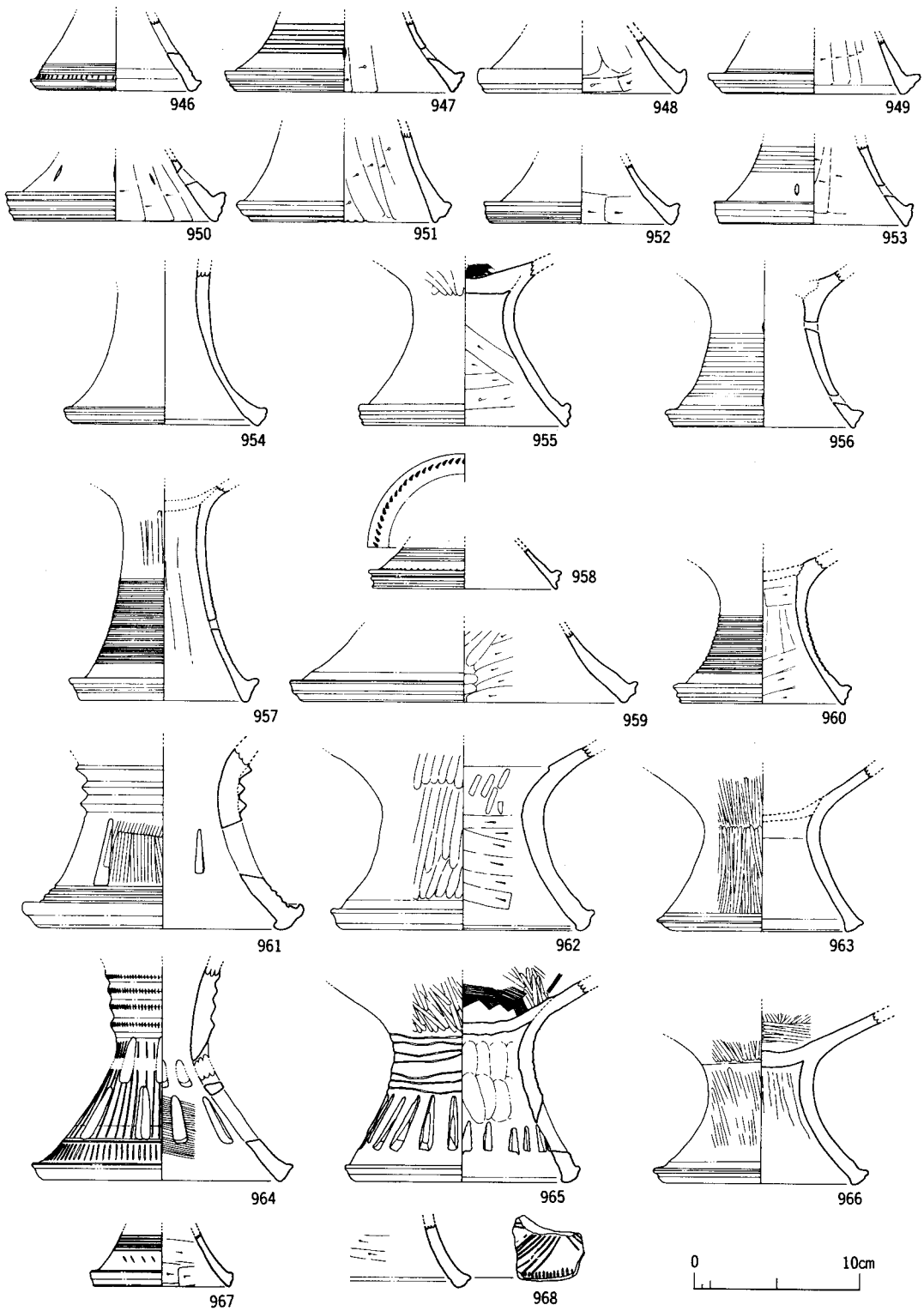
細かい部分の形態・調整については(a)、(b)で差が認められる。脚端部の拡張についていえば、いずれも脚端部外側が上方へ拡張されている。脚端部の内側については、(1)強く拡張されているもの、(2)わずかに拡張されているもの、(3)全く拡張されていないものがある。(1)、(2)については三角形の透孔をもつ例が多く、脚部内面にはヘラ削りが施されているものは少ない。(3)は脚部外面に刺突文、櫛描直線文などが認められる例が多く、脚部内面にヘラ削りが施されているものが多い。高杯脚台₁と高杯脚台₃-(2)より(1)、(2)は(a)、(3)は(b)になるといえる。

(a)については脚部下半内外面はヨコナデが施されている。脚部内面はナデにより調整されているものが多いが、ハケ目が認められるもの(964・991)もある。962・990は横方向のヘラ削りが遺存するが、内面下端いっぱいにはおよんでおらず内面下端にはヨコナデが施されている。(b)のヘラ削りが内面下端いっぱいにはおよんでいるのと比較するとやや異なる。脚部外面は文様が全く認められないものについては縦方向のヘラミガキが認められるもの(962・963・966・990)が多い。それ以外にハケ目が認められるもの(961)もある。脚部外面の文様で最も特徴的なものは三角形、長方形の透孔である。964は二段にわたりそれが認められる。それ以外の文様は断面三角形の突帯、刻目突帯文が脚部上半に施されているものがある。また櫛描直線文、螺旋状直線文が認められる。965の螺旋状直線文は高杯脚台₃-(2)のものとは比較すると歪みも多く太い。ヘラ状の工具で施されたものと思われる。透孔のまわりをヘラ描の直線状の文様で飾ったもの(964・988)、脚部下半に施された円孔などがある。

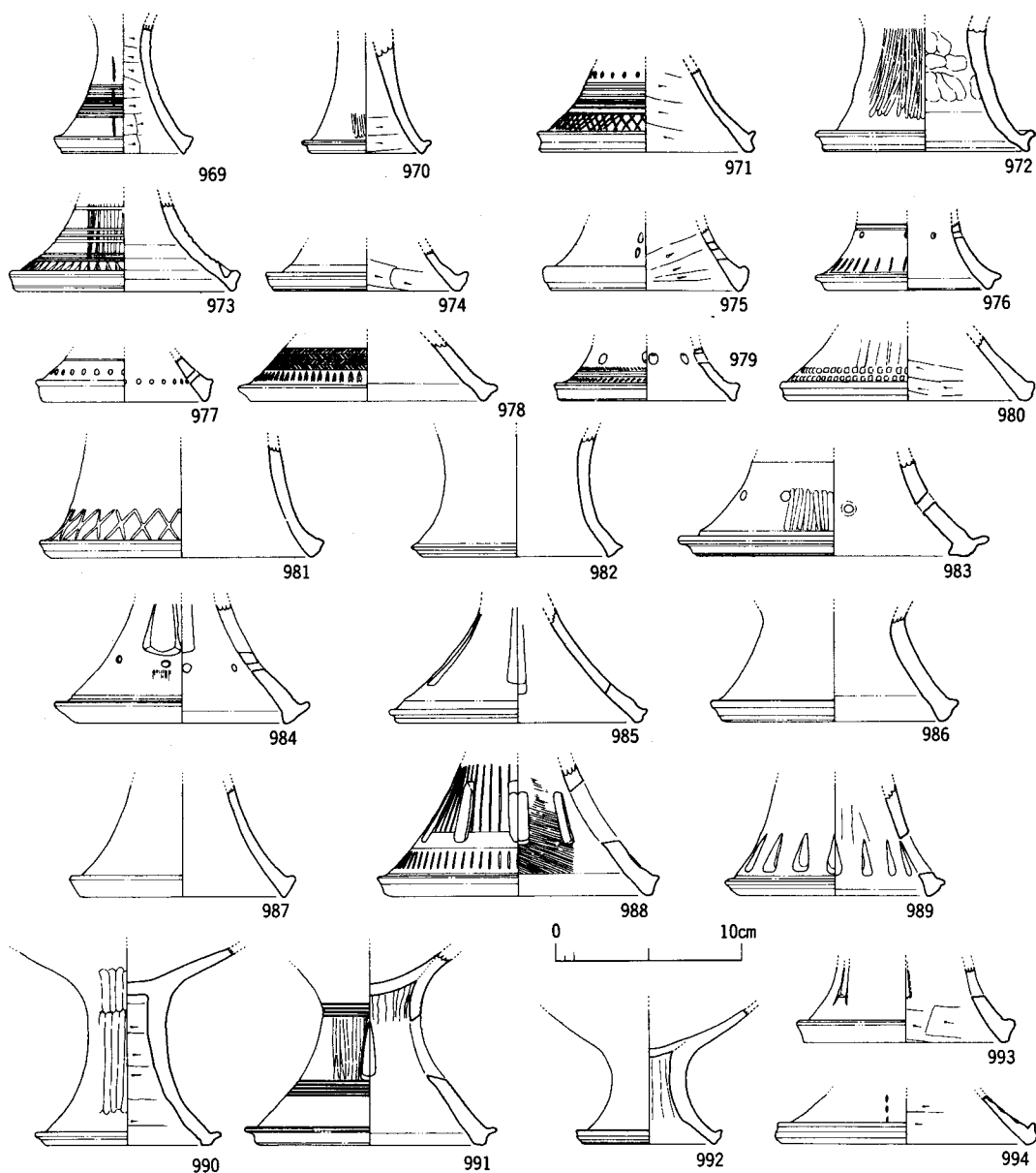
(b)については、脚部内面のヘラ削り以外に脚部外面の篋、櫛、竹などで施された文様が特徴的である。櫛描直線文、螺旋状直線文、斜格子文、斜線文、刻目文、刺突文、列点文などがある。それ以外に円孔、紡錘形状の透孔なども認められる。刻目文、列点文、刺突文は施文の最下端に位置することが多い。全くそれらの文様が認められないものは少ない。



第149图 弥生土器 高杯脚台，(3)实测图



第150图 弥生土器 高杯脚台。(2)・(3)实测图



第151図 弥生土器 高杯脚台。(3)実測図

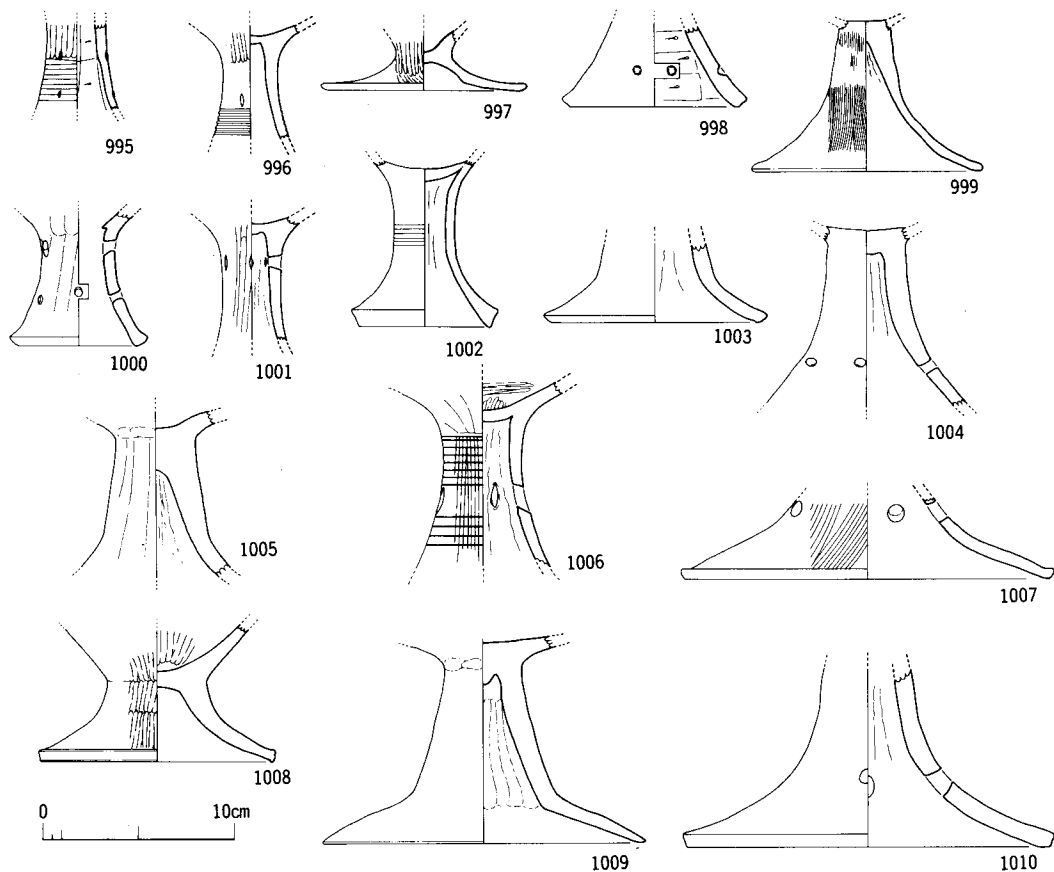
⑩高杯脚台（弥生時代後期）

弥生時代後期の高杯脚台については高杯と同様に形態上の顕著な特徴がある。脚部上半は比較的細身に造られているが、脚部中央部あるいは下半部で屈曲し、その位置より脚部下半部は強く横方向に向かって開く。脚端部は、丸く収めているもの、平坦面を造り出しているもの、先細りのものがあるが端部を拡張しているものは少ない。995は脚部内面にヘラ削りが施され、外面に刺突文、螺旋状直線文が施されていることより高杯脚台。(2)か(3)になる可能性が高い。

胎土は弥生時代後期の甕にみられたII・IIIのものがほとんどである。調整については高杯脚台、

-(2), (3)で顕著にみられた脚部内面のヘラ削りが認められるものが少なくなる。磨滅のため不明なものが多いが内面はハケ目・ナデにより調整されていると思われる。脚部外面は、ハケ目・ヘラミガキが認められる。

脚外面の文様は簡素化し、櫛描直線文、円孔、紡錘形状の透孔がみられるだけとなる。なかでも円孔だけが単独で施される例(998・1000・1004・1007・1010)が多い。



第152図 弥生土器 高杯脚台(後期)実測図

(高杯脚台₁,₃-(2))

実測 図番 号	遺構 番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
913	包含層	W-8	I	1/2	12.0	-	脚部外面上半 櫛描直線文, 下半 三角形透孔9 磨滅のため調整不明
914	包含層	D-5	I	1/4	11.4	-	脚部外面 11条/1.2cmのハケ目, 内面 8条/0.8cmのハケ目
915	包含層	Y-9	IV	1/8	11.2	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 上半 磨滅のため調整不明
916	包含層	V-9	IV	8/8	11.8	-	脚部下半内外面 ナデ
917	包含層	W-9	I	8/8	11.4	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 上半 磨滅のため調整不明
918	S D85037	E-4	IV	1/4	12.0	-	脚部下半内面 ナデ, 上半 磨滅のため調整不明
919	S D85101	Y-9	I	1/4	12.6	-	磨滅のため調整不明 脚部外面 櫛描直線文, 長方形透孔
920	S K85104	X-8(N)	I	1/2	13.8	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 脚部外面 ヘラミガキ
921	包含層	W-9	I	3/4	13.9	-	脚部外面 ヘラミガキ, 内面 ナデ
922	包含層	W-9	I	1/2	13.1	-	脚部下半外面 ヨコナデ, ヘラミガキ, 内面 ナデ
923	S D85031	B・C-5・6	II	1/4	7.6	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚端部 刺突文, 櫛描直線文 脚端部 凹線2条
924	S B85104 ㊦	V-9	II	1/8	9.7	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線2条, 脚部外面 櫛描直線文
925	包含層	C-5	IV	1/4	9.6	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線2条, 脚部外面 刺突文, 櫛描直線文
926	包含層	B-5	II	1/2	12.0	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線2条
927	S D85036	D-5	II	1/2	8.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線3条, 脚部外面 紡錘形透孔
928	S D85036	D-5	II	1/4	11.3	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線2条
929	S D85036	D-5	II	1/2	10.2	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線2条
930	S D85036	D-5	II	1/4	12.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部下半内外面 ナデ 脚端部 凹線2条
931	包含層	C-5	II	1/8	(11.6)	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 刺突文, 櫛描直線文 脚端部 凹線3条
932	S D85036	D-5	I	1/4	11.3	-	磨滅のため調整不明 脚端部 凹線2条

第61表 土器観察表(49)

(高杯脚台₃-(2))

実測 図番	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
933	S D85036	D-5	I	1/4	9.6	-	脚部内面 ヘラ削り, 外面 ヘラミガキ 脚端部 凹線 2条
934	S D85036	D-4	I	1/8	11.4	-	脚部内外面 ヨコナデ, 脚部外面 ヘラミガキ 脚端部 凹線 2条
935	S D85102	X-8(S)	II	1/8	10.0	-	磨滅のため調整不明 脚端部 凹線 2条
936	包含層	E-4	IV	1/4	12.2	-	磨滅のため調整不明 脚端部 凹線 3条
937	S D85037	E-4	IV	1/4	11.4	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面下半 刺突文 脚端部 凹線 2条
938	S X85005	E-4	II	1/4	10.6	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線 2条
939	S D85036	D-4	II	1/2	10.5	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線 2条
940	S D85028	C-6	II	1/4	10.8	-	磨滅のため調整不明 脚端部 凹線 2条
941	S X85005	E-4	II	1/4	10.3	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 ヘラミガキ 脚端部 凹線 2条
942	包含層	-	I	1/2	11.4	-	脚部下半 内外面 ヨコナデ, 脚部外面 ハケ目 脚端部 凹線 2条
943	S D85013	A・B-6	II	1/8	15.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線 3条
944	包含層	W-9	II	1/4	14.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 櫛描直線文, 紡錘形透孔 脚端部 凹線 2条
945	S D85028	C-6	II	1/8	14.2	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 櫛描直線文 脚端部 凹線 2条
946	S P-2	B-5	II	1/4	10.2	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 刺突文, 櫛描直線文 脚端部 凹線 2条
947	S D85030	C-5	II	1/8	14.4	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 櫛描直線文, 紡錘形透孔 脚端部 凹線 3条
948	S D85036	D-5	II	1/4	12.6	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線 1条
949	S D85018	Z-6・7	II	1/4	12.8	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線 2条
950	包含層	U-9	II	1/2	13.2	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚部外面 紡錘形透孔
951	S D85013	A・B-6	II	1/8	12.9	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 ヨコナデ 脚端部 凹線 2条
952	S D85102	X-8(S)	II	1/8	11.8	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線 3条

第62表 土器観察表(50)

(高杯脚台₃-(2)・(3))

実測 番号	遺構 番号	グリッド	胎 土	残存度	口 径	器 高	備 考
953	S D85037	E-4	II	1/8	12.2	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 櫛描直線文, 紡錘形透孔 脚端部 凹線2条
954	S D85037	E-4	II	8/8	12.3	-	磨滅のため調整不明 脚端部 凹線2条
955	S D85036	D-4	I	1/2	12.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 杯部内外面 ヘラミガキ 脚端部 凹線2条
956	S D85120	W-9	II	1/4	12.0	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 螺旋状直線文, 紡錘形透孔 脚端部 凹線2条
957	S D85037	E-4	II	1/8	15.4	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 螺旋状直線文, 長方形透孔 脚端部 凹線2条
958	包含層	C-5	IV	1/4	11.6	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 平行直線文, 刺突文 脚端部 凹線2条
959	S P-1	B-5	II	1/8	(21.0)	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線2条
960	包含層	W-9	II	1/4	10.8	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 螺旋状直線文, 刺突文 脚端部 凹線2条
961	包含層	W-9	I	1/4	16.9	-	脚端部 凹線1条, 脚部内面下半 ヨコナデ, 上半 ナデ, 脚部外面下半 凹線4条, 脚部外面 8条/cmのハケ目, 貼り付け凸帯, 三角形透孔
962	包含層	-	II	1/8	16.0	-	脚端部 凹線1条, 脚部内面 ヘラ削り, 下半 ヨコナデ 脚部外面 ヘラミガキ
963	包含層	W-9	I	3/4	12.2	-	脚部外面 ヘラミガキ 脚端部 凹線1条
964	S X85004	B-6	I	1/8	15.8	-	脚端部 凹線1条, 脚部内面 ハケ目 脚部外面 貼り付け凸帯, 三角形透孔2段, 斜線文, 直線文
965	S D85101	X-8(S)	I	8/8	14.2	-	脚端部 凹線1条, 脚部内面 ナデ, 杯部外面 ヘラミガキ, 杯部内面 ハケ目, ヘラミガキ, 脚部外面 螺旋状直線文, 三角形透孔
966	包含層	U-9	II	1/2	13.0	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 脚端部 凹線1条 器壁外面 ヘラミガキ, 杯部内面 ヘラミガキ
967	包含層	W-8	II	1/4	8.4	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 平行直線文, 刺突文 脚端部 凹線1条
968	S X85001	A-6	II	1/8	-	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 斜線文, 刺突文 脚端部 凹線1条
969	S D85031	B・C-5・6	II	1/2	7.6	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 螺旋状直線文, 刺突文
970	包含層	W-8	I	1/8	7.0	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線1条
971	包含層	C-5	IV	1/4	11.6	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 螺旋状直線文, 斜格子文, 刺突文 脚端部 凹線1条
972	包含層	W-8	II	1/8	11.8	-	脚部下半内外面 ヨコナデ 脚部外面 ヘラミガキ, 内面 ナデ 脚端部 凹線1条

第63表 土器観察表(51)

(高杯脚台。-(3))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
973	S P - 6	X - 8	I	1/8	12.4	-	脚部内面下半 ヨコナデ, 脚部外面 櫛描直線文, 三角形透孔 (貫通していない) 脚端部 凹線1条
974	S D85102	X - 9	II	1/4	10.8	-	脚部内面 ヘラ削り 脚端部 凹線1条
975	S D85102	X - 9	II	1/8	11.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 紡錘形透孔 脚端部 凹線1条
976	包含層	U - 9	I	1/4	10.1	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 脚部外面 円孔, 平行直線文, 斜線文 脚端部 凹線1条
977	包含層	-	II	1/8	9.6	-	脚端部 凹線1条 脚部外面 円孔
978	包含層	U - 9	IV	1/8	14.0	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 脚部外面 平行直線文, 刻目文, 刺突文 脚部内外面 ナデ
979	S D85037	E - 4	II	1/4	10.0	-	脚端部 凹線1条 脚部外面 平行直線文, 刻目文, 円孔
980	包含層	V - 10	II	1/8	13.7	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面下半 列点文 脚端部 凹線1条
981	包含層	X - 9	I	1/8	(15.4)	-	磨滅のため調整不明 脚部外面下半 斜格子文
982	S X85004	B - 6	II	1/4	11.4	-	脚部下半内外面 ヨコナデ 脚端部 凹線1条
983	S D85101	X - 8	I	1/8	16.8	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 脚部外面 円孔, ヘラミガキ 脚端部 凹線1条
984	S K85104	X - 8 (N)	I	8/8	13.8	-	脚部下半内外面 ヨコナデ, 脚部外面 三角形透孔, 円孔 脚端部 凹線1条
985	包含層	W - 9	IV	8/8	14.0	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 三角形透孔 脚端部 凹線1条
986	S X85001	A - 6	II	1/8	13.4	-	磨滅のため調整不明 脚端部 凹線1条
987	S D85102	X - 8 (S)	IV	1/8	12.2	-	磨滅のため調整不明
988	包含層	-	I	1/4	15.2	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 長方形透孔, 平行直線文, 刺突文, 斜線文, 脚端部 凹線1条
989	S D85101	Y - 9	I	1/8	11.8	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 三角形透孔 脚端部 凹線1条
990	S D85102	X - 9	II	1/2	10.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 ヘラミガキ 脚端部 凹線1条
991	S K85104	X - 8 (N)	I	8/8	13.6	-	脚部外面 ヘラミガキ, 脚部外面 櫛描直線文, 三角形透孔 脚端部 凹線1条
992	S P - 13	U - 9	IV	1/4	7.8	-	磨滅のため調整不明 脚端部 凹線2条

第64表 土器観察表(52)

(高杯脚台、- (3), 高杯脚台 (後期))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
993	S D85010	A-6	III	1/4	11.8	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 三角形透孔
994	S D85037	E-4	IV	1/4	14.0	-	脚部内面 ヘラ削り, 脚部外面 刺突文 脚部外面 凹線1条
995	S D85120	W-9	II	-	-	-	脚部内面 ヘラ削り, 外面 ヘラミガキ, 螺旋状直線文, 刺突文
996	S D85036	D-5	II	-	-	-	杯部外面 ヘラミガキ 脚部外面 螺旋状直線文, 刺突文
997	S D85036	D-4	III	1/4	10.7	-	脚部外面 ヘラミガキ, 内面 磨滅のため調整不明
998	包含層	U-9	III	1/4	9.6	-	脚部内面 ヘラ削り, 外面 磨滅のため調整不明 脚部外面 円孔 (貫通していない)
999	包含層	A-6	II	1/4	12.2	-	脚部外面 9条/cmのハケ目
1000	S X85005	E-4	II	1/4	7.2	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 円孔
1001	S D85036	D-5	II	-	-	-	脚部外面 ヘラミガキ, 紡錘形透孔
1002	包含層	-	II	8/8	7.6	-	磨滅のため調整不明, 脚部外面 螺旋状直線文
1003	S D85036	D-4	III	1/2	11.6	-	磨滅のため調整不明
1004	包含層	X-8	II	-	-	-	磨滅のため調整不明 脚部外面 円孔
1005	S D85018	Z-6・7	III	-	-	-	磨滅のため調整不明
1006	S D85036	D-5	II	-	-	-	脚部外面 5条/cmのハケ目, 螺旋状直線文, 紡錘形透孔 杯部内面 ヘラミガキ
1007	S D85036	D-4	II	3/4	19.0	-	脚部外面 ハケ目, 内面 ナデ 脚部外面 円孔
1008	S D85102	X-9	II	1/4	12.4	-	器壁外面 ヘラミガキ, 杯部内面 ヘラミガキ
1009	S D85019	Z-6・7	II	1/4	16.8	-	磨滅のため調整不明
1010	S D85036	D-4	III	1/4	19.0	-	磨滅のため調整不明 脚部外面 円孔

第65表 土器観察表(5)

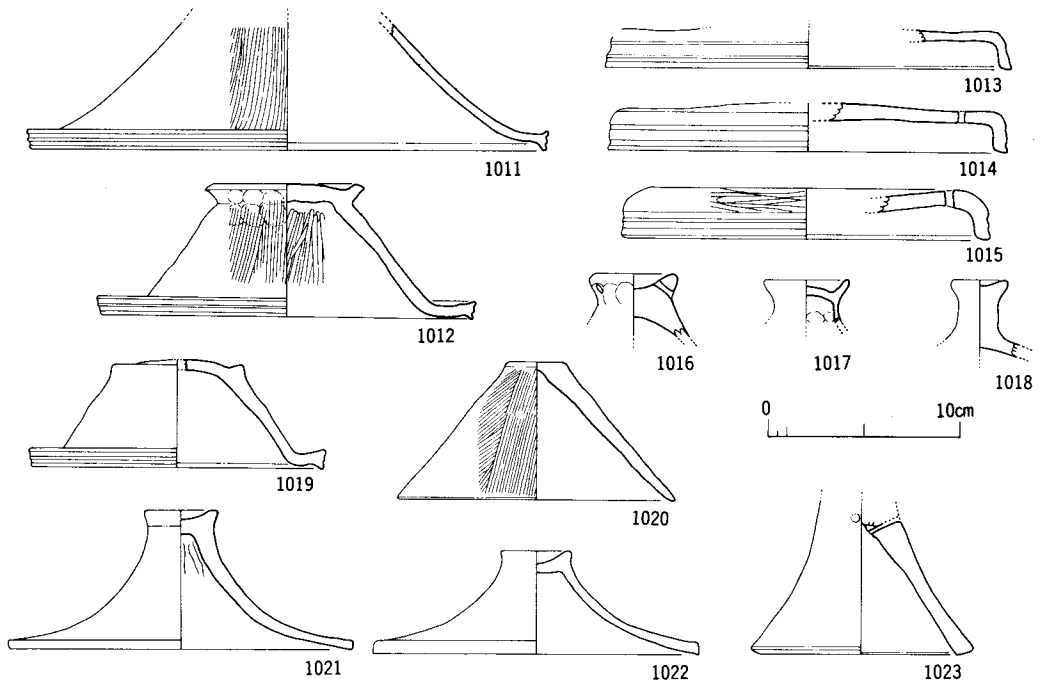
⑪蓋（弥生時代中期・後期）

蓋の口縁部に凹線文が認められるもの（1011～1015・1019）と認められないもの（1020～1023）に区別される。1016～1018は頂部だけが遺存するので凹線文の有無は不明である。凹線文が施されているものには、口縁端部に施されているものと、口縁部外面に施されているものがある。1011・1012・1019は口縁端部を上下に拡張させ、いずれも2条の凹線文が施されている。調整については外側面には縦方向のハケ目、内側面には縦方向のヘラミガキが施されている。

口縁部外面に凹線文が施されているものが3点（1013～1015）ある。いずれも比較的幅の広い凹線が2条認められる。直立する口縁部から頂部がほぼ90°の角度で屈曲し平坦な頂面をもつ。器高はいずれも2.5cm程度で背の低い盤状を呈する。口縁部の屈曲部から約2cmの位置に円孔が認められる。1015の頂部外面にはヘラミガキが遺存する。他に例をみないために断定はできないが蓋である可能性が強い。

凹線文をみないものについては、口縁端部の形態が、丸く収まるもの（1020）と平坦面を造り出しているもの（1021～1023）がある。口縁端部の拡張はない。1021・1022については口縁端部に凹線文を持つものと比較して、口縁部、頂部の器形にやや差が認められる。1020・1023は、それらより後出性を感じさせる。調整については磨滅が著しく1020の外側面にハケ目が遺存するだけである。1023・1016の頂部には円孔が穿たれている。

器形・胎土などから判断して、1011～1015・1018・1019は弥生時代中期、1016・1017・1020～1023は弥生時代後期のものであると思われる。さらに弥生時代中期のものについては、1011・1012・1019が第3手法、1013～1015は第4手法の土器である。



第153図 弥生土器 蓋形土器実測図

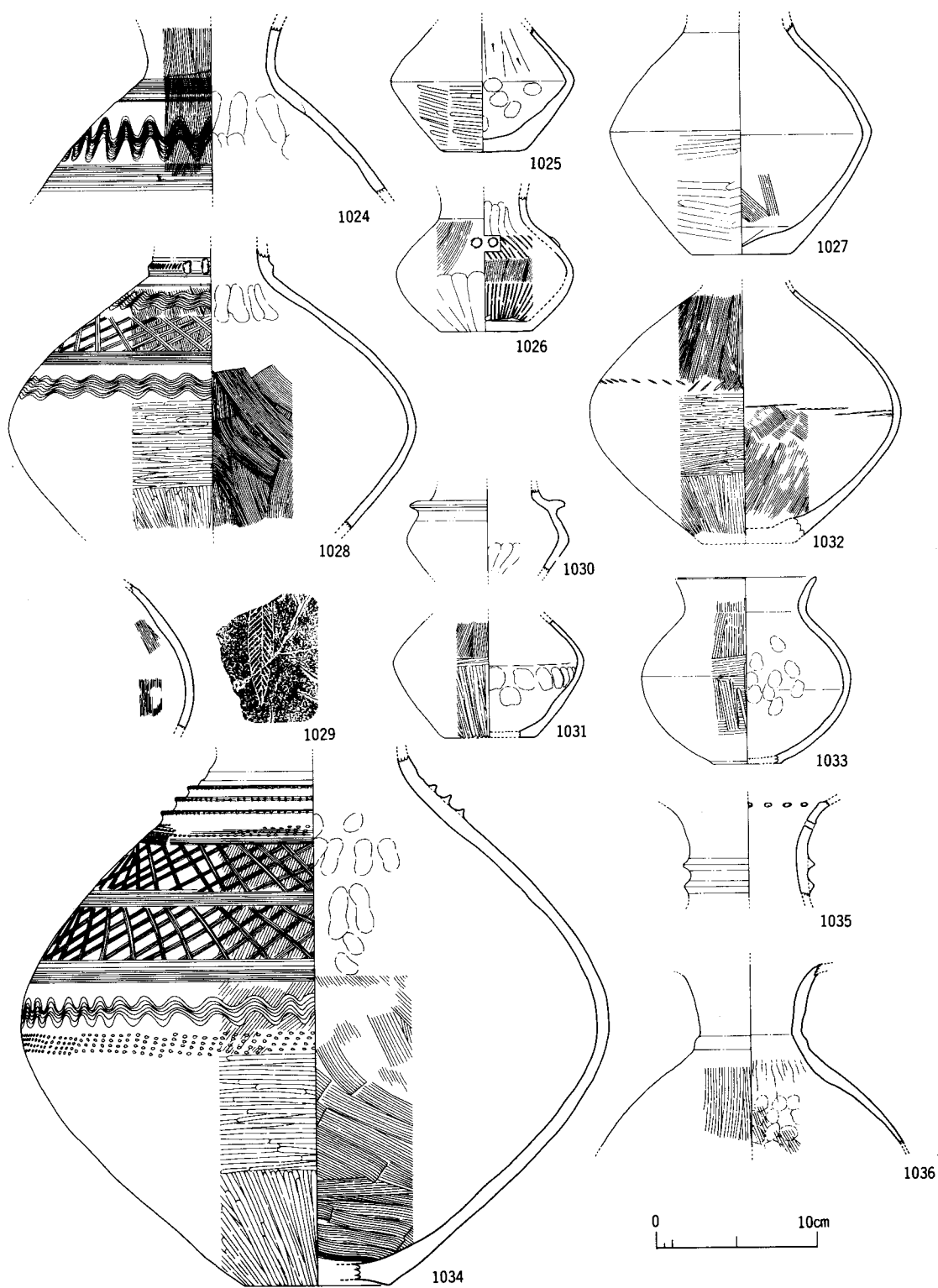
⑫体部（弥生時代中期・後期）

体部については、全てが壺の体部である。体部の形態については、(1)体部中央で最大腹径をもつもの、(2)体部中央よりやや上半で最大腹径をもつもの（1038・1040・1041）、(3)球形状を呈するもの（1039）がある。(1)についてはさらに、(a)上下に圧縮されそろばんの玉状を呈するもの（1028・1032・1034）、(b)正六角形状を呈するもの（1027）、(c)(b)よりも最大腹径の部分が丸味を帯びるもの（1042）がある。

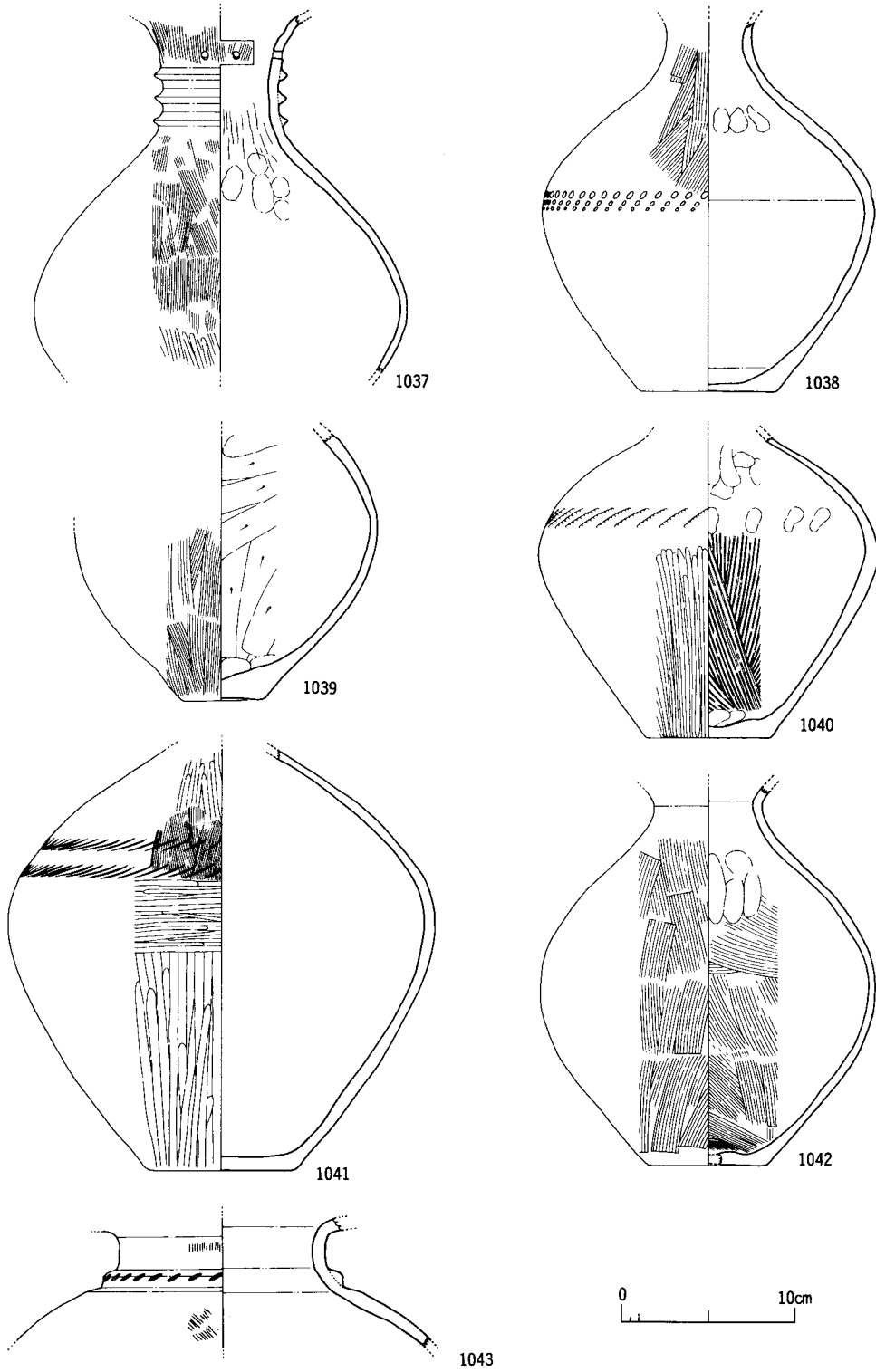
(1)については小型のもの（1025・1026・1030・1031）がみられる。これらは壺D₃-(3)の体部になると思われる。1026については頸部の破損部分が、直立方向に立っているため壺D以外の分類が考えられる。(1)-(a)の大型のものは壺C₂、Dの体部の可能性が強い。(1)-(b)、(c)については壺A・Fの体部と思われる。(2)については壺A₃-(3)の時期に多い体部である。また(3)については壺G₄に多くみられる。

調整については体部外面上半が縦方向のハケ目、中央から下半部はヘラミガキが施されている。体部内面にはハケ目、ナデが施されるという壺にみられる一般的な調整が施されているものが多い。1039・1042の体部外面には下半部にまでハケ目が認められることにより、後期の壺の可能性も強い。

体部外面にみられる文様は刻目突帯文、櫛描直線文、斜格子文、波状文、列点文、押圧文、刻目文などがある。これら以外の例として1029がある。1029も壺の体部であると思われるが、ヘラ状工具により木の葉の文様が描かれている。



第154图 弥生土器 体部实测图



第155图 弥生土器 体部实测图

⑬底部（弥生時代中期・後期）

底部については、壺、甕、鉢がある。底部外面に施される調整はナデのものが多い。それ以外に底部内面にハケ原体の圧痕が遺存するもの（1058・1060・1061）も多い。そのうち1061は特に明瞭に認められる。また1046は底部外面にハケ目が施されているという点で特異である。

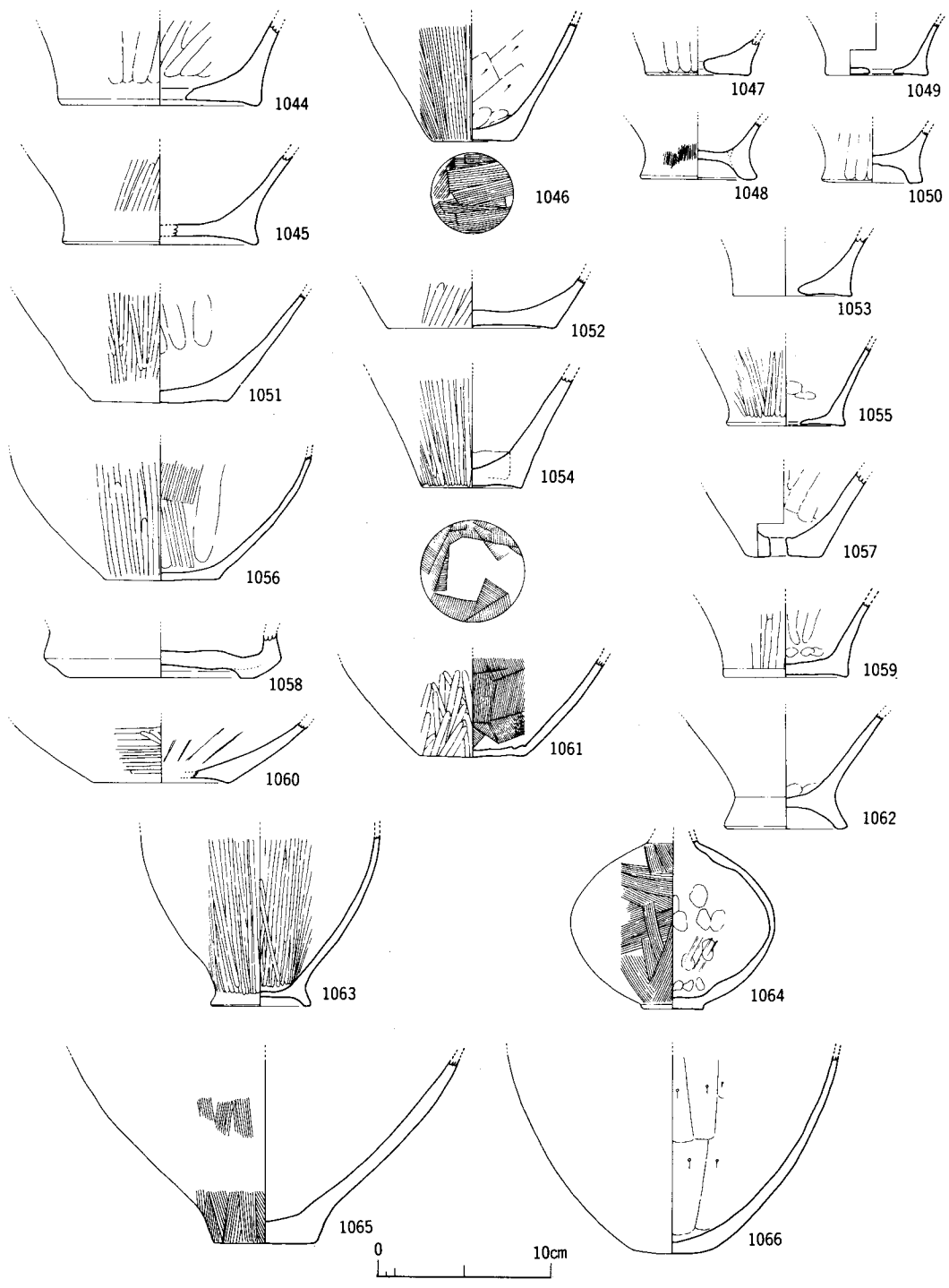
甕の底部については上げ底というよりもむしろ高台状を呈すると表現する方がよいと思われるもの（1048・1050・1062・1063）もある。それ以外に甕の底部には穿孔を持つ例が多い。そのうち5点だけ図化した。1057が焼成前に穿孔されたものである以外は、全て焼成後に穿孔されたものである。1057は正円形のきれいな円孔であるのに対して、他は円形状は呈しているものの破損のため形が歪んでいる。

1065・1066は器形・調整より弥生時代後期の土器であると思われる。

（蓋（中期・後期））

実測図番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
1011	包含層	B-6	II	1/4	27.2	—	側面外面 ヘラミガキ, 内面 磨滅のため調整不明 端部 凹線2条
1012	SD85101	A-6	II	完形	19.8	7.0	側面外面 ハケ目, 内面 ヘラミガキ 蓋口縁部内外面 ヨコナデ, 端部 凹線2条, 頂部 ナデ
1013	包含層	W-9	IV	1/8	21.2	—	蓋口縁部外面 凹線2条 磨滅のため調整不明
1014	包含層	W-9	II	1/4	20.8	(2.5)	蓋口縁部内面 ヨコナデ, 外面 凹線2条 頂部外面 ヘラミガキ, 内面 ナデ, 円孔
1015	SD85037	E-4	IV	1/8	19.3	—	蓋口縁部外面 凹線2条, 内面 磨滅のため調整不明 頂部外面 ヘラミガキ, 円孔
1016	包含層	X-8	IV	8/8	4.6	—	頂部 円孔2個 磨滅のため調整不明
1017	SP-15	C-5	I	3/4	4.4	—	磨滅のため調整不明
1018	SD85024	C-6	IV	3/4	3.0	—	磨滅のため調整不明
1019	包含層	X-8	III	1/2	15.5	—	端部 凹線2条 磨滅のため調整不明
1020	SD85036	D-4	IV	8/8	2.8	—	側面外面 ハケ目 磨滅のため調整不明
1021	SX85004	B-6	I	1/8	18.0	7.3	磨滅のため調整不明
1022	包含層	A-6	IV	1/8	17.0	5.4	磨滅のため調整不明, 円孔
1023	SD85102	X-9	IV	3/4	11.6	(9.0)	頂部 円孔2個 磨滅のため調整不明

第66表 土器観察表(54)



第156图 弥生土器 底部实测图

⑭脚・台・支脚・その他（弥生時代中期・後期）

器種が明確なものとそうでないものがある。1067～1078については、壺、甕、鉢、高杯の脚、台である。壺の脚と思われるものは1067である。おそらく壺Dの脚であろう。1071・1072・1074は甕の台である。1068・1070・1073・1076・1078は鉢の台であろう。そのうち1068の上部については、細身で細長い鉢になると思われる。1075・1077は高杯の脚である可能性が強い。

1079・1080・1083については上方に平坦面を造り出した土器である。1083ではそこにヘラミガキが認められる。外面の平坦面が丁寧に作られているのと比較して、内面は指頭圧痕が残るなど粗雑な仕上げである。全容については不明であるので土器の上下も定かではない。器種は不明とせざるをえない。1085も同様の造りであるが、平坦面と側面の形態がやや異なる。

1081・1082・1084・1086・1087は支脚である。器形・胎土より弥生時代後期のものである。

1088～1091は全容が不明であるために、上下も定かでない土器である。1088・1090・1091は1083などと類似した器形をもつ。1088・1091は図の下方においた面が彎曲するという点で違いがある。下方面の外面はヨコナデ・ナデを、側面外面にはヘラミガキを施し丁寧に仕上げている。器壁内面にも丁寧にナデを施しているという点でも1083などとは異なる。1089は、器形で違いが明確である。器壁内外面ともヘラミガキ、ナデなどで丁寧に仕上げているという点では共通している。1068のような鉢状を呈する底部が下方へ下がったものとも考えられるが断定はできない。

⑮祭祀遺物（弥生時代中期・後期）

矢ノ塚遺跡で出土した祭祀遺物は、分銅形土製品4点、ミニチュア土器9点、銅剣形土製品1点、鳥形土製品1点である。

分銅形土製品の表面の文様は、貝殻による押圧文、櫛描直線文がある。1095は磨滅が著しいために断定できないが、表面中心部に刻目文が施されているものと思われる。1092以外は裏面から側面に貫通する円孔が穿たれている。1093は破片のため推定径になるが15cmをはるかに越える大型のものである。

ミニチュア土器には比較的丁寧に作られているもの（1100・1101）と粗雑なものがある。1100の器壁外面には縦方向のヘラミガキが認められる。1101は全面にわたり丁寧にナデ調整を施している。それ以外のものは器壁外面に指頭圧痕が残るなど粗雑な仕上げである。また左右対称でないものも多い。1100・1101はS D85101から出土したもので、1092・1106も合わせてほぼ同一地点から出土した。

1105は銅剣形土製品と思われる。中央で折れて先端部の一部を欠損しているもののほぼ完形に復原できる。現存長13.3cm、幅2.7cm、厚さ1.7cmを計る。鋒・茎・関などを表現し、関の位置には2孔が穿たれている。中央部を山形に造り側面の両面を指で押さえ細く造り出している。樋の表現が認められないことより、鉄剣を模した土製品の可能性もある。

1106は完形の鳥形土製品である。長さ4.6cm、高さ3.4cmを計る。おそらく水鳥を模したものと

思われる。表面は指ナデによる調整が施され、丁寧に作られている。嘴・頭・首・胴の区別が明瞭で顔にあたる部分には目も表現されている。

⑩弥生土器（その他）

1107・1108・1110は1085と同様の形態をもつが、器壁の厚さ、大きさなどで差が認められる。おそらく大型の土器の底部になると思われる。器壁外面には荒い縦方向のヘラミガキ、ハケ目が施されている。内面にはヘラ削り、ナデが認められる。

1109・1111は大型器台の可能性を持つ土器である。いずれも口縁端部を上下に強く拡張させ8条の凹線文を施している。口縁部内外面にはヨコナデが施されている。

1112・1113は鉢状を呈する土器である。ともに器壁外面は荒いハケ目が遺存する。内面はナデにより仕上げられている。歴史時代の土師器である可能性もある。

1114は口縁部が水平方向に開く、壺の可能性をもつ土器である。口縁端部を上方に拡張させ2条の凹線文を施している。口縁部外面は縦方向、内面は横方向のヘラミガキが施されている。器壁の厚さなどより蓋である可能性も考えられる。

1115は口縁端部に凹線状の凹みが認められる土器である。磨滅のため調整は不明である。口縁部の屈曲部分にはわずかに指頭圧痕が認められる。器形は中世の土鍋状を呈するが、胎土は弥生土器のⅢである。弥生土器であるとしたら器種は不明とせざるをえない。

1116は器形・胎土ともに他の弥生土器と著しく異なる。底部の一部を欠損するもののほぼ完形である。口径10.2cm、器高17.4cmを計る。色調は黒灰色を呈し胎土は1mm以下の砂粒を多く含み粗い。口縁部内面にナデが施されている以外は磨滅のため調整は不明とせざるをえない。底部外面はヘラミガキを施したように器壁は細くなっている。朝鮮系無文土器の可能性も考えられる。

1117は細身の鉢部をもつ台付鉢であろう。体部は内彎して立ち上がり口縁部先端はわずかに内側に傾いている。

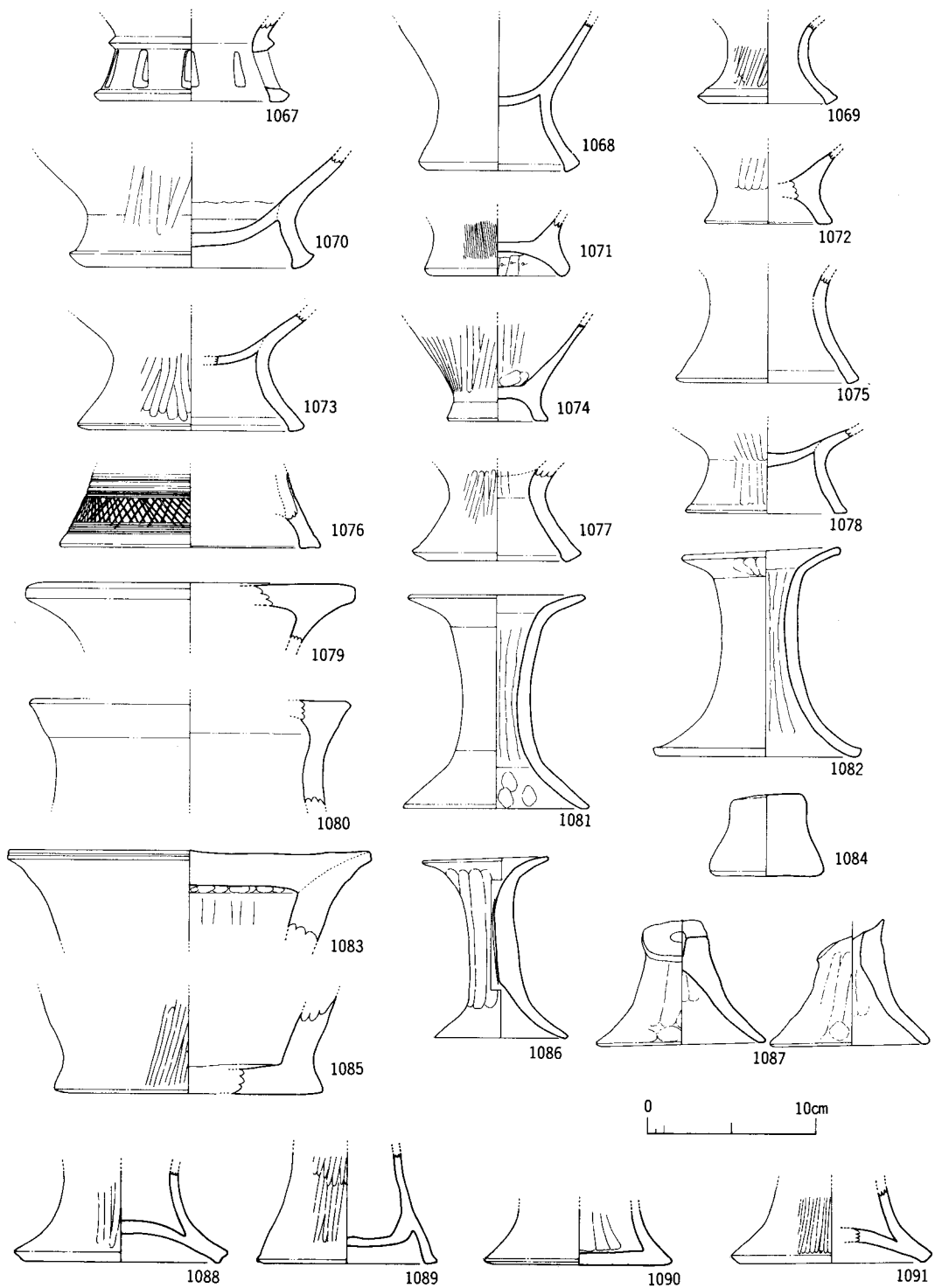
1118は粗雑な作りの鉢であろう。底部に焼成前の穿孔が認められる点で他の鉢と異なる。体部外面および内面上半にはハケ目が施され、体部内面のハケ目以下にはヘラ削りが認められる。胎土・器形より後期の土器である。

1119壺形のミニチュア土器の形状を呈する土製品である。全面にわたり指頭圧痕が遺存する。用途については不明とせざるをえない。

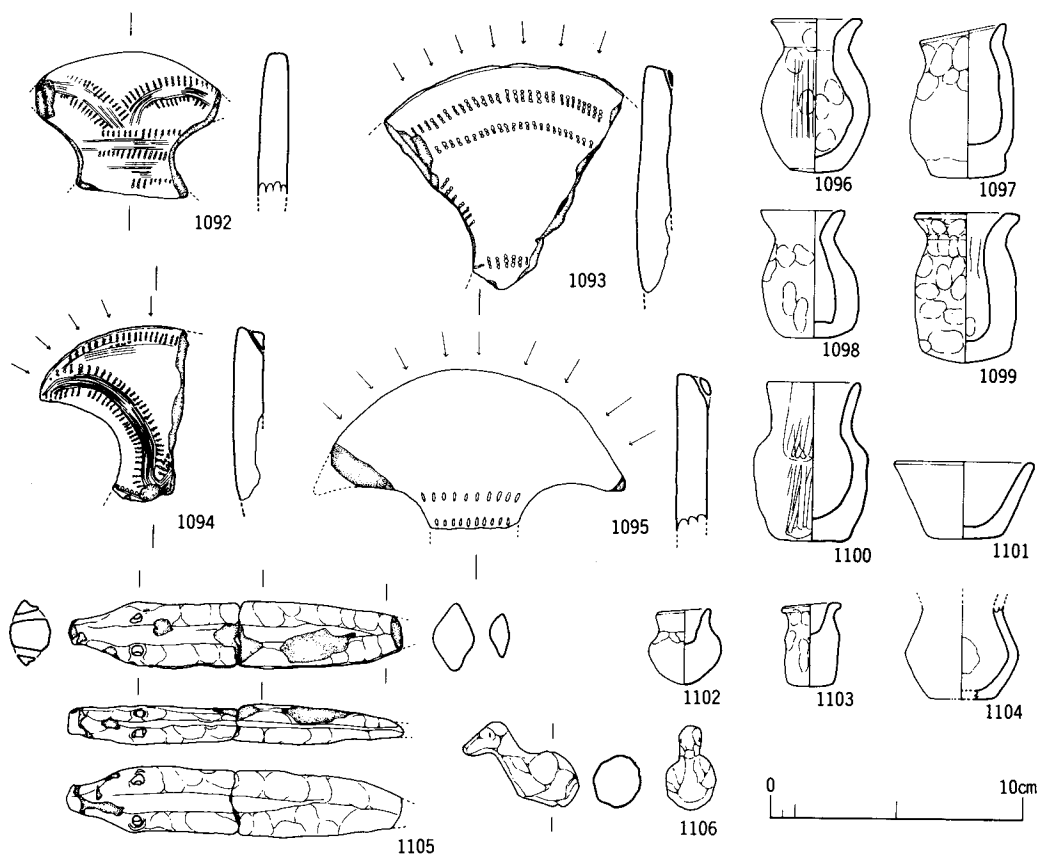
1120は中心部に円形状の穿孔のある土製品である。用途は不明である。

1121～1123は紡錘車あるいは、紡錘車の未製品と思われるものである。1122は部分的に欠損しているものの中央に貫通した円孔が認められることより紡錘車といえる。1121は両面に浅い凹みが、1123は一面に浅い凹みが認められる。1123は面がやや彎曲しているため紡錘車の未製品でない可能性もある。1121は紡錘車の未製品の可能性が強い。

1124は把手である。磨滅のため調整は不明であるがナデにより仕上げられているものと思われる。

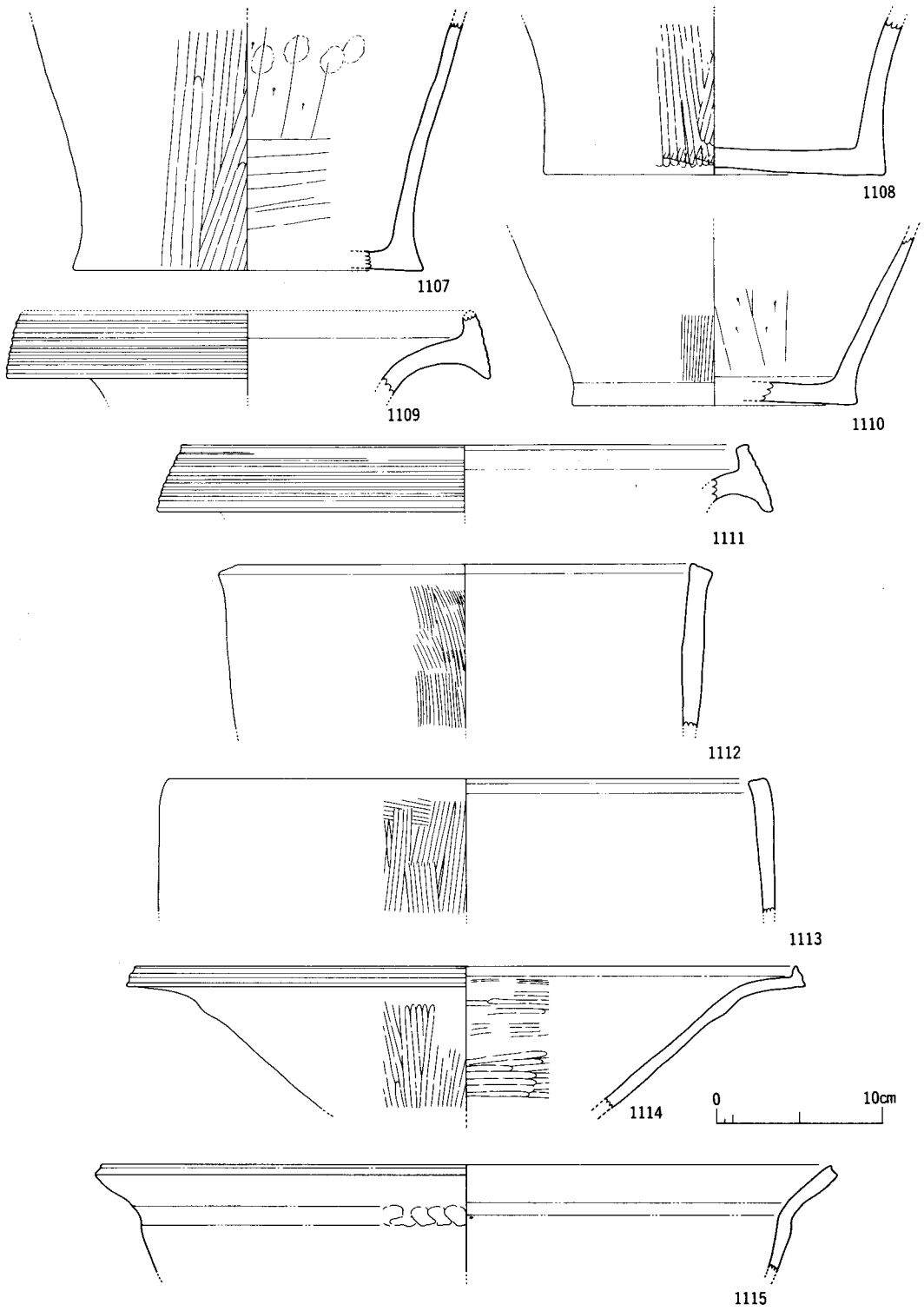


第157图 弥生土器 脚·台·支脚实测图

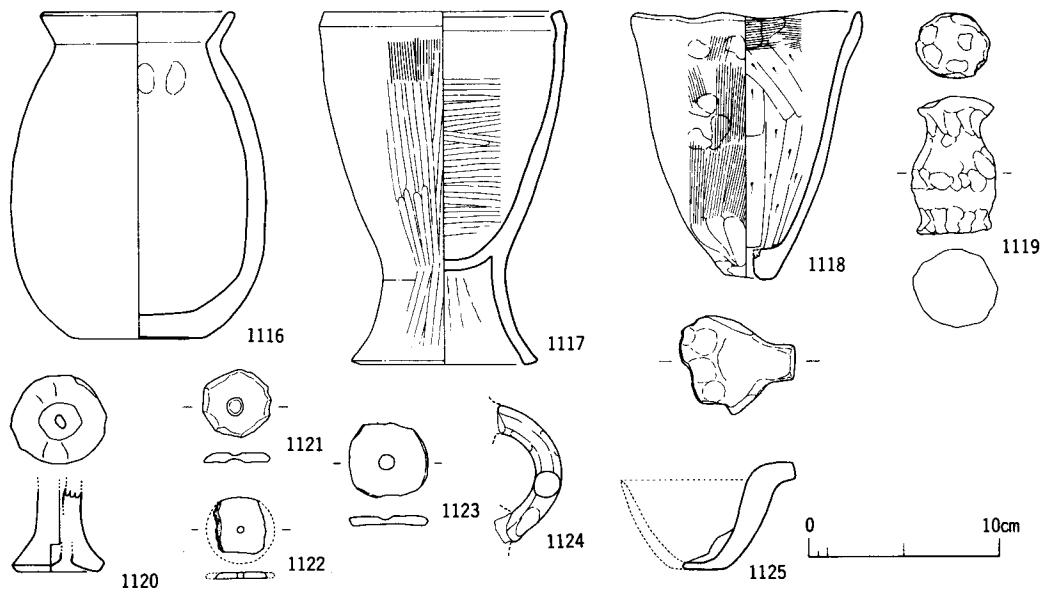


第158図 弥生土器 祭祀遺物実測図

1125はひしゃく状を呈する土器である。柄の部分は短く先端に杯状を呈する器がついていたもので、その部分が欠損したものと思われる。



第159図 弥生土器 その他実測図



第160図 弥生土器 その他実測図

(体部 (中期・後期))

実測 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
1024	S D85101	X-8	II	1/4	-	-	体部外面 ハケ目, 櫛描直線文, 波状文
1025	包含層	-	I	8/8	5.3	-	体部外面下半 ヘラミガキ, 体部内面上半 ヘラ削り
1026	S D85036	D-4	II	8/8	6.0	-	体部外面上半 8条/cmのハケ目, 円形浮文 体部外面 円形浮文
1027	包含層	W-9	III	3/4	6.1	-	体部外面下半 ヘラミガキ, 内面下半 8条/cmのハケ目
1028	包含層	W-9	I	8/8	-	-	体部外面上半 9条/cmのハケ目, 下半 ヘラミガキ, 体部内面 18条/cmのハケ目 体部外面 櫛描直線文, 波状文, 斜格子文
1029	S D85036	D-4	II	1/8	-	-	体部内面 12条/cmのハケ目, 外面 木の葉の文様
1030	包含層	V-9	IV	1/2	-	-	磨滅のため調整不明 頸部外面 貼り付け凸帯
1031	包含層	V-10	I	1/4	5.6	-	体部外面上半 8条/cmのハケ, 下半 ヘラミガキ 体部内面 ナデ
1032	包含層	V-10	II	8/8	-	-	体部外面上半 8条/cmのハケ目, 中央 刺突文, 下半 ヘラミガキ 体部内面上半 板ナデ, 下半 10条/cmのハケ目
1033	S D85018	Z-6・7	II	1/8	8.8	11.7	体部外面上半 ハケ目, 下半 ヘラミガキ
1034	包含層	W-9	I	1/2	9.0	-	体部外面上半 5条/cmのハケ目, 下半 ヘラミガキ, 頸部外面 刻目凸帯文, 列点文, 体部内面上半 ナデ, 下半 7条/1.7cmのハケ目, 体部外面 櫛描直線文, 斜格子文, 波状文, 列点文
1035	S D85036	D-4	II	1/8	-	-	磨滅のため調整不明, 頸部外面 貼り付け凸帯, 円孔
1036	S X85005	E-4	II	1/2	-	-	体部内外面 ハケ目, 頸部外面 ヨコナデ, 内面 ナデ 頸部外面 貼り付け凸帯
1037	S D85010	A-6	II	1/2	-	-	体部外面上半 ハケ目, 下半 ヘラミガキ 頸部外面 貼り付け凸帯, 円孔2個
1038	包含層	W-9	IV	3/4	7.8	-	体部外面上半 7条/cmのハケ目, 内面 磨滅のため調整不明 体部中央 列点文
1039	S D85036	D-4	II	8/8	4.5	-	体部外面下半 ハケ目, 内面 ヘラ削り
1040	S D85036	D-5	I	3/4	7.0	-	体部外面下半 ヘラミガキ, 内面下半 ハケ目 体部外面中央 ハケ原体の押圧文
1041	S D85036	D-4	II	3/4	8.4	-	体部外面上半 9~10条/cmのハケ目, ヘラミガキ, 刻目文 体部外面下半 ヘラミガキ, 内面 磨滅のため調整不明
1042	包含層	U-9	I	1/2	6.8	-	体部外面 8条/1.6cmのハケ目, 内面 8条/1.6cmのハケ目
1043	包含層	-	III	-	-	-	頸部から体部外面上半 ハケ目 頸部 刻目凸帯文

第67表 土器観察表(55)

(底部 (中期・後期))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
1044	包含層	-	II	8/8	11.4	-	穿孔 (焼成後), 磨滅のため調整不明
1045	S X 85002	A-6	I	8/8	11.4	-	底部内外面 ナデ, 底部より1.2cmにヨコナデ
1046	S D 85036	D-4	II	8/8	4.6	-	底部内面・外面 9条/cmのハケ目
1047	S X 85004	B-6	IV	3/4	6.0	-	磨滅のため調整不明, 穿孔 (焼成後)
1048	S D 85037	E-4	IV	1/2	6.9	-	底部内外面 ナデ
1049	S D 85031	B・C-5・6	IV	3/4	5.8	-	磨滅のため調整不明, 穿孔 (焼成後)
1050	包含層	V-9	I	8/8	5.8	-	底部外面 ヨコナデ, 内面 ナデ
1051	S K 85104	X-8 (N)	II	8/8	7.8	-	底部外面 ナデ, 側面 ナデ
1052	包含層	-	II	8/8	9.6	-	底部外面 ナデ, 内面 ハケ目
1053	S D 85025	C-6	I	8/8	7.6	-	磨滅のため調整不明, 穿孔 (焼成後)
1054	包含層	W-9	I	3/4	5.8	-	底部内外面 ナデ
1055	S D 85031	B・C-5・6	IV	1/2	6.8	-	磨滅のため調整不明, 穿孔 (焼成後)
1056	包含層	-	IV	8/8	6.6	-	底部内面 ハケ目, 外面 ナデ
1057	S D 85037	E-4	I	3/4	4.4	-	磨滅のため調整不明, 穿孔 (焼成後)
1058	S D 85102	X-8 (S)	IV	1/4	14.0	-	磨滅のため調整不明, 底部内面 ハケ原体の圧痕
1059	S D 85036	D-4	II	8/8	7.0	-	底部内外面 ナデ, 穿孔 (焼成後)
1060	S D 85124	V-9	II	1/4	7.8	-	底部内外面 ナデ, 外面 ハケ原体の圧痕
1061	S B 85014	A・B-5・6	II	8/8	6.0	-	底部内外面 ナデ, 内面 ハケ原体の圧痕
1062	包含層	-	I	8/8	7.0	-	底部内外面 ナデ, 底部側面 ナデ
1063	包含層	U-9	II	3/4	5.8	-	底部内外面 ナデ, 底部側面 ナデ

第68表 土器観察表(56)

(底部, 脚, 台, 支脚 (中期・後期))

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
1064	S D85036	D-4	II	8/8	3.5	-	底部内面 ヘラ削り, 外面 ハケ目, 高台状
1065	S D85035	C・D-5	II	8/8	5.8	-	磨滅のため調整不明
1066	S D85018	Z-6・7	III	8/8	4.4	-	底部内面 ヘラ削り, 外面 ナデ
1067	包含層	X-8	I	1/8	11.6	-	磨滅のため調整不明 脚部外面 貼り付け凸帯, 三角形透孔
1068	包含層	-	I	8/8	9.6	-	脚部内面 ナデ 磨滅のため調整不明
1069	S X85004	B-6	II	1/8	8.3	-	脚部外面 ヘラミガキ, 内面 ナデ
1070	包含層	W-9	IV	3/4	14.4	-	器壁外面 ヘラミガキ, 脚部内面 ナデ
1071	S D85028	C-6	II	8/8	8.6	-	脚部内面 ヘラ削り, 外面 ナデ
1072	S D85016	B-5	IV	1/4	7.6	-	脚部内外面 ナデ
1073	S D85102	X-9	IV	1/2	13.4	-	脚部内面 ナデ, 外面 ヘラミガキ
1074	包含層	W-9	I	3/4	5.9	-	脚部内外面 ナデ
1075	S X85004	B-6	I	1/2	10.8	-	脚部内面下半 ヨコナデ 磨滅のため調整不明
1076	S D85102	X-9	I	1/8	15.4	-	脚部下半内外面 ヨコナデ 脚部外面 櫛描直線文, 斜格子文
1077	S D85101	W-8	I	1/4	10.0	-	脚部外面 ヘラミガキ, 内面 ナデ
1078	S D85101	X-8	I	3/4	9.6	-	脚部外面 ヘラミガキ, 内面 ヨコナデ
1079	包含層	W-8	I	1/8	19.4	-	磨滅のため調整不明
1080	S D85036	D-5	I	1/8	19.0	-	磨滅のため調整不明
1081	S D85036	D-4	III	ほぼ 完形	上10.6 下11.0	12.9	磨滅のため調整不明
1082	S D85036	D-4	III	ほぼ 完形	上9.5 下12.4	12.5	磨滅のため調整不明
1083	S D85127	V-9	I	1/4	21.4	-	器壁外面 ヘラミガキ, 内面 指ナデ

第69表 土器観察表(57)

(脚, 台, 支脚 (中期・後期), 祭祀遺物)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
1084	包含層	C-6	IV	-	-	-	磨滅のため調整不明
1085	包含層	-	I	1/4	15.8	-	外側面 ヘラミガキ 磨滅のため調整不明
1086	包含層	-	II	1/2	上 7.5 下 7.9	10.9	磨滅のため調整不明
1087	S D85018	Z-6・7	I	8/8	10.1	7.5	磨滅のため調整不明
1088	包含層	V-10	I	8/8	12.6	-	外側面 ヘラミガキ 底部内外面 ナデ
1089	包含層	W-9	I	8/8	10.7	-	外側面 ヘラミガキ 底部内面, 外側面下半 ヨコナデ, 底部内面 ナデ
1090	S D85101	X-8	I	1/4	11.2	-	磨滅のため調整不明
1091	S D85101	W-8(N)	I	3/4	12.0	-	外側面 ヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ
1092	S D85101	X-8(S)	I	1/2	-	-	分銅形土製品 一面に櫛描直線文, 貝殻による押圧文
1093	S D85037	E-4	IV	1/4	-	-	分銅形土製品 一面に列点文, 一面に穿孔
1094	S D85101	X-8	II	1/4	-	-	分銅形土製品 一面に櫛描直線文, 貝殻による押圧文, 一面に穿孔
1095	包含層	-	IV	1/2	-	-	分銅形土製品 磨滅のため文様不明瞭, 一面中央に刻目文, 一面に穿孔
1096	S D85037	E-4	IV	ほぼ 完形	3.6	6.2	ミニチュア土器 口縁部外面 ヨコナデ, 体部外面 ハケ目
1097	S D85032	C-5	IV	ほぼ 完形	3.6	6.2	ミニチュア土器 口縁部に指頭圧痕, 磨滅のため調整不明
1098	包含層	-	IV	ほぼ 完形	3.3	5.1	ミニチュア土器 口縁部に指頭圧痕, 磨滅のため調整不明
1099	包含層	-	II	ほぼ 完形	4.2	6.0	ミニチュア土器 器壁外面全体に指頭圧痕
1100	S D85101	X-8(S)	I	完形	3.8	6.4	ミニチュア土器 器壁外面 ヘラミガキ
1101	S D85101	X-8(S)	I	完形	5.6	3.0	ミニチュア土器 器壁内外面 ナデ
1102	S D85036	D-5	IV	ほぼ 完形	2.15	3.1	ミニチュア土器 器壁内外面 ナデ
1103	包含層	V-9	II	ほぼ 完形	2.6	3.3	ミニチュア土器 器壁内外面 ナデ

第70表 土器観察表(58)

(祭祀遺物、器種不明土器 (中期・後期))

実測図番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
1104	S D85101	X-8	I	1/4	-	-	ミニチュア土器 器壁外面 ナデ
1105	S D85037	E-4	I	ほぼ 完形	-	-	銅剣形土製品, 全面に指頭圧痕 全面に指頭圧痕
1106	S D85101	X-8(S)	I	完形	-	-	鳥形土製品 全面にナデ
1107	S X85004	B-6	I	1/4	21.0	-	外側面 ヘラミガキ, 内側面 ヘラ削り, ナデ 底部外面 ナデ, 器種不明
1108	包含層	-	III	8/8	20.6	-	底部外面, 外側面 ヘラミガキ 器壁内面 磨滅のため調整不明, 器種不明
1109	包含層	-	III	1/8	(29.0)	-	磨滅のため調整不明, 端部凹線 (条数不明) 器種不明
1110	S D85036	D-5	I	1/4	17.0	-	外側面 3条/cmのハケ目, 内側面 磨滅のため調整不明 底部外面 ヘラミガキ, 器種不明
1111	包含層	-	IV	1/8	(37.0)	-	口縁部内面 ヨコナデ, 外面 ハケ目 端部 凹線8条, 器種不明
1112	包含層	-	II	1/8	(29.8)	-	器壁外面 ハケ目, 内面 ナデ, 土師器か
1113	包含層	-	IV	1/8	(36.0)	-	器壁外面 ハケ目, 内面 ナデ, 土師器か
1114	S D85036	D-5	II	1/8	40.8	-	器壁内面 ヘラミガキ, 外側面 ヘラミガキ 口縁部外面 ヨコナデ, 口縁端部 凹線2条
1115	S D85014	A-6	III	1/8	(44.8)	-	磨滅のため調整不明
1116	S P	X-8	IV	ほぼ 完形	10.2	17.4	口縁部内外面 ナデ, 体部内外面 磨滅のため調整不明 底部外面 ヘラミガキか, 朝鮮系無文土器か
1117	包含層	U-9	I	1/8	13.0	18.6	口縁部内外面 ナデ, 体部内外面 ヘラミガキ 脚部外面 ヘラミガキ, 内面 ナデ, 台付鉢か
1118	S D85036	D-4	II	8/8 (ほぼ完形)	12.0	約14.0	体部外面 6~7条/cmのハケ目, 内面上半 7条/cmのハケ目, 下半 ヘラ削り, 底部穿孔 (焼成前)
1119	S D85036	D-5	IV	完形	-	-	全面に指頭圧痕 器種不明
1120	S D85104	X-9	I	-	-	-	磨滅のため調整不明 中央部に穿孔, 器種不明
1121	包含層	W-8	IV	-	-	-	中央部両面に凹み, 紡錘車の未製品か
1122	包含層	X-8	I	-	-	-	中央部穿孔, 紡錘車か
1123	包含層	W-9	I	-	-	-	中央部一面に凹み, 紡錘車の未製品か

第71表 土器観察表(59)

(器種不明土器 (中期・後期))

実測 番号	遺構番号	グリッド	胎土	残存度	口径	器高	備考
1124	S D85036	D-4	IV	-	-	-	磨滅のため調整不明 把手
1125	S D85101	X-8(S)	IV	-	-	-	器壁全面 ナデ 器種不明

第72表 土器観察表(60)

(2) 石器

矢ノ塚遺跡の調査によって、石器とその破片が1,003点出土した。出土した石器は弥生時代のものを中心とするが、旧石器時代・縄文時代のものを含み、時代・用途の明らかでないものもある。弥生時代の遺構及び包含層から出土した石器は278点を数えるが、その中にも旧石器時代のもの（1・3～5・7）、縄文時代のもの（10・14）、縄文時代を中心として一部弥生時代に下る打製石斧（15・17・21）などが含まれる。ここでは弥生時代の遺構及び包含層から出土した石器を中心に報告する。

a 旧石器（第161図1～第162図8）

1～3は横長剥片を素材としたナイフ形石器である。2はほぼ完形であるが、1・3は基部を欠失する。いずれも主要剥離面の打面部に腹面から調整を加える。2は基部付近の刃部にも腹面からの調整を持つ。1はきわめて狭い背面と、2面からなる腹面を持ち、2の背面は3面の剥離面から、3の底面は2面の剥離面からなる。

4は翼状剥片の打面部に、主要剥離面からの大きな調整を持つ。ナイフ形石器の未製品か。5は山形の打面と、背面に大きなネガティブな剥離面を持つが、底面は複数の剥離面からなり、横長剥片とすることができる。打面部上端には、主要剥離面からの小さな調整を持つが、これが意図的なものであれば、ナイフ形石器の未製品となろう。

6・7は横長剥片である。6は背面からの打面調整を持つが、7には認められない。6の背面下部にはネガティブな剥離面を持つが、これの加撃点と加撃方向は主要剥離面のそれと大きく異なっている。

8は断面が三角形をした縦長剥片で、下端部を欠失する。風化のため、縁辺部に鋭利さはみられない。背面の片側は石核の側面からなり、他の片側は縦長剥片を剥離したネガティブな剥離面からなる。

b 縄文時代の石器（第162図9～14）

9は有舌尖頭器の頭部で、両面とも丁寧な押圧剥離が施されている。

10～12は縦型の石匙である。10は両側縁に丁寧な調整を施すが、12は一方の側縁にのみ調整を施し、11は一方を丁寧に、一方を粗く調整する。

13・14は横型の石匙である。両者とも横長剥片の末端部を刃部とし、13は両面から、14は片面（主要剥離面）から加えられた調整を持つ。

c 打製石斧（第163図15～第164図21）

短冊状を呈し、完形品はないが、大きいもので長さ約14.5cm・幅約8cm、小さいもので幅約4.5cmを計る。15・17・19・20は両側縁のやや上部に浅い抉りを持つ。16は刃部にわずかな磨滅が認められる。17・20は扁平な自然石を用いる。17は讃岐岩質安山岩、他はサヌカイトである。

d 弥生時代の遺構・包含層出土石器

石器を出土した弥生時代の遺構を、出土土器からみると、弥生時代中期前半（S D85018）、中期中葉（S B85103）、中期後半（S D85025・S D85031・S D85037・S D85123・S B85104・S X85005）に分けることができる。さらに、包含層の「谷筋」・「暗灰褐色土」、及びS D85101からは中期前半～後半の土器を、S D85102・S D85036は中期後半～後期前半の土器を出土するほか、S B85101も弥生時代の掘立柱建物跡と考えられる。以下、弥生時代の遺構・包含層から出土した弥生時代の石器について、相伴土器の古い順に述べる。

弥生時代中期前半（S D85018、第167図42～44） 石器を出土した遺構・包含層の中で、最も時期が遡るのは中期前半と考えられるS D85018で、楔状石器(42)、打製石庖丁(43)、扁平片刃石斧(44)が1点ずつ出土している。

打製石庖丁(43)は、直線状の刃部とやや外湾する背部を持つ。長方形を呈するが、一方の幅が狭くなるなど、やや不定形なものである。扁平片刃石斧(44)の刃部は鈍くなり、敲打痕が認められる。

中期中葉（S B85103、第205図376・377） 中期中葉と考えられる石器は2点出土している。376は両面を丁寧に調整し、断面を凸レンズ状にしたもので、石槍の破片と思われる。377は下縁に細かな調整又は刃こぼれをもち、下縁を刃部とするスクレイパーあるいは刃器である。

中期後半（S D85025・S D85031・S D85037・S D85123・S B85104・S X85005、第169図58・第170図64～66・第176図100～第177図114・第203図350～353・第206図378～第207図382・第213図423～426） 中期後半の石器には、石鏃・石庖丁・スクレイパー・楔状石器・太型蛤刃石斧・砥石・凹み石・石皿・その他が出土している。

石鏃は10点出土し、凹基式5点（100～103・350）、平基式1点（104）、凸基式2点（105・423）、有茎式2点（424・425）が認められる。また、凹基式石鏃には凹部が浅いもの（102・103）と、深いもの（100・101・350）がある。重さは1.2g（425）～2.9（104・350）で、特に重いものはないが、350（凹基式）は長さ36.2mm、幅26.05mmを計る大型品である。

64・378・379は打製石庖丁の破片で、抉りの部分を残す。353は一方の側端部を欠失する打製石庖丁で、43と同じく、背部がやや外湾し、一方の幅が狭くなる。刃部は片面調整で、調整のない面には使用による磨滅が認められる。

スクレイパーは5点（58・107・108・352・380）出土している。380は両面調整した縁辺を刃部とするが、他の4点はネガティブな剝離面の縁辺に片面調整を施して刃部とする。刃部は58が外湾し、107・108・380は直線状となる。

106は楔状石器で、やや幅広い平行四辺形状を呈し、両側面を截断している。

113大型蛤刃石斧であるが、頭部と刃部に敲打痕が認められるので、叩き石として再利用したものであることがわかる。

66・382は磨石である。66の両面と382の片面は、中央部を敲打し、その周囲を磨くが、382の片面には敲打が施されていない。

112は砥石の破片で、上下両面と側面の一部が磨かれている。

114は石皿で、片面が磨かれ、わずかに凹んでいる。381の一部も磨かれているようであり、石皿の可能性はある。

65・109～111・351・426は側縁に調整をもつ石器の破片である。

中期前半～後半（S D85101・谷筋・暗灰褐色土、第178図118～第186図203・第228図566～第244図704）

S D85101・谷筋・暗灰褐色土とも中期前半～後半の土器を出土しているが、S D85101の出土土器は中期中葉以前のものである。また、谷筋と称した包含層は、暗灰褐色土が落込み、削平を受けていない部分であり、両包含層は共に中期中葉の土器を多く出土している。

石鏃は49点を出土し、形態の内訳は、凹基式28点（57%）、平基式11点（23%）、凸基式3点（6%）、不明7点（14%）である。有茎式石鏃は出土しなかった。凹基式石鏃には、126・573のように凹部の非常に浅いものが9点、やや深いもの・深いものが19点あり、凸基式石鏃にも基部の突出の小さなものが1点（133）、大きいものが2点（585・586）ある。完形及びほぼ完形の石鏃22点（119～121・123・125・126・129・131・133・567・569・572・573・576・578・580・582・585・586・666・670・671）の重さをみれば、2.4g以下が16点（72.2%）、3.5g～10.1gのものが6点（27.3%）である。3.5g以上の重さの石鏃は、点数も少なく、分布も散漫であり、特に集中する傾向は認められない。

587は打製石槍の先端部であるが、画面ともに各1面の摩滅した面をもつことが注目される。

137と673は石錐である。673は錐先部を欠失する。いずれも扁平な剝片を加工して細長い錐先部を作り出している。

片方または両方の側縁部を上あるいは下から截断しているものを楔状石器とした。139～144・589～593・674～676の14点があり、いずれも上縁と下縁に階段状剝離の多い調整をもつ。形のわかる13点のうち、方柱状を呈するものが4点（139・589～591）、長方形を呈するものが6点（142・144・592・593・675・676）、一方がやや幅広くなり、三角形状を呈するものが3点（140・141・674）ある。このうち、両側縁に截断面をもつものは、139・142・590・592の4点で、方柱状のもの、長方形のものが各2点である。

石庖丁は28点出土した。形態から大きく三つに分類することができ、基本的にはⅠ類からⅢ類へと変化したものと思われる。第Ⅰ類は背部又は刃部あるいは両方とも外湾し、半月形ないしは紡錘形を呈するものである。これは、刃部・背部とも外湾するが、刃部の外湾が大きいⅠ-A類（153・603・617）、逆に背部が外湾し、刃部が直線状ないしやや外湾するⅠ-B類（151・184・594・680）に区分することができる。145・146は刃部の形状が不明であるが、第Ⅰ類に属することは明らかである。

第II類は、背部・刃部とも直線状のものである。これは両端部が丸くて小判形のII-A類(598)、両端部が角張り、長方形を呈するII-B類(147・152・599・648・678)、抉りの上部又は下部の一方が突出するII-C類(600)に区分することができる。148・601もII類に含まれるものである。

第III類は、背部・刃部の両方又は一方がわずかに内湾するもので、149・602・677がこれにあたる。

I類～III類の割合をみると、I類は9点(47%)、II類は7点(37%)、III類は3点(16%)となる。I類が約半数を占めて最も多く、III類は約6分の1で最も少ない。

石庖丁の調整をみると、背部は両面調整を施したのち敲打したものが多く、I類の刃部は片面がより丁寧な両面加工を主体とし、II類の刃部は両面加工と、片面がより丁寧な両面加工の両者が同程度みられ、III類はすべて両面加工である。I類からII類、さらにIII類の順に刃部の両面加工の割合が多くなるのは、石庖丁の使用によって刃部に損傷をこうむった結果、刃部を再生するための調整加工を多く施したためであろう。

24点をスクレイパーとしたが、このほかに刃部状の調整をもつ器種不明の破片が多数出土しており、この多くもスクレイパーになるものと思われる。スクレイパーにはさまざまな形態があるが、157・163・164などは石庖丁と同じく、背部に調整をしたのち敲打し、刃潰し加工としている。163は紡錘形を呈し、刃部に摩滅が認められるので、抉りはないものの、石庖丁と同じ目的で使用されたと考えられる。157・159は、163に類似した形態をもつ小型品である。さらに、162・164は横長の刃部をもつ大型のスクレイパーで、163と同じ使用目的をもつものであろう。164は一方の側端部が基部状になる。610は内湾した刃部をもち、背部を敲打している。

604と690は剥片剥離によって形成された鋭いエッジを刃部として用いた刃器である。604は片面に、690は両面に顕著な刃こぼれが認められる。

磨製石斧は6点出土した。いずれも破片である。659は太型蛤刃石斧の頭部であるが、敲打痕があることから叩き石として利用していることがわかる。660は片面の一部を残しており、刃部は外湾し、片刃に仕上げられている。198・199・698は柱状片刃石斧の破片と思われる小片である。

201は孔をもつ扁平な棒状の石製品である。舌のようにもみえるが、孔には紐等でつり下げたことを示す磨滅もなく、用途はあきらかでない。両側縁は、断面が丸くなるが、磨きは認められない。孔は中央部からやや離れた位置に両面から開けられている。石製品の両端とも欠損しているようであるが、両端とも欠損後の磨滅がわずかに認められる。用材は軟質の結晶片岩で、両面には長軸と直交したノミ先状の加工痕が残り、一部に磨きも認められる。

202は叩き石である。下端に敲打痕をもち、細長い砂岩の尖った方を使用している。左図の上部には2ヶ所の磨かれた部分をもつので、磨石としても使用されたことがわかる。701は方柱状の砂岩を利用したもので、下端に敲打痕がわずかに認められることから、これも叩き石と思われる。

203は磨かれた2面をもつ石器で、分厚い角柱状を呈することから、砥石としておく。

661は円礫を用いた磨石で、片面の中央部を磨いている。699も片面をわずかに磨いているようであ

り、磨石と考えておきたい。

662は円礫を用いた石錘である。両側縁に打欠きの後磨いたと思われる抉りをもつ。片面の抉りは両側から溝状になってのびるが、つながらない。

663・664・702～704の5点は砂岩を用いた石皿である。663・703は片面に、664・702・704は両面に磨かれた面をもつ。663・664・702～704は磨かれた面が平面ないしわずかな凹面をなすが665はわずかな凸面をなす。

700は扁平な河原石の両面にわずかな敲打痕が認められる。

中期後半～後期前半（S D85036・S D85102, 第171図69～第175図99・第186図204～第193図279）

S D85036の埋土は上層の黒色粘質土と下層の暗灰褐色粘質土に分類され、上層から弥生時代中期後半～後期前半の土器が多量に出土し、下層から中期後半の土器が少量出土した。S D85102の埋土は基本的には黒色粘質土の単一土層で、中期後半～後期前半の土器が多く出土している。

ここでは両溝出土の石器をまとめて紹介する。

石鏃はS D85102から21点出土した。形態の内訳は、凹基式8点（38%）、凸基式6点（29%）、有茎式2点（9%）、不明5点（24%）である。凹基式のうち、204は小型幅広で、204・209～211の4点は凹部が非常に浅い。また、6点の凸基式のうち、212～216の5点も基部の突出が非常に小さく、平基式に近い。完形及びほぼ完形の8点（206～208・218・211・213・214・217）をみると、重さは0.8g～2.4gまでの範囲に7点が比較的集中し、有茎式の217のみが6.3gと特に重く作られている。幅は1.7cm～2.1cmまでにおさまるが、長さは2.1cm～3.6cmまでが7点、217のみは5.7cmをこえる。前述したS D85101・谷筋・暗灰褐色土出土の中期前半～後半の石鏃と比較すると、重さ2.4g以下のものが大部分を占めることは共通するものの、S D85101・谷筋・暗灰褐色土出土の石鏃は、長さが2cm～3.5cm、幅が1cm～2.5cmの範囲に集中し、幅の変化がやや大きいことがわかる。

ともあれ、以上のことからきわめて大胆な推定を下すならば、矢ノ塚遺跡の中期後半頃の石鏃は、長さ2cm～3.5cm、幅1cm～2.5cm、重さ2.4g以下のものが大部分を占め、これに長さ・幅・重さともに超える大型品を含む構成であったと考えることができよう。

楔状石器は7点出土し、方柱状のものが3点（70・225・226）、方形又は縦長の長方形のものが2点（228・229）、横長の長方形のものが1点（231）ある。このうち、截断面を両側に持つものは、方柱状のもの2点、横長の長方形のもの1点である。71・230の下縁には敲打も認められる。231は楔状石器の素材の可能性もある。

90は粘板岩製の磨製石庖丁である。小型品であるが、幅広で、幅が長さの約半分もある。背部は強く外湾し、背部寄りに両側から穿たれた2孔をもつ。刃部は直線状で、片刃ぎみの両刃がつけられている。

打製石庖丁は8点出土した。前述した基準にあてはめると、73・236はI-A類、74・233はII-B類、89・235はIII類に分類される。232はI-A類と考えることもできるが、側端部の幅がやや広いうえ、かつ角張っていることや、破片がやや小さいこともあり、分類は保留しておきたい。232を除くと、

I類～III類の割合はそれぞれ33.3%（1：1：1）となり、前述した中期前半～後半の石庖丁と比較すると、I類の割合が減少するとともに、III類の割合が特に高くなっている。III類（89・235）の背部は調整が粗雑であったり、省略が認められるので、時期が下ると、石庖丁の背部の調整を簡略化する傾向があるといえるかもしれない。

69・72・76～88・234・238～274はスクレイパーとその破片、及び石庖丁などの破片である。いずれも1辺以上に加工が施されている。

69は石剣又は石槍の破片のようにもみえるが、右図の右側縁の下半部に刃潰しの敲打を施しているのので、左側縁を用いたスクレイパーと考えることができる。72は下縁に小突起をつくり出しているが、用途は明らかでない。79は扇状の器形の外湾する1辺に調整を施したスクレイパーで、78もそれに近い形をもつ。80は小型三角形のスクレイパーで、2辺に加工が施されている。

242と254の一側面は上方から截断されているので、楔状石器と考えることもできよう。256は幅広の短冊形をしており、小型打製石斧の可能性も考えられる。269は湾曲して鎌のような形をしているが、下縁の一部には敲打が加えられ、鈍くなっている。

237は下縁部と側縁の一部に刃潰し加工を加えているので、主要剥離面の末端の鋭いエッジを用いた刃器であろう。

磨製石斧は3点出土した。91は小型の柱状石斧の破片である。92は、太型蛤刃石斧と比べるとやや扁平で小さく、頭部が細くなっているのので、縄文時代の磨製石斧であろうと思われる。275は太型蛤刃石斧の刃部付近の破片で、刃先は摩滅のため鈍くなっている。

276は両面が磨かれた磨製石器の破片である。破片が小さいため、全形がわからないが、扁平片刃石斧の刃部の可能性も考えられる。

93は扁平な長円形の砂岩を用いた石錘である。両方の長側に2個ずつの打ち欠きによる抉りをいれている。

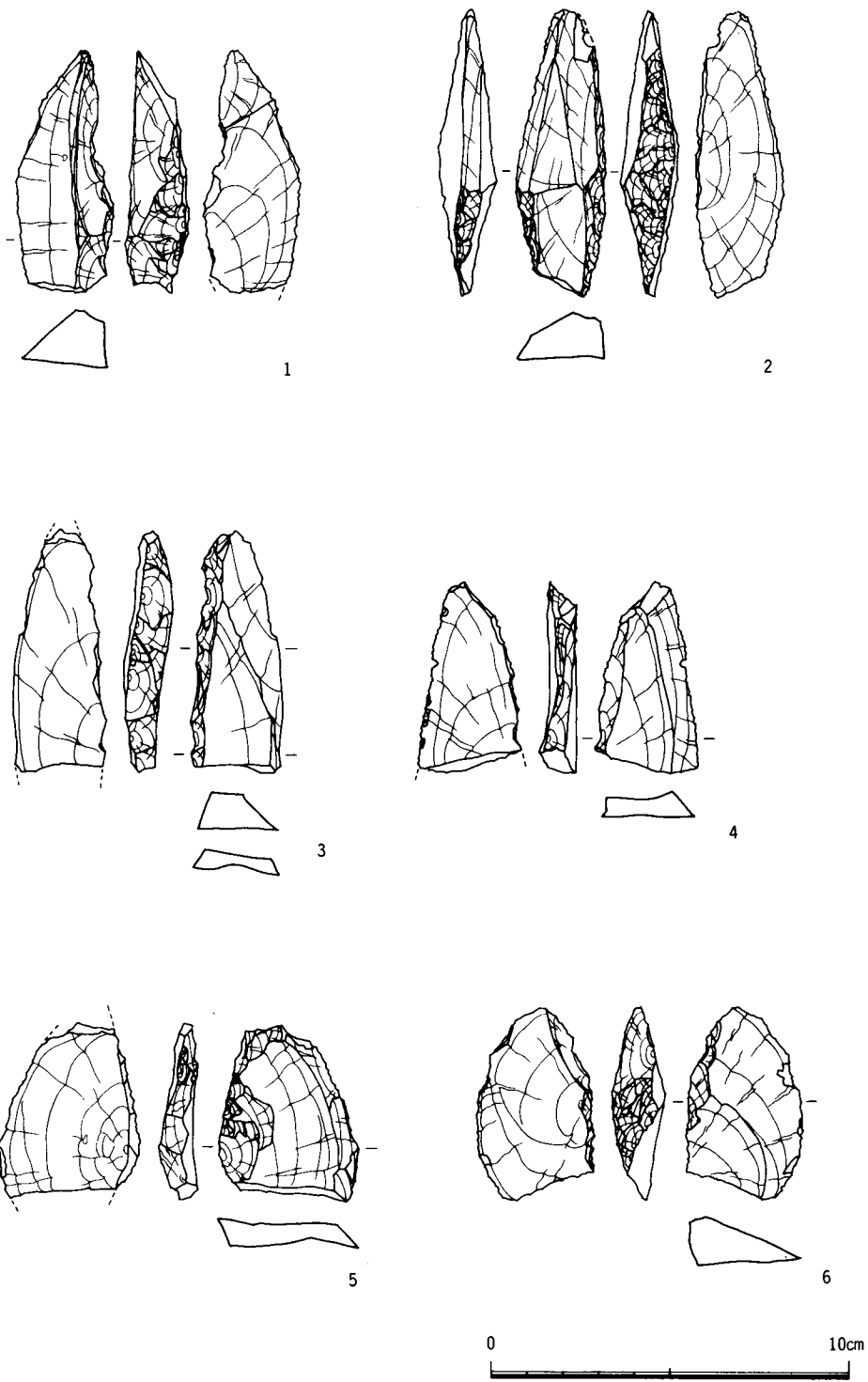
磨石は7点（94・96・98・277～279）出土した。94のみは讃岐岩質安山岩を用いるが、他は砂岩を用いている。7点の磨石は形態と使用痕の違いから二つに分けられる。一方は、断面が円形に近い厚みのある長円礫を用い、長さが6～8cmほどの大きさをもつ。94・96がそれで、94は表面全体が磨かれており、96は両面の上下部分が使用によって磨かれている。敲打は認められない。

これに対して、97・98・277～279は扁平な丸石を用い、長さが10～12cmほどの大きさをもつ。しかも表裏又は一方の面の中央部が敲打され、その周囲に磨かれた面をもっている。さらに、99は外周の下半部に敲打痕があり、278は全周に敲打痕が残されていることからして、これらは磨石として94・96とは異なる用いられ方をしたと共に、一部は叩き石としても用いられたことが分かる。また、98の両側縁の中央部には浅い抉りも認められる。

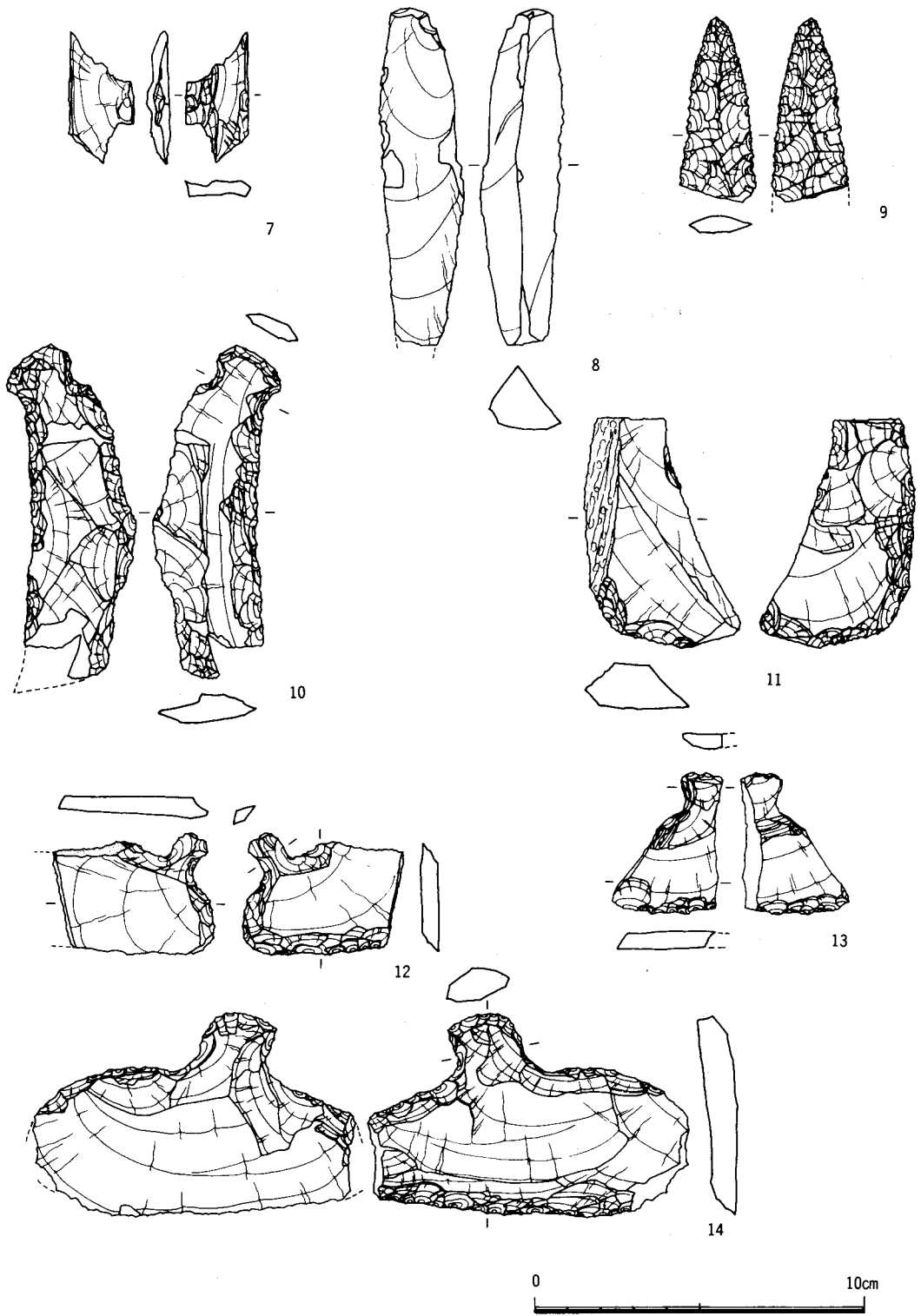
95は上下両面を磨かれている。磨石又は石皿として用いられたものであろう。

99は石皿である。厚みのある砂岩の両面を部分的に磨いている。

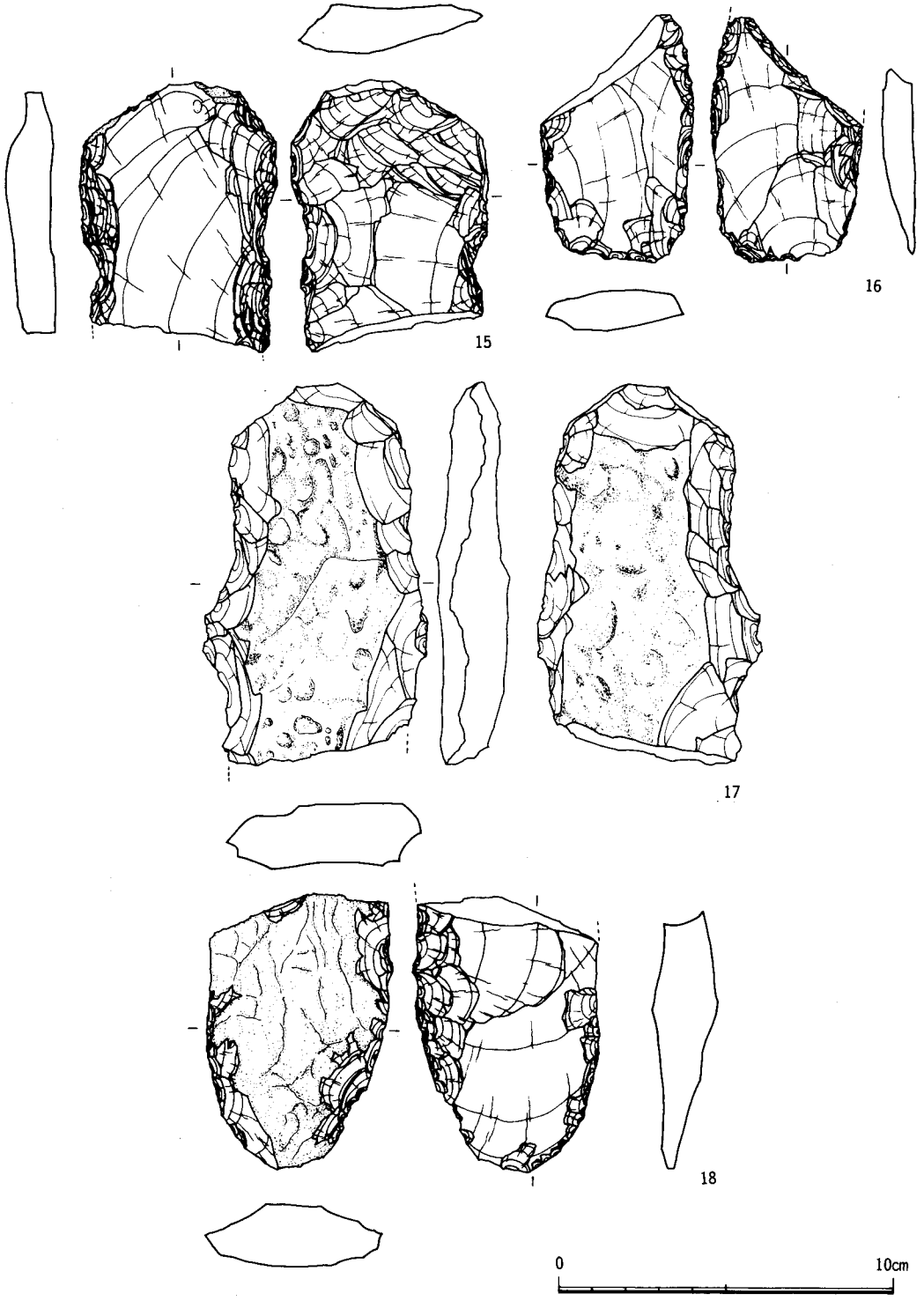
以上のほか、弥生時代の掘立柱建物跡と考えられる S B85101の柱の堀り形から出土した石器がある。375がそれで、一方の側縁を下から截断しているので、楔状石器の素材かとも思われるが、上縁には調整の後に敲打も加えているので、両側端を欠失した石庖丁又はスクレイパーになる可能性も考えられる。



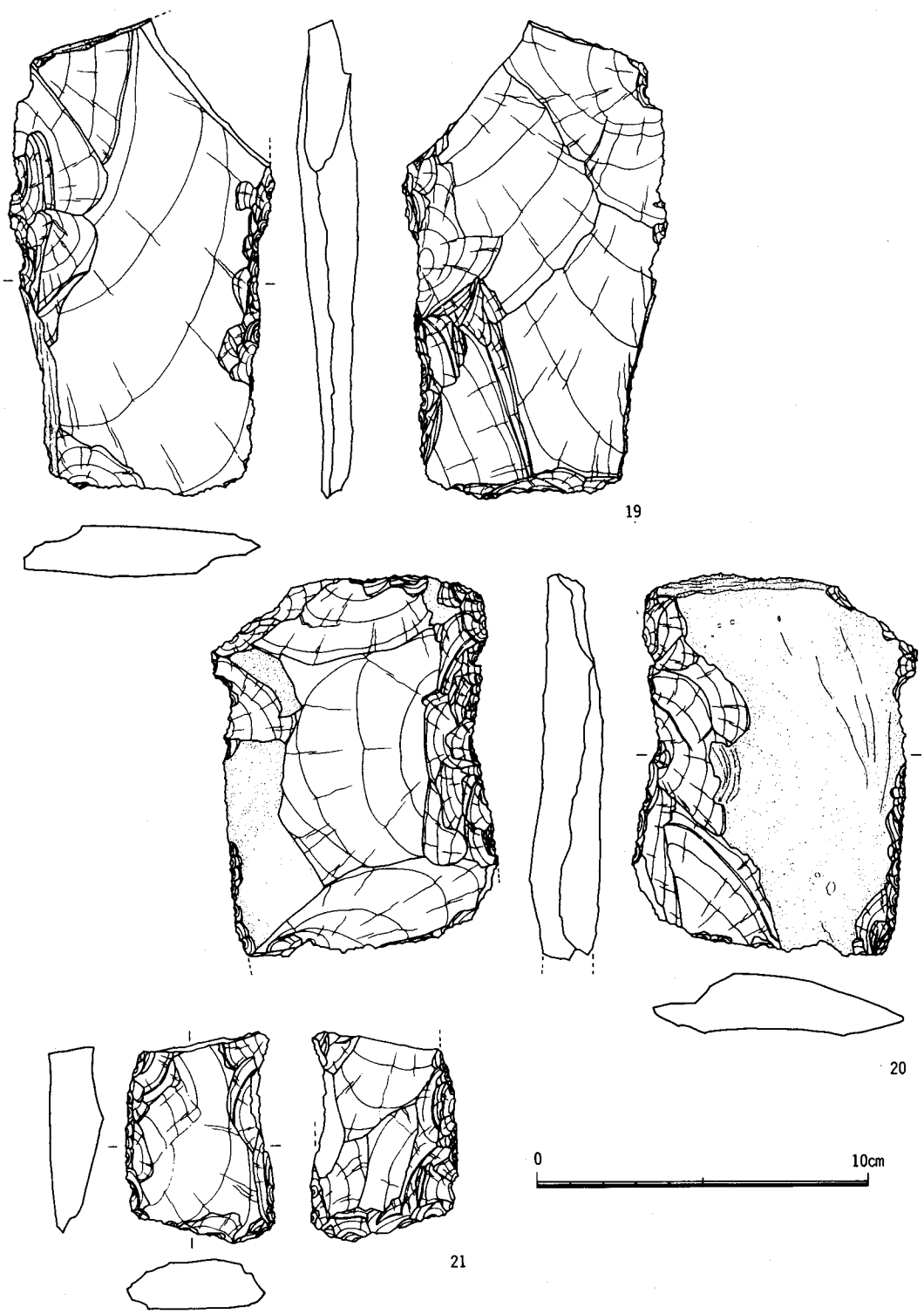
第161图 石器实测图(1)



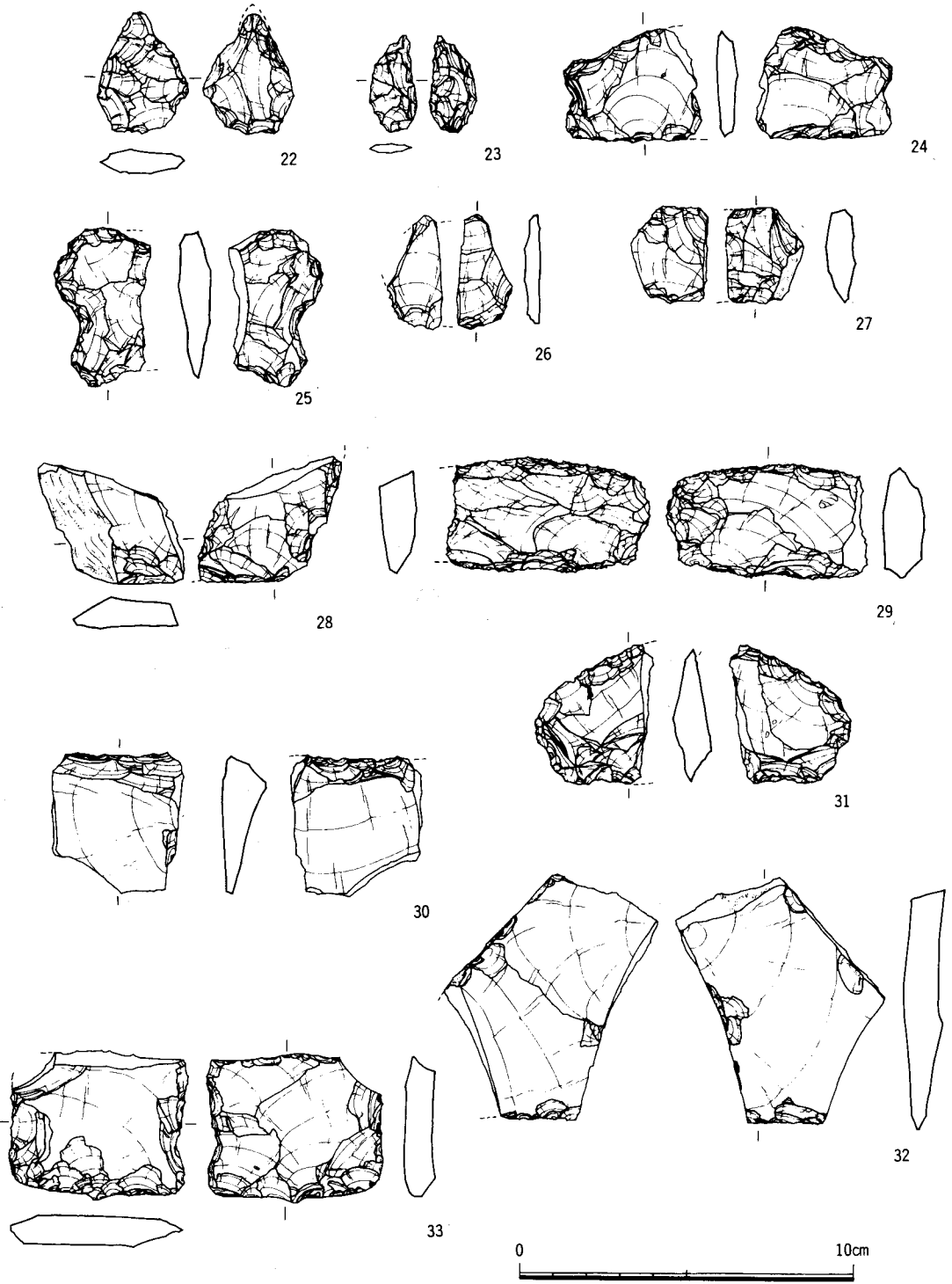
第162图 石器实测图(2)



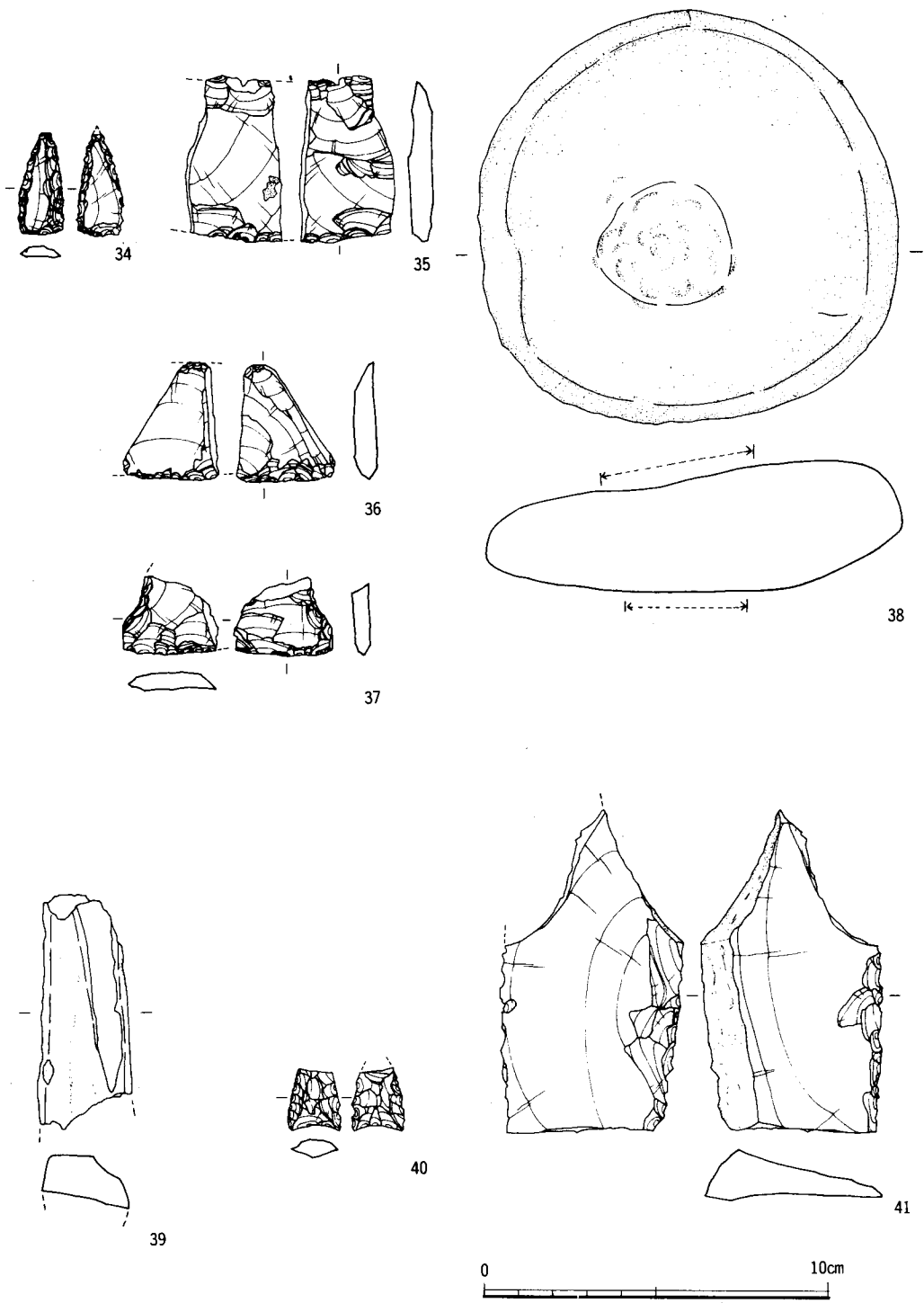
第163图 石器实测图(3)



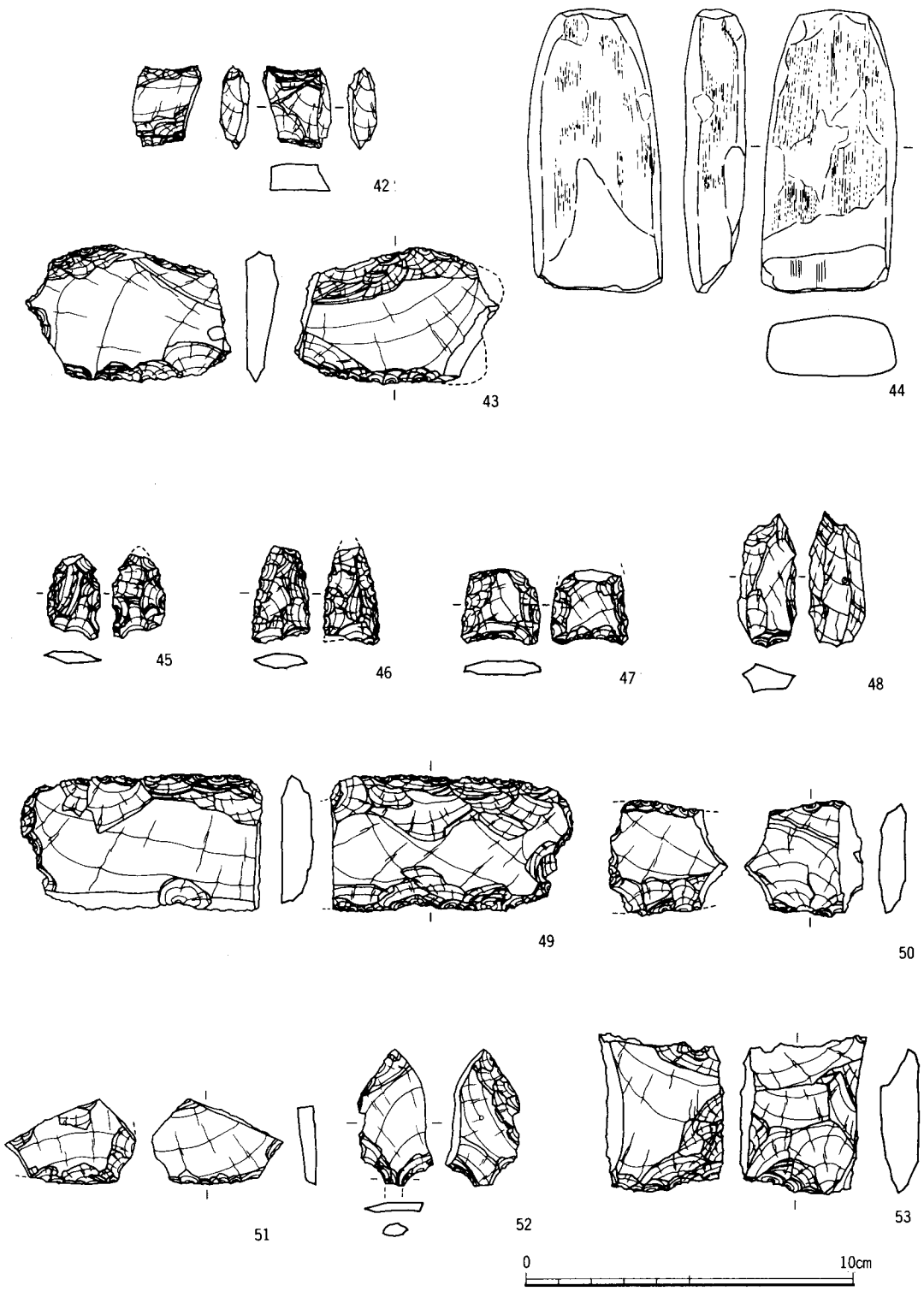
第164图 石器实测图(4)



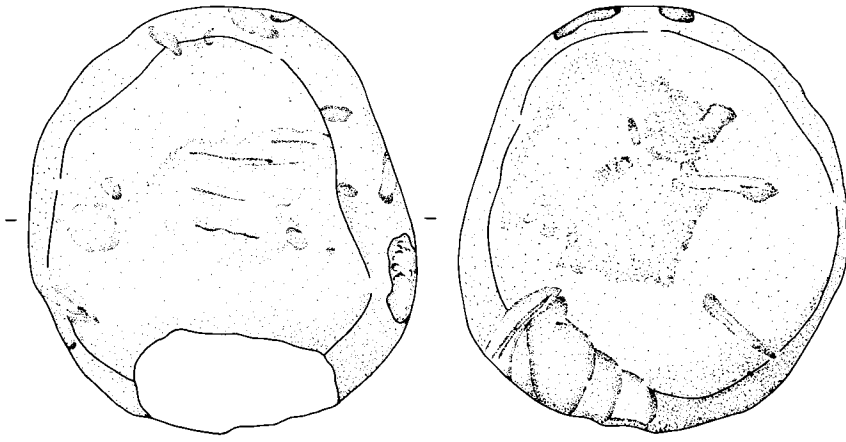
第165图 石器实测图(5)



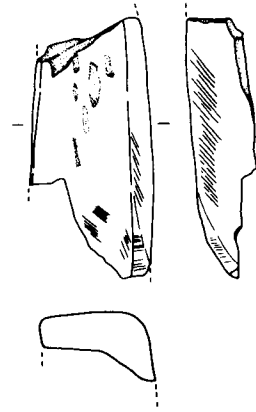
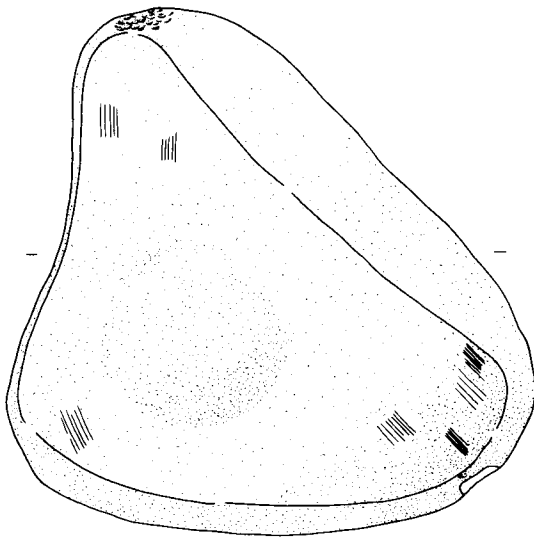
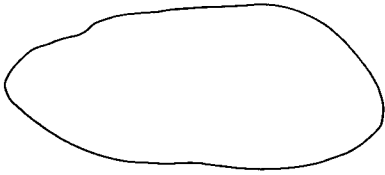
第166图 石器实测图(6)



第167图 石器实测图(7)



54

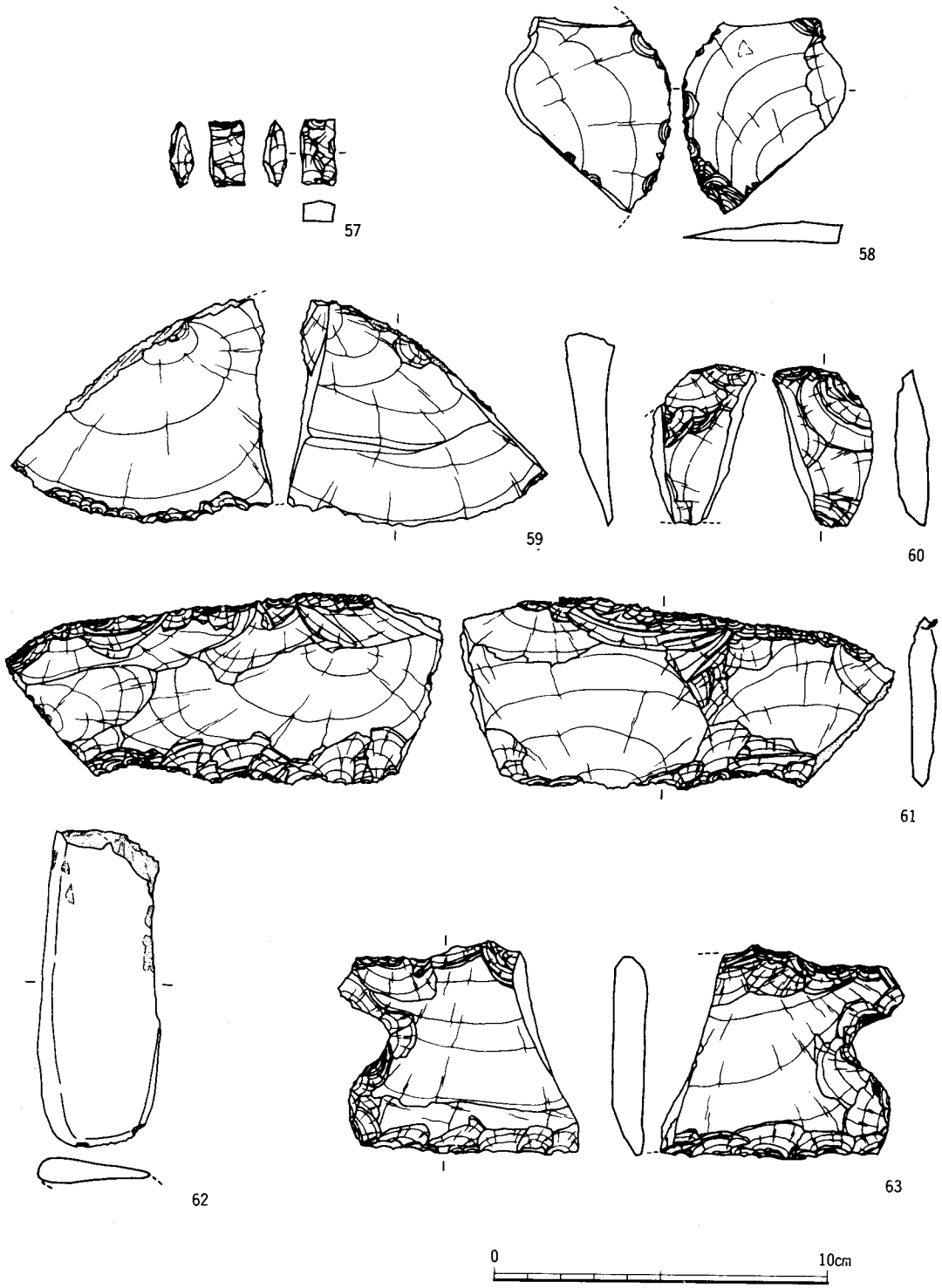


56

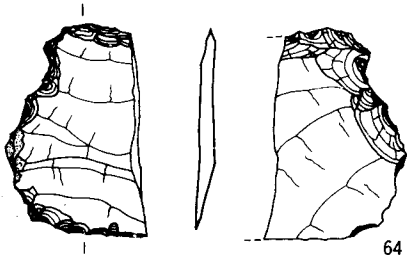
55



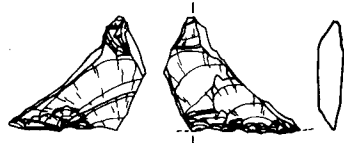
第168图 石器实测图(8)



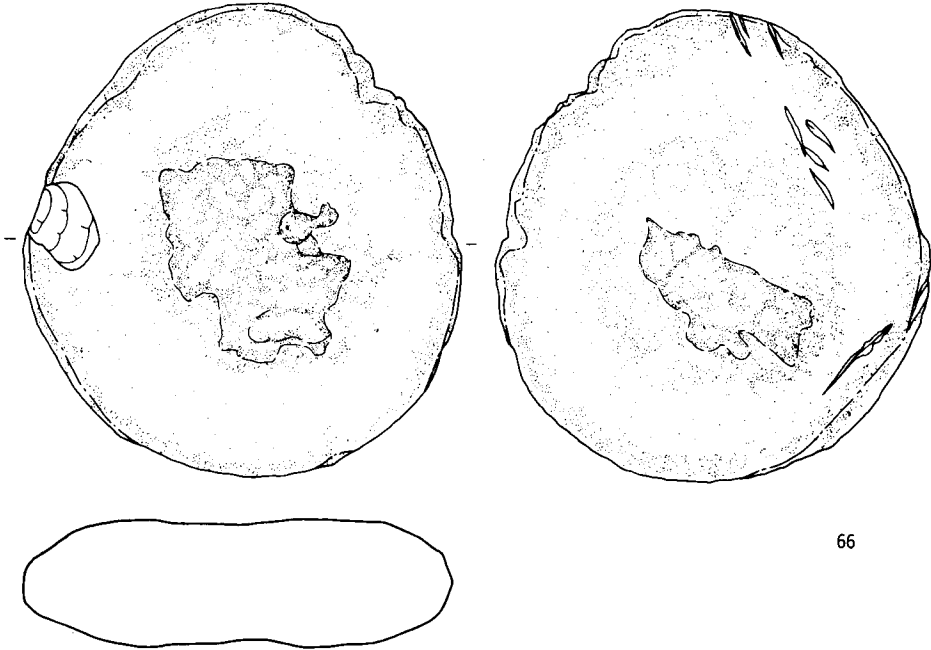
第169图 石器实测图(9)



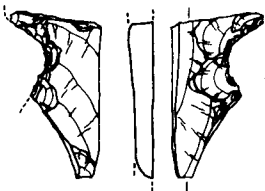
64



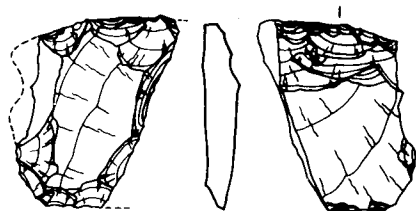
65



66



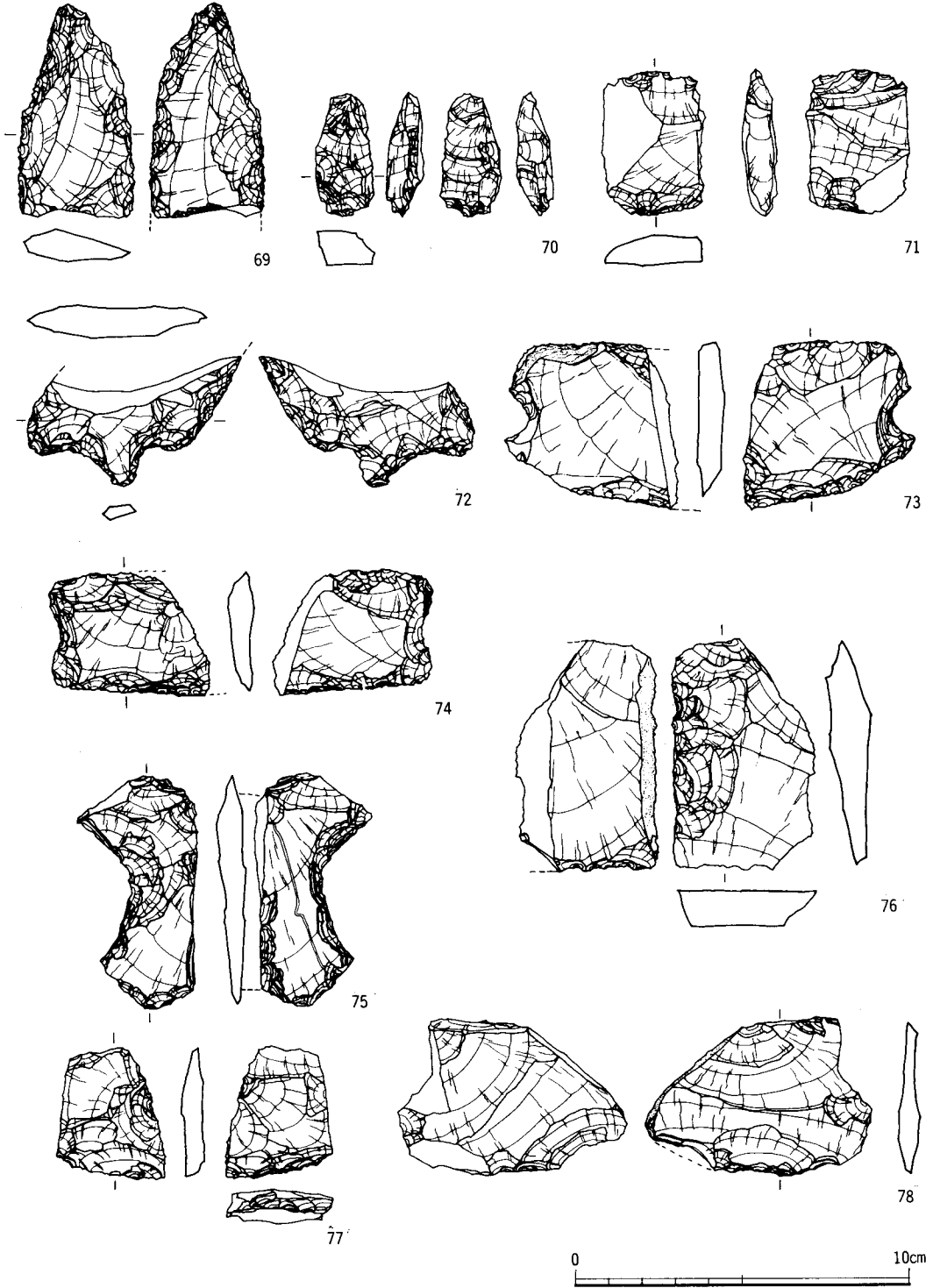
67



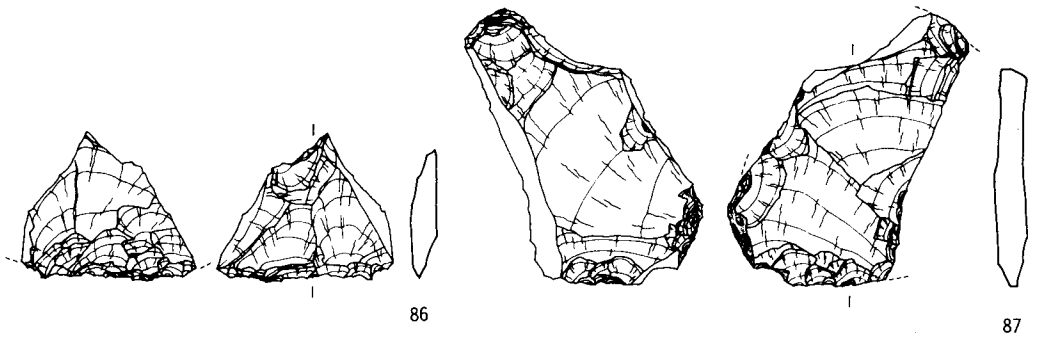
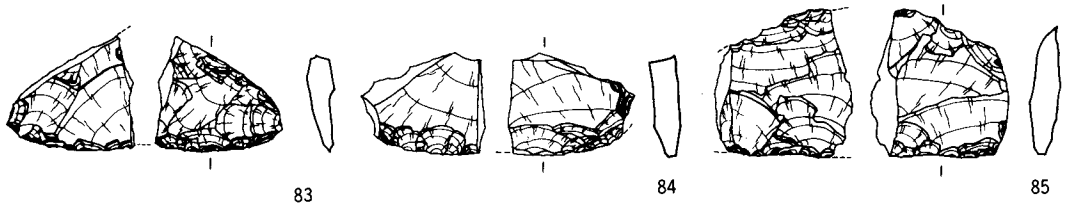
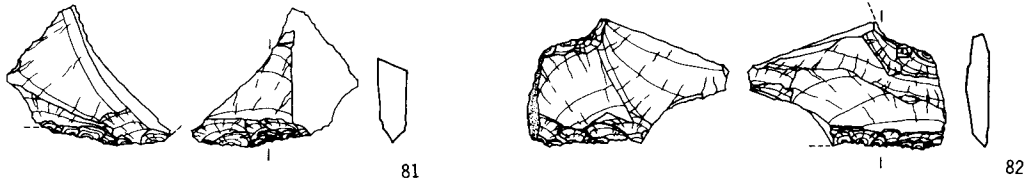
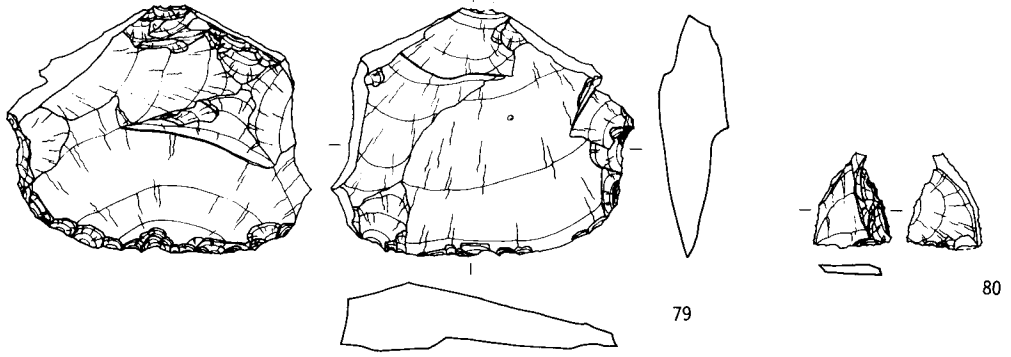
68



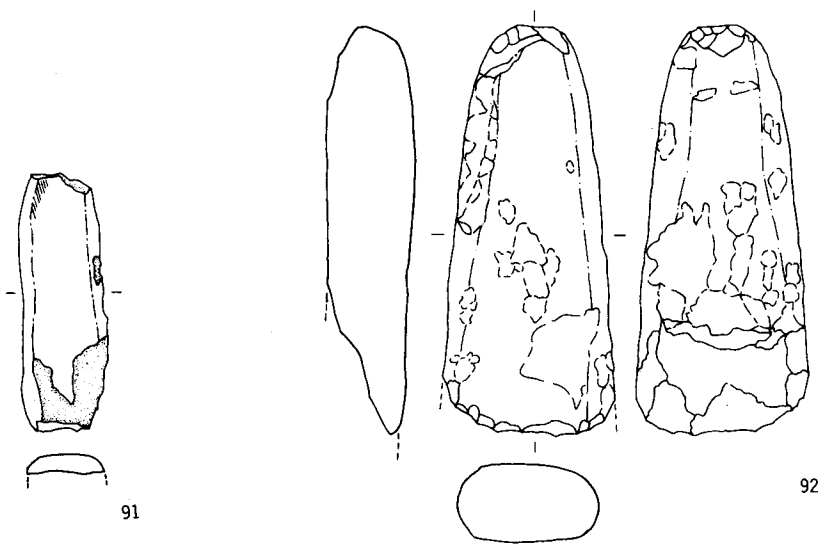
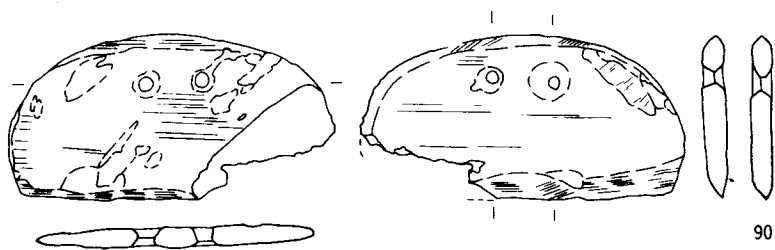
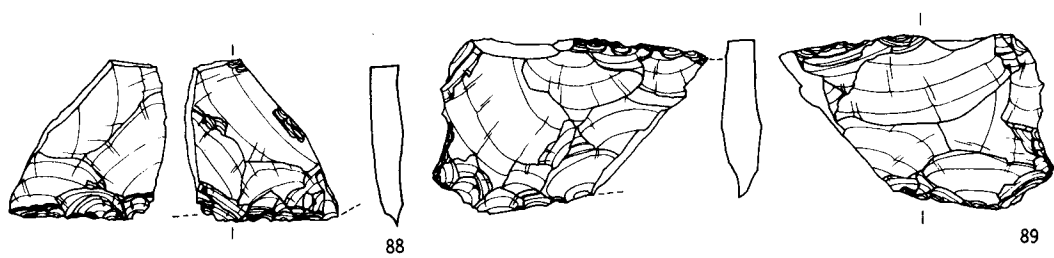
第170图 石器实测图(10)



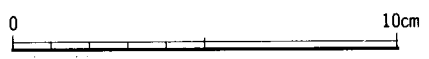
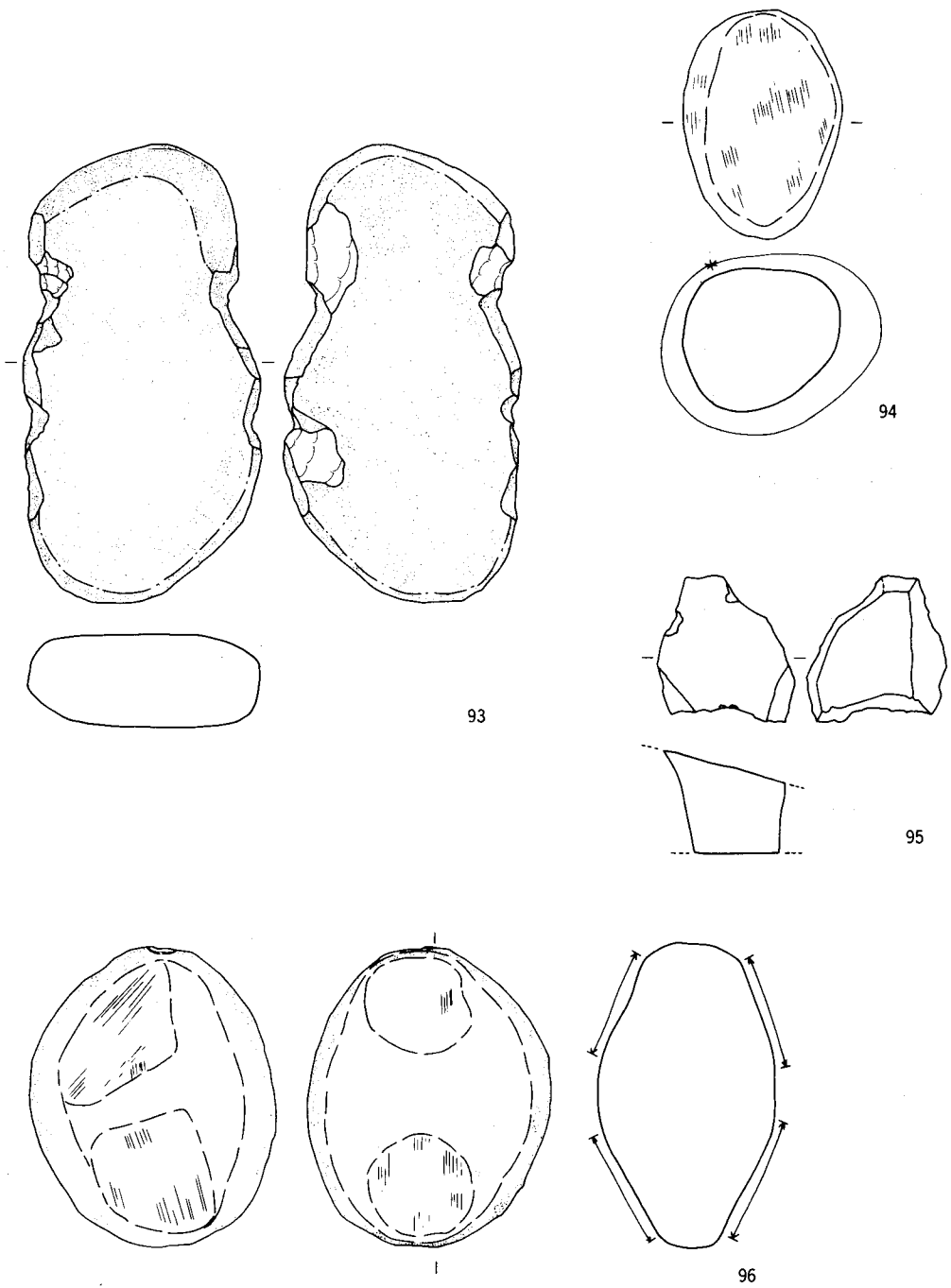
第171图 石器实测图(11)



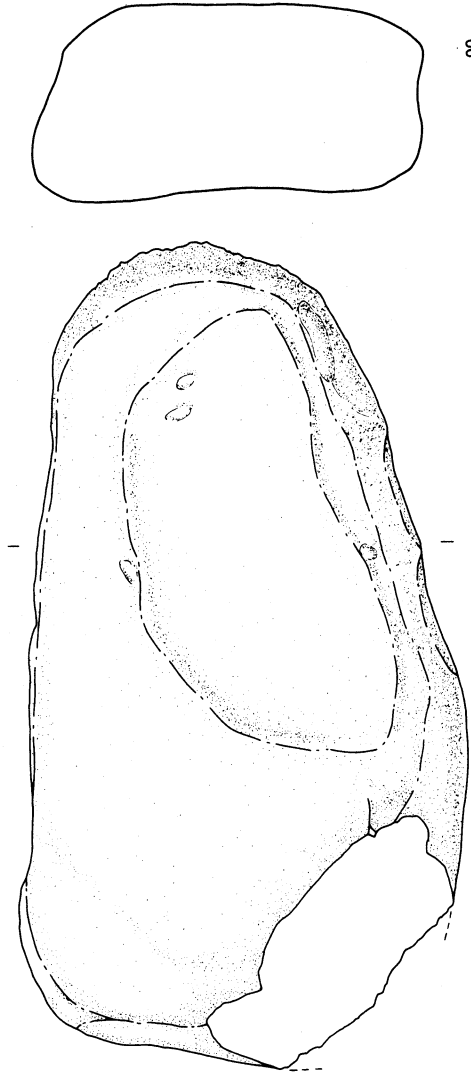
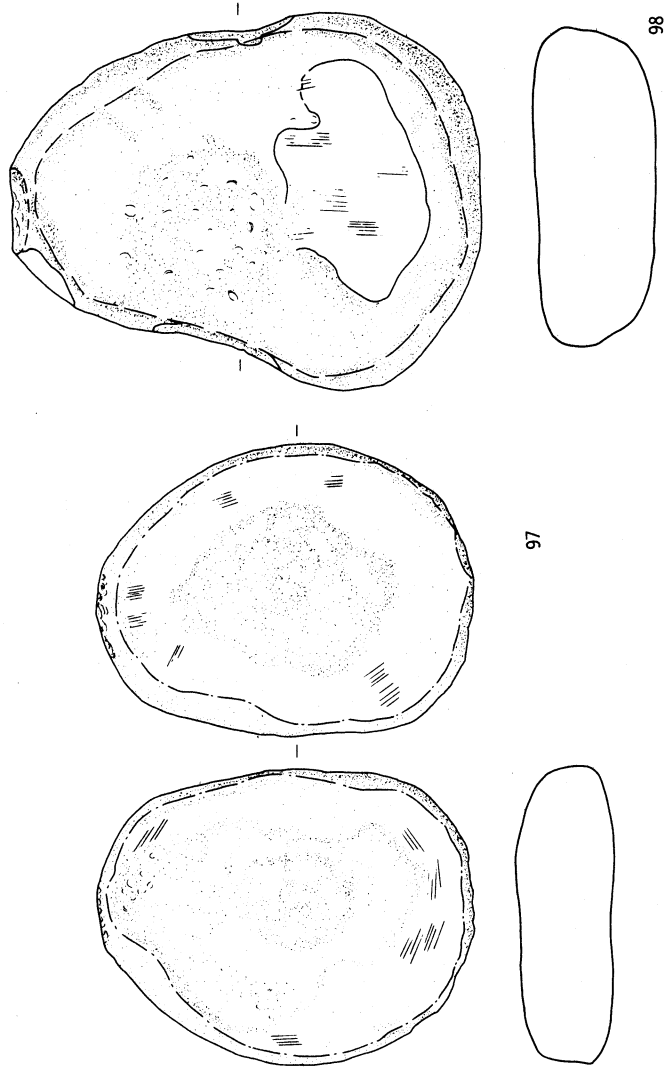
第172图 石器实测图(12)



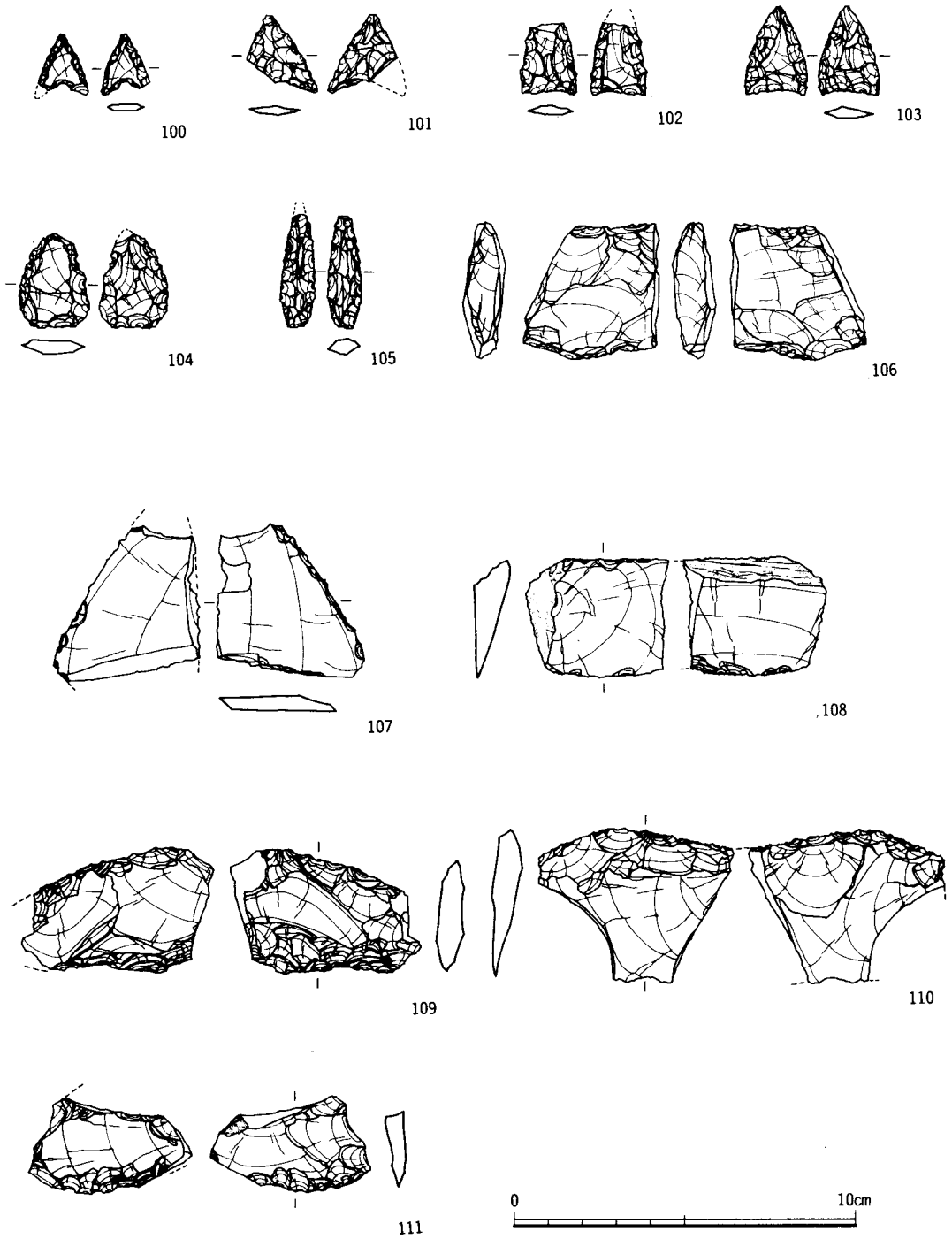
第173图 石器实测图(13)



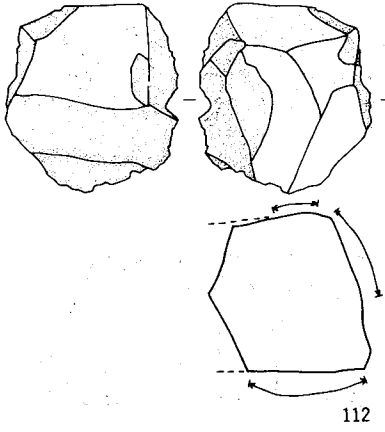
第174图 石器实测图(14)



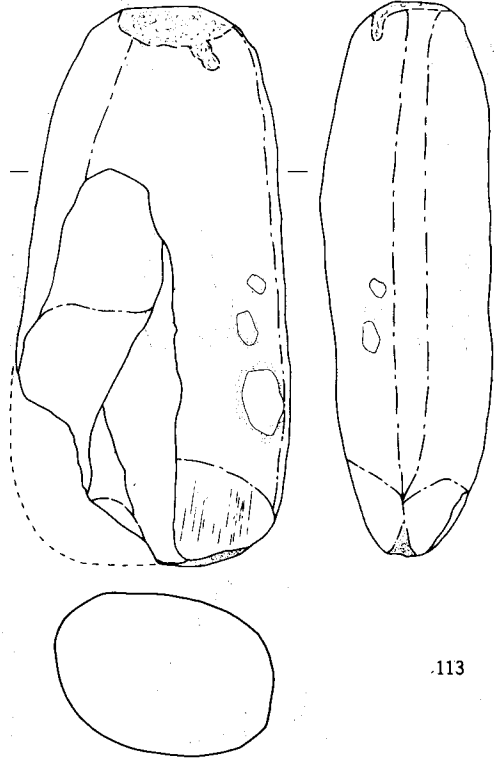
第175图 石器实测图(15)



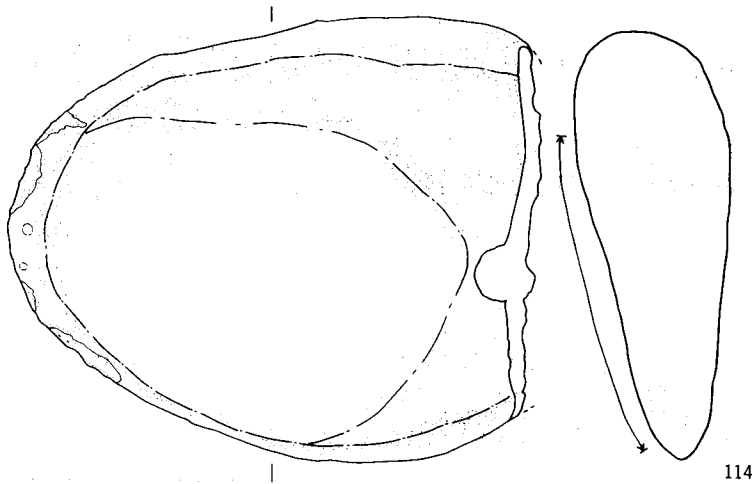
第176图 石器实测图(16)



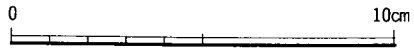
112



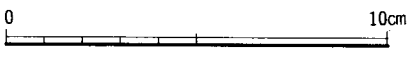
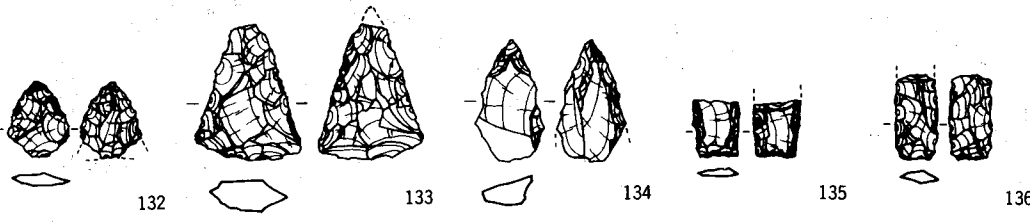
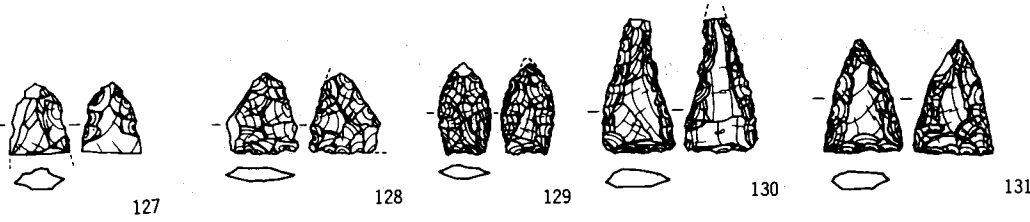
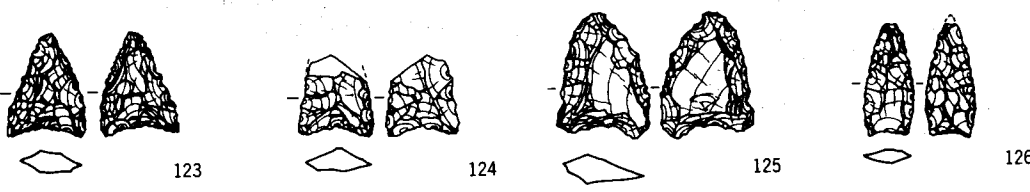
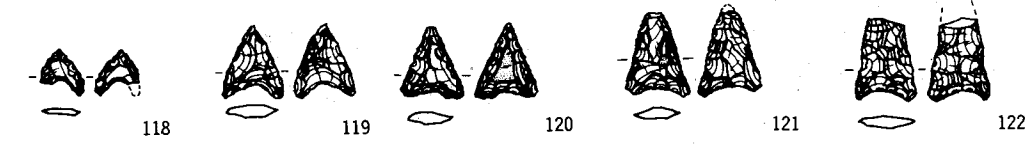
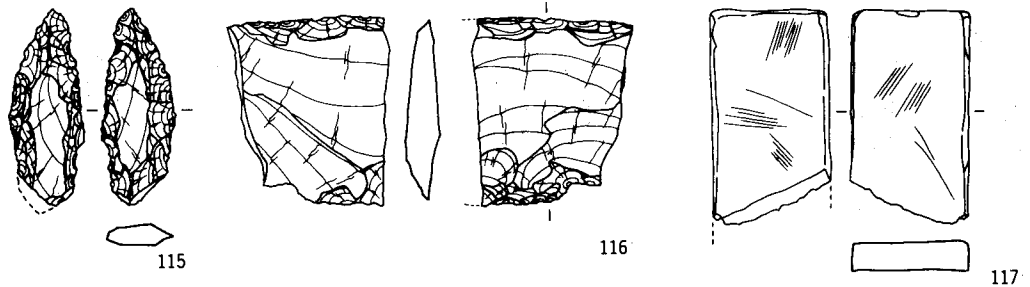
113



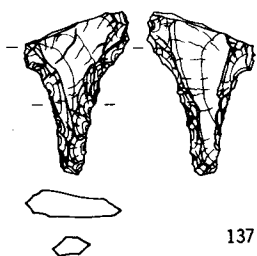
114



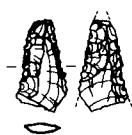
第177图 石器实测图(17)



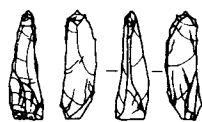
第178图 石器实测图(18)



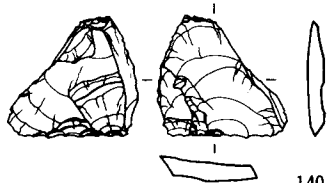
137



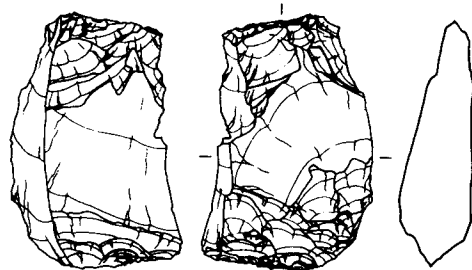
138



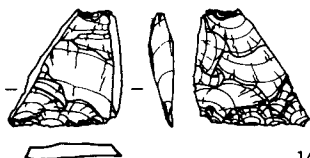
139



140



142



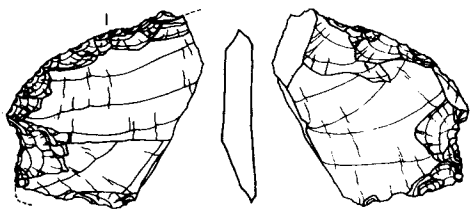
141



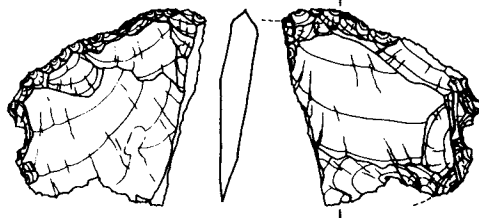
143



144



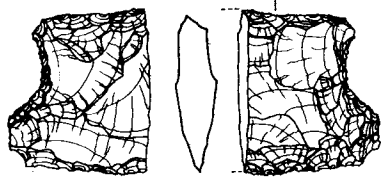
145



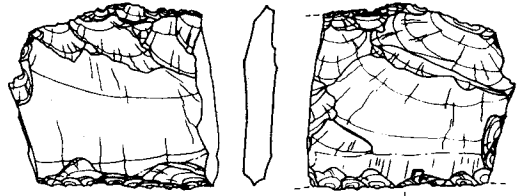
146



第179图 石器实测图(19)



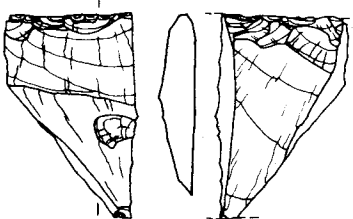
147



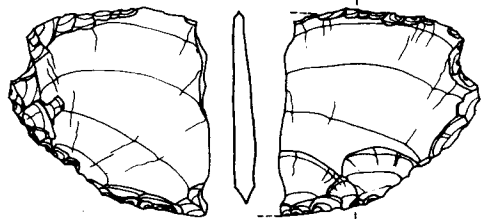
148



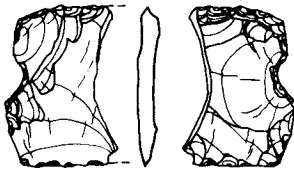
149



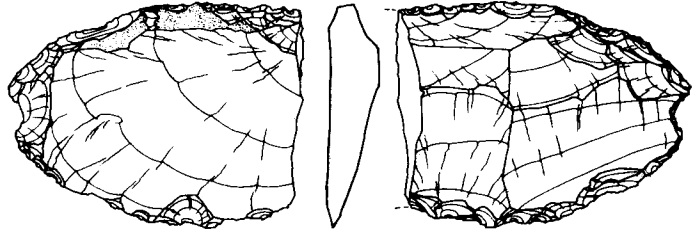
150



151



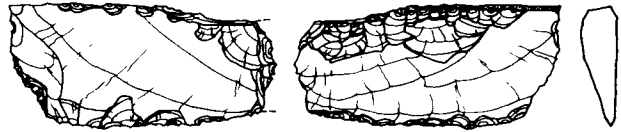
152



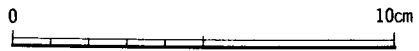
153



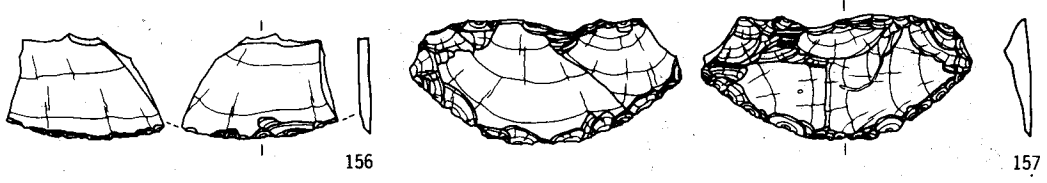
154



155

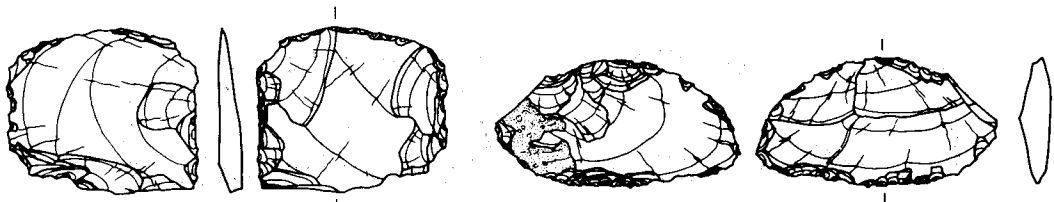


第180图 石器实测图(20)



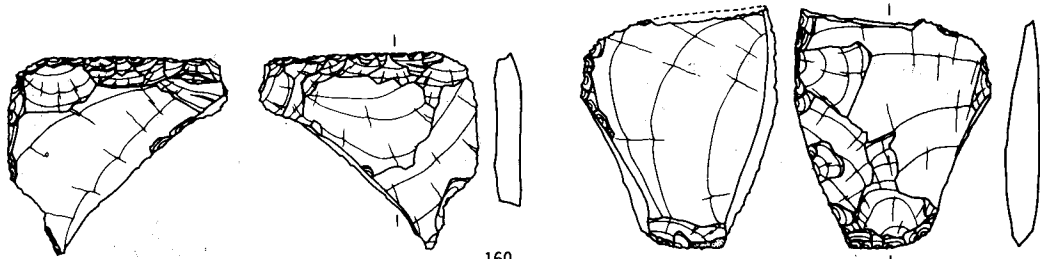
156

157



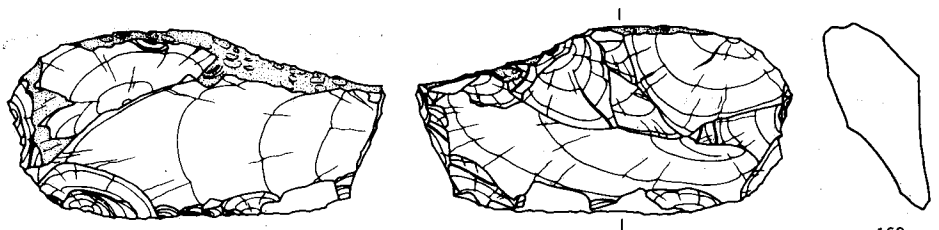
158

159

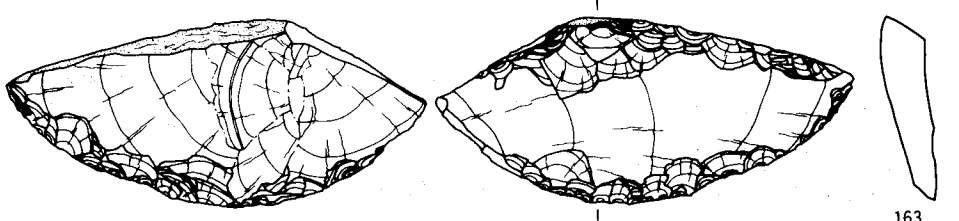


160

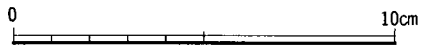
161



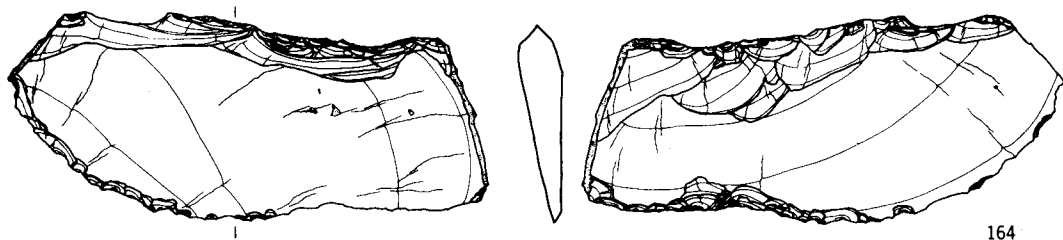
162



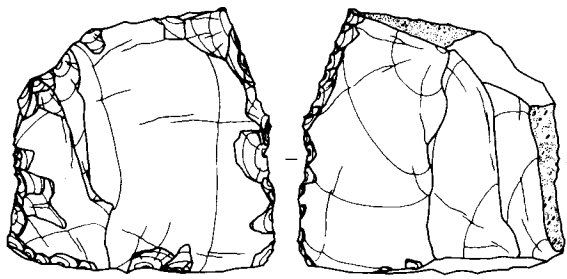
163



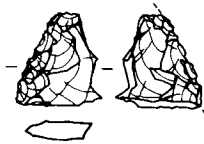
第181图 石器实测图(2)



164



165



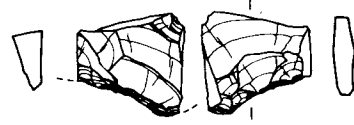
166



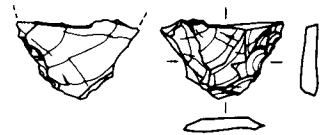
167



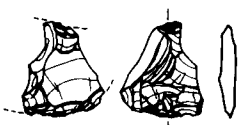
168



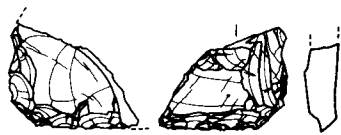
169



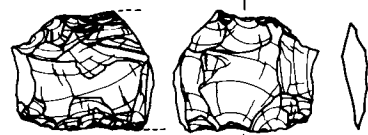
170



171



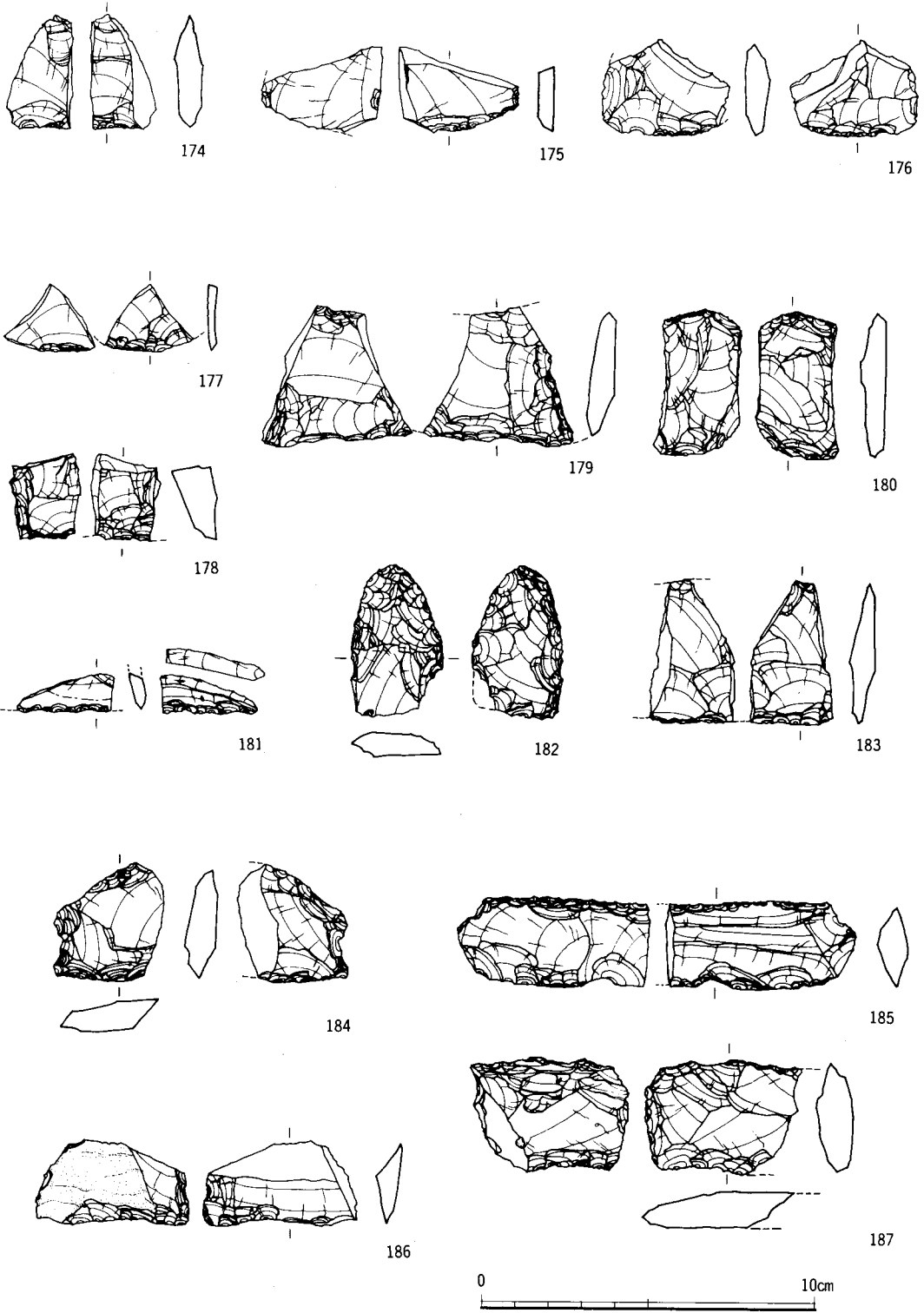
172



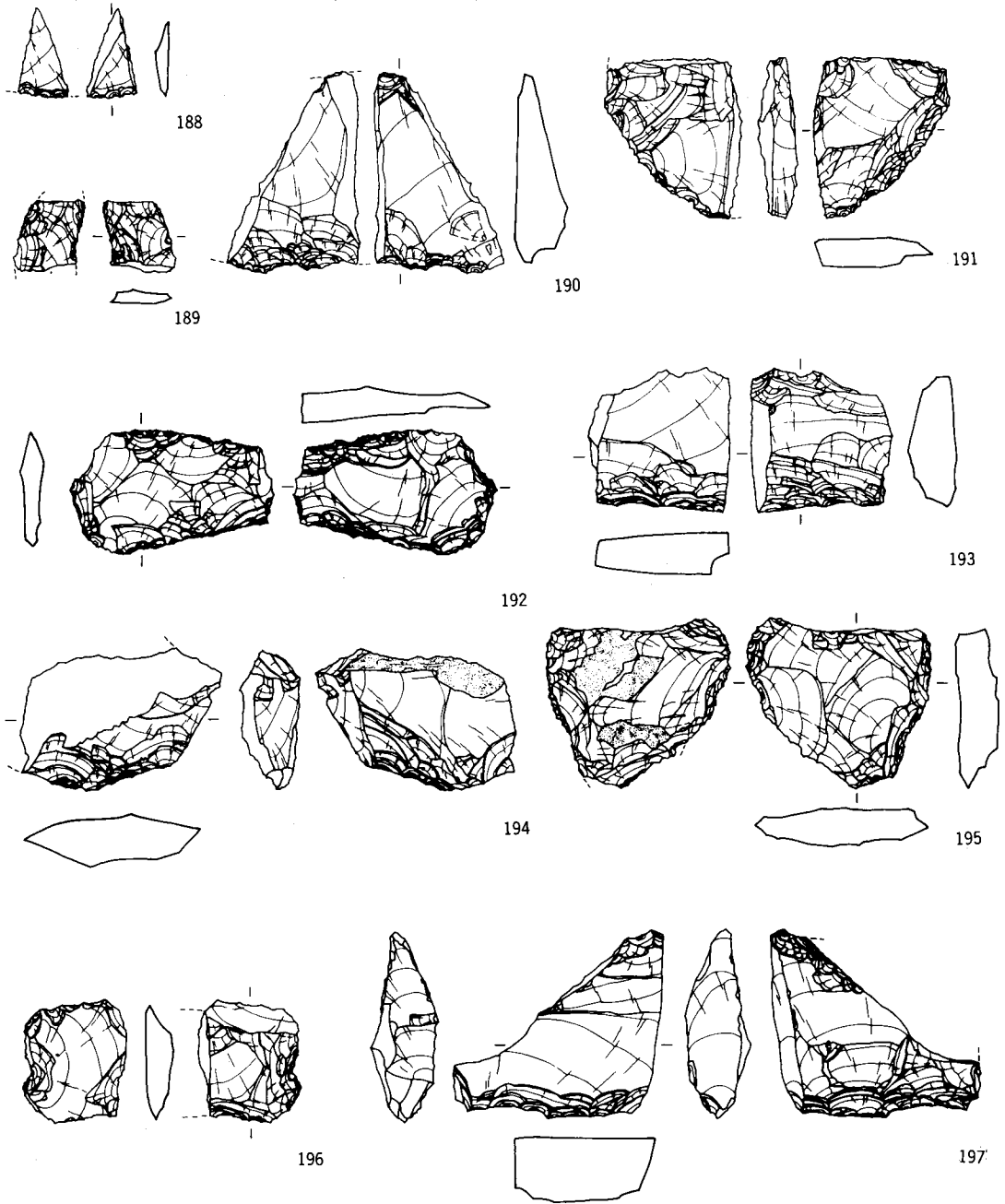
173



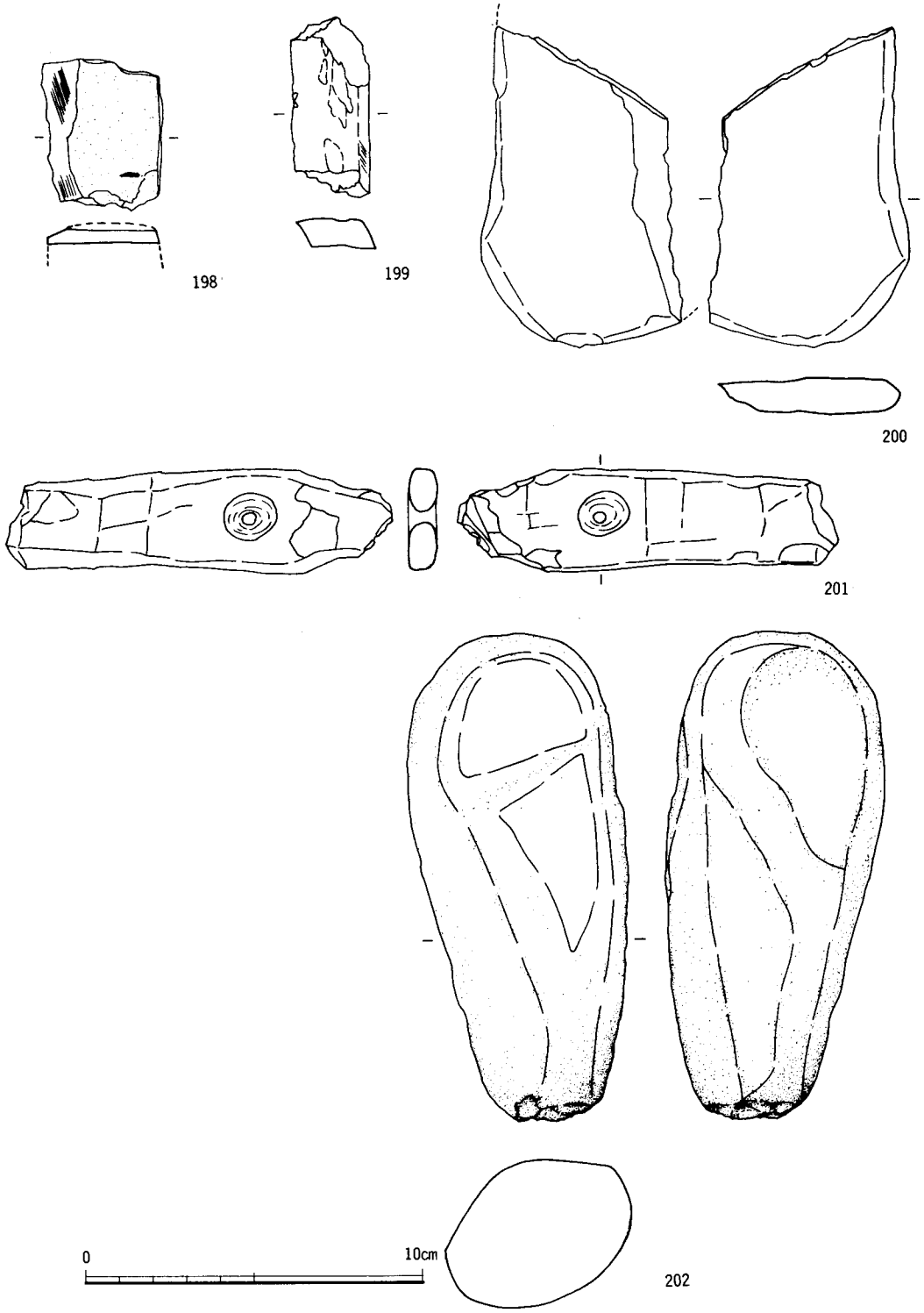
第182图 石器实测图(2)



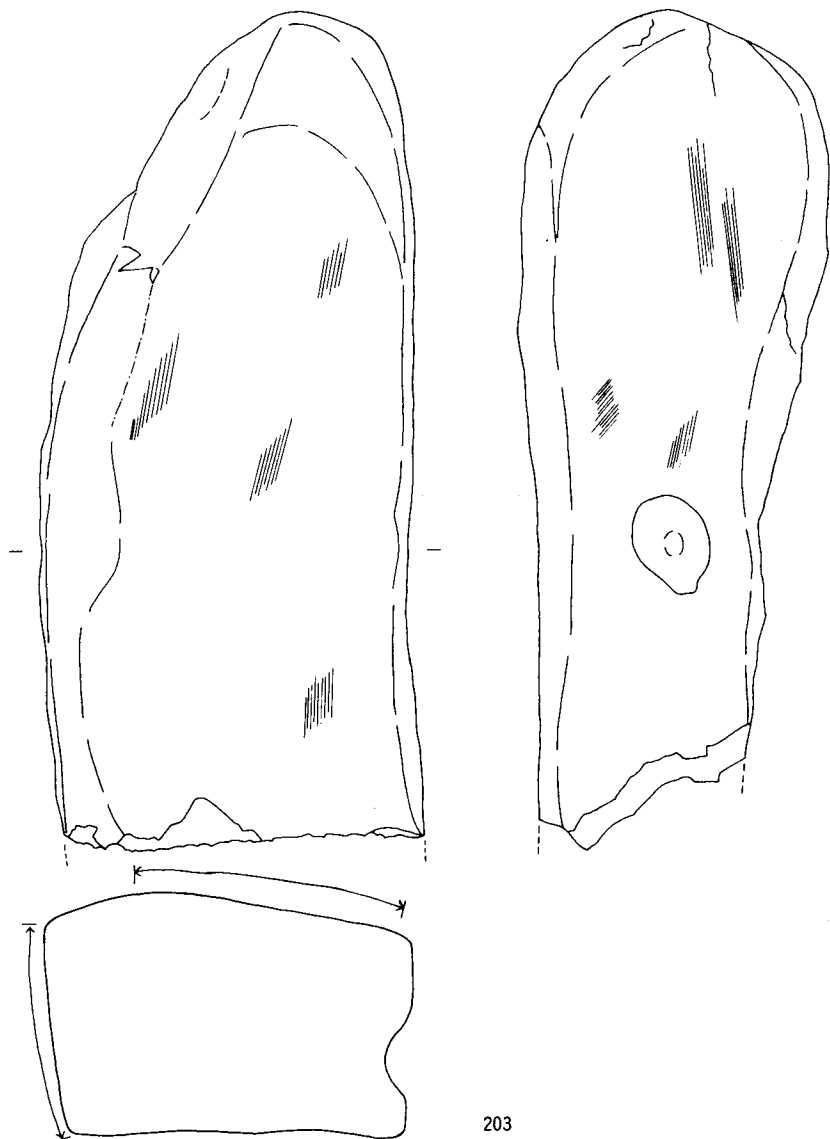
第183图 石器实测图(23)



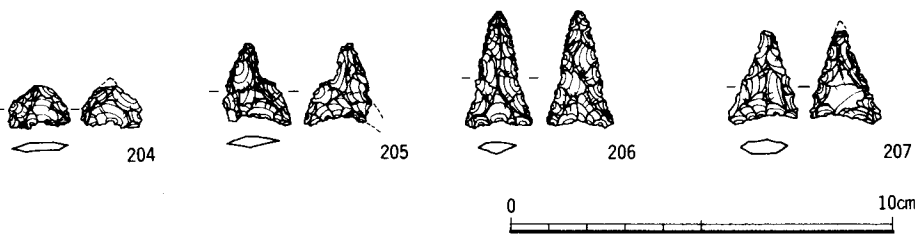
第184图 石器实测图(24)



第185图 石器实测图(25)



203



204

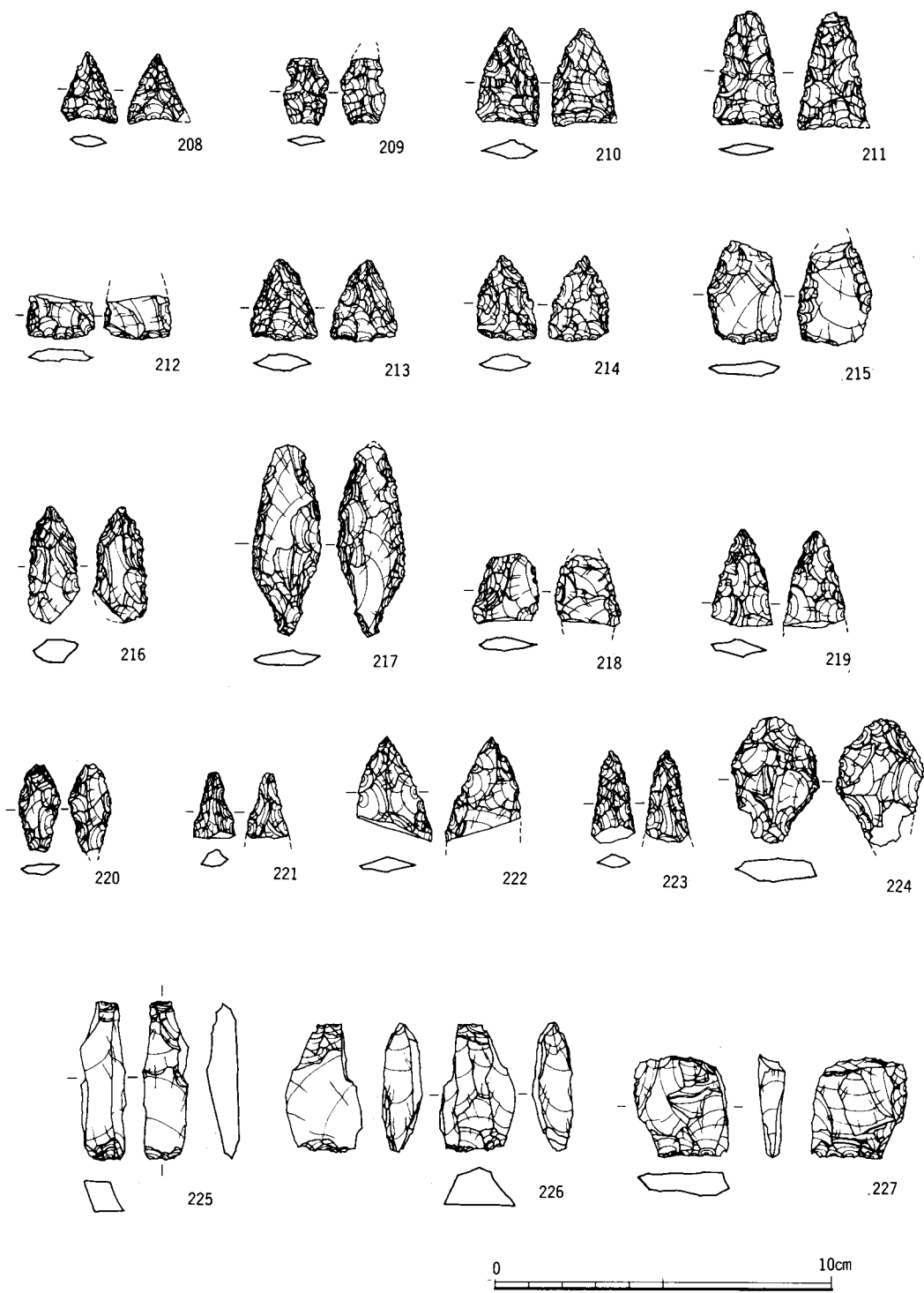
205

206

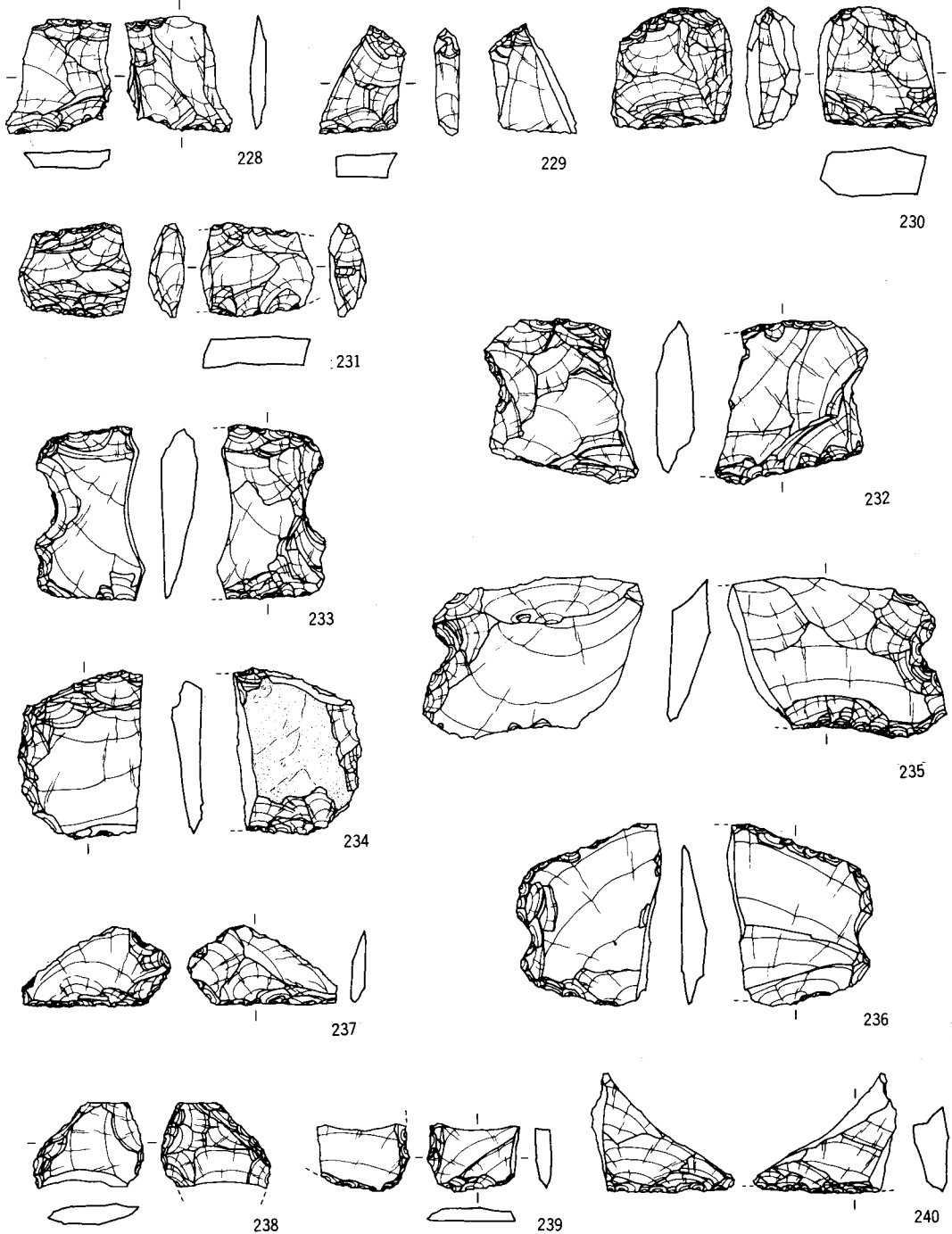
207



第186图 石器实测图(26)

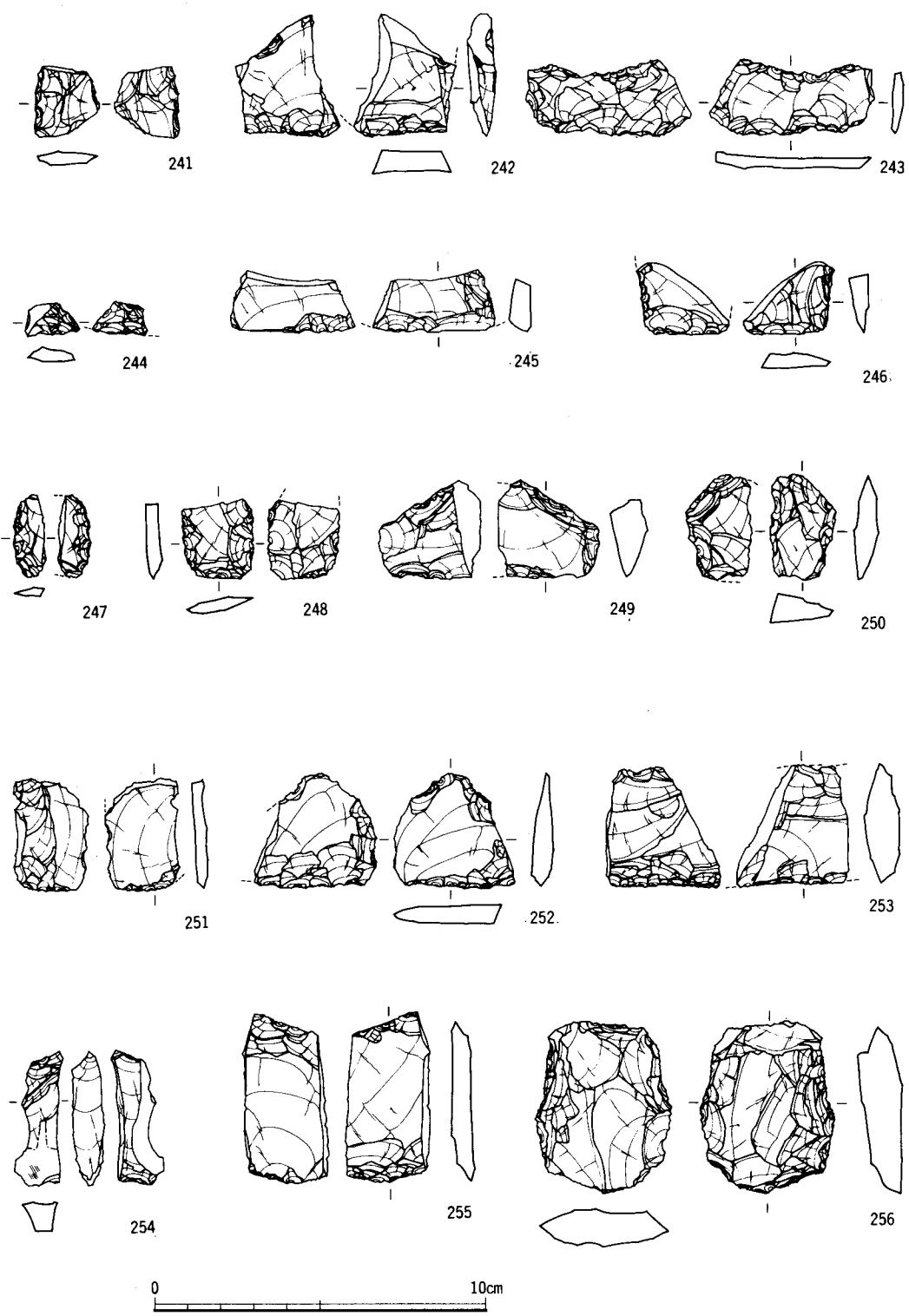


第187图 石器实测图(27)

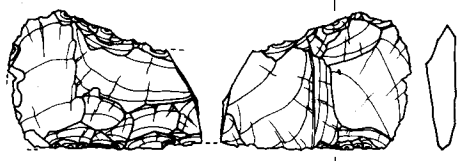


0 10cm

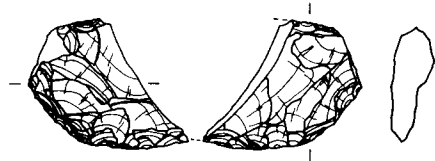
第188图 石器实测图(28)



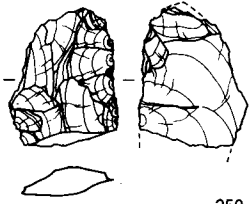
第189图 石器实测图(29)



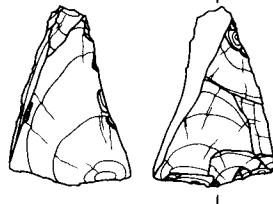
257



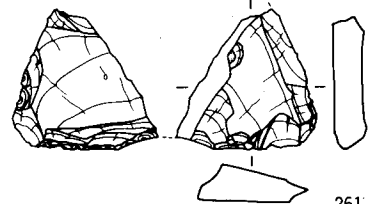
258



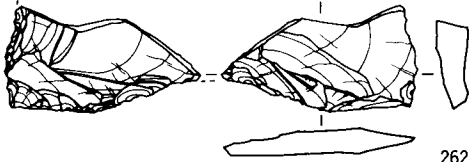
259



260



261



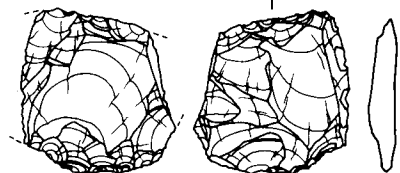
262



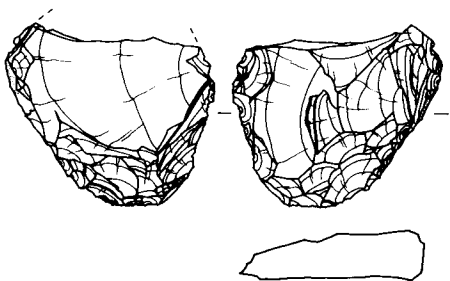
263



264



265



266



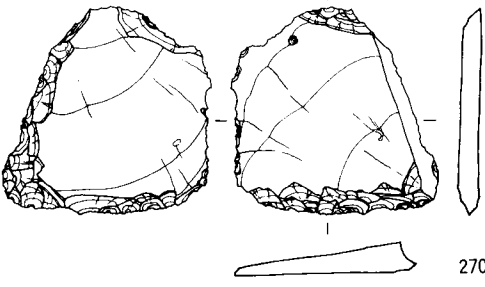
267



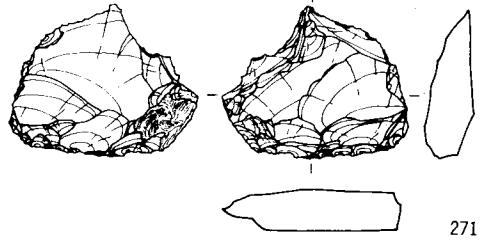
第190图 石器实测图(30)



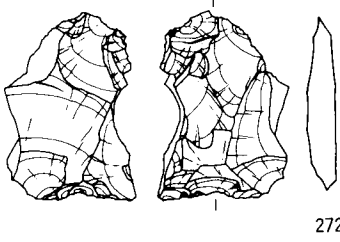
269



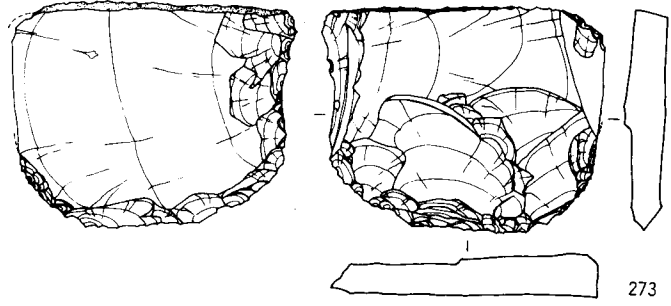
270



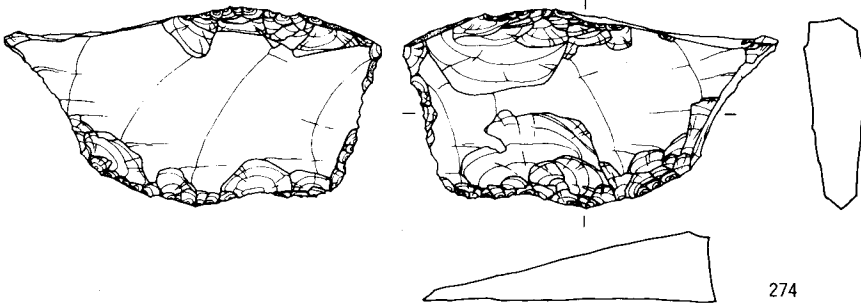
271



272



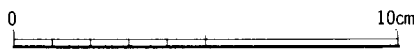
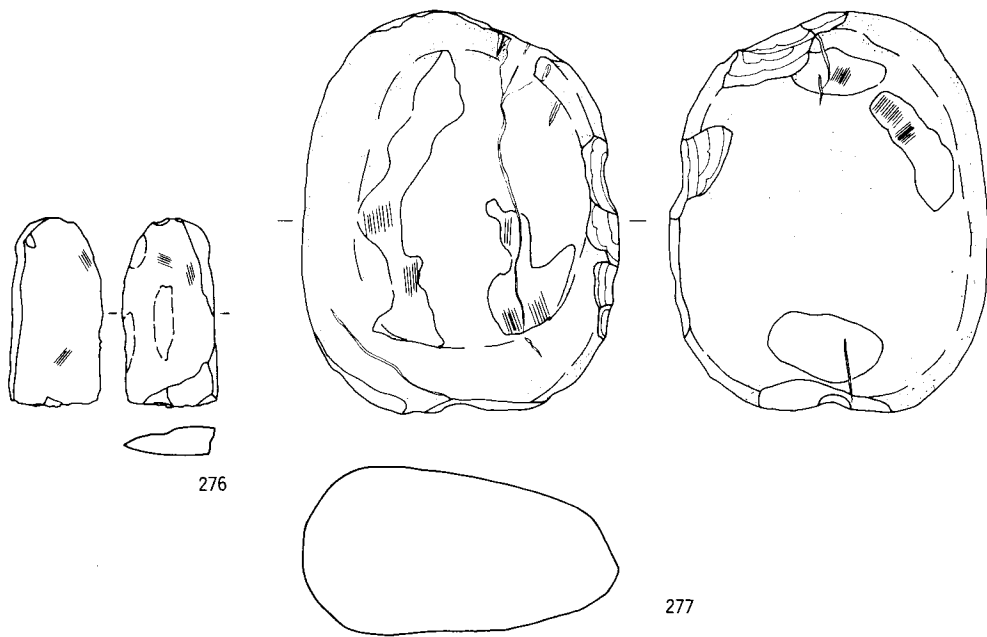
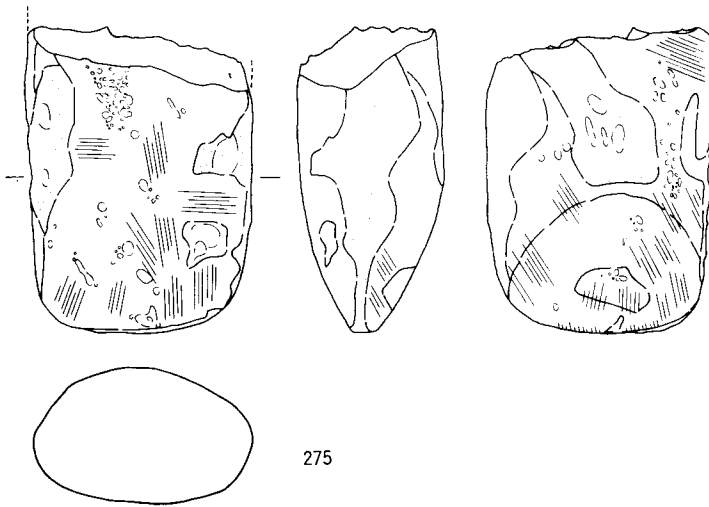
273



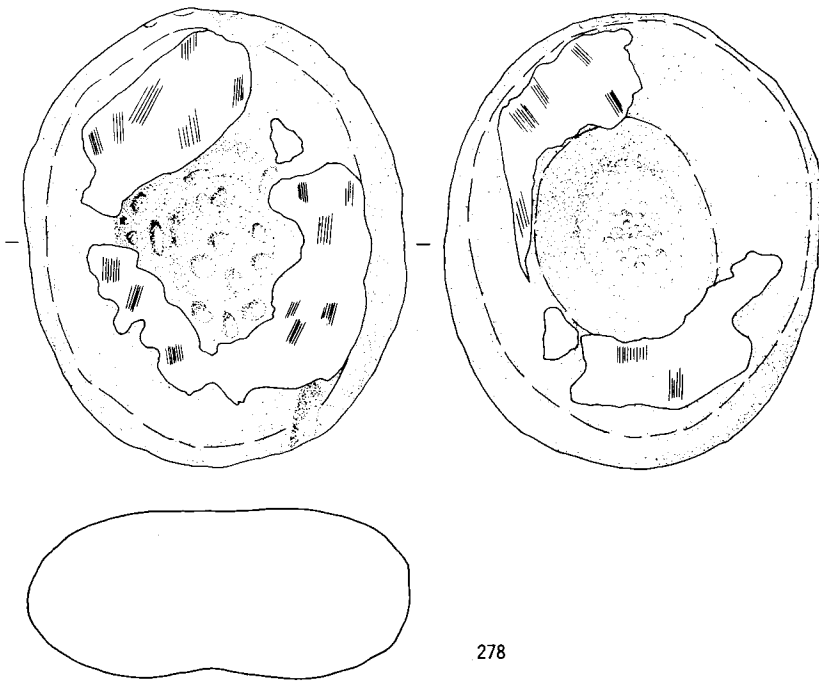
274



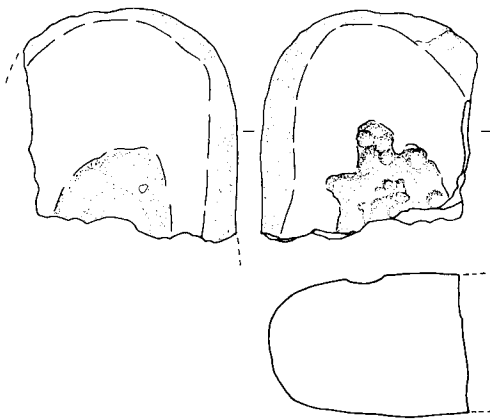
第191图 石器实测图(31)



第192图 石器实测图(32)



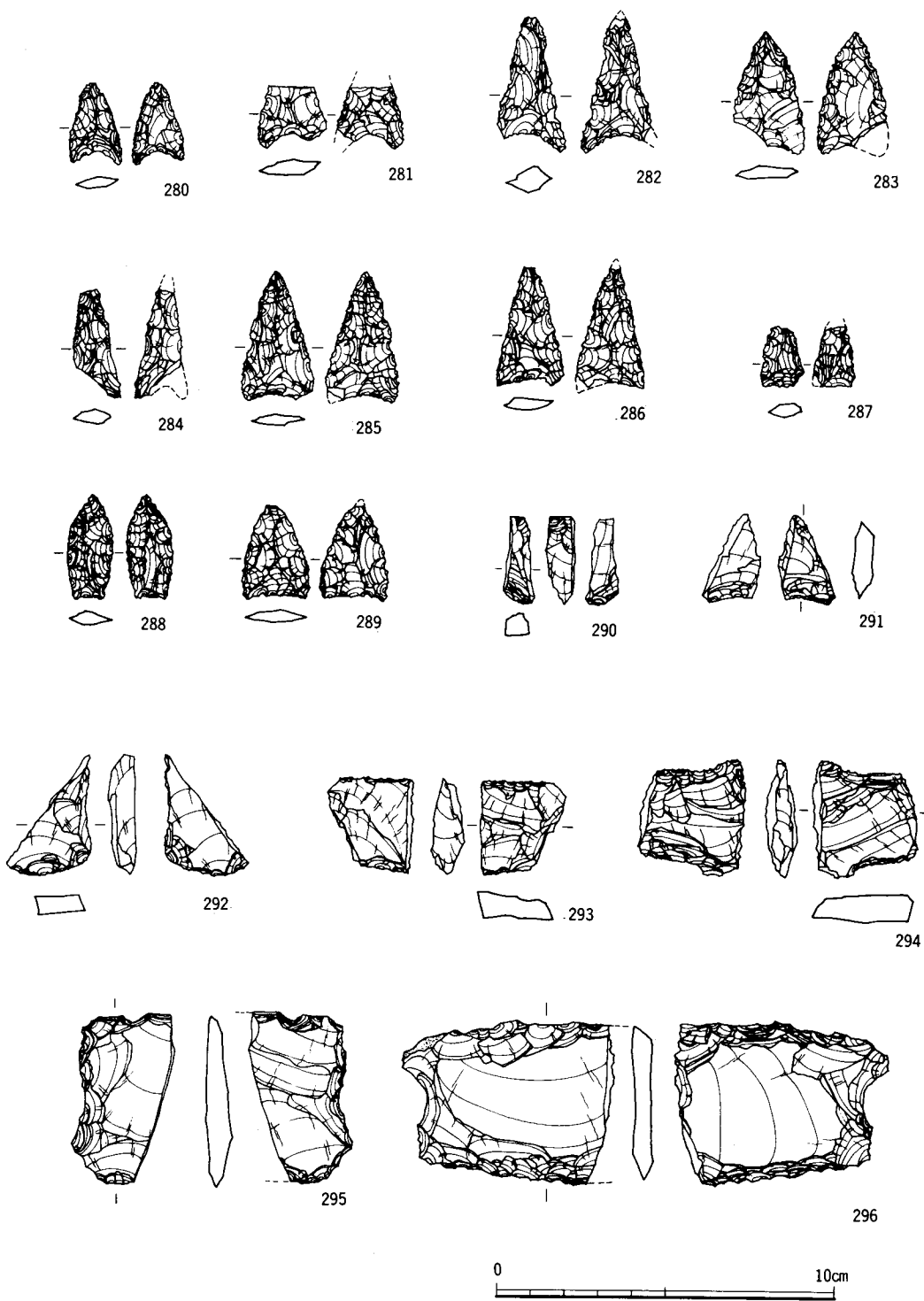
278



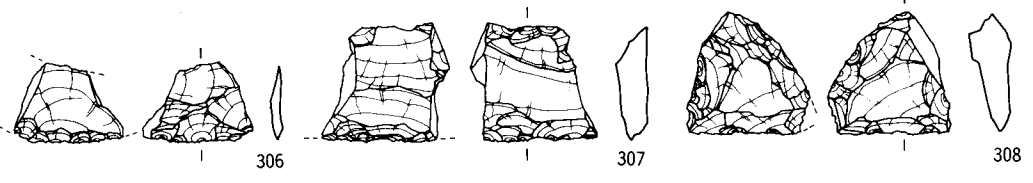
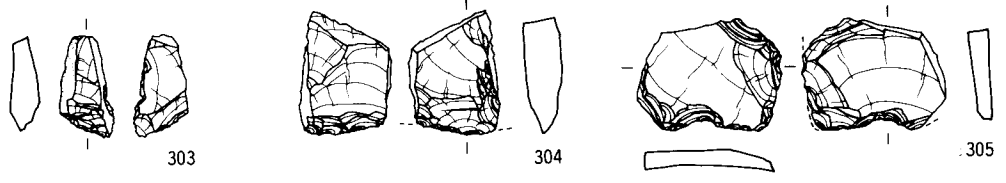
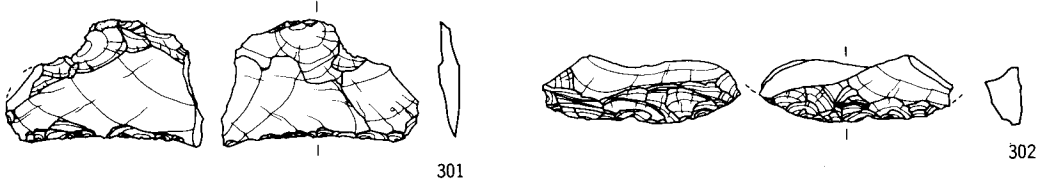
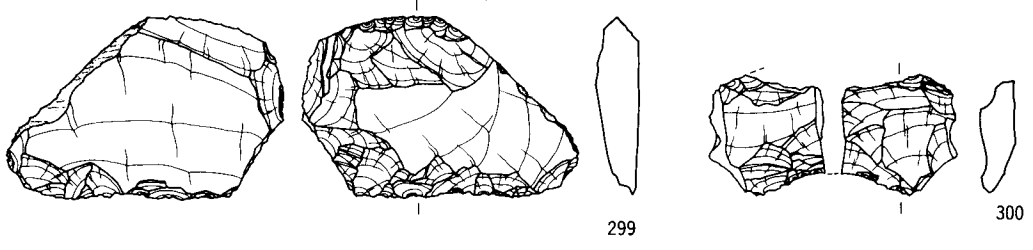
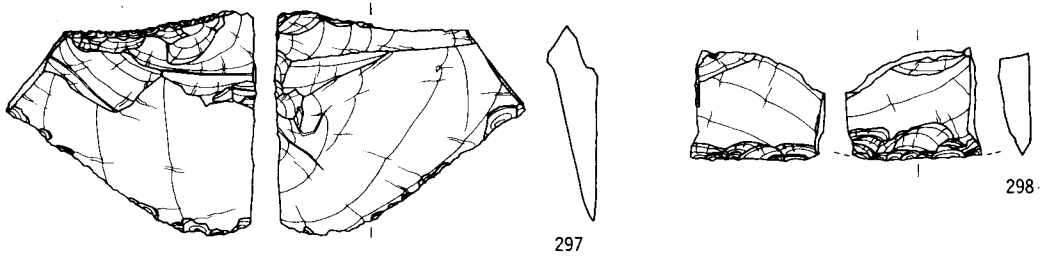
279



第193图 石器实测图(33)



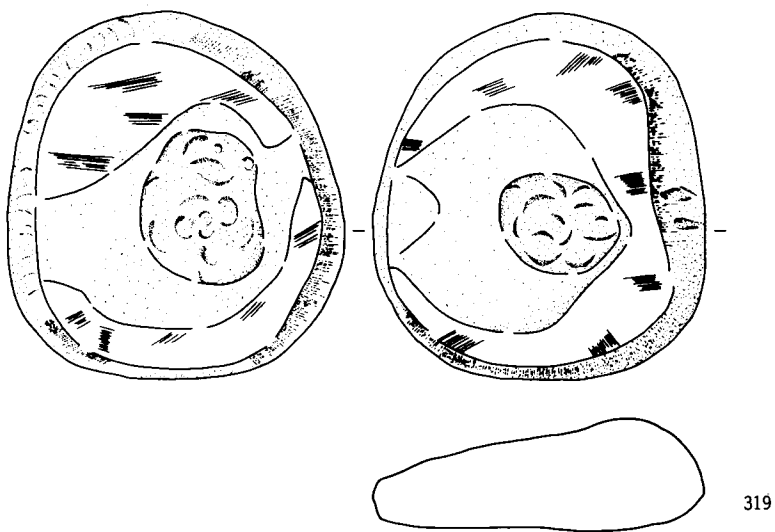
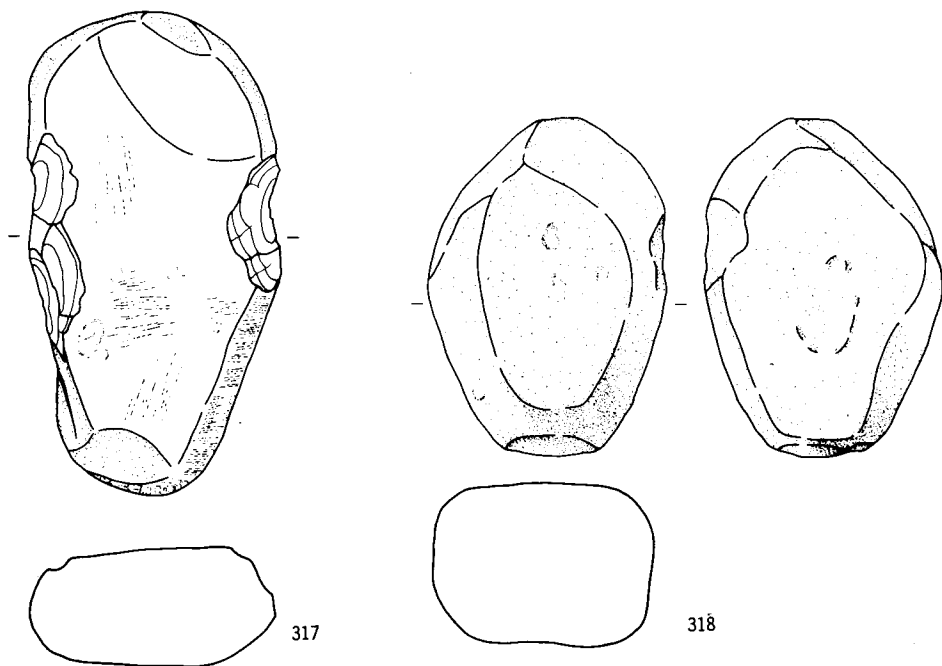
第194图 石器实测图(34)



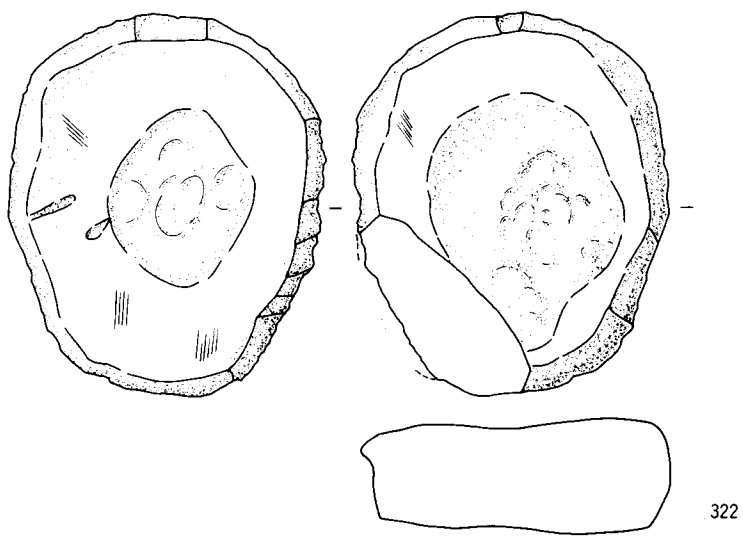
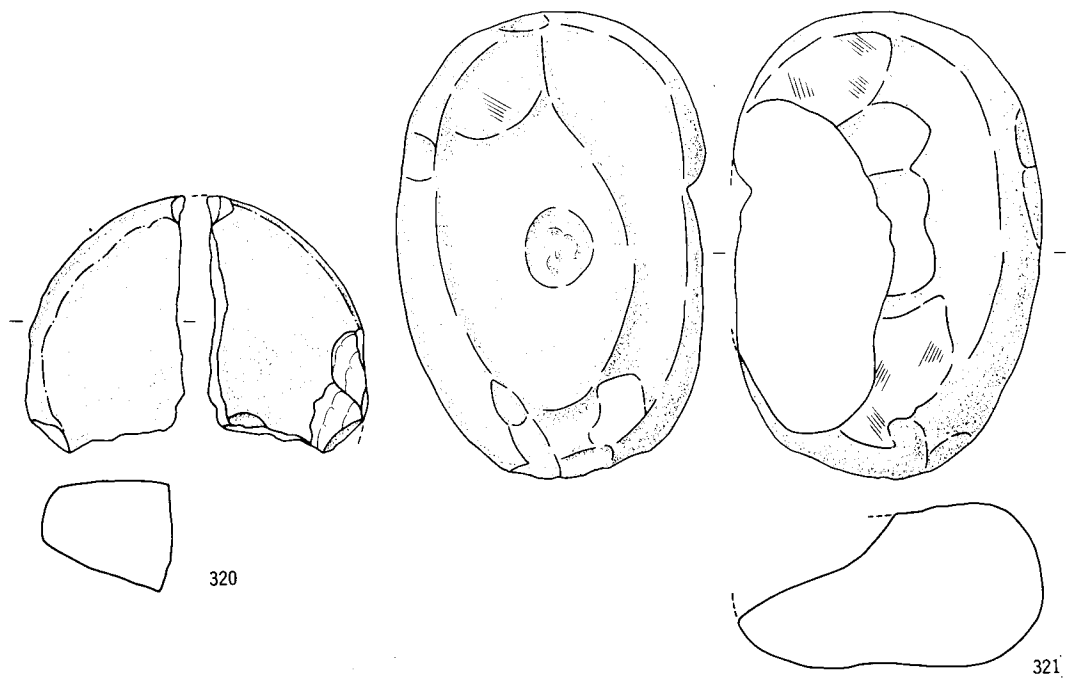
第195图 石器实测图(35)



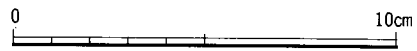
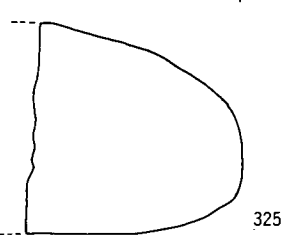
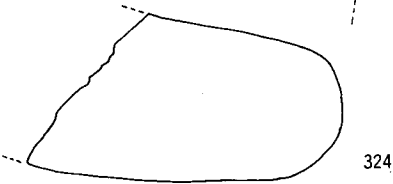
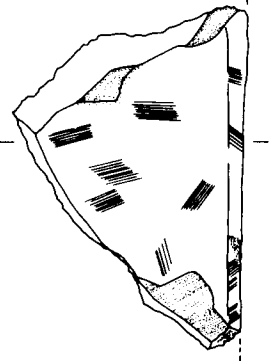
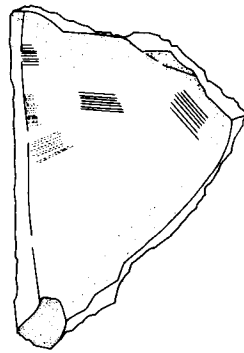
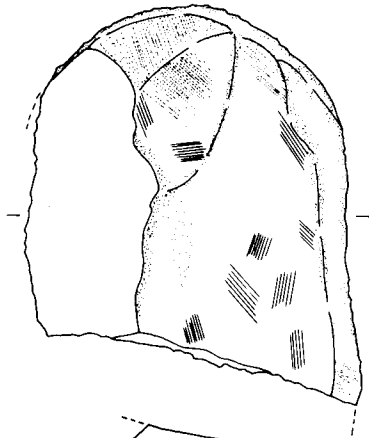
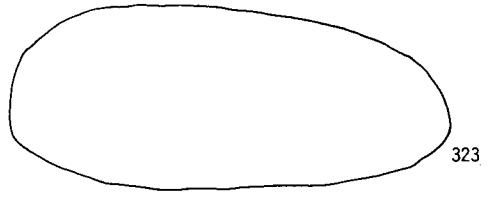
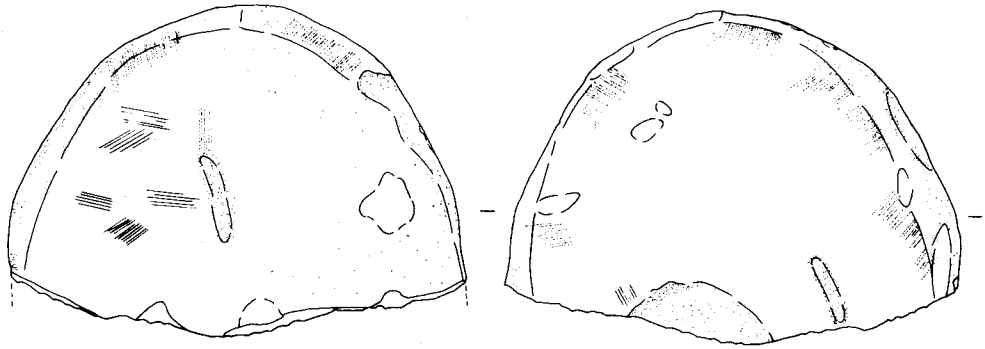
第196图 石器实测图(36)



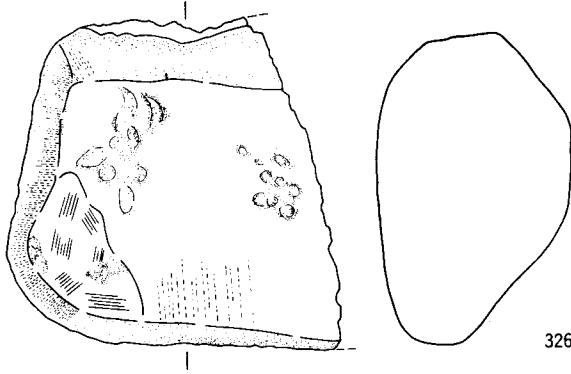
第197图 石器实测图(37)



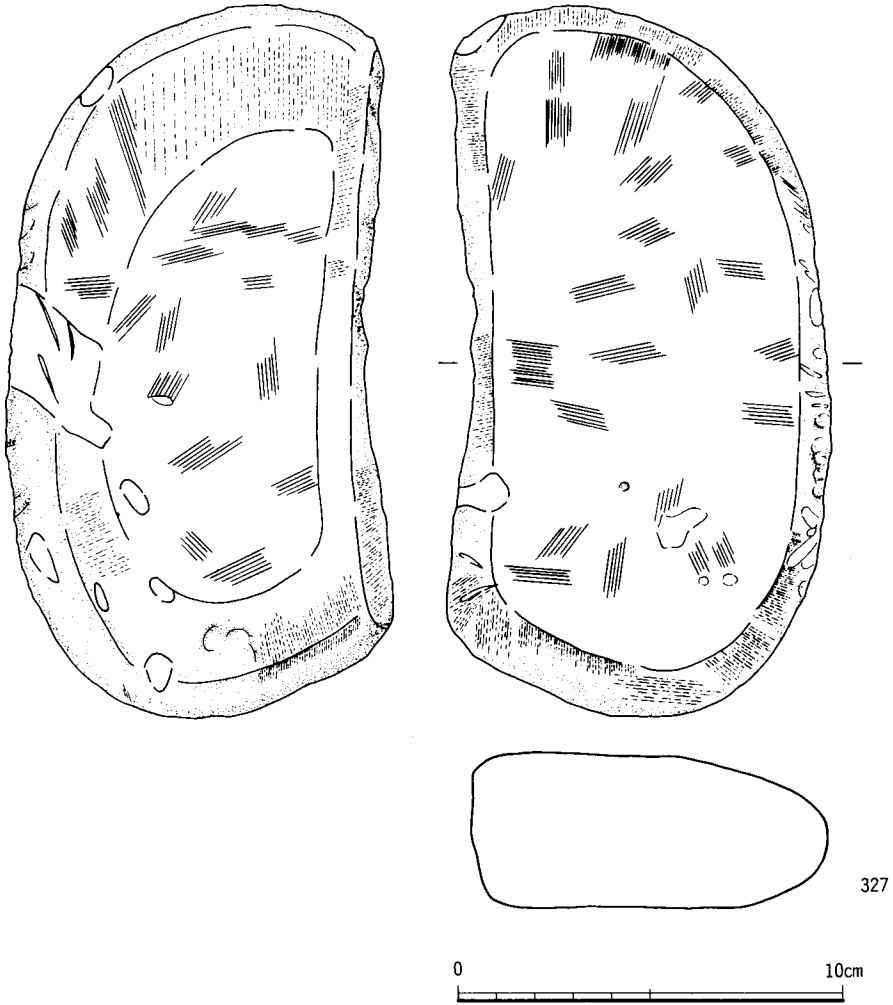
第198图 石器实测图(38)



第199图 石器实测图(39)



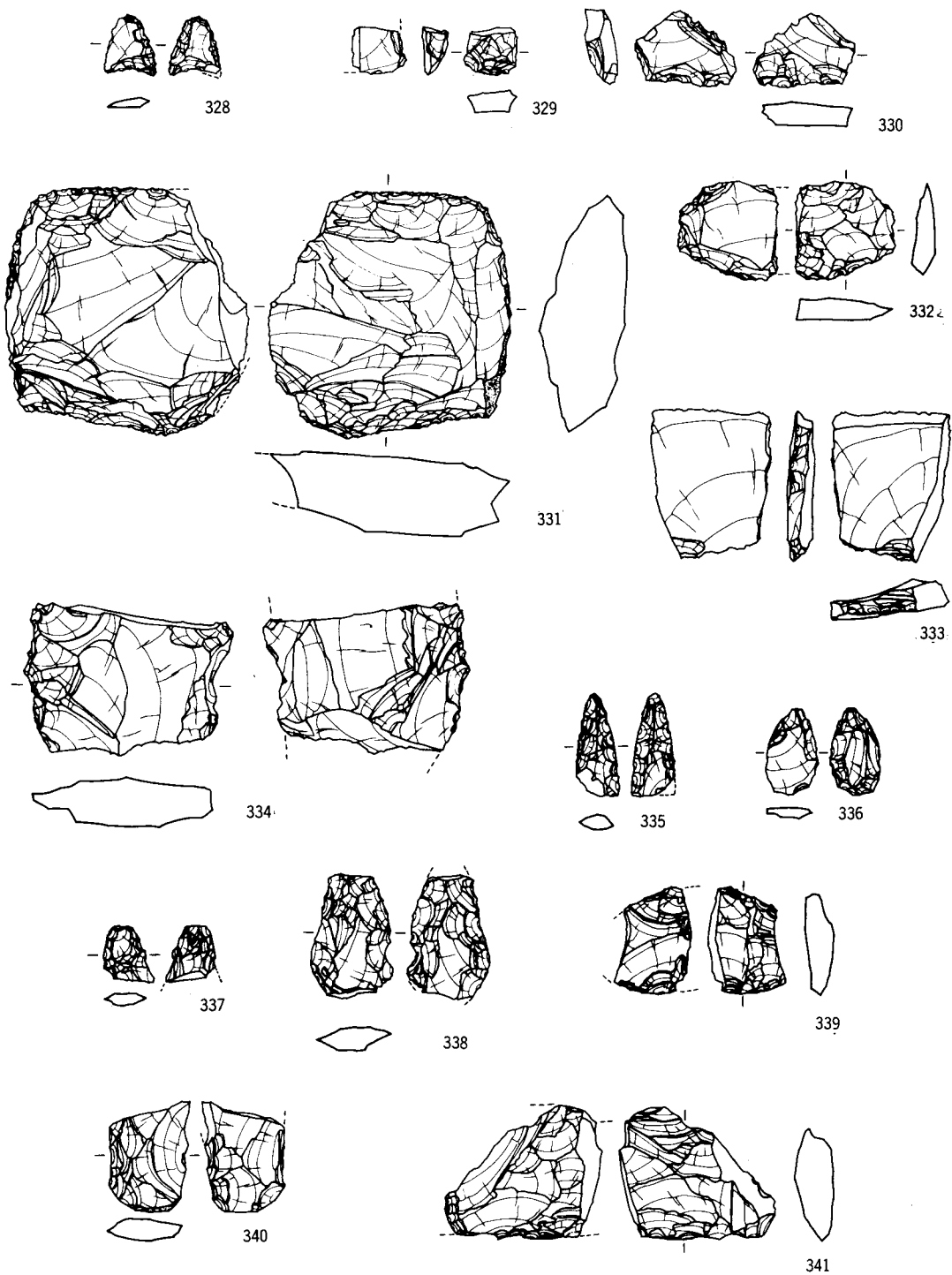
326



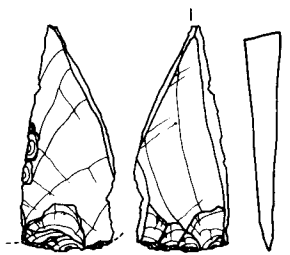
327

0 10cm

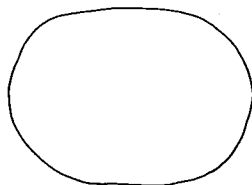
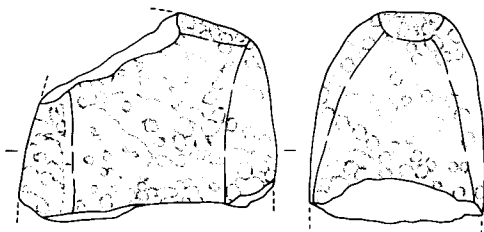
第200图 石器实测图(40)



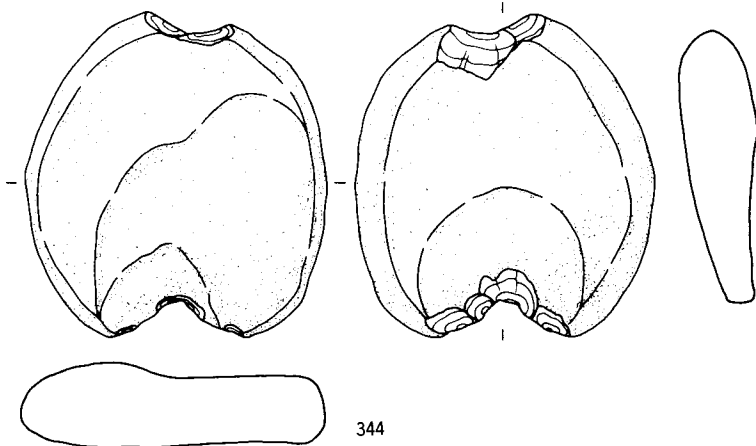
第201图 石器实测图(41)



342



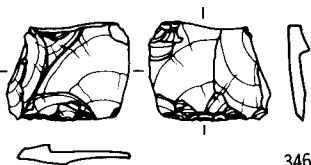
343



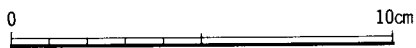
344



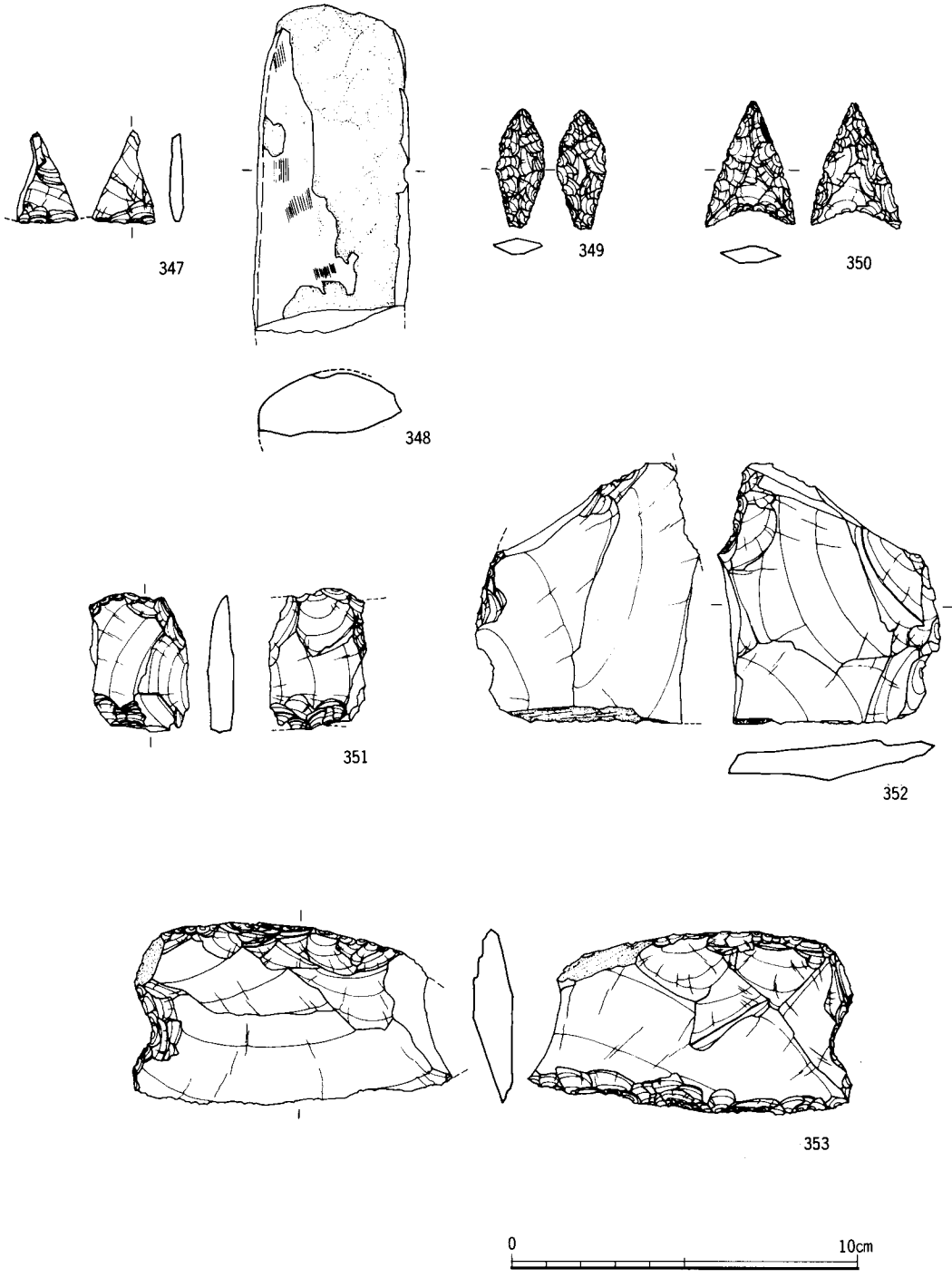
345



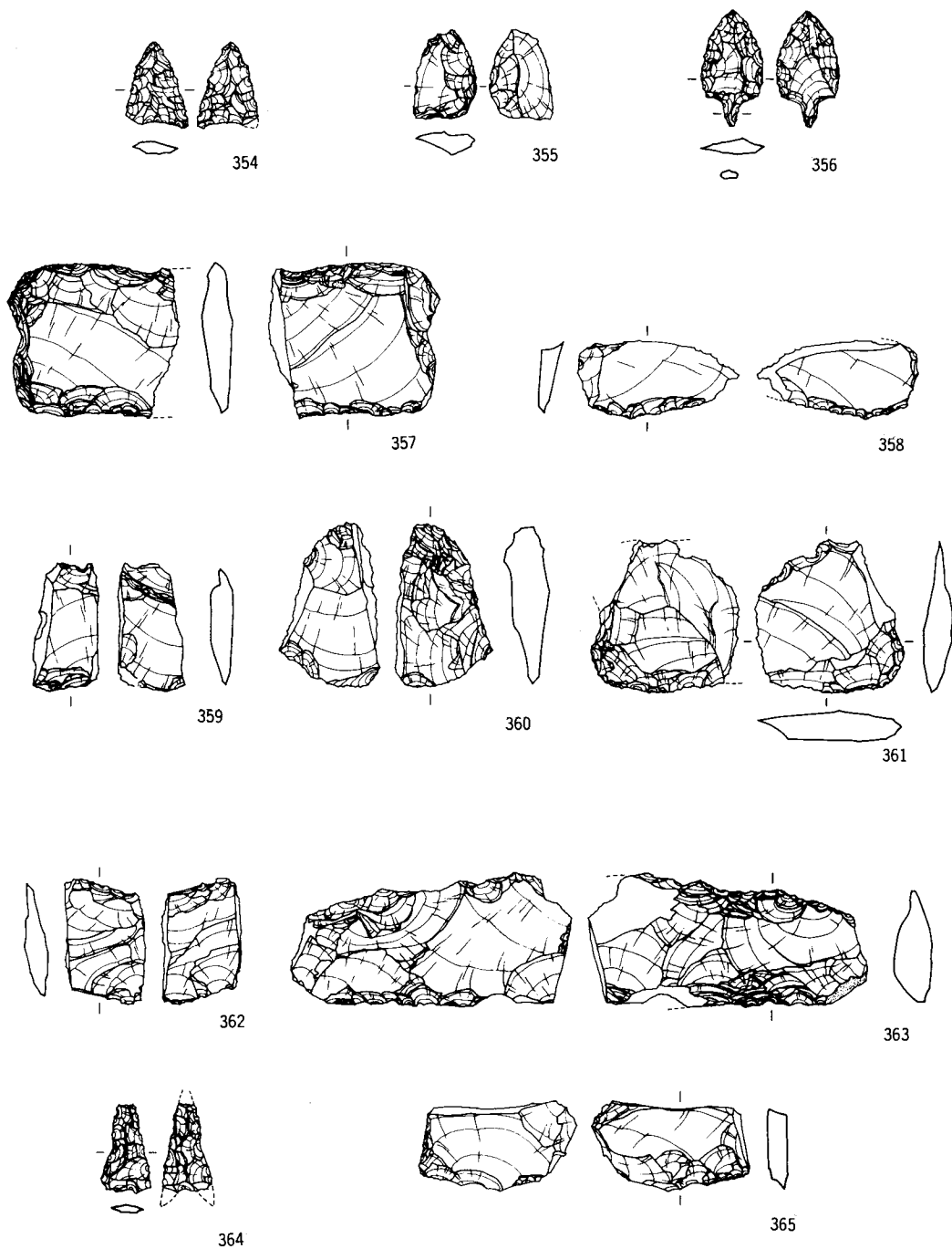
346



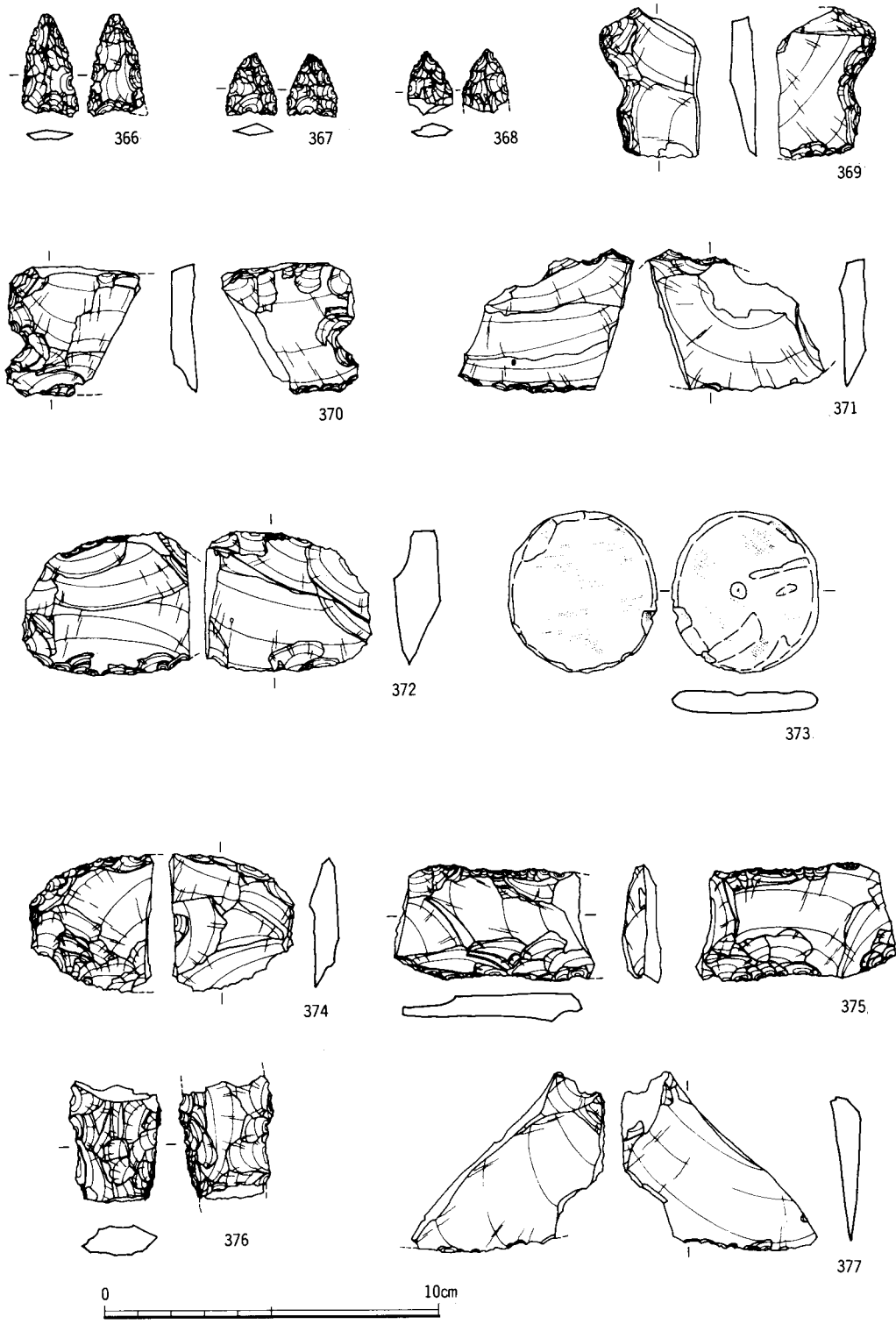
第202图 石器实测图(42)



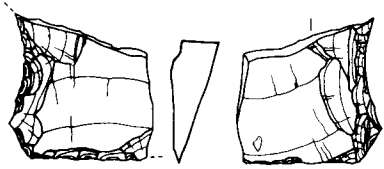
第203图 石器实测图(43)



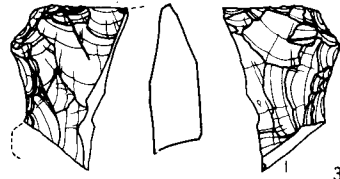
第204图 石器实测图(44)



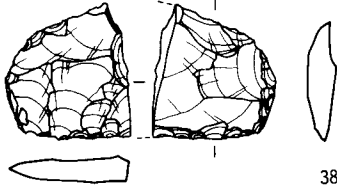
第205图 石器实测图(45)



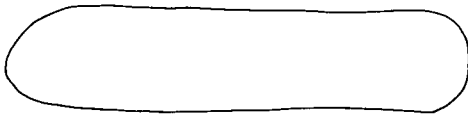
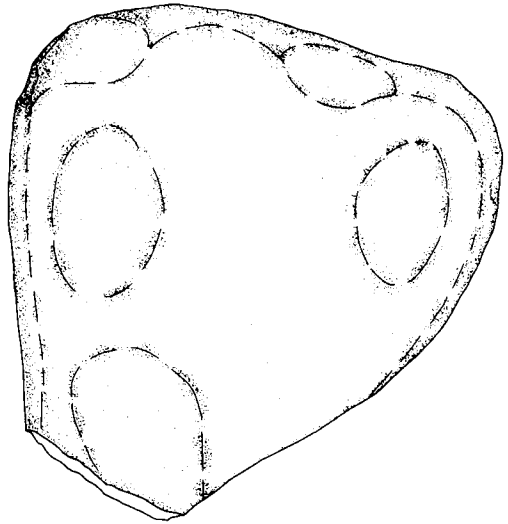
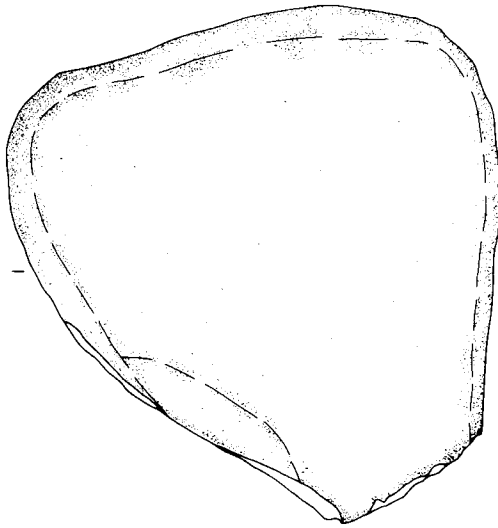
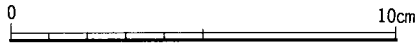
378



379



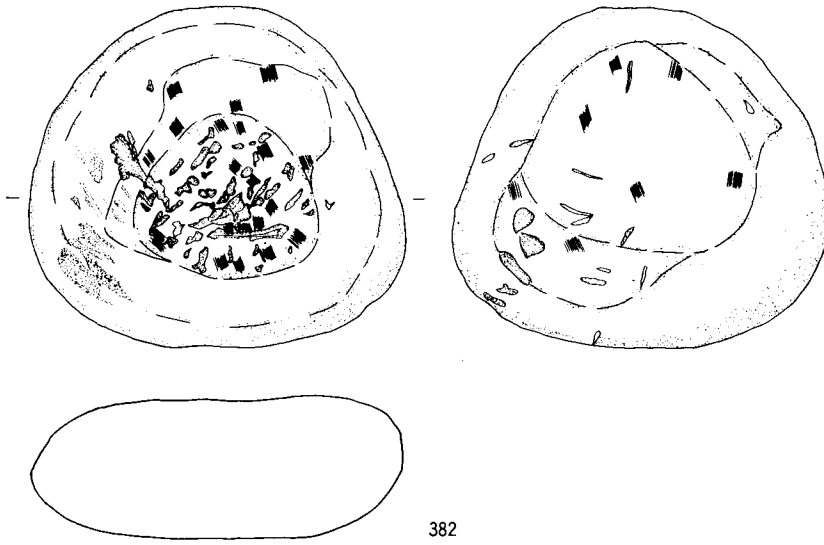
380



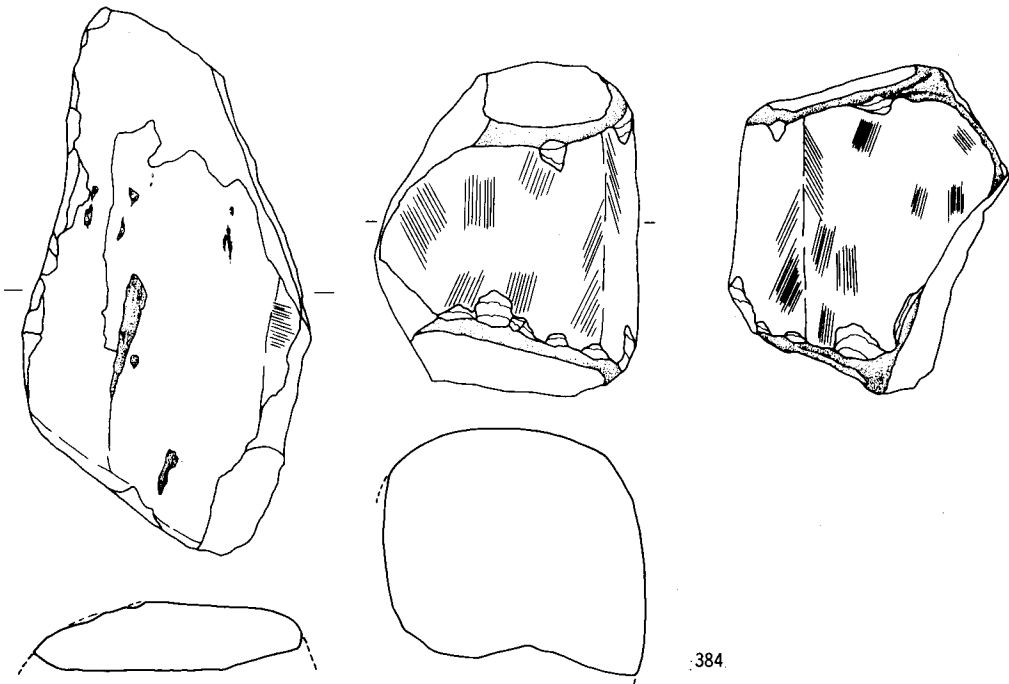
381



第206图 石器实测图(46)

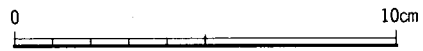


382

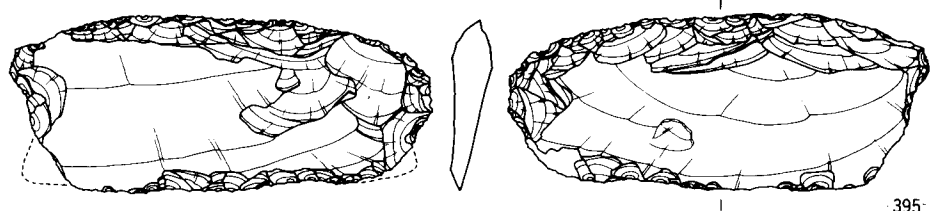
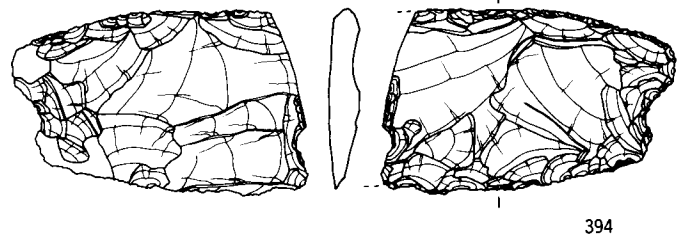
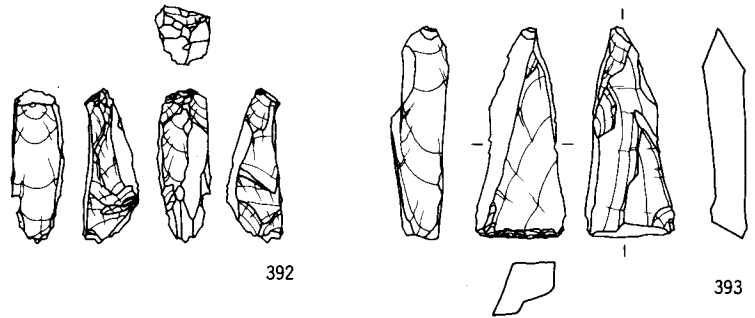
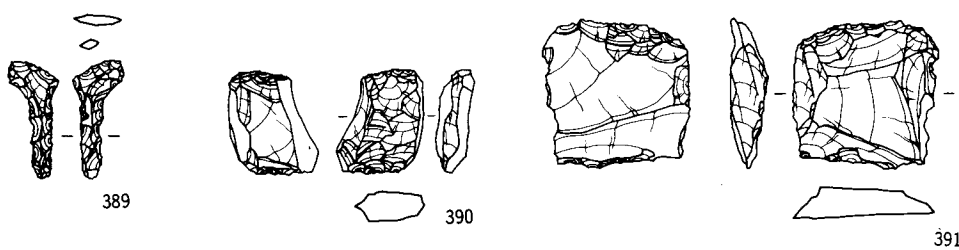
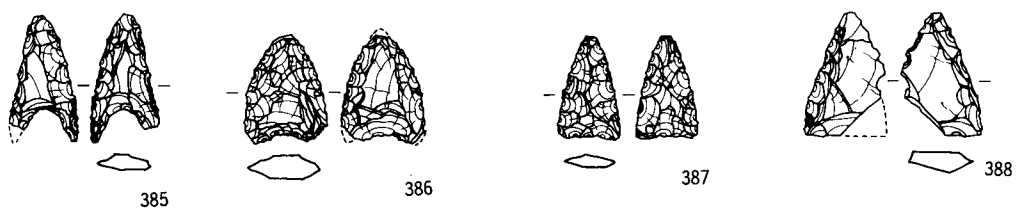


383

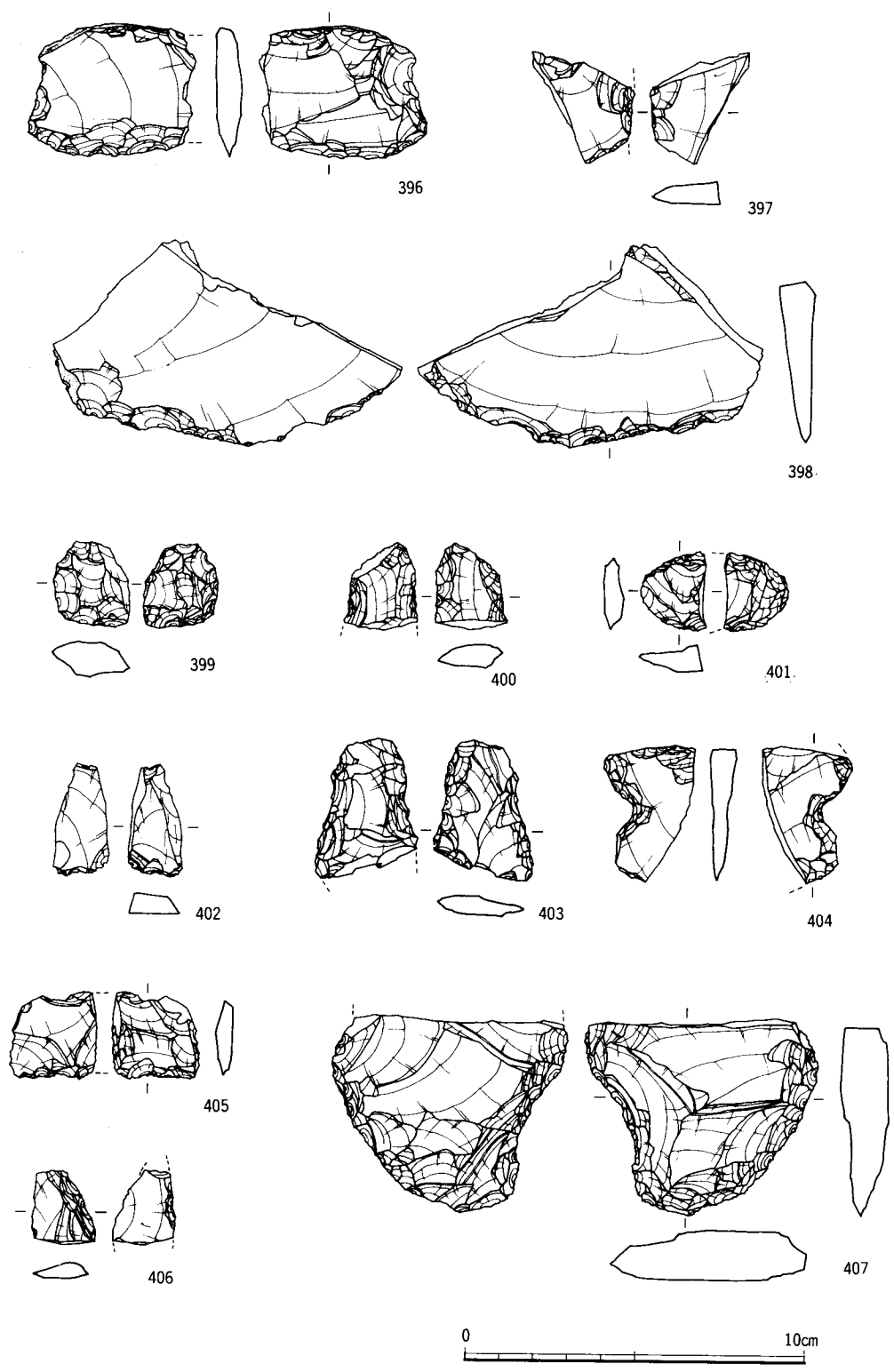
384



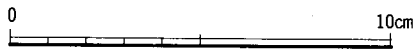
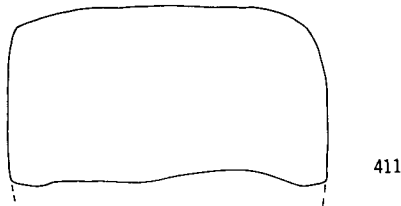
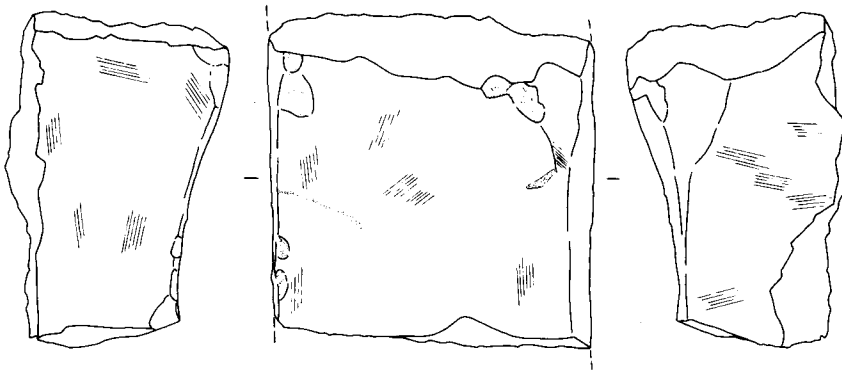
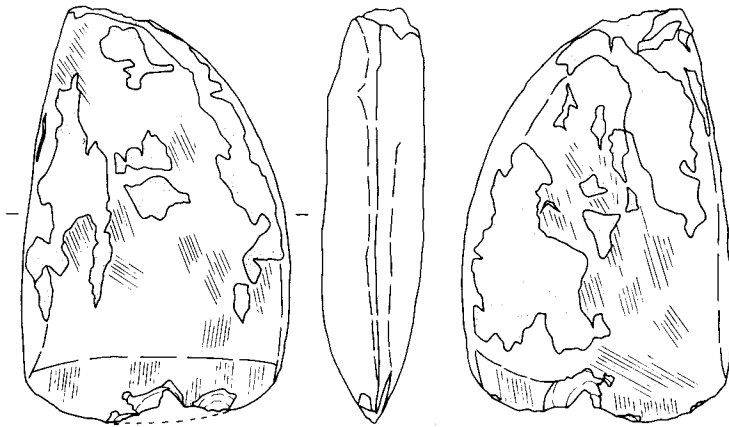
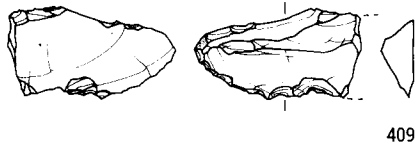
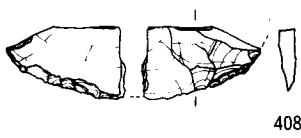
第207图 石器实测图(47)



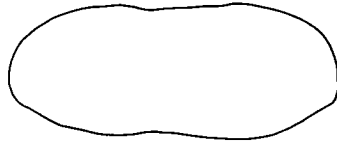
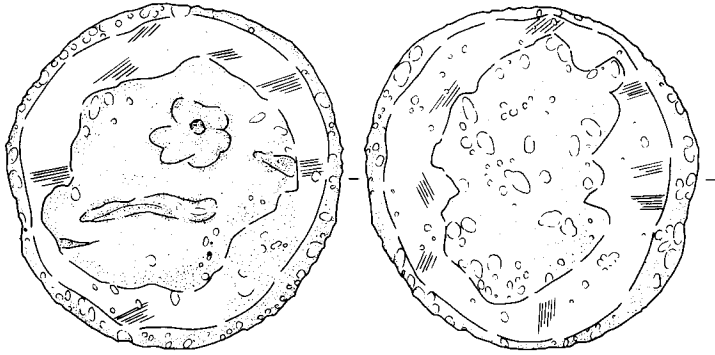
第208图 石器实测图(48)



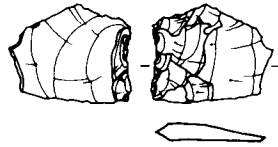
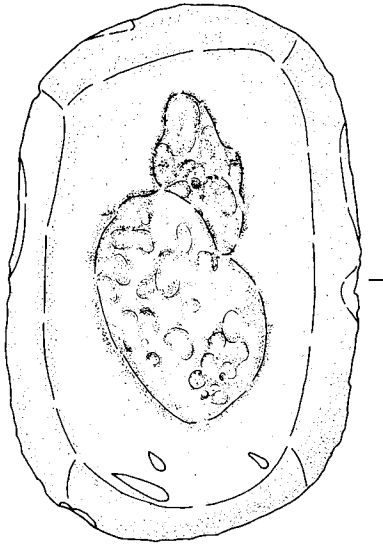
第209图 石器实测图(49)



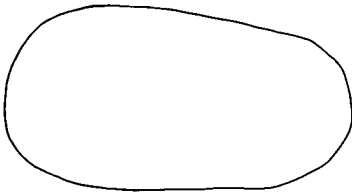
第210图 石器实测图(50)



412



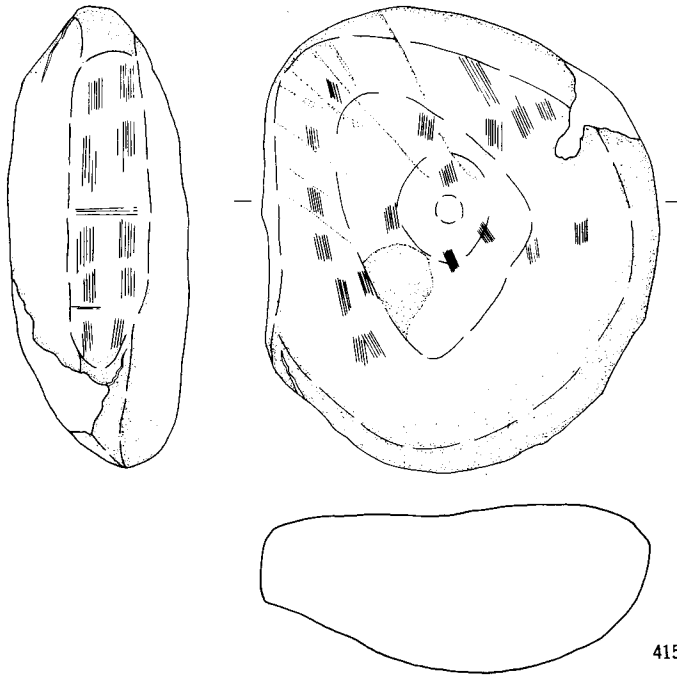
414



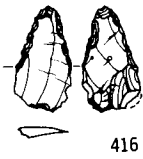
413



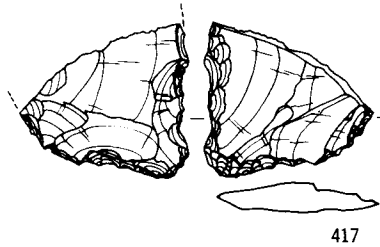
第211图 石器实测图(5)



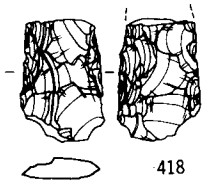
415



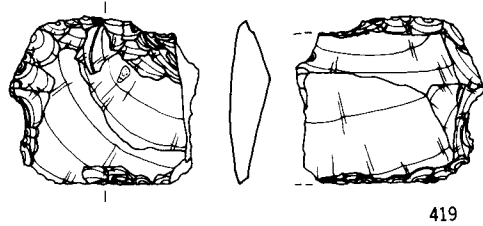
416



417



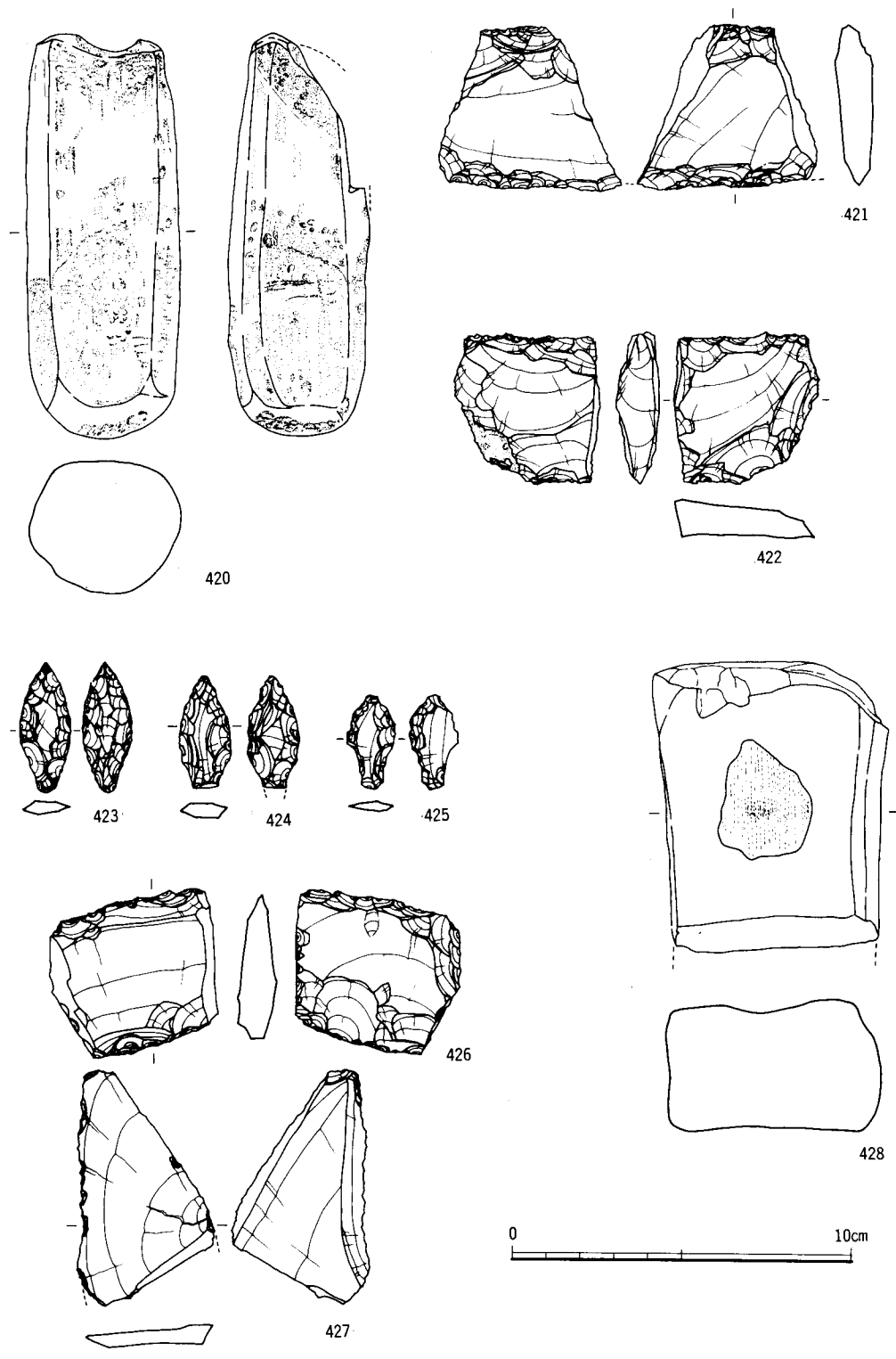
418



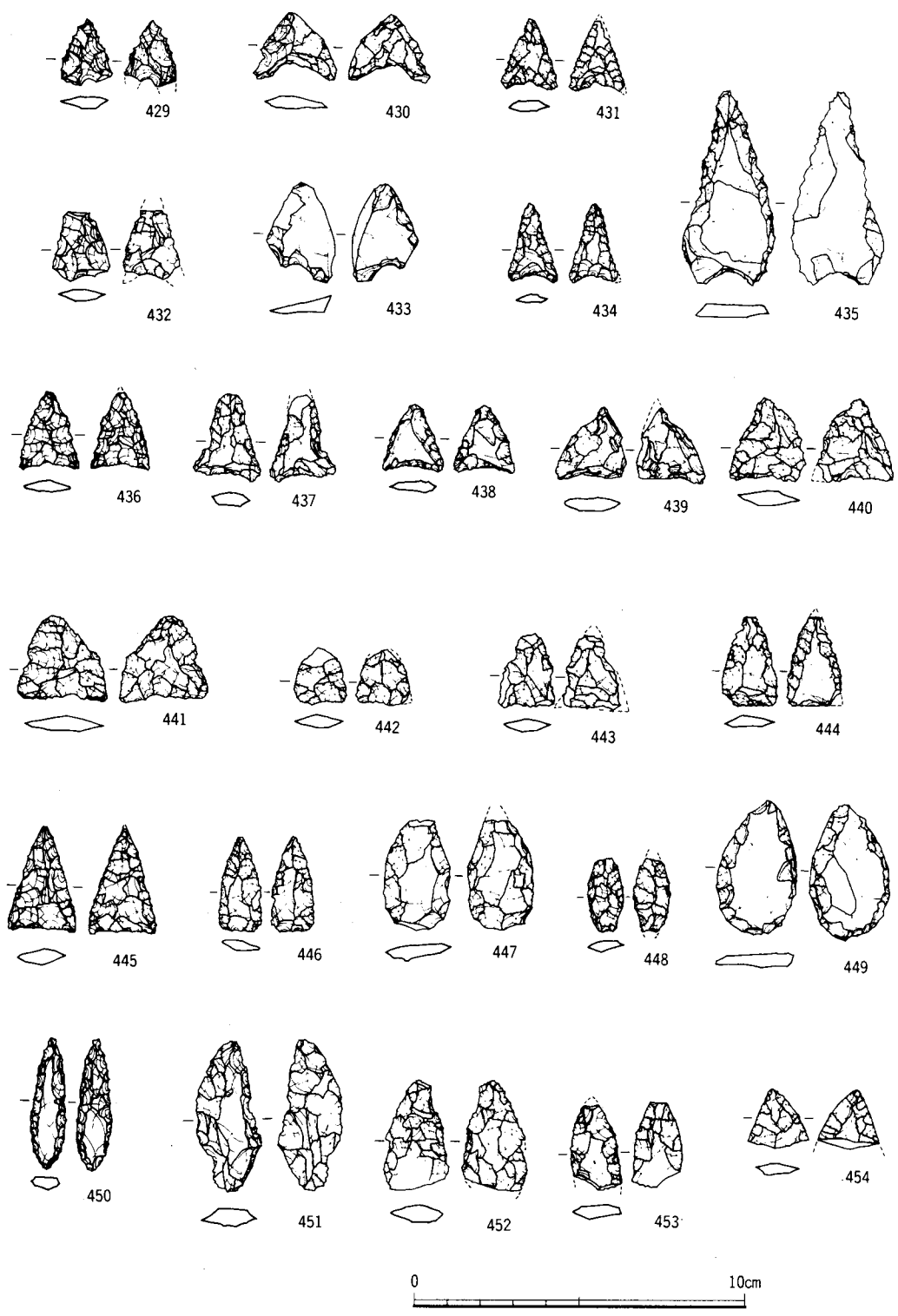
419



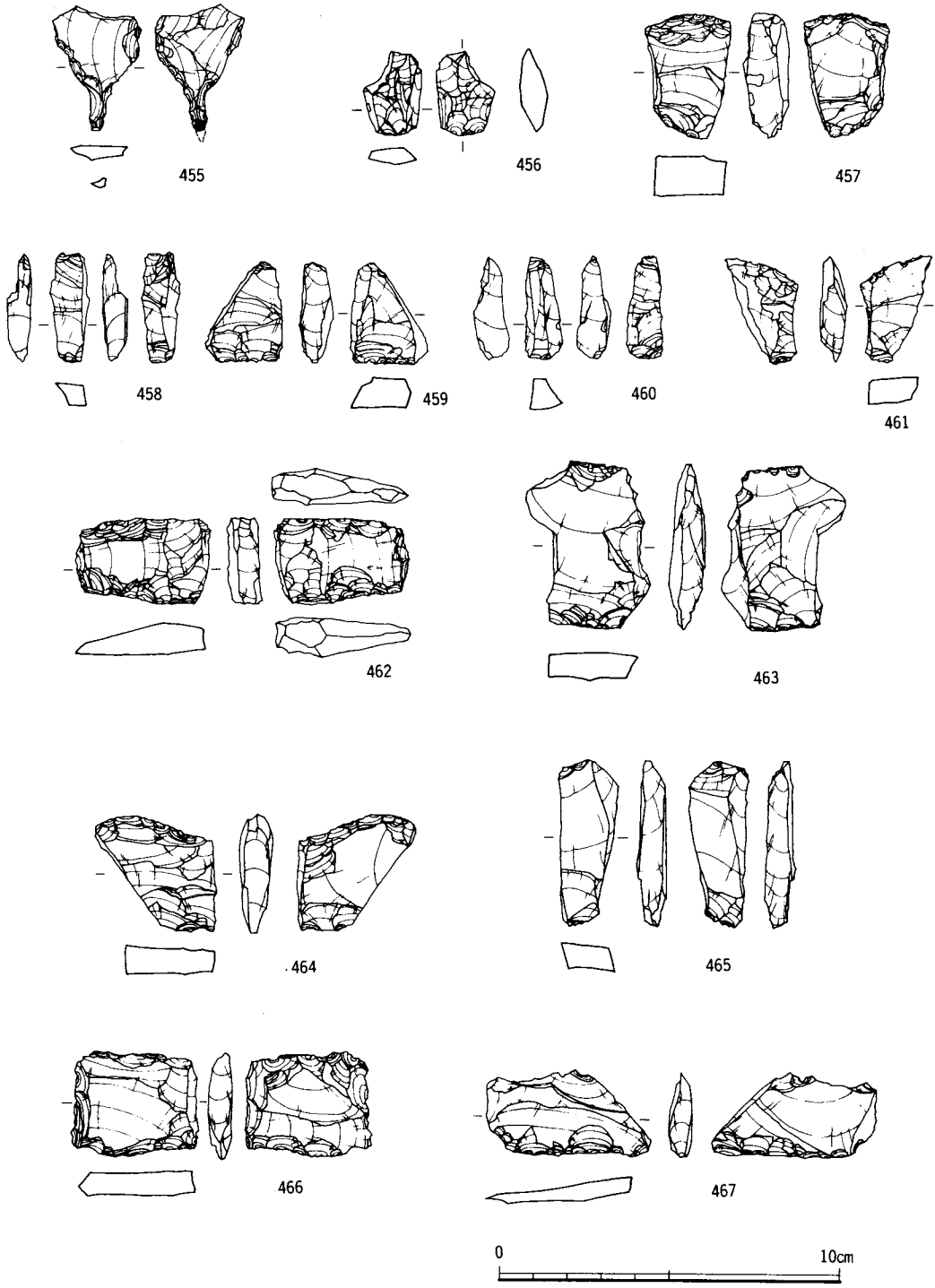
第212图 石器实测图(5)



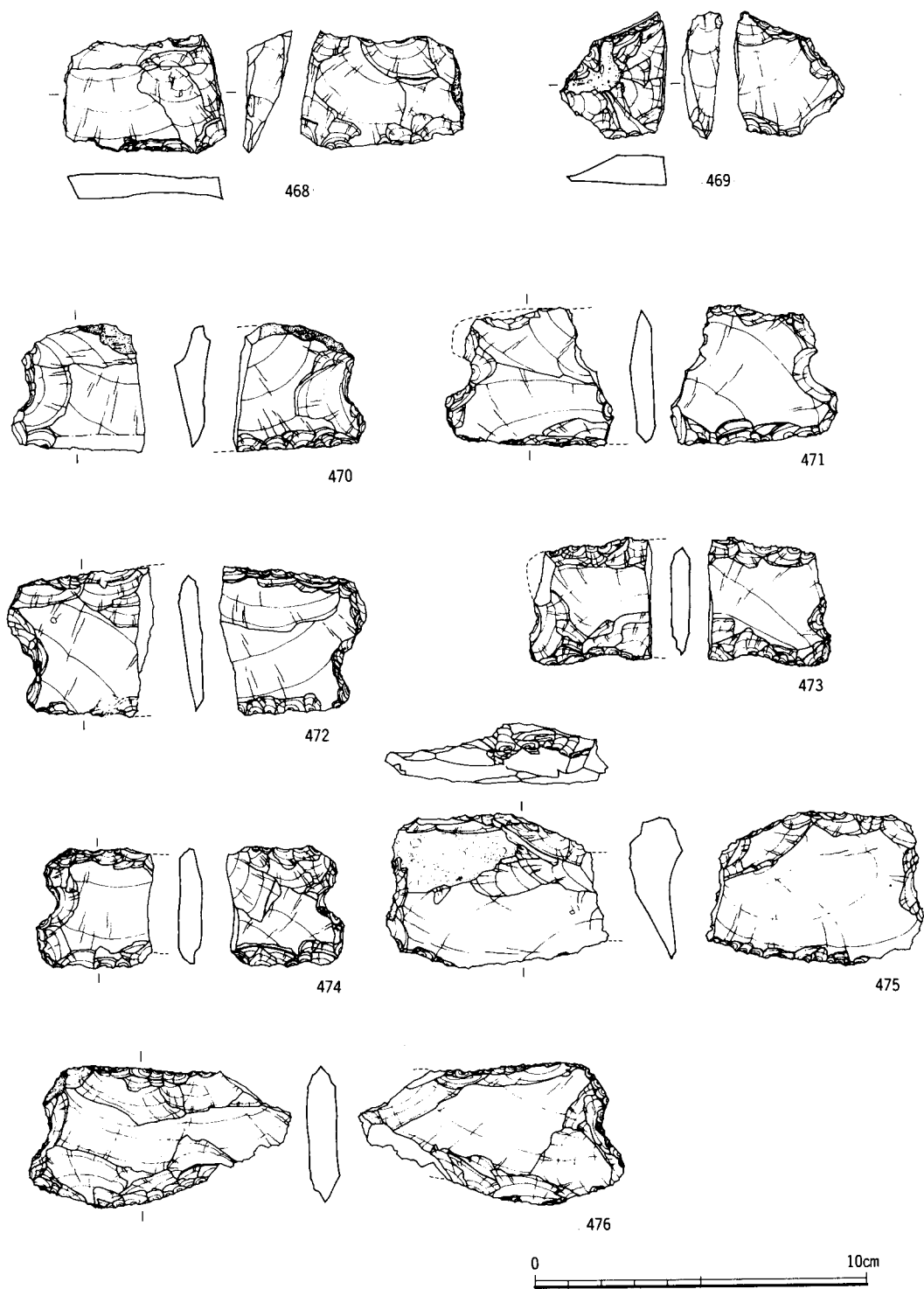
第213图 石器实测图(53)



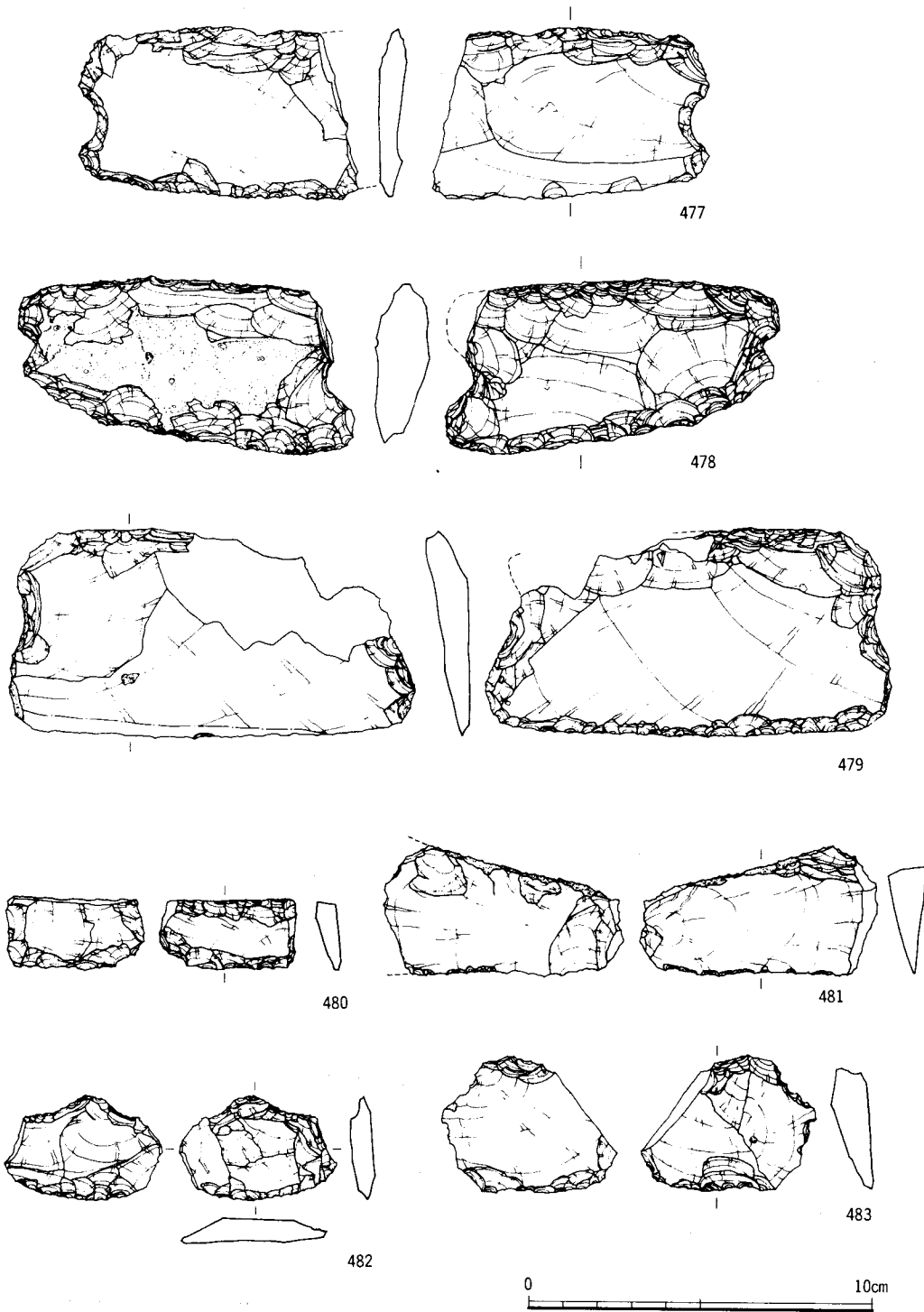
第214图 石器实测图(54)



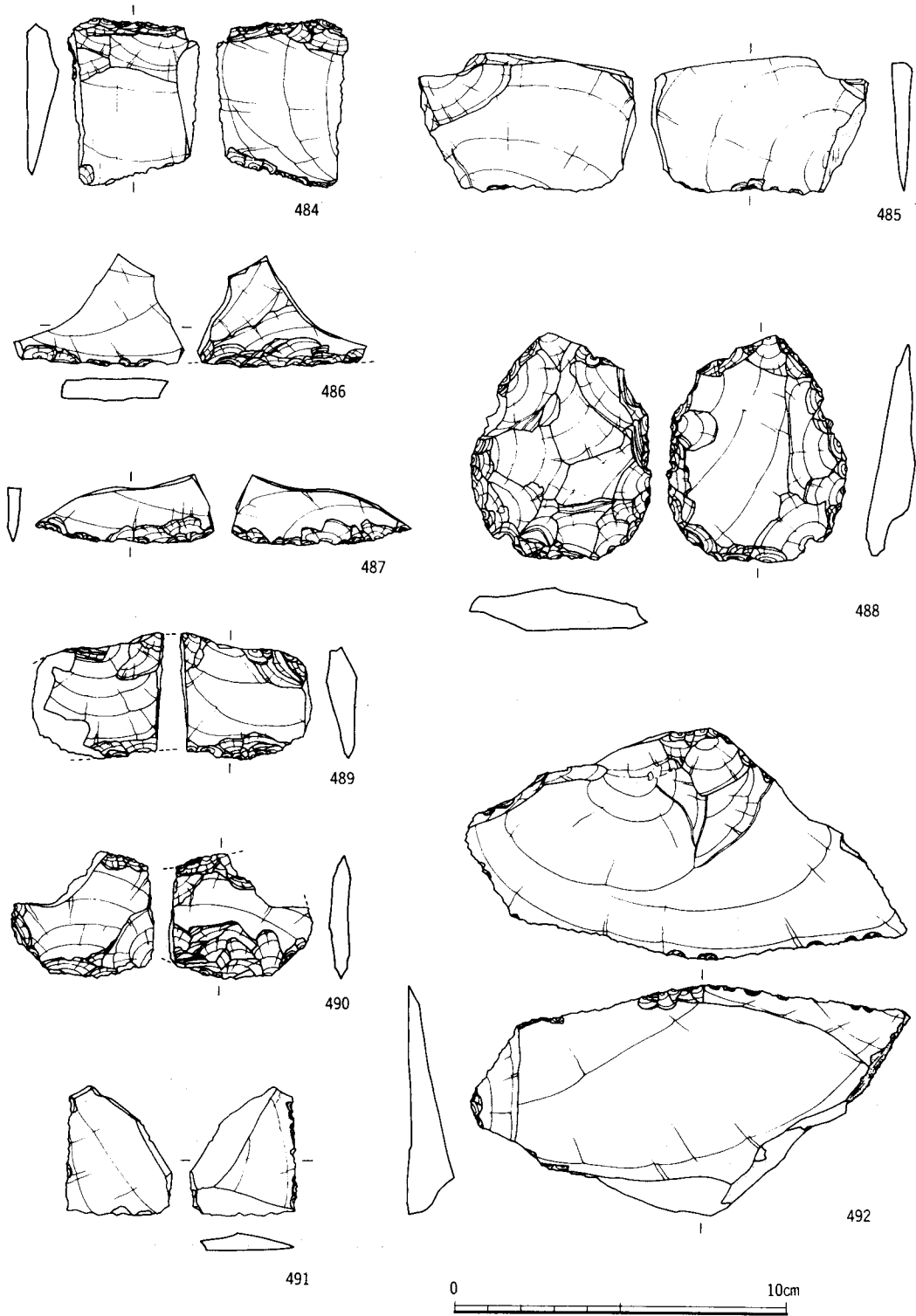
第215图 石器实测图(55)



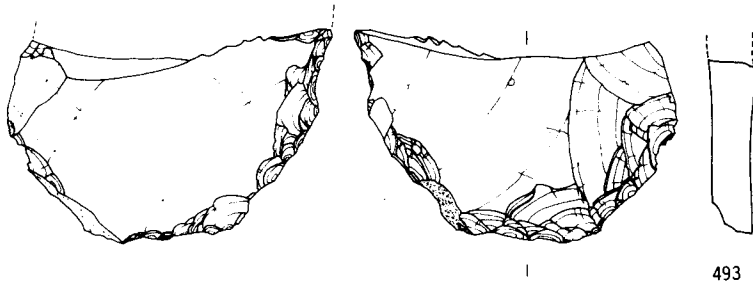
第216图 石器实测图(56)



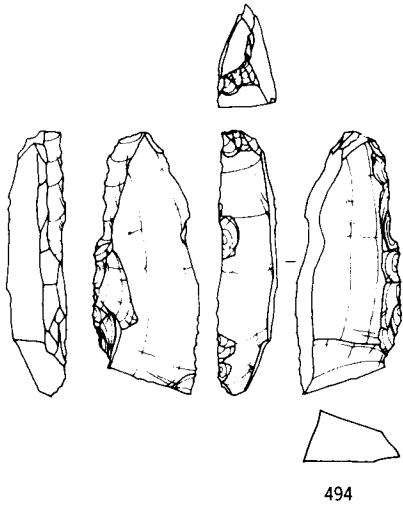
第217图 石器实测图(57)



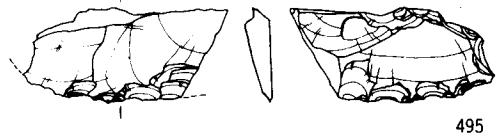
第218图 石器实测图(58)



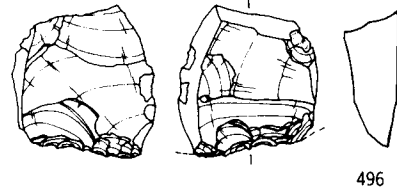
493



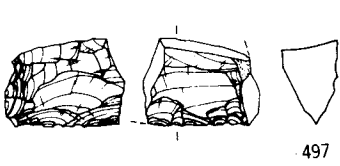
494



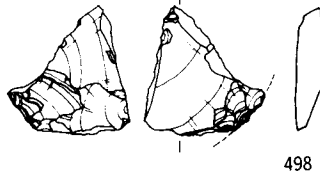
495



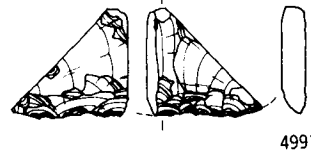
496



497



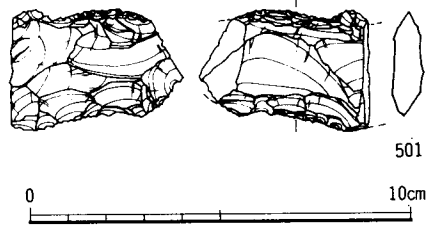
498



499



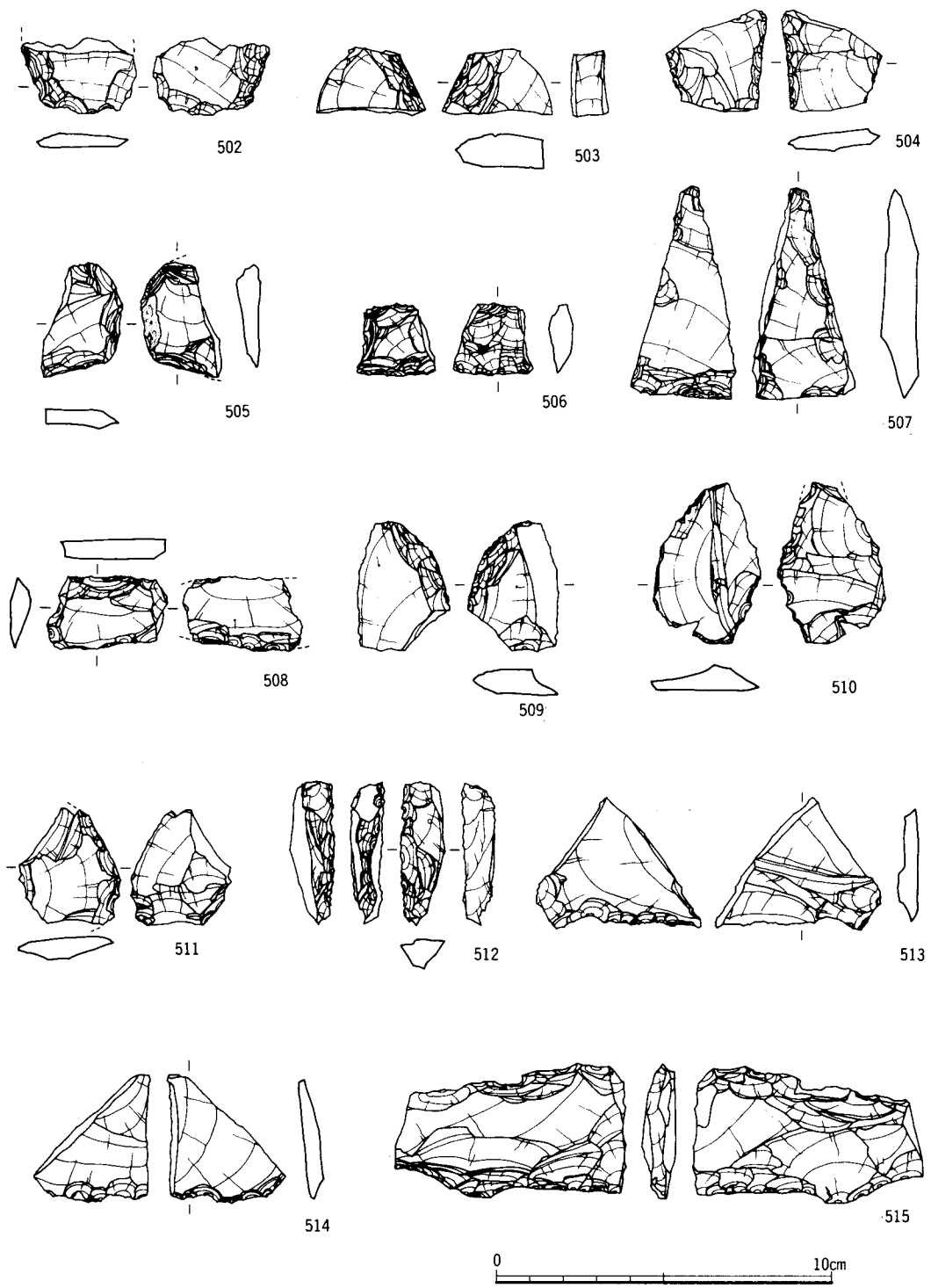
500



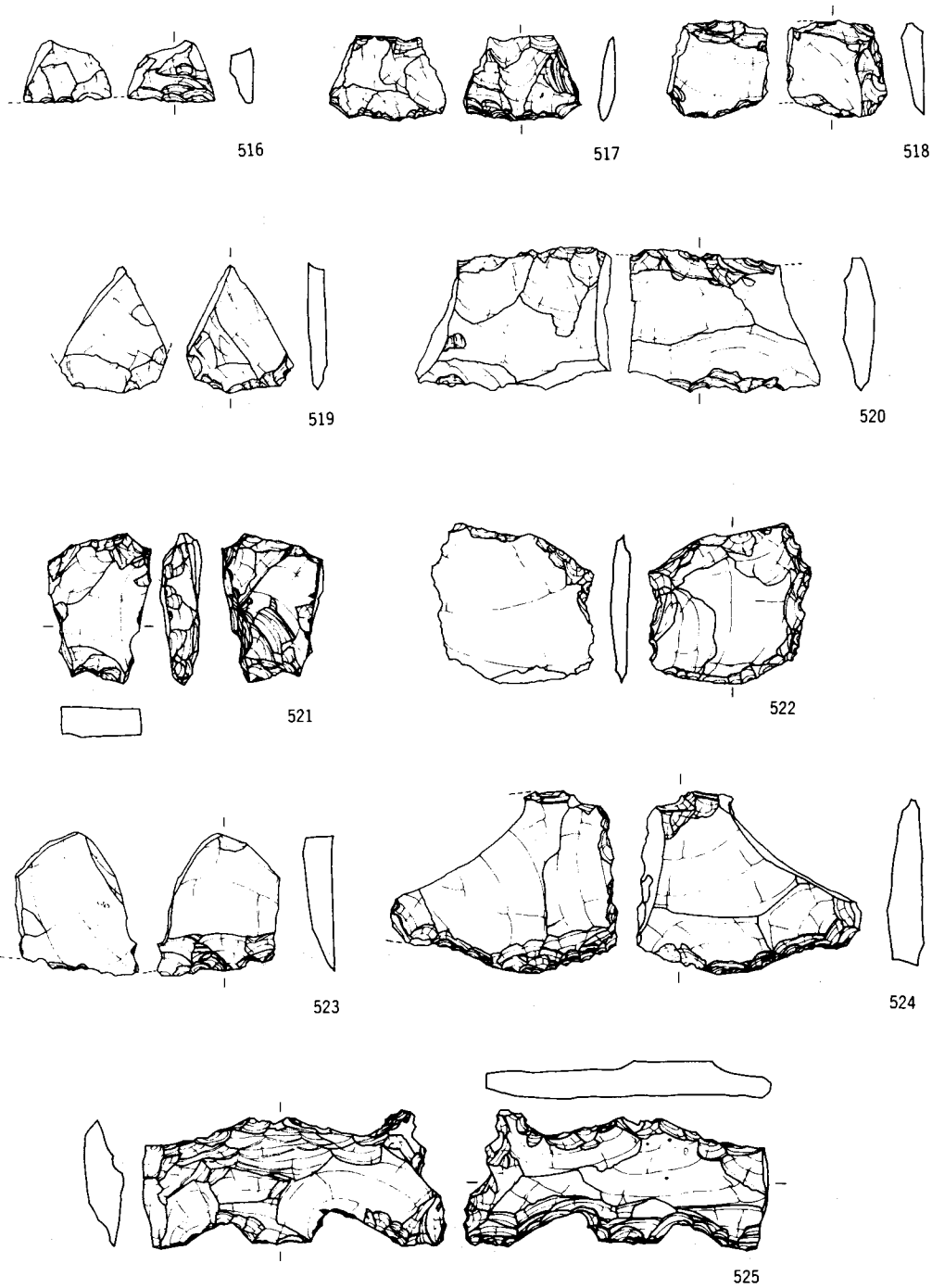
501



第219图 石器实测图(59)

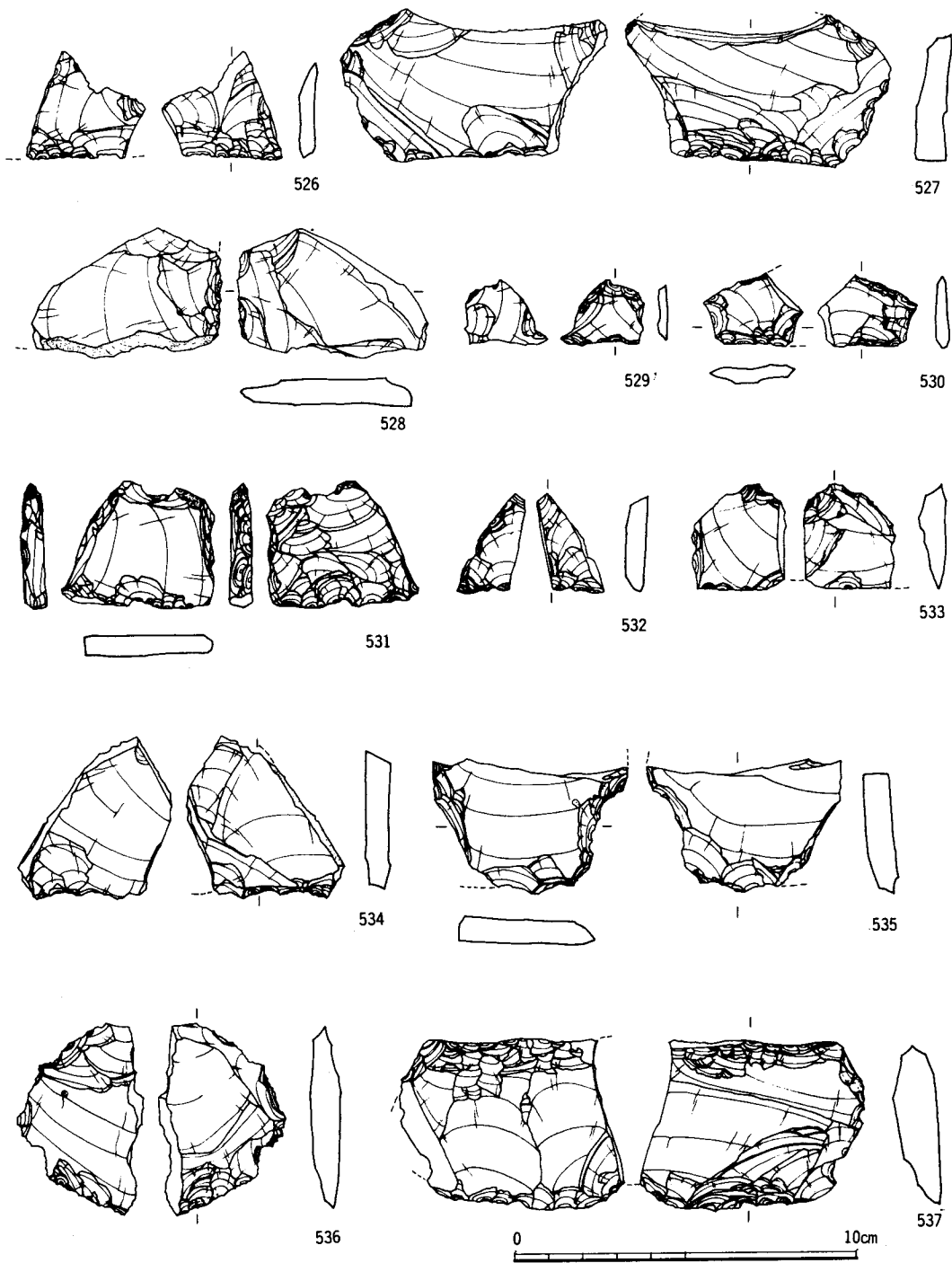


第220图 石器实测图(60)

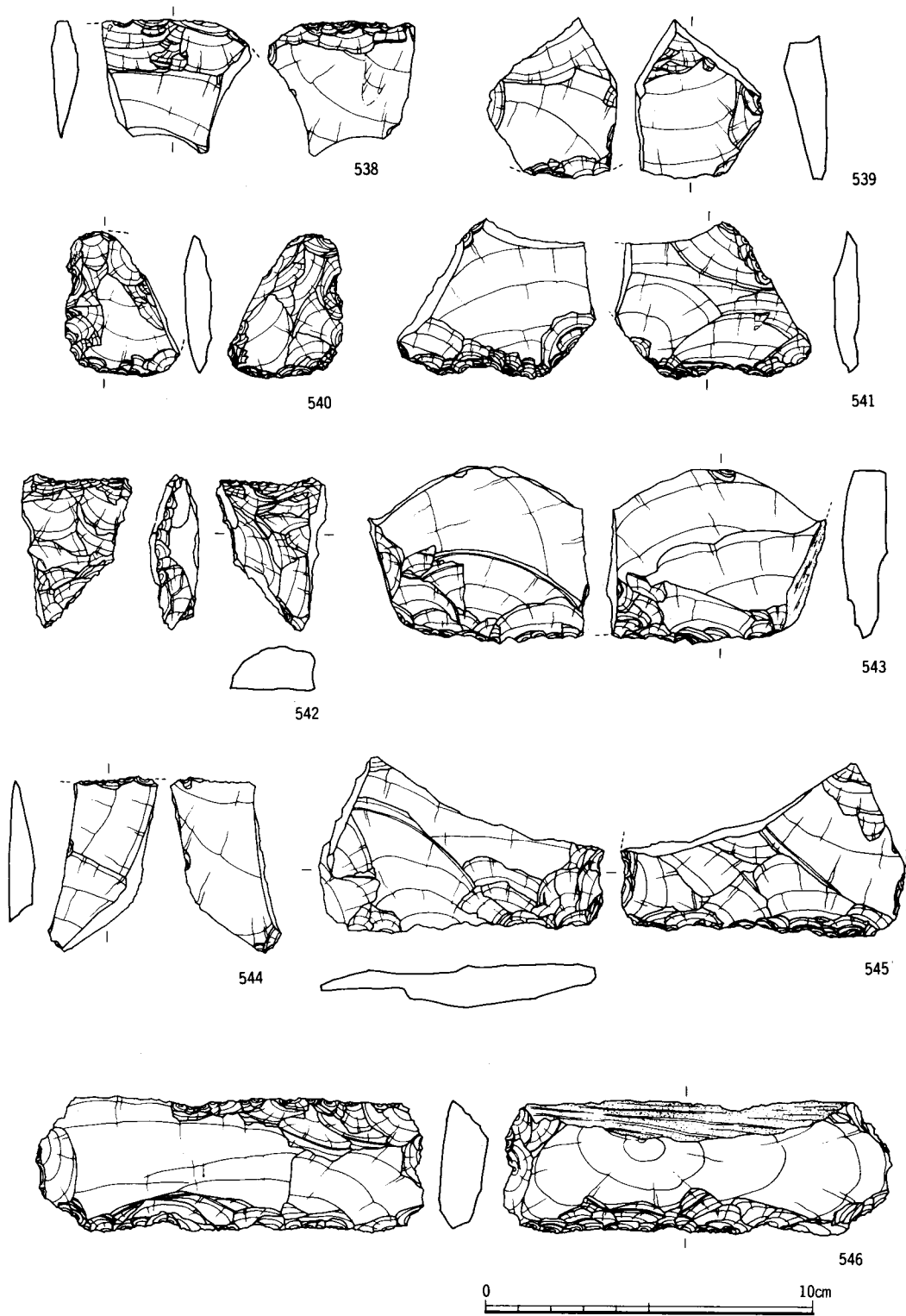


0 10cm

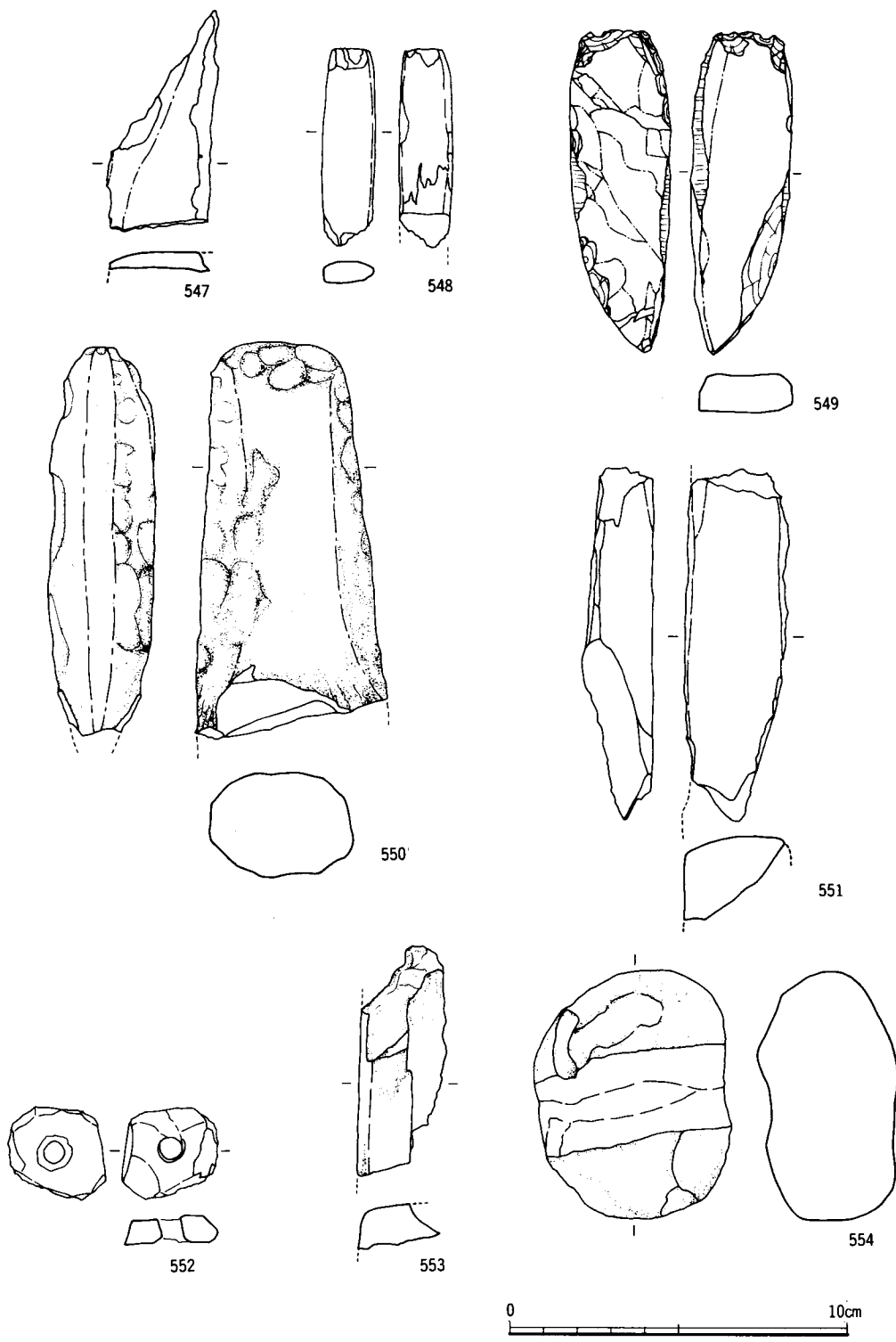
第221图 石器实测图(6)



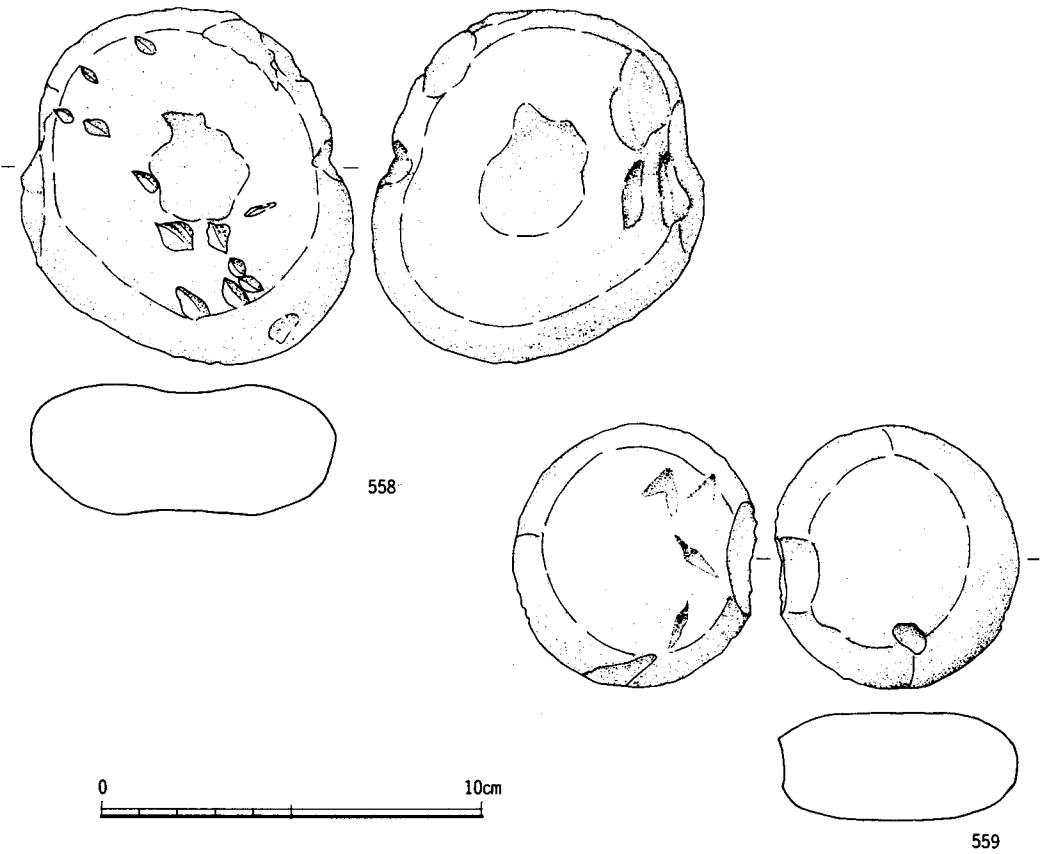
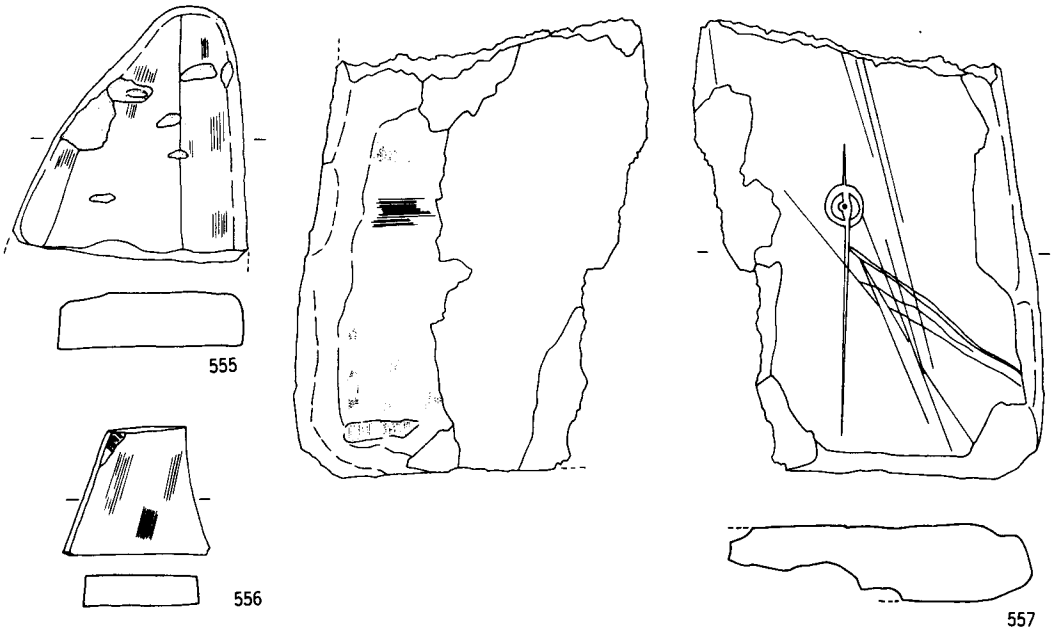
第222图 石器实测图(62)



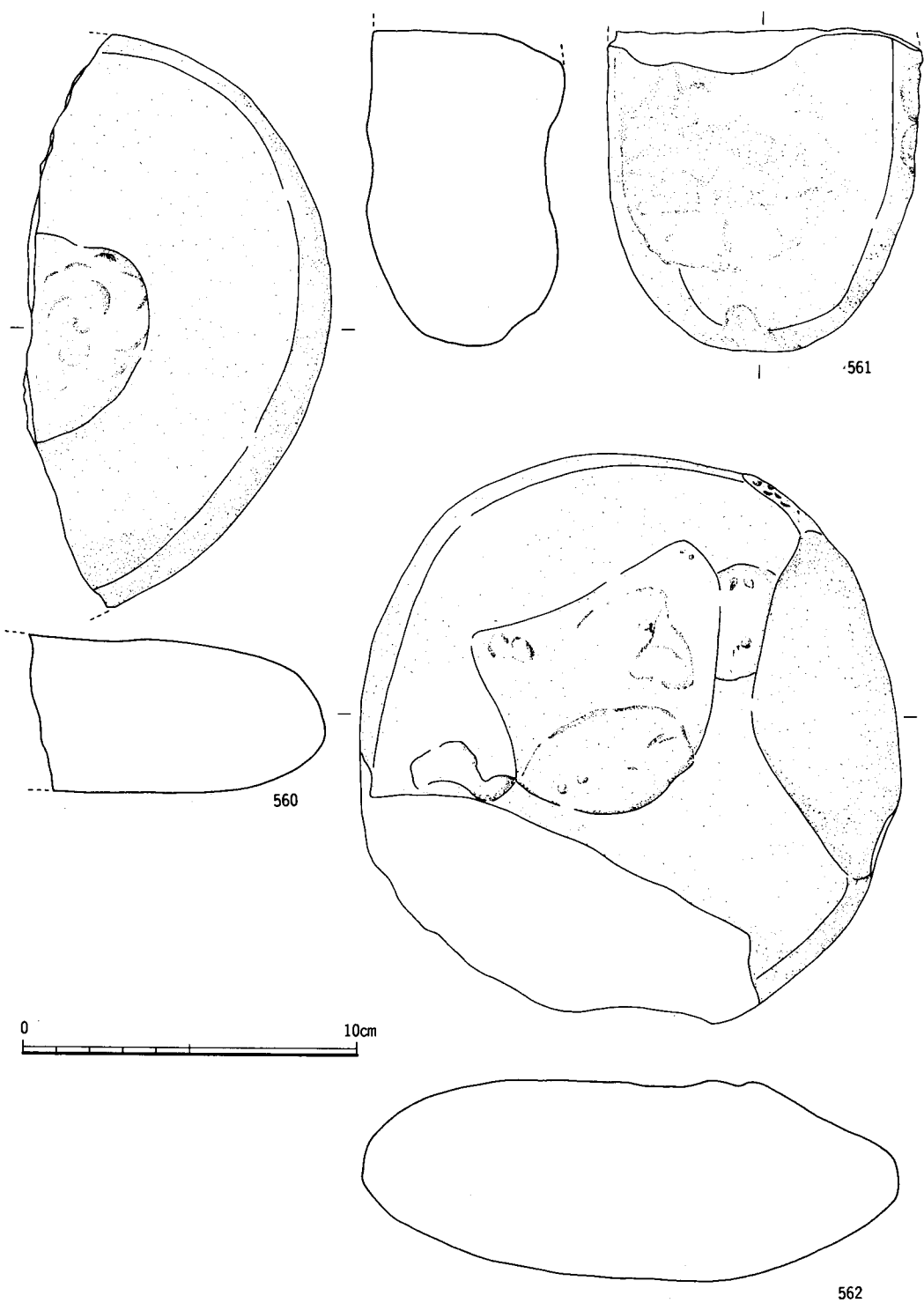
第223图 石器实测图(63)



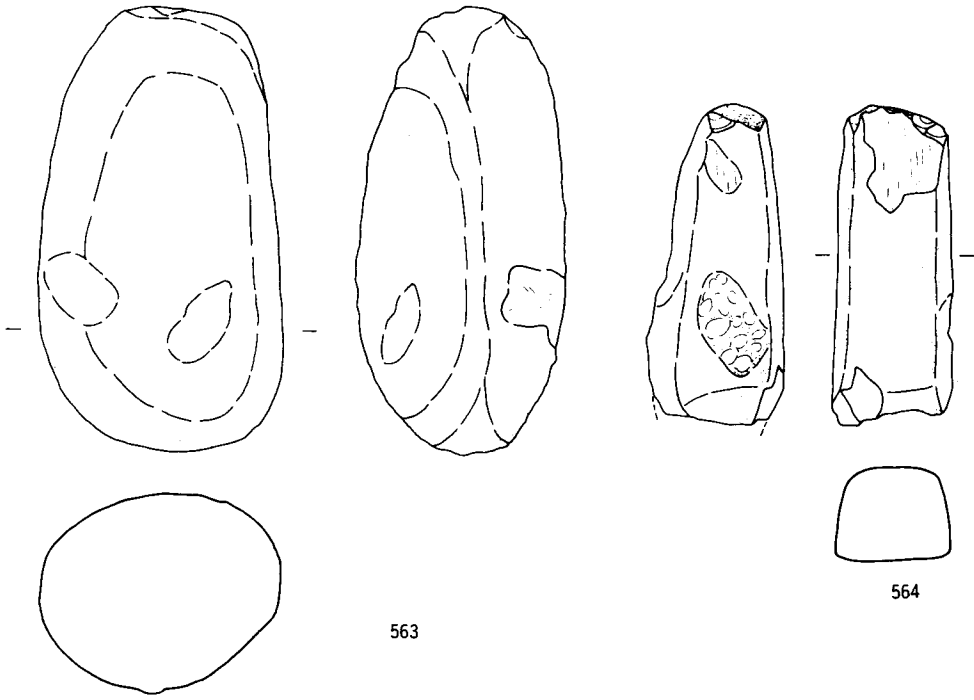
第224图 石器实测图(64)



第225图 石器实测图(65)

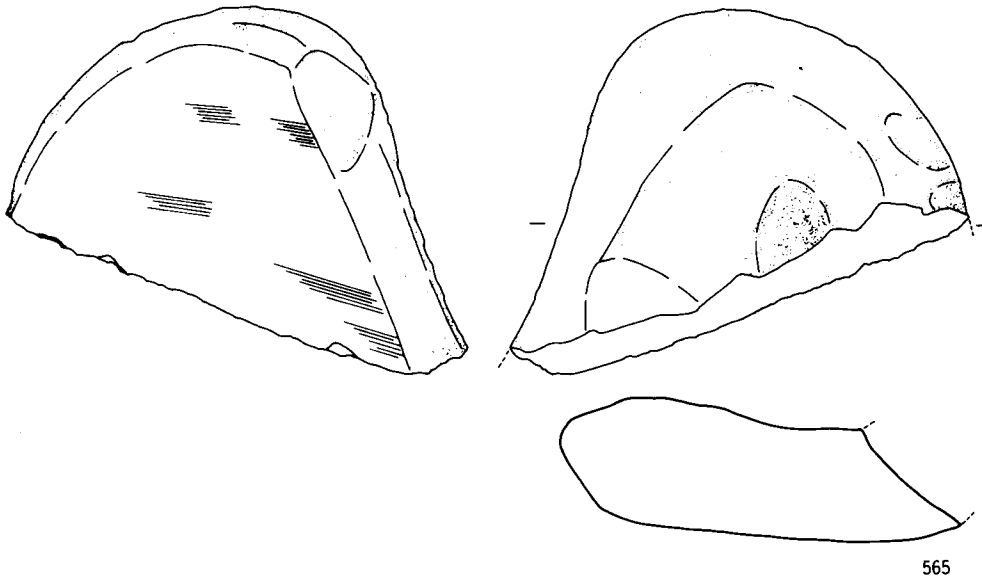


第226图 石器实测图(66)



563

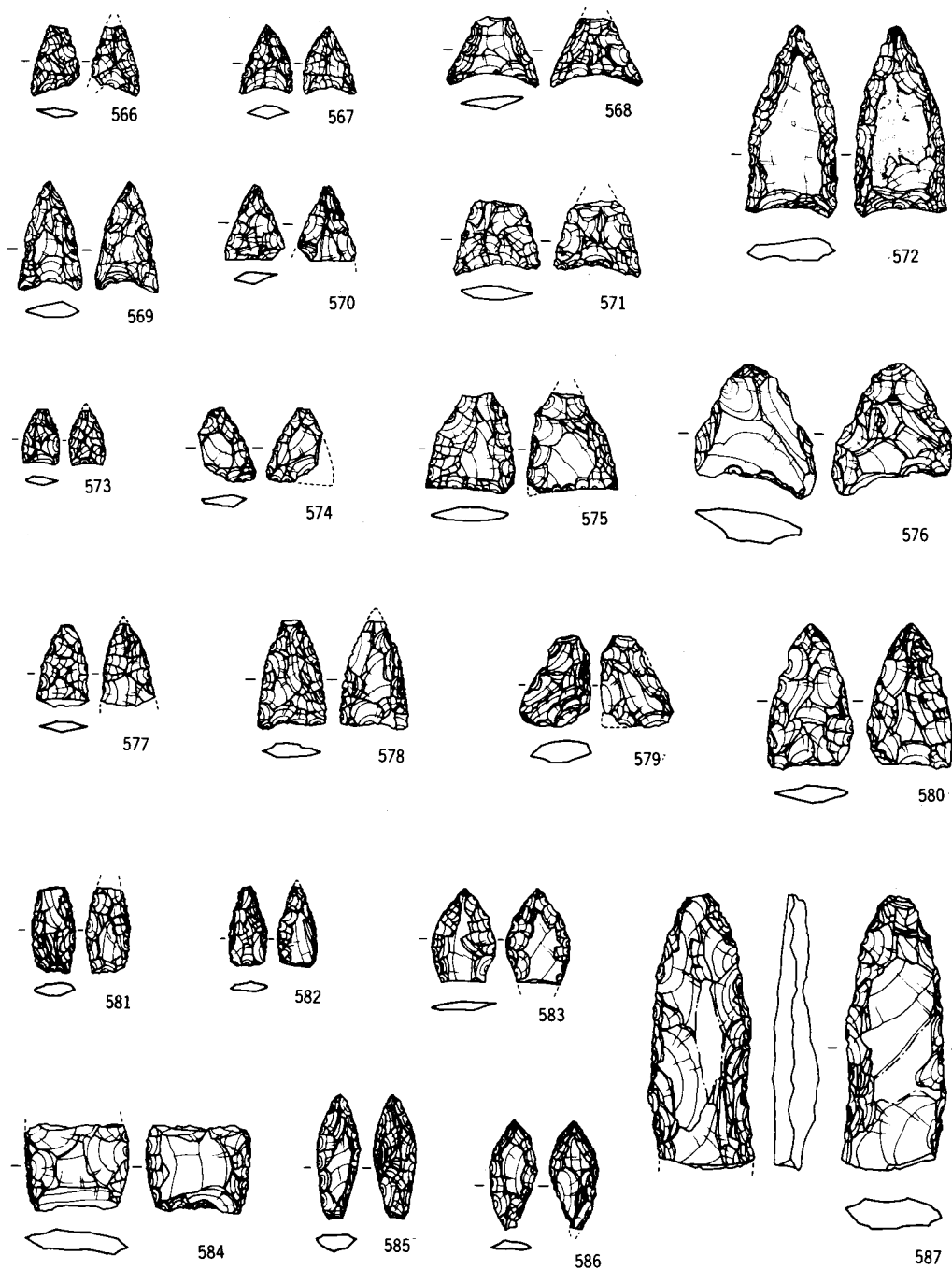
564



565

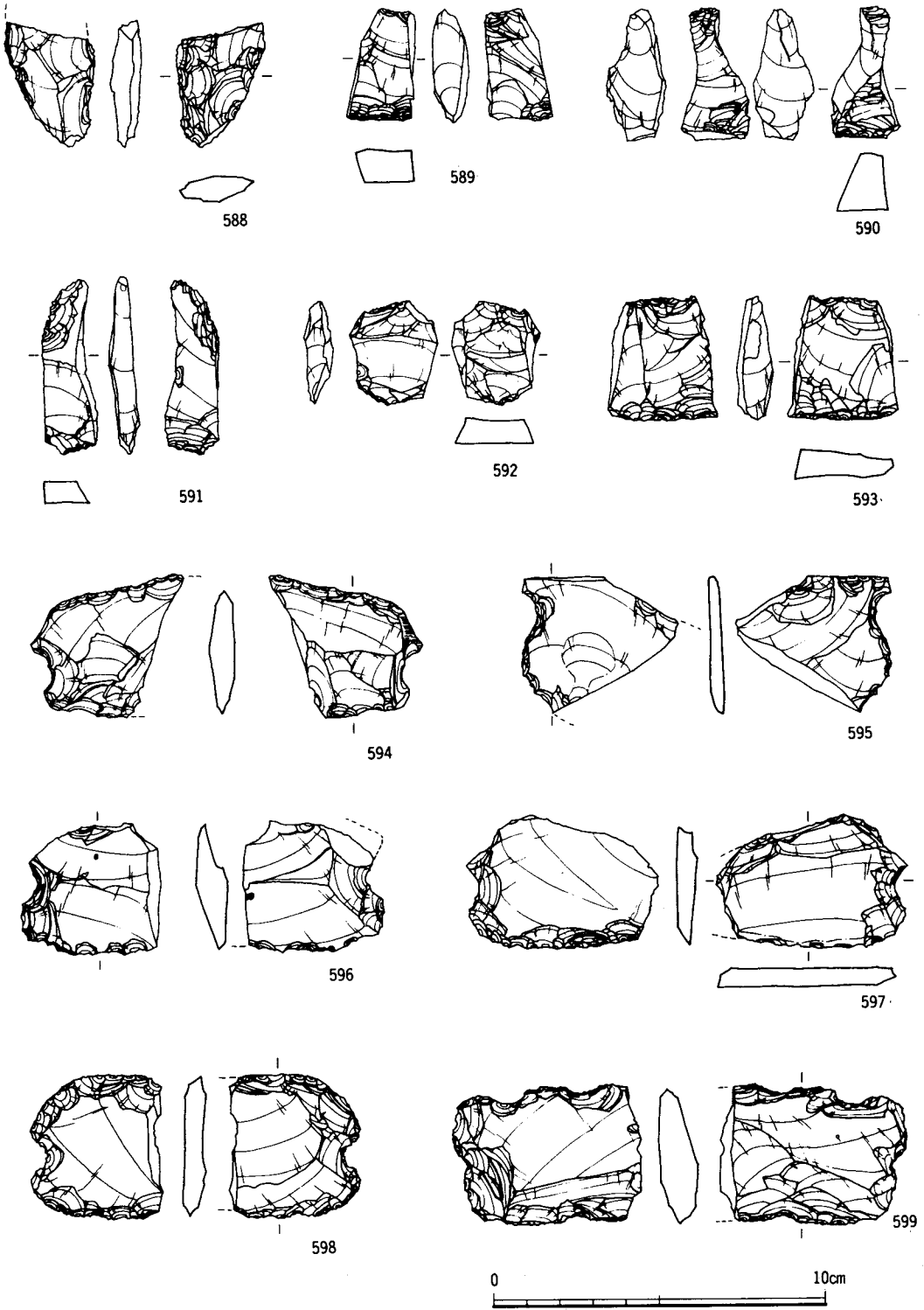


第227图 石器实测图(67)

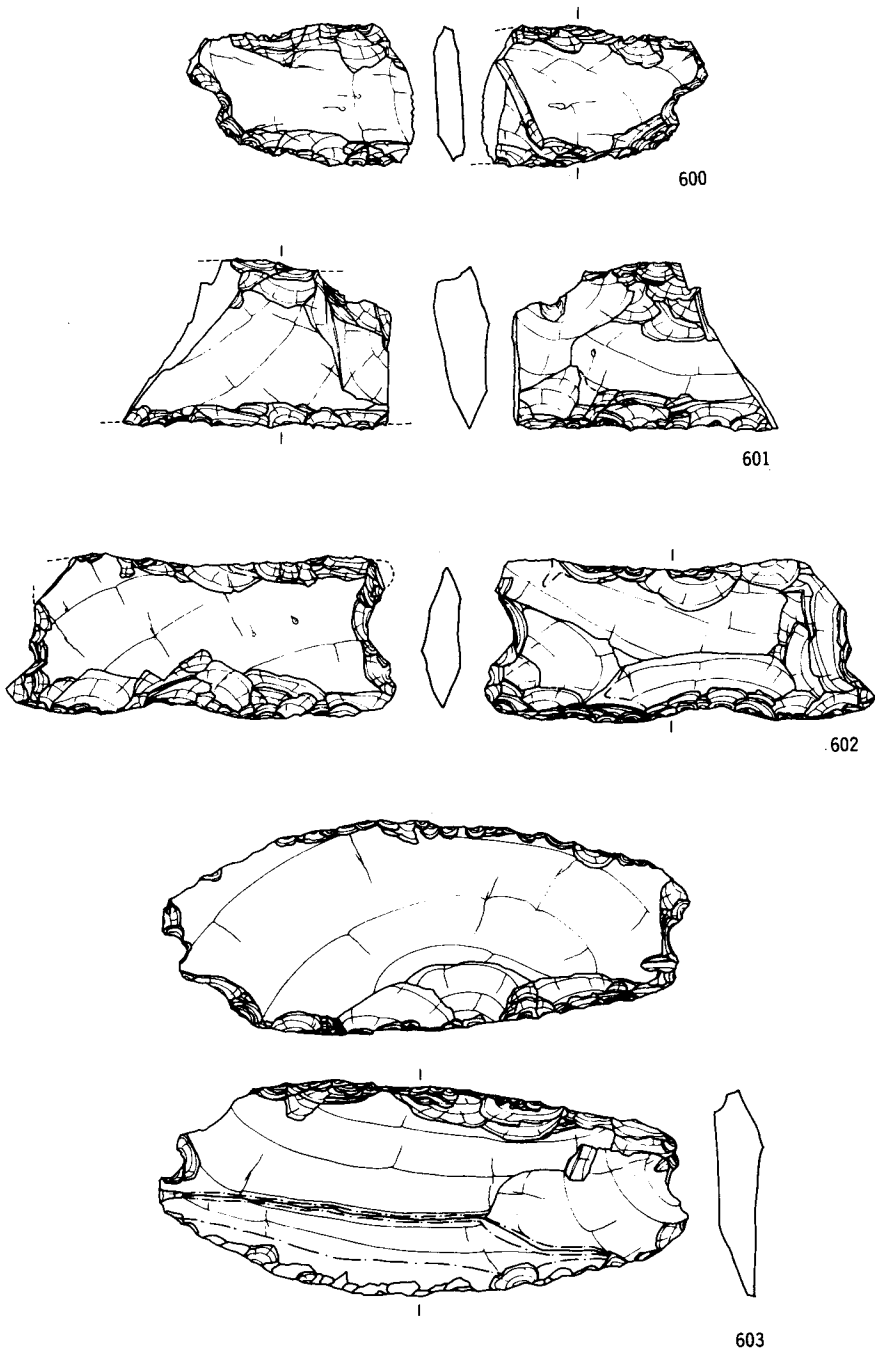


0 10cm

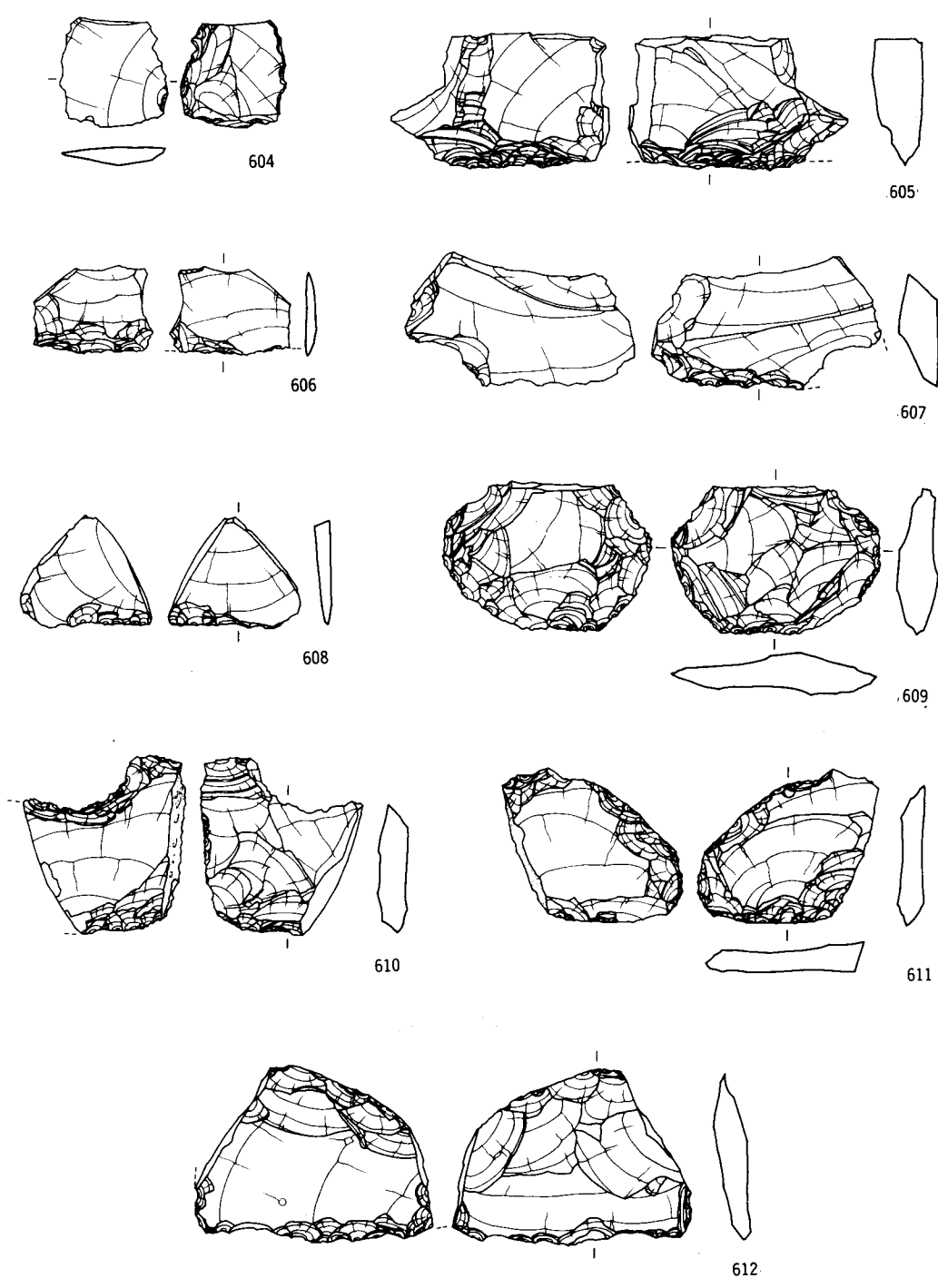
第228图 石器实测图(68)



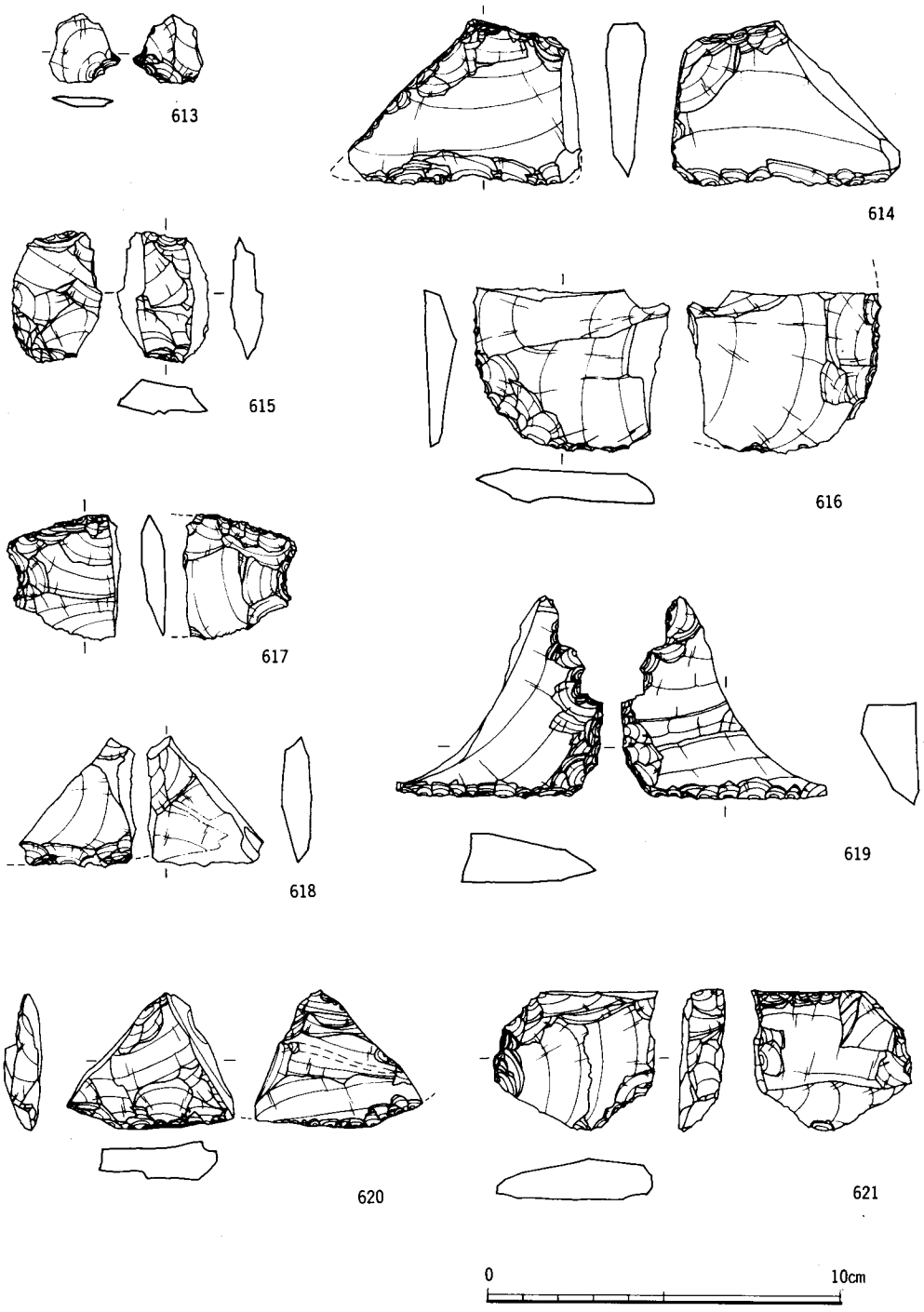
第229图 石器实测图(69)



第230图 石器实测图(70)



第231图 石器实测图(71)



第232图 石器实测图(7)



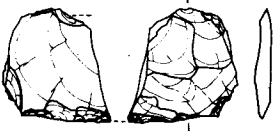
622



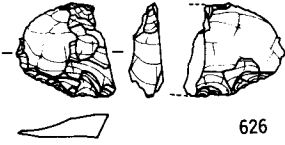
623



624



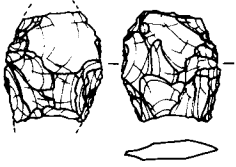
625



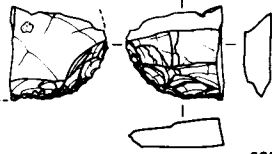
626



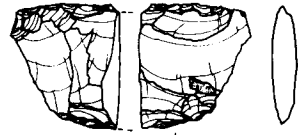
627



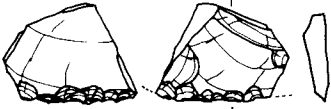
628



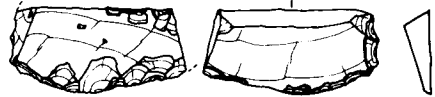
629



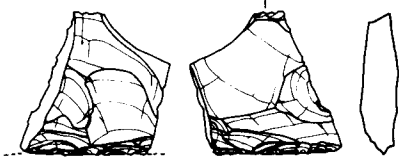
630



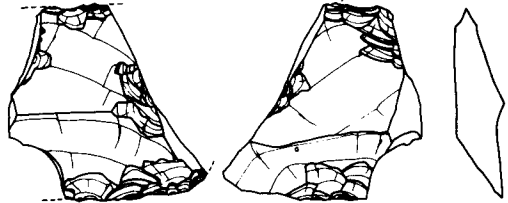
631



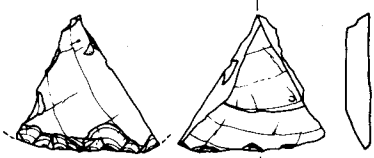
632



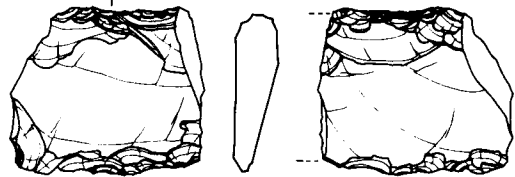
633



634



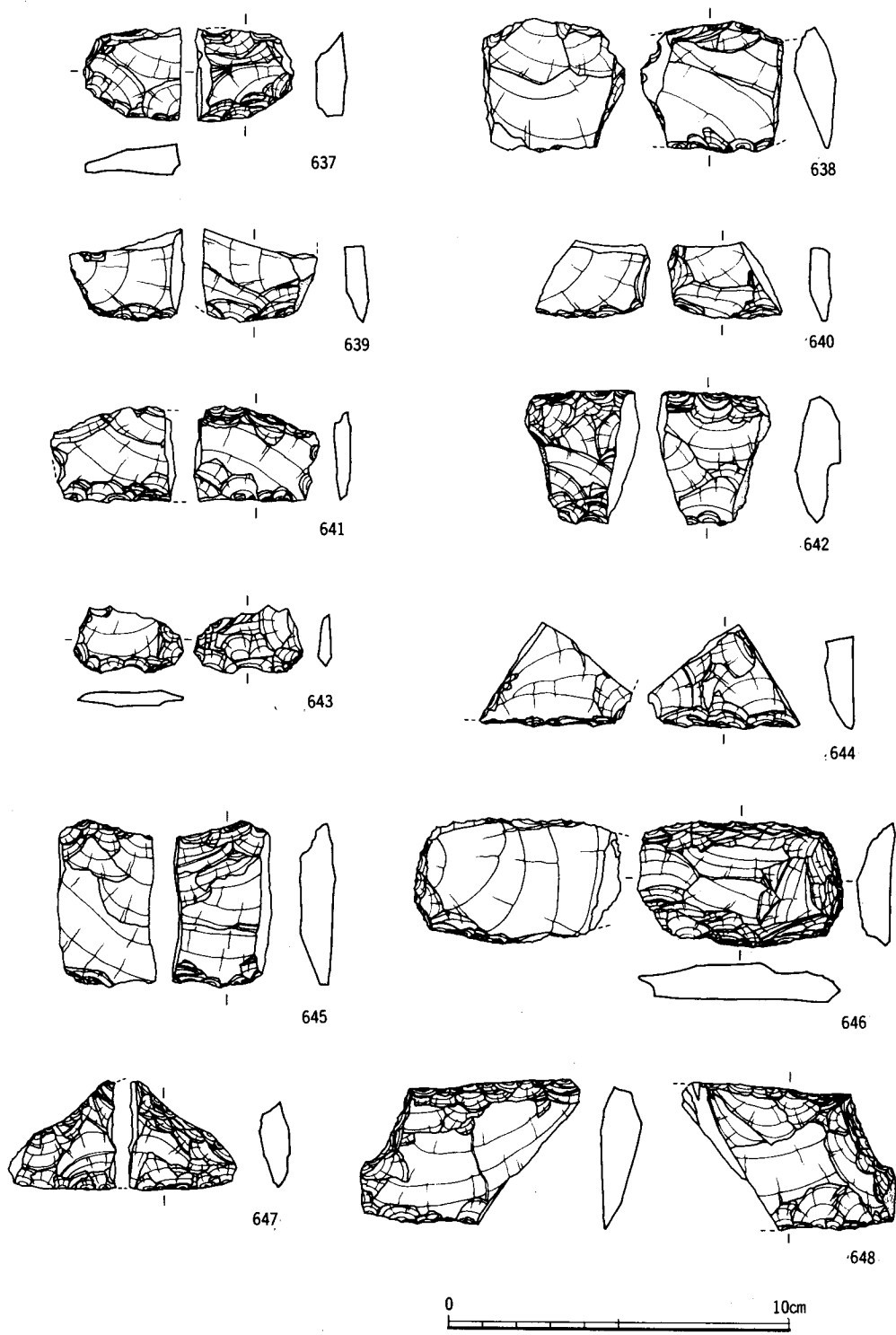
635



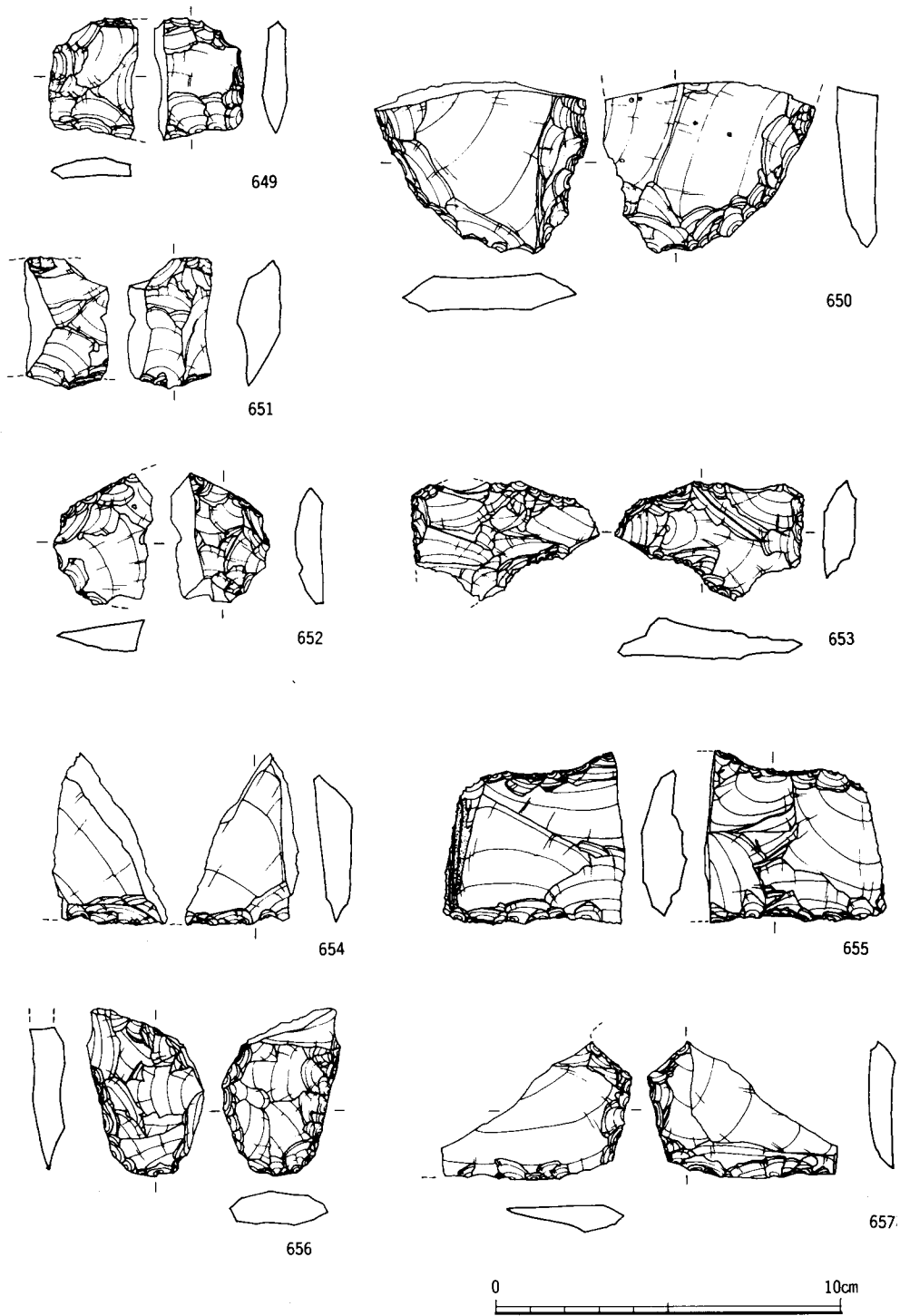
636



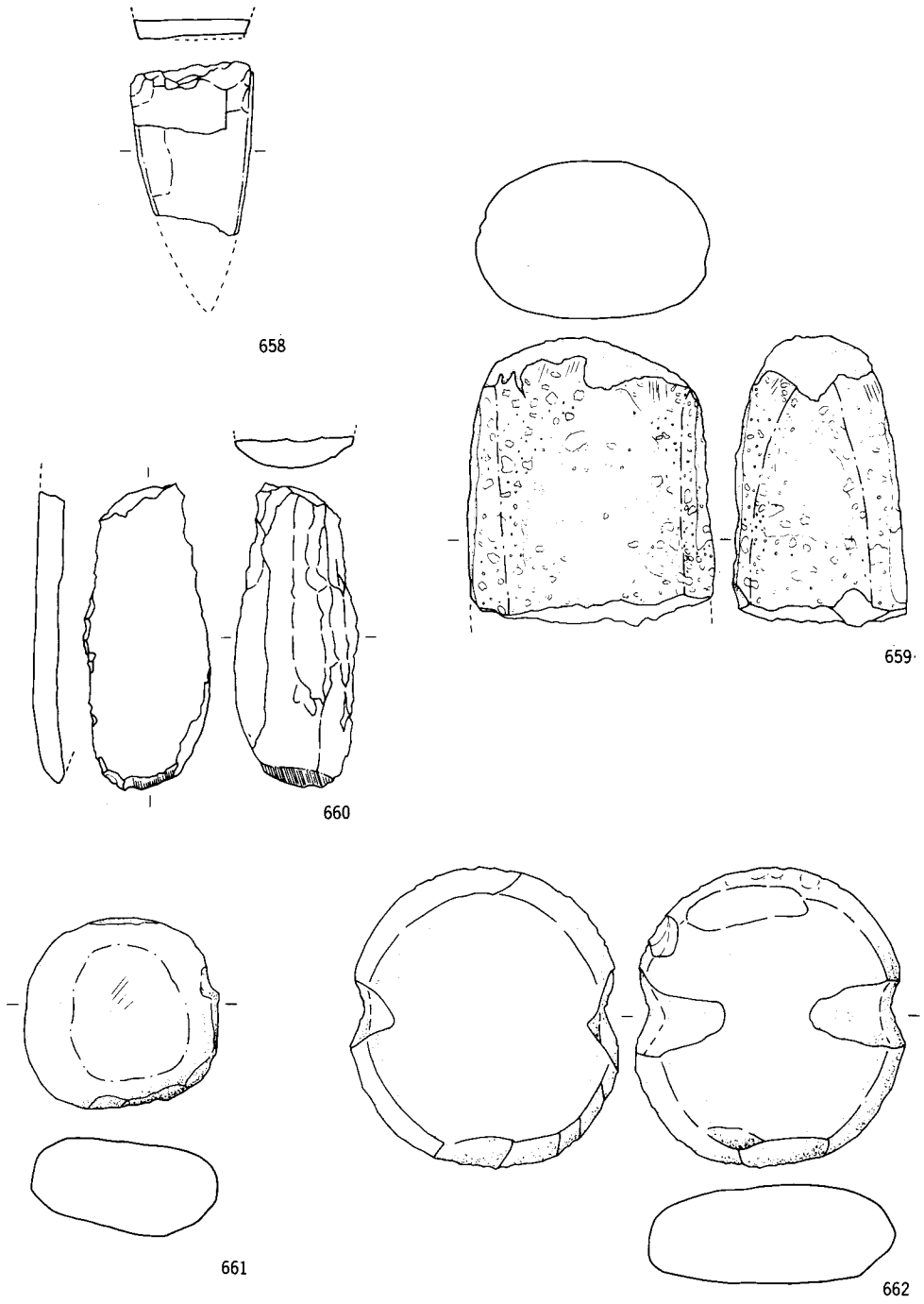
第233图 石器实测图(7)



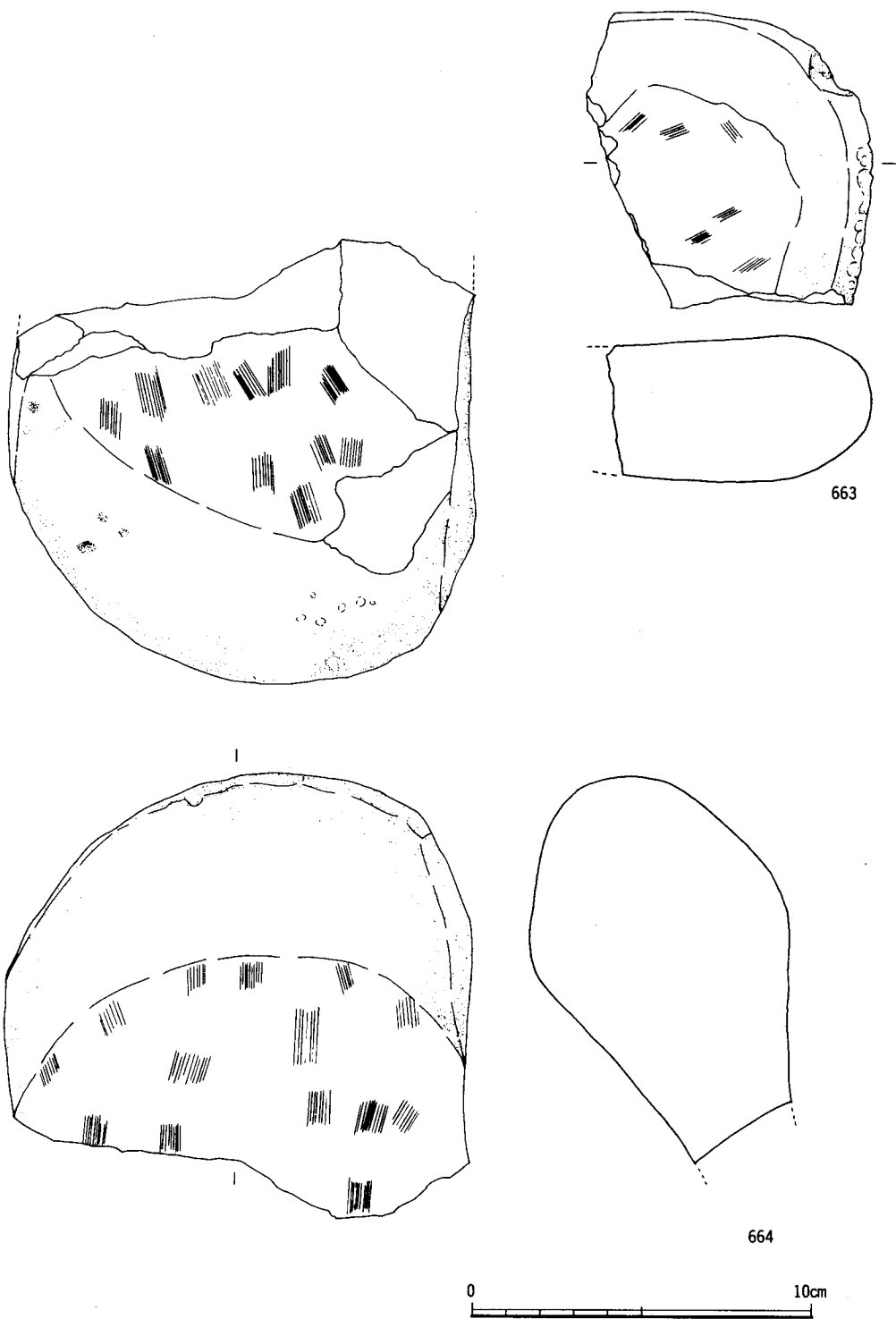
第234图 石器实测图(74)



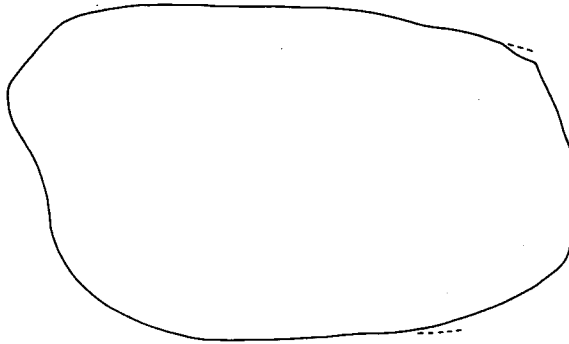
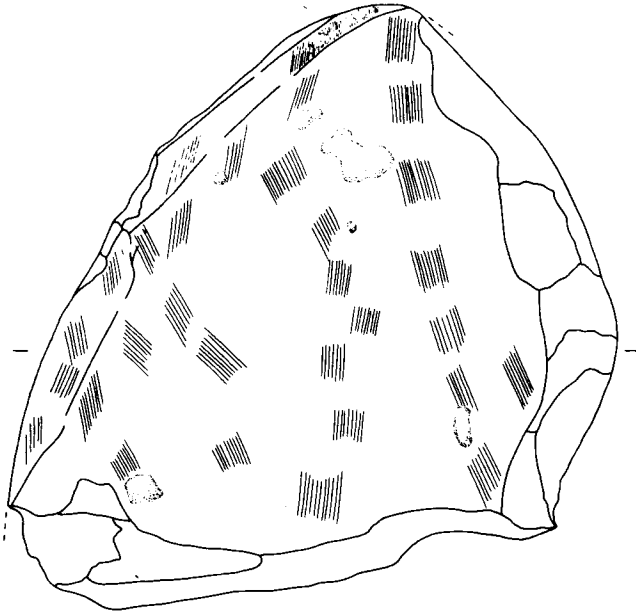
第235图 石器实测图(7)



第236图 石器实测图(76)



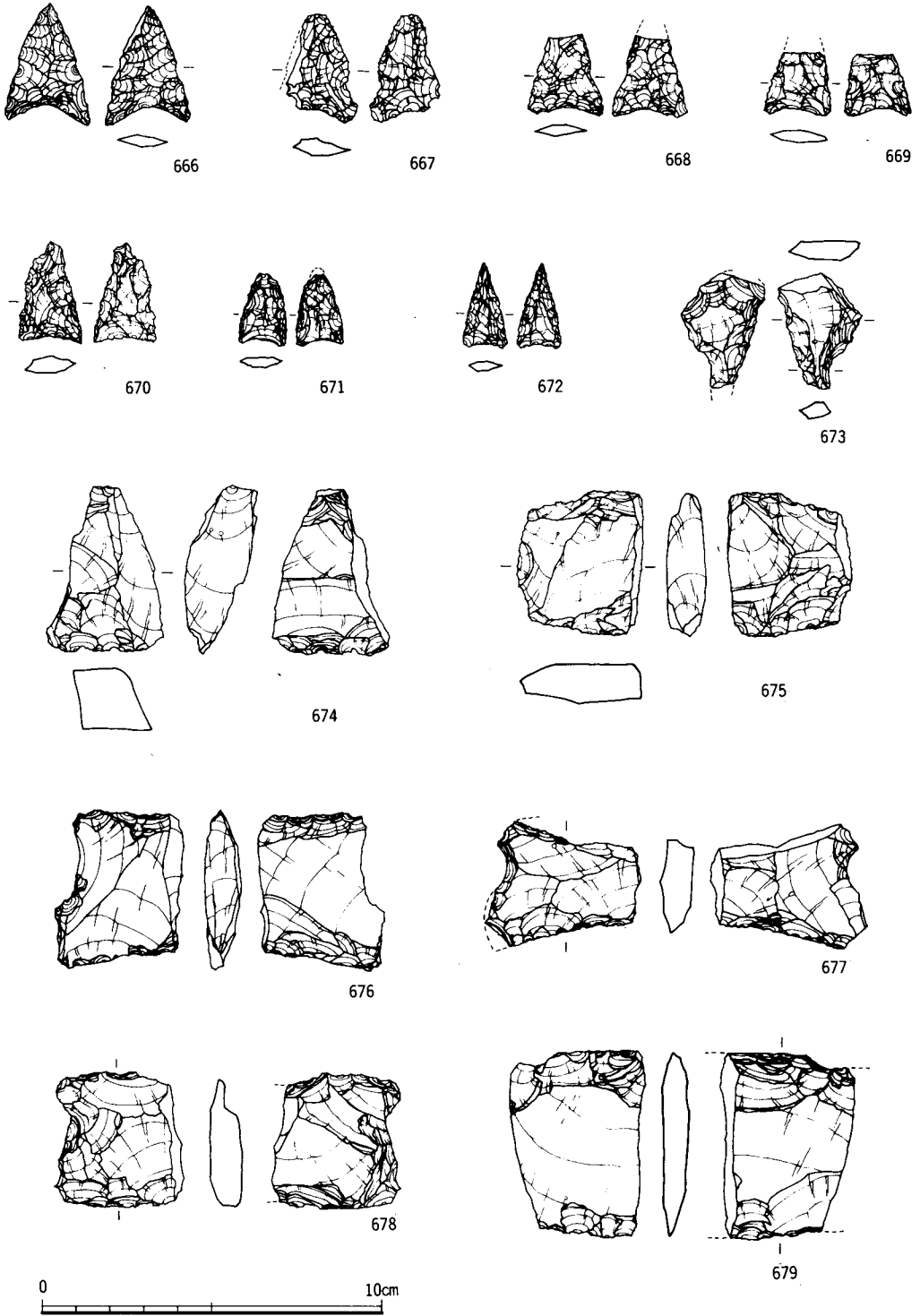
第237图 石器实测图(7)



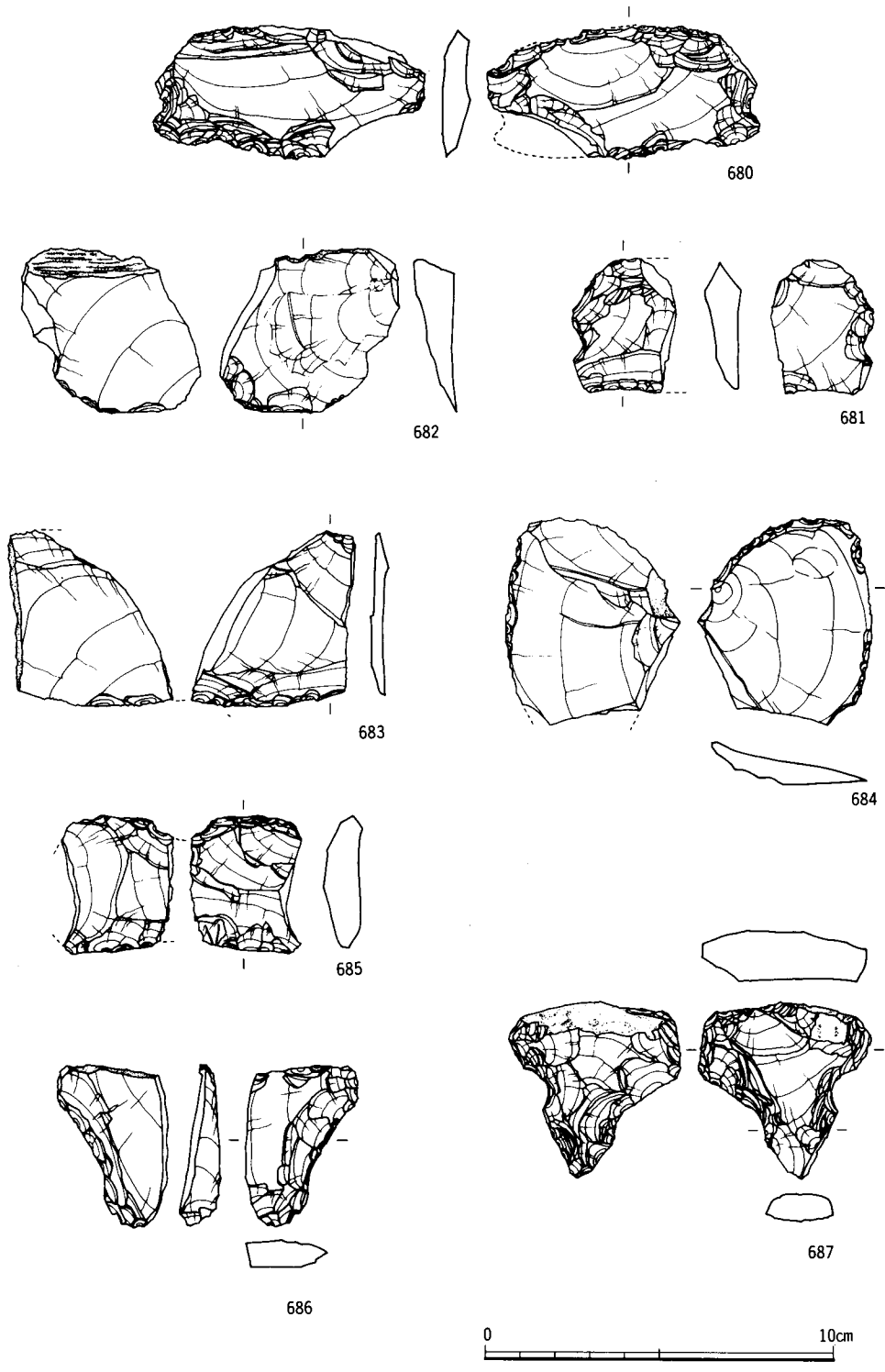
665



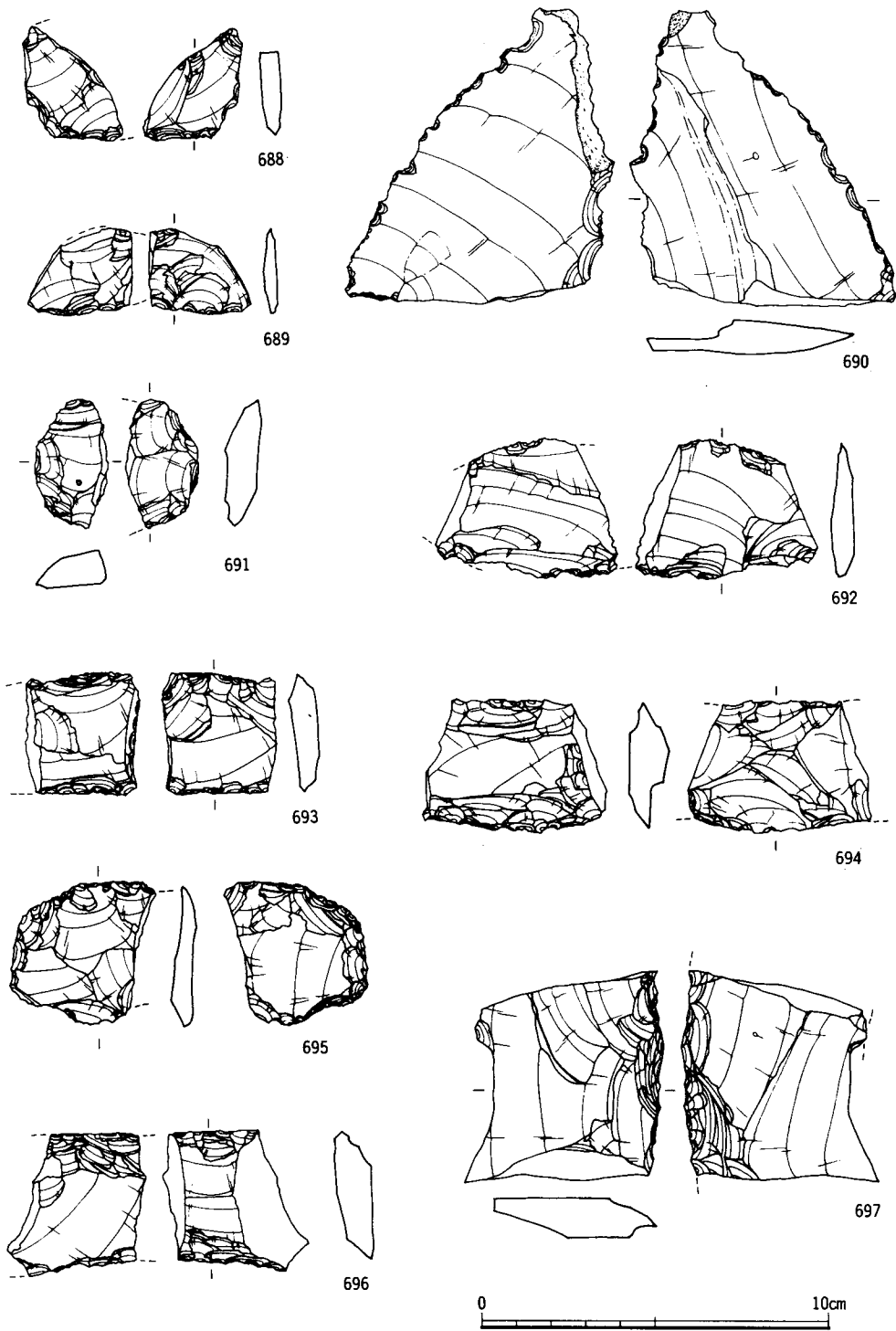
第238图 石器实测图(8)



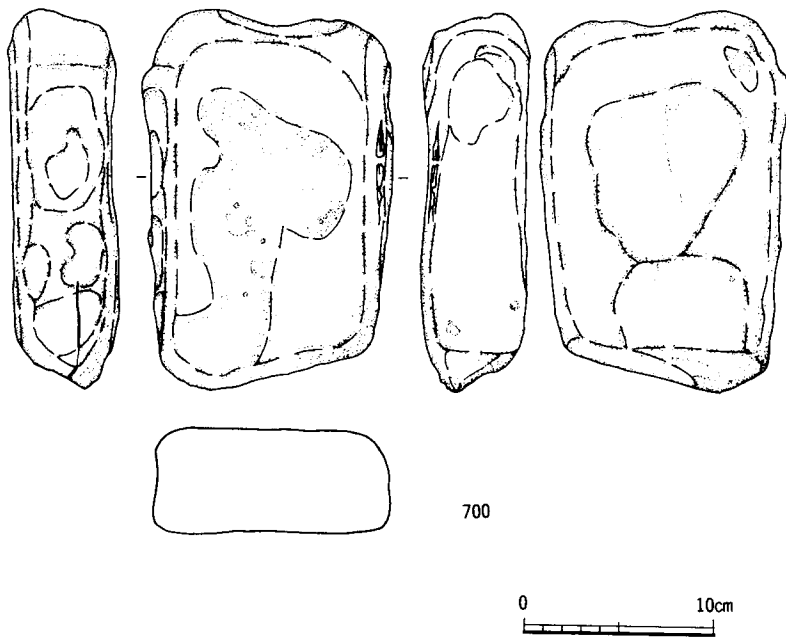
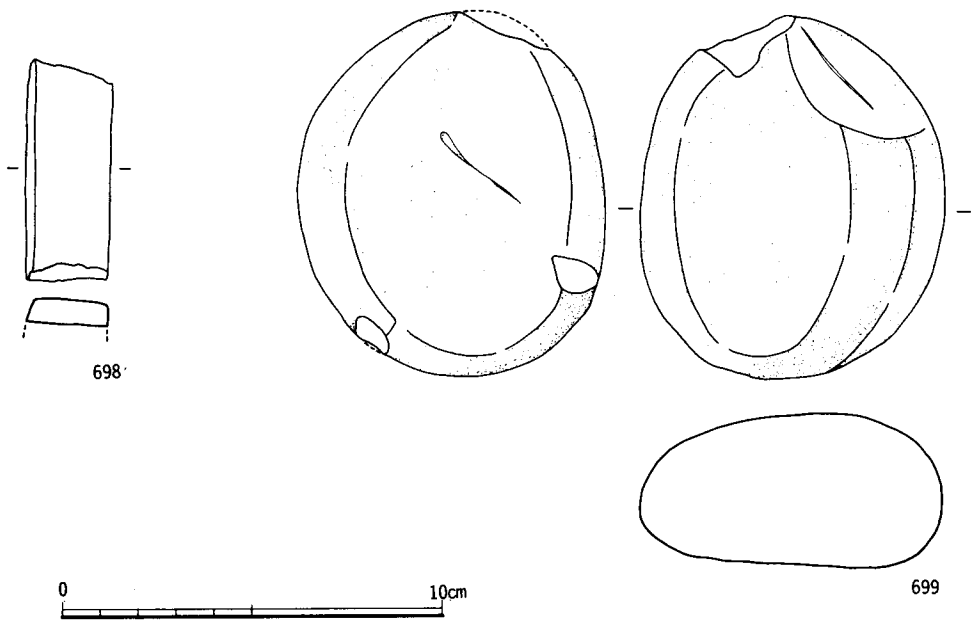
第239图 石器实测图(79)



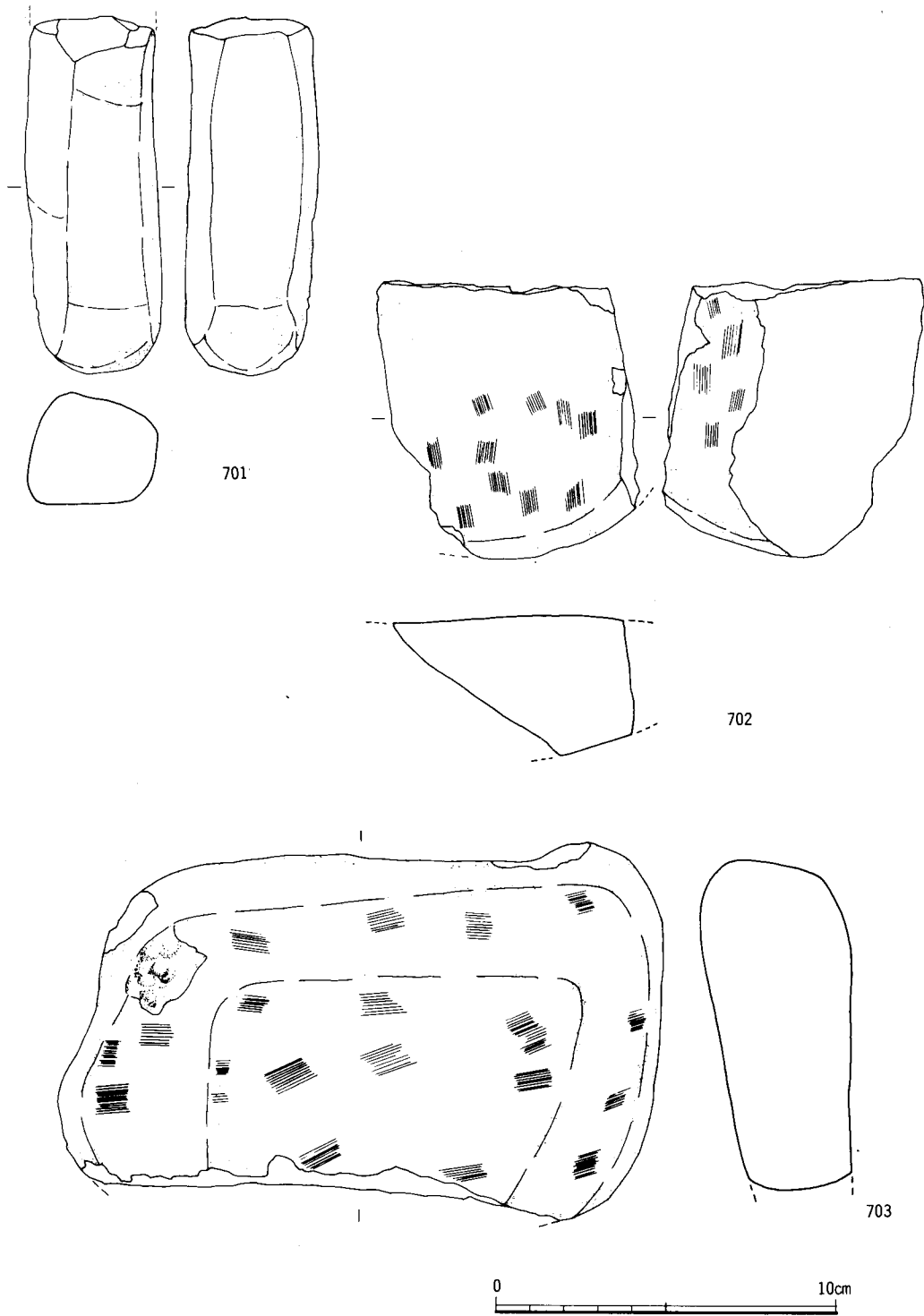
第240图 石器实测图(80)



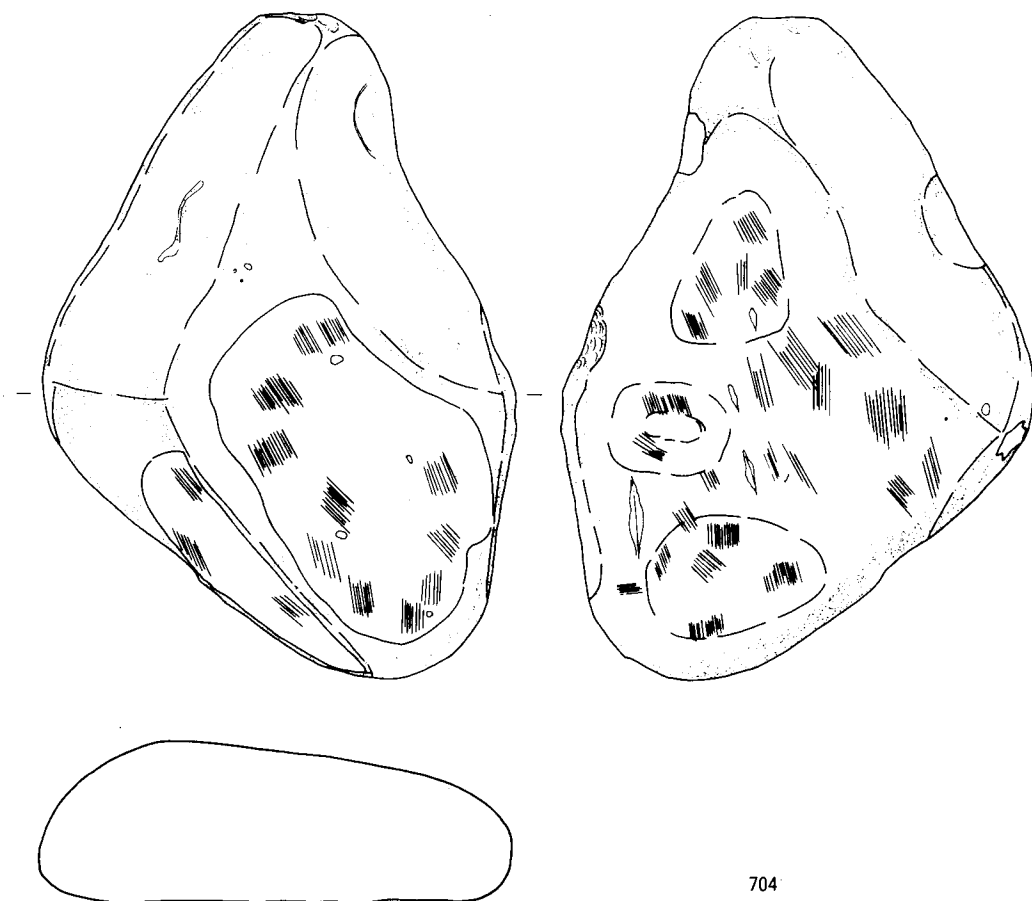
第241图 石器实测图(81)



第242图 石器实测图(2)



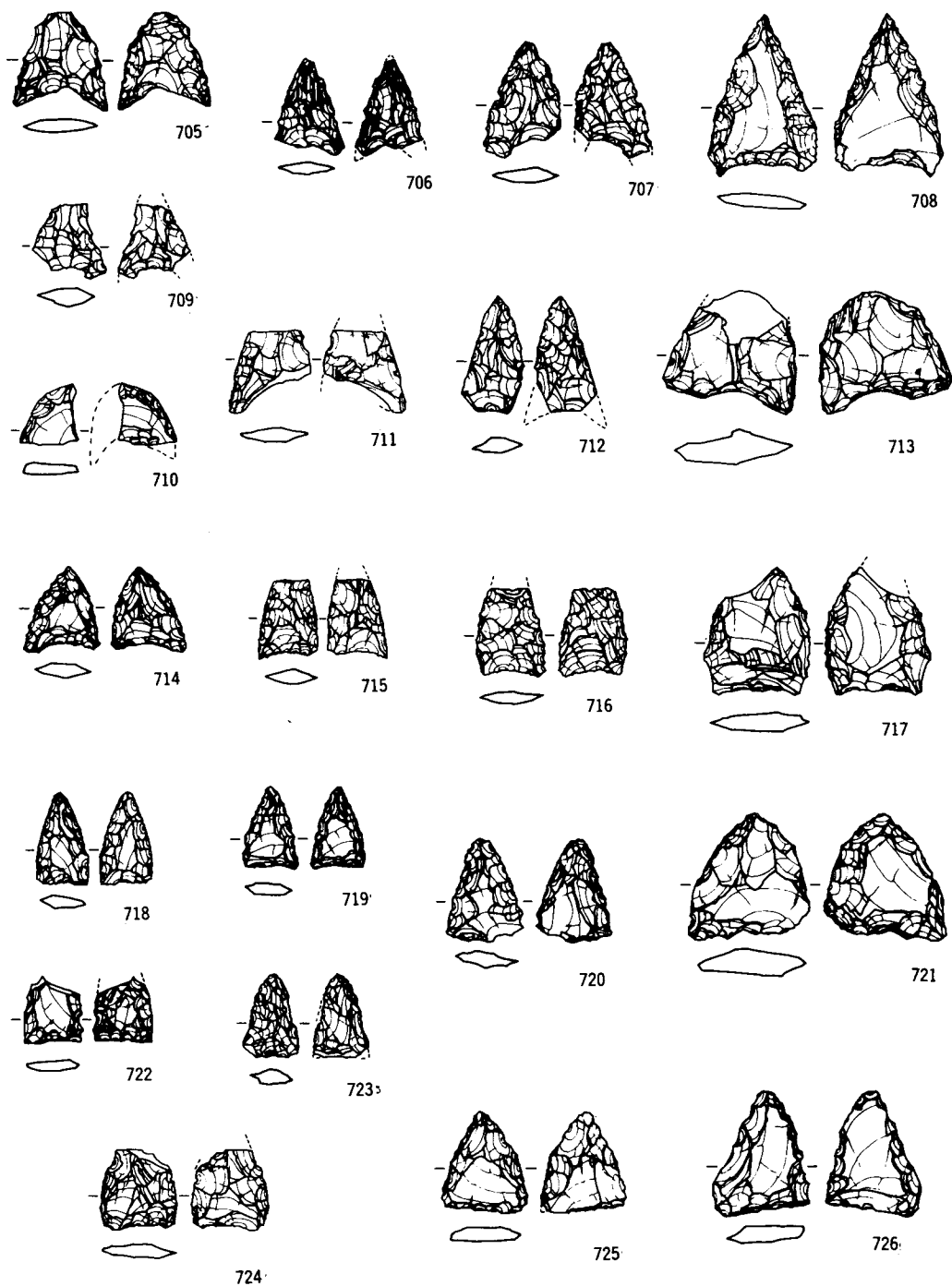
第243图 石器实测图(83)



704

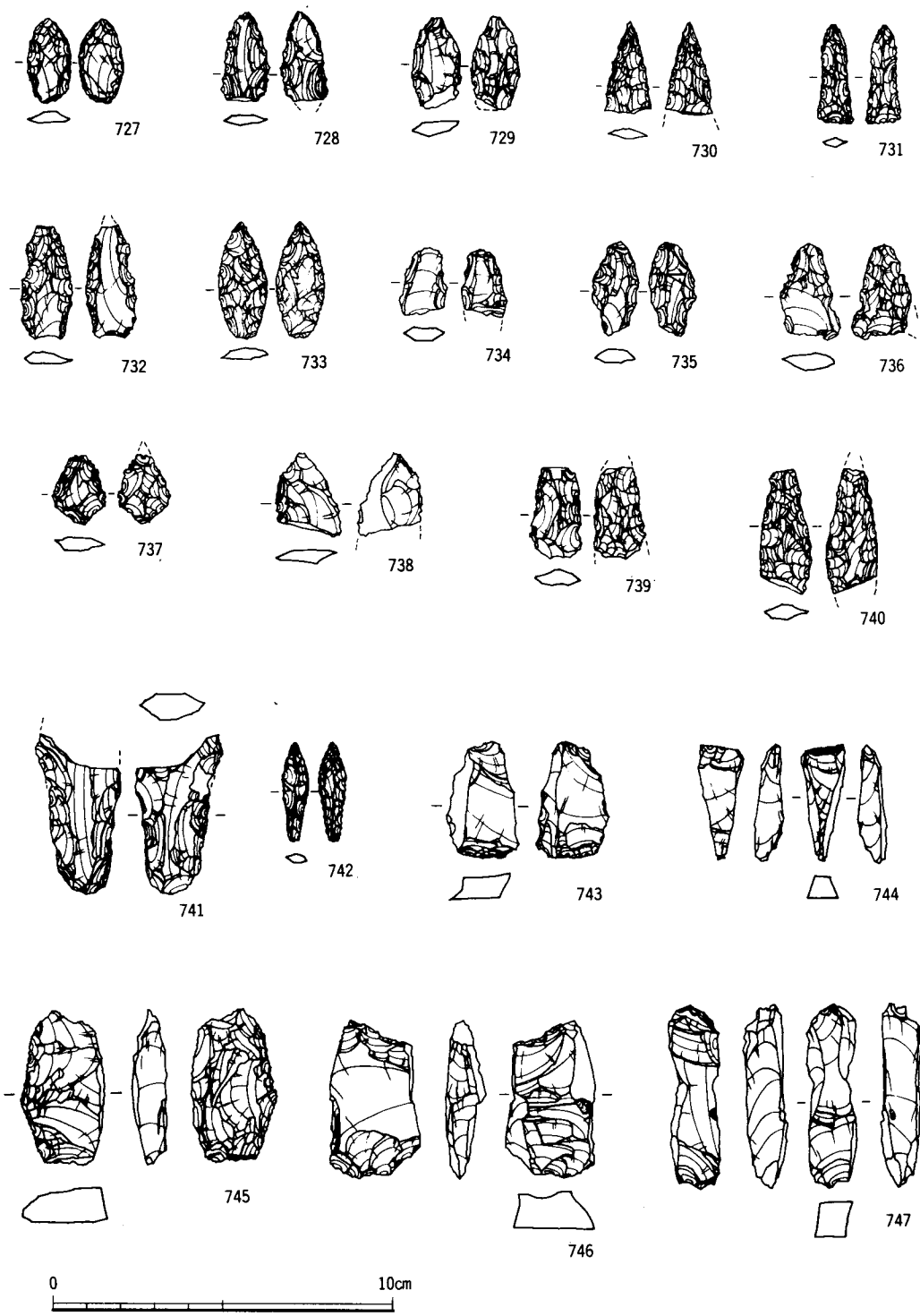


第244图 石器实测图(34)

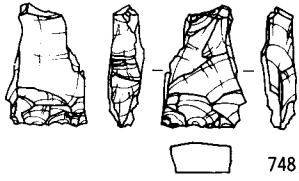


0 10cm

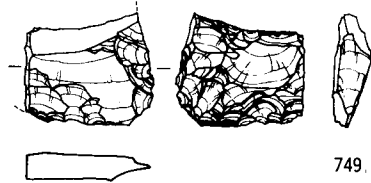
第245图 石器实测图(8)



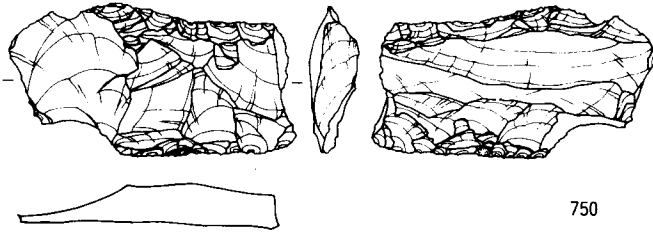
第246图 石器实测图(86)



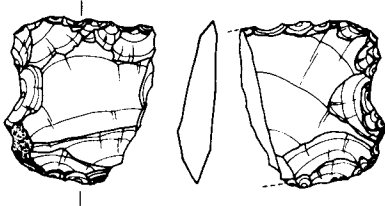
748



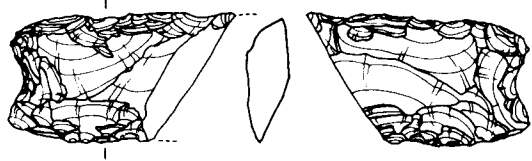
749



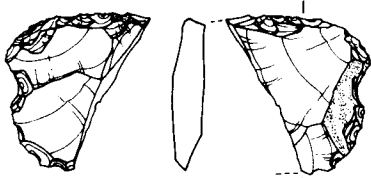
750



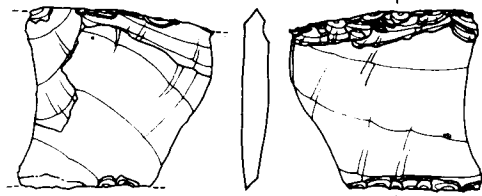
751



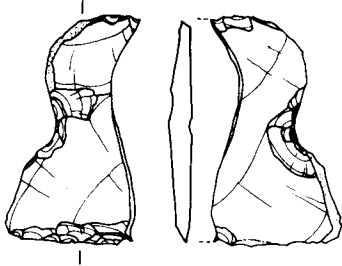
752



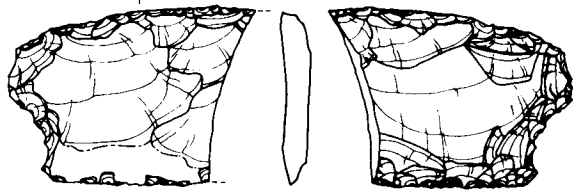
753



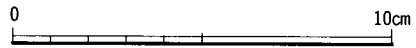
754



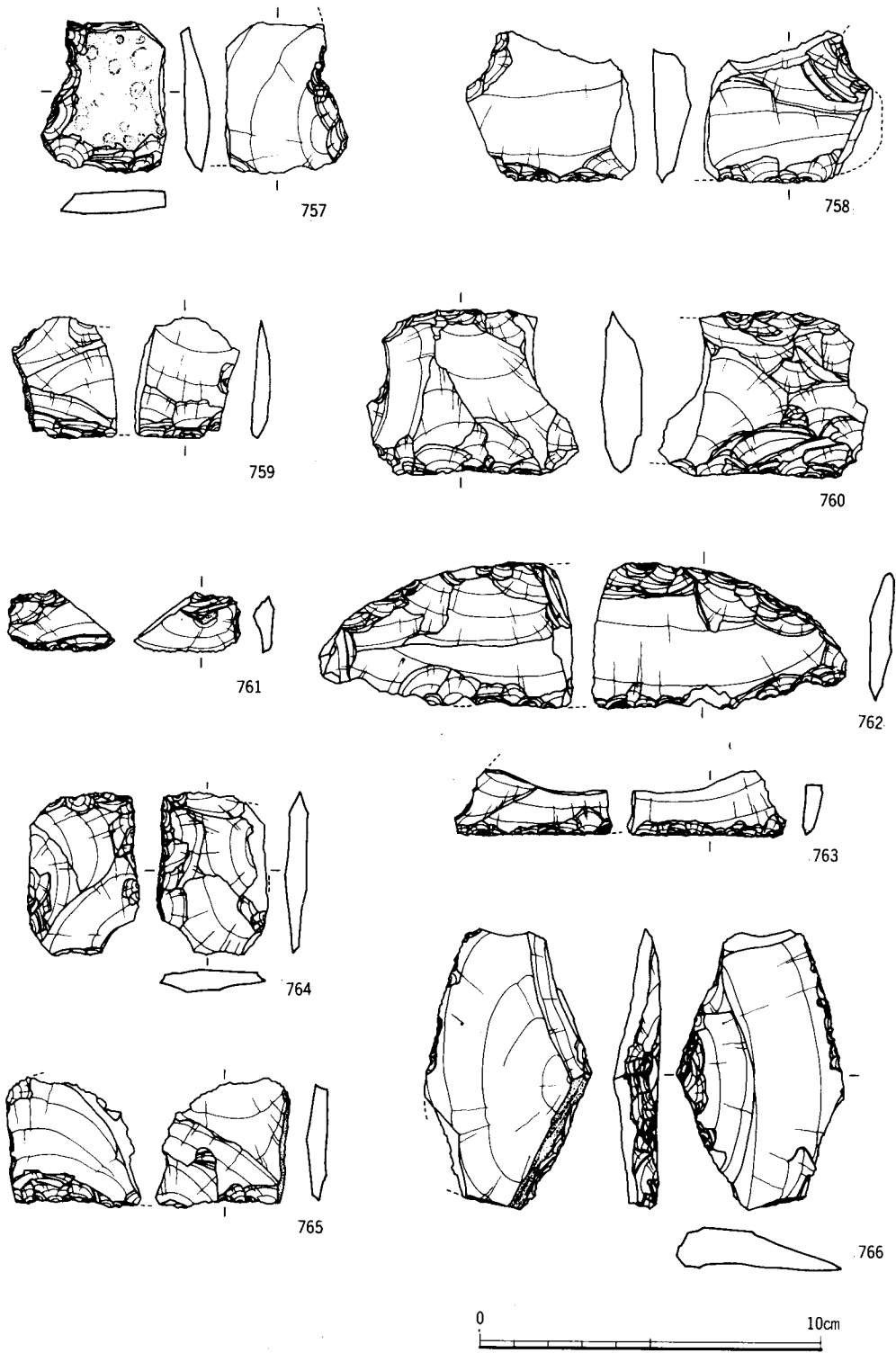
755



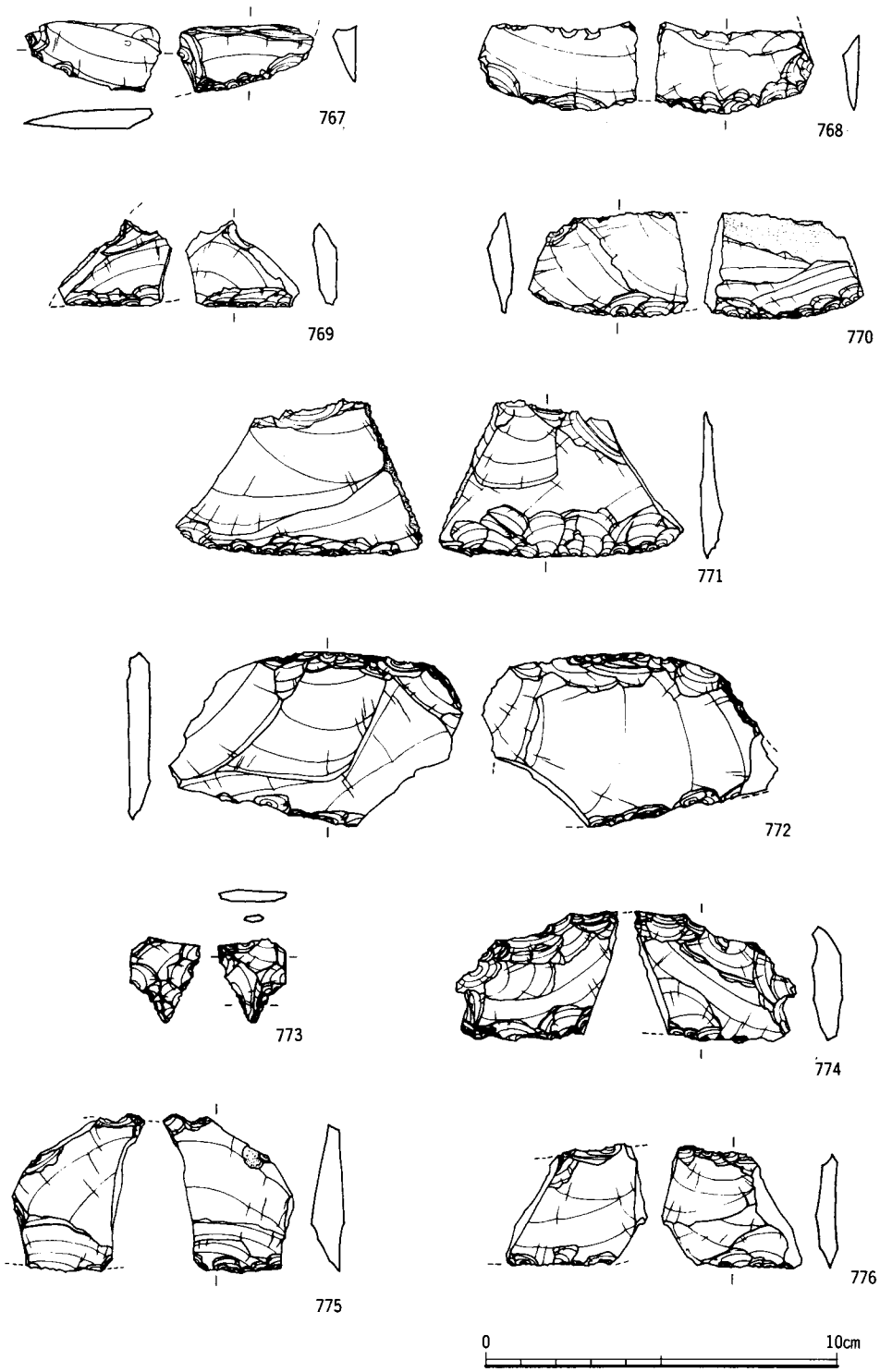
756



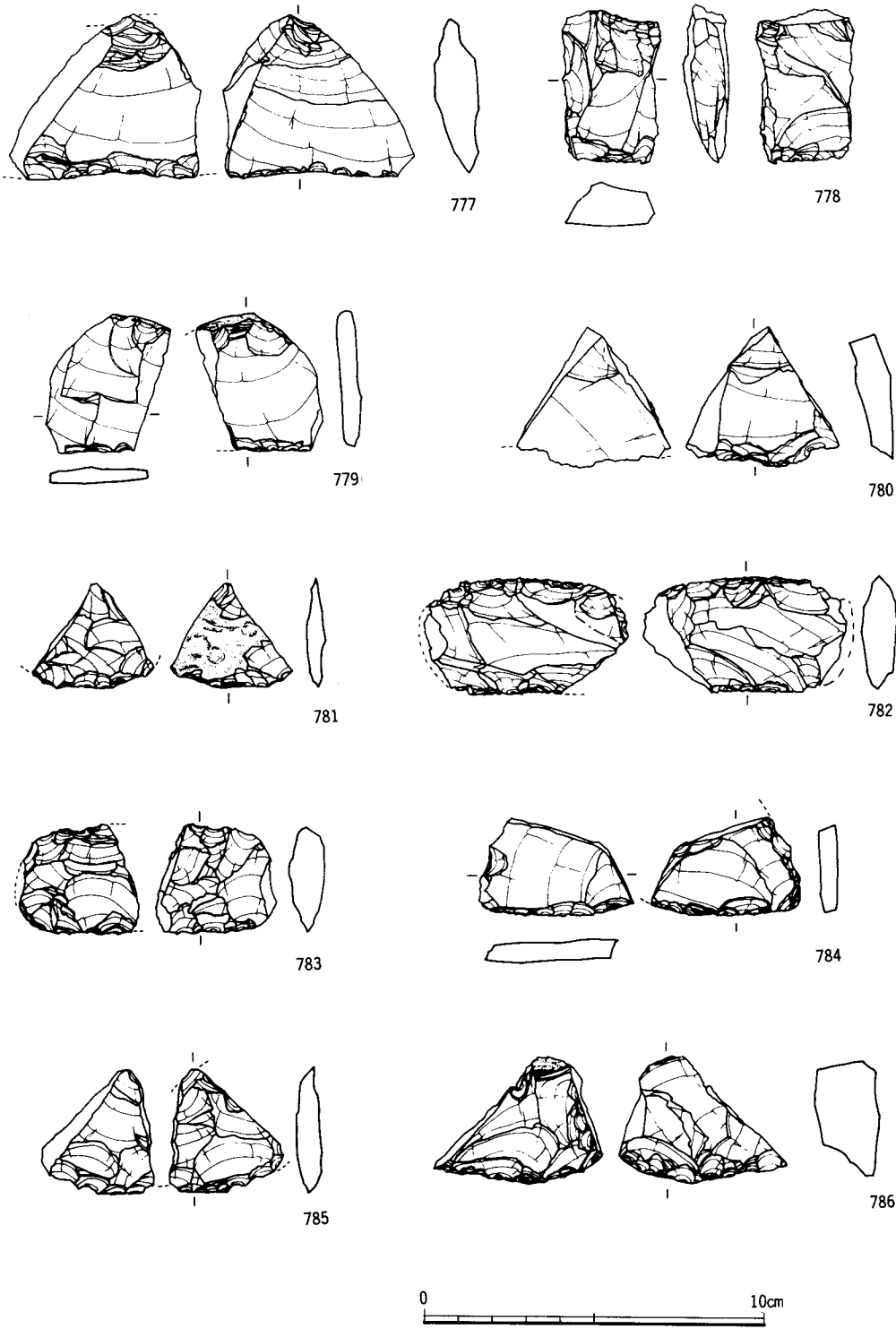
第247图 石器实测图(87)



第248图 石器实测图(88)



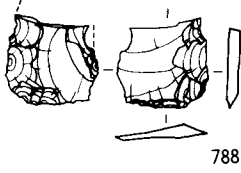
第249图 石器实测图(89)



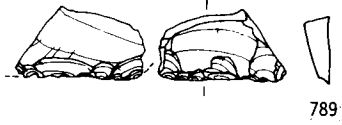
第250图 石器实测图(90)



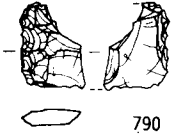
787



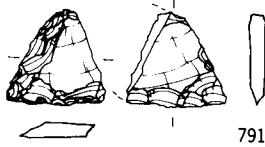
788



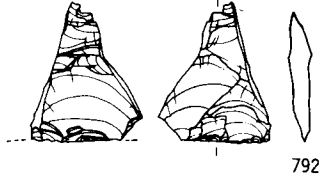
789



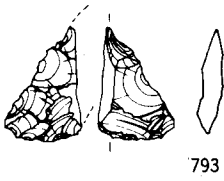
790



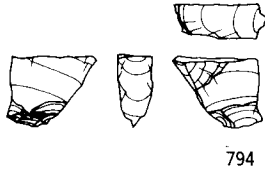
791



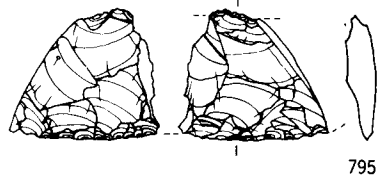
792



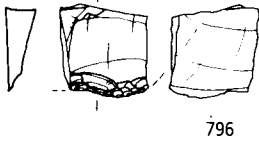
793



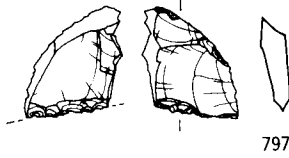
794



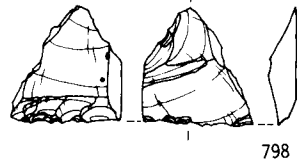
795



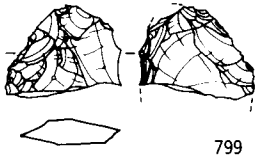
796



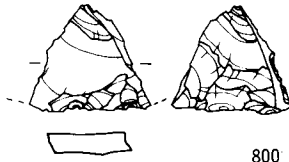
797



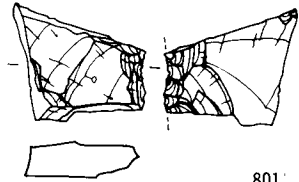
798



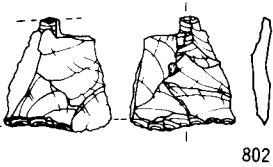
799



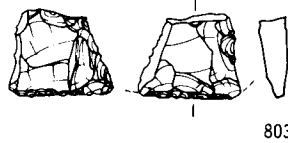
800



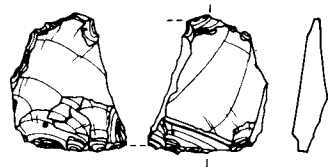
801



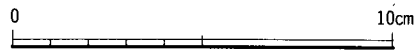
802



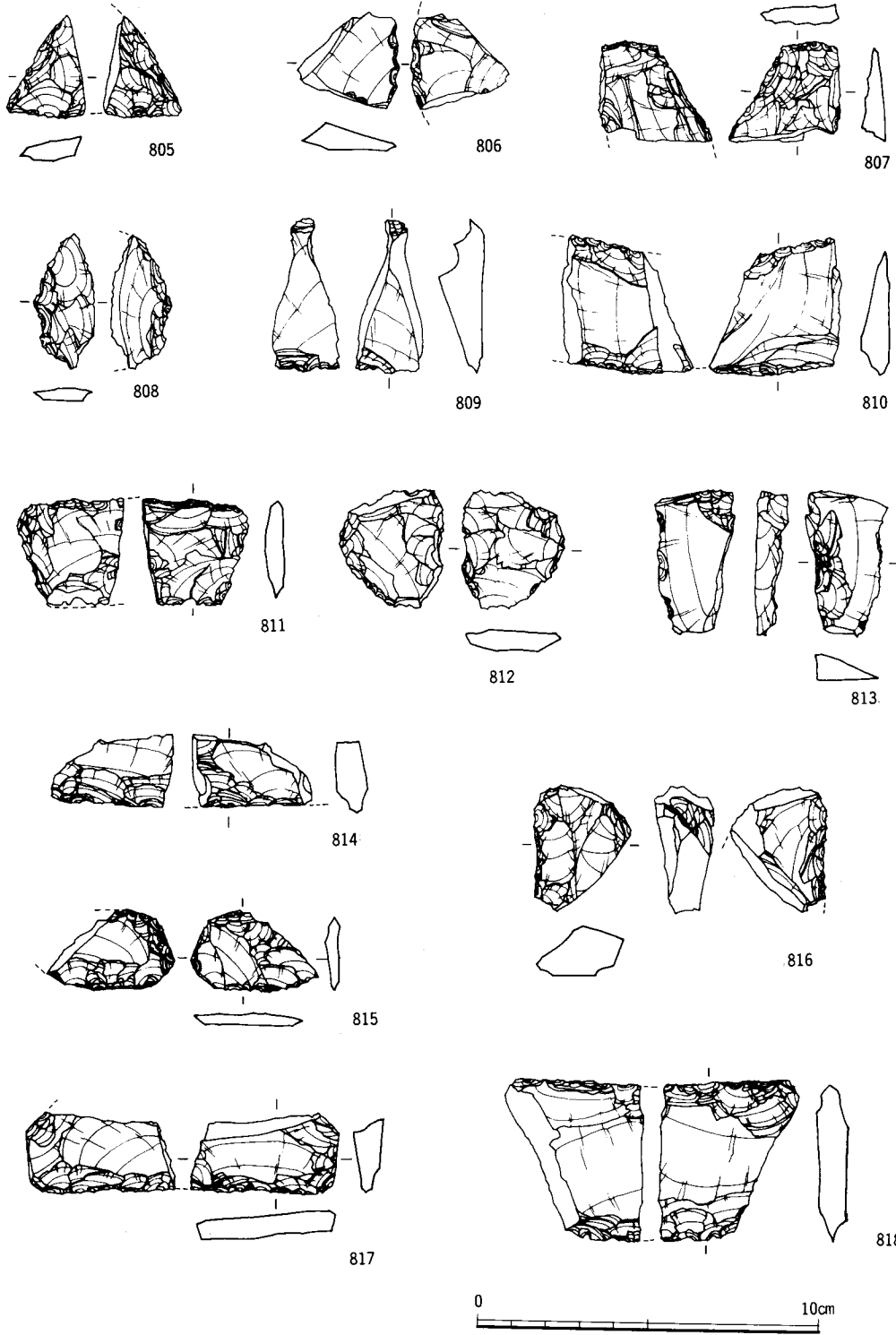
803



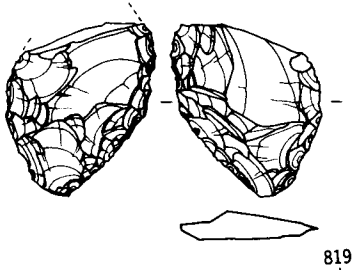
804



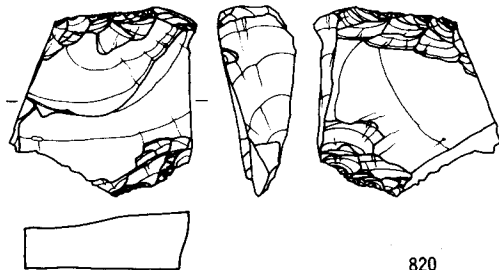
第251图 石器实测图(91)



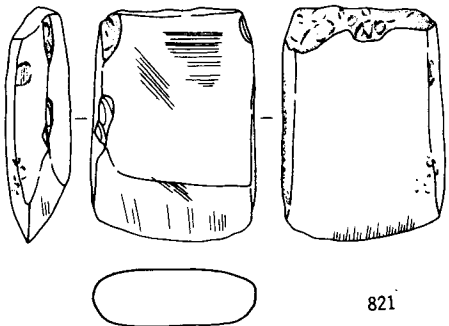
第252图 石器实测图(92)



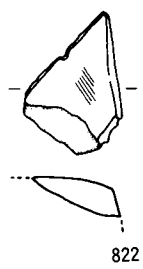
819



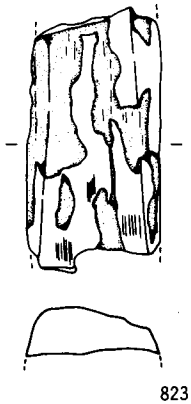
820



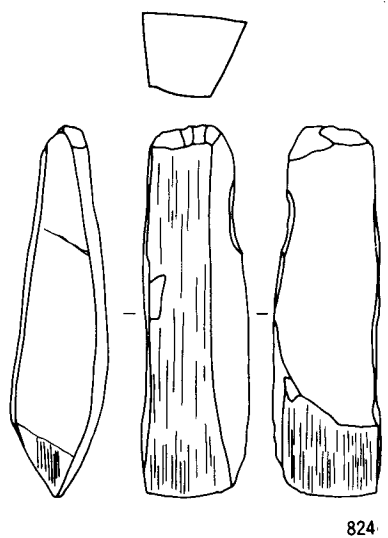
821



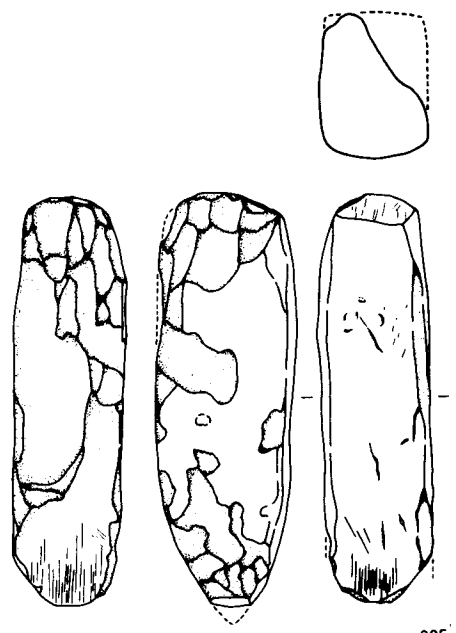
822



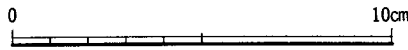
823



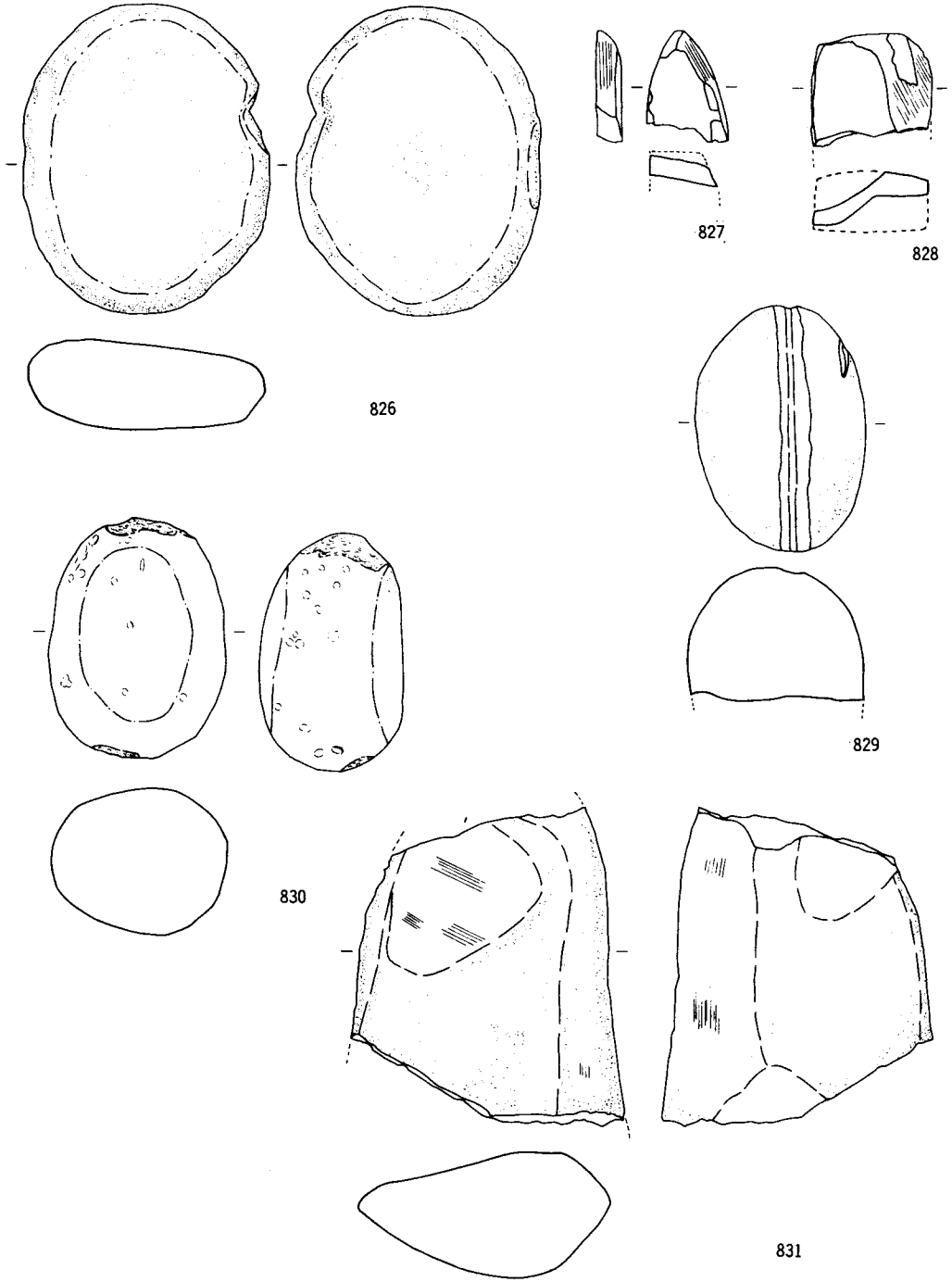
824



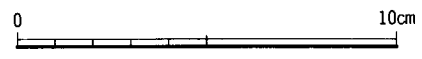
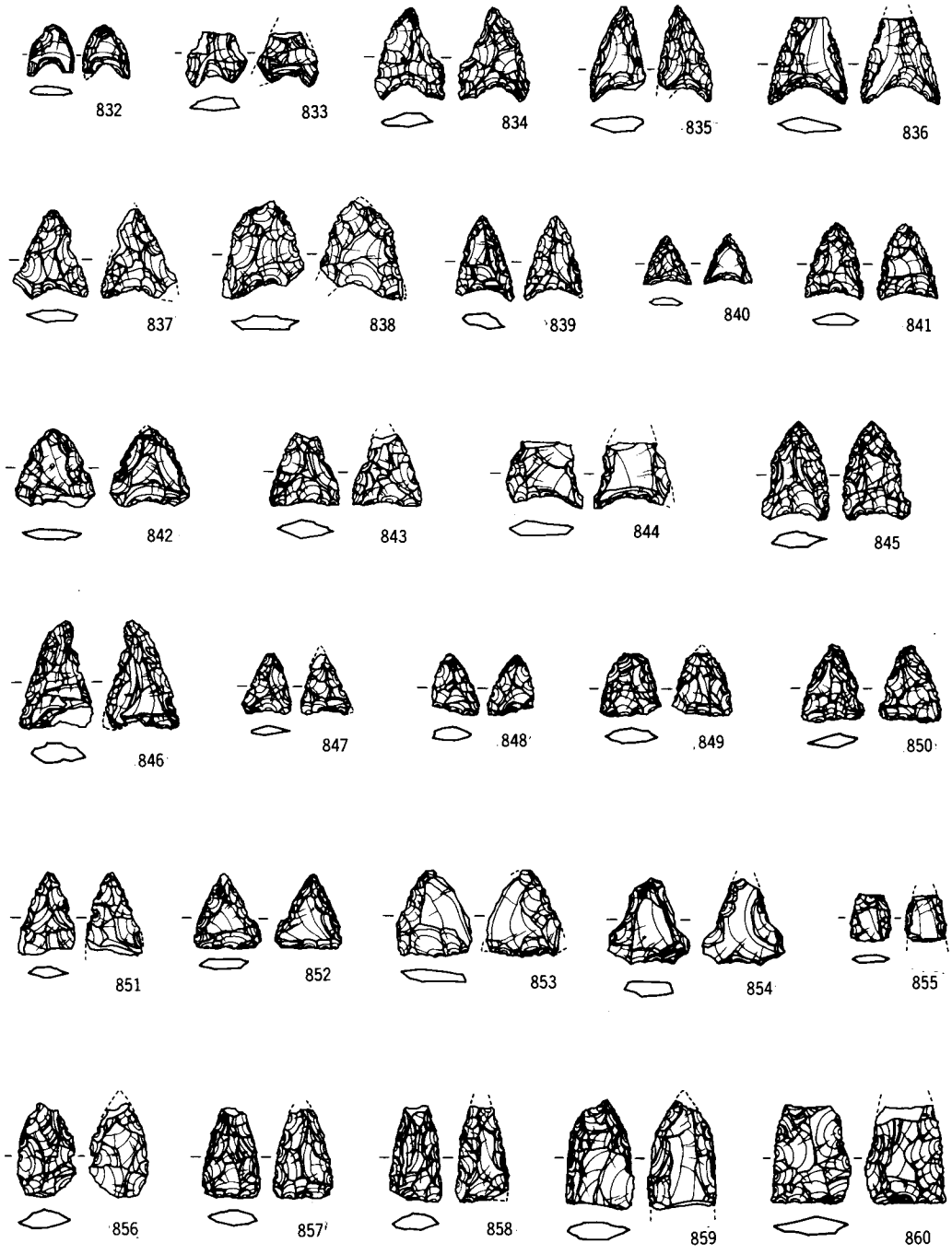
825



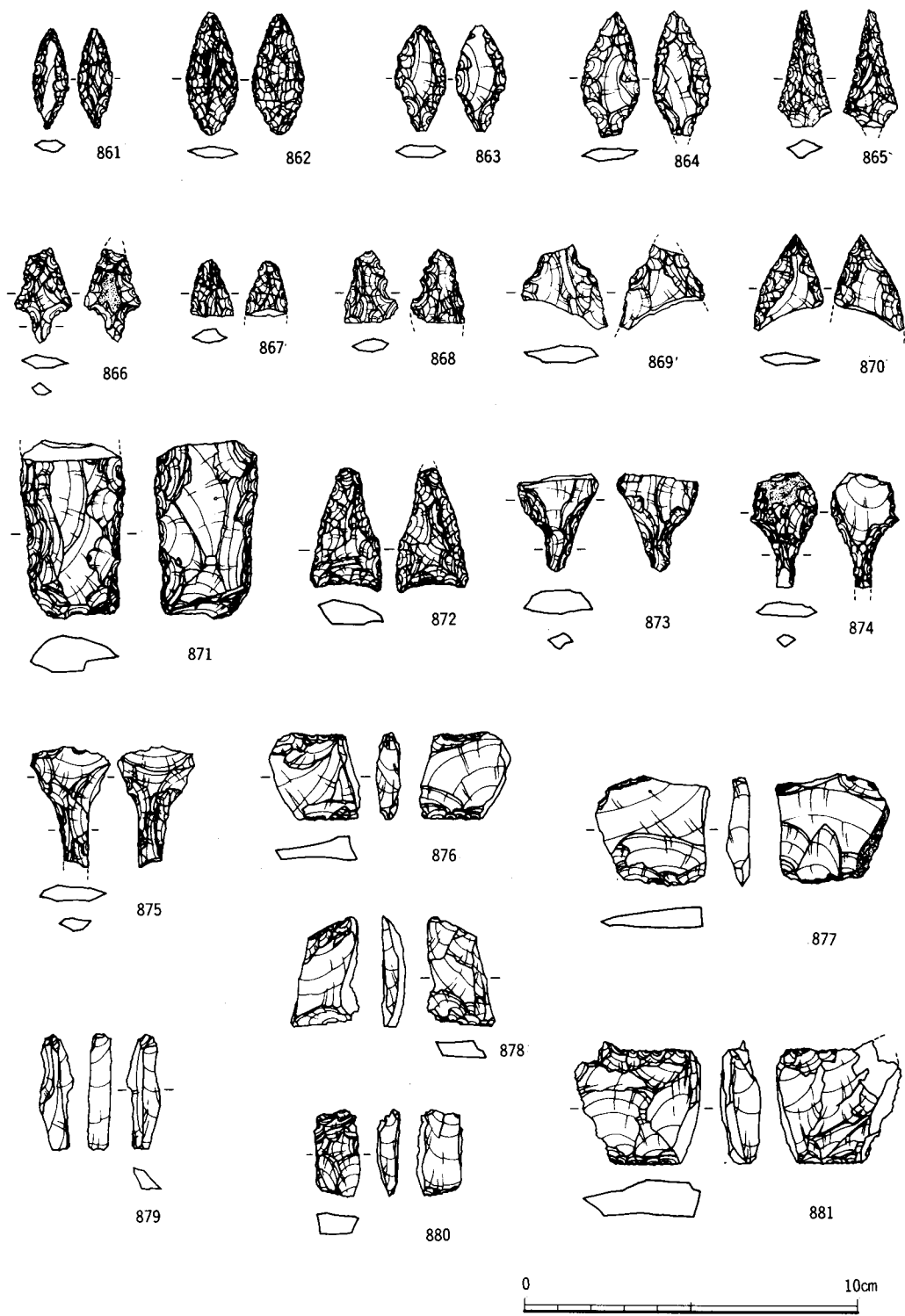
第253图 石器实测图(3)



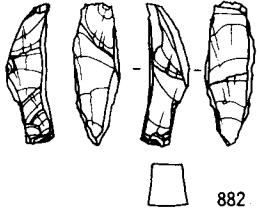
第254图 石器实测图04



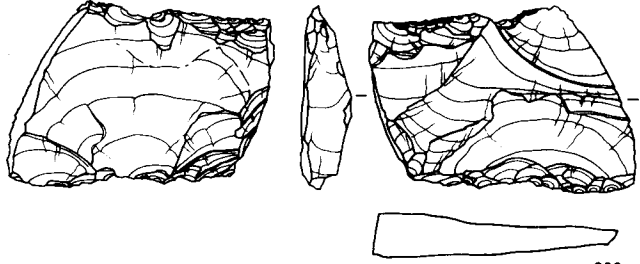
第255图 石器实测图(95)



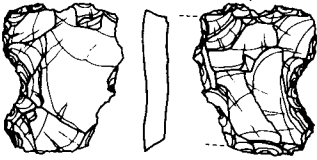
第256图 石器实测图(96)



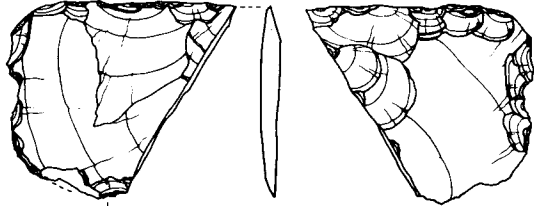
882



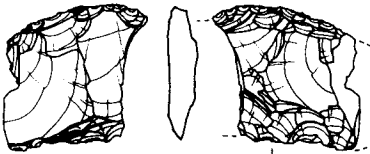
883



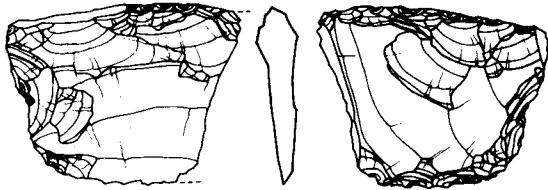
884



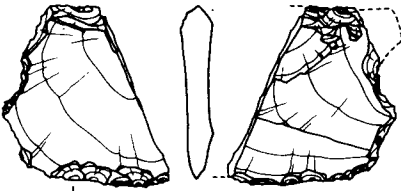
885



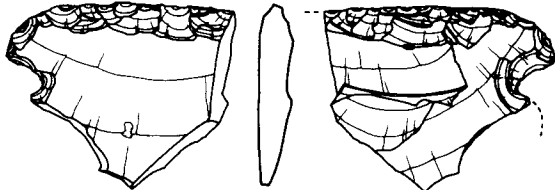
886



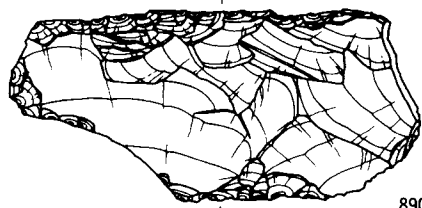
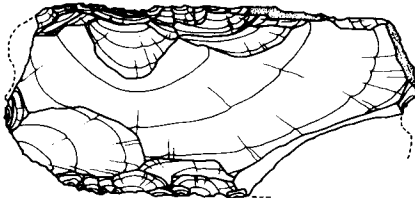
887



888



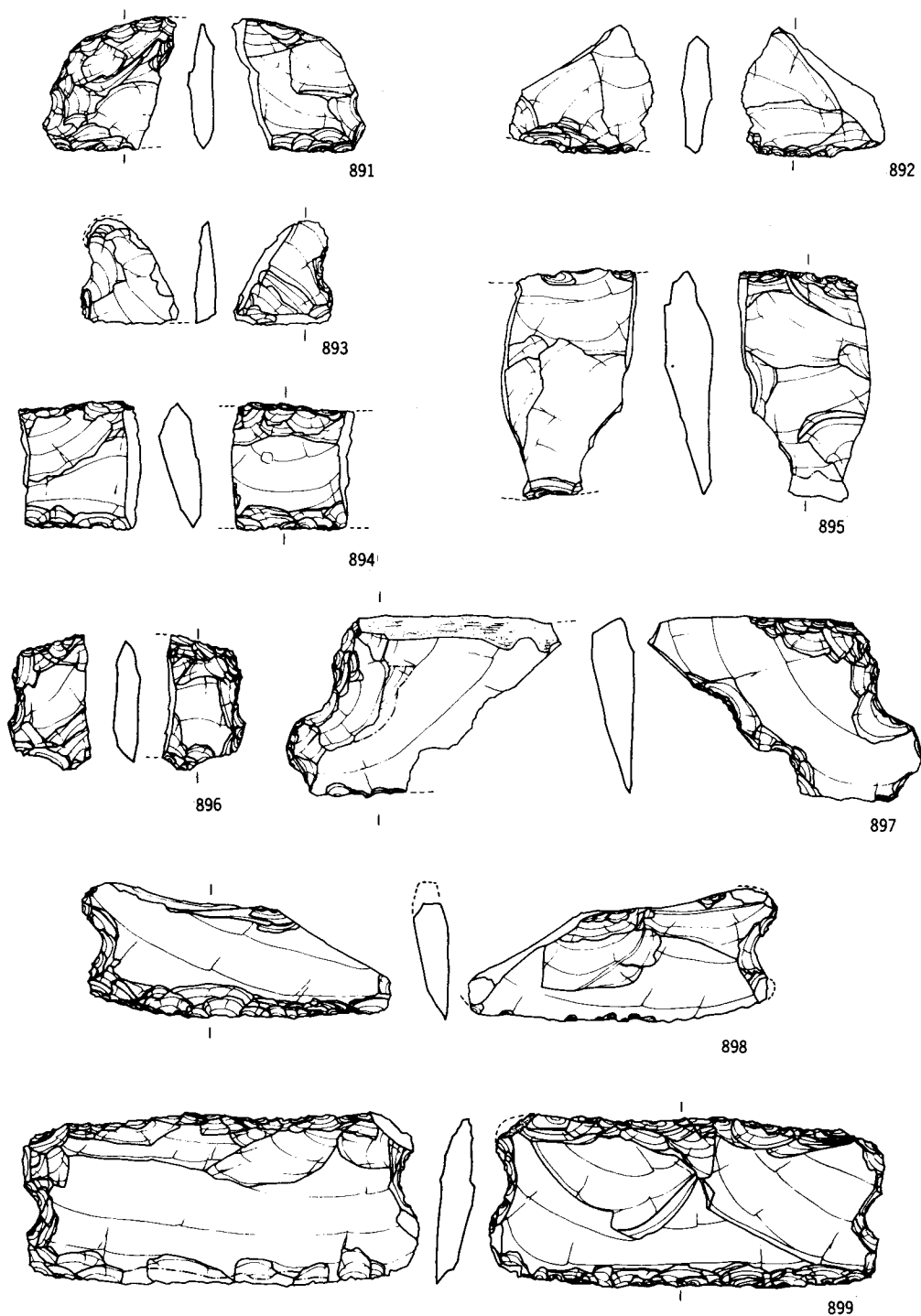
889



890

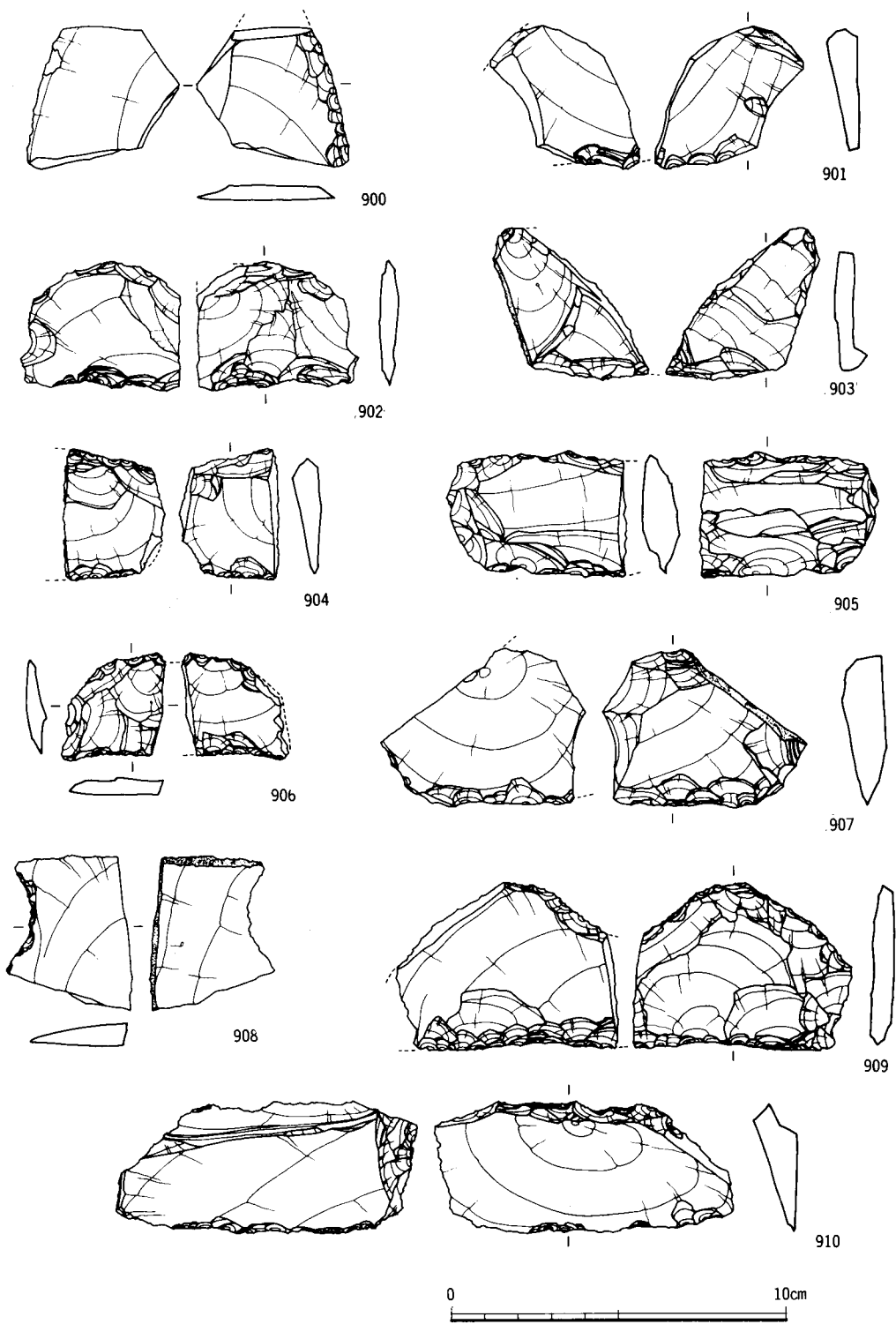


第257图 石器实测图(7)

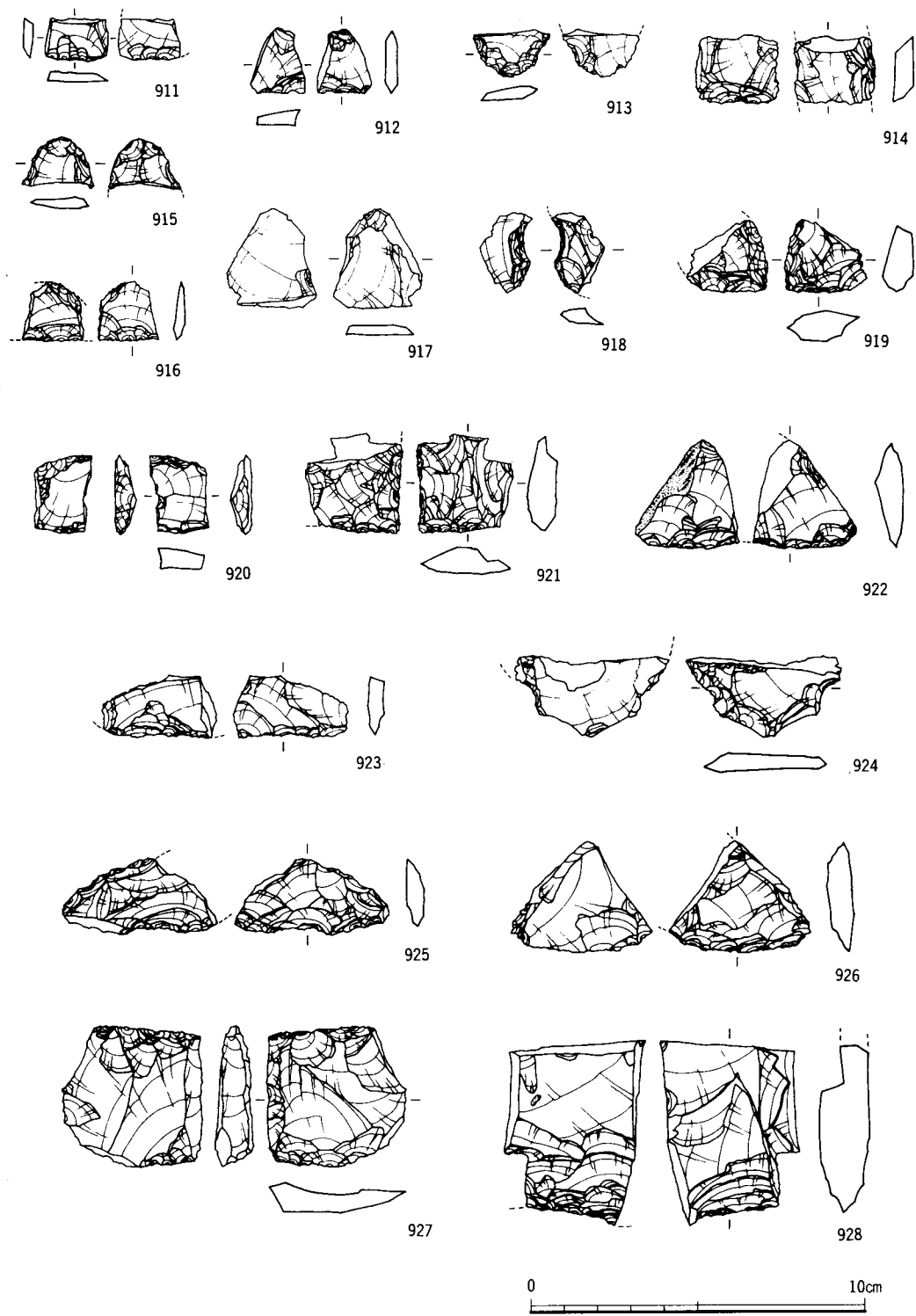


0 10cm

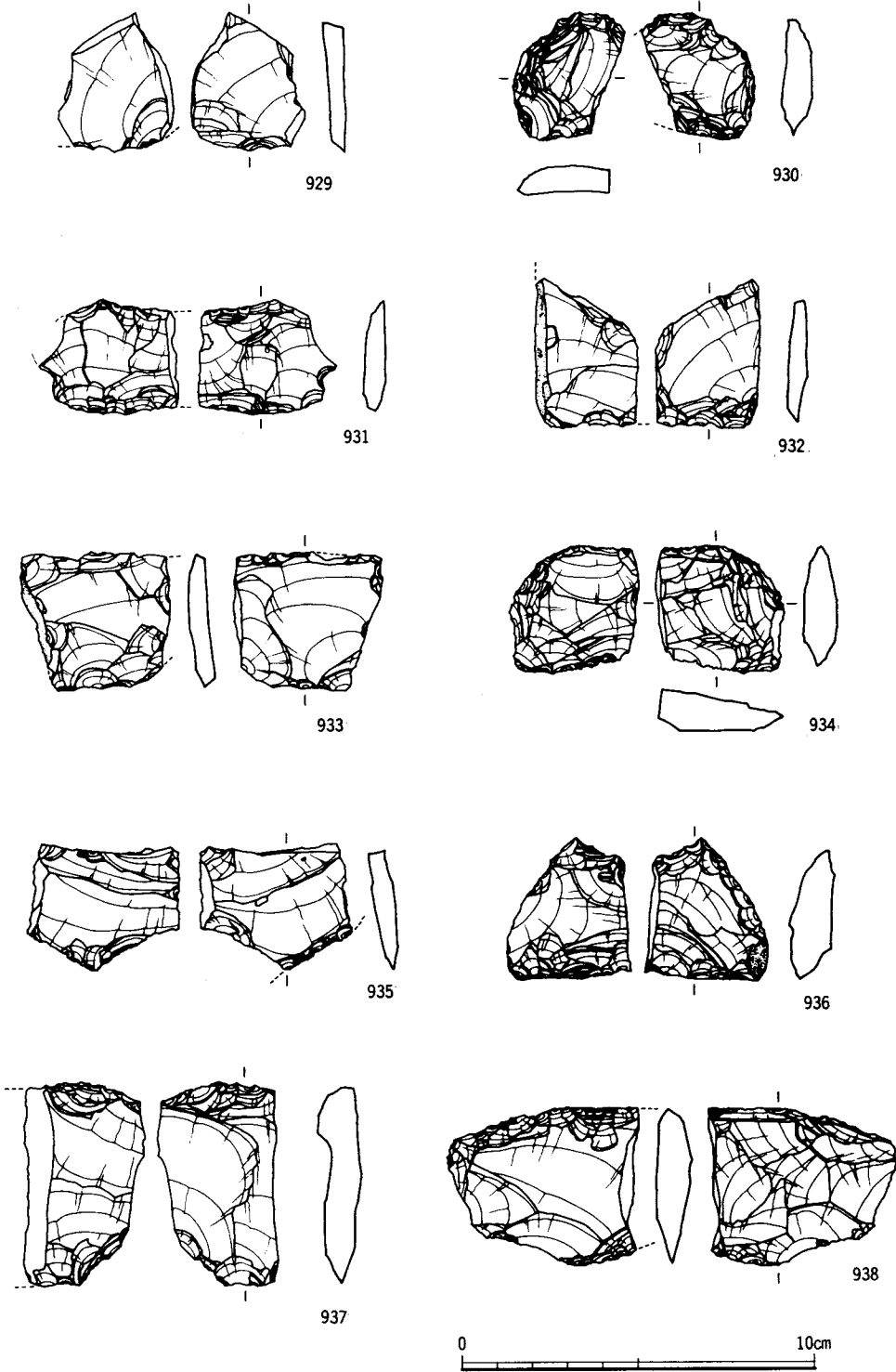
第258图 石器实测图(9)



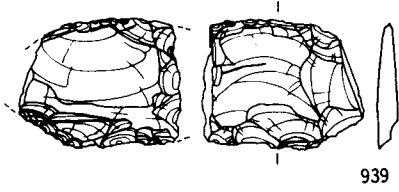
第259图 石器实测图(9)



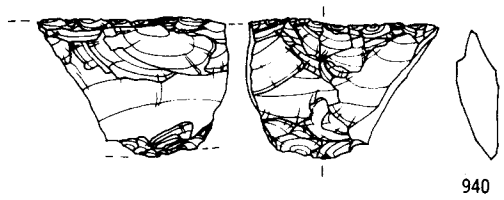
第260图 石器实测图(100)



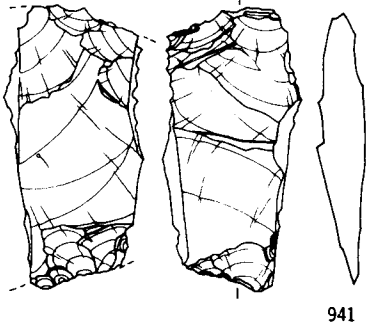
第261图 石器实测图(101)



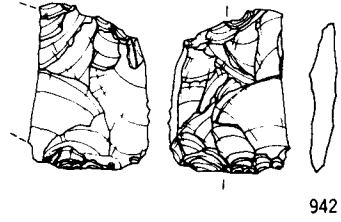
939



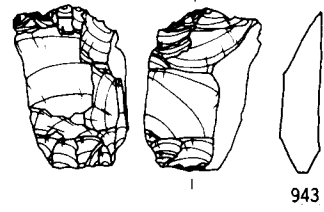
940



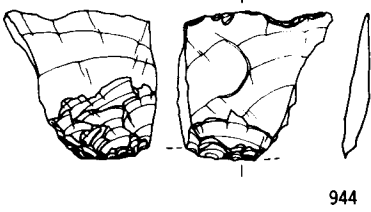
941



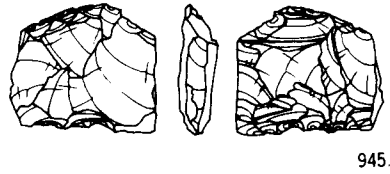
942



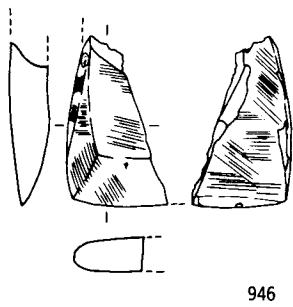
943



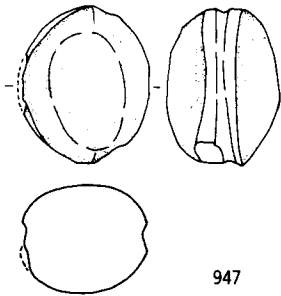
944



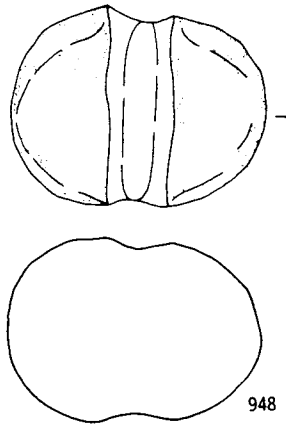
945



946



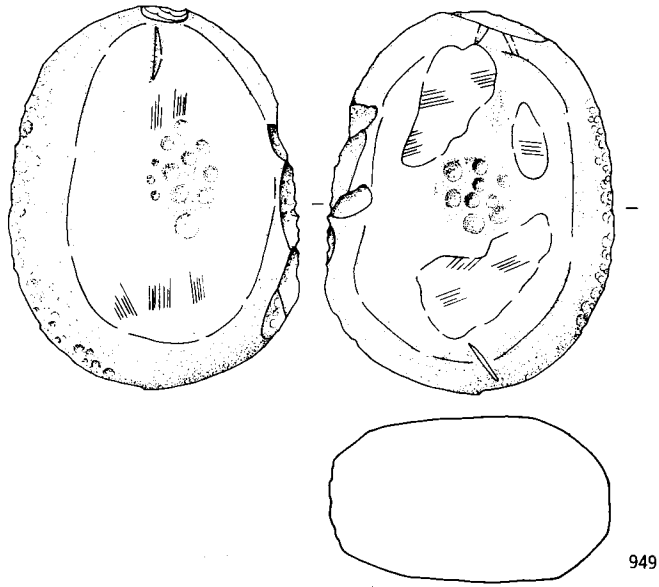
947



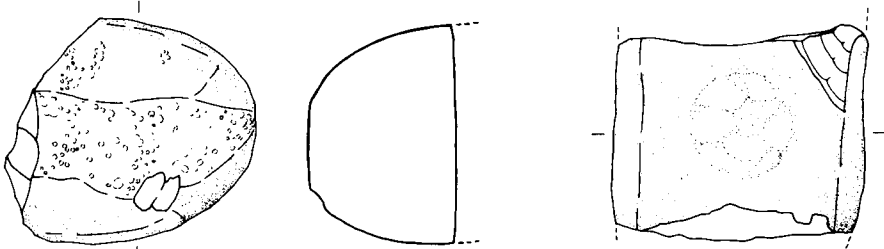
948



第262图 石器实测图(102)



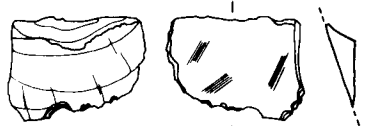
949



950



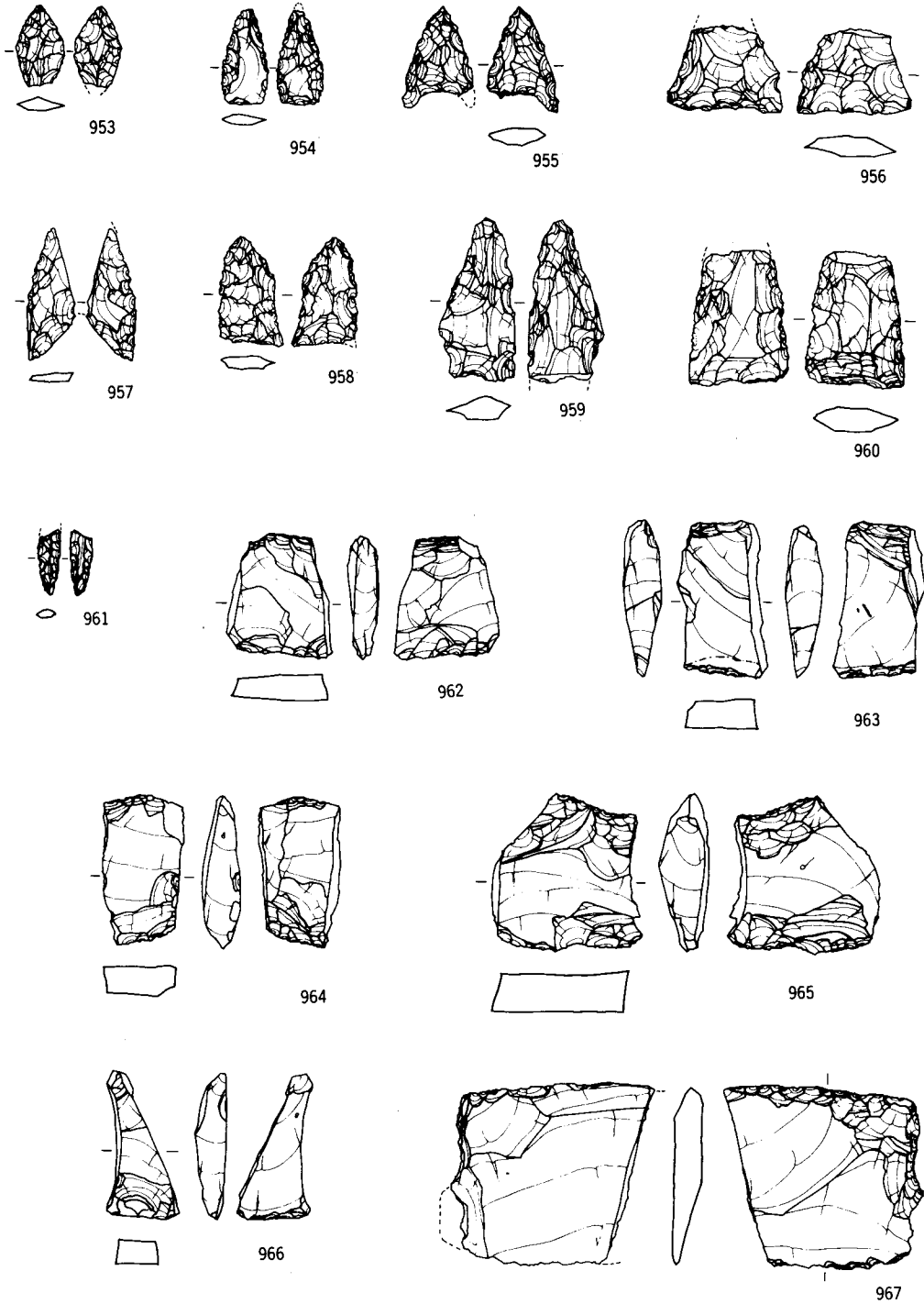
951



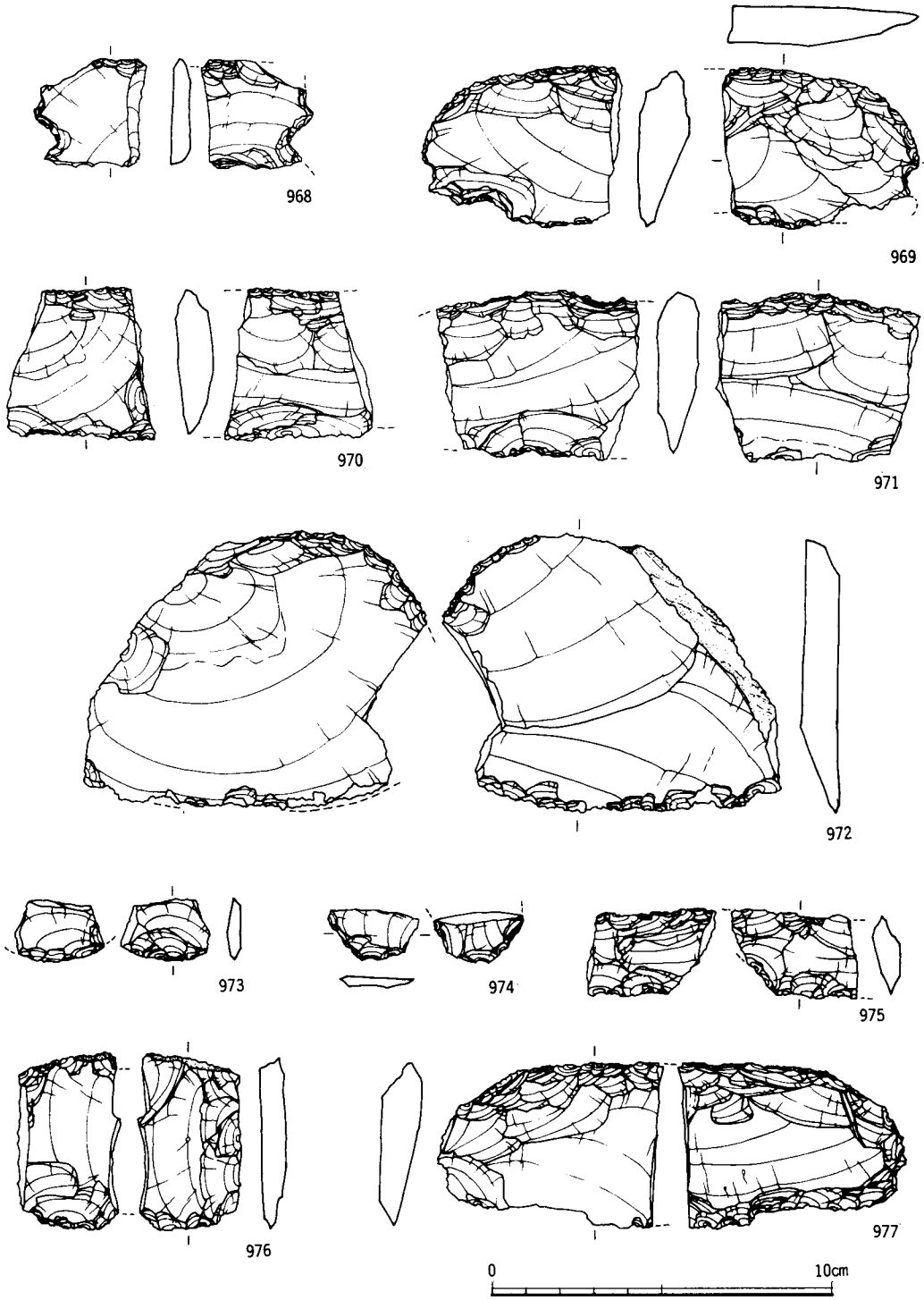
952



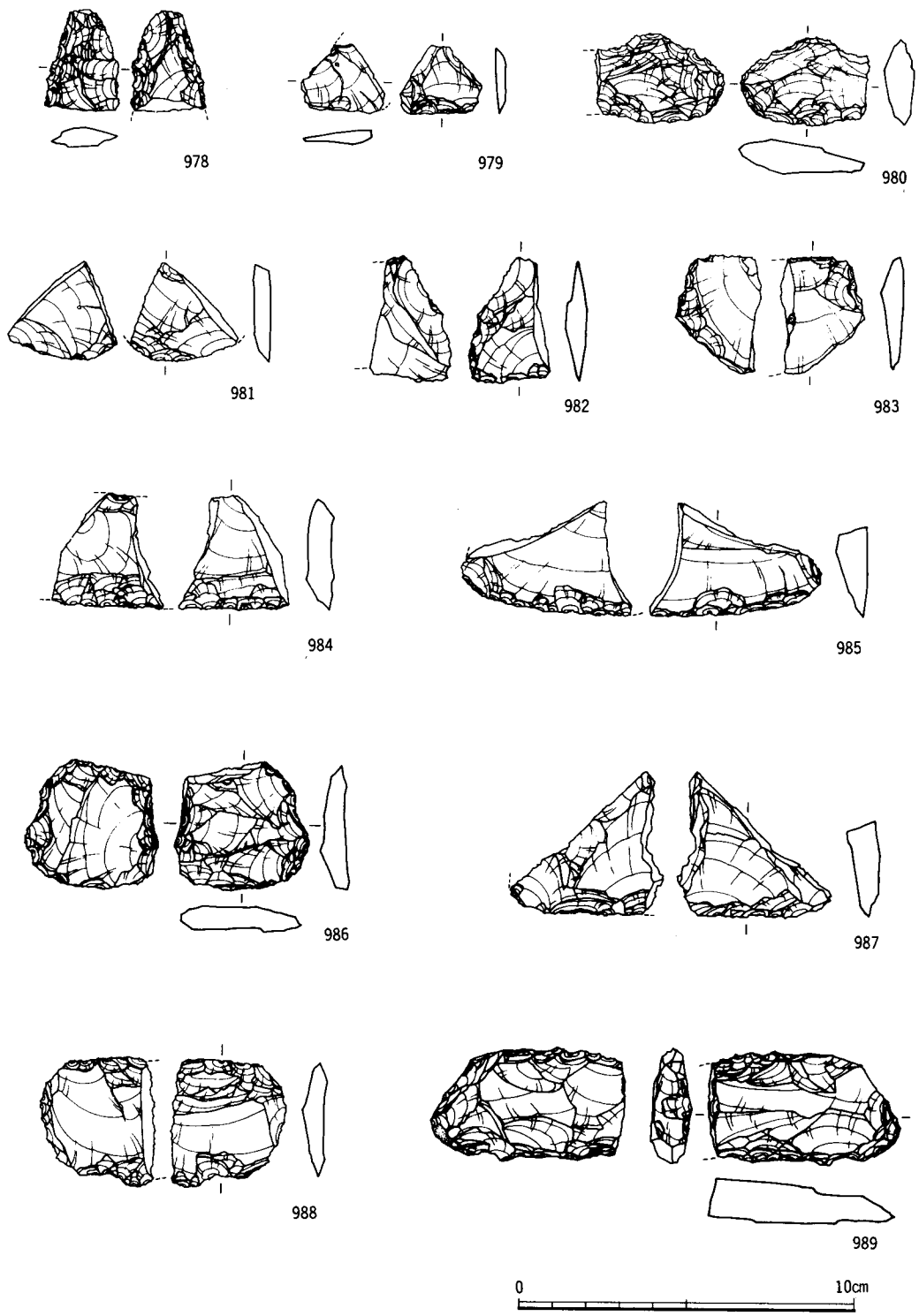
第263图 石器实测图(103)



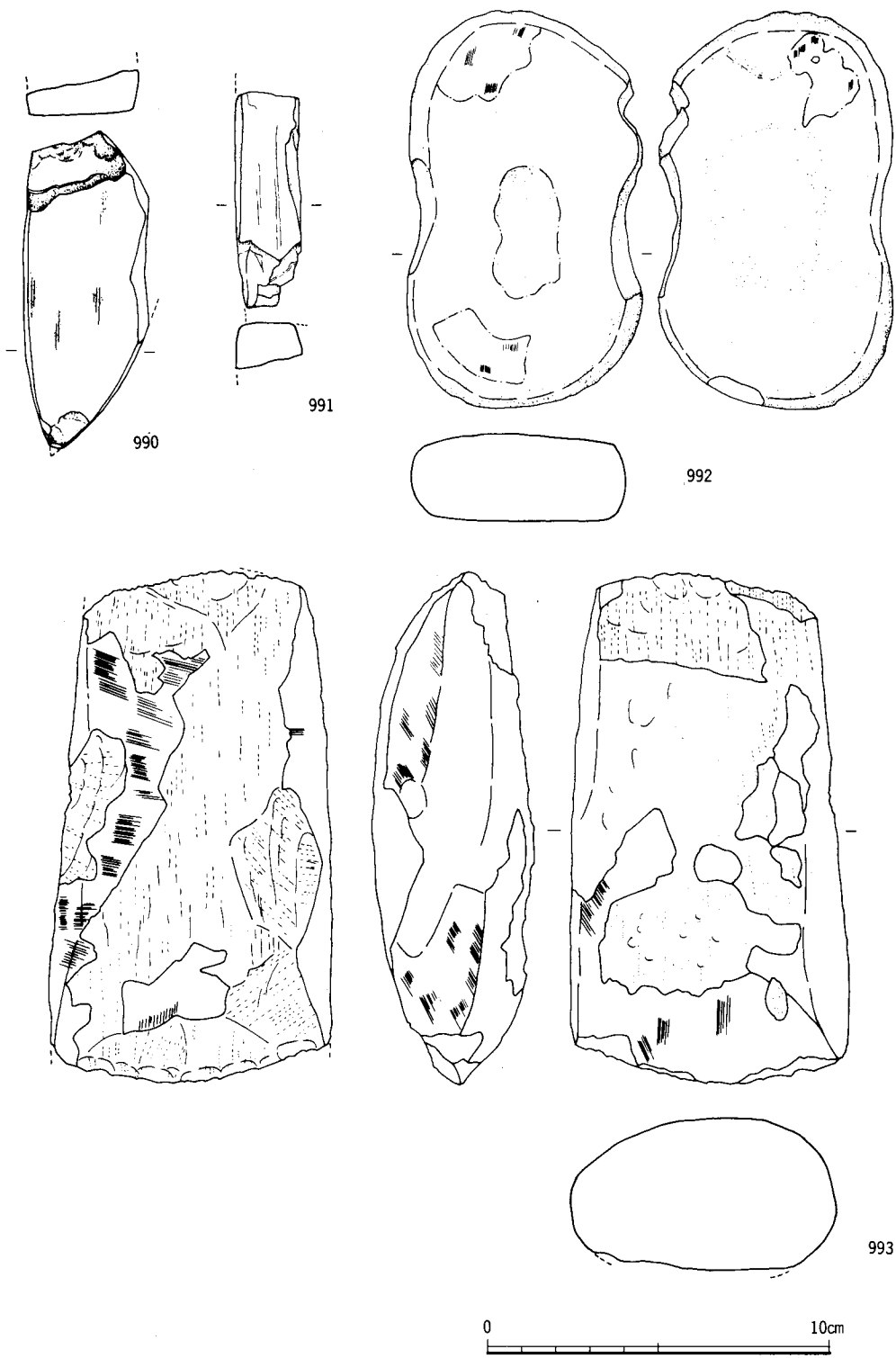
第264图 石器实测图(104)



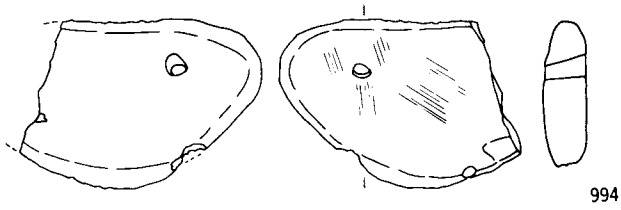
第265图 石器实测图(105)



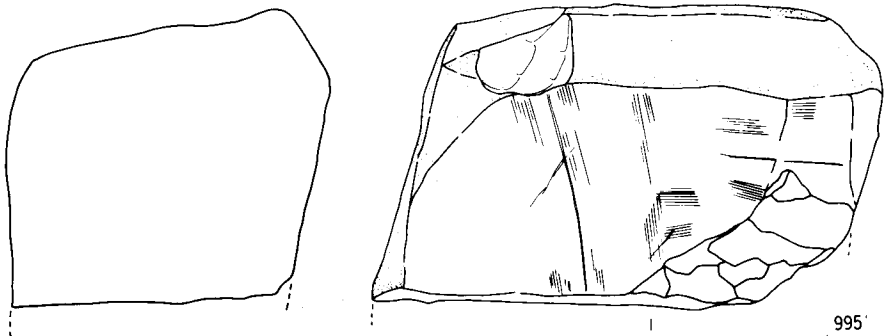
第266图 石器实测图(106)



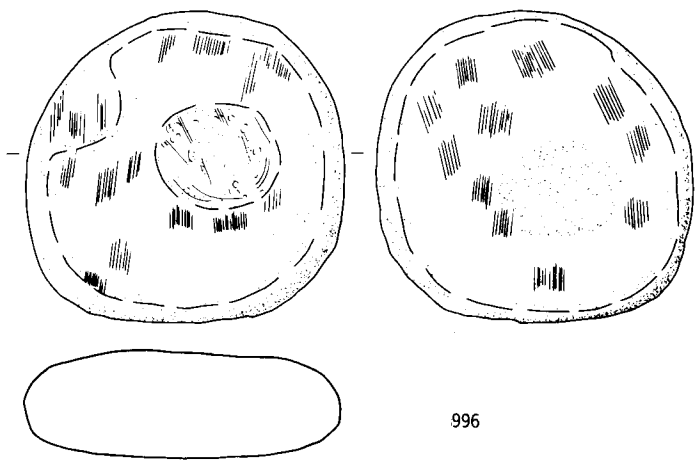
第267图 石器实测图(107)



994



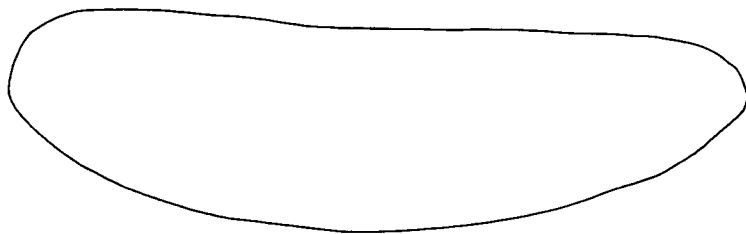
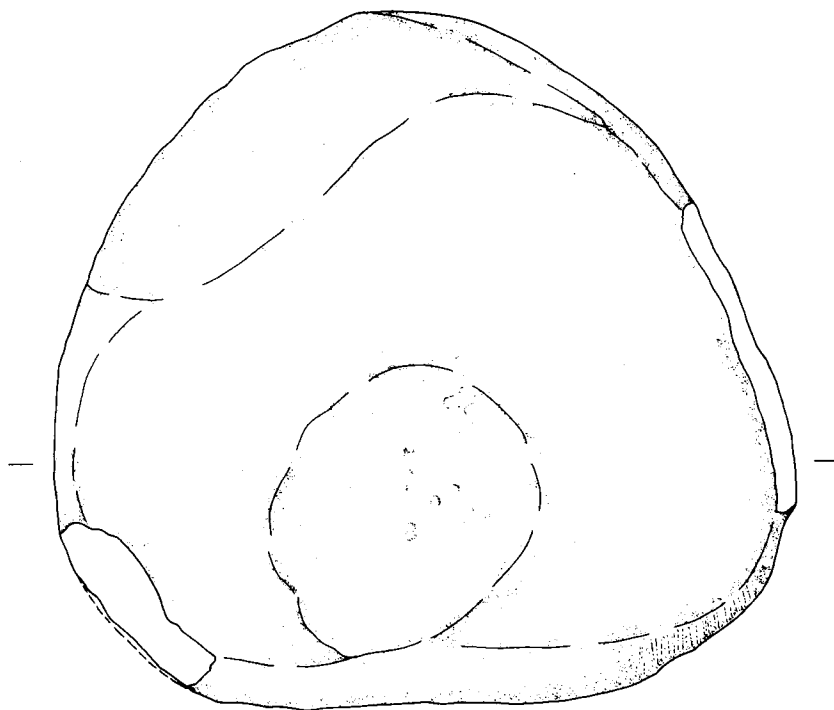
995



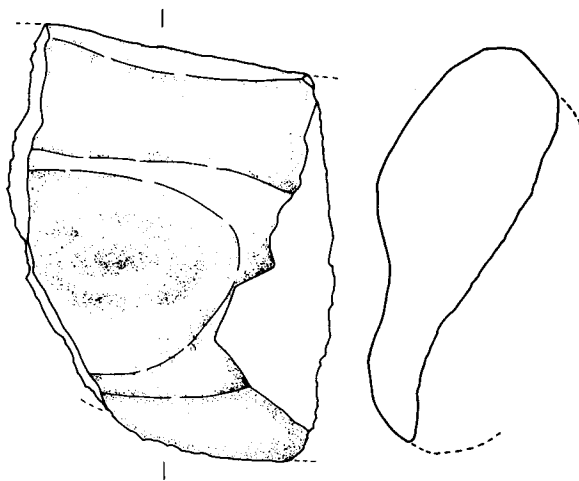
996



第268图 石器实测图(108)



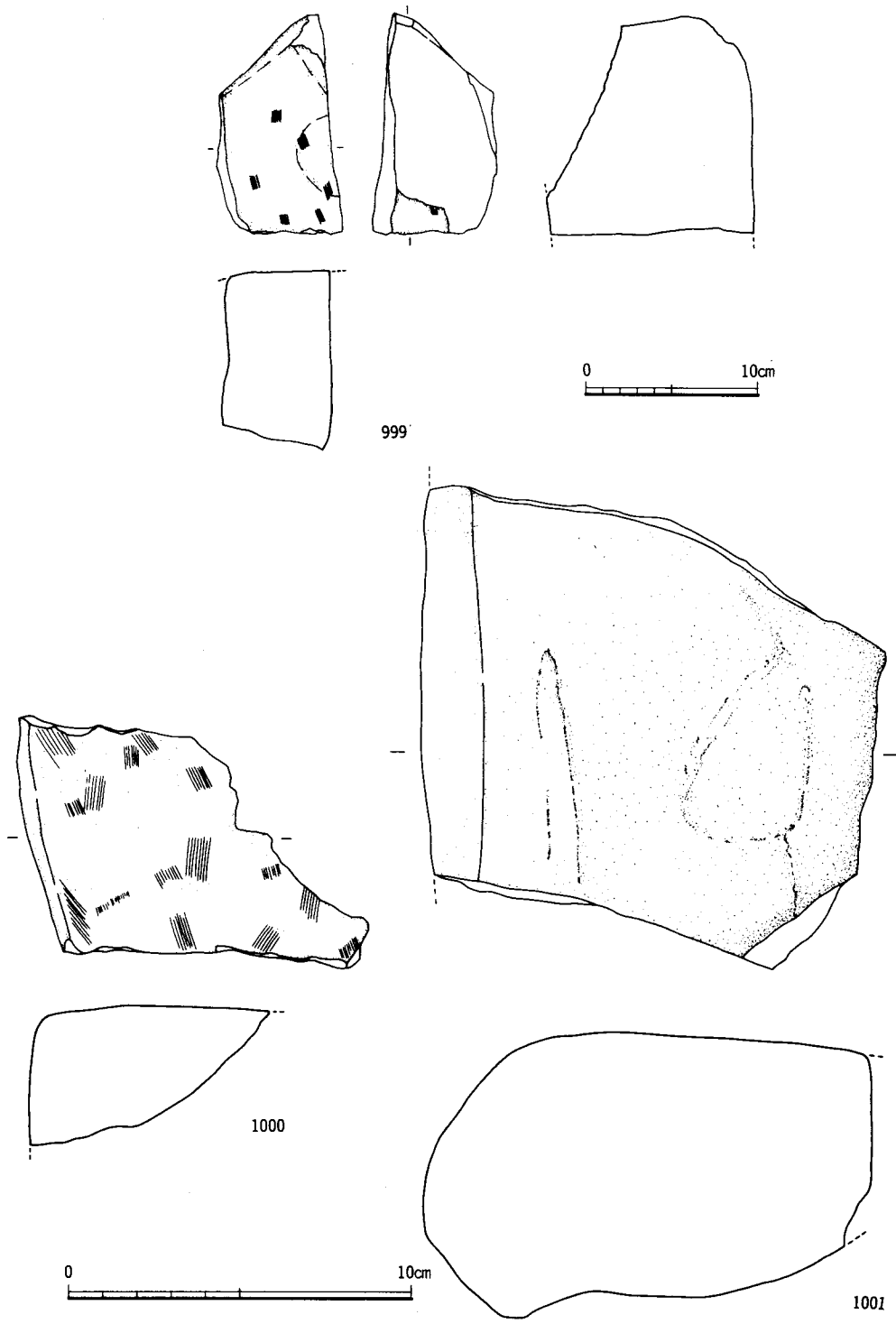
997



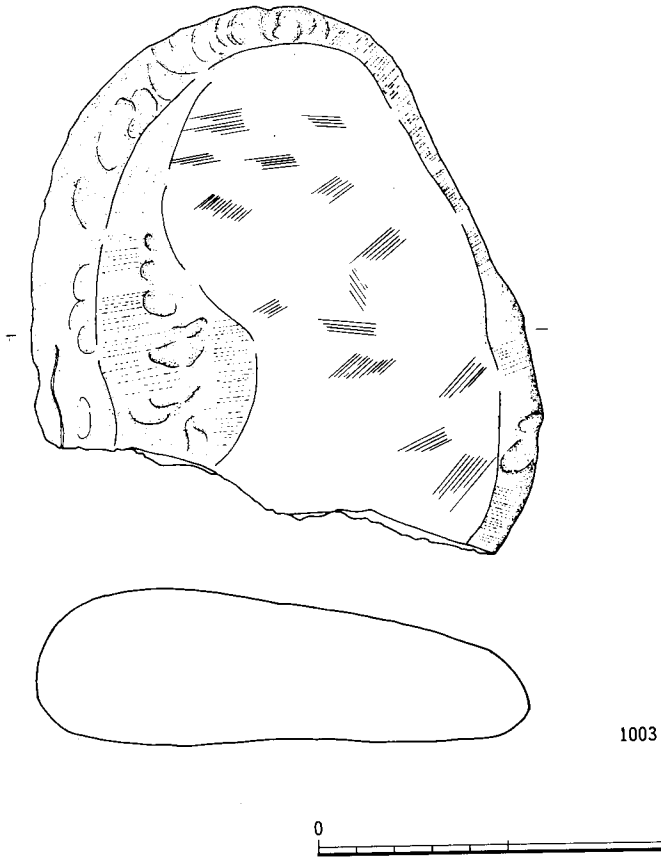
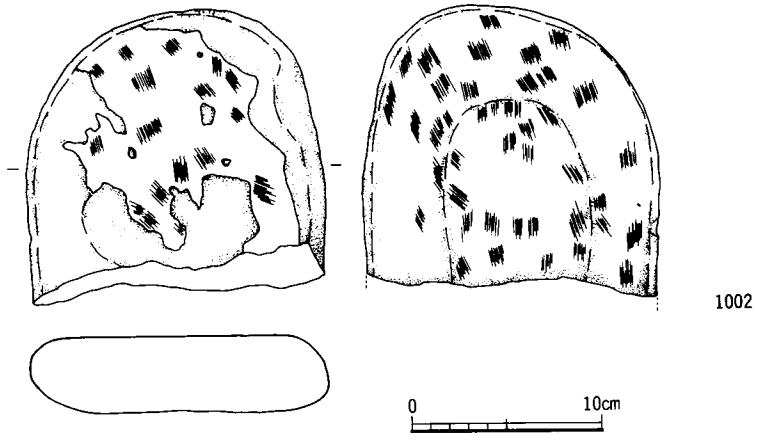
998



第269图 石器实测图(109)



第270图 石器实测图(110)



第271图 石器实测图(111)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出土 位置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
1	国府型 ナイフ形石器	サヌカイト	(68.55)	29.00	16.50	24.7	ANW-9 谷筋	下端部を欠失。底面、背面は共に一面。背面は2面。打面部に主要剝離面側から粗い調整が施されている。
2	ナイフ形石器	〃	80.10	25.85	13.55	23.8	F-3(E) 遺構面直上	上端部一部を欠失。底面→腹面は共に一面、背面は三面よりなる。打面部 底面基部共に主要剝離面側から調整が施されている。
3	〃	〃	(67.25)	25.15	10.80	20.0	ANY-9 SD85101上層	両端欠失。背面、腹面は各一面、底面は2面。
4	ナイフ形石器 未整品	〃	(53.25)	27.65	7.40	12.5	ANW-9 谷筋	下半部を欠失。背面、底面、腹面は各一面。打面部には主要剝離面側から一面の大きな剝離を施す。翼状剝片を使用か。
5	横長剝片	〃	(47.20)	39.00	7.45	16.1	ANC-5 SD85035	下半部を欠失。底面は複数。背面は広く、断面は台形。打面端部には主要剝離面側からの小さな調整剝離がある。
6	〃	〃	49.60	35.80	13.65	18.9	ANF-3(E) 遺構面直上	完形。基部が広がる形。打面部に背面側から調整が施されている。
7	〃	〃	41.95	19.15	5.90	3.2	ANW-9 谷筋	打面は平坦面。背面には複数の小さな剝離面がみられる。
8	縦長剝片	〃	(102.60)	23.30	19.90	46.2	ANE-4 遺構面直上	下端部を欠失。一方の背面は石核の側面か。断面は三角形。風化がやや進み側縁部の鋭さを失う。
9	有舌尖頭器	〃	(55.15)	23.05	6.30	7.0	ANA6E SX85002	先端部および下半部を欠失。柳葉形。両面とも押圧剝離を施す。断面は凸レンズ状。
10	石匙	〃	(100.65)	30.90	8.25	28.8	ANX-8(S) SD85101	下端部の一部を欠失。縦型。側縁部は丁寧な両面調整がなされている。右図側縁部に階段状剝離が多くみられる。白色風化。
11	〃	〃	(72.00)	43.40	11.85	38.6	AN表採 (試掘)	上端部を欠失。縦型。右図側縁・下縁には調整が著しい。下縁のみ両面調整。左図左側縁部に自然面を残す。
12	〃	〃	38.65	(48.90)	6.20	15.1	ANA6E SX85002	下端部を欠失。縦型、一側縁部は片面調整が施されており、他側縁部には自然面を残す。白色風化。
13	〃	〃	43.45	(30.50)	7.60	10.2	ANX9 黒色土	横型。横半分を欠失。刃部、つまみ部上縁共に両面加工。挟り部分には細かな敲打を施す。
14	〃	〃	61.20	(96.90)	9.40	58.7	AN SB85103-1	両端部を欠失。横型。下縁部は丁寧な片面調整が施されている。白色風化。
15	打製石斧	〃	(77.35)	58.60	17.40	95.7	ANX-8(S) SD85101	下半部を欠失。上縁部は弧状に突出。両側縁にわずかな挟りがある。両側縁に一部敲打を施す。左図右側縁部の挟り付近の稜線に磨滅あり。頭部に自然面を残す。
16	〃	〃	(74.15)	46.15	12.25	43.7	ANU-9 黒色土	上半部を欠失。短冊形。刃部は直線状。両側縁部に敲打を施す。両面とも稜線にわずかな磨滅がある。左図の刃部に全体的にわずかな磨滅がある。
17	〃	讃岐岩質 安山岩	(111.00)	66.25	18.20	170.0	ANE-4 SD85037	下半部を欠失。上縁部は弧状に突出。両側縁上部にわずかな挟りがある。両面共に自然面を残す。扁平な自然礫を利用。
18	打製石斧?	〃	(81.80)	54.95	22.80	91.5	AN 試掘包含層	上半部欠失。長楕円形。刃部は弧状に突出。両側縁部の一部に敲打を施す。左図の全体に自然面を残す。縦長剝片を利用。
19	〃	〃	(144.55)	80.20	17.15	210.2	ANC-5 SD85027	頭部の一部を欠失。短冊型。ほぼ中央部にわずかに挟りあり。刃部は直線状。右図の左側の稜線にわずかに磨滅がある。左図左上縁部、下半部を左側縁部に自然面を残す。右図左側縁を刃部とするスレイバーの可能性もある。
20	〃	〃	(114.15)	78.30	19.00	227.5	ANZ-6 SD85019第2層	下半部欠失。短冊型。両側縁上部に挟りがある。挟り部分以外の両側縁に敲打を施す。自然面を右図の右%と上縁部、左図右上部、左半分に残す。扁平なサヌカイト原石を利用。

第73表 石器観察表(1)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
21	打製石斧	サヌカイト	(64.60)	(44.50)	16.30		X-8(S) SD85101下層	上半部を欠失。小型短冊形。両側縁とも顕著な両面調整を施す。
22	石鏃	"	(35.40)	2.45	7.45	6.7	SD85001	先端部を欠失。凸基大型石鏃。
23	"	"	28.95	13.90	3.75	1.5	"	完形。凸基。
24	打製石庖丁	"	(34.85)	33.55	7.20	13.0	"	右図左半分を欠失。上縁部は両面調整、敲打を施す。刃部は直線状で両面から調整を施す。側端部は狭く、小さな抉りあり。
25	"	"	(27.25)	45.75	8.50	11.8	"	側端部のみ残存。比較的大きな抉りを持ち、上縁部に敲打がみとめられる。
26	"	"	34.20	(15.60)	6.45	3.1	"	下端部に両面から調整が施されている。
27	"	"	29.10	(22.0)	8.45	6.7	"	一部欠失。上縁、下縁に両面から加工が施され、階段状剥離がみられる。右図右下側縁に自然面を残す。
28	"	"	(42.90)	(38.60)	10.00	18.9	"	一部欠失。下縁部に両面調整が施され、右図に階段状剥離が多くみられる。左図左半部に自然面を残す。
29	"	"	58.90	(34.20)	12.60	38.5	SD85008	一部欠失。上縁、下縁と一方の側縁に両面調整がみられる。上縁、下縁には階段状剥離が多く敲打が施されている。左図右半部中央の稜線と下縁部付近の稜線に磨滅がある。石櫛の破片か。
30	"	"	(37.25)	(41.00)	21.45	22.2	"	一部欠失。上縁部は直線状、両面調整で、敲打がみられる。
31	"	"	41.00	(33.35)	11.80	16.5	SD85010	折損部以外に両面調整を施す。下縁部は階段状剥離が多い。上縁に敲打が若干施されている。
32	スクレイパー	"	(59.80)	74.05	12.30	63.3	"	刃部の一部を欠失。刃部は直線状。剥離角度はゆるく、両面からの剥片剥離である。上縁に自然面を残す。
33	スクレイパー?	"	52.15	42.70	9.95	32.9	"	左上部欠失。長方形。刃部は直線状、両面調整で階段状剥離が多い。欠失部をのぞき敲打がわずかに認められる。両面の稜線に磨滅あり。
34	石鏃	"	(30.50)	13.60	3.10	1.5	SD85011	先端部欠失。長三角形。基部は凸基さみ。
35	"	"	47.70	(26.10)	7.20	14.4	SD85013	上縁、下縁とも両面調整。下縁部に敲打あり。石庖丁か。
36	"	"	34.40	(23.00)	6.50	7.1	"	上縁、下縁とも両面調整。側面の一部は上下方向からの剥離。楔状石器か。
37	"	"	(27.20)	(22.16)	5.50	3.9	"	一部欠失。下縁と一側縁は両面調整。
38	凹み石	砂 岩	121.25	121.20	34.20	755	SD85012	完形。扁平な河原石を利用。両面ともほぼ中央部を敲打し、わずかに凹む。
39	磨製石斧	結晶片岩	(69.20)	30.85	(15.00)	42.7	SD85016	上端部、下半部、片面を欠失。柱状片刃石斧か。
40	石鏃	サヌカイト	(11.45)	13.00	3.40		SD85017	先端部を欠失。凹基。

第74表 石器観察表(2)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
41	スクレイパー	サヌカイト	(95.25)	52.30	13.65	53.9	S D85017	両端部を欠失。刃部は直線で剥離角度は緩く、片面調整で剥離は密である。横長剥片を使用。右図左側縁部に自然面を残し、調整剥離と敲打が認められる。
42	楔状石器	〃	25.10	20.55	8.10	5.7	S D85018	完形。長方形。両側面を上方から截断、上縁、下縁とも両面調整で階段状剥離が見られる。
43	打製石庖丁	〃	(62.30)	42.50	9.50	31.7	〃	一端を欠失。長方形。上縁部は凸線状。刃部は直線状で両面調整を施す。左図左上縁部にわずかな磨滅あり。上縁が厚く下縁はややうすい。一方に抉りの部が残る。
44	扁平片刃石斧	結 晶 片 岩	87.10	39.60	13.50	135	〃	完形。刃部側がやや幅広。刃部は直線状で敲打痕が見られる。
45	石鏃	サヌカイト	(24.90)	15.60	3.85	1.6	S D85019	上端部一方の下端部を欠失。凹基。
46	〃	〃	(24.15)	(16.35)	4.60	2.2	〃	上端部と一方の下端部を欠失。基部はわずかに凹基。
47	〃	〃	(22.45)	22.80	4.20	2.7	〃	上半部を欠失。大型凹基石鏃。
48	楔状石器	〃	40.00	16.70	9.35	7.2	〃	方柱状。上・下方からの截断面をもつ。左図下縁部に階段状剥離がみられる。
49	打製石庖丁	〃	(72.60)	41.20	10.60	46.8	〃	一端を欠失。長方形。上縁部は直線状、両面加工。刃部は直線状で片面調整。片面は磨滅顕著。側端の下部に小さな抉りあり。
50	〃	〃	36.30	(36.20)	8.20	13.3	〃	両端部欠失。上縁、下縁共に両面加工を施し、わずかな敲打が認められる。
51	スクレイパー	〃	(38.50)	(25.70)	4.55	5.1	〃	刃部の一部を残す。刃部は両面にやや丁寧な調整が施される。
52	石鏃?	〃	(42.20)	21.80	5.60	5.3	〃	錐先部を欠失。
53	〃	〃	49.90	34.90	12.25	32.7	〃	楔状石器か。一部破損下端部に階段状剥離が多く見られる。
54	磨石	砂 岩	121.10	9.80	44.55	665	〃	下縁部の一部を欠失。扁平な丸石を利用。両面中央部を敲打し、右図敲打の右側を磨く。
55	石皿	〃	135.90	13.55	34.95	820	〃	完形。扁平な河原石を使用。端部付近の表面がやや磨かれ中央部と上端部に敲打らしきものが見られる。
56	磨製石斧	結 晶 片 岩	(69.10)	33.60	(17.65)	44.9	S D85020	片面欠失。体部の一部を残す。柱状片刃石斧。石質は39に酷似する。
57	楔状石器	サヌカイト	20.30	8.30	6.25	2.0	S D85023	一側面を下方から截断。上縁、下縁共に両面加工。
58	スクレイパー	〃	(59.80)	(46.70)	6.50	22.3	S D85025	刃部の一部を残す。刃部は凸線状でやや粗い調整である。
59	スクレイパー	〃	(80.15)	62.20	14.55	57.6	S D85027	一側縁欠失。刃部は凸線状で片面に丁寧な剥片剥離が施されている。上縁部の一部に自然面を残す。
60	〃	〃	50.55	(23.05)	10.40	16.6	〃	両端部を欠失。上縁部に敲打痕あり。

第75表 石器観察表(3)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
61		サヌカイト	129.30	55.50	14.25	103	S D85027	石庖丁未製品か。一方の側縁を欠失。他側縁に自然面を残す。上縁部に丁寧な両面加工と刃つぶしの敲打が施されている。
62	磨製石器	結晶片岩	96.55	34.60	6.95	41.9	"	片面を欠失。
63	打製石庖丁	サヌカイト	(74.00)	65.00	10.75	59.6	S D85029	一側縁部を欠失。長方形。刃部は直線状。両面調整を施している。抉りあり。上縁部に敲打が見られる。
64	"	"	(34.80)	52.30	6.50	14.1	S D85031	一側縁部を欠失。長方形。上縁部、刃部共に直線状か。上縁部は両面調整で敲打が見られる。刃部は片面調整。側縁上部に浅い抉りあり。
65		"	(34.70)	21.85	6.15	5.2	"	下縁部の一部を残し、両面調整で階段状剝離が多く見られる。
66	凹み石	砂 岩	125.50	114.50	34.50	700	"	完形。扁平な河原石を利用。中央部を敲打し周辺を擦っている。左図右上側面に6条の切り込みがみられる。
67	打製石庖丁	サヌカイト	(24.15)	(43.90)	6.15	6.0	S D85034	側縁の一部を残す。抉りあり。
68	"	"	(33.85)	54.70	9.05	21.3	"	一側縁部と他側縁の抉り部分を欠失。上縁部、刃部共に直線状で両面調整を施す。上縁部に敲打抉り部分がみられる。
69	スクレイパー	"	(63.65)	(34.05)	10.85	24.5	S D85036	下半部を欠失。両側縁部に両面調整を施す。左図左側縁部の下半分に敲打が見られる。下端部の一部に調整あり。
70	楔状石器	"	36.70	17.65	10.15	7.2	"	完形。方柱状。両側面に上下から截断する。上縁、下縁共に階段状剝離がみられる。
71	"	"	43.25	30.75	9.40	16.9	"	一側縁を欠失。上方からの截断が1面ある。上縁、下縁共に両面調整を施し、下縁部に敲打痕がみられる。
72		"	(63.60)	(67.20)	9.90	18.0	"	打製石庖丁又は石錐か。
73	打製石庖丁	"	(52.50)	49.90	10.20	27.6	"	一方の端部を欠失。上縁部は直線状で、両面調整が施されている。刃部は半月形で片面に丁寧な調整が見られるが、裏面(左図)の調整はやや粗い。左図の抉りから刃部にかけてと上縁の一部が磨滅している。
74	"	"	(46.85)	36.45	7.95	16.6	"	一側縁を欠失。長方形。上縁部、刃部共に直線状で階段状剝離が多くみられ両面調整が施されている。わずかな抉りあり。
75	"	"	(34.60)	70.10	8.95	20.6	"	端部のみ残存。上縁部、下縁部共に両面加工を施している。大きな抉りあり。
76	スクレイパー	"	(42.50)	69.15	13.70	46.8	"	刃部は直線状で剝離角度が急な片面調整が施されている。左図右側縁部に自然面を残す。エンドスクレイパーか。
77	"	"	32.20	40.40	7.15	11.0	"	刃部は直線状。階段状剝離が多い片面調整を施す。
78	"	"	67.50	47.25	7.70	26.4	"	刃部の一部を欠失。不定形。刃部はやや粗い両面加工。右図左側縁部に自然面を残す。
79	"	"	79.20	69.05	17.90	90.5	"	完形。不定形。刃部は凸線状で片面調整。上縁の一部に敲打痕あり。
80		"	24.95	20.20	3.80	1.5	"	右図右側縁部に丁寧な調整が施されている。

第76表 石器観察表(4)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
81		サヌカイト	(44.80)	(35.25)	7.40	8.2	S D85036	下縁部に丁寧な両面調整が施されている。
82		〃	(49.80)	(33.05)	6.20	11.4	〃	スクレイパーか。側縁、下縁の一部を残す。下縁部に丁寧な両面調整が施されている。左図左上方に敲打あり。左図左側縁部に自然面を残す。
83		〃	(36.15)	(27.20)	7.35	6.5	〃	一方の側端部を欠失。下端部には丁寧な両面調整が施されている。
84		〃	(31.25)	26.75	7.25	8.1	〃	下縁部の一部を残す。下縁部には丁寧な両面調整が施されている。
85		〃	39.35	(35.55)	7.25	12.5	〃	両端部を欠失。下縁部は直線状で両面調整が施されている。上縁部には粗い両面加工が施されている。
86		〃	(46.15)	(38.80)	7.10	11.7	〃	両面調整が施された下縁部をもつ。
87		〃	(75.35)	(53.50)	9.30	43.4	〃	両側縁を欠失。上・下縁部に階段状剥離がみられる。右図、左下側縁の一部に自然面を残す。
88		〃	(43.30)	(36.45)	8.30	17.9	〃	下縁部の一部を残す。下縁部には階段状剥離が多くみられ、両面調整が施されている。
89	打製石庖丁	〃	(72.20)	46.05	13.10	41.4	〃	一方の端部及び袂りの一部を欠失。長方形。上縁部刃部とも直線状で両面調整が施されている。
90	磨製石庖丁	粘板岩	83.90	43.55	5.65	32.2	〃	刃部の一部を欠失。中央やや上方に直径約3mmの穴を2つ持つ。刃部は片刃ぎみの両刃。
91	磨製石器	結晶片岩	67.40	22.25	4.45	12.4	〃	片面及び上下両端を欠失。小型の柱状片刃石斧片か。
92	磨製石斧	〃	(108.20)	(44.65)	23.95	176	〃	刃部を欠失。刃部側が幅広で、頭部はせばまる。
93	石鎌	砂岩	64.80	127.90	27.95	345	〃	完形。扁平な河原石を使用。両側に2個ずつの袂りあり。
94	磨石	讃岐岩質 安山岩	63.55	41.65	38.95	141	〃	完形。卵形。全面が磨かれている。一部に敲打痕がある。
95	石皿又は磨石	不明	(38.10)	(34.85)	(29.10)	47.0	〃	小片。表面と裏面が磨かれている。
96	磨石	砂岩	83.95	67.25	43.50	305	〃	完形。両面の上下端が磨かれている。下半側縁部に敲打と思われる痕がある。
97	〃	〃	10.00	71.10	25.80	〃	〃	完形。両面とも中央部を敲打し、周辺部を磨く。上端に敲打痕あり。
98	〃	〃	125.30	97.20	32.90	575	〃	完形。扁平な河原石を使用。上端部一部を欠失。両面とも中央部をわずかに敲打し、片面は中央より下方を磨く。
99	石皿	〃	211.80	119.50	52.00	2050	〃	左下側縁部を欠失。両面とも部分的に磨かれている。
100	石鎌	サヌカイト	(18.25)	(13.70)	2.40	0.5	S D85037	逆刺の端部を欠失。凹基。白色風化。

第77表 石器観察表(5)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
101	石鏃	サヌカイト	(22.25)	(20.65)	2.95	1.0	S D85037	一方の逆刺を欠失。凹基。
102	〃	〃	(21.40)	16.70	3.25	1.4	〃	先端部を欠失。基部はわずかに内湾する。
103	〃	〃	21.65	18.25	3.90	1.5	〃	完形。基部はわずかに内湾する。
104	〃	〃	(23.00)	21.00	4.60	2.9	〃	先端部を欠失。平基。
105	〃	〃	(33.50)	10.70	5.70	1.8	〃	上端部を欠失。細身。凸基。
106	楔状石器の 素材	〃	40.85	38.10	9.75	22.3	〃	完形。一方の側面を下方から一方の側面を上方から截断。上縁、下縁共に階段状剥離がみられ下縁の一部に敲打痕が認められる。
107	スクレイパー	〃	41.50	40.10	5.85	11.9	〃	両端部を欠失。横長剥片を使用。刃部の調整は側面が丁寧だが、他面は粗雑。
108	〃	〃	(42.00)	37.00	9.80	18.1	〃	一方の端部を欠失。長方形。刃部は直線状で両面に粗い調整を施す。調整剥離の角度は緩い。上縁部と左図左側縁部に自然面を残す。
109	〃	〃	(52.05)	37.05	8.55	20.3	〃	上縁、下縁共に階段状剥離が多い両面調整を施す。
110	〃	〃	(52.35)	46.10	8.00	18.1	〃	両端部を欠失。上縁部に階段状剥離が多くみられ、一部に敲打痕あり。
111	〃	〃	(46.50)	(27.00)	5.80	8.8	〃	スクレイパーか。下縁部と側縁の一部を残し、下縁部にやや丁寧な両面調整が施されている。右図左上側縁の一部に自然面を残す。
112	砥石	砂 岩	53.90	43.70	48.10	107.6	〃	小片。表面と裏面と側縁の一部が磨かれている。火熱を受けて若干赤変する。
113	大型蛤刃石斧	〃	45.10	(71.10)	44.50	680	〃	下端部の一部を欠失。刃部側が幅広く敲打がみられるので叩き石として利用。刃部の一部に擦痕が認められる。
114	石皿	〃	(138.20)	117.80	40.80	955	〃	一方の端部を欠失。扁平な河原石を使用。中央よりやや左下方に磨かれた痕が広がる。
115	石鏃	サヌカイト	(51.50)	19.70	6.30	6.5	S D85039	基部の一部を欠失。不整な柳葉形。
116	打製石庖丁	〃	(41.40)	49.50	8.80	27.6	〃	両端部を欠失。上縁部は直線状でやや丁寧な両面調整がみられ、さらに刃つぶしの敲打が施されている。刃部は片面調整が施されている。上縁部に敲打痕あり。
117	砥石	流 紋 岩	(51.30)	30.85	8.05	27.4	S D85052	下半部を欠失。表面、裏面共に使用痕が認められる。
118	石鏃	〃	(12.00)	(11.80)	1.55	0.1	〃	一方の端部を欠失。凹基。長い逆刺をもつ。白色風化。
119	〃	〃	18.40	15.50	3.00	0.6	〃	完形。凹基。白色風化。
120	〃	〃	13.25	15.50	3.10	0.7	〃	上端部をわずかに欠失。凹基。右図中央部に自然面を残す。

第78表 石器観察表(6)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
121	石鏃	サヌカイト	(22.45)	11.30	3.20	0.9	S D85101	上端部と一方の逆刺先端部を欠失。凹基。
122	〃	〃	(21.25)	15.45	3.00	1.0	〃	上端部を欠失。凹基。
123	〃	〃	26.70	20.60	5.25	2.1	〃	完形。凹基。
124	〃	〃	(21.20)	19.45	5.95	2.1	〃	上半部欠失。凹基。
125	〃	〃	32.05	24.30	8.75	5.4	〃	完形。凹基。大型石鏃。
126	〃	〃	(29.85)	8.10	3.75	-14	〃	上端部欠失。凹基。
127	〃	〃	(18.95)	16.00	5.75	1.7	〃	下半部欠失。調整剥離は粗雑。
128	〃	〃	(21.25)	(18.15)	3.60	1.3	〃	側縁と下縁の一部を残す。平基。
129	〃	〃	(24.15)	(13.75)	4.00	1.4	〃	先端部を欠失。平基。
130	〃	〃	(35.55)	17.65	5.10	2.9	〃	先端部を欠失。平基。石錐の可能性もある。
131	〃	〃	29.50	20.65	6.00	3.5	〃	完形。平基。調整剥離は丁寧。
132	〃	〃	(20.20)	(16.10)	3.90	1.2	〃	両下端部を欠失。平基か。
133	〃	〃	(35.80)	22.90	9.00	7.4	〃	先端部を欠失。凸基。肉厚な素材を用いる。
134	〃	〃	30.95	(17.30)	7.20	3.6	〃	下端部欠失。左図は先端部のみ調整を施す。
135	〃	〃	(14.90)	(12.50)	2.40	0.6	〃	上半部欠失。平基。薄手。
136	〃	〃	(22.25)	11.25	4.05	1.1	〃	上半部欠失。平基。
137	石錐	〃	42.20	29.05	6.80	6.3	〃	完形。先端、縁辺の一部磨減痕あり。
138	石鏃	〃	(24.30)	(13.25)	3.50	1.1	〃	上, 下端部欠失。
139	楔状石器	〃	29.00	8.60	9.55	2.1	〃	完形。両側面を上方から截断。上縁, 下縁共に調整剥離がみられる。
140	〃	〃	32.00	34.05	6.45	6.0	〃	完形。三角形。左図の右側面を下方から截断。上縁部と下縁部に調整を加える。

第79表 石器観察表(7)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
141	楔状石器	サヌカイト	30.70	29.95	6.60	5.9	SD85101	完形。三角形。一側面を下方から截断。上、下縁部に両面調整を施す。
142	〃	〃	67.05	41.15	20.80	70.0	〃	完形。両側面を上方から截断。上縁、下縁共に階段状剝離の多い両面調整が施される。
143	〃	〃	23.55	29.95	6.25	6.0	〃	上縁と側縁の一部を残す。上側縁部を上方から截断。
144	〃	〃	26.10	28.60	6.60	5.9	〃	一方の端部を欠失。長方形。一側縁を上方から截断。上、下縁部共に両面調整が施されている。
145	石庖丁	〃	(49.35)	(53.20)	7.60	23.3	〃	上縁と側縁の一部を残す。上縁部は外湾し、やや丁寧な両面調整が施されている。刃つぶしのための敲打痕あり。側端部にわずかな抉りあり。
146	〃	〃	(44.75)	(51.15)	9.50	26.0	〃	上縁と側縁の一部を残す。上縁部は外湾し、丁寧な両面調整が施され、刃つぶしのための敲打痕がみられる。側端部に小さな抉りあり。
147	〃	〃	(36.10)	48.85	13.15	20.6	〃	一方の端部を欠失。上縁部は直線状で丁寧な両面調整が施され、刃つぶしの敲打痕がみられる。刃部は直線状でやや丁寧な両面調整が施されている。幅広の抉りあり。
148	〃	〃	(54.45)	49.15	10.85	35.6	〃	両端部を欠失。上縁部は両面調整が施され、敲打がみられる。刃部は直線状で丁寧な両面調整が施されており、右図刃部側縁に磨滅が認められる。
149	〃	〃	92.15	37.35	11.80	52.2	〃	完形。長方形。上縁部は直線状。粗い両面調整の後、敲打を施す。刃部は若干内湾きみ。内湾部分には敲打が施され、刃つぶしされている。
150	〃	〃	(34.60)	54.35	8.90	19.4	〃	両端部を欠失。上縁部は直線状で、敲打のち擦られている。刃部は片面調整。
151	〃	〃	(57.00)	55.55	7.25	24.7	〃	一方の端部を欠失。刃部、上縁部とも外湾し、半月形。上縁部には刃つぶしの敲打があり。左図刃部(図は上下逆、上縁部分)に磨滅が認められる。
152	〃	〃	(29.50)	42.40	6.10	7.7	〃	一方の端部を欠失。長方形。刃部には小さな調整剝離が施されている。
153	〃	〃	(76.95)	60.95	15.45	71.5	〃	一方の端部を欠失。鈎錐形。上縁部は分厚く、両面調整の後、敲打を施す。刃部側は薄く、片面に丁寧な両面調整を施す。裏面の調整は粗い。右図刃部側にわずかな磨滅が認められる。
154	〃	〃	28.20	27.80	7.00	7.8	〃	両端部を欠失。上・下縁に両面調整が施されている。
155	スクレイパー	〃	68.65	32.30	11.20	28.2	〃	右図の左端部を欠失。長方形。刃部は直線状で、剝離角度がやや緩やかなや粗い調整が施されている。上縁部の両側に敲打痕あり。右図上縁の一部に自然面を残す。
156	〃	〃	(39.15)	27.10	3.90	5.4	〃	刃部の一部を残す。刃部はわずかに外湾し、細かな調整を施す。
157	〃	〃	70.05	32.45	9.45	19.7	〃	完形。刃部は外湾し、両面調整をもつ。上縁部の一部に敲打がみられる。
158	〃	〃	43.80	48.75	5.55	14.5	〃	完形。刃部(図の上縁)はわずかに外湾し、片面からの細かな調整をもつ。両側縁部にも両面調整が施されている。
159	〃	〃	63.25	33.95	8.75	19.3	〃	完形。上・下縁に調整を施す。両縁とも刃部か。左図左端部には調整がなく、自然面を残して基部状をなす。
160	〃	〃	52.10	56.65	7.10	19.9	〃	図の上縁に両面加工をもち、刃部状となる。下縁は斜に大きく割れているが、縁辺にわずかな調整をもつ。

第80表 石器観察表(8)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
161	スクレイパー	サヌカイト	(61.65)	(51.05)	9.05	37.0	S D85101	上縁の一部を欠失。側縁の折損部分に縁辺加工が施されている。剥片剥離で生じた鋭い縁辺(図の上縁)を使用か。上縁に刃こぼれ様の小さな剥離あり。下縁に自然面をもつ。
162	"	"	98.85	52.80	26.65	132	"	完形。刃部は、直線状で、やや粗い両面調整が施されている。上縁部と左図左側縁の一部に自然面を残す。
163	"	"	108.90	46.45	14.35	66.7	"	完形。木葉形。刃部は外湾し、両面調整が施されている。上縁部の一部に自然面を残し、外側の縁辺部に刃つおし加工がされている。
164	"	"	125.35	52.90	10.95	75.9	"	完形。長方形。刃部の剥離角度はややゆるやかである。剥片剥離でやや粗い調整が施されている。上縁部に敲打痕あり。
165	"	"	68.75	70.05	20.00	98.7	"	完形。刃部は直線状で剥離角度がゆるやかな両面調整をもつ。右図上縁部左方と右側縁部に自然面を残す。下縁部の一部に細かな縁辺加工を施す。
166	"	"	(24.85)	21.65	5.05	2.8	"	石鏃か。両面調整をもつ一側縁部を残す。
167	"	"	23.60	21.95	4.25	27	"	完形。方形。上下両縁に片面調整をもち、左右側縁の一部にも片面調整が施されている。
168	"	"	(35.90)	(23.95)	7.30	4.5	"	小片。調整をもつ縁辺の一部が残存。
169	"	"	(27.70)	(26.75)	6.05	5.3	"	小片。両面加工を施された縁辺の一部を残す。
170	"	"	(31.60)	(21.60)	4.45	3.0	"	小片。右図右側縁に粗い両面加工をもつ。
171	"	"	24.45	(20.75)	5.55	3.2	"	両端部を欠失。下縁部に両面調整をもつ。
172	"	"	(34.00)	(28.20)	9.10	8.6	"	側縁と下縁の一部を残す。両側縁とも両面調整が施され、下縁部には敲打がみられる。
173	"	"	(36.05)	31.20	8.35	10.3	"	一方の端部欠失。上・下両縁に両面加工あり。
174	"	"	34.65	19.55	8.50	7.1	"	上・下縁部に両面調整が施され、下縁部に顕著な敲打痕がみられる。両側面とも折損か。
175	"	"	(34.55)	(26.25)	6.85	6.0	"	下縁部と側縁の一部を残す。下縁部にやや丁寧な片面調整を施す。
176	"	"	(38.25)	(28.55)	7.35	7.4	"	下縁部と側縁の一部を残す。下縁部に両面調整を施し、一部に敲打痕がみられる。
177	"	"	(26.10)	(20.70)	2.90	1.4	"	薄手の剥片を利用。下縁部の一部を残し細かな両面調整が施される。
178	"	"	(24.90)	(19.40)	12.10	8.4	"	厚手の剥片を利用。下縁の一部が残り、両面調整が施され、敲打痕がみられる。
179	"	"	(43.45)	41.35	9.05	19.0	"	下縁部は両面調整の後、刃つおしの敲打を行う。上縁部に両面加工し、刃部を作る。右図右側縁に縁辺加工を施し、右図下縁付近の稜が若干磨滅する。
180	"	"	43.25	24.15	8.05	12.4	"	上・下縁に両面調整を施す。左図右側縁は下方からの截断面か。

第81表 石器観察表(9)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
181		サヌカイト	(27.40)	(11.45)	4.75	1.7	S D85101	刃部の小破片。左図刃部は磨滅が顕著。石庖丁片か。
182	石鏃	〃	45.15	(26.75)	7.40	9.2	〃	基部の一部欠失。大型石鏃か。
183		〃	43.90	(24.25)	8.30	10.2	〃	両端部を欠失。下縁部は階段状剥離が多い両面調整を施す。上縁部も両面調整を施す。
184	打製石庖丁	〃	35.75	(35.10)	9.30	10.5	〃	一方の側端部のみ残存。小さな抉りをもち、体部は紡錘形と思われる。
185		〃	(56.25)	26.55	11.00	20.3	〃	一方の端部を欠失。上縁部、下縁部共に両面調整を施す。上縁部に敲打痕あり。
186		〃	44.75	26.15	7.45	8.9	〃	下縁部にやや丁寧な両面調整が施されている。左図に広範囲な自然面を残す。
187		〃	(47.75)	36.20	11.00	22.0	〃	一方の端部を欠失。3側縁に両面調整を施し、上縁には対つぶしの敲打を加える。両面共に一部わずかな磨滅がみられる。
188		〃	(25.00)	(13.95)	4.30	1.3	〃	下縁部の一部を残す。下縁部に丁寧な両面調整が施されている。
189		〃	(20.45)	19.90	4.00	2.0	〃	上下端部を欠失。両側縁に両面調整が施されている。
190		〃	56.20	(39.00)	15.10	27.4	〃	両側部を欠失。上・下縁に調整を施す。
191		〃	(46.00)	(37.75)	8.25	17.0	〃	両面調整のある縁辺部の破片。
192		〃	55.95	34.50	8.95	17.8	〃	一側縁を欠失。完形。上縁下縁共に丁寧な両面調整が施される。
193		〃	40.55	38.50	12.30	29.1	〃	下縁部に両面調整が施され、敲打を加えられている。
194		〃	(61.75)	(38.80)	14.40	36.9	〃	下縁部に階段状剥離の多い両面調整が施され敲打がみられる。右図上縁部に自然面を残す。
195		〃	50.90	45.70	11.60	35.1	〃	下端部を欠失。両側縁共に丁寧な両面調整が施されている。上縁の一部に縁辺加工が認められる。
196	打製石庖丁	〃	33.40	(27.80)	9.00	11.1	〃	側端部のみ残存。上・下縁に片面加工を施し、側縁部に小さな抉りをつける。
197		〃	56.70	54.50	17.20	50.7	〃	上・下縁に両面調整を行い、左右両側面を截断する。打製石斧の破損品か。
198	磨製石器	結晶片岩	(45.75)	(34.80)	(4.70)	12.2	〃	破片。側面および上面の一部を残す。
199	磨製石斧	〃	(53.60)	(21.95)	(8.80)	18.7	〃	上・下部と片面を欠失。
200		〃	(90.65)	(61.85)	11.20	98.4	〃	下縁、側縁を加工し、縁辺の角を除いているように思われる。

第82表 石器観察表(10)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
201	磨製石製品	結晶片岩	(112.05)	31.10	7.75	53.8	S D85101	両端部を欠失。直径3.5mmの穴を持つ。両面穿孔。両面とも長軸に直角の加工痕があり、端部(孔のない側)両面に磨きが認められる。
202	叩き石	砂 岩	147.60	63.30	40.30	540	〃	完形。下端部に敲打痕が認められる。左図の表面に2カ所磨減痕あり。
203	砥石	讃岐岩質 安山岩	(218.80)	99.80	54.30	2,650	〃	下端部を欠失。左側縁の一部と表面が磨かれている。表面は特に良く磨かれ、滑らかである。
204	石鏃	サヌカイト	(11.05)	15.95	2.70	0.5	S D85102	先端部を欠失。凹基。
205	〃	〃	(20.80)	(18.60)	3.10	0.8		一方の逆刺端部を欠失。凹基。一方の側縁に抉り状の凹部あり。
206	〃	〃	30.55	17.45	3.60	1.2		完形。凹基。
207	〃	〃	(23.90)	18.45	4.55	1.4		上端部を欠失。凹基。
208	〃	〃	21.30	(17.15)	3.75	0.8		一方の逆刺端部を欠失。凹基。
209	〃	〃	(20.20)	13.25	6.95	0.9	S D85012	先端部を欠失。基部はわずかに内湾する。両側縁に抉りあり。
210	〃	〃	28.70	(18.55)	5.70	2.3	〃	一方の下端部をわずかに欠失。基部はわずかに内湾する。
211	〃	〃	35.20	(20.75)	4.10	2.4	〃	一方の下端部をわずかに欠失。基部はわずかに内湾する。
212	〃	〃	(12.10)	19.75	3.95	1.4	〃	上半部を欠失。基部はわずかに外湾する。
213	〃	〃	24.20	19.90	5.20	2.2	〃	完形。基部はわずかに外湾する。先端部に磨減が認められる。(先端部両側面の磨減が著しい。)
214	〃	〃	25.40	17.60	5.10	2.2	〃	完形。基部はわずかに外湾する。
215	〃	〃	(31.25)	21.10	5.00	3.6	〃	先端部を欠失。鏃身中央部がややふくらむ。基部はわずかに外湾する。
216	〃	〃	34.75	(15.60)	6.95	4.3	〃	一方の下端部を欠失。厚手の素材を利用。
217	〃	〃	(57.40)	20.25	5.65	6.3	〃	上端部を欠失。有基大型石鏃。
218	〃	〃	(21.05)	19.60	4.00	2.0	〃	上下端部を欠失。
219	〃	〃	(28.90)	(18.10)	5.25	1.9	〃	下半部を欠失。先端部は鋭利。
220	〃	〃	(26.05)	12.30	4.00	1.4	〃	先端部(図では下端部)を欠失。凸基。

第83表 石器観察表(11)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
221	石鎌	サヌカイト	(19.75)	(12.65)	5.65	1.1	S D85102	下半部を欠失。横断面三角形。
222	"	"	(31.00)	(21.95)	5.05	2.8	"	下半部を欠失。幅広。先端は鋭利。
223	"	"	(27.30)	(8.00)	4.00	1.2	"	下半部を欠失。幅狭。
224	"	"	(37.85)	26.15	13.10	7.2	"	下半部を欠失。有基大型石鎌か。上下逆に して、凸基石鎌と考えることもできる。
225	楔状石器	"	46.90	12.60	9.35	7.0	"	
226	"	"	38.50	24.10	11.50	10.6	"	完形。両側面を上方から截断。上下両端を両 面調整する。
227	"	"	30.00	27.40	8.15	8.4	"	完形。一側面を下方から截断。四辺形。下縁 部に丁寧な両面調整が施されている。上縁に 縁辺加工を施す。
228	"	"	33.70	29.50	4.75	5.9	"	完形。四辺形。右図右側縁を上方から截断。 上縁部、下縁部共に両面調整が施されている。
229	"	"	31.20	21.85	7.40	6.5	"	完形。四辺形。一側面を下方から截断。上縁 部に両面調整が施され下縁部には、急角度の 片面調整が施され、階段状剝離がみられる。
230	"	"	35.60	35.05	14.15	25.9	"	完形。四辺形。一方の側面を上方から截断。 上縁は片面調整が施され、敲打がみられる。 下縁は両面調整ののち、敲打を施す。
231	"	"	27.75	(32.80)	9.70	11.7	"	両側面を上・下方から截断する。上・下縁と も両面調整を施す。
232	打製石庖丁	"	(43.55)	49.00	10.65	24.7	"	側端部のみ残存。上縁部に両面調整が施され 敲打がみられる。刃部は片面に多く調整が施 されている。抉り部は片面のみの簡単な調整 でつくる。
233	"	"	(32.00)	52.00	11.10	20.4	"	端部のみ残存。上縁部は直線状でやや丁寧な 両面調整が施され、顕著な敲打がみられる。 刃部は直線状で、両面加工で刃部つくり出し ている。弧状のやや大きい抉りをもつ。
234	"	"	(31.50)	50.45	9.10	20.0	"	端部のみ残存。上縁部は外湾し、両面加工を 施す。刃部は片面の調整が著しく裏面には擦 痕がみられる。右図中央部広範囲にわたり自 然面を残す。側縁中央部にわずかな抉りあり 、石庖丁とも考えられる。
235	"	"	(67.80)	48.20	13.50	39.5	"	上縁部と一方の端部を欠失。刃部は直線状で 丁寧な片面調整が施されている。抉りあり。
236	"	"	(42.10)	41.10	8.15	21.0	"	一方の端部を欠失。上縁部は凸線状で丁寧な 片面調整が施されている。抉りあり。
237	刃器	"	44.40	23.55	5.45	4.6	"	完形。刃部(図の上縁)は直線状で、小さな 刃こぼれがみられる。上縁(図の下縁)は両 面調整を行い、刃つおしのための敲打もみら れる。
238	"	"	32.70	(25.00)	6.30	5.9	"	下半部を欠失。両側縁部に片面を主体とした 調整を施す。
239	"	"	(26.35)	(20.90)	4.15	3.5	"	下縁と側縁の一部残す。両面に調整を施す。
240	"	"	(43.65)	37.70	13.00	12.7	"	下縁の一部を残し、丁寧な両面調整を施され、 敲打がみられる。

第84表 石器観察表(12)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
241		サヌカイト	21.55	19.65	5.80	2.6	S D85102	小片。一側縁部にやや丁寧な両面調整が施されている。
242	刃器	〃	(32.00)	(27.70)	18.00	8.1	〃	小片。下縁部はやや丁寧な両面調整が施され、片刃状の刃部がつくり出されている。
243	〃	〃	49.45	23.80	4.40	5.7	〃	小片。上縁、下縁共に両面調整が施される。両側端を欠失か。
244	〃	〃	16.30	10.15	4.00	0.6	〃	小片。左図下縁と右側縁に両面調整が施されている。凹基石鏃の逆刺部か。
245	〃	〃	(31.65)	(18.75)	7.75	6.5	〃	小片。下縁の一部に両面調整が施されている。
246	〃	〃	(29.10)	(22.15)	5.55	3.2	〃	側縁と下縁の一部を残し両面調整が施されている。
247	〃	〃	25.20	(9.85)	3.00	0.9	〃	薄手の素材を用いた小片。一側縁に両面調整が施されている。
248	〃	〃	(29.80)	20.95	5.30	3.2	〃	石鏃か。上端部を欠失。右図右側縁の一部を除き、両面調整を施す。
249	〃	〃	(32.40)	28.75	10.45	7.7	〃	一方の端部を欠失。上縁部に両面調整が施され、敲打がみられる。下縁部に片刃状の刃部をつくり出す。
250	〃	〃	32.65	(20.40)	9.05	5.5	〃	一方の端部を欠失。側縁部に粗い両面調整を施す。
251	〃	〃	(34.30)	(21.90)	4.60	4.4	〃	小片。下縁部に両面調整が施され、刃部とする。
252	〃	〃	35.10	(37.35)	6.40	10.0	〃	下縁部に両面調整が施され、一方の側縁にも両面に調整が加えられている。
253	〃	〃	30.75	33.35	10.35	14.9	〃	両側部を欠失。下縁部はやや丁寧な両面調整が施され上縁部にはやや粗い両面調整が施されている。
254	〃	〃	40.75	13.60	13.50	5.0	〃	上・下縁とも両面調整が施される。両面下部は磨滅(左図の方が磨滅が顕著)。下縁部は鋭い刃部とはならない。
255	〃	〃	51.15	25.00	6.95	14.8	〃	両側部欠失。上・下縁とも両面調整が施されている。
256	〃	〃	52.95	40.60	12.65	31.2	〃	小型打製石斧か。右図右側縁部には敲打も認められる。上縁部は欠失の可能性もある。
257	〃	〃	(50.00)	(37.00)	8.10	13.8	〃	一方の端部を欠失。上縁、下縁共に片面を主体とした調整が施されている。
258	〃	〃	(43.00)	(32.80)	10.70	11.2	〃	一方の端部を欠失。上縁、下縁共に丁寧な両面調整が施され、敲打がみられる。
259	〃	〃	(36.35)	28.80	8.90	8.9	〃	上下端部を欠失。一方の側縁部にやや粗い片面調整が施されている。
260	〃	〃	47.60	32.00	9.70	12.7	〃	下縁部に片面調整が施されている。

第85表 石器観察表(13)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
261		サヌカイト	(38.40)	(31.80)	8.80	13.5	SD85102	側縁、下縁の一部を残す。下縁部にやや丁寧な両面調整が施され敲打がみられる。
262		〃	(50.75)	(30.30)	8.30	12.1	〃	側縁、下縁の一部を残す。側縁部は片面調整が施されている。下縁部は両面調整が施され、階段状剝離が多くみられる。
263		〃	42.30	27.55	11.10	17.0	〃	下縁部は両面調整が施される。上縁、下縁共に敲打が認められる。
264		〃	46.15	29.95	7.45	10.4	〃	下縁部に片面調整が施されている。右図右側縁部に敲打が施されている。
265		〃	44.10	(42.10)	7.50	16.9	〃	両端部を欠失。上縁部には片刃状の刃部がつくり出され、下縁部には粗い両面調整が施されている。
266		〃	55.55	(45.20)	12.55	41.3	〃	上端部を欠失。右図左側縁に片刃状の刃部がつくり出される。左図左側縁の一部に自然面を残す。
267		〃	54.00	58.00	15.00	53.5	〃	上・下縁に両面調整を施す。両側縁を欠失か。右図右上縁の一部に自然面を残す。
268		〃	31.95	(23.35)	11.75	10.1	〃	下縁の一部を残し、片刃状の刃部が作り出されている。
269		〃	(76.00)	40.80	9.35	29.7	〃	一方の端部を欠失。上縁、下縁共に粗い両面調整が施される。
270		〃	55.20	56.75	9.00	25.6	〃	スクレイパーか。下縁部は両面調整で片刃状の刃部が作られ、一方の側縁には刃つぶり状の片面調整が施されている。
271		〃	48.10	40.85	11.85	26.2	〃	下縁部に両面調整を施したのち敲打を施す。左図右側縁の一部に自然面を残す。
272		〃	49.75	32.85	8.25	15.0	〃	上縁部が刃部状をなし、下縁部にも調整が施されている。
273		〃	(73.70)	59.80	10.90	72.9	〃	打製石斧またはスクレイパーか。下縁部はやや粗い両面調整が施され上縁部に自然面を残す。左図右側縁に片面加工が施される。
274		〃	96.80	53.00	19.70	98.5	〃	上縁部、下縁部共に丁寧な両面調整が施され、敲打がみられる。右図左側縁部に粗い両面調整で刃部をつくり出す。
275	大型蛤刃石斧		81.00	58.90	31.70	300	〃	上半部を欠失。刃部は外湾し、敲打がみられる。
276	磨製石製品	結晶片岩	50.00	24.75	8.55	15.9	〃	下半部を欠失。一方の側縁は両刃の刃部状となり一方の側縁は分厚い。
277	磨石	砂 岩	105.45	82.40	42.75	570	〃	完形。扁平な河原石を使用。表、裏面共に中央部を若干敲打しその周囲が磨かれる。
278	〃	〃	121.20	92.85	45.50	770	〃	完形。扁平な河原石を使用。両面共に中央部に敲打を施し、その周囲を磨く。
279	〃	〃	63.10	53.65	31.90	182	〃	上縁、側縁の一部を残す。表裏面共に中央部に敲打を施し、その周囲を磨く。
280	石鏃	サヌカイト	23.95	15.40	3.60	1.1	SD85103	完形。凹基。

第86表 石器観察表(14)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
281	石鏃	サヌカイト	(18.65)	(20.20)	4.45	1.7	S D85103	先端部と、逆刺部の一部を欠失。凹基。
282	"	"	(39.80)	(20.45)	7.35	3.6	"	先端部と、逆刺部の一部を欠失。長三角形。逆刺が発達している。凹基。
283	"	"	35.75	(20.75)	4.10	2.8	"	逆刺部の一部を欠失。凹基。
284	"	"	(32.75)	(13.50)	4.60	1.9	"	先端部と逆刺部の一部を欠失。長三角形。逆刺が発達している。凹基。
285	"	"	38.80	21.30	4.70	2.9	"	逆刺部の一部を欠失。凹基。
286	"	"	(35.25)	(20.20)	3.90	2.0	"	先端部と逆刺部の一部を欠失。凹基。
287	"	"	(17.90)	(11.70)	4.10	0.9	"	先端部と下端部の一部を欠失。平基。
288	"	"	31.25	13.50	4.10	2.0	"	完形。凹基。体部中央が幅広となる。
289	"	"	(27.60)	20.10	3.90	2.0	"	先端部を欠失。基部はわずかに内湾。
290	楔状石器	"	26.20	9.15	7.50	1.9	"	上端部を欠失。方柱状。一側面を上方より截断。下縁部に両面調整が施されている。
291	"	"	27.70	14.90	6.45	2.9	"	三角形状。一側面を下方より截断。下縁部に両面調整が施されている。
292	"	"	34.80	29.25	6.75	4.1	"	三角形状。一側面を下方から截断。下縁部に片面調整が施されている。
293	"	"	28.10	24.65	7.85	6.1	"	完形。台形状。一側面を上方より截断。上・下縁とも両面調整が施されている。
294	"	"	35.65	30.85	8.75	11.4	"	完形。四辺形状。一側面を下方より截断。上縁部、下縁部共に片面が丁寧な両面調整を施される。
295	打製石庖丁	"	(29.85)	52.45	7.40	13.3	"	一方の端部のみ残存。浅くて幅広の抉りがある。
296	"	"	60.30	48.60	7.55	32.8	"	一方の端部を欠失。長方形。上縁部刃部共に直線状で両面調整が施されており、右図の刃部に使用痕がみられる。抉りあり。左図左上縁の一部に自然面を残す。
297	スクレイパー 又は刃器	"	64.55	59.50	12.20	41.5	"	完形。下縁部に調整又は刈こぼれとみられる小さな剝離がある。上縁部に敲打痕がみられる。左図左側縁部に自然面を残す。
298	"	"	(33.90)	(28.90)	9.50	14.4	"	下縁の一部を残し、両面に調整が施されている。
299	スクレイパー	"	73.35	48.60	12.85	51.1	"	完形。刃部は直線状で片刃状に両面調整が施されている。上縁部に敲打痕がみられる。左図左側縁部に自然面を残す。
300	"	"	(32.00)	(31.10)	11.30	12.2	"	上・下縁の一部を残す。下縁部に敲打痕がみられる。

第87表 石器観察表(15)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
301	スクレイパー	サヌカイト	51.30	33.50	6.70	10.5	S D85103	刃部はわずかに内湾し、小さな両面調整が施されている。上縁と側縁の一部に自然面を残す。
302		〃	(50.90)	(17.80)	9.45	8.7	〃	下縁の一部を残す。階段状剝離の多い両面調整が施される。
303		〃	26.40	13.90	7.75	3.5	〃	下縁部に片面を主体とした調整を施す。左図・左側縁部に自然面を残す。
304		〃	32.80	(21.90)	10.05	11.0	〃	下縁の一部に両面調整が施され、敲打がみられる。
305		〃	(37.40)	(28.95)	7.80	10.1	〃	両面調整された下縁部に小さな抉りがある。石庖丁の破片か。
306		〃	(28.55)	(21.00)	2.80	1.8	〃	スクレイパーか。両端部を欠失。下縁部には両面調整が施されている。
307		〃	31.80	(30.70)	9.50	11.4	〃	下縁の一部を残す。両面調整が施されている。
308		〃	32.80	(31.40)	10.80	9.8	〃	一方の端部を欠失。三角形状。下縁部と一方の側縁部に両面調整を施し、刃部状とする。もう一方の側縁の一部には敲打がみられる。
309	石庖丁	〃	(44.45)	(28.85)	8.45	8.8	〃	刃部の一部を残す。下縁部に片刃状の刃部をつくり出し、左図には顕著な磨滅がみられる。
310		〃	(53.65)	(40.40)	10.65	24.6	〃	側縁と下縁の一部に両面調整が施され、敲打がみられる。下縁の一部に自然面を残す。
311	石庖丁	〃	(31.10)	(29.35)	5.20	7.2	〃	刃部の一部を残す。刃部には片面調整が施され一方の面に磨滅がみられる。
312		〃	62.05	33.35	11.85	32.4	〃	上縁、下縁共に両面調整が施され、さらに敲打が施されている。
313		〃	46.40	33.05	8.60	19.7	〃	下縁部に両面調整が施されている。上縁部は刃部状にならない。
314		〃	51.55	32.65	11.60	22.2	〃	下縁部に小さな両面調整が施され、両面に磨滅がみられる。右図の磨滅部分には横方向の擦痕がみられる。
315		〃	43.80	30.30	10.85	14.1	〃	下縁部に両面調整を施し、さらに刃つぶしの敲打を行なう。一方の側縁部に調整あり。
316	砥石	砂 岩	(160.00)	102.00	78.00	1,950	〃	上下端部を欠失。一方の側縁と表裏面の一部に磨滅がみられる。
317	石錘	〃	65.90	128.10	31.75	390.0	〃	完形。扁平な河原石を使用。両側縁に打ち欠きの抉りをもつ。
318	磨石	〃	88.20	60.80	43.90	340.0	〃	完形。両面の一部に若干の敲打が施され、右図の敲打部やや上にわずかな磨滅がみられる。
319	凹み石	〃	97.55	85.10	31.35	385.0	〃	完形。扁平な河原石を使用。表裏面共に中央付近に叩かれた痕があり、周辺部に磨滅がみられる。
320	磨石	〃	(67.80)	(40.25)	31.15	115.2	〃	側縁の一部を残す。両面ともわずかに磨滅し、側縁部に若干の敲打痕がみられる。

第88表 石器観察表(16)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
321	磨石	砂 岩	123.30	(80.25)	43.35	585.0	S D85103	片面の一部を欠失。両面とも中央部を敲打し、上下両端部が磨滅する。
322	〃	〃	100.30	79.65	31.30	385.0	〃	片面の一部を欠失。扁平な河原石を使用。表裏面共に中央付近に敲打痕があり周辺部が磨かれている。
323	〃	〃	(86.20)	(118.70)	48.80	675.0	〃	下半部を欠失。左図左側に若干磨かれた痕がみられる。裏面(右図)中央部を敲打して凹める。
324	砥石	〃	(104.55)	(82.10)	43.75	490.0	〃	火を受けて赤褐色に変色している。上縁、側縁の一部を残す。片面に磨滅がみられる。
325	〃	〃	(88.30)	(59.25)	(53.15)	310.0	〃	側縁の一部を残す。表裏及び側面に磨滅が認められる。
326	砥石又は石皿	〃	(82.85)	(84.20)	50.85	520.0	〃	一方の端部を欠失。左下端部付近に磨滅が認められ、下縁部に敲打痕が残されている。
327	〃	〃	187.50	92.70	43.40	1,300	〃	完形。扁平な河原石を使用。表裏面共に磨滅が認められる。
328	石鏃	サヌカイト	17.30	(14.75)	3.50	0.8	S D85104	一方の逆刺端部を欠失。凹基。
329		〃	(15.40)	(13.45)	7.15	2.1	〃	小破片。下縁部に片面調整が施されている。
330		〃	30.30	21.80	7.40	5.5	〃	下縁部に両面調整が施され、敲打がみられる。左図右上縁に片面調整が施される。
331		〃	73.70	(69.50)	24.90	162	〃	一方の側縁部を欠失。上・下縁には両面調整が施され、上縁には敲打もみられる。左図左側縁の一部にも小さな調整が部分的に施されている。
332		〃	(29.35)	28.95	6.70	7.9	〃	一方の端部を欠失。上・下縁部に粗い調整が施される。
333		〃	44.50	35.10	5.90	15.1	〃	スクレイパーか。下縁部と一方の側縁部を片面調整している。両者とも剝離角度は急である。
334		〃	58.50	(42.30)	15.20	47.2	〃	打製石斧か。上下端部を欠失。一方の側縁に両面調整を施し、他方に粗い片面調整を施す。
335	石鏃	〃	30.90	(12.35)	4.65	1.6	S D85105	一方の端部を欠失。平基。
336	〃	〃	25.90	14.65	3.05	1.3	〃	完形。凸基。
337	〃	〃	(17.25)	(14.70)	4.05	0.9	〃	下半部を欠失。
338	〃	〃	(36.60)	23.55	6.75	6.8	〃	上・下端部を欠失。大型石鏃。
339		〃	(31.55)	(23.05)	8.30	6.8	〃	上・下両縁に両面調整を施し、上縁に敲打が認められる。両側縁とも截断面の可能性あり。
340		〃	(33.40)	(24.40)	7.50	6.5	〃	上半部を欠失。下縁部に自然面を残す。

第89表 石器観察表(17)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
341		サヌカイト	(45.90)	(37.65)	11.90	21.7	S D85105	両端部を欠失。上・下両縁とも両面調整が施されている。両面共に稜縁に沿ってわずかな磨滅が認められる。
342		〃	(57.20)	(24.00)	9.50	12.2	〃	スクレイパーか。下縁の一部を残す。両面調整が認められる。
343	大型蛤刃石斧	ハンレイ岩?	(49.40)	(64.80)	(45.40)	355	〃	頭部の一部と下半部を欠失。表面に敲打痕が残る。
344	石錘	砂 岩	84.40	76.85	18.90	153	〃	完形。加熱のため赤変。両端に打欠きによる抉りを持つ。扁平な河原石を使用する。
345	石鏃	サヌカイト	(19.65)	21.00	6.10	2.9	S D85106	上半部と一方の端部を欠失。基部はわずかに内湾する。
346		〃	31.60	25.50	5.90	5.3	〃	下縁部に両面調整が施され、上縁の一部にも調整が認められる。
347		〃	26.35	17.30	3.70	1.6	S D85109	下縁の一部を残し、両面調整が施されている。
348	磨製石斧	結晶片岩	(94.45)	43.35	(19.50)	137	〃	下半部と片面を欠失。
349	石鏃	サヌカイト	34.95	14.25	5.00	2.2	S D85115	側縁の一部をわずかに欠失。凸基。
350	〃	〃	36.20	26.05	4.90	2.9	S D85123	完形。凹基。大型石鏃
351		〃	40.20	(27.20)	8.60	13.1	〃	石庖丁か。両端部を欠失。上縁部に粗い両面調整が施されている。下縁部端面の両側にも調整が施されている。
352	スクレイパー	〃	(75.65)	(61.00)	10.50	62.2	〃	側縁と下縁の一部を残す。両側縁の一部に調整が残り、下縁に自然面を残す。
353	打製石庖丁	〃	(91.65)	54.15	11.35	66.8	〃	一方の端部を欠失。上縁部は直線状で丁寧な両面調整が施され、敲打がみられる。下縁は丁寧な片面調整が施されている。裏面の刃部先端部は磨滅している。上縁と側縁の一部に自然面を残す。抉りあり。
354	石鏃	〃	25.35	(17.60)	4.10	1.6	S D85124	一方の逆刺端部を欠失。凹基。
355	〃	〃	25.90	17.30	6.05	2.5	〃	完形。基部と一側縁に調整を施し、他の側縁にもわずかに調整を加える。
356	〃	〃	33.20	18.05	3.70	1.9	〃	完形。有基。
357	打製石庖丁	〃	(48.80)	44.40	10.10	31.1	〃	一方の端部を欠失。長方形。上縁部は直線状で両面調整が施され、敲打がみられる。下縁部は直線状で片刃状の刃部を作りだす。
358	スクレイパー	〃	(43.35)	(23.40)	6.25	6.2	〃	上縁と刃部の一部を欠失。刃部には両面調整を施す。
359		〃	35.90	18.60	7.75	7.5	〃	上縁に粗い両面調整が施され、下縁には片面調整が加えられている。
360		〃	47.50	28.50	9.50	15.5	〃	上縁部に片面調整を施す。

第90表 石器観察表(18)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
361		サヌカイト	44.00	(39.95)	8.75	15.4	S D85124	下縁と側縁の一部を残し、そこに両面調整が加えられている。右図下縁を中心に稜線に沿って一部磨滅がみられる。石庖丁の破片か。
362		〃	36.10	21.90	6.40	6.5	〃	上下両縁に両面調整が施されている。
363		〃	(80.00)	38.35	12.75	42.5	〃	一方の端部を欠失。上下両縁とも右図の面を主体に調整している。
364	石鏃	〃	(25.65)	(14.70)	3.85	1.2	S D85127	上下端部を欠失。凹基。
365		〃	45.95	24.00	6.15	10.1	〃	下縁に片面調整を施し一部に敲打を加えている。
366	石鏃	〃	31.50	(16.80)	3.95	2.0	S D85128	逆刺の端部を欠失。凹基。
367	〃	〃	18.85	15.25	3.60	0.8	〃	完形。凹基。
368	〃	〃	(18.70)	(13.70)	4.10	0.9	〃	下半部を欠失。
369	打製石庖丁	〃	(28.90)	45.20	7.75	11.7	〃	側端部のみ残存。刃部には片面調整が施され、裏面に磨滅が認められる。扶あり。扶から上方にかけて敲打痕がみられる。
370	〃	〃	(37.40)	(45.10)	10.25	15.4	〃	側端部のみ残存。長方形。上縁部はあまり調整されていない。下縁部には片面を主体とした調整が加えられている。
371	スクレイパー	〃	(51.90)	45.70	7.70	16.1	〃	両端部を欠失。刃部は外湾し、片面調整が施されている。左図右上縁の一部自然面を残す。
372	〃	〃	(49.40)	41.70	13.45	29.5	〃	一方の端部を欠失。刃部は外湾し、片面を主体とした調整が加えられている。上縁には粗い両面調整が施されている。
373	紡錘車未製品	結晶片岩	48.55	44.15	6.95	25.6	〃	完形。扁平な河原石を使用。周縁をこする。中央部に穿孔のくぼみがある。
374	スクレイパー	サヌカイト	41.10	(36.10)	7.80	16.1	S B85009	上縁部に両面調整が施されており、稜線に沿って一部磨滅がみられる。刃部は片面調整である。
375		〃	(59.55)	33.70	7.55	22.7	S B85101-へ	上縁、下縁共に丁寧な両面調整が施され、一方に敲打がみられる。
376		〃	(36.60)	22.90	9.45	10.9	S B85103-に	石槍か。上・下端部を欠失。両側縁に両面調整が施され、一方に敲打がみられる。左図中央付近の一部に磨滅がみられる。
377		〃	57.50	57.00	8.00	18.1	〃	刃部の一部を残す。片面を主体とした小さな調整又は刃こぼれが認められる。
378	打製石庖丁	〃	(38.20)	(38.35)	11.60	16.3	S B85104-い	側縁と刃部の一部を残す。刃部は直線状で片面調整が施されている。側縁部に幅広い扶りをつくり、敲打を施す。左図側縁から刃部にかけて、稜線に沿って磨滅がみられる。
379	〃	〃	(28.00)	(42.00)	12.80	16.0	S B85104-へ	上縁側縁の一部を残す。上縁側縁とも敲打を加えている。
380	スクレイパー	〃	(31.15)	35.15	6.50	8.8	S B85104-は	一方の端部を欠失。下縁部に両面調整が施される。上縁部には細かな調整は施されていないが鋭利である。

第91表 石器観察表(19)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
381	石皿	砂 岩	271.00	255.00	55.00	5.950	S B85104-へ	側縁、下縁の一部を欠失。左図下部がわずかに磨かれているものと思われる。
382	"		180.00	195.00	75.00	4.050	S B85104-ほ	完形。片面は中央部を敲打したのち周囲を磨き、裏面は中央部を磨いている。
383			(144.50)	(75.10)	(17.90)	290	S B85111-は	砥石か。片面と上部を欠失。表面を磨く。
384		玢 岩	88.10	(68.50)	(78.20)	545	"	上下両端と一方の側部を欠失。表面を磨く。両縁・下縁及び側縁の一部に敲打痕がある。他の石器を再利用した叩き石か。
385	石鏃	サヌカイト	34.10	(18.20)	3.95	1.8	ピット20	一方の逆刺端部を欠失。凹基。
386	"	"	(28.45)	(21.40)	6.70	4.0	ピット1	先端部と逆刺の端部を欠失。白色風化。
387	"	"	27.60	11.00	3.45	1.3	ピット56	完形。平基。
388	"	"	33.85	(18.00)	5.70	3.4	ピットY	一方の下端部を欠失。平基。一側縁は丁寧な両面調整を施すが、他の側縁は粗い片面調整を加える。
389	石錐	"	30.15	13.10	3.40	1.0	ピット24	完形。先端部に磨減あり。
390	楔状石器	"	22.95	22.30	8.25	6.6	ピット27	完形。上縁、下縁共に両面調整が施され、下縁部に敲打がみられる。一方の側面を下方より截断。
391	"	"	39.35	36.35	8.65	15.7	ピット38	完形。方形形状。上縁部は片面調整が施され、下縁部にも小さな調整が加えられる。一方の側面を下方から截断。
392	"	"	40.80	16.00	14.45	8.8	ピット2	完形。方柱状。上縁は平坦。下縁部に階段状剥離が多くみられる。両面側を上方から截断。
393	"	"	51.30	27.40	14.10	17.1	ピット1	完形。三角形形状。下縁部に縁辺の敲打が施される。一方の側面を上方より截断。
394	打製石庖丁	"	(75.70)	49.30	9.30	43.4	ピット36	やや紡錘形。一方の側端部を欠失した後、抉りを加えて再利用。上縁は両面加工。刃部は片面加工。左図の刃部と側縁部、右図の側縁部と中央部のやや下は稜線部分を中心に磨減している。
395	"	"	108.55	46.70	11.70	56.7	ピット30	両端部を欠失。上縁部は外湾し、両面調整が施されたのち、敲打痕がみられる。刃部は直線状で片刃状の調整が施されている。両側端とも抉り下方の尖起を欠失。
396	"	"	(48.35)	39.55	8.80	22.7	ピット9	一方の端部を欠失。上縁部は外湾し、片面調整が施され、敲打がみられる。刃部は両面調整が施されている。上縁部の一部に自然面を残す。
397		"	30.85	(34.20)	8.60	6.7	ピット22	一側縁に両面調整がみられる。
398	スクレイパー	"	100.60	58.90	11.50	58.2	ピット15	完形。三角形形状。刃部は外湾し、両面調整を施す。但し、外面の調整は粗い。左図左側縁部に自然面を残す。
399	石鏃	"	24.40	21.90	9.00	5.5	ピット9	先端部を欠失か。厚手の素材を用い、調整は粗い。
400		"	(25.40)	(21.40)	7.80	5.0	ピット24	下半部を欠失。両側面に両面調整を施し、一方の側縁に敲打がみられる。上縁部に自然面を残す。

第92表 石器観察表(20)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
401		サヌカイト	(23.10)	(19.30)	7.40	3.7	ピット67	一方の端部を欠失。周縁部に両面調整を施す。
402		〃	33.00	16.40	7.10	4.2	ピット15	楔状石器か。下縁部にやや粗い両面調整が施されている。一方の側面を上方から截断する。
403		〃	(38.55)	30.10	7.15	8.2	ピット19	下半部を欠失。両側縁共に両面調整が施されている。
404		〃	(39.65)	(25.20)	8.40	9.3	ピット15	石庖丁か。上縁部に縁辺加工が施されている。下縁部に両面加工を加える。挟りあり。
405		〃	25.95	(25.10)	5.10	4.6	ピットF	一方の端部を欠失。下縁部に両面調整が施されている。
406		〃	(22.45)	18.30	4.40	2.0	ピット14	上下端部を欠失。両側縁に反対方向から片面調整が施されている。
407		〃	65.20	(57.45)	14.80	64.5	ピット2	上半部を欠失。下縁、側縁部に両面調整が施されている。
408		〃	(31.90)	(19.20)	4.40	2.9	ピット15	下縁部の一部を残し、部分的に粗い両面となる調整を加える。
409		〃	(43.10)	23.85	8.30	9.0	ピット4	一方の端部を欠失。下縁部に粗い片面調整が施されている。
410	磨製石斧	蛇 紋 岩	109.00	70.10	26.20	335	ピット26	刃部の一部を欠失。側縁部は一方が直線状。他方は頭部から弧を描いて刃部に至る。刃部は外湾する。
411	砥石	砂 岩	(82.60)	82.95	(54.80)	665	ピット8	上、下端部及び片面を欠失。表面、側面に顕著な磨滅がみられる。火熱のため若干赤変する。
412	磨石	〃	90.60	86.75	35.60	435	ピット5	完形。扁平な河原石を使用。中央部と周縁部の一部を敲打し周辺部を磨く。
413	叩き石	〃	141.90	92.15	50.10	995	ピットA	完形。扁平な河原石を使用。表面中央部に敲打痕あり。
414		サヌカイト	32.10	31.90	4.10	4.4	ピットNo不明	一側縁に両面加工が施され、わずかな敲打がみられる。
415	磨石	砂 岩	117.30	107.00	45.75	755	〃	上面および側面を磨く。上面の中央部がわずかにくぼむ。上面の一部にわずかな敲打痕がある。
416	石鏃	サヌカイト	27.00	15.05	3.65	1.4	S K 85101	下端部の一部を欠失。基部はわずかに外湾する。
417		〃	(42.70)	(41.10)	10.20	17.4	S K 85102	側縁部、下端部共に両面加工が施され、わずかに敲打が認められる。
418		〃	(31.55)	20.85	5.50	4.7	S X 85001	石鏃か。上下端部欠失。両側縁部は両面加工を施している。
419	打製石庖丁	〃	(47.15)	43.55	9.75	26.4	〃	長方形。一方の端部を欠失。上縁部、刃部共に直線状で両面調整が施されている。挟りあり。上縁部に敲打痕が認められる。
420	叩き石	結 晶 片 岩	116.90	43.70	41.10	380	〃	表面に磨き、および敲打が認められる。上部の一部を欠失。上縁部に挟りがある。下端部に顕著な敲打痕が認められる。

第93表 石器観察表(2)

実測図 番号	器種	石質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長さ	幅	厚さ			
421	不明	サヌカイト	53.70	48.15	10.75	33.1	S X85004	石庖丁か。両側縁を欠失。上縁、下縁共に両面調整が施され、上縁部と下縁部中央に敲打痕がみられる。右図右下方に磨滅あり。
422	楔状石器素材	〃	44.25	42.80	10.75	25.2	〃	完形。右図左側面を上方より截断。上縁、下縁共に両面調整が施され、敲打痕がわずかにみられる。下縁部に階段状刻痕がみられる。右図右側縁上部と左図右側縁下部に自然面を残す。
423	石鏃	〃	37.95	14.30	4.55	2.2	S X85005	完形。凸基。木葉形。
424	〃	〃	(32.80)	15.30	4.40	2.4	〃	有基。茎先端部を欠失。
425	〃	〃	27.00	14.40	3.30	1.2	〃	完形。有基。一側縁に片面調整を施す。
426	〃	〃	52.20	50.50	10.50	38.2	〃	上縁、下縁共に両面調整が施される。下縁部に敲打痕がみられる。
427	スクレイパー	〃	(69.65)	39.25	6.85	15.7	S X85006	下半部を欠失。三角形。刃部は直線状で粗い片面調整が施される。横長剥片を使用。白色風化。
428	砥石	結晶片岩	(86.05)	67.75	42.20	535	〃	上下左右四面を磨いている。上面に敲打によるくぼみがある。
429	石鏃	サヌカイト	(20.40)	15.45	3.30	0.8	遺構面直上	逆刺部両端を欠失。凹基。
430	〃	〃	20.20	24.30	4.15	1.6	〃	完形。凹基。基部の挟りが大きい。
431	〃	〃	(21.30)	(15.80)	3.50	1.0	〃	先端部と逆刺の一端を欠失。凹基。両面の調整は丁寧。
432	〃	〃	(21.00)	(17.05)	3.70	1.3	〃	先端部と逆刺部両端を欠失。凹基。
433	〃	〃	29.65	20.40	5.30	2.7	〃	石鏃未製品か。基部および一方の側縁に両面調整を施す。
434	〃	〃	24.80	(15.10)	2.65	0.8	〃	一方の逆刺部を欠失。
435	〃	〃	59.40	27.40	5.10	7.5	〃	大型凹基石鏃。片面調整。完形。
436	〃	〃	(23.50)	18.00	3.55	1.2	〃	先端部を欠失。基部はわずかに内湾する。
437	〃	〃	(25.60)	20.10	4.45	2.1	〃	先端部を欠失。基部はわずかに内湾する。
438	〃	〃	20.50	18.30	3.50	1.3	〃	完形。基部はわずかに内湾する。
439	〃	〃	(23.30)	20.80	4.90	2.3	〃	先端部を欠失。不整三角形。基部はわずかに内湾する。
440	〃	〃	25.35	(22.80)	5.20	2.5	〃	下縁部一端を欠失。基部はわずかに内湾する。

第94表 石器観察表(2)

実測図 番 号	器 種	石 質	。 法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
441	石鏃	サヌカイト	28.20	26.80	4.30	2.8	遺構面直上	完形。不整三角形。基部はわずかに内湾する。
442	"	"	(17.30)	15.90	4.40	1.0	"	先端部、下端部の一端を欠失。平基。
443	"	"	(22.20)	(17.00)	4.20	1.5	"	先端部、下部両端欠失。平基。
444	"	"	(27.70)	16.50	3.60	1.7	"	先端部と下縁部を欠失。平基。
445	"	"	(32.20)	20.50	5.10	2.7	"	完形。平基。
446	"	"	28.10	12.75	3.40	1.4	"	一方の側縁部と、下縁部の一端をわずかに欠失。平基。
447	"	"	(33.10)	19.50	4.60	3.5	"	先端部を欠失。凸基。
448	"	"	(22.75)	10.85	3.20	1.0	"	先端部、下端部を欠失。凸基。
449	"	"	42.00	24.10	4.35	5.2	"	完形。大型凸基石鏃。木葉形。両面とも縁辺加工。
450	"	"	40.30	10.80	4.50	1.9	"	完形。凸基。細身。
451	"	"	46.10	19.70	6.60	2.9	"	完形。有基か。
452	"	"	(33.90)	19.90	5.30	3.6	"	下半部を欠失。
453	"	"	(25.60)	14.90	3.70	1.4	"	先端部と下半部を欠失。
454	"	"	(17.50)	(18.30)	4.00	1.0	"	先端部のみ残存。
455	石錐	"	(36.00)	(26.70)	4.65	3.2	"	先端部を欠失。錐先部は片面からの加工が顕著。
456	楔状石器	"	24.50	(16.75)	7.65	3.3	"	完形。右図左側面を上方から截断。上縁、下縁とも両面調整を施す。
457	"	"	36.75	24.50	12.20	16.3	"	完形。右図左側面を上方から截断。上縁、下縁とも両面調整で敲打が著しい。右図右下部と左図中央の稜縁にわずかな磨滅あり。
458	"	"	32.10	10.85	7.60	2.6	"	方柱状。完形。両側面を下方から截断。上縁、下縁とも両面調整を施す。左図下部に磨滅あり。
459	"	"	29.65	21.65	9.05	6.3	"	三角形。完形。右図左側面を上方から截断。上縁、下縁とも両面調整で、上縁には敲打がみられる。
460	"	"	29.55	10.60	9.20	3.3	"	方柱状。完形。両側面を上方から截断。上縁、下縁とも両面調整を施す。

第95表 石器観察表(2)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
461	楔状石器	サヌカイト	33.25	18.40	7.70	5.1	遺構面直上	三角形状。完形。右図左側面を上方から截断。上縁下縁とも両面調整である。右図中央の稜線に磨滅あり。
462	〃	〃	39.40	25.10	10.40	12.6	〃	長方形。完形。右図左側面を上方から截断。上・下縁には平坦面も残り。両面から側縁に調整を施す。
463	〃	〃	47.70	35.80	9.20	18.5	〃	右図左側面を上方から截断。下縁部を両面調整し、上縁部を片面調整する。
464	〃	〃	34.95	33.85	9.50	12.6	〃	四辺形。完形。右図左側面を下方から截断。上縁下縁ともに両面調整で、上縁は敲打による刃つぶれが顕著である。
465	〃	〃	49.35	16.00	8.20	9.1	〃	方柱状。完形。両側面を上方から截断。上縁下縁ともに両面調整で敲打を施す。左図上縁付近は磨滅が顕著である。
466	〃	〃	37.10	32.30	7.80	12.8	〃	長方形。完形。右図の左側面を上方より截断。上縁、下縁ともに両面調整を施す。側縁部の調整は粗い。
467	〃	〃	48.45	24.40	5.75	7.3	〃	四辺形。右図の左側面を下方から截断。上縁のみ両面調整を施す。
468	〃	〃	48.65	36.75	9.10	19.5	〃	長方形。完形。右図の左側面を下方から截断。下縁のみ両面調整を施す。右図右側縁部に自然面を残す。
469	〃	〃	37.05	32.20	10.00	13.1	〃	三角形状。完形。右図の左側面を上方から截断。上縁、下縁とも両面調整を施す。上縁部と左図左上部に自然面を残す。
470	打製石庖丁	〃	(38.95)	38.30	9.75	15.1	〃	長方形。一方の側端部を欠失。刃部は直線状。上縁は自然面を残している。刃部は片面加工。左図の刃部に使用痕と思われる磨滅がみられる。一方に挟りあり。
471	〃	〃	50.00	49.80	6.90	15.4	〃	長方形一方の側端部と一方の挟りの上部を欠失。上縁、下縁ともに直線状。下縁には両面調整後の敲打がみられるので、本来の上縁部とみられる。上縁側部(刃部)は片面調整。
472	〃	〃	43.20	43.00	6.35	17.1	〃	長方形。一方の側端部を欠失。上縁部、刃部ともに直線状。上縁部は両面加工で敲打が施される。刃部も両面加工である。刃部にやや磨滅がある。
473	〃	〃	(36.80)	37.65	6.90	14.4	〃	長方形。一方の端部と他方の挟の上部が欠失。上縁部、刃部ともに直線状。一方に挟りあり。上縁部、刃部ともに両面加工。下縁部は敲打が施され、磨滅している。刃部は図の上縁か。
474	〃	〃	(33.15)	36.35	6.25	12.3	〃	長方形。一方端部を欠失。上縁部刃部ともに直線状。上縁部は両面加工で敲打がわずかに施される。刃部も両面加工である。
475	〃	〃	(65.55)	46.90	17.20	44.3	〃	一方の端部を欠失。上縁・刃部とも若干外湾する。上縁部は両面加工。刃部は片面加工で上縁は敲打が施される。左図の左上部に自然面を残す。左図刃部がわずかに磨滅する。右図右側縁にわずかな挟りを施す。
476	〃	〃	(78.45)	42.75	10.70	41.0	〃	一方の端部を欠失。上縁は両面加工で敲打が施される。刃部は片面加工である。左図の挟の下部が磨滅する。
477	〃	〃	(80.45)	49.55	9.20	49.0	〃	長方形。一方の側端部を欠失。上縁、刃部は直線状。上縁は両面加工し、敲打が施される。刃部は片面加工。刃部両面に磨滅がやや顕著。
478	〃	〃	99.50	49.20	13.20	87.2	〃	長方形。一方が狭まる。一方り挟りの上部を欠失するが、縁の一部を敲打して使用。上縁と刃部は両面加工。上縁は敲打。左図中央に自然面が残る。
479	〃	〃	115.90	60.90	10.80	79.7	〃	長方形。上縁部の一部を欠失。上縁部と刃部は直線状。両端に挟りがある。上縁部はやや厚く、両面調整。敲打を施す。刃部は薄く丁寧な片面調整。左図の刃部、挟部上下端、右図上部の剥離面の狭り部に使用痕と思われる磨滅がある。
480	スクレイパー	〃	39.10	22.00	6.35	7.0	〃	長方形。刃部(図の上縁)に両面調整を施す。左図下縁に丁寧な調整を施す。

第96表 石器観察表(24)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
481	スクレイパー	サヌカイト	(69.85)	(37.45)	9.40	27.9	遺構面直上	長方形。刃部は直線状で小さな調整が断続して施される。縦長剥片が素材。刃部の反対側に自然面を残す。
482	"	"	45.50	30.55	7.00	11.6	"	不定形。刃部は外湾し、両面加工を施す。上縁には敲打を加える。
483	"	"	51.25	40.30	11.75	18.9	"	縁辺の一部に両面加工を施し、刃部とする。上縁部の一部には刃つぶしがみられる。
484	"	"	38.80	51.35	10.00	23.8	"	長方形。刃部は直線状で、片面加工を施す。上縁は両面調整を施し、刃つぶしのための敲打を施す。
485	"	"	64.85	41.20	7.10	22.9	"	長方形。刃部は直線状で、刃こぼれ状の細かな調整が施される。縦長剥片を用いている。
486	"	"	(50.40)	32.80	8.60	11.9	"	刃部は直線状で片面が丁寧な両面加工を施す。
487	"	"	53.25	20.65	3.90	4.8	"	刃部は若干外湾し、両面加工を施す。
488	"	"	54.00	68.60	14.20	52.0	"	不整な円形。全周に両面加工を施す。両面ともやや磨滅がある。
489	"	"	(37.75)	39.15	9.10	17.3	"	長方形。刃部は直線状で両面加工を施す。丁寧である。上縁部に一部刃つぶしがある。側縁部が両方ともに欠失している。
490	"	"	43.10	38.60	6.50	11.9	"	上縁部と下縁部に両面加工を施す。
491	"	"	31.85	39.25	6.50	12.6	"	三角形。刃部は直線状で刃こぼれ状の細かな片面加工を施す。
492	"	"	135.00	69.35	15.45	87.9	"	三角形。刃部は粗く両面に調整を施す。横長の剥片を用いている。完形。
493	"	"	81.85	(56.70)	13.85	71.6	"	側縁の一部が刃部状をなす。左図左下縁の一部と右図左下縁の一部に自然面を残す。
494	"	"	70.05	25.90	14.40	27.8	"	一方の側縁を上方から截断したのち、反対の側縁に上方から槌状剥離を施し、さらにもとの側縁の截断面上方から小さな剥離を施す。彫器か。
495	"	"	(53.35)	24.75	7.25	9.8	"	下縁の一部を残し、粗い両面調整を施す。
496	"	"	(39.50)	36.20	13.60	28.0	"	下縁の一部に丁寧な両面調整が施され、敲打がみられる。
497	"	"	(30.70)	(21.10)	14.20	13.7	"	側縁と下縁の一部を残す。下縁にやや丁寧な両面調整が施され、敲打がみられる。側縁にも敲打を施す。
498	"	"	(34.80)	(31.75)	6.95	7.1	"	側縁の一部に両面加工を施す。
499	"	"	(29.40)	(23.80)	6.80	6.4	"	下縁の一部を残し、丁寧な両面調整が施されており、階段状剥離が多くみられる。
500	"	"	(37.20)	27.45	8.15	9.7	"	両端部を欠失。上縁、下縁共に両面調整が施され、敲打がみられる。

第97表 石器観察表(25)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
501		サヌカイト	(43.90)	32.00	9.10	17.1	遺構面直上	両端部を欠失。上縁・下縁とも両面調整を施す。上縁部には敲打も施される。
502		〃	(34.50)	(21.60)	6.80	5.4	〃	上部を欠失。一方の側縁に両面調整が施されている。
503		〃	32.50	20.00	10.65	10.1	〃	一方の側縁に丁寧な両面調整が施され、敲打がみられる。
504		〃	31.60	28.40	5.50	5.8	〃	一方の側縁に、丁寧な両面調整が施され、他方の側縁に片面調整が加えられる。
505		〃	35.00	23.60	6.85	6.5	〃	端部のみ残存。側縁部に調整を施し、一部に敲打を加える。側縁付近の一部に自然面を残す。
506		〃	22.10	21.00	6.05	3.5	〃	上縁・下縁に両面調整を施す。
507		〃	62.85	30.30	11.70	22.9	〃	下縁部に片面調整が施されるほか、側縁部に敲打が加えられている。
508		〃	(36.15)	22.35	6.40	6.5	〃	上縁と下縁に反対側から片面調整を施す。両端部を欠失。
509		〃	38.80	27.60	7.85	8.6	〃	側縁の一部を残存。丁寧な両面調整が施されている。
510		〃	(48.35)	31.20	9.60	12.5	〃	周縁は欠損部分が多いが、一部に片面調整を施す。
511		〃	(36.25)	(30.50)	6.85	7.1	〃	側縁に丁寧な片面調整施す。スクレイパーか。
512		〃	42.80	11.35	10.00	5.5	〃	スポールか。一側縁に丁寧な両面調整が施され、他の側縁部を上方から截断する。
513		〃	48.00	37.80	7.70	10.6	〃	スクレイパーか。下縁にやや丁寧な片面調整が施されている。
514		〃	40.00	33.95	5.40	7.4	〃	スクレイパーか。下縁部に、片面が丁寧な両面調整で片刃状の刃部を作りだしている。
515		〃	68.30	51.00	9.10	31.5	〃	楔状石器の素材か。一方の側面を上方から截断する。上縁・下縁とも両面調整を施す。
516		〃	(24.65)	(12.25)	6.90	3.0	〃	下縁の一部を残し、片面に丁寧な両面調整が認められる。
517		〃	32.85	24.00	5.80	4.9	〃	楔状石器か。右図左側縁を上方から截断する。上縁・下縁とも両面調整を施す。
518		〃	22.80	(27.70)	6.80	6.6	〃	一方の端部を欠失。上縁部に両面調整を施し、敲打を加える。下縁部は両面調整で刃部を作りだす。
519		〃	(36.10)	(29.80)	5.70	6.7	〃	スクレイパーか。下縁の一部を残し、片面に大きな調整を、片面に細かな調整を施す。
520		〃	(55.20)	40.45	10.45	28.4	〃	石庖丁か。上縁の一部を残し、両面調整、敲打がみられる。下縁部は破損。右図右側縁上部に自然面を残す。

第98表 石器観察表(26)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
521		サヌカイト	42.40	28.20	10.40	17.1	遺構面直上	楔状石器か。上縁下縁共に両面調整が施され、 敲打を加えられる。側縁部の縁辺にも敲打が 加えられている。
522		〃	47.50	44.30	5.30	16.0	〃	上縁部に両面調整を施し、わずかに敲打を加 える。下縁部に片面調整で刃部を作りだす。
523		〃	(40.80)	(35.20)	8.50	14.7	〃	下縁の一部を残し片面調整が施される。
524		〃	(63.15)	51.65	9.40	32.6	〃	一方の端部を欠失。下縁部は両面調整が施さ れ、一部に敲打がみられる。上縁部にも両面 調整を施す。
525		〃	84.60	39.00	9.65	34.9	〃	上縁、下縁共に両面調整を施す。下縁部に2 ヶ所の挟りがある。挟り部分は敲打によって 刃つぶしされている。
526		〃	(35.80)	(33.15)	5.15	5.6	〃	石庖丁か。下縁の一部を残し、両面調整が施 されている。
527		〃	76.60	44.05	9.30	33.8	〃	下縁の側縁部に敲打を施し、側縁部に粗い両 面調整で刃部を作りだす。右図右上縁部に両 面調整を施し、敲打を加える。
528		〃	54.40	40.95	8.20	23.1	〃	スクレイパーか。側縁と下縁の一部を残す。 側縁に両面調整が施されている。左図下縁部 に自然面を残す。
529		〃	23.20	18.60	2.65	1.5	〃	上縁部に片面調整が施されている。
530		〃	28.70	20.80	3.25	2.5	〃	一方の端部を欠失。上縁部は片面調整が施さ れ、下縁部は両面調整が施されている。
531		〃	43.80	35.65	8.10	19.0	〃	下縁部の縁辺には両面から調整が加えられ、 一部が挟り状となる。両側縁、上縁にも調整 が施されている。
532		〃	30.70	4.50	5.85	3.1	〃	上縁・下縁とも両面調整が施されている。下 縁部には敲打も施される。
533		〃	31.10	26.30	7.00	7.6	〃	下縁部に粗い両面加工が施される。
534		〃	(48.00)	(37.40)	7.10	19.8	〃	スクレイパーか。側縁と下縁の一部を残す。 下縁部に急角度の片面調整が施される。右図 右側縁部に自然面を残す。
535		〃	(56.90)	(40.50)	9.50	25.6	〃	石庖丁か。側縁と下縁の一部を残し、片面が 粗い両面調整を施す。側縁部の一部が挟られ る。
536		〃	56.15	35.40	10.30	21.7	〃	端部のみ残存。上縁に両面調整を施し、下縁 に片面調整を施す。
537		〃	(65.90)	51.15	15.00	60.3	〃	両端部を欠失。上縁に両面調整を施し、下縁に 片面が粗い両面調整を施す。
538		〃	(45.35)	40.10	7.90	16.0	〃	上縁の一部を残し、やや丁寧な片面調整が施 されている。
539		〃	(48.45)	(38.40)	11.90	23.7	〃	下縁の一部を残し片面調整が施されている。
540		〃	44.80	32.80	9.75	15.6	〃	スクレイパー又は小型打製石斧か。片側を欠 失。側縁と下縁に両面調整が施されている。 一方の側縁部に挟りあり。左図左上側縁部に 自然面を残す。左図下部に若干磨滅が認めら れる。

第99表 石器観察表(27)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
541		サヌカイト	(59.70)	48.60	8.50	25.7	遺構面直上	下縁に両面調整が施されている。側縁の一部に縁辺部調整が施されている。
542		〃	50.00	33.00	13.80	22.7	〃	上縁部に両面調整が施され、敲打がみられる。一方の側面は一方向から急角度の調整剝離が施されている。
543		〃	(65.85)	(53.55)	16.25	73.9	〃	側縁と下縁の一部を残す。下縁部に両面調整が施され右図右側縁部に自然面を残す。
544		〃	(54.00)	(25.35)	7.70	13.8	〃	上縁の一部を残し、細かな片面調整が施されている。
545		〃	86.60	(53.25)	14.25	49.9	〃	上端部を欠失。下縁部に片面調整が施され、階段状剝離が多くみられる。
546	スクレイパー	〃	117.55	40.35	14.00	83.7	〃	上縁部に片面調整が施され下縁部は丁寧な両面調整が施される。右図上縁部に自然面を残す。
547	磨製石斧破片	結晶片岩	(65.70)	(30.65)	(5.75)	14.1	〃	柱状石斧か。表面の一部を残す。
548	磨製石斧	〃	(58.30)	(15.10)	(7.20)	12.8	〃	下端部を欠失。小型柱状片刃石斧か。刃部を欠失。
549	柱状石斧	〃	95.00	28.85	12.70	65.8	〃	両側縁部中央に粗い擦痕がみられる。左図表面は割れ面。破損後も使用か。刃部はやや磨滅。
550	石斧	泥 岩	116.85	56.20	30.40	290	〃	磨製石斧未製品か。表面は敲打状態。下端部を欠失。
551	柱状石斧	結晶片岩	104.00	29.60	23.60	103	〃	表面と側面の一部を残す。
552	滑石製有孔石製品	滑 石	26.95	28.95	9.40	10.3	〃	左図の面から穿孔された直径5.5mmの穴を持つ。周辺に切断の加工痕がみられる。
553	柱状石斧	結晶片岩	(68.00)	25.70	13.95	30.4	〃	表面と側面の一部を欠失。
554	石錘	砂 岩	57.40	75.80	15.50	230	〃	完形。両側と一方の面に横に走る溝をもつ。
555	砥石	〃	67.00	60.60	15.50	89.9	〃	下半部を欠失。平たい河原石を利用。裏面以外に擦痕がみられる。
556	磨製石製品	不 明	(35.00)	37.35	8.20	19.2	〃	不定形の四辺形。全面を磨く。
557	砥石	結晶片岩	121.70	81.80	21.00	355	〃	表・裏面、側面の一部を残す。左図の表面は磨きが著しいが、左図の表面はわずかに磨き、条線状・同心円状の切り込みをもつ。
558	凹み石	砂 岩	94.85	84.15	37.50	395	その他包含層	完形。表面、裏面と両側縁に敲打痕あり。
559	磨石	〃	70.20	63.90	29.00	181	遺構面直上	側面の一部を欠失。表面、裏面共に磨滅がみられる。
560	凹み石	〃	173.00	(89.90)	50.10	1,000	〃	左半部を欠失。表面の中央部に敲打痕あり。加熱のため赤変。

第100表 石器観察表(28)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
561	凹み石	砂 岩	(100.90)	93.70	57.10	755	遺構面直上	上半部を欠失。両面と下端に敲打痕がみられる。叩き石としても使用。
562	〃	〃	(172.00)	162.00	60.00	2,200	〃	下端部を欠失。表面中央部に敲打痕あり。
563	叩き石	ホルンフェルス	117.25	65.60	54.40	600	〃	完形。上端部に敲打痕あり。
564	〃	結晶片岩	(85.90)	31.80	37.25	180	〃	下端部を欠失。柱状部の表面は磨製。柱状石斧の転用か。
565	石皿	砂 岩	(105.45)	(106.50)	37.40	475	〃	下半部を欠失。右図右中央部に敲きではない凹みがみられ、左下方部に若干磨かれた痕がある。左図の表面を磨く。
566	石鏃	サヌカイト	(20.00)	(14.30)	2.35	0.6	谷筋	先端部と逆刺の一方を欠失。凹基。
567	〃	〃	19.40	14.75	4.05	0.9	〃	完形。凹基。
568	〃	〃	(19.95)	25.45	4.95	1.4	〃	先端部を欠失。凹基。基部は幅広。
569	〃	〃	30.70	17.25	3.75	1.5	〃	完形。凹基。長三角形。
570	〃	〃	(21.20)	16.50	3.35	0.9	〃	下半部を欠失。
571	〃	〃	(21.50)	24.35	4.05	1.9	〃	先端部を欠失。凹基。
572	〃	〃	53.30	25.40	6.70	10.1	〃	完形。大形石鏃。凹基。右図に自然面を残す。縁辺部のみ両面加工。
573	〃	〃	(15.50)	10.25	2.65	0.4	〃	先端部欠失。わずかに凹基。
574	〃	〃	22.15	(13.60)	4.00	1.2	〃	基部の一方を欠失。平基か。
575	〃	〃	(27.75)	(24.15)	4.30	2.9	〃	先端部と基部の一端を欠失。わずかに凹基。
576	〃	〃	39.90	33.95	7.70	7.8	〃	完形。大型石鏃。凹基。一方の逆刺は短い。
577	〃	〃	(23.40)	(17.00)	3.50	0.9	〃	先端部と下半部を欠失。
578	〃	〃	30.70	19.35	4.35	2.4	〃	先端部を欠失。わずかに凹基。
579	〃	〃	26.25	18.80	(5.45)	2.4	〃	基部の一端を欠失。平基か。
580	〃	〃	40.65	23.55	5.10	4.5	〃	完形。大型石鏃。わずかに凹基。

第101表 石器観察表(29)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
581	石鏃	サヌカイト	(24.40)	12.25	4.50	1.4	谷筋	先端部欠失。平基か。鏃身中央部が最大幅となる。
582	"	"	(22.40)	10.85	3.10	0.7	"	先端部欠失。凸基。
583	"	"	(26.90)	18.05	3.00	1.6	"	下半部を欠失。鏃身中央部が最大幅となる。
584	"	"	(24.80)	(28.80)	6.10	6.0	"	上半部を欠失。大型石鏃。わずかに凹基。
585	"	"	35.45	11.45	4.80	1.8	"	完形。柳葉形。
586	"	"	(30.35)	13.25	2.80	1.1	"	下端部を欠失。柳葉形。
587	石槍	"	(78.40)	28.65	12.20	26.6	"	先端と下半部を欠失。側縁部中央にわずかな敲打あり。右図、左図の中央に磨滅がみられる。
588	"	"	(37.40)	25.80	8.35	7.7	"	上部を欠失。石槍か。両側縁に両面調整を施す。
589	楔状石器	"	33.50	18.50	9.30	8.0	"	完形。長台形状で上縁、下縁ともに階段状剝離が施される。右図、左図側縁に下方からの截断がある。
590	"	"	39.25	20.85	17.05	11.9	"	完形。両側に上方からの截断がある。上下両縁とも両面加工を施すが、下縁部は刃部とならない。
591	"	"	52.80	15.75	7.65	7.8	"	完形。右図左側縁に上方からの截断がある。上縁、下縁と側縁の一部に両面調整が施されている。
592	"	"	32.05	26.05	7.10	7.3	"	左図右上端を欠失。不整四辺形。右図左側に下方から截断がある。上下両縁に両面加工を施す。
593	"	"	38.10	32.05	8.10	16.2	"	完形。台形状。右図の左側縁を上方から截断。上縁、下縁とも両面加工を施し、下縁は敲打が顕著である。やや風化している。
594	打製石庖丁	"	(46.85)	(42.50)	7.80	16.2	"	右図左半分が欠失。一方に抉りあり。上縁部はいいねいな両面調整で敲打が見られる。刃部も両面調整であるが、あらい。抉りの上部の側縁に顕著な磨滅あり。左図の抉りのまわり、上縁・下縁部の稜線にも磨滅がある。
595	"	"	(48.00)	(41.35)	(6.10)	12.3	"	一方の抉り部分と上縁の一部を残す。上縁は側面の縁辺調整。全体的に軽い磨滅が見られる。
596	"	"	(40.80)	(40.70)	9.15	16.6	"	右図左半部と上縁を欠失。刃部はわずかに外湾し両面調整。中央部稜線に磨滅が見られる。抉りあり。
597	"	"	(57.70)	40.00	7.75	20.4	"	上縁部と右図左半部を欠失。抉りあり。刃部は直線状で片面調整である。右図の刃部、抉り、上縁近くの稜線部に磨滅が見られる。
598	"	"	(39.45)	43.40	7.25	18.2	"	右図の左半部を欠失。抉りあり。上縁、下縁とも直線上でいいねいな両面調整。上縁の一部には敲打が見られる。
599	"	"	(55.95)	42.15	12.05	38.2	"	右図の左半部を欠失。側縁に1つ、上縁に2つ、下縁に1つの抉りあり。上縁、下縁とも両面調整で敲打が見られる。右図中央部稜線に磨滅あり。上縁部がもとの刃部か。
600	"	"	(58.40)	38.05	8.85	21.5	"	右図の左半部を欠失。抉りあり。抉りの上部は突出。上縁、下縁とも直線状で両面調整を施す。敲打も見られる。右図の上縁部と抉りの稜線にわずかな磨滅あり。

第102表 石器観察表(30)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
601	打製石庖丁	サヌカイト	(67.30)	44.25	13.20	41.1	谷筋	両端部を欠失。上縁は直線状で両面調整。上縁には敲打が見られる。両面に磨滅あり。
602	〃	〃	102.20	42.00	9.75	51.1	〃	両側の抉りの上部を欠失。長方形。上下両縁はやや内湾。両面とも稜はわずかに磨滅。
603	〃	〃	138.00	57.00	13.00	97.4	〃	下図の左側抉りの上部のみ欠失。上・下縁ともやや外湾。下図刃部、中央稜線部磨滅。上・下縁とも片面に丁寧な両面加工。上縁部に敲打が施されている。
604	刃器	〃	32.00	31.15	4.70	5.8	〃	刃部（右図の右側縁）には細かな刃こぼれが片面調整状に認められる。
605		〃	(62.45)	38.50	16.00	52.4	〃	分厚い剥片を用いる。下縁部は両面調整で階段状剥離が顕著である。
606	スクレイパー	〃	(25.25)	34.45	3.35	3.8	〃	刃部の一部のみ残す。刃部は直線で粗い両面調整を施す。
607	〃	〃	(66.00)	37.05	11.65	31.2	〃	右図の右下縁部を欠失。刃部は直線状で急な剥離角度の片面調整を施す。
608	〃	〃	(37.60)	32.05	4.35	6.1	〃	三角形。刃部は直線状で両面調整を施す。右図右側縁に自然面を残す。やや風化している。
609	〃	〃	59.40	43.80	12.45	36.3	〃	楕円形。上縁部を欠失。欠失部を除き、両面加工を施す。
610	〃	〃	(46.85)	52.20	11.20	26.6	〃	右図右半分を欠失。上縁は内湾し、片面加工を施す。下縁は両面加工し、敲打を施す。左図右側縁に自然面を残す。
611	〃	〃	54.35	43.00	9.00	23.1	〃	完形。三角形。刃部は直線状で両面調整。上縁と下縁に両面調整を施す。上縁の一部に敲打あり。自然面が左図左側縁に残る。
612	〃	〃	69.55	54.05	10.65	43.1	〃	両端を欠失。上縁は両面調整、下縁は片面に丁寧な両面調整を施す。上縁に敲打が施されている。
613	調整剥片	〃	18.90	18.55	2.70	1.0	〃	右図下縁部に調整剥離が認められる。
614	スクレイパー	〃	(64.45)	47.80	12.05	37.5	〃	両側部を欠失したのち敲打を施し、使用する。台形。刃部は直線状で両面調整。上縁と左図の左側に敲打がいちじるしい。左図の刃部の左一部に磨滅がある。
615		〃	38.00	25.50	9.30	9.9	〃	上縁、下縁ともに両面調整を施す。
616	スクレイパー	〃	(55.25)	(46.20)	9.10	28.6	〃	刃部の一部を残す。刃部は外湾し、片面調整。右図の湾曲部の刃部にわずかな磨滅あり。
617	石庖丁	〃	(30.85)	36.10	7.45	9.1	〃	右図の左半部を欠失。抉りあり。上縁は両面調整で敲打を施す。下縁は調整せず。
618		〃	(32.10)	38.25	7.95	10.0	〃	下縁部に片面調整を施し、裏面刃部に磨滅あり。
619	スクレイパー	〃	(55.95)	57.55	13.40	24.2	〃	刃部は直線状でていねいな両面調整を施す。
620		〃	39.50	(47.00)	9.25	16.2	〃	右図の左側を欠失。下縁は両面調整を施し、上縁部にも両面調整が認められる。

第103表 石器観察表(31)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
621		サヌカイト	40.50	50.80	11.50	26.1		右図の左側縁部を上下から截断する。上縁の片面に縁辺加工を施し、側縁にも調整を施す。
622		〃	18.25	(13.55)	5.45	1.7		刃部の一部を残す。下縁に片面調整を施す。
623		〃	(26.35)	19.50	5.05	3.1		刃部の一部を残す。下縁部に両面調整を施す。
624		〃	(41.35)	21.40	5.75	4.5		刃部の一部を残す。下縁部に片面調整を施す。
625		〃	31.00	(25.05)	4.60	4.9	谷筋	右図の左側を欠失。下縁・上縁とも両面調整し、下縁部には敲打も認められる。
626		〃	24.40	(26.80)	4.90	3.7	〃	楔状石器か。右側の左側面を上方から截断する。下縁部に両面調整を施す。
627		〃	34.90	(31.90)	7.70	11.0	〃	上縁下縁とも直線状で両面調整を施す。左図左縁部に自然面を残す。
628		〃	(29.00)	24.60	6.60	5.3	〃	大型石鏃か。両側縁は外湾し、両面調整を施す。
629		〃	(25.55)	(25.15)	8.15	6.4	〃	下縁部に両面調整があり敲打が施されている。
630		〃	32.45	28.15	8.15	7.8	〃	上縁下縁とも両面調整で上縁に敲打がみられる。左図の左側面は上方から截断したのち上縁に調整を施す。
631		〃	(27.35)	26.25	4.40	5.3	〃	下縁に両面調整を施す。
632		〃	(44.70)	(22.15)	7.30	9.0	〃	下縁は外湾し、片面が丁寧な両面調整を施す。右図の右側縁に片面調整をもつ。
633		〃	41.80	(32.45)	10.40	18.4	〃	下縁はていねいな両面調整で敲打が施されている。
634		〃	52.90	(50.50)	13.80	32.9	〃	上縁下縁とも両面調整。右図の左側縁中央部の両面に調整が施されている。
634		〃	37.70	(36.05)	7.05	8.9	〃	下縁部に片面調整を施す。
636		〃	(50.40)	44.20	11.25	34.6	〃	上縁下縁ともに両面調整で、上縁に敲打が認められる。右庖丁の破片か。
637		〃	(28.75)	27.45	9.50	8.1	〃	右図の左半部を欠失。上縁、下縁とも片面が丁寧な両面調整を施す。
638		〃	(41.10)	38.80	11.25	21.9	〃	両側部を欠失。上縁は粗い両面調整、下縁は片面調整を施し、刃部とする。
639		〃	(33.30)	(28.90)	6.95	7.9	〃	下縁部に両面調整を施す。右図右側縁に自然面を残す。
640		〃	(31.45)	22.90	5.65	5.4	〃	下縁部に粗い両面調整を施す。

第104表 石器観察表(32)

実測図 番 号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
641		サヌカイト	(35.45)	28.05	6.20	7.3	谷筋	上縁下縁ともに両面調整を施す。右図の左側部を欠失。
642		〃	38.00	(32.25)	11.10	14.6	〃	上縁、下縁ともに両面調整で上縁部に敲打を施す。右図右側縁に自然面を残す。
643		〃	31.45	19.80	4.75	3.0	〃	右図の左側縁の一部を欠失。この部分が錐部か。上縁を除き、調整を施す。
644		〃	(34.20)	(34.60)	8.05	9.2	〃	下縁は片面に丁寧な両面調整である。右図の右側縁上方に敲打が見られる。
645		〃	48.65	22.35	8.55	17.1	〃	上縁、下縁とも両面調整で上縁は階段状剥離が著しい。
646		〃	(59.90)	36.85	10.55	33.5	〃	打製石斧状。一方の側縁部を欠失。上縁・下縁・一側縁は片面が丁寧な両面調整を施す。側縁部を中心に敲打がみられる。
647		〃	(31.30)	(30.80)	8.70	8.5	〃	上縁、下縁とも両面調整で階段状剥離が多い。
648	石庖丁	〃	(60.15)	40.85	10.50	30.5	〃	上縁、下縁と一側縁は両面調整で上縁に敲打が顕著に見られる。右図の右側縁の一部に自然面を残す。抉りの一部を残す。
649		〃	(34.70)	(23.90)	6.95	6.4	〃	右図の左側部を欠失。上縁、下縁と一側縁に両面調整を施す。
650		〃	61.00	(50.00)	12.80	44.6	〃	上部を欠失。右図の右側縁は両面調整、左側縁には片面調整を施す。右側縁に敲打が認められる。
651		〃	38.05	(24.00)	11.70	11.6	〃	上縁、下縁ともに粗い両面調整を施す。
652		〃	(38.35)	(30.65)	9.75	8.8	〃	右図の左側部を欠失。上縁に両面調整を施すほか、縁辺部に粗い調整を加える。
653		〃	54.45	(34.50)	11.85	16.2	〃	下縁の一部に抉りをいれるほか、周縁に調整を施す。
654		〃	52.45	(31.85)	10.00	16.1	〃	下縁に両面調整を施す。
655		〃	(51.10)	50.40	11.80	36.9	〃	右図の左側部を欠失。上縁、下縁ともに両面調整である。上縁に敲打あり。左図左側縁に自然面を残す。
656		〃	(49.20)	32.30	10.00	19.3	〃	上部を欠失。上縁以外は両面調整。両側縁に敲打あり。
657		〃	(60.50)	(35.00)	7.20	12.8	〃	一方の側縁と上・下両縁の一部を残す。両面調整を施し、側縁と上縁に敲打が認められる。
658	柱状片刃石斧	結 晶 片 岩	(43.85)	33.95	5.65	13.7	〃	側面の一部を除いて欠失。
659	蛤刃石斧	玢 岩	(78.65)	68.40	47.70	430	〃	下半部を欠失。頭部に敲打痕あり。小さい凹部が多く残る。
660	磨製石斧	結 晶 片 岩	(83.50)	33.90	(8.75)	39.9	〃	一部を残して欠失。

第105表 石器観察表(33)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
661	磨石	砂 岩	55.15	53.70	28.00	123	谷筋	完形。平たい円礫。片面中央部に使用痕と思われる磨減がみられる。
662	石錘	"	74.40	84.10	28.05	255	"	完形。平たい円礫。両側面に打ち欠きの後磨いたと思われる抉りをもつ。
663	石皿	"	(88.90)	(82.70)	41.60	470	"	一部を残す。片面の中央部を磨く。右側縁に敲打痕あり。
664	"	"	(117.10)	141.80	72.80	1,650	"	下図の下半分欠失。両面と下図の左側面が使用のため磨かれている
665	石皿又は砥石	"	(161.00)	(160.00)	89.00	26.00	"	下半部と側縁の一部を欠失。上面全体と下面の一部が帯状に磨かれている。
666	石鏃	サヌカイト	34.85	24.60	3.50	2.2	暗灰褐色土	完形。凹基。丁寧な両面加工を施す。
667	"	"	32.10	(21.70)	5.40	2.6	"	左図の左側縁を欠失。凹基。
668	"	"	(24.50)	21.70	3.55	1.7	"	先端部を欠失。凹基。
669	"	"	(17.90)	18.65	2.95	1.1	"	先端部を欠失。凹基。
670	"	"	30.20	18.80	4.85	2.4	"	完形。基部はわずかに凹基。
671	"	"	(21.05)	13.75	3.60	0.9	"	先端部欠失。基部はわずかに凹基。
672	"	"	24.50	13.00	3.20	"	"	完形。長三角形。基部はわずかに凹基。
673	石錐	"	(33.95)	24.65	6.00	4.8	"	上端と錐部先端を欠失。
674	楔状石器	"	49.50	34.00	16.80	25.8	"	長台形状。左図の右側縁を上方から截断。下縁に両面調整を施し、上縁の両面に縁辺部調整と施す。
675	"	"	42.50	35.85	11.30	24.5	"	台形状。上縁下縁ともに両面調整を施す。左図の右側縁を下方から截断する。
676	"	"	47.15	37.30	9.90	20.6	"	上縁下縁ともに両面調整。左図の右側縁を下方から截断する。上縁にわずかな敲打あり。
677	打製石胞丁	"	(42.70)	(36.10)	8.55	15.4	"	下縁と側縁の一部を残す。刃部はわずかに内湾し、両面調整を施している。側縁に抉りがある。
678	"	"	(37.55)	39.75	9.80	19.5	"	右図の左半部を欠失。長方形。上縁刃部ともに直線状。上縁・刃部ともに両面調整。上縁の一部に敲打あり。左図の抉りの下に磨減あり。
679	"	"	(39.05)	55.75	8.75	29.8	"	両端を欠失。上縁、刃部は両面調整で上縁に敲打が顕著に施される。右図の主な稜線に磨減がある。
680	"	"	76.20	38.20	10.05	29.1	"	右図の左下部を欠失。長方形。上縁はやや外湾。刃部は直線状で上縁・刃部ともに両面調整。上縁の一部に敲打あり。右図の右側縁上方に自然面を残す。

第106表 石器観察表(34)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
681	打製石庖丁	サヌカイト	(28.20)	38.85	11.30	13.4	暗灰褐色土	右図の左側部を欠失。上縁は両面調整、下縁(刃部)は片面調整。側縁部に小さな抉りがある。
682	スクレイパー	〃	(49.95)	49.80	13.45	30.2	〃	刃部は外湾し、小さな両面調整を施す。上縁部に自然面を残す。
683	〃	〃	(44.10)	54.75	6.20	14.5	〃	右図の左半部を欠失。上縁、下縁とも片面調整。下縁部は大部分に敲打が施され、刃部にならない。左図左側縁に自然面を残す。
684	〃	〃	(59.40)	50.80	9.55	26.1	〃	下部を欠失。右図の右側縁の両面に調整を施し、刃部とする。上縁に刃つぶり加工を施す。左図右側縁の一部に自然面を残す。
685		〃	38.65	(30.20)	12.30	18.9	〃	両端を欠失。上縁、下縁とも両面調整で敲打あり。
686		〃	48.50	30.75	9.70	13.3	〃	下縁と一側縁は両面調整で上縁は片面調整。上縁部に自然面を残す。
687		〃	51.75	48.40	14.55	30.6	〃	完形。石錐か。両側縁に抉りをいれ、剣先状の突出部をつくり出す。上縁部に自然面を残す。
688		〃	(38.50)	(24.60)	5.05	5.3	〃	下縁部に両面調整を施す。
689		〃	(34.05)	23.55	5.10	4.0	〃	下縁部に両面調整を施す。
690	刃器	〃	85.20	77.20	12.15	60.7	〃	下部を欠失。右図の左側縁上部に自然面をもち、下部に刃つぶりと思われる片面加工を施す。右側縁には刃こぼれが認められる。
691		〃	(36.75)	(18.05)	10.20	7.4	〃	右図の左側部を欠失。側縁は弧状に凹出し両面調整を施す。
692		〃	(52.40)	40.25	6.10	14.4	〃	両端を欠失。上縁、下縁とも粗い両面調整を施す。スクレイパーか。
693		〃	(32.80)	35.20	7.80	12.6	〃	両側縁を欠失。上縁、下縁とも両面調整で、上縁に敲打を施す。石庖丁の破片か。
694		〃	(52.20)	38.55	11.00	29.6	〃	両端を欠失。上縁、下縁とも両面調整を施す。下縁には敲打も施され、上縁の調整は粗い。
695		〃	(36.65)	42.65	6.95	14.2	〃	一側縁を欠失。上縁、下縁、側縁に片面を主体とした調整を施す。上縁に自然面を残す。
696		〃	(42.65)	40.90	10.25	17.2	〃	両側端部を欠失。上縁、下縁ともに両面調整を施す。
697		〃	(59.40)	(55.40)	13.15	54.7	〃	一側縁のみ残す。両面調整で敲打も見られる。両面の主要な稜線にわずかな磨滅が認められる。石庖丁か。
698	磨製石斧	結晶片岩	(58.80)	21.10	(8.10)	17.4	〃	上、下半部及び体部の裏面を欠失。柱状片刃石斧。
699	磨石?	砂 岩	96.30	79.00	38.60	425	〃	上縁部の一部欠失。扁平な川原石。平たい円盤。左図の表面をわずかに磨いている可能性あり。
700	凹み石	〃	220.00	130.0	56.00	2,800	〃	完形。扁平な川原石を使用。両面にわずかな敲打痕あり。

第107表 石器観察表(35)

実測図 番号	器種	石質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長さ	幅	厚さ			
701	叩き石?	砂 岩	(105.15)	35.50	31.70	230	暗灰褐色土	叩き石か。上半部欠失。方柱状。下端部に敲打痕がわずかに認められる。
702	石皿	〃	(88.55)	(67.90)	(42.60)	285	〃	両面に使用による磨滅をもつ。
703	〃	〃	178.00	(112.00)	45.00	1,350	〃	下縁部を欠失。上面に使用痕と思われる磨滅がある。
704	〃	〃	177.00	124.00	42.50	1,000	〃	完形。不定形。右図の中央部、左図の下半部に使用痕とみられる磨滅がある。上端部上に敲打痕をもつ。
705	石鏃	サヌカイト	28.00	26.50	4.00	2.3	黒色土	完形。凹基。
706	〃	〃	(26.40)	(28.85)	3.85	1.4	〃	先端部と逆刺の両端部を欠失。凹基。
707	〃	〃	(33.25)	(21.95)	4.00	2.6	〃	逆刺の両端部を欠失。凹基。
708	〃	〃	45.10	30.75	3.65	5.5	〃	完形。大型石鏃。凹基。
709	〃	〃	(21.70)	(21.35)	4.85	1.8	〃	上端部と逆刺の両端を欠失。凹基。
710	〃	〃	(16.40)	(15.75)	2.50	0.9	〃	凹基石鏃か。
711	〃	〃	(23.45)	(25.60)	4.45	1.9	〃	上半部と下端部の大部分を欠失。凹基。
712	〃	〃	(33.10)	(16.40)	4.40	1.8	〃	逆刺の両端部を欠失。凹基。
713	〃	〃	(32.35)	36.50	10.00	11.0	〃	上半部を欠失。大型石鏃。凹基。鏃身は幅広く分厚い素材を用いる。
714	〃	〃	24.00	22.00	4.00	1.8	〃	完形。凹基。一方の逆刺が長い。
715	〃	〃	(23.10)	17.10	4.20	1.4	〃	先端部を欠失。わずかに凹基。
716	〃	〃	(25.60)	19.35	3.90	1.9	〃	先端部を欠失。わずかに凹基。
717	〃	〃	(36.60)	30.00	6.45	7.0	〃	先端部を欠失。大型石鏃。わずかな凹基
718	〃	〃	25.50	15.00	4.00	1.5	〃	完形。平基。長三角形。
719	〃	〃	24.00	16.00	4.00	1.4	〃	完形。わずかに凹基。
720	〃	〃	30.00	22.00	5.00	2.6	〃	完形。わずかに凸基。

第108表 石器観察表(36)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
721	石鏃	サヌカイト	35.20	33.60	7.95	8.6	黒色土	完形。大型石鏃。一方の側端部は突出しない。
722	〃	〃	(18.65)	17.95	3.55	1.3	〃	先半部を欠失。平基。
723	〃	〃	(23.85)	(16.10)	5.20	1.6	〃	下縁部と側縁の一部を欠失。平基か。
724	〃	〃	(23.30)	22.10	4.60	2.4	〃	上端部を欠失。わずかに凹基。
725	〃	〃	29.00	24.50	4.00	2.9	〃	一方の側縁部の下端を欠失。平基。
726	〃	〃	34.55	27.00	6.20	5.2	〃	完形。平基。周縁の調整は粗い。
727	〃	〃	25.00	12.50	3.00	1.2	〃	完形。凸基。木葉形。
728	〃	〃	(26.10)	12.80	3.55	1.4	〃	下端部欠失。凸基か。
729	〃	〃	27.00	14.45	4.50	1.7	〃	下端部を欠失。
730	〃	〃	(26.80)	(14.00)	3.40	1.1	〃	下半部を欠失。先端は鋭利に尖る。
731	〃	〃	29.50	10.50	3.00	1.1	〃	完形。槍先状の鏃身をもつ。平基。
732	〃	〃	(33.55)	14.60	3.50	1.8	〃	先端部を欠失。わずかに凹基。鏃身中央部が最大幅となる。
733	〃	〃	34.50	14.00	3.50	1.8	〃	完形。凸基。木葉形。
734	〃	〃	(19.75)	12.65	4.60	1.2	〃	下半部を欠失。
735	〃	〃	27.05	12.50	4.10	1.5	〃	完形。幅広の茎をもつ。
736	〃	〃	27.40	(16.65)	5.00	1.8	〃	一方の側縁下端を欠失。基部はわずかに凹基。
737	〃	〃	(20.35)	15.50	4.35	1.3	〃	先端部を欠失。三角形の小さな茎をもつ。
738	〃	〃	(24.40)	(19.30)	4.50	1.7	〃	下半部を欠失。右図の周縁にはほとんど調整が施されていない。
739	〃	〃	(26.80)	(14.90)	5.10	2.2	〃	先端部と下端部を欠失。
740	〃	〃	(36.25)	15.00	3.90	2.4	〃	上端部と下端を欠失。中央部がふくらむ。

第109表 石器観察表(37)

実測図 番号	器 種	石 質	法 址 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
741	石槍?	サヌカイト	(45.25)	25.70	9.10	9.2	黒色土	両側に両面調整を施し、断面は凹レンズ状に仕上げる。
742	石鏃	"	29.50	8.00	2.50	0.6	"	長い茎をもつ柳葉形の小型石鏃。
743	楔状石器	"	34.30	21.00	7.75	5.9	"	完形。方柱状。右図の左側縁を下方から截断。上縁下縁ともに両面調整を施す。
744	"	"	34.20	12.90	7.85	3.2	"	完形。方柱状。両側縁を上方から截断。上縁に両面調整を施す。
745	"	"	46.35	24.55	9.95	12.9	"	完形。長方形状。右図の左側縁を下方から截断。一方の側縁は両面調整を施す。
746	"	"	46.70	26.30	11.35	15.4	"	完形。長方形状。右図の左側縁を上・下から截断。上縁・下縁ともに両面調整を施し、ともに敲打がある。
747	"	"	54.30	13.60	11.15	11.8	"	完形。方柱状。両側縁を下方から截断。上縁・下縁ともに両面調整を施し、階段状剥離が顕著にみられる。
748	"	"	32.35	22.50	8.25	7.0	"	完形。右図の左側縁を上方から、右側縁を下方から截断。下縁は両面調整で階段状剥離が多くみられる。上縁に敲打がみられる。
749	柱状石器?	"	(29.20)	(33.50)	8.65	10.2	"	右図の左側面を下方から截断。下縁部は両面調整。上縁は片面調整で敲打あり。
750	楔状石器素材?	"	38.80	75.55	11.10	33.2	"	完形。長方形状。右図の左側面を下方から截断。上縁下縁ともに両面調整を施す。
751	打製石庖丁	"	(37.30)	44.40	10.10	20.1	"	右図の左半部を欠失。上縁・下縁とも両面調整を施し、下縁部には敲打がなされている。上縁部が刃部をなす。両面とも稜線部が若干磨滅する。
752	"	"	(59.10)	34.00	11.40	26.5	"	右図の左半部を欠失。長方形。上縁・下縁(刃部)とも両面調整を施し、上縁部に敲打が見られる。浅くて幅広の抉りをもつ。
753	"	"	(38.55)	41.40	8.10	13.5	"	右図の左半部を欠失。上縁部は両面調整を施し、敲打も見られる。抉りあり。右図の抉り周辺に自然面を残す。側縁部は丸くおさまり、小さな抉りをもつ。
754	"	"	(49.45)	47.90	6.70	25.8	"	両側端部を欠失。上縁部は直線状で両面調整で敲打あり。下縁部は片面調整で、使用痕と思われる磨滅あり。
755	"	"	(34.00)	61.90	6.45	13.2	"	右図の左半部を欠失。上縁は両面調整。刃部は直線状で片面調整。右図の刃部と抉り部に使用痕と思われる磨滅あり。縁側部に調整はなく、自然面を残す。
756	"	"	(64.15)	47.70	9.45	31.0	"	右図の左半部を欠失。上縁は外湾し、両面調整。敲打も見られる。刃部は直線状で片面が丁寧な両面調整。左図の刃部に使用痕と思われる磨滅が顕著である。
757	"	"	(35.60)	(44.35)	8.20	15.4	"	側縁の一部と下縁の一部のみ残す。下縁は直線状で片面調整。左図の中央に大きな自然面を残す。
758	"	"	(51.00)	(44.15)	13.00	31.2	"	刃部の一部と抉りの一部のみ残す。刃部は直線状で両面調整。
759	スクレイパー	"	(26.70)	36.70	5.40	7.0	"	右図の左半部を欠失。刃部は直線状で両面調整。左図左側縁に自然面を残す。
760	"	"	(58.60)	48.45	12.20	39.9	"	両端部を欠失。長方形状・上縁・下縁とも直線状で両面調整を施す。石庖丁か。

第110表 石器観察表(38)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
761	スクレイパー	サヌカイト	(31.45)	17.75	6.10	2.8	黒色土	完形か。刃部は直線状で密でいていな片面調整。横長剥片を使用。
762	〃	〃	(73.60)	43.10	8.10	31.9	〃	右図の左半部が欠失。刃部は直線状で両面調整。先端部は刃こぼれが目立つ。上縁は両面調整で敲打あり。
763	〃	〃	(46.05)	(19.40)	4.75	4.1	〃	刃部の一部を残す。刃部は丁寧な両面調整で左図の刃部に磨滅が認められる。
764	〃	〃	48.70	32.90	6.25	7.0	〃	右図の右側縁部が欠失。左側縁と上縁に調整を加える。
765	〃	〃	(37.60)	(42.55)	6.35	10.6	〃	側縁と刃部の一部のみ残す。刃部は直線状で両面調整。右図の右側縁に自然面を残す。
766	〃	〃	81.70	49.60	12.85	42.6	〃	左図の左側縁下部が欠失。刃部はわずかに外湾し、両面調整を施す。刃部の一部に使用痕と思われる磨滅あり。右図左側縁の一部に敲打を施す。左図右側縁下半部と下縁部に自然面を残す。
767	〃	〃	(38.15)	(20.00)	7.30	5.1	〃	刃部の一部を残す。刃部はやや外湾し、外面調整を施す。
768	〃	〃	44.00	24.65	6.10	7.5	〃	刃部の一部のみ残す。刃部は外湾し、両面調整を施す。右図の右側縁にも縁辺部の調整を加える。
769	〃	〃	(32.25)	(25.10)	6.85	5.6	〃	刃部と側縁の一部を残す。刃部は直線状で両面調整を施す。側縁に自然面を残し、小さな抉りをつける。石庖丁か。
770	〃	〃	(44.50)	30.40	6.80	11.6	〃	右図の左半部が欠失。刃部は外湾し、両面調整。上縁に自然面を残す。
771	〃	〃	68.65	45.40	9.20	20.0	〃	刃部はわずかに外湾し、両面調整。右図の左側縁に自然面を残す。
772	〃	〃	(84.20)	49.75	8.55	39.1	〃	上縁部両端が欠失。四辺形状。上縁・下縁とも両面調整を施し、下縁には敲打も認められる。上縁部を刃部とする。
773	〃	〃	23.30	18.80	3.35	1.5	〃	両側下方の両面に調整を加え、三角形状につくり出す。石鏃未製品か。
774	〃	〃	(50.45)	33.95	8.90	17.6	〃	右図の左半部欠失。上縁・下縁とも粗い両面調整を施し、上縁には敲打も加える。右図の右側縁には小さな抉りをもつ。石庖丁か。
775	〃	〃	(38.65)	45.10	8.30	13.6	〃	両側部が欠失。下縁は片面調整。上縁はわずかに残り両面調整が認められる。
776	〃	〃	(41.40)	34.25	6.25	11.4	〃	両側部が欠失。上縁・下縁ともに両面調整で、上縁は刃部をなさない。石庖丁か。
777	〃	〃	(53.95)	47.50	14.40	39.0	〃	完形か。下縁は両面調整を施すが、敲打があり刃部をなさない。上縁部にも両面調整を施し、階段状剝離が顕著にみとめられる。
778	楔状石器	〃	45.55	29.35	12.70	20.0	〃	完形。右図の左側縁を上方から截断する。下縁部は両面調整で刃部状につくり出すが、上縁は左図の縁辺を敲打するのみである。
779	スクレイパー	〃	(29.55)	45.45	6.10	11.5	〃	右図の左半部が欠失。刃部は直線状で両面調整。上縁に自然面を残す。
780	〃	〃	(44.60)	42.20	11.25	18.9	〃	刃部の一部を残す。刃部には粗い片面調整を行う。

第111表 石器観察表(39)

実測図 番号	器種	石質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長さ	幅	厚さ			
781		サヌカイト	(35.15)	30.75	4.85	4.8	黒色土	刃部の一部を残す。刃部はやや外湾し、右図全面に自然面を残す。
782		〃	(59.30)	34.20	13.15	29.8	〃	両端部を欠失。上縁・下縁とも両面調整を施し、敲打を加える。剝離角度は急。上縁・刃部ともに敲打あり。左図の右上半部と右図の左上半部に磨滅が見られる。小型の打製石斧か。
783		〃	(33.80)	33.05	10.20	12.1	〃	右図の右半部と左側縁を欠失。上縁、下縁とも両面調整を施す。
784		〃	(43.90)	(28.10)	6.35	10.0	〃	下縁と側縁の一部を残す。下縁は両面調整で、一部には敲打が見られる。側縁には粗い両面加工を施す。
785		〃	(36.35)	(32.25)	7.60	9.2	〃	下縁に両面調整を施す。
786		〃	48.65	35.75	16.95	31.3	〃	下縁に両面調整を施したのち、敲打を加える。
787		〃	(25.40)	(14.75)	5.35	1.9	〃	下縁と側縁の一部を残す。下縁は両面調整をもつが刃部の鋭さはない。側縁に片面調整をもつ。
788		〃	23.80	(23.40)	4.10	2.3	〃	上半部を欠失。下縁の一部と一方の側縁に両面調整を施す。
789		〃	32.95	18.50	6.95	5.2	〃	下縁に両面調整を加えたのち、敲打を施す。
790		〃	22.25	(15.95)	5.10	1.9	〃	一方の側縁と下縁の一部を残す。側縁部に両面調整を施す。
791		〃	(25.05)	(25.00)	4.65	3.0	〃	側縁と下縁の一部を残し、いずれも片面が丁寧な両面加工が認められる。
792		〃	38.05	(28.80)	8.80	5.7	〃	下縁の一部のみ残し、両面調整が施されている。
793		〃	(30.45)	(19.25)	6.10	2.8	〃	下縁と側縁に両面調整が施されている。
794		〃	18.90	20.75	8.90	4.7	〃	下縁に両面調整を施す。
795		〃	(38.80)	34.45	9.30	12.7	〃	上縁、下縁ともに両面調整を施す。
796		〃	24.60	(22.00)	8.60	6.4	〃	下縁の一部のみ残し、丁寧な片面調整を施す。
797		〃	(30.90)	(22.45)	7.85	5.9	〃	下縁に両面調整を施し敲打を加える。
798		〃	31.30	(28.65)	7.20	6.9	〃	下縁に片面調整を施し、その部分に使用による磨滅が認められる。
799		〃	31.45	(22.80)	6.65	5.1	〃	上端部と下部を欠失。一側縁には両面調整を、他方は片面調整を施す。
800		〃	(31.35)	28.80	5.55	5.3	〃	下縁に粗い両面調整を施す。

第112表 石器観察表(40)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
801		サヌカイト	34.30	(33.15)	9.45	12.0	黒色土	側縁に両面調整を施す。
802		〃	29.90	(27.35)	4.85	4.8	〃	両端部を欠失。上縁、下縁ともに両面調整を施す。
803		〃	(26.75)	22.40	6.60	5.1	〃	下縁部に両面調整を施す。
804		〃	37.40	(28.25)	6.95	8.7	〃	右図の左半部を欠失。側縁の一部と上縁・下縁に調整を加える。
805		〃	30.10	(21.95)	5.95	3.4	〃	下縁、側縁ともに両面調整を施す。
806		〃	28.15	29.30	8.60	7.2	〃	側縁に両面調整を施す。
807		〃	(29.75)	(32.55)	7.25	6.9	〃	下半部を欠失。上縁と一方の側縁に両面調整を施す。右図の右側縁に敲打が認められる。
808	調整剥片	〃	39.80	17.25	5.15	3.2	〃	左図の左側縁に調整が認められる。
809		〃	45.00	19.25	13.50	8.7	〃	下縁に両面調整を施し、上縁部にも調整が認められる。
810		〃	(38.85)	38.85	10.10	15.2	〃	両端部を欠失。上縁下縁ともに両面調整を施す。下縁の一部に敲打がみられる。
811		〃	31.50	(30.55)	11.70	9.0	〃	右図の左半部と下縁を欠失。周縁部に両面加工が施される。
812		〃	35.45	30.85	11.25	9.3	〃	三角形形状。側縁に両面調整又は片面調整を施す。
813		〃	42.45	23.95	9.35	8.9	〃	下端部を欠失。一方の側縁は鋭く、刃こぼれ状の小剥離が認められる。右図の左側縁に調整をもつ。
814		〃	(34.55)	21.65	9.90	9.7	〃	下縁に両面調整を施したのち、敲打を加える。
815		〃	(36.00)	23.90	4.10	3.8	〃	左図の左半部を欠失。周縁に両面調整を施す。
816		〃	(37.30)	(29.55)	15.80	16.4	〃	一方の側縁に両面調整を施したのち敲打を加え、他方の側縁に敲打を加える。
817		〃	(41.50)	(24.40)	8.40	11.8	〃	側縁と下縁の一部を残す。側縁の一部と下縁に両面調整のち敲打を施す。
818		〃	46.55	(39.35)	9.05	22.6	〃	両端部を欠失。上縁、下縁ともにていねいな両面調整。上縁には敲打を施し、下縁を刃部とする。石廬すか。
819		〃	43.90	40.70	7.90	14.2	〃	上端部を欠失。両側縁に両面調整を施す。右図の左側縁には刃つぶし状の敲打を加える。
820		〃	50.65	51.20	19.60	51.0	〃	上縁部、下縁部とも両面調整を施し、上縁部に敲打を施す。右図の左側縁を下方から截断する。

第113表 石器観察表(41)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
821	扁平片刃石斧	結晶片岩	62.50	43.00	15.00	86.7	黒色土	完形。刃部に使用痕がわずかに認められる。
822	磨製石斧	〃	(46.20)	(27.00)	(8.35)	8.8	〃	表面の一部を残す。
823	〃	〃	(69.90)	35.00	13.00	60.8	〃	上部・下部，裏部を欠失する。
824	柱状石斧	〃	99.00	28.50	22.00	117.9	〃	完形。体部は頭部(図では下端)ほど薄くなり，刃部は明瞭な片刃にならない。
825	〃	〃	(109.15)	36.60	29.00	215	〃	刃部及び体部の一部を破損。刃部と頭部に敲打痕があり，叩き石として使われたことがわかる。
826	石錘	砂 岩	88.60	68.30	27.20	245	〃	完形。平たい円礫を使用。両側に抉りをもつ。一方はわずかに凹み，他方は打欠きによって凹みをつける。
827	磨製石斧	結晶片岩	(31.85)	(24.05)	6.30	7.5	〃	柱状片刃石斧の刃部の一部のみを残す。
828	〃	〃	(29.40)	36.00	11.70	14.3	〃	柱状片刃石斧の頭部の一部のみを残す。
829	石錘	砂 岩	70.35	48.60	(36.50)	160	〃	片面を欠失。球状礫を使用。幅約9mmの浅い溝をもつ。加熱により赤変。
830	叩き石	角閃石輝石 安山岩	68.10	48.25	41.35	200	〃	完形。卵形の河原石を使用。上端部，下端部に使用痕と思われる敲打あり。
831	石皿又は砥石	砂 岩	(89.20)	(78.75)	36.85	335	〃	両面の一部を磨くほか，左図の下部に敲打痕をもつ。
832	石鏃	サヌカイト	14.15	13.00	2.75	0.6	その他の包含層	一方の逆刺先端部を欠失。側縁は外湾する。凹基。
833	〃	〃	(16.05)	(16.25)	3.40	0.8	〃	先端部と一方の逆刺を欠失。凹基。
834	〃	〃	26.10	19.90	4.15	1.7	〃	完形。凹基。
835	〃	〃	27.60	(15.95)	4.00	1.4	〃	一方の逆刺先端部を欠失。凹基。
836	〃	〃	(24.95)	22.70	4.50	1.8	〃	先端部を欠失。凹基。基部は幅広。
837	〃	〃	(25.35)	(21.30)	3.45	1.4	〃	一側縁と一方の逆刺先端部を欠失。凹基。
838	〃	〃	(28.10)	(23.70)	4.20	2.6	〃	先端部と逆刺両端部を欠失。凹基。
839	〃	〃	23.40	16.65	4.65	1.3	〃	一方の逆刺先端部を欠失。凹基。
840	〃	〃	13.85	13.45	2.05	0.3	〃	完形。凹基。

第114表 石器観察表(42)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
841	石鏃	サヌカイト	21.55	16.60	3.65	1.1	その他の包含層	完形。凹基。
842	〃	〃	(21.60)	21.90	3.90	1.7	〃	先端部と逆刺先端部を欠失。凹基。
843	〃	〃	(21.00)	19.55	5.10	1.7	〃	上端部を欠失。わずかに凹基。
844	〃	〃	(18.85)	(22.20)	(4.45)	2.0	〃	先端部と一方の逆刺先端部を欠失。凹基。
845	〃	〃	28.00	19.20	4.55	2.1	〃	完形。凹基。
846	〃	〃	31.85	(20.45)	5.10	2.7	〃	一方の側端部を欠失。わずかに凹基。
847	〃	〃	(17.55)	(14.15)	2.60	0.6	〃	先端部と一方の側端部を欠失。わずかに凹基。
848	〃	〃	17.85	13.60	3.85	0.9	〃	一方の側端部を欠失。
849	〃	〃	(18.10)	16.85	4.35	1.4	〃	先端部を欠失。平基。
850	〃	〃	22.20	17.90	3.70	1.3	〃	完形。平基。
851	〃	〃	(24.40)	15.80	3.20	1.2	〃	下端部を欠失。
852	〃	〃	21.60	18.80	3.15	1.3	〃	完形。平基。
853	〃	〃	25.00	21.37	3.70	2.2	〃	先端部と両側端部を欠失。平基。
854	〃	〃	(24.50)	23.00	4.40	2.6	〃	先端部を欠失。基部はわずかに外湾し、両側部はわずかに内湾する。
855	〃	〃	(13.60)	(11.45)	2.25	0.5	〃	先端、基部ともに欠失。
856	〃	〃	(27.00)	16.80	5.60	2.5	〃	先端部を欠失。凸基。
857	〃	〃	(25.80)	16.70	4.30	1.8	〃	先端部を欠失。平基。
858	〃	〃	(27.90)	15.60	4.70	2.1	〃	先端部と一方の下端部を欠失。平基か。
859	〃	〃	(31.35)	19.80	5.40	3.8	〃	先端部と下端部を欠失。
860	〃	〃	(28.35)	22.30	5.60	3.8	〃	先端部を欠失。平基。

第115表 石器観察表(43)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
861	石鏃	サヌカイト	30.35	10.80	3.75	1.2		完形。小さな茎をもつ。
862	"	"	36.85	15.65	3.90	2.0		完形。凸基。木葉形。
863	"	"	32.30	15.00	8.60	2.1		完形。有茎。
864	"	"	(38.10)	17.50	4.20	2.9		有茎石鏃。茎の先端部を欠失。
865	"	"	(35.40)	15.80	5.45	2.0		茎の先端を欠失。先端は鋭く尖る。
866	"	"	(28.70)	17.35	4.40	1.7		先端部を欠失。有茎。右図に自然面をもつ。
867	"	"	(16.90)	12.65	4.40	0.9		下半部を欠失。
868	"	"	(21.85)	16.80	4.60	1.5		下半部を欠失。
869	"	"	(26.60)	(27.55)	6.20	3.1		上半部と下半部を欠失。
870	"	"	(26.60)	(22.10)	3.60	1.9		下半部を欠失。
871	石槍	"	(53.25)	30.20	10.80	23.6		上半部を欠失。両側縁・下縁の両面に調整を加え、横断面が凸レンズ状の体部をつくる。
872	石鏃	"	(36.80)	21.00	6.55	4.6	その他の包含層	先端部を欠失。大型石鏃。わずかに凹基。
873	石錐	"	(28.05)	23.55	6.95	3.7	"	完形。錐部は丁寧に両面加工されている。
874	"	"	(34.90)	20.40	4.85	3.0	"	錐部先端を欠失。左図上部に自然面を残す。
875	"	"	(35.70)	22.75	5.70	2.4	SD85101	錐部先端を欠失。錐部は扁平。
876	楔状石器	"	27.55	24.50	6.90	5.0	その他の包含層	右図の左側縁を上方から截断。方形状。上縁、下縁ともに両面調整を施す。
877	"	"	31.80	32.80	10.60	8.8	"	方形状。上縁の一部を欠失。右図の左側縁を下方から截断。上縁・下縁とも両面調整を施す。
878	"	"	32.05	19.70	5.70	4.3	"	四辺形。上・下縁ともに両面調整を施す。上縁下縁ともに敲打がみられる。両側縁を上方から截断する。
879	"	"	34.80	12.75	6.50	2.6	"	方柱状。上縁は両面調整。下縁の一部に敲打が施されている。両側縁を上方から截断する。
880	"	"	26.20	13.25	6.20	3.1	"	方柱状。右図の左側縁を上方から截断する。上縁・下縁とも調整が施されている。

第116表 石器観察表(4)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
881	楔状石器	サヌカイト	(36.60)	37.20	10.95	17.2	その他の包含層	四辺形。右図の左側縁を上方から截断する。上縁・下縁とも両面調整を施す。
882	"	"	37.35	11.35	10.45	5.4	"	方形状。下縁のみ両面調整を施す。右図の左側面は上方と下方から、右側面は下方から截断。
883	"	"	50.80	63.40	13.15	44.6	"	長方形。上下両端とも両面調整を施す。右図の左側縁を上方から截断する。楔状石器の素材か。
884	打製石庖丁	"	(31.85)	41.90	7.40	11.2	"	右図の左半部を欠失。側縁部に大きく開く抉りをもつ。上下両縁とも直線状か。上縁は片面が丁寧な両面調整、下縁は片面調整を施す。
885	"	"	(58.00)	54.44	7.20	22.3	"	右図の左半部を欠失。上縁は直線状で両面調整。一方の側縁部に抉りあり。左図の左側縁上方に自然面を残す。
886	"	"	(39.40)	37.60	7.60	12.4	"	両端を欠失。上縁は外湾し、刃つぶしを施される。刃部は直線状で、ともに両面加工を施される。
887	打製石庖丁	"	(60.20)	47.85	10.80	37.5	"	右図の左半部を欠失。長方形。上縁、刃部ともに直線状。上縁は両面調整で敲打を施す。刃部は片面調整で、調整のない面に磨減が認められる。側縁部に浅い抉りあり。
888	"	"	(34.55)	50.95	9.30	19.5	"	右図の左半部と右側縁上部を欠失。上縁・刃部をわずかに残し、上縁に敲打がみられる。抉りあり。
889	"	"	(59.50)	(49.15)	8.95	27.9	"	上縁と抉りの一部を残す。上縁は密で丁寧な両面調整を施し、敲打がみられる。
890	"	"	107.85	50.75	13.95	84.4	"	側縁部と刃部の一部を欠失。上縁、刃部とも直線状で両面調整を施す。上縁の一部に自然面を残す。刃部にも敲打が認められる。
891	"	"	(30.25)	44.60	6.60	10.6	"	右図の左半部を欠失。上縁部、刃部とも両面調整。刃部は直線状で、上縁は外湾する。上縁に敲打あり。
892	打製石庖丁	"	(39.30)	(37.45)	8.15	11.7	"	刃部の一部のみ残す。刃部は直線状で両面調整。左図の刃部に磨減がある。
893	"	"	(27.55)	29.90	7.80	6.4	"	刃部と一側縁の一部を残す。刃部は直線状で片面調整。
894	"	"	(32.30)	37.35	11.00	19.9	"	両端部を欠失。上縁、刃部ともに直線状で両面調整を施す。上縁部に敲打がみられる。
895	"	"	(38.45)	65.10	12.75	43.2	"	両端部を欠失。上縁部は両面調整で敲打が顕著である。刃部は片面調整で右図は使用痕と思われる磨減が著しい。
896	"	"	(23.20)	39.65	9.00	9.2	"	側縁部を残す。上縁、刃部ともに両面調整。上縁のみ敲打がみられる。浅い抉りあり。
897	"	"	(77.70)	51.80	12.80	37.1	"	右図の左半部を欠失。上縁部は直線状で自然面を残す。縁辺にわずかな調整を施す。刃部も直線状であるが、側面にのみ調整を施す。
898	"	"	(90.60)	35.80	9.15	35.5	"	上縁部と一方の側縁部を欠失。刃部はわずかに外湾し、片面調整である。右図の刃部左側に使用痕と思われる磨減あり。
899	"	"	111.85	49.15	9.90	75.4	"	右図の左側縁上端を欠失。長方形。上縁、刃部は直線状で両面調整。上縁にわずかに敲打がみられる。左図刃部の中央部に磨減がある。両側部な抉りあり。右図左側縁上端に自然面を残す。
900	スクレイパー	"	(44.05)	44.00	6.70	15.2	"	上端部を欠失。刃部は直線状で片面調整を施す。石材は白色風化している。

第117表 石器観察表(45)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
901	スクレイパー	サヌカイト	(50.40)	(37.95)	(10.10)	17.5	その他の包含層	両端欠失。刃部は片面が丁寧な両面調整。右図上縁に自然面を残す。
902	"	"	47.40	(37.85)	6.75	14.6	"	右図の右上端部を欠失。刃部はやや内湾し、両面調整を施す。上縁は外湾し、粗い両面調整を施す。上縁も刃部か。
903	"	"	(41.45)	59.90	10.35	17.1	"	側縁部と刃部を残す。刃部には両面加工を施す。左図の左端部に自然面を残す。
904	"	"	(29.70)	39.30	9.25	12.1	"	左図の右側縁の一部と左半部を欠失。刃部は直線状で両面調整。上縁に敲打あり。
905	"	"	(52.07)	38.45	11.10	31.3	"	右図の左半部欠失。刃部は直線状で片面が丁寧な両面調整。一部に敲打あり。上縁部は両面調整、敲打あり。
906	"	"	(27.80)	35.60	5.85	59	"	右図の右側縁と左半部を欠失。刃部はわずかに内湾し、両面調整。上縁部にも両面調整を施す。
907	"	"	(61.30)	(46.55)	12.90	38.6	"	左図の右半部を欠失。刃部に両面調整を施す。右図右側縁に自然面を残す。
908	"	"	(46.35)	38.30	8.55	15.0	"	刃部は内湾し、細かな片面調整を施す。上縁と側縁に自然面を残す。
909	"	"	(64.15)	51.00	8.25	34.4	"	両端を欠失。下縁は直線状で、両面調整を施し、敲打を加える。上縁の一部には両面調整を施し、一部には片面調整を施す。
910	"	"	90.50	40.10	10.55	34.1	"	横長剥片を使用。刃部は直線状で片面調整ぎみの両面調整を施す。上縁と一方の側縁部に片面調整を施す。右図の右側縁部に自然面を残す。
911	"	"	(12.80)	(18.30)	2.95	1.0	"	下縁と側縁の一部を残す。下縁に両面調整が認められる。
912	"	"	18.95	16.15	5.00	1.8	"	上縁・下縁ともに両面調整を施す。
913	"	"	(22.95)	(13.35)	3.95	1.7	"	上半部欠失。折損部以外に調整が施されている。
914	"	"	24.75	(22.20)	7.20	4.4	"	上端・下端を欠失。両側縁に両面調整を施す。左図の中央の面と稜縁に磨滅がみられる。
915	"	"	(20.60)	(14.90)	3.90	1.2	"	両側縁と上縁に両面調整を施す。
916	"	"	(18.50)	18.30	3.25	1.4	"	両側端部を欠失。上縁、下縁ともに両面調整が施されている。
917	"	"	29.90	26.40	3.45	3.0	"	上縁と側縁の一部に片面調整を施す。
918	"	"	(24.20)	(16.90)	5.40	1.8	"	側縁の一部のみ残す。石庖丁の柄り部分か。
919	"	"	(24.20)	(22.00)	9.40	4.7	"	左図の上部を欠失。その他の縁辺に両面調整を施す。
920	"	"	23.40	(16.15)	6.05	3.3	"	上縁・下縁ともに両面調整を施し、刃部状とする。左図全体にわずかな磨滅が認められる。

第118表 石器観察表(46)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
921		サヌカイト	(29.90)	(28.75)	9.20	8.2	その他の包含層	下縁と側縁の一部を残す。下縁・側縁ともに両面調整を施し、若干敲打が見られる。右図左図ともに中央部にわずかな磨滅がある。
922		〃	(32.40)	(29.55)	8.30	7.6	〃	下縁と一方の側縁を残す。下縁部は両面調整。左図の左側縁に自然面を残す。
923		〃	(33.90)	19.70	4.45	3.8	〃	下縁の一部のみ残す。下縁に両面調整を施す。
924		〃	(45.95)	(24.55)	6.55	7.2	〃	刃部の一部を残す。刃部は片面調整で、裏面に顕著な磨滅が認められる。
925		〃	(46.20)	(22.35)	7.00	7.2	〃	上縁と下縁に粗い調整を加える。
926		〃	(41.90)	(33.25)	8.25	10.8	〃	右図の左半部欠失。下縁に片面調整を施し、側縁の一部に両面調整を施す。左図の中央に磨滅あり。
927		〃	42.40	41.60	8.65	17.6	〃	楔状石器素材か。右図の左側縁を上方から截断し、上縁・下縁に両面調整を施す。
928		〃	54.95	(39.10)	16.20	40.6	〃	下縁の一部を残す。下縁は両面調整で階段状剝離が多くみられる。
929		〃	37.90	(34.10)	7.85	10.7	〃	下縁に粗い調整が施されている。
930		〃	37.75	(26.30)	9.55	11.8	〃	右図の左半部を欠失。欠失部分をのぞいて縁辺に両面調整が施され、上縁には敲打がみられる。
931		〃	(38.35)	(31.85)	6.35	8.8	〃	左図の右半部と左側縁の一部を欠失。上縁・下縁ともに両面調整を施す。左図の下半部の稜縁に磨滅あり。
932		〃	(42.90)	(29.10)	6.30	10.1	〃	下縁と側縁の一部を残す。下縁は両面調整。左図の左側縁に自然面を残す。
933		〃	(41.95)	44.20	5.90	15.1	〃	左図の右半部と上縁の一部を欠失。上縁・下縁ともに両面調整。左図の左側に自然面を残す。
934		〃	39.50	36.85	11.45	19.3	〃	上縁・下縁ともに両面調整を施し、上縁に敲打を加える。
935		〃	(42.55)	(35.70)	7.60	14.7	〃	刃部の一部を残す。刃部に片面が丁寧な両面調整を施す。
936		〃	39.25	33.10	14.35	18.5	〃	右図の左半部を欠失。上縁・下縁に両面調整を施し、一方の側縁部に片面調整を施す。右図の右側縁下部に自然面を残す。
937		〃	58.40	(34.90)	10.45	22.7	〃	左図の左半部を欠失。上縁・下縁ともに両面調整を施す。
938		〃	(55.30)	46.30	10.30	29.4	〃	左図の右半部欠失。上縁・下縁ともに両面調整を施し、上縁にわずかに敲打がみられる。
939		〃	(42.10)	33.30	6.55	12.8	〃	両側端部を欠失。上縁・下縁ともに両面調整を施す。
940		〃	(49.20)	36.40	11.75	23.5	〃	両側端部を欠失。上縁・下縁ともに両面調整を施す。右図の下縁部付近にわずかな磨滅が認められる。

第119表 石器観察表(47)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
941		サヌカイト	(37.55)	(75.05)	12.30	39.8	その他の包含層	両側端部を欠失。上縁・下縁ともに両面調整を施す。右庖丁か。
942		〃	(42.45)	(30.75)	7.25	12.4	〃	左図の左半部欠失。上縁・下縁ともに両面調整。左図下縁付近に磨減あり。
943		〃	42.65	27.50	10.90	14.3	〃	両端部を欠失。上縁・下縁に両面調整を施す。上縁部に敲打あり。
944		〃	40.60	(37.20)	5.15	9.3	〃	下縁に両面調整を施す。右図の上縁に刃こぼれ状の小剥離が認められる。
945		〃	38.55	33.90	8.15	13.5	〃	両端を欠失。上縁は山形・下縁は直線状。いずれも両面調整を施す。
946	扁平片刃石斧	蛇 紋 岩	(43.75)	(24.90)	9.95	15.7	〃	刃部と側縁部の一部のみ残す。
947	有溝石錘	花 崗 岩	40.95	29.00	33.90	57.4	〃	一部を欠失。球状の礫を使用。浅い溝を縦位にめぐらす。
948	〃	砂 岩	50.35	66.60	54.00	235	〃	完形。球状の礫を使用。幅15.5~17.5mm。深さ5~3mmの溝を横位にめぐらす。
949	磨石	〃	101.50	74.10	44.05	500	〃	完形。平たい円礫を使用。両面の中央部と両側面を敲打している。両面に磨きが認められる。
950	〃	〃	(67.45)	58.80	(41.70)	210	〃	約4分の1ほど残存。球状の礫を使用。両面を磨き、側縁部を敲打する。
951	石皿	〃	(53.75)	65.90	20.75	135	〃	上縁・下縁を欠失。中央部を敲打し、そのまわりを磨いている。
952	不明	不 明	(27.40)	(35.60)	10.00	8.2	〃	砥石又は石皿。一部のみ残存。右図全体が磨かれている。
953	石鏃	サヌカイト	(23.00)	13.20	3.20	1.0	表採	下端部欠失。凸基と思われる。
954	〃	〃	(27.55)	13.25	3.00	1.2	〃	先端部欠失。平基。
955	〃	〃	29.55	(20.40)	5.35	2.4	〃	逆刺の一端を欠失。凹基。
956	〃	〃	(24.10)	32.50	6.05	4.9	〃	上半部欠失。平基の大型石鏃。
957	〃	〃	(38.15)	(13.95)	3.75	1.8	〃	右図の左半部を欠失。
958	〃	〃	31.55	(18.30)	4.80	2.5	〃	基部の一端を欠失。基部はわずかに内湾する。
959	〃	〃	(46.60)	21.60	7.05	6.8	〃	基部を欠失。大型石鏃。
960	〃	〃	(38.80)	28.25	8.20	11.6	〃	上半部を欠失。平基の大型石鏃。

第120表 石器観察表(48)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
961	石錐	サヌカイト	(18.60)	6.70	3.00	0.4	表探	錐先のみ残す。両面中央部に長軸に沿って磨滅あり。
962	楔状石器	〃	35.30	30.35	8.00	12.0		台形状。右図の左側面を上方から截断。上縁、下縁は両面調整を施し、上縁には敲打も施される。
963	〃	〃	44.65	25.90	10.00	14.9	〃	長方形。両側面を下方から截断。上縁、下縁ともに両面調整。上縁にのみ敲打が施される。左図下縁部には磨滅が見られる。石庖丁の転用か。
964	〃	〃	43.35	23.20	10.35	13.6		長方形。右図の左側面を上方から截断。上縁、下縁とも両面調整で敲打あり。
965	〃	〃	45.35	44.00	12.55	33.0	〃	五角形状。右図の左側面を上方から截断。上縁、下縁とも両面調整で、上縁には敲打あり。
966	〃	〃	41.10	20.45	8.35	6.8	〃	右図の左側面を上方から截断。下縁に両面調整を施す。右図の下縁にわずかな磨滅。左図の下縁部ほぼ全面に磨滅あり。
967	打製石庖丁	〃	(57.65)	53.00	8.75	29.9	〃	左図の右半部と挟りの下部を欠失。長方形。上縁、刃部とも直線状で、上縁は片面が丁寧な両面調整で敲打を加える。下縁は粗い片面調整。右図の中央線と挟りの上部周辺の稜線に磨滅あり。左図の挟上部稜線にも磨滅あり。
968	〃	〃	(31.10)	(32.00)	6.15	7.8	〃	上縁の一部と側縁の一部のみ残す。上縁に両面調整を施し、敲打を加える。右図の中央部と左図上縁の一部に磨滅がみられる。右図の右側縁に挟りあり。
969	〃	〃	(57.25)	47.80	14.95	43.9	〃	右図の左半部と刃部（上縁）の一部を欠失。背部（下縁）、刃部（上縁）とも両面調整で、背部には敲打を加える。両面にわずかな磨滅あり。右図の右側縁に小さな挟りがある。
970	〃	〃	(43.00)	45.30	10.45	29.1	〃	両端部を欠失。直方形。上縁、刃部とも直線状で両面調整。上縁に敲打あり。両面に磨滅が認められる。
971	〃	〃	(58.50)	50.10	11.90	50.9	〃	両端部を欠失。上縁はわずかに外湾する。上縁に両面調整を施し、敲打を加える。下縁（刃部）は片面が丁寧な両面調整で、右図の刃部周辺に磨滅が見られる。
972	スクレイパー	〃	(99.35)	82.45	14.65	120.6	〃	右図の左側縁部を欠失。上縁にわずかな敲打あり。刃部に片面が丁寧な両面調整を施す。右図中央を横断する稜線。左図刃部と左側縁中央部に磨滅あり。右図の右側縁に自然面を残す。
973	〃	〃	(25.40)	(18.25)	4.40	2.8	〃	下縁の一部のみ残す。下縁は両面調整が施され、敲打あり。右図全面と左図下半部に磨滅が見られる。
974	〃	〃	(25.70)	(14.55)	4.10	1.6	〃	一部のみ残存。両面の縁部に調整を施す。両面に磨滅が認められる。
975	〃	〃	(35.50)	27.00	7.80	9.0	〃	両端を欠失。上縁、下縁ともに両面調整を施す。両面にわずかな磨滅が認められる。
976	〃	〃	(30.55)	52.35	8.50	19.3	〃	右図の左半部を欠失。下縁に両面調整を施す。上縁に自然面を残す。両面に磨滅が認められる。
977	〃	〃	(64.45)	49.25	12.85	50.6	〃	左図の右半部を欠失。上縁部はやや外湾し、両面調整、敲打が施される。刃部は片面調整を施す。挟が見られる。両面とも磨滅がやや顕著。
978	石鏃	〃	(30.45)	22.20	6.60	4.5	〃	先端部と基部を欠失。
979	〃	〃	(19.80)	(24.00)	4.75	2.3	〃	左図の右半部を欠失。下縁部と右図の右側縁部に片面調整を施す。右図の左側縁稜線に磨滅が認められる。
980	〃	〃	(38.75)	26.60	10.00	10.6	〃	左図の左半部を欠失。上下両縁、側縁に粗い両面調整を施す。

第121表 石器観察表(49)

実測図 番号	器種	石質	法 量 (mm)			重量(g)	出土位置	観 察
			長さ	幅	厚さ			
981		サヌカイト	(31.40)	(30.40)	6.40	5.6	表採	刃部の一部のみ残す。下縁は粗い両面調整。やや白色風化。両面ともやや磨滅。
982		"	37.70	(23.35)	6.70	5.4	"	下縁に粗い片面調整を施す。
983		"	35.00	(22.80)	5.80	5.3	"	上縁と側縁に片面調整を施す。
984		"	(32.70)	34.60	9.50	11.1	"	両端部を欠失。上縁は片面調整、刃部は両面調整を施す。
985		"	50.50	35.15	10.45	14.4	"	刃部の一部が残存。刃部に丁寧な両面調整を施す。
986		"	39.90	36.45	8.25	16.7	"	全周に調整を施し、左図の左側縁に鈍い刃部状縁辺をつくり出す。
987		"	(45.70)	43.45	9.85	15.9	"	下縁のみ残存する。下縁に粗い両面調整を施す。
988		"	(34.60)	38.40	7.10	11.7	"	左図の右半部を欠失。上縁、下縁とも両面調整を施す。
989		"	(57.10)	34.30	12.85	30.5	"	一方の端部を欠失。上縁部はやや丁寧な両面調整が施される。下縁部は、粗い両面調整が施され、一部に敲打がみられる。左図下縁の一部に、自然面を残す。
990	柱状片刃石斧	結晶片岩	(94.20)	(35.10)	(14.00)	71.4	"	刃部先端と頭部、及び体部の片面を欠失。刃部(上縁)と下縁に敲打痕が認められる。
991	磨製石斧	"	(65.00)	(19.00)	(14.35)	31.1	"	表面と側面の一部を残す。表面に磨かれた痕がみられる。
992	磨石	砂岩	116.75	67.45	28.30	350	"	扁平な河原石の両側縁を挟る。両面の中央部に敲打痕をもち、右図の上部、左図の上下に磨かれた部分をもつ。
993	大型蛤刃石斧	結晶片岩	(150.50)	81.80	(46.20)	1,000	"	刃部と頭部、及び体部表面の一部を欠失。表面に擦痕が多く残る。
994	有孔石製品	流紋岩	(60.20)	45.65	11.10	31.9	"	一方の端部を欠失。右図の表面に擦痕あり。直径5.5mmから3.5mmの片面穿孔が認められる。
995	石皿	讃岐岩質 安山岩	133.00	(81.00)	(77.50)	1,500	"	下半部を欠失。片面が磨かれ表面に擦痕が多く見られる。
996	磨石	砂岩	82.85	85.45	22.10	280	"	完形。両面共に中央部に敲打痕あり。その周辺に擦痕がある。扁平な河原石を使用。
997	凹み石	"	185.00	190.00	59.00	3,250	"	側縁の一部を欠失。表面中央部下方にわずかに敲打痕あり。
998		"	(84.20)	107.10	(65.00)	545	"	片面と左右両端部を欠失。表面中央部に凹部があるが、人為的なものかどうかは断定できない。
999	石皿	"				1,600	"	両面と下縁を欠失。左図表面全域と右図左下表面の一部に磨かれた部分を残す。
1000		"	(72.40)	(92.10)	(37.45)	255.0	"	表面と側面の一部を残す。表面が磨かれている。

第122表 石器観察表(50)

実測図 番号	器 種	石 質	法 量 (mm)			重量(g)	出 土 位 置	観 察
			長 さ	幅	厚 さ			
1001		砂 岩	(142.00)	(136.00)	(84.00)	185.0	表採	表面と側面の一部を残す。表面が磨かれているほか、部分的に敲打が加えられている。
1002	石皿	〃	(150.5)	158.0	41.0	1.750	〃	下半部を欠失。左図の下部に敲打痕をもち、上部に磨かれた痕がある。右図表面広範囲にわたり、磨かれた痕があり、中央部は特に顕著。扁平な河原石を使用。
1003	〃	〃	(147.00)	133.00	42.00	1.050	〃	下半部を欠失。表面に磨かれた痕がある。扁平な河原石を使用。

第123表 石器観察表(51)

* 備 考 重量の精度は以下の通りである。

100gまで	0.1g単位
300gまで	1g単位
1,000gまで	5g単位
1,000g以上	50g単位

2. 奈良時代以降の遺物

(1) 土師器

土師器の椀・杯・皿・小皿については観察表で残存度、口径、器高指数を記した。口径を示す数字のうち、() がつくものは底部径を表している。備考の欄には各土器について色調、胎土、焼成をこの順番で記述した。土師器のそれ以外の器種については器高指数は省いた。また口径を示す数字で () がつくものは残存度が低いために推定口径が正確でないことを示すものである。その他の欄については土師器の椀などと同様の記述である。

①椀

体部と底部の境界に貼り付けの高台をもつ。外側に向かって踏ん張るものが多く、断面の形状は三角形のもの、台形のもの、長方形のものに区別される。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収めている。

色調は淡い黄色系のもので淡い橙色系のもが多い。1130・1131は白灰色を呈し、他と異なる。調整はヨコナデ、ナデにより仕上げられているものが多いが、1137の器壁内面には不定方向のハケ目が全面に遺存する。

②杯

杯については、奈良時代と思われるものから中世後半のものまで時期差がある。また土器の大きさも大小の差が大きい。

体部の形態はほとんどが、底部との屈曲部からほぼ45°の方向で外反しながら立ち上がる。体部と底部の屈曲部は角張るものと彎曲するものがある。底部に高台をもつものはないが、底部を高台状に造り出している例(1159・1166・1168・1181)が認められる。

色調は黄色系、橙色系、茶色系のいずれかに分かれる。胎土は1mm以下の微砂粒を含むものが多いが全体としては精緻なものが多い。焼成もほとんどのものが良好である。

調整についてはナデ・ヨコナデにより仕上げられている例が多い。中世の時期の杯だと思われるものについては、底部はへら切りのものが多い。そのうち、板目状圧痕が認められるものもある。底部が糸切りのもの(1145・1150・1175・1187・1189)は少ない。

1191・1192については色調がともに淡灰黒色を呈し器壁が他と比較して厚く造られている。これらは、焼成不良の須恵器の可能性もある。

③皿

小皿や比較的小さい杯との区別は必ずしも明確とはいえない。口径が広く、器高の低いものを皿とした。

体部は、外反するものが多い。色調は黄色系と橙色系に2分される。底部は糸切りのもの(1203)は少なくへら切りのものが多い。

④小皿

小皿については5つの器形に分類することができる。(1)比較的深いもので体部が内彎するもの、(2)比較的深いもので体部が外反するもの、(3)比較的深いもので体部が外彎するもの、(4)比較的浅いもので体部が外反するもの、(5)比較的浅いもので体部と底部の区別が不明瞭なもの、以上の5つである。このうち(1)に大きいものが多く(4)、(5)に小さいものが多い。

胎土については0.3mm程度の微砂粒を多く含むものがみられる。これは椀、杯、皿にもみられたものであるが、おそらく黒雲母であると思われる。色調は、やはり黄色系、橙色系のものに2分されるが、白色がかった橙色を呈するものが最も多い。

底部は杯、皿と同様にヘラ切りのものが多い。ヘラ切りのもののほとんどはヘラ切りの後にナデ調整を施している。そのうち板ナデを施しているものも多く、底部に板目状圧痕をとどめるものがある。それ以外に静止糸切り、回転糸切りの例もみられる。

⑤甕

色調が褐色系の甕である。口縁部は体部との屈曲部から斜め上方向に外反する。底部まで遺存するものがなかったために全体の器形については不明とせざるをえない。体部上半は1267がやや肩が張る器形を呈するが、それ以外は、垂直方向でまっすぐに立っている。口縁部内外面にはヨコナデが施されている。1267の体部外面にはハケ目が認められるが、他は指頭圧痕が遺存するものが多く指ナデにより仕上げられていると思われる。胎土は1～5mm程度の砂粒が多く含まれ粗いものがほとんどである。9～10世紀頃の時期が比定される。

⑥土釜、土釜(脚)

土釜には、形態でいくつかに分類されるが、調整についてはいずれもほぼ同様で一般化できる。

口縁部内外面にヨコナデが施されている。体部外面の鐙より下半には、指頭圧痕が広く残り、ナデ、指ナデが施されている。体部内面には横方向のハケ目が遺存するものが多い。また体部外面には多くのものは煤が付着している。1279の体部外面にはハケ目が認められやや特異な例といえる。

全体の器形については、体部から底部まで遺存するものがないために、不明な部分が多い。1270などの比較的残りのよい例を見る限り半球状を呈するものが多い。体部上半から口縁部にかけての形態はいくつかに分類される。体部上半については、(1)直立するもの、(2)外反するもの、(3)内彎するもの、(4)内反するものに分けられる。このうち(2)は少なく(3)が最もよくみられる。口縁部も体部上半と同じく(1)～(4)の形態に分かれる。体部上半と口縁部の関係は(3)、(4)については(3)－(3)、(4)－(4)という組み合わせが成り立つ。体部上半が(1)の口縁部は、(1)、(2)、(4)の3種類の例がある。また体部上半が(2)については(1)、(2)の口縁部の形態になる。

鐙の位置は口縁端部から最も離れているもの(1268)でも、口縁端部より約2.5cmで、それ以外はほとんどが2cm以内に収まる。横方向に幅の広い鐙を持つ例(1268・1269・1270・1279・133

3)は極めて少なく、多くは断面が三角形の突帯状を呈するものである。長い鏝を持つものは口縁端部に平坦面が造り出されているもの(1270・1269・1279・1333)か、口縁部の形態が(2)のもの(1268・1269)に限られ形態上でやや違った特色を持つ。

したがって矢ノ塚遺跡で一般的な土釜の形態は、体部上半から口縁部にかけて内反あるいは、内彎するもので、口縁端部から近い位置に三角形の背の低い突帯のような鏝をもつものといえる。これらの形態と色調・胎土の間には深い関係は認められない。

土釜の脚については、ヘラ状の工具で面を削った後にナデにより調整を施しているものが一般的である。まれにハケ目が認められるものもある。体部との接着部分をみると体部内面に指頭圧痕が多く遺存することにより接着する際には内面から押さえつけた様子がうかがえる。色調・胎土・焼成については、体部などとほぼ同様である。

⑦土鍋

土鍋に分類したものは、形態上の特色で3つに分けることができる。(1)体部上半が外反し口径が40cm前後の大きいもの。(2)体部上半が直立し口径が33cm前後のもの。(3)体部上半が外反し比較的小さいもの。以上の3つである。(1)、(2)については調整上の特徴にも違いがみられる。(1)は口縁部内外面にヨコナデが施され、体部内面には横方向のハケ目が遺存する。体部外面は煤が付着しているために調整はよみとりにくいが、指ナデにより仕上げられていると思われる。(2)は口縁部内外面、体部内面については(1)と同様であるが、体部外面に縦方向のハケ目が遺存することで(1)と違いが認められる。

1343の例にみられるように(1)は口径の割には背の低い器形になると思われる。(2)は体部上半の形態よりかなり深い胴部を持つ器形になると思われる。また(1)は口縁端部を丸く収めているものが多いのに対して(2)は口縁端部をわずかに上方に拡張させ直立する端面を造り出しているものが多い。(3)については(1)とほぼ同様のもので比較的小型のものといえるが、1351は器形が他と異なる。

⑧鉢、播鉢

体部がやや内彎気味に立ち上がる播鉢である。1355の体部内面には条溝が認められないことにより鉢である。調整については体部内面にはナデが施されその上から条溝が施されているものが多い。それ以外に横方向のハケ目が施されその上から条溝が施されたもの(1353・1357)もある。体部外面にはほぼ全面に指頭圧痕が残る。1354には、わずかにハケ目が認められる。口縁端部の形態は肥厚しているものといないもの、平坦面を造り出しているものと丸く収めているものの区別がある。

⑨甕、その他

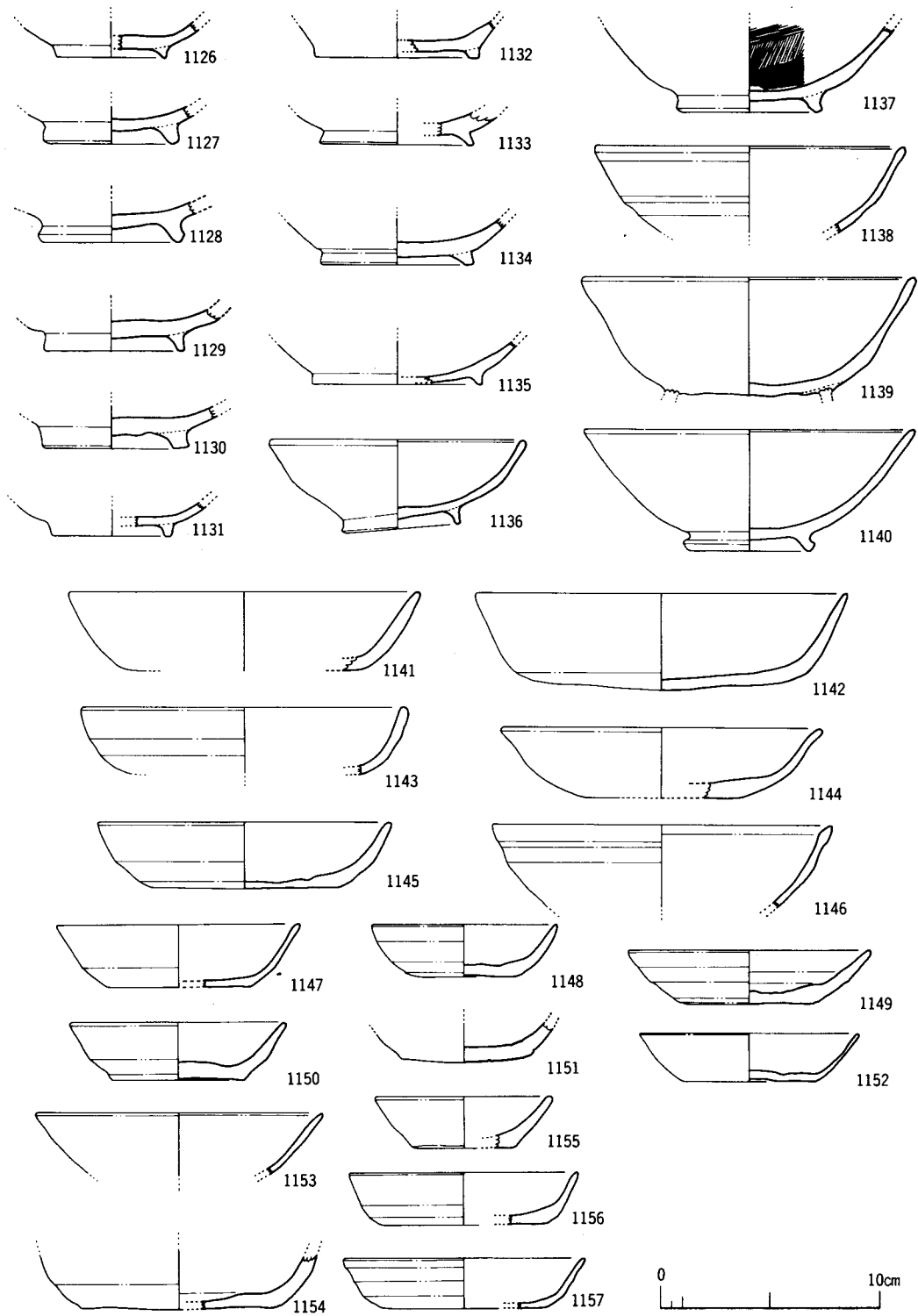
1361～1363は甕であると思われる。口縁部だけが遺存するために全体の器形は不明とせざるをえない。1362・1363は口縁端部を外側に肥厚させ丸く収めている。

1364は盤状を呈する背の低い器形になると思われる。口縁部内外面にはヨコナデが施され、体部と口縁部の屈曲部外面には指頭圧痕が遺存する。器壁外面には全面に煤が付着する。

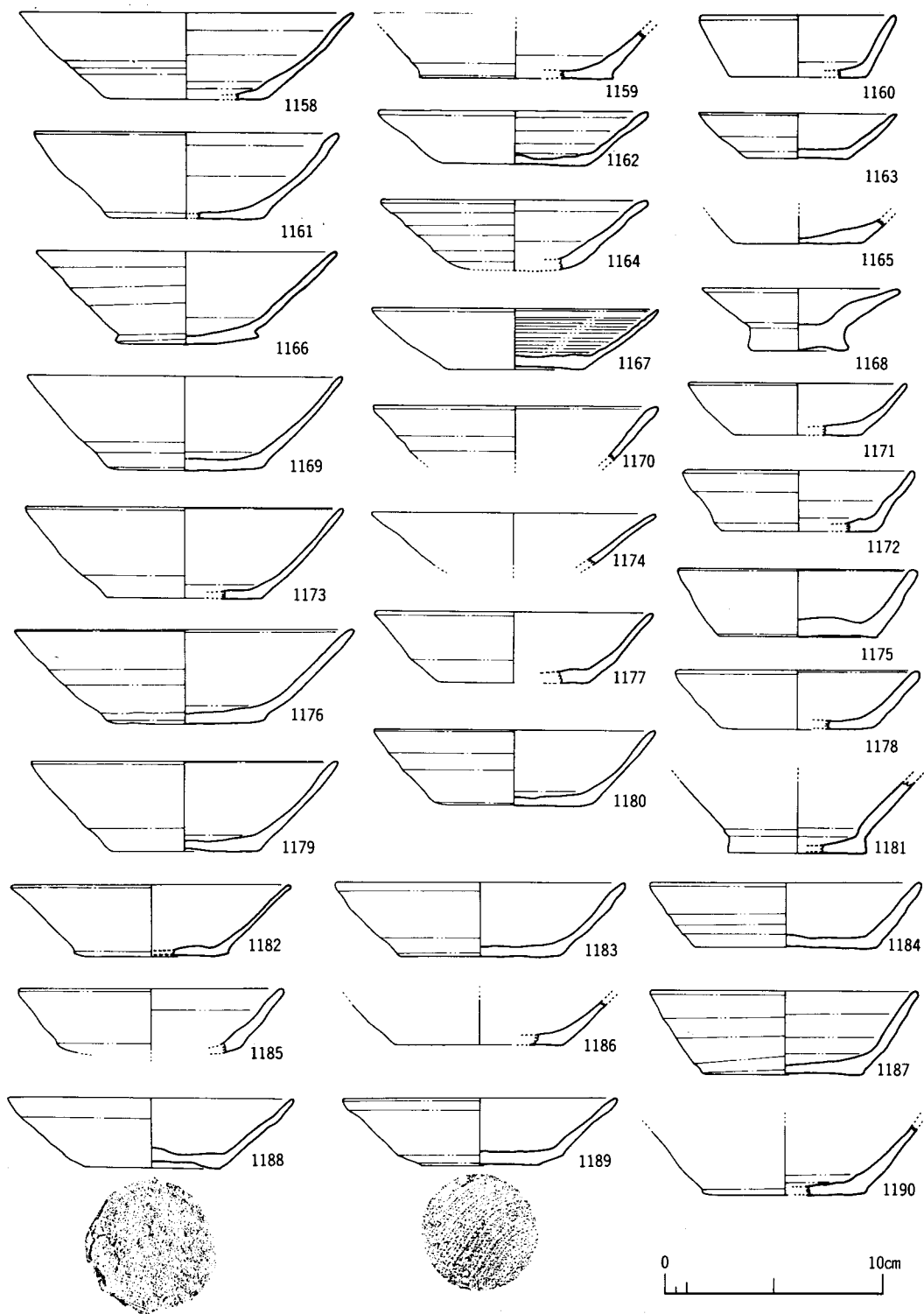
1365・1373は壺であると思われる。ともに体部外面には縦方向の内面には横方向のハケ目が認められる。

1366・1374は器種不明であるが同様の形態をもつ。器壁内面には内側に突出する突帯状のものが造り出されている。1366はその突帯より下半部には煤の付着が認められるが、1374はヨコナデにより丁寧に調整されている。

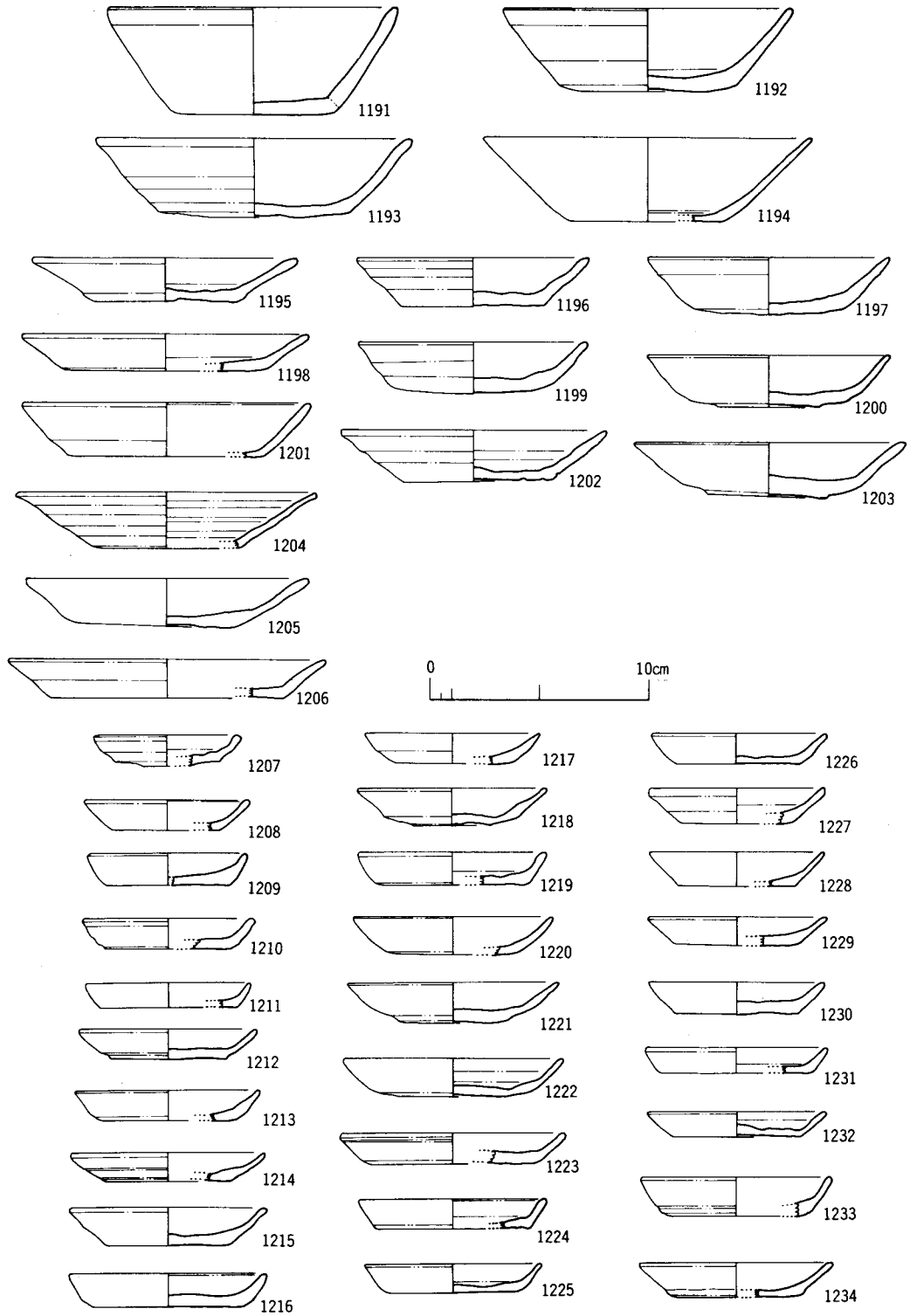
1367～1372は土錘である。1367～1369、1371は長さ約6cmの円柱状を呈する土錘である。上下ともに円孔が穿たれている。1370・1372は有孔管状土錘である。1370は幅0.9cm、1372は幅4.0cmを計る。1372を除くと器壁外面はナデが施され、丁寧に仕上げられている。



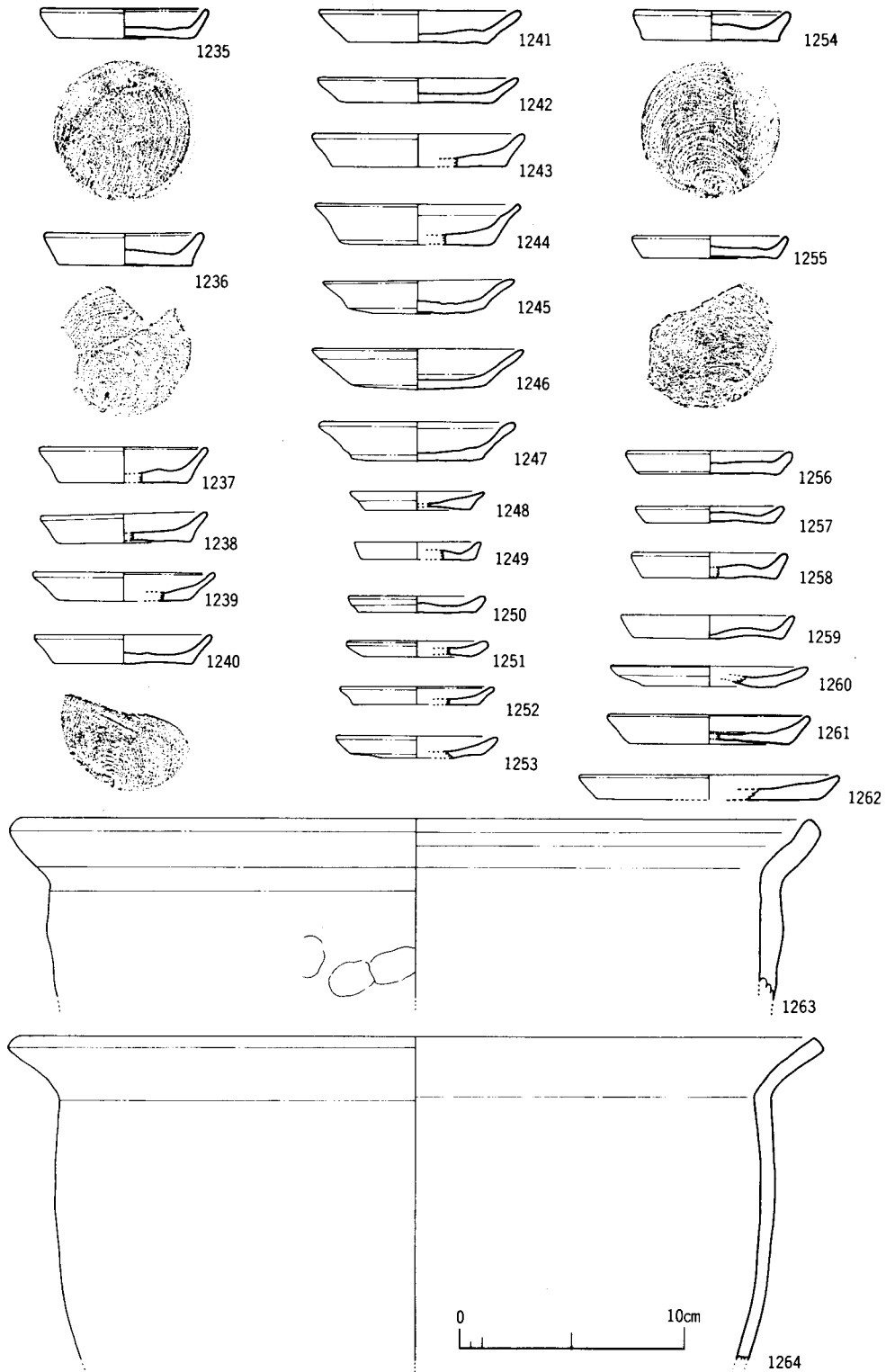
第272図 土師器 碗・杯実測図



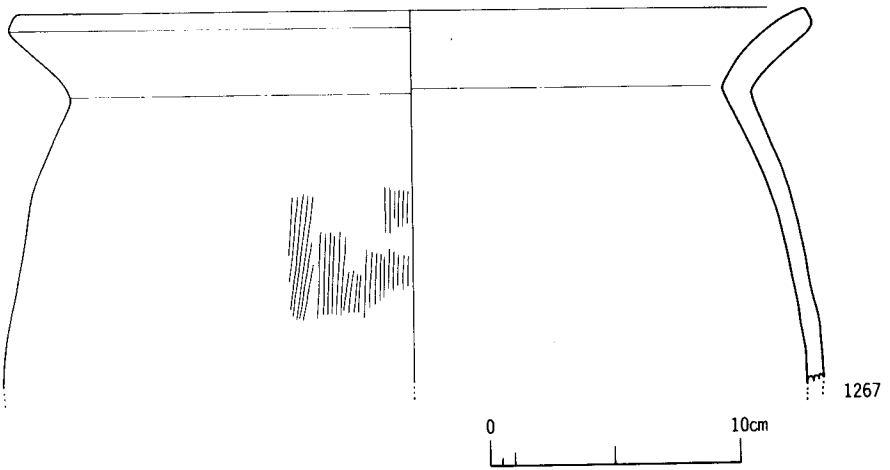
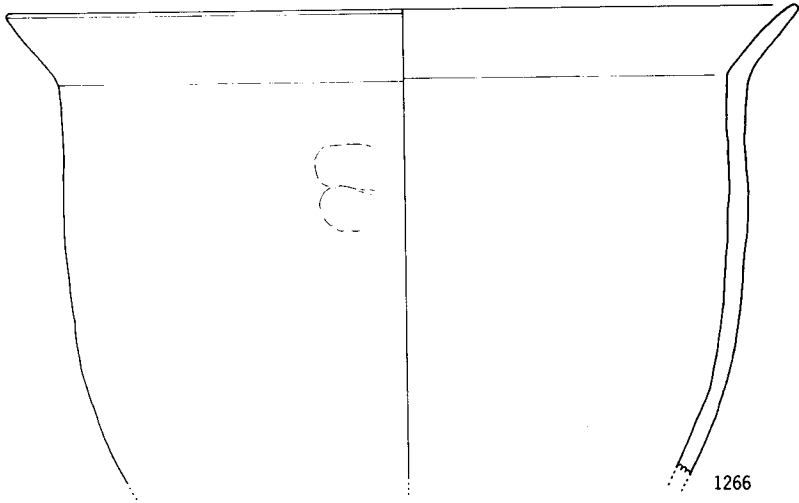
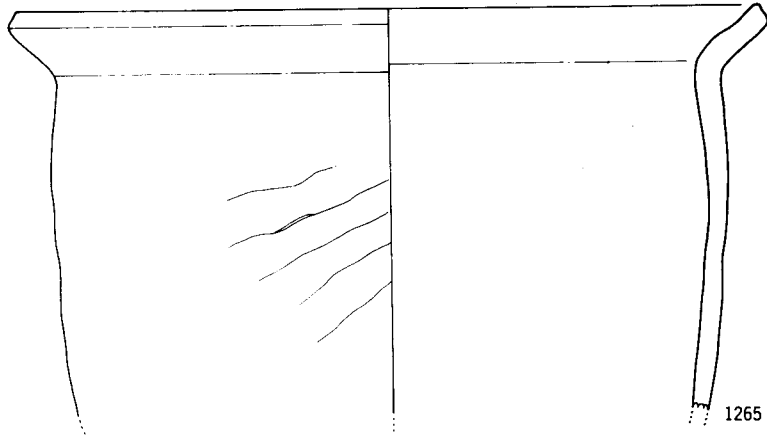
第273図 土師器 杯実測図



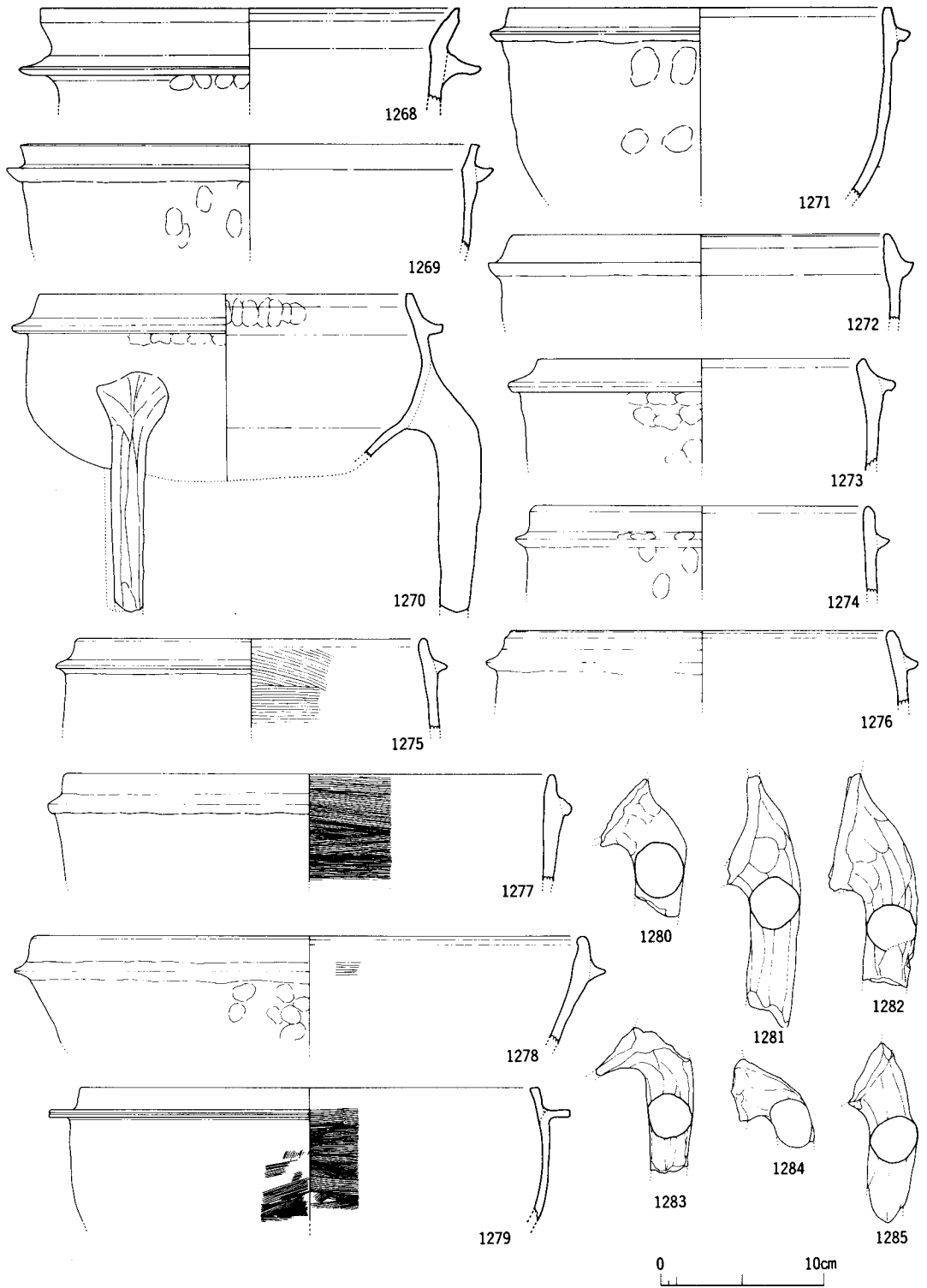
第274图 土師器 杯・皿実測図



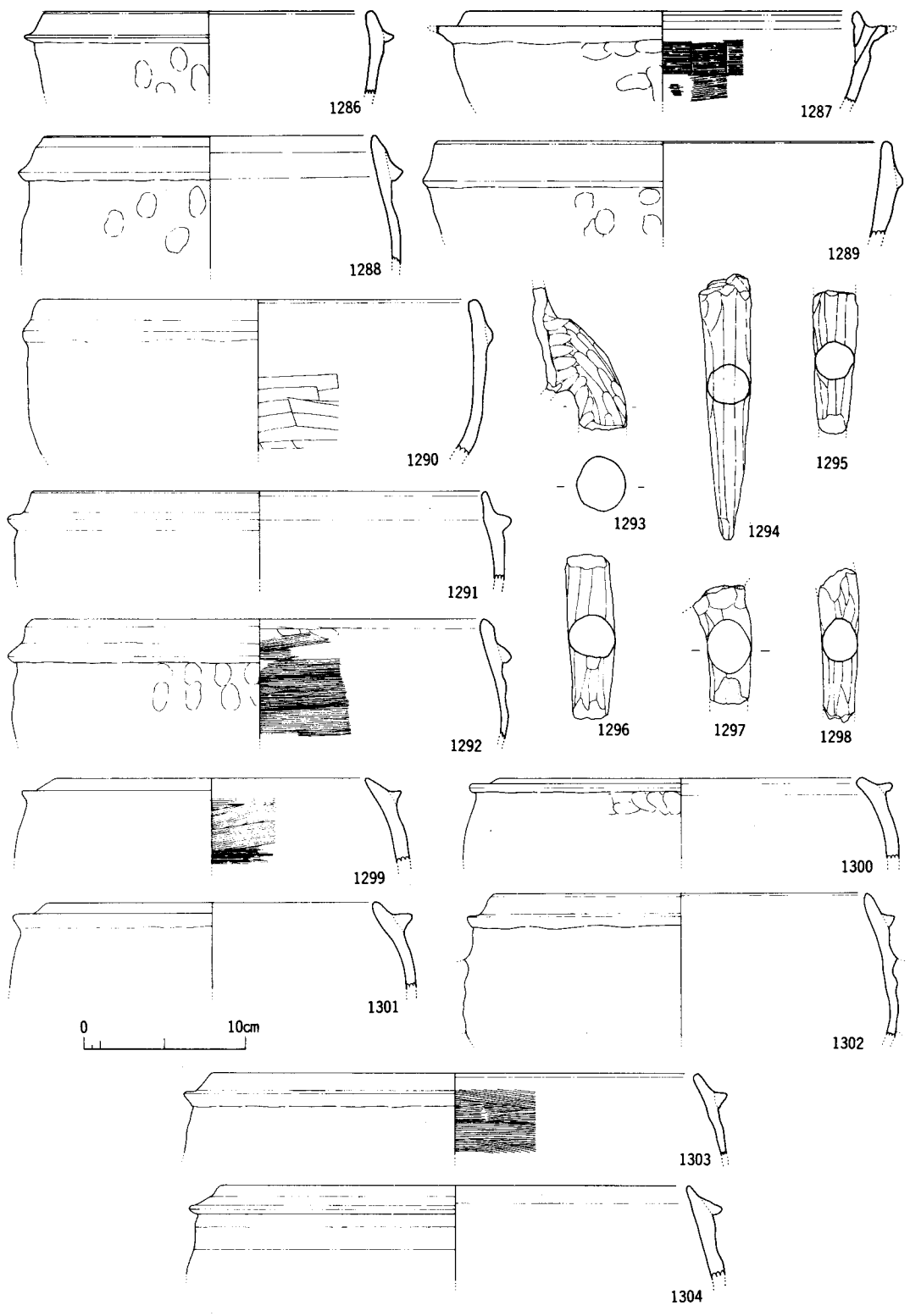
第275図 土師器 小皿・壺実測図



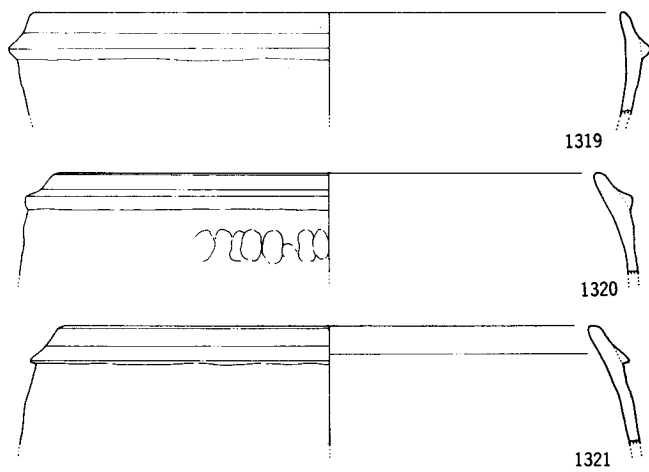
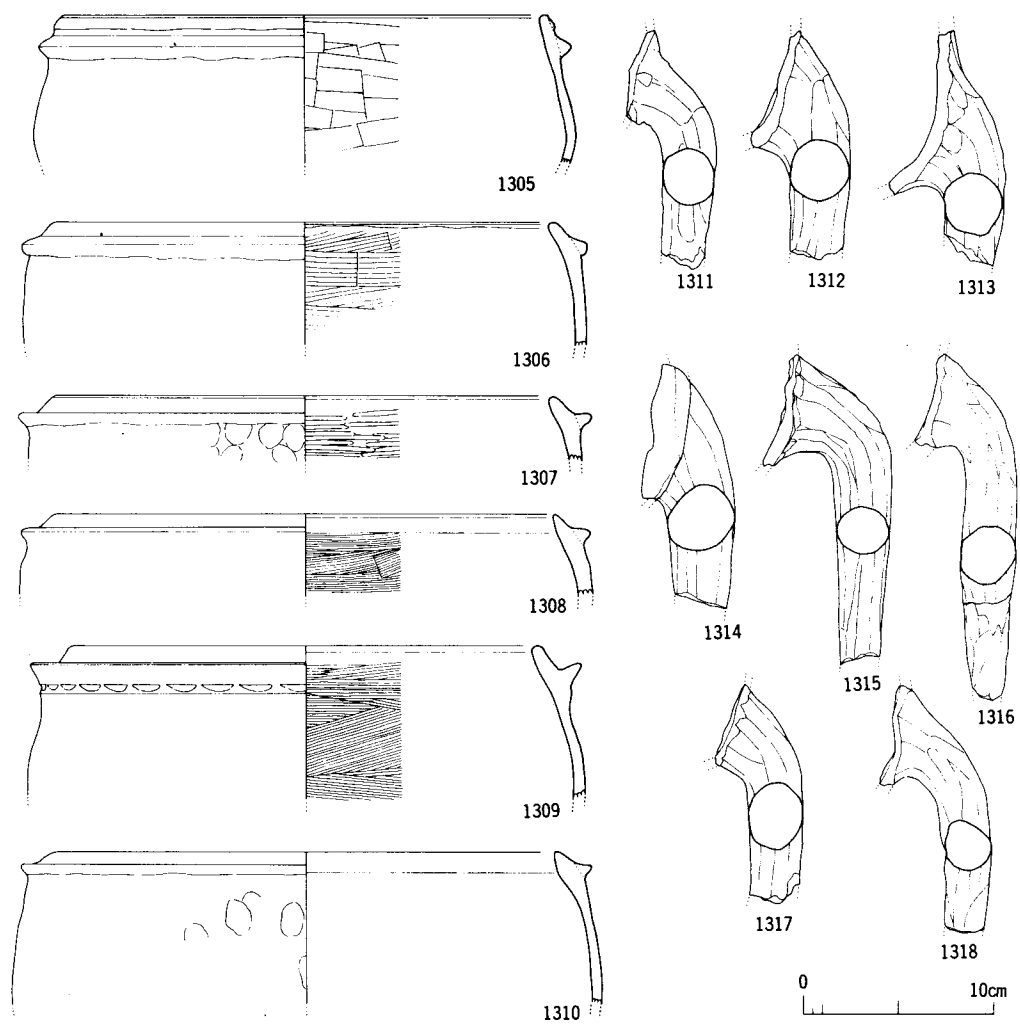
第276図 土師器 甕実測図



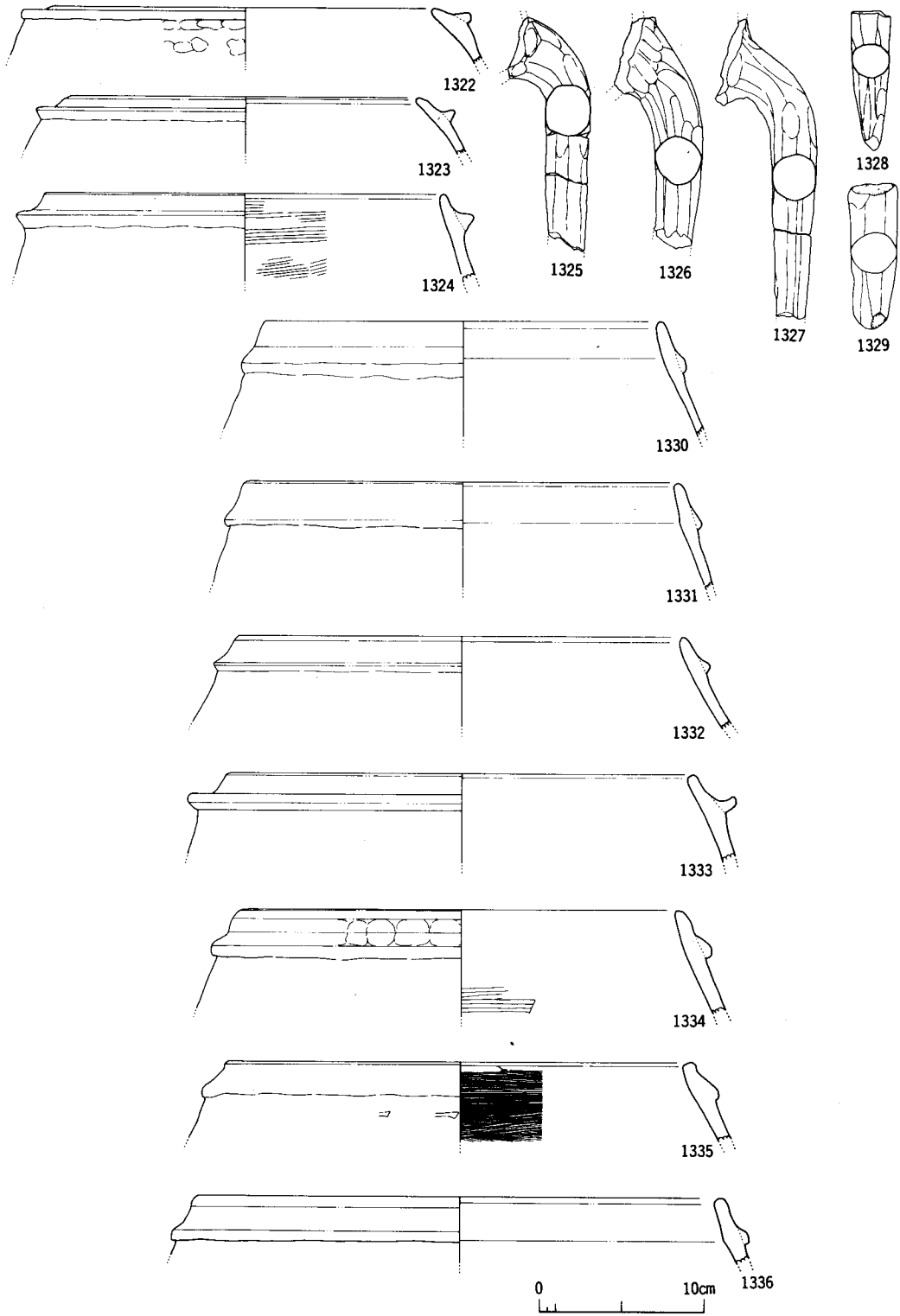
第277図 土師器 土釜・脚実測図



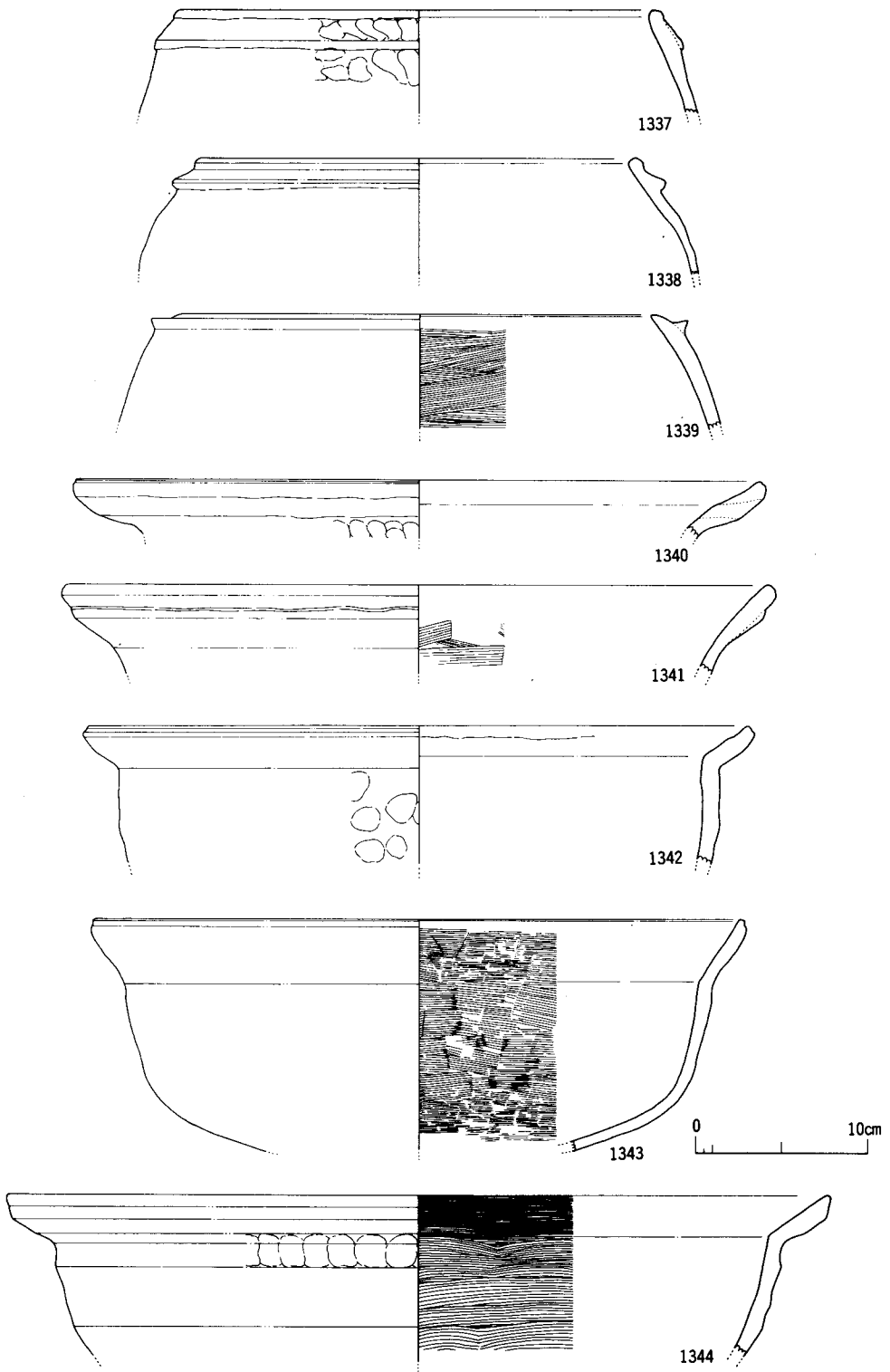
第278図 土師器 土釜・脚実測図



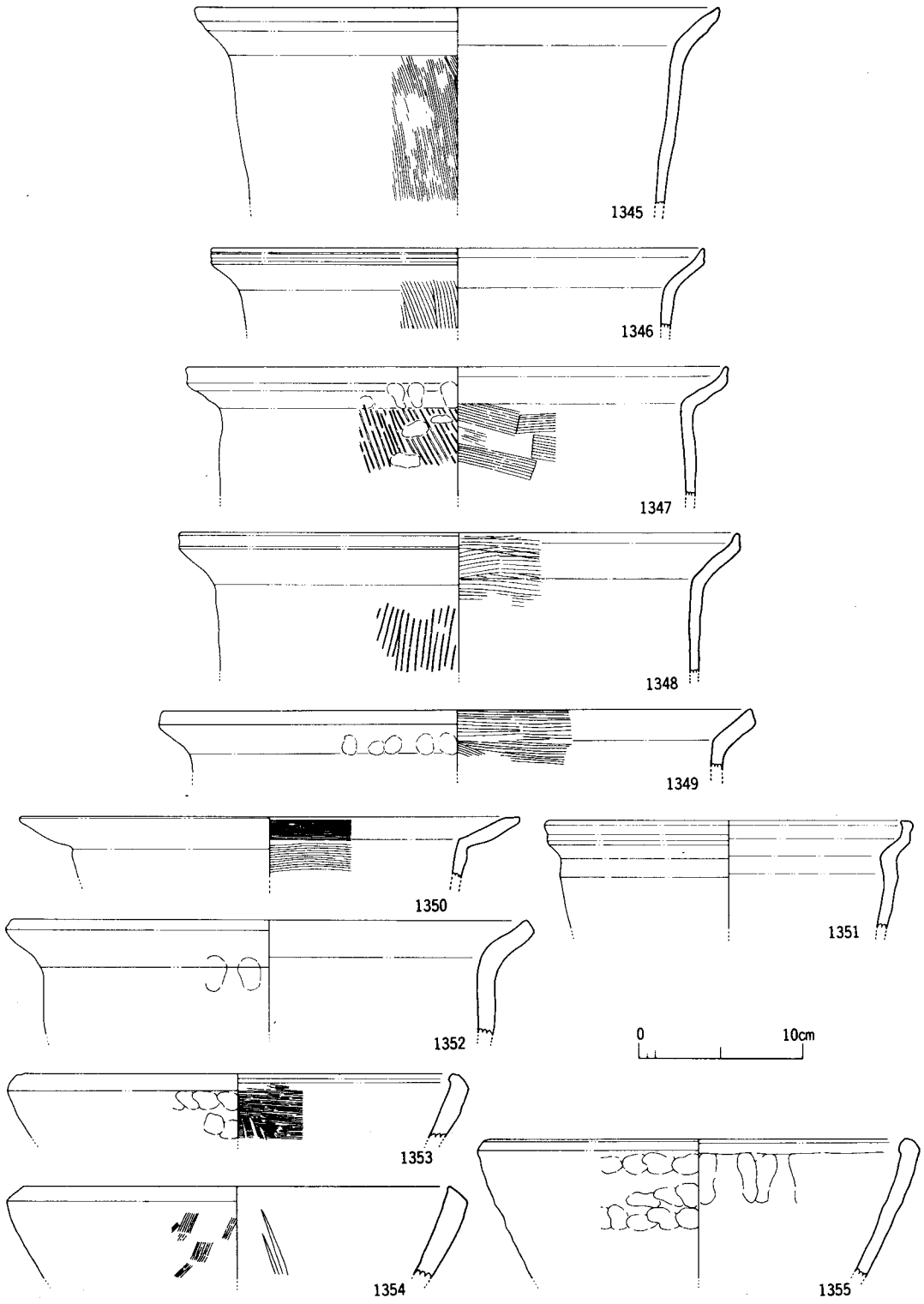
第279图 土器師 土釜・脚実測図



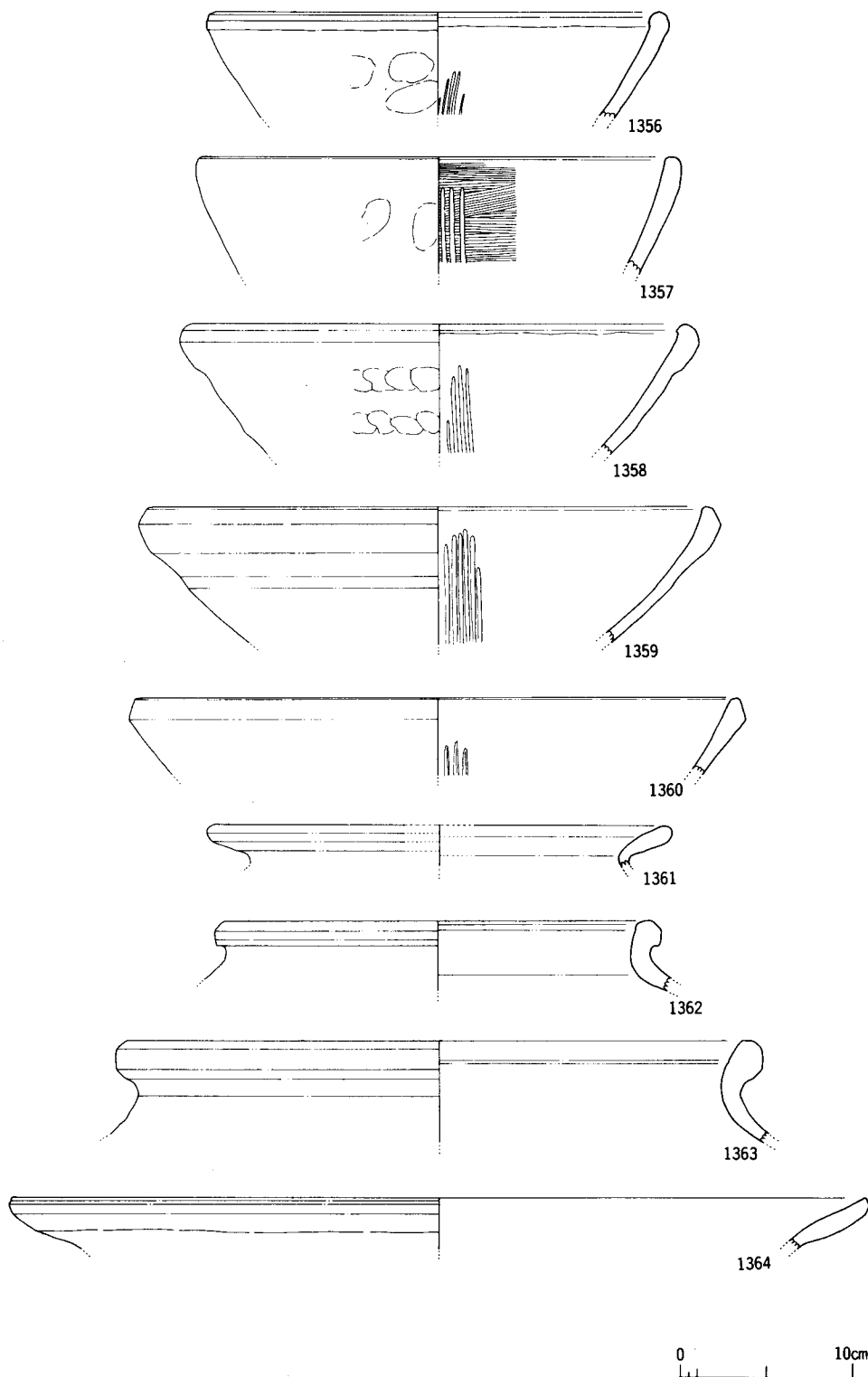
第280図 土師器 土釜・脚実測図



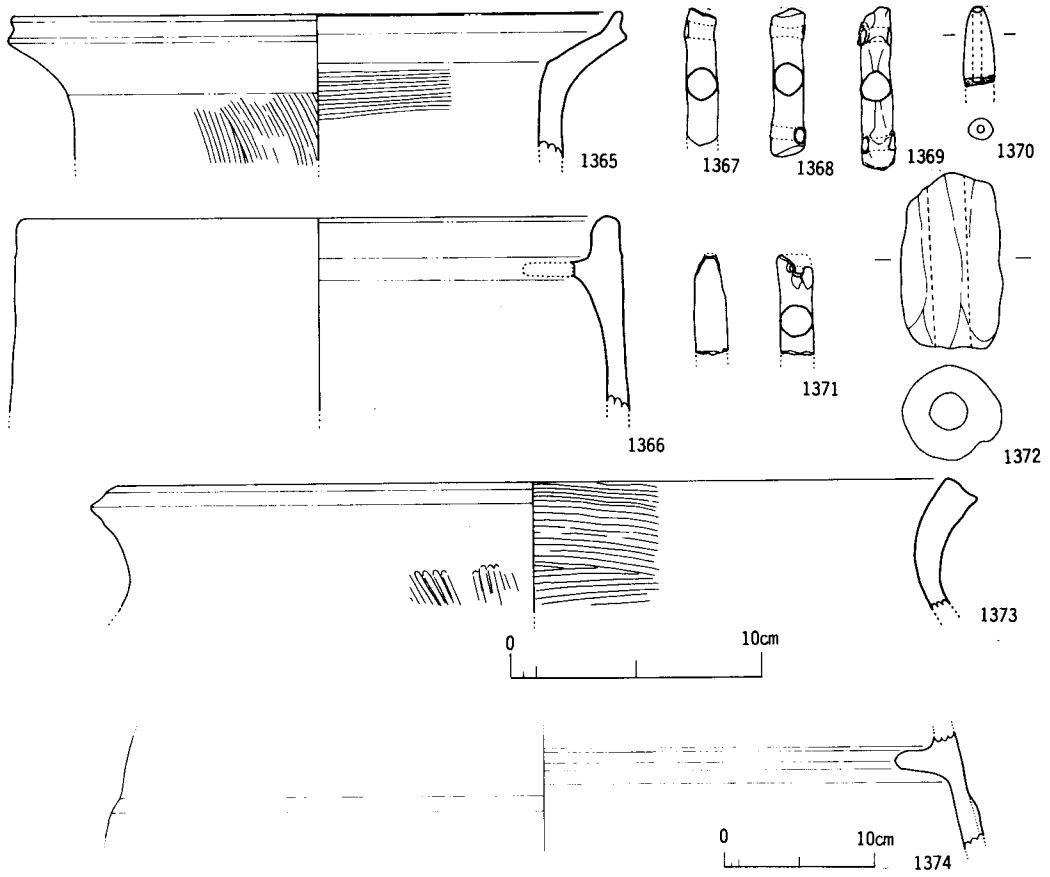
第281図 土師器 土釜・土鍋実測図



第282図 土師器 土鍋・鉢実測図



第283図 土師器 鉢・甕・その他実測図



第284図 土師器 土鍾・その他実測図

(土師器 椀, 杯)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1126	S D85006	Z-8	1/4	(5.0)	-	-	淡黄色, 精緻, 良好
1127	S D85004	Z・A-8	1/4	(6.2)	-	-	淡黄色, 精緻, 良好
1128	包 含 層	E-4	1/4	(6.6)	-	-	淡い橙色, 精緻, 良好
1129	包 含 層	E-3	8/8	(6.6)	-	-	淡黄色, 精緻, 良好
1130	S D85008	Z-8	3/4	(7.1)	-	-	白灰色, 1mm程度の微砂粒 堅緻, 良好
1131	S D85006	Z-8	1/4	(5.4)	-	-	白灰色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1132	包 含 層	-	1/2	(7.4)	-	-	橙色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1133	S D85008	Z-8	1/4	(7.0)	-	-	淡黄色, 精緻, 良好
1134	S D85004	Z・A-8	1/2	(7.0)	-	-	淡い橙色, 精緻, 良好
1135	包 含 層	G-5	1/4	(7.6)	-	-	外面 淡黄色, 内面 橙色, 精緻, 良好
1136	S P-32	X-9	完形	11.6	4.3	37.1	淡黒灰色と暗い橙色が混じる, 精緻, 良好
1137	S D85004	Z・A-8	1/2	6.6	-	-	淡黄色, 堅緻, 良好 内面 9条/cmのハケ目
1138	S D85001	Z・A-6・7・8	1/8	14.2	-	-	白黄色, 精緻, 良好
1139	S X85006	E-4	1/4	15.3	-	-	内面 淡黄色, 外面 白黄色, 精緻, 良好
1140	S D85008	Z-8	1/4	15.1	5.6	37.1	白黄灰色, 堅緻, 良好
1141	包 含 層	X-9	1/4	16.0	3.7	23.1	白黄色, 口縁部 黒灰色, 精緻, 良好
1142	包 含 層	X-9	1/4	17.0	4.5	26.5	白味がかった橙色, 精緻, 良好
1143	S D85006	Z-8	1/4	14.9	-	-	淡黄色, 精緻, 良好
1144	包 含 層	Z-6	1/8	14.6	3.2	21.9	淡黄色, 精緻, 良好
1145	S D85052	F-3(E)	1/8	13.4	3.0	22.4	白色がかった橙色, 1mm以下の砂粒, 良好 底部 回転糸切り, 板目状圧痕

第124表 土器観察表(6)

(土師器 杯)

実測 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1146	S D85109	W-9	1/8	15.6	-	-	淡黄色, 精緻, 良好
1147	包 含 層	Z-6	1/8	11.0	2.9	26.4	外面 黄色がかった橙色 内面 淡灰黄色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1148	S D 013	G-5	1/8	8.5	2.4	28.2	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1149	包 含 層	H-5	1/4	11.0	2.5	22.7	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1150	S P - 8	D-4	1/4	9.8	-	-	淡黄色, 1mm以下の微砂粒, 良好 底部 回転 糸切り
1151	包 含 層	X-9	3/4	(6.4)	-	-	黄茶色, 1~2mmの砂粒 粗い, 不良
1152	S P - 30	H-4	1/4	10.1	2.25	22.3	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 精緻, 良好 底部 ヘラ切り 板目状圧痕
1153	包 含 層	I-4	1/8	13.0	-	-	赤茶色, 1mm以下の微砂粒, 普通
1154	S P - 1	F-4(E)	1/4	(9.0)	-	-	外面 黒茶色 内面 黒灰色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1155	S P - 38	H-4	1/8	8.1	2.4	29.6	白黄色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1156	S E 001	G-5	1/4	10.4	2.4	23.1	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1157	S P - 19	H-4	1/8	11.0	2.3	20.9	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1158	包 含 層	F-3(E)	1/4	15.2	4.0	26.3	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1159	包 含 層	I-4	1/8	(8.8)	-	-	茶色, 1mm以下の微砂粒 やや粗い, 普通
1160	S P - 4	G-5	1/4	9.0	2.8	31.1	淡灰色, 精緻, 良好
1161	包 含 層	F-3(E)	1/4	13.8	4.0	29.0	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 やや粗い, 普通
1162	包 含 層	H-5	1/8	12.4	2.5	20.2	淡茶灰色, 精緻, 良好
1163	包 含 層	G-5	1/4	9.0	2.1	23.3	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1164	S E 001	G-5	1/8	12.2	3.3	27.0	淡灰黒色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 普通
1165	S P - 38	H-4	8/8	(6.0)	-	-	淡灰黄色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 普通

第125表 土器観察表(62)

(土師器 杯)

実測 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1166	S P - 6	W - 9	ほぼ 完形	15.7	4.3	27.4	黄色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 普通, 良好
1167	S P - 22	G - 5	1/4	13.0	2.8	21.5	黄色がかった橙色, 精緻, 良好
1168	S P - 7	F - 3 (E)	1/4	9.1	2.9	31.9	淡黄色, 精緻, 良好
1169	包 含 層	F - 3 (E)	1/4	14.4	4.4	30.6	茶色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1170	包 含 層	G - 5	1/8	13.0	-	-	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1171	S P - 11	G - 5	1/8	10.0	2.4	24.0	灰茶色, 精緻, 良好
1172	包 含 層	G - 5	1/8	10.6	2.8	26.4	淡黄色, 精緻, 良好
1173	包 含 層	F - 3 (E)	1/8	14.4	4.2	29.2	黄灰色, 1mm以下の微砂粒, 普通
1174	包 含 層	G - 5	1/8	13.0	-	-	黄色がかった橙色, 精緻, 良好
1175	S P - 8	D - 4	1/4	11.0	-	-	茶灰黒色, 1mm以下の微砂粒 良好 底部 回転糸切り
1176	包 含 層	F - 3 (E)	1/4	15.4	4.4	28.6	白色がかった橙色, 1~2mmの微砂粒 やや粗い, 普通
1177	包 含 層	X - 9	1/8	12.8	3.3	25.8	白黄色, 精緻, 良好
1178	S P - 45	H - 4	1/8	11.2	2.7	24.1	外面 黄茶色 内面 淡灰茶色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1179	包 含 層	F - 3 (E)	1/8	14.0	4.2	30.0	外面 淡黄茶色 内面 淡黒褐色, 1mm以下の微砂粒, 普通
1180	包 含 層	F - 3 (E)	1/8	12.8	3.5	27.3	淡黄茶色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1181	包 含 層	X - 9	1/2	(6.4)	-	-	淡茶色, 精緻, 良好
1182	包 含 層	X - 8 (S)	1/2	12.8	3.3	25.8	外面 黄茶色 内面 赤黄茶色, 精緻, 良好
1183	包 含 層	I - 4	1/8	13.2	3.4	25.8	外面 白色がかった橙色 内面 淡黄茶色, 1mm以下の微砂粒, 普通
1184	包 含 層	H - 4	1/2	12.4	3.1	25.0	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1185	包 含 層	G - 4	1/8	12.0	-	-	赤茶色, 精緻, 良好

第126表 土器観察表(63)

(土師器 杯, 皿)

実測図番	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1186	S D85105	X・Y・-8・9	1/8	(7.8)	-	-	白黄色, 精緻, 良好
1187	S P-12	P-4 (E)	完形	12.3	3.9	31.7	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好 底部 回転糸切り
1188	包 含 層	I-4	1/4	13.0	3.3	25.4	白灰色, 1mm以下の微砂粒 普通, 良好 底部 上げ底, 静止糸切り
1189	包 含 層	H-5	1/8	12.6	3.1	24.6	外面 白色が強い橙色, 内面 白色がかった橙色, 精緻, 良好 底部 静止糸切り
1190	包 含 層	G-4	3/4 (底部)	(7.5)	-	-	暗茶色, 精緻, 良好
1191	S D85104	X-9	1/4	13.2	4.9	37.1	体部 白灰黒色 底部外面 赤茶色, 1mm以下の微砂粒, 良好, 須恵器か
1192	S D85104	X-9	1/4	13.2	3.8	28.8	白灰黒色, 1mm以下の砂粒, 堅緻, 良好, 須恵器か
1193	S D85006	Z-8	1/8	14.4	3.7	25.7	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1194	包 含 層	F-3 (E)	1/8	15.0	3.9	26.0	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 普通
1195	S E 001	G-5	1/8	12.1	2.0	16.5	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1196	S D85103	X-8 (N)	1/2	10.6	2.3	21.7	橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好 底部 ヘラ切り
1197	包 含 層	G-4	1/8	11.2	2.6	23.2	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1198	包 含 層	H-5	1/8	13.0	1.7	13.1	白色が強い橙色, 1mm以下の微砂粒, 精緻, 良好
1199	S D85103	X-8 (N)	3/4	10.4	2.4	23.1	暗黄茶色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1200	包 含 層	X-8 (S)	1/8	11.2	2.4	21.4	淡黄色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 普通
1201	包 含 層	G-5	1/4	13.2	2.5	18.9	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1202	S P-15	G-5	1/2	12.1	2.4	19.8	橙色, 精緻, 良好 底部 回転ヘラ切り
1203	S E 001	G-5	3/4	12.5	2.6	20.8	白黄色, 精緻, 良好 底部 静止糸切り
1204	S P-43	F-6	1/8	13.8	2.6	18.8	黄白色, 精緻, 良好
1205	S E 001	G-5	3/4	12.9	2.3	17.8	赤色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好 底部 回転ヘラ切り

第127表 土器観察表(64)

(土師器 皿, 小皿)

実測 番 号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1206	包 含 層	H-5	1/4	14.4	1.8	12.5	白黄色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1207	包 含 層	G-5	1/4	6.7	1.5	22.4	橙色, 精緻, 良好
1208	S D 013	G-5	1/8	7.6	1.4	18.4	白黄赤色, 精緻, 良好
1209	包 含 層	X-9	1/4	7.4	1.5	20.3	黄白色, 精緻, 良好 底部 回転糸切り
1210	包 含 層	H-4	1/4	7.9	1.4	17.7	黄白色, 精緻, 良好
1211	S P - 40	X-9	1/4	7.4	1.1	14.9	暗茶色, 精緻, 良好
1212	包 含 層	G-6~ H-6	1/4	8.1	1.4	17.3	淡黄色, 精緻, 良好
1213	包 含 層	H-5	1/8	8.4	1.4	16.7	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 精緻, 良好
1214	包 含 層	H-5	1/8	8.8	1.3	14.8	白色が強い橙色, 1mm以下の微砂粒, 精緻, 良好
1215	包 含 層	H-3	1/8	9.0	1.8	20.0	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 精緻, 良好
1216	包 含 層	F-3(E)	1/4	9.0	1.5	16.7	淡黄色, 精緻, 良好
1217	包 含 層	I-4	1/8	8.0	1.4	17.5	黄白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1218	S E 001	G-5	1/2	8.6	1.7	19.8	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1219	S P - 10	F-3(E)	1/2	8.6	1.5	17.4	白黄色, 精緻, 良好
1220	包 含 層	G-5	1/4	9.0	1.8	20.0	黄白色, 1mm以下の微砂粒, 精緻, 良好
1221	包 含 層	G-5	1/8	9.2	1.9	20.7	橙色, 1mm以下の微砂粒, 精緻, 良好
1222	S D85008	Z-8	1/8	10.1	-	-	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1223	S P - 71	H-4	1/8	10.4	1.4	13.5	橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1224	包 含 層	X-9	1/8	8.6	1.4	1.3	白黄色, 精緻, 良好
1225	包 含 層	H-4	1/4	8.2	1.3	15.9	橙色, 精緻, 良好

第128表 土器観察表(65)

(土師器 小皿)

実測 器番 号	遺構 番号	グリッド	残存 度	口 径	器 高	器高 指数	備 考
1226	包 含 層	H-3	ほぼ 完形	8.0	1.4	17.5	橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好 底部 ヘラ切り
1227	包 含 層	G-5	1/4	8.0	1.6	20.0	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1228	包 含 層	I-4	1/8	8.0	1.6	20.0	白黄色, 堅緻, 良好
1229	包 含 層	G-5	1/8	8.2	1.3	15.9	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1230	包 含 層	G-6	1/4	8.0	1.5	18.8	淡黄色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1231	包 含 層	F-5	1/8	8.4	1.2	14.3	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1232	包 含 層	H-5	1/4	8.2	1.2	14.6	橙色, 精緻, 良好 底部 ヘラ切り
1233	包 含 層	G-5	1/8	8.6	1.8	20.9	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1234	包 含 層	F-5	1/8	8.8	1.6	18.2	淡黄色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1235	包 含 層	X-9	1/4	7.4	1.3	17.6	淡黄色がかった橙色, 精緻, 良好 底部 回転糸切り
1236	S P - 34	X-9	1/2	7.0	1.5	21.4	白色がかった橙色, 精緻, 普通 底部 回転糸切り
1237	S P - ?	F-3(E)	1/4	7.4	1.6	21.6	白色がかった橙色, 精緻, 普通
1238	SP- 21~30	F-5	1/2	7.4	1.3	17.6	白黄色, 1mm以下の微砂粒, 普通
1239	S P - 6	G-5	1/8	8.1	1.3	16.0	白色がかった橙色, 精緻, 良好
1240	包 含 層	X-9	1/4	6.2	1.3	21.0	淡黄色, 精緻, 良好 底部 回転糸切り
1241	S X 85006	E-4	1/2	9.1	1.4	15.4	淡黄色, 1mm以下の微砂粒, 良好
1242	S D 85104	X-9	1/4	9.0	1.1	12.2	淡赤茶色, 精緻, 良好
1243	S P - 40	X-9	1/8	9.4	1.5	6.0	灰色がかった橙色, 精緻, 良好
1244	包 含 層	G-5	1/4	9.2	1.8	19.6	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1245	S E 001	G-5	8/8	8.5	1.7	20.0	淡黄色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好 ヘラ切り

第129表 土器観察表(66)

(土師器 小皿)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1246	包含層	G-4	1/8	9.4	1.8	19.1	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1247	包含層	I-4	1/8	8.6	1.8	20.9	淡黒灰色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好 底部 ヘラ切り, 板目状圧痕
1248	包含層	H-4	1/8	6.0	0.8	13.3	黄茶色, 1mm以下の微砂粒 粗い, 不良
1249	包含層	I-4	1/8	5.6 5.2	0.8 1.0	14.3 19.2	灰黄茶色, 精緻, 良好
1250	包含層	I-4	1/2	6.0	0.7	11.7	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1251	包含層	F-5	1/4	4.3	0.7	16.3	茶色がかった橙色, 精緻, 良好
1252	包含層	I-4	1/4	6.8	0.8	11.8	黄色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 普通
1253	包含層	F-5	1/4	7.2	1.0	13.9	白色がかった橙色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1254	包含層	X-9	1/2	7.0	1.3	18.6	灰色がかった橙色, 精緻, 良好 底部 回転糸切り
1255	包含層	X-9	1/2	6.8	1.0	14.7	白色がかった橙色, 精緻, 良好 底部 回転糸切り
1256	S B85108	Z・A-8	1/2	7.4	1.0	13.5	淡黄色, 精緻, 良好
1257	包含層	I-4	1/4	6.4	0.7	10.9	灰黄色, 1mm以下の微砂粒, 普通
1258	包含層	Z-8	1/4	7.0	1.2	17.1	灰黄色, 精緻, 良好
1259	包含層	Z-8	ほぼ 完形	7.4	1.0	13.5	橙色, 1mm以下の微砂粒, 良好 底部 回転ヘラ切り
1260	包含層	H-5~H-6	1/8	8.8	0.9	10.2	淡黄灰色, 精緻, 良好
1261	包含層	X-9	1/8	9.1	1.3	14.3	淡黄色, 精緻, 良好
1262	包含層	X-8(S)	1/8	11.6	1.1	9.5	白黄色, 精緻, 普通

第130表 土器観察表(67)

(土師器 甕, 土釜)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	備 考
1263	S D85008	Z-8	1/4	36.1	-	黄褐色, 1mm程度の砂粒 粗い, 普通
1264	S D85008	Z-8	1/8	36.4	-	内面 暗黄褐色 外面 黒褐色, 1mm程度の砂粒を含み粗い, 普通
1265	S D85008	Z-8	1/8	30.2	-	内面 暗黄褐色 外面 赤黄褐色, 1~2mmの砂粒 粗い, 普通
1266	S D85008	Z-8	1/8	31.6	-	内面 暗赤褐色 外面 黒赤褐色, 3~5mmの砂粒 粗い, 普通
1267	S D85008	Z-8	1/8	32.0	-	赤褐色, 2~3mmの砂粒 粗い, 普通
1268	包含層	E-3	1/8	(25.6)	-	淡黄褐色, 1~5mmの砂粒 粗い, 普通
1269	包含層	I-4	1/2	28.0	-	赤褐色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1270	S D85007	Z・A-8	ほぼ 完形	22.8	14.8	淡黄褐色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1271	包含層	I-4	1/4	23.4	-	赤褐色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1272	SP-出土 地点不明	-	1/8	22.8	-	淡黄褐色, 1mm以下の微砂粒 普通, 良好
1273	包含層	G-5	1/8	23.6	-	黄褐色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1274	包含層	I-4	1/8	(20.4)	-	赤褐色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1275	包含層	G-5	1/8	21.6	-	赤褐色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1276	包含層	G-5	1/8	23.4	-	赤褐色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1277	包含層	G-5	1/8	30.0	-	茶褐色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 普通
1278	包含層	F-5	1/8	34.2	-	赤褐色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1279	包含層	B-5	1/8	26.0	-	淡黄褐色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1286	包含層	H-4	1/8	20.0	-	黄褐色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1287	包含層	G-5	1/8	24.4	-	淡黄色, 1mm程度の砂粒 普通, 良好
1288	包含層	H-5 ~H-6	1/8	20.4	-	暗赤褐色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 普通

第131表 土器観察表(68)

(土師器 土蓋)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	備 考
1289	包 含 層	H-5	1/8	27.8	-	淡赤黄色, 1~2mmの砂粒 普通, 普通
1290	包 含 層	G-5	1/8	27.0	-	淡赤黄色, 1~2mmの砂粒 普通, 普通
1291	包 含 層	-	1/8	28.0	-	淡黄褐色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1292	包 含 層	G-5	1/8	27.8	-	赤褐色, 2~3mm程度の砂粒 粗い, 不良
1299	包 含 層	G-5	1/8	19.2	-	淡赤黄色, 2~3mm程度の砂粒 普通, 普通
1300	包 含 層	G-6	1/8	22.4	-	淡灰黄色, 1mm以下の砂粒 精緻, 普通
1301	包 含 層	G-5	1/8	24.8	-	淡黄褐色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 不良
1302	包 含 層	I-4	1/8	(23.0)	-	淡褐色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1303	S D 3	G-5	1/8	30.1	-	茶褐色, 1mm程度の砂粒 堅緻, 良好
1304	S D 3	G-5	1/8	28.8	-	暗褐色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1305	包 含 層	I-4	1/8	(25.0)	-	赤褐色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1306	包 含 層	G-5	1/8	26.4	-	淡黄赤色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1307	包 含 層	G-5	1/8	26.0	-	淡黄赤色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 普通
1308	包 含 層	G-5	1/8	29.8	-	淡い橙色, 1mm程度の砂粒 精緻, 良好
1309	S D 015	G-5	1/8	24.9	-	黒褐色, 1mm以下の砂粒 精緻, 良好
1310	包 含 層	G-5	1/4	29.9	-	外面 灰色 内面 黄褐色, 1mm程度の砂粒 普通, 良好
1319	包 含 層	I-4	1/8	(30.8)	-	赤褐色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1320	包 含 層	G-5	1/8	31.8	-	淡赤褐色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 普通
1321	包 含 層	G-5	1/8	29.3	-	暗茶褐色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 普通
1322	包 含 層	H-5	1/8	23.0	-	淡黄色, 1mm以下の砂粒 精緻, 良好

第132表 土器観察表(69)

(土師器 土釜, 土鍋)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	備 考
1323	包 含 層	G-5	1/8	(21.0)	-	赤褐色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1324	包 含 層	I-4	1/8	(24.0)	-	淡褐色, 1mm以下の砂粒 精緻, 良好
1330	S D 016	G-5	1/8	24.2	-	内面 灰黄色 外面 淡黄色, 1mm程度の砂粒 普通, 良好
1331	包 含 層	I-4	1/8	(26.0)	-	淡黄色, 1~2mmの砂粒 普通, 良好
1332	包 含 層	G-5	1/8	(27.0)	-	内面 灰黄色 外面 赤褐色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 普通
1333	包 含 層	G-5	1/8	28.6	-	淡赤黄色, 1~2mm程度の砂粒 普通, 普通
1334	包 含 層	G-5	1/8	26.8	-	淡黄褐色, 2~5mmの砂粒 粗い, 普通
1335	包 含 層	G-4	1/8	(28.2)	-	赤褐色, 1~2mmの砂粒 やや粗い, 普通
1336	包 含 層	G-5	1/8	32.2	-	淡黄色, 1~2mmの砂粒 普通, 普通
1337	包 含 層	G-5	1/8	28.3	-	淡黄色, 1~2mmの砂粒 普通, 普通
1338	S D 3	G-5	1/8	25.4	-	黒茶褐色, 2~5mmの砂粒 粗い, 普通
1339	包 含 層	G-5	1/8	27.4	-	淡黄色, 1mm以下の砂粒 精緻, 良好
1340	包 含 層	I-4	1/8	(40.0)	-	内面 黄褐色 外面 黒灰黄褐色, 1mm程度の砂粒 粗い, 普通
1341	包 含 層	G-5	1/8	41.4	-	内面 淡黄色 外面 黒灰淡黄色, 1mm程度の砂粒 粗い, 普通
1342	S D85004	Z・A-8	1/8	39.0	-	暗灰褐色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1343	S K	G-5	1/4	38.0	-	内面 暗黄褐色 外面 黒暗黄褐色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1344	包 含 層	H-5	1/8	47.6	-	内面 淡黄色 外面 黒灰淡黄色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1345	包 含 層	X-8	1/8	(32.0)	-	黄褐色, 2~3mmの砂粒 粗い, 普通
1346	包 含 層	X-9	1/8	30.2	-	赤褐色, 1~3mmの砂粒 粗い, 普通
1347	包 含 層	X-9	1/8	33.0	-	赤茶色, 1mm程度の砂粒 普通, 良好

第133表 土器観察表(70)

(土師器 土鍋, 鉢, 甕, その他)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	備 考
1348	包 含 層	X-9	1/8	34.4	-	暗褐色, 精緻, 良好
1349	包 含 層	X-9	1/8	36.6	-	黄褐色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1350	包 含 層	Z-8	1/8	(30.6)	-	暗黄茶色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1351	包 含 層	-	1/8	22.6	-	白灰色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1352	S D85004	Z・A-8	1/8	32.4	-	内面 暗黄褐色 外面 黒褐色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1353	包 含 層	I-4	1/8	27.0	-	暗灰黄褐色, 1~2mmの砂粒 普通, 普通 内面に条溝
1354	S P-23	G-5	1/8	28.2	-	内面 淡灰褐色 外面 暗褐色, 1~2mmの砂粒 普通, 普通 内面に条溝
1355	包 含 層	G-5	1/8	27.0	-	暗灰黄褐色, 2~3mmの砂粒 粗い, 普通
1356	S D 016	G-5	1/8	27.0	-	暗黄褐色, 1~2mmの砂粒 粗い, 普通 内面に条溝
1357	包 含 層	H-4	1/8	27.3	-	淡黄色, 3~5mmの砂粒 粗い, 普通 内面に条溝
1358	包 含 層	G-5	1/8	28.7	-	黄褐色, 1~2mmの砂粒 粗い, 普通 内面に条溝
1359	包 含 層	G-5	1/8	31.8	-	淡い橙色, 3~5mmの砂粒 粗い, 普通 内面に条溝
1360	包 含 層	F-5	1/8	35.8	-	黄褐色, 2~3mmの砂粒 粗い, 普通 内面に条溝
1361	S P-3	B-5	1/8	-	-	淡黄色, 1mm以下の砂粒 普通, 良好
1362	包 含 層	G-6	1/8	25.8	-	黄褐色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1363	包 含 層	G-5	1/8	37.6	-	内面 橙色 外面 淡黄褐色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1364	包 含 層	I-4	1/8	(40.0)	-	内面 赤褐色 外面 黒褐色, 1mm以下の砂粒 精緻, 良好
1365	包 含 層	G-4	1/8	24.6	-	内面 黒褐色 外面 暗褐色, 1mm程度の砂粒 粗い, 不良
1366	包 含 層	G-5	1/8	(23.8)	-	暗い橙色, 1~2mmの砂粒 普通, 普通
1373	包 含 層	G-5	1/8	35.4	-	内面 淡黄褐色 外面 黒褐色, 1mm以下の砂粒 普通, 良好

第134表 土器観察表(1)

(土師器 その他)

実測図番	遺構番号	グリッド	残存度	口径	器高	備考
1374	包含層	G-4	1/8	-	-	暗黄褐色, 1~2mmの砂粒 粗い, 不良

第135表 土器観察表(7)

(2) 須恵器

須恵器は杯, 皿, 杯蓋, 鉢, その他などがある。この順番で記述していくが, 観察表の口径の欄に () がつく数字は, 高台径あるいは底部径を表している。

①杯

底部が遺存する例が多い。底部の形態は高台が付かないもの, 高台状に底部を造り出しているもの, 高台が付くものに分かれる。ほとんどが高台をもつ杯である。高台状に底部を造り出しているものは1385だけである。

高台の断面の形状は長方形を呈するものが多い。それ以外は三角形のもの(1386)台形状のもの(1380・1391・1393)があるが数は少ない。高台は体部と底部の境界よりやや内側にはいった位置に付けられているものがほとんどで, 1390だけが体部と底部の境界の位置についている。また, 外側にふん張るように付けられているものが多く, 直立するように付けられているものは少ない。

調整については体部内外面にはヨコナデが施されている。底部内面は全面にヨコナデが施されているものと, 周辺部だけにヨコナデが施され中央部はナデにより調整されているものがある。底部外面にはヘラ状の工具による条溝が遺存するもの(1376), 板目状の圧痕が遺存するもの(1395)などもあるが, ナデにより仕上げられている。

②皿

1400を除くと口径約15cm, 器高約2cmを計り, ほぼ企画化された皿である。体部は外反しながら立ち上がり口縁端部は丸く収められている。体部内外面はヨコナデ, 底部内外面はナデが施されている。1396~1398の色調は淡黄灰色を呈し焼成不良の須恵器である。

③杯蓋

器形の全てが解るものはない。蓋の先端部の形態は先端部がほぼ90°で屈曲し細く収められているもの(1401~1403)と内側にかえりをもつもの(1404)とがある。蓋のつまみは頂部が平坦に造り出されている台形状を呈するものと, 頂部が盛り上がり五角形状を呈するものがある。

④鉢

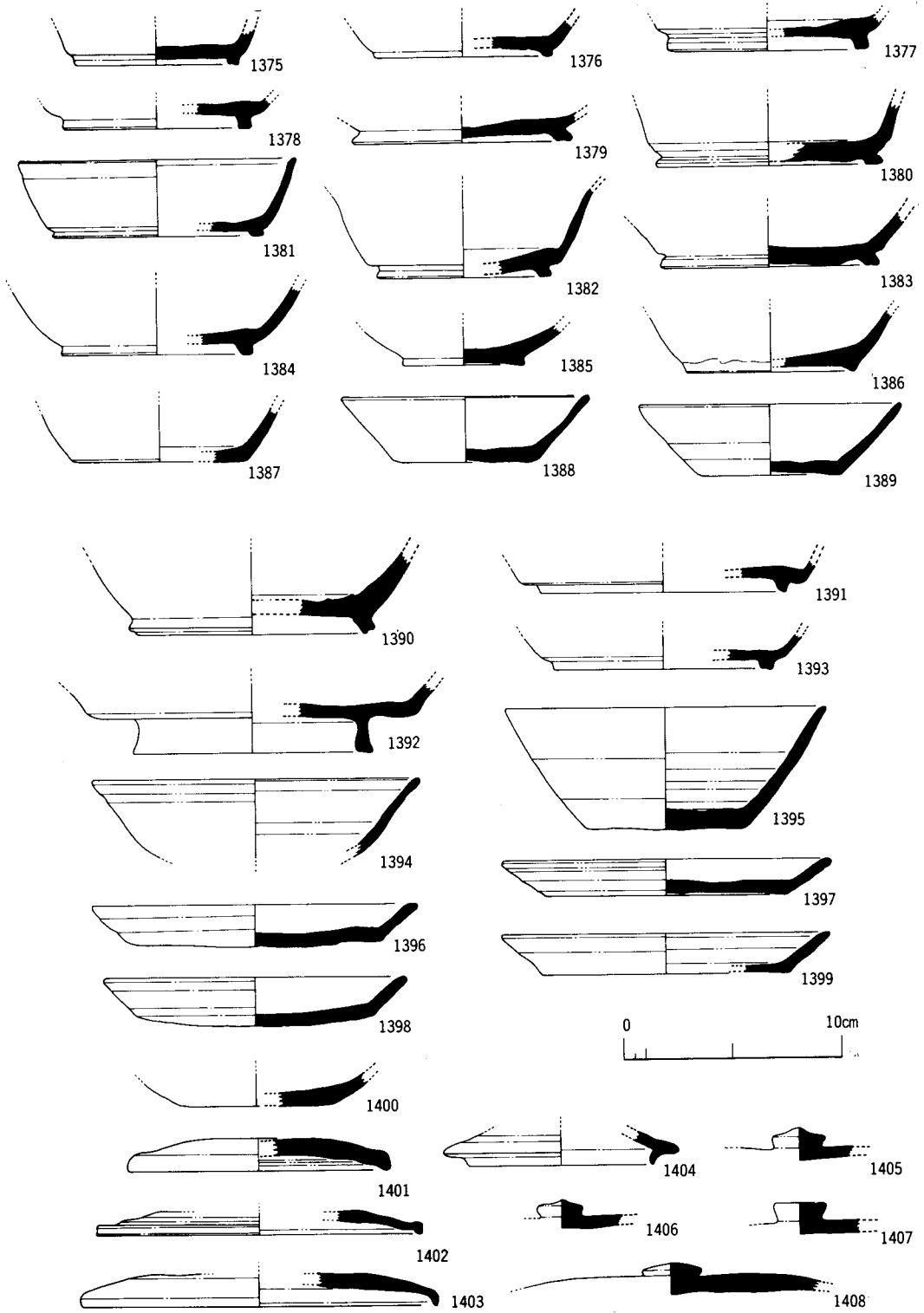
1409は, 口縁部に片口が造り出されている鉢である。磨滅のため調整はよみとりにくい。体部内外面はヨコナデ, 底部内外面にはナデが施されていると思われる。体部と底部の境の位置には

断面が台形状を呈する高台が貼り付けられている。

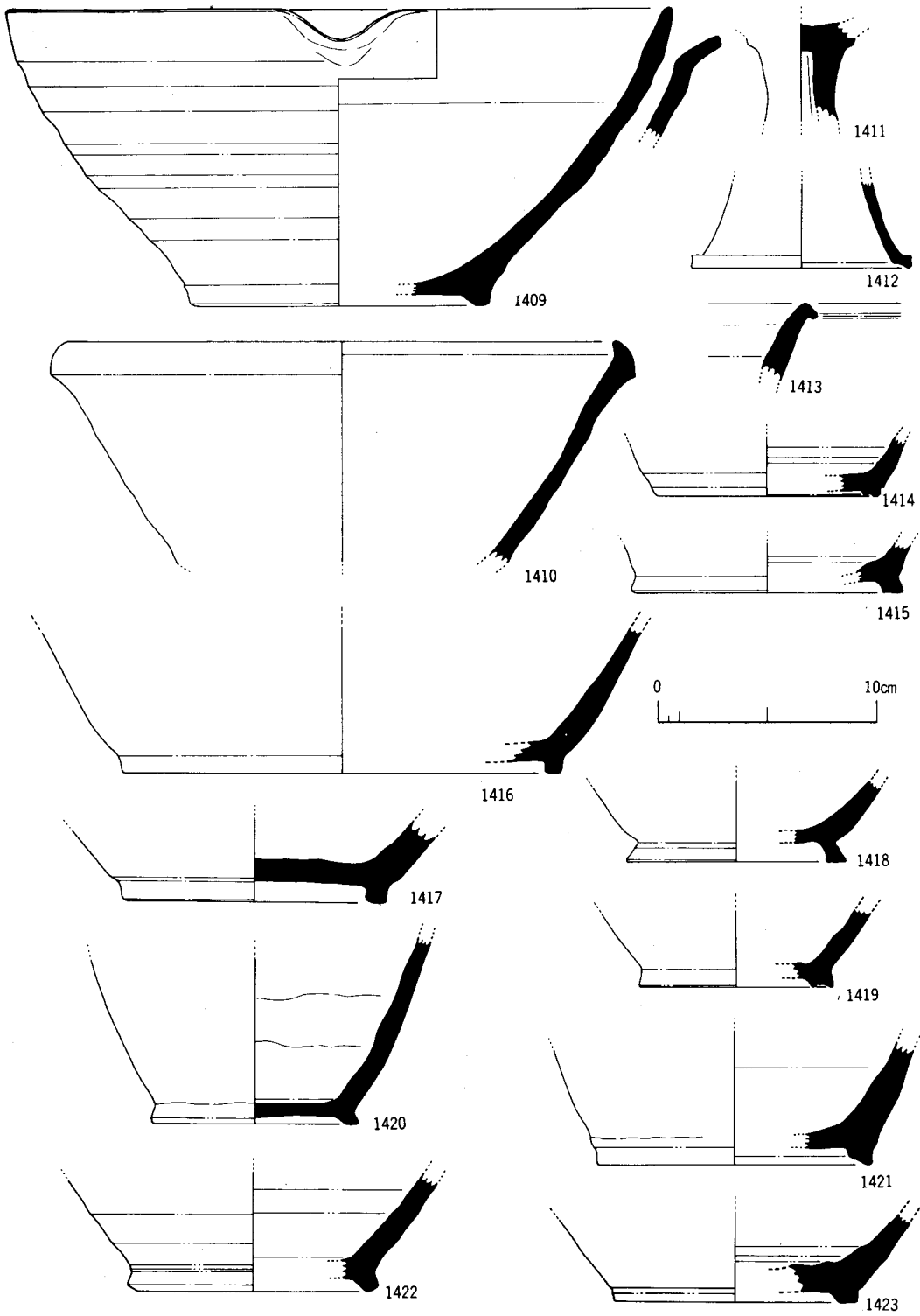
1410は、東播磨系のこね鉢である。口縁部内外面にはヨコナデが施され、体部外面には指頭圧痕が遺存する。口縁端部は上下両方向に拡張され、とくに上方への拡張が著しいが、端面は丸く造り出されている。

⑤その他

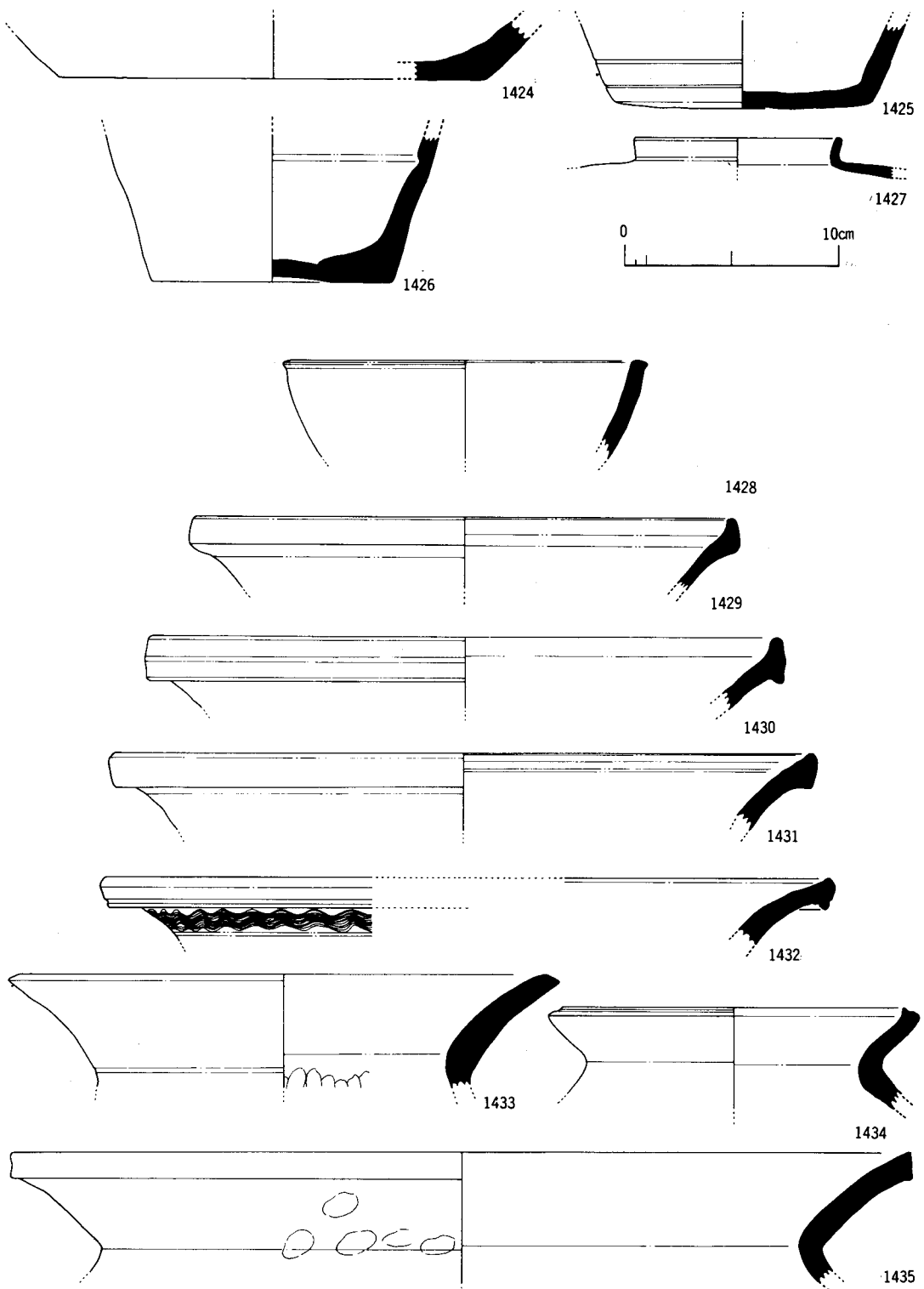
その他の須恵器には、高杯、底部、口縁部がある。底部のほとんどは壺の底部だと思われるが1414は杯、1424は盤か皿の可能性が強い。口縁部については、1427が短頸壺、1428～1430が鉢、1413、1431～1435は甕の口縁部だと思われる。1432の口縁部外面には波状文が認められる。



第285図 須恵器 杯・皿・杯蓋実測図



第286図 須恵器 鉢・その他実測図



第287図 須恵器 甕・鉢・その他実測図

(須臾器 杯)

実測 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	備 考
1375	包 含 層	U-9	1/4	(7.6)	-	黒灰色、堅緻、良好
1376	包 含 層	E-3	1/4	(8.2)	-	淡灰色、堅緻、良好
1377	包 含 層	-	1/8	(9.2)	-	内面 淡灰色 外面 暗灰色、1mm以下の微砂粒 やや粗い、普通
1378	S D85001	Z・A-6・7・8	1/8	(8.8)	-	白灰色、1mm以下の微砂粒 やや粗い、普通
1379	S D85019	Z-6・7	1/4	(10.2)	-	灰色、1mm以下の微砂粒 普通、普通
1380	S D85019	Z-6・7	1/4	(10.4)	-	暗灰色、1~2mmの砂粒 粗い、普通
1381	包 含 層	-	1/4	9.8	3.6	白灰色、堅緻、良好
1382	包 含 層	Y・Z-7	1/8	(8.0)	-	灰色、1mm以下の微砂粒 堅緻、良好
1383	包 含 層	Z-6	1/2	(10.0)	-	灰色、1mm程度の砂粒 粗い、普通
1384	包 含 層	G-4	1/4	(8.8)	-	灰色、堅緻、良好
1385	S P-21	G-5	1/4	(5.6)	-	淡灰白色、堅緻、良好
1386	包 含 層	-	1/2	(7.7)	-	白灰色、1~2mmの砂粒 粗い、普通
1387	S D85104	X-9	1/8	(8.0)	-	白灰色、1mm程度の砂粒 やや粗い、不良
1388	包 含 層	-	1/4	11.4	3.1	淡灰色、1mm以下の砂粒 堅緻、普通
1389	包 含 層	-	1/8	12.0	3.3	白灰色、精緻、良好
1390	包 含 層	U-9	1/8	(11.4)	-	内面 黒灰色 外面 灰色、1mm以下の微砂粒 堅緻、良好 体部外面 自然釉
1391	包 含 層	Z-6	1/8	(11.2)	-	黒灰色、堅緻、良好
1392	S P-x	Y-7	1/8	(11.0)	-	黒灰色、1mm以下の微砂粒 堅緻、良好
1393	包 含 層	A-6	1/4	(10.0)	-	淡灰色、堅緻、良好
1394	S D85019	Z-6・7	1/8	15.0	-	灰色、1mm以下の微砂粒 堅緻、良好

第136表 土器観察表(73)

(須恵器 杯, 皿, 杯蓋, 鉢, その他)

実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	備 考
1395	包 含 層	V-9	1/8	14.8	5.8	淡灰黄色, 堅緻, 良好
1396	包 含 層	Z-7	1/4	15.0	2.0	淡黄灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 不良
1397	包 含 層	X-9	1/2	15.2	1.7	灰色 黄灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 不良
1398	包 含 層	-	1/8	14.0	2.3	淡黄灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 不良
1399	包 含 層	-	1/8	15.0	1.9	灰色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1400	S D85019	Z-6・7	1/2	(6.0)	-	淡灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1401	S D85019	Z-6・7	1/8	12.0	1.5	内面 灰色 外面 黒灰色, 1mm以下の砂粒 堅緻, 良好
1402	包 含 層	-	1/8	15.0	-	灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1403	包 含 層	-	1/8	16.5	-	灰色, 堅緻, 良好
1404	S D85019	Z-6・7	1/8	10.8	-	淡灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1405	包 含 層	E-3	-	-	-	淡灰色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1406	包 含 層	X-8	-	-	-	灰色, 堅緻, 良好
1407	包 含 層	E-4	-	-	-	灰色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1408	包 含 層	-	-	-	-	内面 灰色 外面 暗灰色, 1~2mmの砂粒 粗い, 普通
1409	S D85008	Z-8	1/2	30.5	13.7	灰色, 1~2mmの砂粒 粗い, 普通 口縁部に片口
1410	包 含 層	I-4	1/8	(26.6)	-	淡灰色, 1mm以下の砂粒 粗い, 普通
1411	S P-17	G-5	-	-	-	淡灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1412	S D85105	X・Y-8・9	1/8	(10.0)	-	灰色, 堅緻, 良好
1413	S D85105	X・Y-8・9	1/8	-	-	灰色, 堅緻, 良好
1414	包 含 層	V-9	1/8	10.1	-	灰色, 堅緻, 良好

第137表 土器観察表(74)

(須臾器 その他)

実測図番	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	備 考
1415	包 含 層	—	1/8	(12.4)	—	淡灰色, 堅緻, 良好
1416	包 含 層	Z-6	1/8	(20.0)	—	白灰色, 1mm以下の砂粒 やや粗い, 普通
1417	包 含 層	I-4	1/8	(12.0)	—	黒灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1418	包 含 層	V-9	1/8	(10.0)	—	灰色, 堅緻, 良好
1419	包 含 層	V-9	1/4	(8.8)	—	灰色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1420	包 含 層	I-4	3/4	(9.4)	—	黒灰色, 1~2mmの砂粒 堅緻, 普通
1421	包 含 層	—	1/8	(12.5)	—	灰色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通
1422	包 含 層	F-6	1/8	(11.4)	—	灰色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1423	包 含 層	E-4	1/4	(11.2)	—	灰色, 堅緻, 良好
1424	S D85019	Z-6・7	1/8	(10.0)	—	灰色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1425	S D85008	Z-8	1/2	(12.2)	—	黒灰色, 1mm以下の微砂粒 堅緻, 良好
1426	包 含 層	X-8(S)	1/2	(11.2)	—	淡灰色, 堅緻, 良好
1427	包 含 層	—	1/8	9.8	—	内面 黒灰色 外面 淡灰色, 堅緻, 良好
1428	包 含 層	E-4	1/8	17.0	—	灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1429	SP-不明	X-9	1/8	25.2	—	黒灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1430	包 含 層	I-3	1/8	30.4	—	灰色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通 口縁端部に自然釉
1431	S P-1	F-5	1/8	32.7	—	淡灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1432	包 含 層	X-9	1/8	—	—	灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通 口縁部内外面 自然釉, 口縁部外面 波状文
1433	包 含 層	F-5	1/8	25.8	—	黒灰色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通
1434	S B85014	A・B-5・6	1/8	17.4	—	白灰色, 1mm以下の微砂粒 普通, 普通

第138表 土器観察表(75)

(須恵器 その他)

実測図番	遺構番号	グリッド	残存度	口径	器高	備考
1435	S P - 1	G - 3	1/8	(42.5)	-	淡灰色, 堅緻, 良好

第139表 土器観察表(76)

(3) 黒色土器

黒色土器, 瓦器, 瓦質土器については器高指数が解るものを観察表で示した。口径の欄の()は底部径を表す。色調, 胎土, 焼成についてはこの順番で備考の欄に示した。

内面だけが黒色を呈するものが多く, 内外面ともに黒色のものは1440, 1446だけである。黒色土器の一般的な調整は, 器壁内面には多くは縦方向のヘラミガキを施し体部外面上半にはヨコナデ, 下半には横方向のヘラミガキを施している。底部外面はヨコナデ, ナデにより仕上げられている。1441は体部外面下半に指頭圧痕が多く遺存する点でやや特異である。

器高指数が解ったものは, 1443-28.8, 1444-38.6, 1445-38.3, 1446-34.9となる。

(4) 瓦器

瓦器の出土は少ない。実測できたものは, わずかに6点だけである。口縁部から底部までの器形が解るものは1452の1点だけである。1452の体部外面上半には横方向のヘラミガキが認められ, 下半には指頭圧痕が遺存する。器壁内面には不規則にヘラミガキが施されている。高台は断面形が台形状を呈し, 器高指数は26.0となる。

1449・1450の底部には三角形状の小さい高台がつく。また1447・1448・1451の体部内面にはいずれも横方向のヘラミガキが遺存する。

(5) 瓦質土器

瓦質土器は椀・杯とそれ以外の器種に分けられる。椀・杯については全体の色調は白灰色, 淡灰色となるが, 口縁部内外面には黒灰色を呈する帯状の煤の付着が認められる。個体により黒灰色を呈する部分の幅には差があるが, 口縁部が遺存する全てのものに認められる。

調整については体部内外面上半にはヨコナデが施されている。体部内面中央部はヘラ削りがそのまま遺存するものと, ヘラ削りの後にナデが施されたものがある。体部内面下半から底部内面にかけては内面の調整の最後の段階としてのハケ目が上半から下半に向けて放射状に施されているものが多い。

体部外面の下半部には指ナデの痕が遺存するものが多い。指ナデの下端から高台内面にかけてはヨコナデが施されている。底部外面の中心部はナデが施されている。高台は背の低い小さいもので断面形は三角形状といえるものである。

1453の底部外面には板目状圧痕が遺存する。また1457の高台内面には円形に近い墨書の痕が認

められる。

1462～1464は瓦質土器の播鉢である。いずれも体部内面に条溝が認められる。1462・1463は体部が内彎気味に立ち上がり口縁端部が上下両方にわずかに拡張され平坦面をもつという同様の器形を呈している。1464は体部が直立方向で立ち上がり口縁端部はほとんど拡張されていない。体部外面には縦方向、内面には横方向のハケ目が施されており、1462などと異なる特徴をもつ。

1465は器壁の表裏両面に荒いハケ目が認められ、側面にはヘラミガキが施されていると思われる。断面が三角形状を呈する台が付くが全体の器形は不明とせざるをえない。

(6) 緑釉陶器

緑釉陶器は2点だけ出土した。1466は体部がゆるやかに内彎しながら立ち上がり、口縁部先端でわずかに屈曲し外反する。口縁端部は丸く収められている。器壁全面に淡黄緑色の釉が施されている。高台はベタ高台である。洛北産で10世紀初頭頃と思われる。

1467は蛇の目高台をもつ。体部外面下半にはヘラ削りの痕が遺存する。暗黄緑色の釉が施されている。丹波産で10世紀半ば頃と思われる。

(7) 陶磁器

陶磁器については観察表の備考の欄に釉の色調を示した。

1468は肥前の京焼風陶器である。高台内面以外に緑がかった白色釉が施されている。

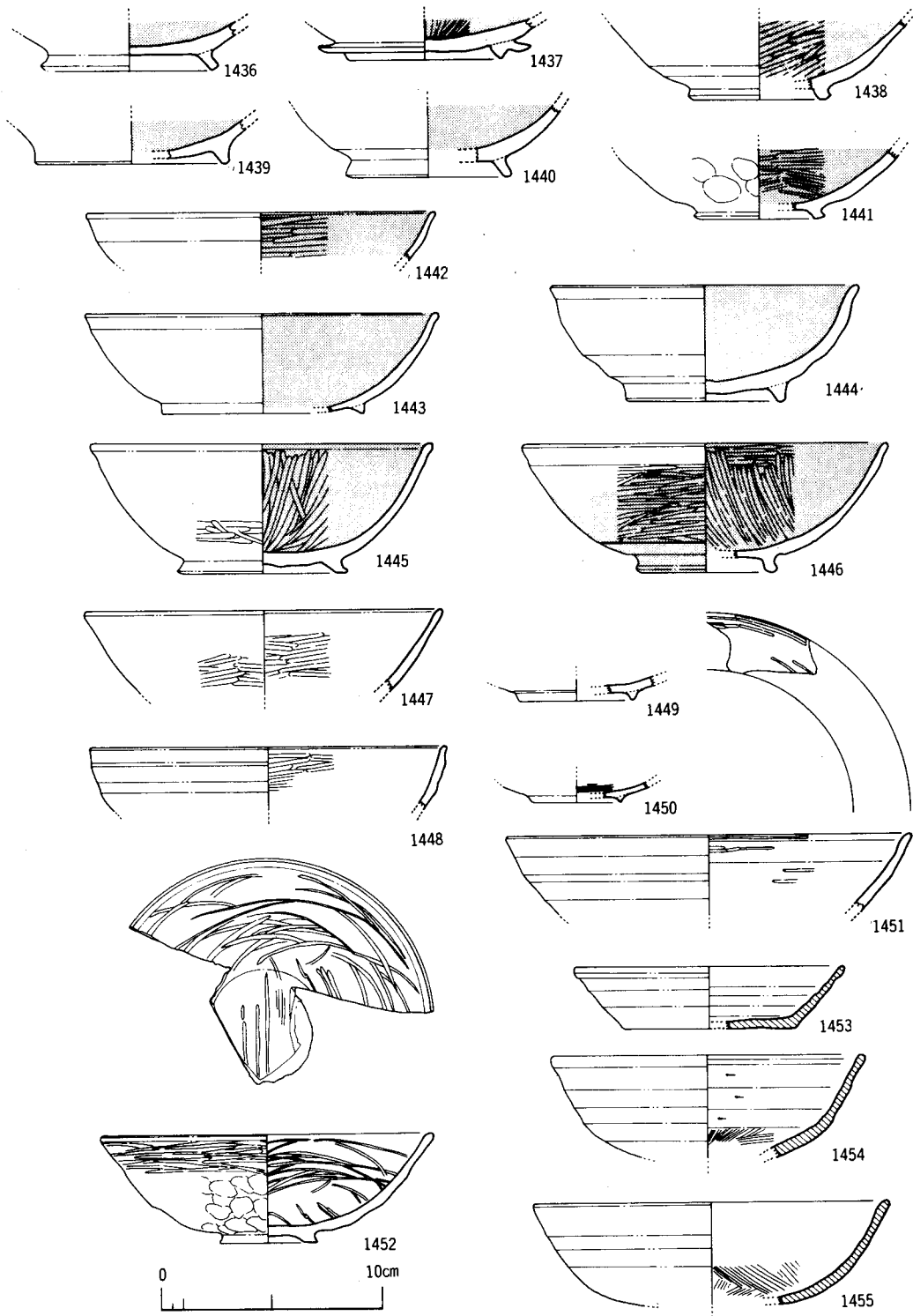
1469は青磁と思われるが焼成不良のため釉薬が充分にとけていない。

1470は淡黄色の胎土をもつ陶器である。茶色がかった黄色釉が施されている。

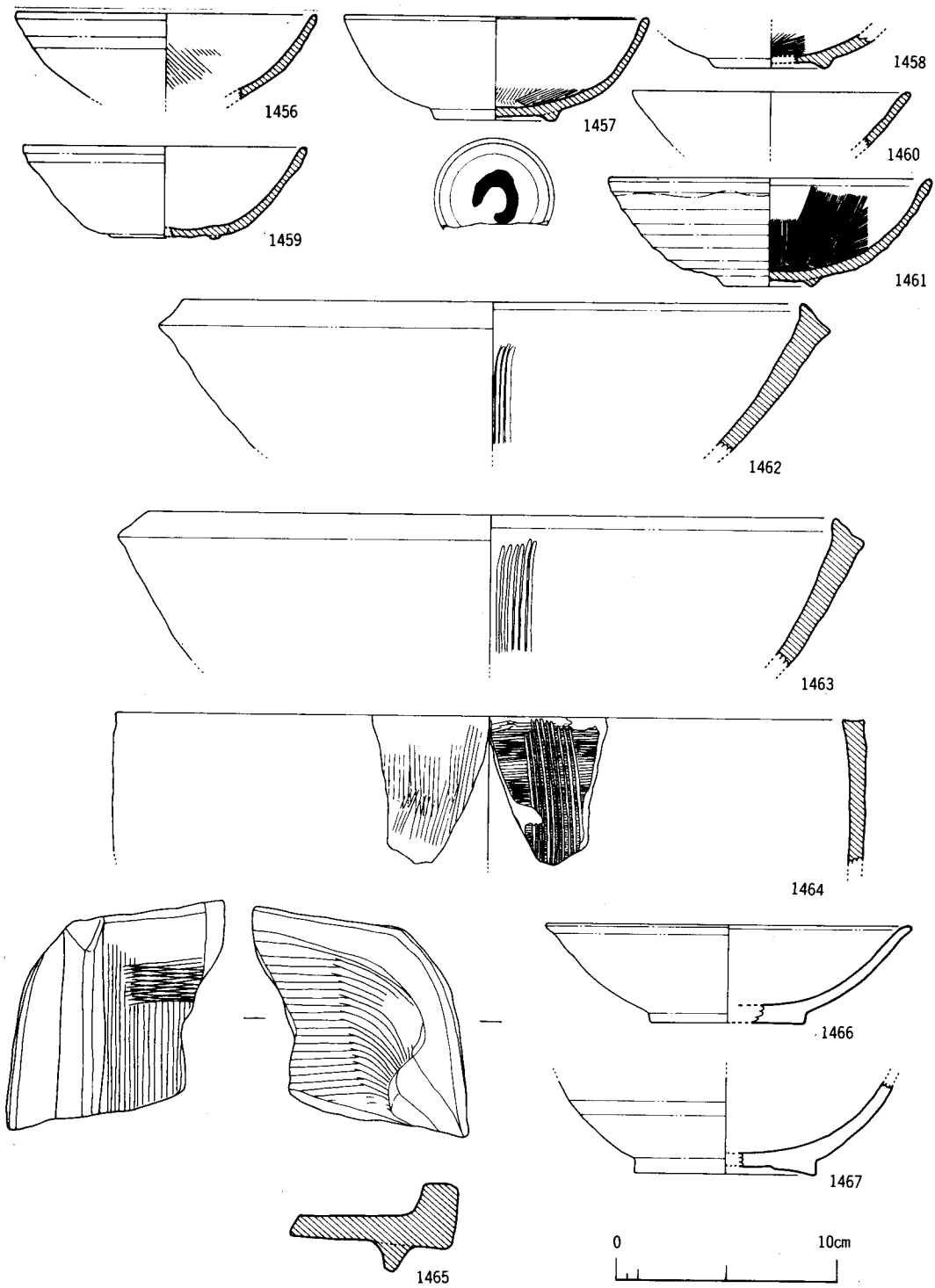
1471は肥前の染付碗である。内面見込み部分には「寿」のくずし字が付されており、呉須は暗青色に発色している。18世紀頃と思われる。

1472～1478は青磁、1479は白磁である。1472・1473・1476の体部外面にはいずれも鎬蓮弁文が認められる。1479の白磁は口縁部の外側を下方に肥厚させている。

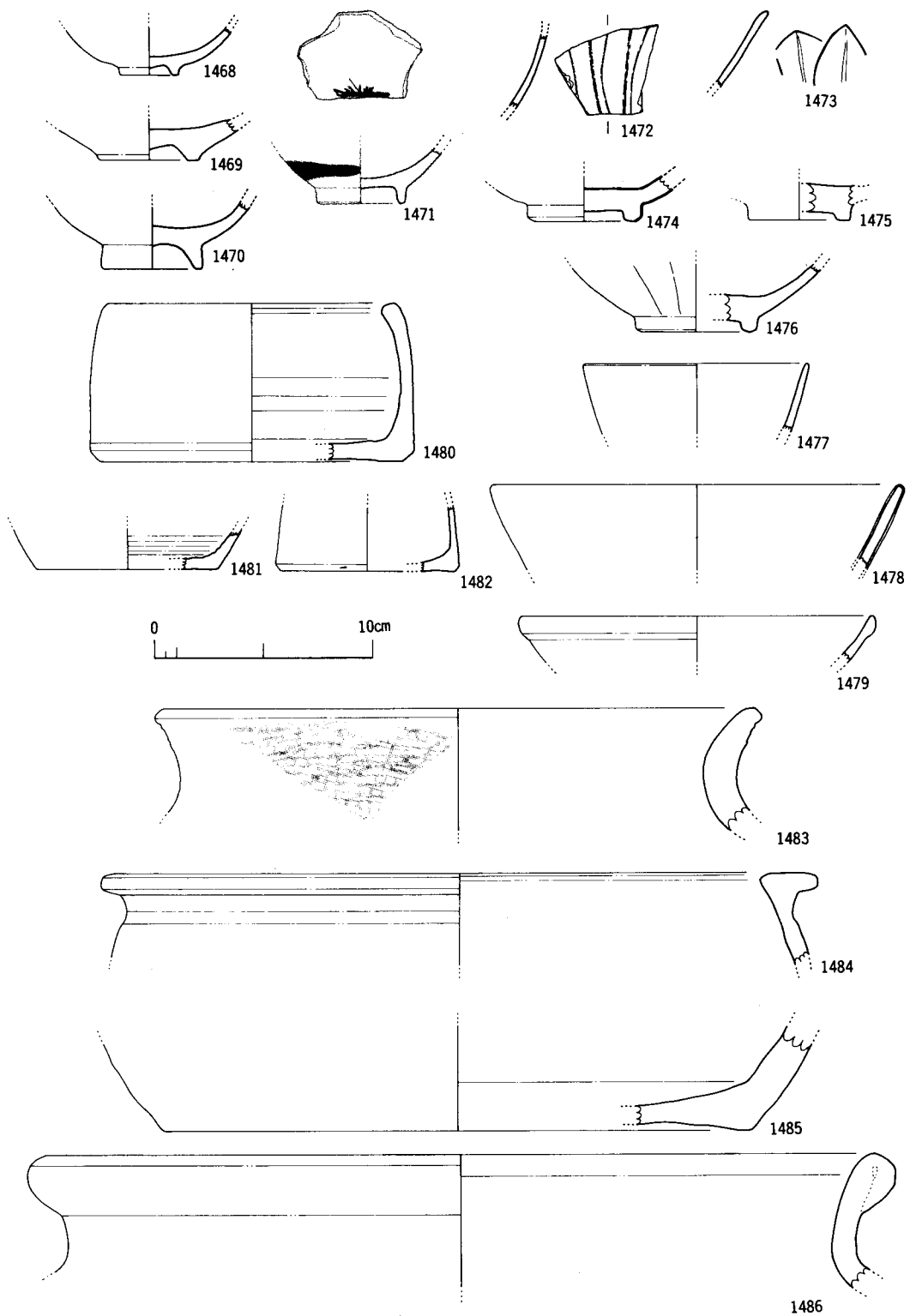
1480～1486は陶器である。このうち1483・1484以外は備前焼だと思われる。1480・1482は火入れ、1485・1486は甕である可能性が強い。その他については器種不明とせざるをえない。



第288図 黑色土器・瓦器・瓦質土器実測図



第289図 瓦質土器・緑釉陶器実測図



第290图 陶磁器实测图

(黒色土器, 瓦器, 瓦質土器)

実測 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1436	包 含 層	X-8	1/8	(8.0)	-	-	内面 黒色 外面 淡黄赤色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1437	包 含 層	X-8	3/4	(9.6)	-	-	内面 黒色 外面 淡黄赤色, 1mm程度の砂粒 粗い, 普通 器壁内面 ヘラミガキ 外面 ヨコナデ
1438	S D85109	W-9	1/8	(6.4)	-	-	内面 黒色 外面 淡黄色, 精緻, 良好 器壁内面 ヘラミガキ 外面 下半 ヘラ削り
1439	包 含 層	X-8	1/4	(8.8)	-	-	内面 黒色 外面 暗黄色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通
1440	包 含 層	X-8	1/4	(7.6)	-	-	内面 黒色, 体部外面 黒色, 底部 暗赤黄色 1mm以下の砂粒 普通, 普通
1441	S P-5	F-4(W)	1/4	(6.0)	-	-	内面 黒色, 外面 暗灰黄色, 精緻, 良好 器壁内面 ヘラミガキ, 体部外面 指頭圧痕
1442	S D85109	W-9	1/8	15.8	-	-	内面 黒色, 外面 淡黄色, 堅緻, 良好 体部内面 ヘラミガキ
1443	包 含 層	F-3(E)	1/8	16.0	4.6	28.8	内面 黒色, 外面 橙色, 1mm程度の砂粒 粗い, 普通, 磨滅のため調整不明
1444	S D85008	Z-8	1/8	14.0	5.4	38.6	内面 黒色, 外面 淡黄赤色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好, 磨滅のため調整不明
1445	包 含 層	X-9	1/2	15.4	5.9	38.3	内面 黒色, 外面 白黄色, 1mm程度の砂粒 やや粗い, 普通, 器壁内面 ヘラミガキ, 体部外面下半 ヘラミガ キ
1446	S X85006	E-4	1/2	16.6	5.8	34.9	内面 黒色 体部上半 淡黄色, 下半から底部 黒色, 1mm以下の微 砂粒 精緻, 良好, 器壁内面 体部外面 ヘラミガキ
1447	包 含 層	X-9	1/8	16.2	-	-	黒灰色, 精緻, 良好 内外面 ヘラミガキ
1448	包 含 層	X-9	1/8	16.2	-	-	黒灰色, 精緻, 良好 内面 ヘラミガキ
1449	S D85004	Z・A-8	1/8	(5.2)	-	-	黒灰色, 精緻, 良好
1450	S D85004	Z・A-8	1/8	(4.1)	-	-	灰色, 精緻, 良好 内面 ヘラミガキ
1451	包 含 層	X-9	1/8	18.4	-	-	黒灰色, 精緻, 良好 内外面 ヘラミガキ 外面 指頭圧痕
1452	S D85004	Z・A-8	1/2	15.2	3.95	26.0	淡灰色, 精緻, 良好 器壁内面 ヘラミガキ, 体部外面上半 ヘラミガキ, 下 半 指頭圧痕
1453	SP-出土 地点不明	-	1/4	12.2	2.9	23.8	淡灰色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好 底部外面 板目状圧痕
1454	S D85054	G-3・4	1/8	14.4	-	-	白灰色, 体部外面上半 黒灰色, 精緻, 良好 体部内面 ヘラ削り, 底部内面 ハケ目
1455	S P-5	F-3(W)	1/8	16.2	-	-	淡灰色, 口縁端部 黒灰色, 精緻, 良好 体部内面上半 ヘラ削り, 底部内面 ハケ目

第140表 土器観察表(7)

(瓦質土器, 緑釉陶器, 陶磁器)

実測 図番 号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1456	包 含 層	X-9	1/4	13.8	(5.0)	(36.2)	白灰色, 精緻, 良好 内面 ハケ目
1457	S D85052	F-3(E)	1/4	13.8	4.8	34.8	白灰色, 体部外面上半 黒灰色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好 体部内面下半から底部 ハケ目, 底部外面 墨書
1458	包 含 層	X-9	1/4	(5.2)	-	-	灰色, 精緻, 良好 器壁内面 ハケ目
1459	包 含 層	X-9	1/8	13.0	4.2	32.3	淡灰色 口縁端部 黒色, 1mm以下の微砂粒 精緻, 良好
1460	S D85104	X-9	1/8	12.6	-	-	灰色, 精緻, 良好
1461	S P-31	X-9	1/2	14.6	4.9	33.6	白灰色, 体部内外面上半 黒灰色, 精緻, 良好 器壁内面 ハケ目, 体部外面 回転ヘラ削り
1462	S P-7	-	1/8	30.5	-	-	黒灰色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通 体部内面 条構
1463	包 含 層	G-5	1/8	31.5	-	-	黒灰色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通 体部内面 条構
1464	包 含 層	H-5	1/8	34.0	-	-	灰色, 精緻, 普通 体部内面 ハケ目 条構, 外面 ハケ目
1465	包 含 層	G-5	1/4	-	4.0	-	黒色, 1mm程度の砂粒 普通, 普通 内外面にハケ目 器種不明
1466	包 含 層	X-8	1/8	16.6	4.5	27.1	淡黄色, 精緻, 良好 淡黄緑色の釉, ベタ高台
1467	包 含 層	F-5	1/4	(8.2)	-	-	淡黄色, 精緻, 良好 暗黄緑色の釉, 蛇の目高台
1468	包 含 層	G-5	8/8	2.6	-	-	緑がかった白色釉, カン入が著しい
1469	包 含 層	-	1/2	4.6	-	-	内面蛇の目釉ハギ, 灰色がかった緑色釉
1470	包 含 層	X-8	3/4	4.6	-	-	茶色がかった黄色釉
1471	包 含 層	G-5	1/2	4.0	-	-	青色がかった白色釉 内面見込み部分「寿」のくずし字
1472	包 含 層	-	-	-	-	-	灰色がかった緑色釉, 外面 鎬蓮弁文
1473	S D85004	Z・A-8	1/8	-	-	-	淡緑色釉 外面 鎬蓮弁文
1474	包 含 層	X-8(S)	3/4	(5.4)	-	-	灰色がかった緑色釉
1475	包 含 層	G-5	1/2	(4.5)	-	-	淡灰緑色釉, カン入が著しい

第141表 土器観察表(78)

(陶磁器)

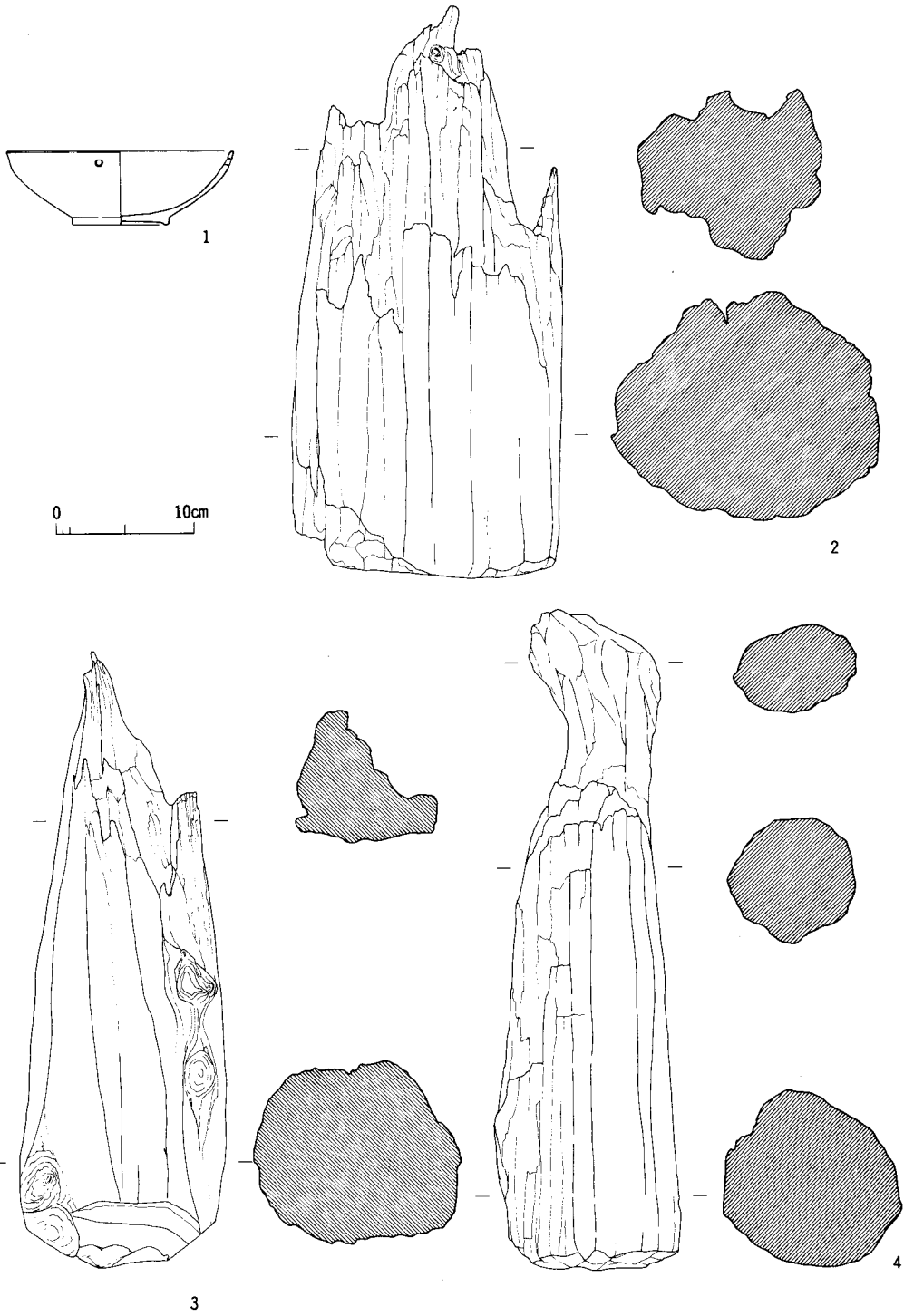
実測図 番号	遺構番号	グリッド	残存度	口 径	器 高	器高指数	備 考
1476	S D85054	G-3・4	1/4	(5.6)	-	-	淡灰緑色釉 外面 鑄蓮弁文
1477	包 含 層	I-4	1/8	(10.4)	-	-	暗灰緑色釉
1478	包 含 層	H-5	1/8	18.6	-	-	暗灰緑色釉
1479	包 含 層	-	1/8	16.0	-	-	緑がかった白色釉, カン入が著しい
1480	包 含 層	H-4	1/4	13.2	7.4	56.1	外面 黒褐色釉 茶色, 精緻, 良好
1481	包 含 層	H-5~ H-6	1/4	(8.3)	-	-	内面 赤茶色 外面 茶色, 精緻, 良好
1482	包 含 層	G-6	1/4	(8.0)	-	-	黒黄褐色釉 赤茶色, 精緻, 良好
1483	包 含 層	G-6	1/8	27.0	-	-	白灰色, 1mm以下の砂粒 普通, 普通 外面 タタキ目
1484	包 含 層	G-6~ H-6	1/8	33.0	-	-	黒茶色の釉, 精緻, 良好
1485	S D 017	G-5	1/8	(27.0)	-	-	黒灰褐色, 1~2mmの砂粒 粗い, 普通
1486	包 含 層	H-5~ H-6	1/8	40.0	-	-	灰褐色, 2~3mmの砂粒 粗い, 普通

第142表 土器観察表(79)

(8) 木製品

1は口縁部に1孔をもつ木製漆碗である。約1/2が遺存する。体部は内彎しながら立ち上がるが、下半部と先端部が細く造り出されている。内外面ともに黒漆が施された上から赤漆を施したものである。

2~8は中世の柱穴、ピットより検出した柱痕である。下方が太く上方が細い遺存状況を示している。面を整形した際の工具痕などは認められない。しかし下方の部分の断面形からは六角形状を呈するもの(2・6・8)と八角形状を呈するもの(7)があるということが解る。樹種は檜であると思われる。



第291图 木製碗・柱根実測図